No.	1	科目コード	60010
科目名	人間教育原論	授業コード	9310162
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	キリスト教に基づく深い人間理解を土台に、桃山学院教育大学の教育理念である人間教育の基本的概念を学び、自分と他者の在り方や持続可能な社会の実現に向けて、以下の内容を理解することを目標とする。 （１）人間教育の理念とは何かを理解する （２）子どもの育ちには、自身の人間性やその在り方が求められていることを理解する。 （３）「人格の完成」への道を歩むために、包摂と多様性の重要性について理解する （４）学び続ける学習者としての姿勢について理解する （５）タフな主体性、豊かな人間性、深い共感性の育成について理解する		
授業概要	桃山学院教育大学の教育理念である人間教育の基本的概念を学び、多岐にわたる自己・他者・社会の諸問題を具体的課題を通じて考える。また自己内対話を行い、教育者・指導者としての自分の在り方を見つめるとともに、その学びへの意欲を高める。そのために、各授業では所定の課題に主体的に向き合い、相互交流を通じて、自身の納得解を見出せるようにする。		
授業計画	第 1 回（中村）　人間教育とは何か 第 2 回（松平）　桃山学院とアイデンティティ 第 3 回（松平）　キリスト教と人間教育（１） 第 4 回（松平）　キリスト教と人間教育（２） 第 5 回（二瓶）　学校と人間教育 第 6 回（名須川）人の育ちと人間教育（１） 第 7 回（名須川）人の育ちと人間教育（２） 第 8 回（名須川）人の育ちと人間教育（３） 第 9 回（安井）　人の育ちと人間教育（４） 第 10 回（安井）　人の育ちと人間教育（５） 第 11 回（安井）　人の育ちと人間教育（６） 第 12 回（灘本）　健康と人間教育（７） 第 13 回（灘本）　健康と人間教育（８） 第 14 回（灘本）　健康と人間教育（９） 第 15 回（中村）　持続可能な社会の実現に向けて		
授業方法	授業資料をもとによく考え、自分の解に至る過程において多様な考え方を知るとともに、より深い学びへと進められるよう、主体的で能動的な学習方法を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	授業資料を適宜配布する		
参考書	人間教育の道-40 の提言-　金子書房，2022		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　45％ ②課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　55％ ※出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。		

No.	2	科目コード	60010
科目名	人間教育原論	授業コード	9320182
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	キリスト教に基づく深い人間理解を土台に、桃山学院教育大学の教育理念である人間教育の基本的概念を学び、自分と他者の在り方や持続可能な社会の実現に向けて、以下の内容を理解することを目標とする。 （１）人間教育の理念とは何かを理解する （２）子どもの育ちには、自身の人間性やその在り方が求められていることを理解する。 （３）「人格の完成」への道を歩むために、包摂と多様性の重要性について理解する （４）学び続ける学習者としての姿勢について理解する （５）タフな主体性、豊かな人間性、深い共感性の育成について理解する		
授業概要	桃山学院教育大学の教育理念である人間教育の基本的概念を学び、多岐にわたる自己・他者・社会の諸問題を具体的課題を通じて考える。また自己内対話を行い、教育者・指導者としての自分の在り方を見つめるとともに、その学びへの意欲を高める。そのために、各授業では所定の課題に主体的に向き合い、相互交流を通じて、自身の納得解を見出せるようにする。		
授業計画	第 1 回（中村）　人間教育とは何か 第 2 回（松平）　桃山学院とアイデンティティ 第 3 回（松平）　キリスト教と人間教育（１） 第 4 回（松平）　キリスト教と人間教育（２） 第 5 回（二瓶）　学校と人間教育 第 6 回（名須川）人の育ちと人間教育（１） 第 7 回（名須川）人の育ちと人間教育（２） 第 8 回（名須川）人の育ちと人間教育（３） 第 9 回（安井）　人の育ちと人間教育（４） 第 10 回（安井）　人の育ちと人間教育（５） 第 11 回（安井）　人の育ちと人間教育（６） 第 12 回（灘本）　健康と人間教育（７） 第 13 回（灘本）　健康と人間教育（８） 第 14 回（灘本）　健康と人間教育（９） 第 15 回（中村）　持続可能な社会の実現に向けて		
授業方法	授業資料をもとによく考え、自分の解に至る過程において多様な考え方を知るとともに、より深い学びへと進められるよう、主体的で能動的な学習方法を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	授業資料を適宜配布する		
参考書	人間教育の道-40 の提言-　金子書房，2022		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　45％ ②課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　55％ ※出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。		

No.	3	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310001
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回 PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回オリエンテーション（学年全体） 第３回 PC 学習②　アカデミックライティング① メールの書き方（TG） 第４回 PC 学習③　アカデミックライティング② レポートの書き方（TG） 第５回講演「キャリア講演会」（学年全体） 第６回講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事等の経験を活かして指導する。		

No.	4	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310002
教員名	野田　健司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回 PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回オリエンテーション（学年全体） 第３回 PC 学習②　アカデミックライティング① メールの書き方（TG） 第４回 PC 学習③　アカデミックライティング② レポートの書き方（TG） 第５回講演「キャリア講演会」（学年全体） 第６回講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	5	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310003
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング① メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング② レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	6	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310054
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	7	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310188
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	8	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310255
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	9	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310322
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	10	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310342
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング① メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング② レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	11	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310352
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	12	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310354
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング① メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング② レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	13	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310380
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	14	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310853
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	15	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310918
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	16	科目コード	60021
科目名	人間教育基礎演習１	授業コード	9310998
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのためには、大学生活のオリエンテーション、4 年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第１回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第２回　オリエンテーション（学年全体） 第３回　PC 学習②　アカデミックライティング①　メールの書き方（TG） 第４回　PC 学習③　アカデミックライティング②　レポートの書き方（TG） 第５回　講演「キャリア講演会」(学年全体) 第６回　講義「健康課題を考える」①（課程） 第７回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク①（TG） 第８回　個人面談、図書館ガイダンス　キャリアワーク②（TG） 第９回　講演「健康課題を考える」②　講演会「健康課題」ピラティス体験（実技）（課程） 第１０回「健康課題を考える」③　グループ発表（TG） 第１１回「健康課題を考える」④　グループ発表（TG） 第１２回「健康課題を考える」⑤　各クラス優秀発表グループの全体発表（課程） 第１３回「人間力向上プロジェクト」①　～人生で大切な価値を生きる（学年全体） 第１４回「人間力向上プロジェクト」②　～人生で大切な価値を生きる（TG） 第１５回講話「教員採用試験について現状と対策」 総括　前期の振り返り、e-ポートフォリオ他（課程・TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討議やグループ学習を積極的に取り入れる。また、学年全体やコース全体での意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を重視する。その際、ＩＣＴの活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力向上プロジェクト」など		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	17	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320435
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	18	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320502
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	19	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320569
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	20	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320580
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	21	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320583
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事等の経験を活かして指導する。		

No.	22	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320585
教員名	野田　健司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	23	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320586
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	24	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320636
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	25	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320770
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	26	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320837
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	27	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320904
教員名	(柴田　真裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	28	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320934
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	29	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320935
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	30	科目コード	60031
科目名	人間教育基礎演習２	授業コード	9320961
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち、必要なスキルを身につけることができる。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深めることができる。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得することができる。 ５．「7 つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	1 年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、人間教育の基礎の理解などが内容である。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション　副学長講話、発表デモ、夏季休暇振り返り、WebClass 等（課程・TG） 第２回「人間力向上プロジェクト」③　発表会（TG） 第３回「人間力向上プロジェクト」④　発表会（TG） 第４回「人間力向上プロジェクト」⑤　発表会（学年全体） 第５回「学外演習」の事前指導①　概要説明（課程） 第６回「学外演習」の事前指導②　「学校教育領域（体育・養護・特支)」(課程） 第７回「学外演習」の事前指導③　講演会「フィットネス業界を知る」(課程） 第８回「学外演習」の事前指導④　「振り返りについて」(礼状・レポート・発表）(TG） 第９回・第１０回「学外演習」１・2 限　堺高校、特別支援学校、ファインプラザ大阪　（課程） 第１１回インターンシップに向けて事前説明（学年全体） 第１２回「学外演習」事後指導　発表報告会　（課程） 第１３回講演会　カンボジア・サッカーチーム GM 辻井翔吾氏　（課程） 第１４回学術レポートの書き方講座　個人面談（インターンシップ、コース分属）①　（TG） 第１５回学術レポート作成のグループ学習、個人面談（インターンシップ、コース分属）② 総括、一年次の振り返り、二年次に向けて　（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や外部講師を招聘しての授業も実施する。なお、外部講師の都合により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にＩＣＴを活用し、事例の提示や記録、発表を行うなど工夫する。		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し、必ず、授業終了時に提出することとし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心で、それぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。また、本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠並びに単位認定の基準については、学則及び厚労省の指定に準ずること。そのことも踏まえ、欠席が３回を超えると評価できなくなり、0 点となる。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	31	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311744
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	32	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311751
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　論述文を書くには 第２回　　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第３回　　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第４回　　小論文の構成と書き言葉 第５回　　小論文の構成と書き言葉 第６回　　資料収集の方法 1 第７回　　資料収集の方法 2 第８回　　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第９回　　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	33	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311765
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　論述文を書くには 第２回　　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第３回　　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第４回　　小論文の構成と書き言葉 第５回　　小論文の構成と書き言葉 第６回　　資料収集の方法 1 第７回　　資料収集の方法 2 第８回　　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第９回　　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	34	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311771
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 論述文を書くには 第 2 回 メールの書き方 お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回 原稿用紙の使い方 ショートエッセイを書こう 第 4 回 小論文の構成と書き言葉 第 5 回 小論文の構成と書き言葉 第 6 回 資料収集の方法 1 第 7 回 資料収集の方法 2 第 8 回 小論文を書こう アイディアを出して主張を決める 第 9 回 小論文を書こう 自分の主張に反論する 第 10 回 小論文を書こう 自分の文章を推敲する 第 11 回 小論文を書こう 適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回 小論文を書こう 異なる意見を否定する 第 13 回 小論文を書こう 論点を明確にする 第 14 回 小論文を書こう 適切な構成で書く 第 15 回 小論文を書こう 表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	教科書　　評価方法 課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	35	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311786
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	36	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311807
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	37	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311813
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 論述文を書くには 第 2 回 メールの書き方 お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回 原稿用紙の使い方 ショートエッセイを書こう 第 4 回 小論文の構成と書き言葉 第 5 回 小論文の構成と書き言葉 第 6 回 資料収集の方法 1 第 7 回 資料収集の方法 2 第 8 回 小論文を書こう アイディアを出して主張を決める 第 9 回 小論文を書こう 自分の主張に反論する 第 10 回 小論文を書こう 自分の文章を推敲する 第 11 回 小論文を書こう 適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回 小論文を書こう 異なる意見を否定する 第 13 回 小論文を書こう 論点を明確にする 第 14 回 小論文を書こう 適切な構成で書く 第 15 回 小論文を書こう 表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	教科書　　評価方法 課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	38	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311819
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	39	科目コード	68000
科目名	アカデミック・スキルズ 1	授業コード	9311821
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	40	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318644
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　論述文を書くには 第２回　　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第３回　　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第４回　　小論文の構成と書き言葉 第５回　　小論文の構成と書き言葉 第６回　　資料収集の方法 1 第７回　　資料収集の方法 2 第８回　　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第９回　　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	41	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318704
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	42	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318711
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　論述文を書くには 第２回　　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第３回　　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第４回　　小論文の構成と書き言葉 第５回　　小論文の構成と書き言葉 第６回　　資料収集の方法 1 第７回　　資料収集の方法 2 第８回　　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第９回　　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	43	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318719
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	44	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318746
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	45	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318790
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 論述文を書くには 第 2 回 メールの書き方 お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回 原稿用紙の使い方 ショートエッセイを書こう 第 4 回 小論文の構成と書き言葉 第 5 回 小論文の構成と書き言葉 第 6 回 資料収集の方法 1 第 7 回 資料収集の方法 2 第 8 回 小論文を書こう アイディアを出して主張を決める 第 9 回 小論文を書こう 自分の主張に反論する 第 10 回 小論文を書こう 自分の文章を推敲する 第 11 回 小論文を書こう 適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回 小論文を書こう 異なる意見を否定する 第 13 回 小論文を書こう 論点を明確にする 第 14 回 小論文を書こう 適切な構成で書く 第 15 回 小論文を書こう 表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	教科書　　評価方法 課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	46	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318806
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	47	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318818
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 論述文を書くには 第 2 回 メールの書き方 お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回 原稿用紙の使い方 ショートエッセイを書こう 第 4 回 小論文の構成と書き言葉 第 5 回 小論文の構成と書き言葉 第 6 回 資料収集の方法 1 第 7 回 資料収集の方法 2 第 8 回 小論文を書こう アイディアを出して主張を決める 第 9 回 小論文を書こう 自分の主張に反論する 第 10 回 小論文を書こう 自分の文章を推敲する 第 11 回 小論文を書こう 適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回 小論文を書こう 異なる意見を否定する 第 13 回 小論文を書こう 論点を明確にする 第 14 回 小論文を書こう 適切な構成で書く 第 15 回 小論文を書こう 表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	教科書　　評価方法 課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	48	科目コード	60040
科目名	日本語表現 1	授業コード	9318824
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	小論文を書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある短い文章にまとめることを学ぶ。小論文を書く際の情報の集め方や，利用の仕方を習得し，オリジナリティのある文章を書く練習をする。また，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　論述文を書くには 第 2 回　メールの書き方　お願いのメール、問い合わせのメール 第 3 回　原稿用紙の使い方　ショートエッセイを書こう 第 4 回　小論文の構成と書き言葉 第 5 回　小論文の構成と書き言葉 第 6 回　資料収集の方法 1 第 7 回　資料収集の方法 2 第 8 回　小論文を書こう　アイディアを出して主張を決める 第 9 回　小論文を書こう　自分の主張に反論する 第 10 回　小論文を書こう　自分の文章を推敲する 第 11 回　小論文を書こう　適切な事例を示し、根拠を複数挙げる 第 12 回　小論文を書こう　異なる意見を否定する 第 13 回　小論文を書こう　論点を明確にする 第 14 回　小論文を書こう　適切な構成で書く 第 15 回　小論文を書こう　表現をみがく		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	小論文の執筆に必要なテーマについてペア，グループでディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週 1 時間程度確保すること。		
教科書	山本裕子・本間妙・中林律子著『これなら書ける！説得力のある小論文』ココ出版，2019 年		
参考書	山本裕子・本間妙・中林律子 著『これなら書ける！ 文章表現の基礎の基礎』ココ出版，2018 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	49	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320003
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	50	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320006
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　レポートとは何か 第２回　　レポートにふさわしい表現・表記 第３回　　レポートにふさわしい表現・表記 第４回　　引用の目的と方法 第５回　　引用の目的と方法 第６回　　引用の目的と方法 第７回　　効果的な図表の使い方 第８回　　説得力のある文章を書く 第９回　　説得力のある文章を書く 第 10 回　資料を探す方法 第 11 回　資料の読解方法 第 12 回　資料の内容理解を深める 第 13 回　論証型レポートの作成 第 14 回　論証型レポートの作成 第 15 回　文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	51	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320925
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　レポートとは何か 第２回　　レポートにふさわしい表現・表記 第３回　　レポートにふさわしい表現・表記 第４回　　引用の目的と方法 第５回　　引用の目的と方法 第６回　　引用の目的と方法 第７回　　効果的な図表の使い方 第８回　　説得力のある文章を書く 第９回　　説得力のある文章を書く 第 10 回　資料を探す方法 第 11 回　資料の読解方法 第 12 回　資料の内容理解を深める 第 13 回　論証型レポートの作成 第 14 回　論証型レポートの作成 第 15 回　文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	52	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320930
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した，テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	53	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320941
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した，テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	54	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320951
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	55	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320962
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	56	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320983
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	57	科目コード	68001
科目名	アカデミック・スキルズ２	授業コード	9320993
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	58	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326028
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　レポートとは何か 第２回　　レポートにふさわしい表現・表記 第３回　　レポートにふさわしい表現・表記 第４回　　引用の目的と方法 第５回　　引用の目的と方法 第６回　　引用の目的と方法 第７回　　効果的な図表の使い方 第８回　　説得力のある文章を書く 第９回　　説得力のある文章を書く 第 10 回　資料を探す方法 第 11 回　資料の読解方法 第 12 回　資料の内容理解を深める 第 13 回　論証型レポートの作成 第 14 回　論証型レポートの作成 第 15 回　文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	59	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326499
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した，テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	60	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326631
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション　レポートとは何か 第２回　　レポートにふさわしい表現・表記 第３回　　レポートにふさわしい表現・表記 第４回　　引用の目的と方法 第５回　　引用の目的と方法 第６回　　引用の目的と方法 第７回　　効果的な図表の使い方 第８回　　説得力のある文章を書く 第９回　　説得力のある文章を書く 第 10 回　資料を探す方法 第 11 回　資料の読解方法 第 12 回　資料の内容理解を深める 第 13 回　論証型レポートの作成 第 14 回　論証型レポートの作成 第 15 回　文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	61	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326637
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	62	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326649
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	63	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326660
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した，テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	64	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326919
教員名	飯田　実花		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	65	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326929
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	66	科目コード	60050
科目名	日本語表現２	授業コード	9326982
教員名	乾　乃璃子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・テーマに沿って，適切な表現を用いて文章を書くことができる。 ・必要な情報を探し，適切に用いて，論理的な文章を書くことができる。 ・自分の言葉で考え，意見を表明することができる。		
授業概要	レポートを書くことを通して，自分の意見を客観的で説得力のある文章にまとめることを学ぶ。また、執筆の際に必要な、資料収集の方法や、データ分析の方法、調査結果の効果的な提示方法について学ぶ。さらに，各回のテーマに沿ったディスカッションやペア・グループワークを通して，自分の意見を表明することも学んでいく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション レポートとは何か 第２回 レポートにふさわしい表現・表記 第３回 レポートにふさわしい表現・表記 第４回 引用の目的と方法 第５回 引用の目的と方法 第６回 引用の目的と方法 第７回 効果的な図表の使い方 第８回 説得力のある文章を書く 第９回 説得力のある文章を書く 第 10 回 資料を探す方法 第 11 回 資料の読解方法 第 12 回 資料の内容理解を深める 第 13 回 論証型レポートの作成 第 14 回 論証型レポートの作成 第 15 回 文章を推敲する		
授業方法	講義，ペア・グループでの活動，実際の文章作成を行う。授業の最初に小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成に必要な資料をペア，グループで探した、テーマについてディスカッションを行い，理解を深める。作成した文章をペアワーク，グループワークで添削し，推敲する。		
授業外学習	授業前に教科書の該当箇所を読み，自分なりの意見や考えをメモしておくこと。授業時間内に作成する課題の他に，適宜提出物を課すので，指示された様式に沿って作成し提出すること。また，授業期間中は，新聞や書籍など，まとまった量の文章を読む時間を週１時間程度確保すること。		
教科書	近藤裕子他著『失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法』ひつじ書房，2019 年		
参考書	学習技術研究会編著『大学生らのスタディ・スキルズ　知へのステップ』くろしお出版、2019 年 銅直信子他著『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳　改訂版』国書刊行会，2019 年 その他，授業中に適宜指示する。		
評価方法	課題 60%、授業への参加状況 20%、小テスト 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	67	科目コード	60060
科目名	総合英語 1	授業コード	9311095
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Vocabulary, Conversation 第 2 回 Unit 1 Language Practice, Listening 第 3 回 Unit 1 Reading, Speaking 第 4 回 Unit 2 Vocabulary, Conversation 第 5 回 Unit 2 Language Practice, Listening 第 6 回 Unit 2 Reading, Speaking 第 7 回 Unit 1, Unit 2 ふりかえり、小テスト 第 8 回 Unit 3 Vocabulary, Conversation 第 9 回 Unit 3 Language Practice, Listening 第 10 回 Unit 3 Reading, Speaking 第 11 回 Unit 4 Vocabulary, Conversation 第 12 回 Unit 4 Language Practice, Listening 第 13 回 Unit 4 Reading, Speaking 第 14 回 Unit 3, Unit 4 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 1 – Unit 4 総復習 *Unit 9, Unit 10 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。テキスト後ろの Grammar ページ等を参考に、各ユニットの文法を理解するよう努める。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。Online Practice に取り組む。(0.5 時間)		
教科書	Ken Wilson. Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice (Fourth Edition). Oxford University Press, 2020.		

参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	68	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311116
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身につける。）		
授業概要	英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語１」では特に「文章を読む」「文を書く」能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。 ・日常会話表現を身に付ける。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・基本的な表現を暗唱する。 ・毎回小テストをして理解度を確認する。 ・挿絵や文法知識、語彙知識などを復習しながらきっちりした文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明、Online Skills Program の使い方説明)、自己紹介 第２回 Unit1 自己紹介 (1) 第３回 Unit1 自己紹介 (2) 第４回 Unit2 時間 (1) 第５回 Unit2 時間 (2) 第６回 Unit3 趣味 (1), Unit1,2 小テスト 第７回 Unit3 趣味 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験 （状態や様子を表す言い方、現在のことを表す言い方） 第９回 Unit4 住まい(1) 第 10 回 Unit4 住まい(2) 第 11 回 Unit5 特技 (1), Unit3,4 小テスト 第 12 回 Unit5 特技 (2) 第 13 回 Unit6 人生 (1) 第 14 回 Unit6 人生 (2) 第 15 回 後半のまとめ（存在を表す言い方､能力や可能を表す言い方､過去のことを表す言い方), Unit5,6 小テスト 期末テスト		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容の見直しを行う。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（40％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	69	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311137
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身につける。）		
授業概要	英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語１」では特に「文章を読む」「文を書く」能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。 ・日常会話表現を身に付ける。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・基本的な表現を暗唱する。 ・毎回小テストをして理解度を確認する。 ・挿絵や文法知識、語彙知識などを復習しながらきっちりした文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明、Online Skills Program の使い方説明)、自己紹介 第２回 Unit1 自己紹介 (1) 第３回 Unit1 自己紹介 (2) 第４回 Unit2 時間 (1) 第５回 Unit2 時間 (2) 第６回 Unit3 趣味 (1), Unit1,2 小テスト 第７回 Unit3 趣味 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験 （状態や様子を表す言い方、現在のことを表す言い方） 第９回 Unit4 住まい(1) 第 10 回 Unit4 住まい(2) 第 11 回 Unit5 特技 (1), Unit3,4 小テスト 第 12 回 Unit5 特技 (2) 第 13 回 Unit6 人生 (1) 第 14 回 Unit6 人生 (2) 第 15 回 後半のまとめ（存在を表す言い方､能力や可能を表す言い方､過去のことを表す言い方), Unit5,6 小テスト 期末テスト		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容の見直しを行う。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（40％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	70	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311224
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身につける。）		
授業概要	英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語１」では特に「文章を読む」「文を書く」能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。 ・日常会話表現を身に付ける。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・基本的な表現を暗唱する。 ・毎回小テストをして理解度を確認する。 ・挿絵や文法知識、語彙知識などを復習しながらきっちりした文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明、Online Skills Program の使い方説明)、自己紹介 第２回 Unit1 自己紹介 (1) 第３回 Unit1 自己紹介 (2) 第４回 Unit2 時間 (1) 第５回 Unit2 時間 (2) 第６回 Unit3 趣味 (1), Unit1,2 小テスト 第７回 Unit3 趣味 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験 （状態や様子を表す言い方、現在のことを表す言い方） 第９回 Unit4 住まい(1) 第 10 回 Unit4 住まい(2) 第 11 回 Unit5 特技 (1), Unit3,4 小テスト 第 12 回 Unit5 特技 (2) 第 13 回 Unit6 人生 (1) 第 14 回 Unit6 人生 (2) 第 15 回 後半のまとめ（存在を表す言い方､能力や可能を表す言い方､過去のことを表す言い方), Unit5,6 小テスト 期末テスト		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容の見直しを行う。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（40％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	71	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311271
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業では、コミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように、さまざまな活動を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業内容と評価方法について），英語による自己紹介 第２回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (1) 第３回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (2),小テスト（例文） 第４回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (3) 第５回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (4),小テスト（語彙） 第６回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第７回　Unit 2 Foods (1) 第８回　Unit 2 Foods (2),小テスト（例文） 第９回　Unit 2 Foods (3) 第 10 回　Unit 2 Foods (4),小テスト（語彙） 第 11 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第 12 回　Unit 3　Foreign Language Learning (1) 第 13 回　Unit 3　Foreign Language Learning (2),小テスト（例文） 第 14 回　Unit 3　Foreign Language Learning (3),小テスト（語彙） 第 15 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト		
授業方法	講義は最小限とし，ほとんどは演習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	各ユニットの指定された課題や，復習として学習した構文や語彙の学習およびリスニングやリーディングをした英文の音読練習を行う。以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。		
教科書	AMBITIONS　Beginner　（靜哲人・望月正道・熊澤孝昭　　金星堂　2021 年）		
参考書	指定なし。資料を配布。		
評価方法	以下の内容と割合で総合評価する。 ・小テスト（例文，語彙）（30%） ・音読・シャドーウィング（30%） ・授業内での貢献度（30%） ・提出課題（10%） 小テストは採点後，提出課題は確認後に返却する。 授業での貢献度は、教員からの質問等に応じた的確な回答や発言ができることを標準とし、授業への積極的な参加を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学における外国語授業の実務経験を持つ者が、その経験を活かして指導する。		

No.	72	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311292
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業では、コミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように、さまざまな活動を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業内容と評価方法について），英語による自己紹介 第２回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (1) 第３回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (2),小テスト（例文） 第４回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (3) 第５回　Unit1 Cross-Cultural Understanding (4),小テスト（語彙） 第６回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第７回　Unit 2 Foods (1) 第８回　Unit 2 Foods (2),小テスト（例文） 第９回　Unit 2 Foods (3) 第 10 回　Unit 2 Foods (4),小テスト（語彙） 第 11 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第 12 回　Unit 3　Foreign Language Learning (1) 第 13 回　Unit 3　Foreign Language Learning (2),小テスト（例文） 第 14 回　Unit 3　Foreign Language Learning (3),小テスト（語彙） 第 15 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト		
授業方法	講義は最小限とし，ほとんどは演習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	各ユニットの指定された課題や，復習として学習した構文や語彙の学習およびリスニングやリーディングをした英文の音読練習を行う。以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。		
教科書	AMBITIONS　Beginner　（靜哲人・望月正道・熊澤孝昭　　金星堂　2021 年）		
参考書	指定なし。資料を配布。		
評価方法	以下の内容と割合で総合評価する。 ・小テスト（例文，語彙）（30%） ・音読・シャドーウィング（30%） ・授業内での貢献度（30%） ・提出課題（10%） 小テストは採点後，提出課題は確認後に返却する。 授業での貢献度は、教員からの質問等に応じた的確な回答や発言ができることを標準とし、授業への積極的な参加を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学における外国語授業の実務経験を持つ者が、その経験を活かして指導する。		

No.	73	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311295
教員名	吉田　幸治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	英語力を高めるために必要となる「英語学習法」と「英語辞書活用法」の演習を行い、その演習によって獲得した知識と能力を用いて精読・多読の基礎力を養成する。具体的な内容は以下の通り。 (1)　様々な英語学習法を理解する。 (2)　英和辞典、英英辞典、オンライン辞書、各種コーパスの利用法を理解する。 (3)　発信するために必要となる語彙、イディオム、音声・音韻知識を整理する。 (4)　文法・語彙・韻律を含めて、英語の正誤判断に必要な知識を整理する。		
授業計画	第１回　授業内容と評価方法（授業目標の説明、評価の方法と進め方） 第２回　英語という言語の諸特徴（日本語との比較、他の言語との比較） 第３回　辞書に関する背景知識（辞書の歴史、種類、編纂方法、説明事項） 第４回　世界の辞書（国内辞書、国外辞書、特殊辞書） 第５回　辞書の利用法（辞書が内包している情報、良い辞書と悪い辞書） 第６回　countable と uncountable（名詞・代名詞の用法、旧情報・新情報） 第７回　definite と indefinite（定と不定、主題と評言、談話の流れ） 第８回　情報構造（語順の決定原理、項構造、特殊構文） 第９回　熟語、定型句・慣用表現、構文（切片、断片、累加、省略） 第１０回　付加詞、不連続構成素（修飾・被修飾、依存関係） 第１１回　語彙をめぐる諸問題（厳密下範疇化、指示対象のずれ、内包と外包） 第１２回　音韻知識の重要性（イントネーション、強勢リズム） 第１３回　解釈をめぐる諸問題（文化・地理・歴史と関連する知識） 第１４回　英語に対する誤解（素人の誤解、知識人の誤解） 第１５回　総復習		
授業方法	講義のみならず演習も重視する。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワークを重視する。		
授業外学習	・予習の段階で未知の語彙・表現をできるだけ詳細に調べる。（最低４５分） ・新しく得た知識に対する疑問と懐疑的態度を持ちながら復習を行う。（最低４５分）		
教科書	・磐崎弘貞　『英語辞書をフル活用する７つの鉄則』　大修館書店　2011 年 7 月 ・授業内で配布するプリント、及び各種電子ファイル		
参考書	授業内で必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	・毎回の学習課題 50% ・小テスト・提出課題 30% ・授業内での取り組み 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	74	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311296
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身につける。）		
授業概要	英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語１」では特に「文章を読む」「文を書く」能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。 ・日常会話表現を身に付ける。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・基本的な表現を暗唱する。 ・毎回小テストをして理解度を確認する。 ・挿絵や文法知識、語彙知識などを復習しながらきっちりした文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明、Online Skills Program の使い方説明)、自己紹介 第２回 Unit1 自己紹介 (1) 第３回 Unit1 自己紹介 (2) 第４回 Unit2 時間 (1) 第５回 Unit2 時間 (2) 第６回 Unit3 趣味 (1), Unit1,2 小テスト 第７回 Unit3 趣味 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験 （状態や様子を表す言い方、現在のことを表す言い方） 第９回 Unit4 住まい(1) 第 10 回 Unit4 住まい(2) 第 11 回 Unit5 特技 (1), Unit3,4 小テスト 第 12 回 Unit5 特技 (2) 第 13 回 Unit6 人生 (1) 第 14 回 Unit6 人生 (2) 第 15 回 後半のまとめ（存在を表す言い方､能力や可能を表す言い方､過去のことを表す言い方), Unit5,6 小テスト 期末テスト		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容の見直しを行う。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（40％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	75	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311297
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身につける。）		
授業概要	英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語１」では特に「文章を読む」「文を書く」能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。 ・日常会話表現を身に付ける。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・基本的な表現を暗唱する。 ・毎回小テストをして理解度を確認する。 ・挿絵や文法知識、語彙知識などを復習しながらきっちりした文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明、Online Skills Program の使い方説明)、自己紹介 第２回 Unit1 自己紹介 (1) 第３回 Unit1 自己紹介 (2) 第４回 Unit2 時間 (1) 第５回 Unit2 時間 (2) 第６回 Unit3 趣味 (1), Unit1,2 小テスト 第７回 Unit3 趣味 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験 （状態や様子を表す言い方、現在のことを表す言い方） 第９回 Unit4 住まい(1) 第 10 回 Unit4 住まい(2) 第 11 回 Unit5 特技 (1), Unit3,4 小テスト 第 12 回 Unit5 特技 (2) 第 13 回 Unit6 人生 (1) 第 14 回 Unit6 人生 (2) 第 15 回 後半のまとめ（存在を表す言い方､能力や可能を表す言い方､過去のことを表す言い方), Unit5,6 小テスト 期末テスト		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容の見直しを行う。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（40％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	76	科目コード	60060
科目名	総合英語１	授業コード	9311313
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身につける。）		
授業概要	英語を「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語１」では特に「文章を読む」「文を書く」能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。 ・日常会話表現を身に付ける。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・基本的な表現を暗唱する。 ・毎回小テストをして理解度を確認する。 ・挿絵や文法知識、語彙知識などを復習しながらきっちりした文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明、Online Skills Program の使い方説明)、自己紹介 第２回 Unit1 自己紹介 (1) 第３回 Unit1 自己紹介 (2) 第４回 Unit2 時間 (1) 第５回 Unit2 時間 (2) 第６回 Unit3 趣味 (1), Unit1,2 小テスト 第７回 Unit3 趣味 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験 （状態や様子を表す言い方、現在のことを表す言い方） 第９回 Unit4 住まい(1) 第 10 回 Unit4 住まい(2) 第 11 回 Unit5 特技 (1), Unit3,4 小テスト 第 12 回 Unit5 特技 (2) 第 13 回 Unit6 人生 (1) 第 14 回 Unit6 人生 (2) 第 15 回 後半のまとめ（存在を表す言い方､能力や可能を表す言い方､過去のことを表す言い方), Unit5,6 小テスト 期末テスト		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容の見直しを行う。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（40％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	77	科目コード	60060
科目名	総合英語 1	授業コード	9311316
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Vocabulary, Conversation 第 2 回 Unit 1 Language Practice, Listening 第 3 回 Unit 1 Reading, Speaking 第 4 回 Unit 2 Vocabulary, Conversation 第 5 回 Unit 2 Language Practice, Listening 第 6 回 Unit 2 Reading, Speaking 第 7 回 Unit 1, Unit 2 ふりかえり、小テスト 第 8 回 Unit 3 Vocabulary, Conversation 第 9 回 Unit 3 Language Practice, Listening 第 10 回 Unit 3 Reading, Speaking 第 11 回 Unit 4 Vocabulary, Conversation 第 12 回 Unit 4 Language Practice, Listening 第 13 回 Unit 4 Reading, Speaking 第 14 回 Unit 3, Unit 4 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 1 – Unit 4 総復習 *Unit 9, Unit 10 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。テキスト後ろの Grammar ページ等を参考に、各ユニットの文法を理解するよう努める。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。Online Practice に取り組む。(0.5 時間)		
教科書	Ken Wilson. Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice (Fourth Edition). Oxford University Press, 2020.		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）(提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う)		

	・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	78	科目コード	60060
科目名	総合英語 1	授業コード	9311317
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Vocabulary, Conversation 第 2 回 Unit 1 Language Practice, Listening 第 3 回 Unit 1 Reading, Speaking 第 4 回 Unit 2 Vocabulary, Conversation 第 5 回 Unit 2 Language Practice, Listening 第 6 回 Unit 2 Reading, Speaking 第 7 回 Unit 1, Unit 2 ふりかえり、小テスト 第 8 回 Unit 3 Vocabulary, Conversation 第 9 回 Unit 3 Language Practice, Listening 第 10 回 Unit 3 Reading, Speaking 第 11 回 Unit 4 Vocabulary, Conversation 第 12 回 Unit 4 Language Practice, Listening 第 13 回 Unit 4 Reading, Speaking 第 14 回 Unit 3, Unit 4 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 1 – Unit 4 総復習 *Unit 9, Unit 10 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。テキスト後ろの Grammar ページ等を参考に、各ユニットの文法を理解するよう努める。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。Online Practice に取り組む。(0.5 時間)		
教科書	Ken Wilson. Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice (Fourth Edition). Oxford University Press, 2020.		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）(提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う)		

	・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	79	科目コード	60060
科目名	総合英語 1	授業コード	9311318
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第 1 回 Orientation (授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka (1) 第 2 回 Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka (2) 第 3 回 Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room (1) 第 4 回 Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room (2) 第 5 回 Unit 3 Good Morning. How Are You Today (1) 第 6 回 Unit 3 Good Morning. How Are You Today (2) 第 7 回 Unit 1, 2, 3 ふりかえり、小テスト 第 8 回 Unit 4 What Color Do You Like (1) 第 9 回 Unit 4 What Color Do You Like (2) 第 10 回 Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf (1) 第 11 回 Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf (2) 第 12 回 Unit 6 It's Time to Play Outside (1) 第 13 回 Unit 6 It's Time to Play Outside (2) 第 14 回 Unit 4, 5, 6 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 1 - Unit 6 総復習 *Unit 13 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習 (ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)		
教科書	Maiko Tsuchiya. Happy English for Childcare. Kinseido, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50% (参加度、提出物、欠席課題等) (提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う) ・小テスト 20% (確認後フィードバックを行う)		

	・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

No.	80	科目コード	60060
科目名	総合英語 1	授業コード	9311324
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力を伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第 1 回 Orientation (授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka (1) 第 2 回 Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka (2) 第 3 回 Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room (1) 第 4 回 Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room (2) 第 5 回 Unit 3 Good Morning. How Are You Today (1) 第 6 回 Unit 3 Good Morning. How Are You Today (2) 第 7 回 Unit 1, 2, 3 ふりかえり、小テスト 第 8 回 Unit 4 What Color Do You Like (1) 第 9 回 Unit 4 What Color Do You Like (2) 第 10 回 Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf (1) 第 11 回 Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf (2) 第 12 回 Unit 6 It's Time to Play Outside (1) 第 13 回 Unit 6 It's Time to Play Outside (2) 第 14 回 Unit 4, 5, 6 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 1 - Unit 6 総復習 *Unit 13 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)		
教科書	Maiko Tsuchiya. Happy English for Childcare. Kinseido, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）(提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う)		

	・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	81	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321426
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合英語１に引き続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第１回 Orientation（授業内容、採点基準説明)、Unit 7 She's Allergic to Eggs (1) 第２回 Unit 7 She's Allergic to Eggs (2) 第３回 Unit 8 You Should Go to the Bathroom (1) 第４回 Unit 8 You Should Go to the Bathroom (2) 第５回 Unit 9 We Made Masks Today (1) 第６回 Unit 9 We Made Masks Today (2) 第７回 Unit 7, 8, 9 ふりかえり、小テスト 第８回 Unit 10 If It Rains, What Happens (1) 第９回 Unit 10 If It Rains, What Happens (2) 第 10 回 Unit 11 What Shall We Do Today (1) 第 11 回 Unit 11　What Shall We Do Today (2) 第 12 回 Unit 12 I Feel Feverish (1) 第 13 回 Unit 12 I Feel Feverish (2) 第 14 回 Unit 10, 11, 12 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 7 - Unit12 総復習 *Unit 14 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)		
教科書	Maiko Tsuchiya. Happy English for Childcare. Kinseido, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う）		

	・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

No.	82	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321447
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合英語１に引き続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第１回 Orientation（授業内容、採点基準説明)、Unit 7 She's Allergic to Eggs (1) 第２回 Unit 7 She's Allergic to Eggs (2) 第３回 Unit 8 You Should Go to the Bathroom (1) 第４回 Unit 8 You Should Go to the Bathroom (2) 第５回 Unit 9 We Made Masks Today (1) 第６回 Unit 9 We Made Masks Today (2) 第７回 Unit 7, 8, 9 ふりかえり、小テスト 第８回 Unit 10 If It Rains, What Happens (1) 第９回 Unit 10 If It Rains, What Happens (2) 第 10 回 Unit 11 What Shall We Do Today (1) 第 11 回 Unit 11　What Shall We Do Today (2) 第 12 回 Unit 12 I Feel Feverish (1) 第 13 回 Unit 12 I Feel Feverish (2) 第 14 回 Unit 10, 11, 12 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 7 - Unit12 総復習 *Unit 14 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)		
教科書	Maiko Tsuchiya. Happy English for Childcare. Kinseido, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う）		

	・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

No.	83	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321535
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Continuing from General English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （総合英語１から続き、「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に着ける）		
授業概要	「総合英語１」で鍛えた力を土台に、「文章を詳しく読み取る」 「文章を書く」ことに比重を傾けていく。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・文法事項の復習を行う。 ・まとまった文章を暗唱する。 ・毎回の授業が終わるごとに次週小テストをして理解度を確認する。 ・文法知識、語彙知識などを利用し正しい文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明)、前期の復習 第２回 Unit7 特別な日 (1) 第３回 Unit7 特別な日(2) 第４回 Unit8 食べ物 (1) 第５回 Unit8 食べ物 (2) 第６回 Unit9 都市 (1), Unit7,8 小テスト 第７回 Unit9 都市 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験（過去のことを表す言い方、数えられる物・数えられない物、比較する言い方) 第９回 Unit10 場所 (1) 第 10 回 Unit10 場所 (2) 第 11 回 Unit11 これからのこと (1), Unit9,10 小テスト 第 12 回 Unit11 これからのこと (2) 第 13 回 Unit12 経験 (1) 第 14 回 Unit12 経験 (2) 第 15 回 後半のまとめ （一時的なことを表す言い方、未来のことを表す言い方、継続・経験・完了を表す言い方）, Unit11,12 小テスト 期末試験		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（グループワーク、ペアワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容に目を通す。小テストの準備。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（４０％)、小テスト（１０％) 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	84	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321536
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Continuing from General English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （総合英語１から続き、「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に着ける）		
授業概要	「総合英語１」で鍛えた力を土台に、「文章を詳しく読み取る」 「文章を書く」ことに比重を傾けていく。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・文法事項の復習を行う。 ・まとまった文章を暗唱する。 ・毎回の授業が終わるごとに次週小テストをして理解度を確認する。 ・文法知識、語彙知識などを利用し正しい文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明)、前期の復習 第２回 Unit7 特別な日 (1) 第３回 Unit7 特別な日(2) 第４回 Unit8 食べ物 (1) 第５回 Unit8 食べ物 (2) 第６回 Unit9 都市 (1), Unit7,8 小テスト 第７回 Unit9 都市 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験（過去のことを表す言い方、数えられる物・数えられない物、比較する言い方) 第９回 Unit10 場所 (1) 第 10 回 Unit10 場所 (2) 第 11 回 Unit11 これからのこと (1), Unit9,10 小テスト 第 12 回 Unit11 これからのこと (2) 第 13 回 Unit12 経験 (1) 第 14 回 Unit12 経験 (2) 第 15 回 後半のまとめ （一時的なことを表す言い方、未来のことを表す言い方、継続・経験・完了を表す言い方）, Unit11,12 小テスト 期末試験		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（グループワーク、ペアワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容に目を通す。小テストの準備。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（４０％)、小テスト（１０％) 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	85	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321537
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Continuing from General English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （総合英語１から続き、「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に着ける）		
授業概要	「総合英語１」で鍛えた力を土台に、「文章を詳しく読み取る」 「文章を書く」ことに比重を傾けていく。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・文法事項の復習を行う。 ・まとまった文章を暗唱する。 ・毎回の授業が終わるごとに次週小テストをして理解度を確認する。 ・文法知識、語彙知識などを利用し正しい文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明)、前期の復習 第２回 Unit7 特別な日 (1) 第３回 Unit7 特別な日(2) 第４回 Unit8 食べ物 (1) 第５回 Unit8 食べ物 (2) 第６回 Unit9 都市 (1), Unit7,8 小テスト 第７回 Unit9 都市 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験（過去のことを表す言い方、数えられる物・数えられない物、比較する言い方) 第９回 Unit10 場所 (1) 第 10 回 Unit10 場所 (2) 第 11 回 Unit11 これからのこと (1), Unit9,10 小テスト 第 12 回 Unit11 これからのこと (2) 第 13 回 Unit12 経験 (1) 第 14 回 Unit12 経験 (2) 第 15 回 後半のまとめ （一時的なことを表す言い方、未来のことを表す言い方、継続・経験・完了を表す言い方）, Unit11,12 小テスト 期末試験		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（グループワーク、ペアワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容に目を通す。小テストの準備。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（４０％)、小テスト（１０％) 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	86	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321538
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合英語１から続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業では、コミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように、さまざまな活動を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業内容と評価方法について），スピーキング活動 第２回　Unit4 Sports (1) 第３回　Unit4 Sports (2),小テスト（例文） 第４回　Unit4 Sports (3) 第５回　Unit4 Sports (4),小テスト（語彙） 第６回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第７回　Unit5 Fashion (1) 第８回　Unit5 Fashion (2),小テスト（例文） 第９回　Unit5 Fashion (3) 第 10 回　Unit5 Fashion (4),小テスト（語彙） 第 11 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第 12 回　Unit6　Living Things (1) 第 13 回　Unit6　Living Things (2),小テスト（例文） 第 14 回　Unit6　Living Things (3),小テスト（語彙） 第 15 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト		
授業方法	講義は最小限とし，ほとんどは演習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	各ユニットの指定された課題や，復習として学習した構文や語彙の学習およびリスニングやリーディングをした英文の音読練習を行う。以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。		
教科書	AMBITIONS　Beginner　（靜哲人・望月正道・熊澤孝昭　　金星堂　2021 年）		
参考書	指定なし。資料を配布。		
評価方法	以下の内容と割合で総合評価する。 ・小テスト（例文，語彙）（30%） ・音読・シャドーウィング（30%） ・授業内での貢献度（30%） ・提出課題（10%） 小テストは採点後，提出課題は確認後に返却する。 授業での貢献度は、教員からの質問等に応じた的確な回答や発言ができることを標準とし、授業への積極的な参加を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学における外国語授業の実務経験を持つ者が、その経験を活かして指導する。		

No.	87	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321602
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合英語１から続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業では、コミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように、さまざまな活動を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業内容と評価方法について），スピーキング活動 第２回　Unit4 Sports (1) 第３回　Unit4 Sports (2),小テスト（例文） 第４回　Unit4 Sports (3) 第５回　Unit4 Sports (4),小テスト（語彙） 第６回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第７回　Unit5 Fashion (1) 第８回　Unit5 Fashion (2),小テスト（例文） 第９回　Unit5 Fashion (3) 第 10 回　Unit5 Fashion (4),小テスト（語彙） 第 11 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト 第 12 回　Unit6　Living Things (1) 第 13 回　Unit6　Living Things (2),小テスト（例文） 第 14 回　Unit6　Living Things (3),小テスト（語彙） 第 15 回　表現活動・振り返りおよび音読・シャドーウィングテスト		
授業方法	講義は最小限とし，ほとんどは演習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	各ユニットの指定された課題や，復習として学習した構文や語彙の学習およびリスニングやリーディングをした英文の音読練習を行う。以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。		
教科書	AMBITIONS　Beginner　（靜哲人・望月正道・熊澤孝昭　　金星堂　2021 年）		
参考書	指定なし。資料を配布。		
評価方法	以下の内容と割合で総合評価する。 ・小テスト（例文，語彙）（30%） ・音読・シャドーウィング（30%） ・授業内での貢献度（30%） ・提出課題（10%） 小テストは採点後，提出課題は確認後に返却する。 授業での貢献度は、教員からの質問等に応じた的確な回答や発言ができることを標準とし、授業への積極的な参加を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学における外国語授業の実務経験を持つ者が、その経験を活かして指導する。		

No.	88	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321612
教員名	吉田　幸治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合英語１から続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	英語力を高めるために必要となる「英語学習法」と「英語辞書活用法」の演習を行い、その演習によって獲得した知識と能力を用いて精読・多読の基礎力を養成する。具体的な内容は以下の通り。 (1)　様々な英語学習法を理解する。 (2)　英和辞典、英英辞典、オンライン辞書、各種コーパスの利用法を理解する。 (3)　発信するために必要となる語彙、イディオム、音声・音韻知識を整理する。 (4)　文法・語彙・韻律を含めて、英語の正誤判断に必要な知識を整理する。		
授業計画	第１回　対句に関して① 第２回　対句に関して② 第３回　対句に関して③ 第４回　イディオム① 第５回　イディオム② 第６回　イディオム③ 第７回　同意語と関連語彙 第８回　反意語 第９回　多義語 第１０回　レベル I 接辞とレベル II 接辞 第１１回　重層表現、色付き表現、衛星フレーム 第１２回　図像性 第１３回　日英比較 第１４回　専門用語、各種検定試験の英語 第１５回　総復習		
授業方法	講義のみならず演習内容を重視する。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワークを重視する。		
授業外学習	・予習の段階で未知の語彙・表現をできるだけ詳細に調べる。(最低４５分) ・新しく得た知識に対する疑問と懐疑的態度を持ちながら復習を行う。(最低４５分)		
教科書	・磐崎弘貞　『英語辞書をフル活用する７つの鉄則』　大修館書店　2011 年 7 月 ・授業内で配布するプリント、及び各種電子ファイル		
参考書	授業内で必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	・毎回の学習課題 50% ・小テスト・提出課題 30% ・授業内での取り組み 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	89	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321623
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Continuing from General English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （総合英語１から続き、「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に着ける）		
授業概要	「総合英語１」で鍛えた力を土台に、「文章を詳しく読み取る」 「文章を書く」ことに比重を傾けていく。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・文法事項の復習を行う。 ・まとまった文章を暗唱する。 ・毎回の授業が終わるごとに次週小テストをして理解度を確認する。 ・文法知識、語彙知識などを利用し正しい文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明)、前期の復習 第２回 Unit7 特別な日 (1) 第３回 Unit7 特別な日(2) 第４回 Unit8 食べ物 (1) 第５回 Unit8 食べ物 (2) 第６回 Unit9 都市 (1), Unit7,8 小テスト 第７回 Unit9 都市 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験（過去のことを表す言い方、数えられる物・数えられない物、比較する言い方) 第９回 Unit10 場所 (1) 第 10 回 Unit10 場所 (2) 第 11 回 Unit11 これからのこと (1), Unit9,10 小テスト 第 12 回 Unit11 これからのこと (2) 第 13 回 Unit12 経験 (1) 第 14 回 Unit12 経験 (2) 第 15 回 後半のまとめ （一時的なことを表す言い方、未来のことを表す言い方、継続・経験・完了を表す言い方）, Unit11,12 小テスト 期末試験		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（グループワーク、ペアワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容に目を通す。小テストの準備。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（４０％)、小テスト（１０％) 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	90	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321644
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Continuing from General English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （総合英語１から続き、「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に着ける）		
授業概要	「総合英語１」で鍛えた力を土台に、「文章を詳しく読み取る」 「文章を書く」ことに比重を傾けていく。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・文法事項の復習を行う。 ・まとまった文章を暗唱する。 ・毎回の授業が終わるごとに次週小テストをして理解度を確認する。 ・文法知識、語彙知識などを利用し正しい文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明)、前期の復習 第２回 Unit7 特別な日 (1) 第３回 Unit7 特別な日(2) 第４回 Unit8 食べ物 (1) 第５回 Unit8 食べ物 (2) 第６回 Unit9 都市 (1), Unit7,8 小テスト 第７回 Unit9 都市 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験（過去のことを表す言い方、数えられる物・数えられない物、比較する言い方) 第９回 Unit10 場所 (1) 第 10 回 Unit10 場所 (2) 第 11 回 Unit11 これからのこと (1), Unit9,10 小テスト 第 12 回 Unit11 これからのこと (2) 第 13 回 Unit12 経験 (1) 第 14 回 Unit12 経験 (2) 第 15 回 後半のまとめ （一時的なことを表す言い方、未来のことを表す言い方、継続・経験・完了を表す言い方）, Unit11,12 小テスト 期末試験		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（グループワーク、ペアワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容に目を通す。小テストの準備。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（４０％)、小テスト（１０％） 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	91	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321650
教員名	西谷　継治		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Continuing from General English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on reading and writing. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. （総合英語１から続き、「書く」と「読む」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に着ける）		
授業概要	「総合英語１」で鍛えた力を土台に、「文章を詳しく読み取る」 「文章を書く」ことに比重を傾けていく。 ・テキスト内容を自分自身のことに置き換えて話したり書く練習をする。 ・文法事項の復習を行う。 ・まとまった文章を暗唱する。 ・毎回の授業が終わるごとに次週小テストをして理解度を確認する。 ・文法知識、語彙知識などを利用し正しい文を書けるよう練習する。		
授業計画	第１回 はじめに（授業内容、採点基準説明)、前期の復習 第２回 Unit7 特別な日 (1) 第３回 Unit7 特別な日(2) 第４回 Unit8 食べ物 (1) 第５回 Unit8 食べ物 (2) 第６回 Unit9 都市 (1), Unit7,8 小テスト 第７回 Unit9 都市 (2) 第８回 前半のまとめ及び中間試験（過去のことを表す言い方、数えられる物・数えられない物、比較する言い方) 第９回 Unit10 場所 (1) 第 10 回 Unit10 場所 (2) 第 11 回 Unit11 これからのこと (1), Unit9,10 小テスト 第 12 回 Unit11 これからのこと (2) 第 13 回 Unit12 経験 (1) 第 14 回 Unit12 経験 (2) 第 15 回 後半のまとめ （一時的なことを表す言い方、未来のことを表す言い方、継続・経験・完了を表す言い方）, Unit11,12 小テスト 期末試験		
授業方法	演習形式とし、発表も行う。		
アクティブラーニングの視点	英文暗唱、共同学習（グループワーク、ペアワーク）		
授業外学習	予習：授業前に英文法の参考書等で、該当する文法事項に目を通し、教科書の Grammar Spot を埋める。 復習：宿題、学習内容に目を通す。小テストの準備。		
教科書	John and Liz Soars. American Headway 1 (Third edition). Oxford: Oxford University Press, 2015		
参考書	指定なし。適時、資料を配布。		
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、発表、宿題、提出物、中間試験）（５０％)、期末試験（４０％)、小テスト（１０％) 積極的な態度を高く評価し、小テストや提出物は確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	92	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321655
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	総合英語１に引き続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 5 Vocabulary, Conversation 第２回 Unit 5 Language Practice, Listening 第３回 Unit 5 Reading, Speaking 第４回 Unit 6 Vocabulary, Conversation 第５回 Unit 6 Language Practice, Listening 第６回 Unit 6 Reading, Speaking 第７回 Unit 5, Unit 6 ふりかえり、小テスト 第８回 Unit 7 Vocabulary, Conversation 第９回 Unit 7 Language Practice, Listening 第10回 Unit 7 Reading, Speaking 第11回 Unit 8 Vocabulary, Conversation 第12回 Unit 8 Language Practice, Listening 第13回 Unit 8 Reading, Speaking 第14回 Unit 7, Unit 8 ふりかえり、小テスト 第15回 Unit 5 - Unit 8 総復習 *Unit 11, Unit 12の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。テキスト後ろのGrammarページ等を参考に、各ユニットの文法を理解するよう努める。(0.5時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。Online Practiceに取り組む。(0.5時間)		
教科書	Ken Wilson. Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice (Fourth Edition). Oxford University Press, 2020.		

参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	93	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321660
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	総合英語１に引き続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 5 Vocabulary, Conversation 第２回 Unit 5 Language Practice, Listening 第３回 Unit 5 Reading, Speaking 第４回 Unit 6 Vocabulary, Conversation 第５回 Unit 6 Language Practice, Listening 第６回 Unit 6 Reading, Speaking 第７回 Unit 5, Unit 6 ふりかえり、小テスト 第８回 Unit 7 Vocabulary, Conversation 第９回 Unit 7 Language Practice, Listening 第10回 Unit 7 Reading, Speaking 第11回 Unit 8 Vocabulary, Conversation 第12回 Unit 8 Language Practice, Listening 第13回 Unit 8 Reading, Speaking 第14回 Unit 7, Unit 8 ふりかえり、小テスト 第15回 Unit 5 - Unit 8 総復習 *Unit 11, Unit 12の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。テキスト後ろのGrammarページ等を参考に、各ユニットの文法を理解するよう努める。(0.5時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。Online Practiceに取り組む。(0.5時間)		
教科書	Ken Wilson. Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice (Fourth Edition). Oxford University Press, 2020.		

参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	94	科目コード	60070
科目名	総合英語２	授業コード	9321665
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合英語１に引き続き、リーディングとライティングに重点を置いて、英語による実用的なコミュニケーション能力をさらに伸ばし、各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	この授業ではコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。英語で書かれたメール、メッセージ、手紙、ウェブサイト、記事等を読んでその要点を理解できるように、また読んで理解したことや自分が伝えたいことの要点をまとめて書くことができるように様々な活動を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 5 Vocabulary, Conversation 第２回 Unit 5 Language Practice, Listening 第３回 Unit 5 Reading, Speaking 第４回 Unit 6 Vocabulary, Conversation 第５回 Unit 6 Language Practice, Listening 第６回 Unit 6 Reading, Speaking 第７回 Unit 5, Unit 6 ふりかえり、小テスト 第８回 Unit 7 Vocabulary, Conversation 第９回 Unit 7 Language Practice, Listening 第 10 回 Unit 7 Reading, Speaking 第 11 回 Unit 8 Vocabulary, Conversation 第 12 回 Unit 8 Language Practice, Listening 第 13 回 Unit 8 Reading, Speaking 第 14 回 Unit 7, Unit 8 ふりかえり、小テスト 第 15 回 Unit 5 - Unit 8 総復習 *Unit 11, Unit 12 の内容も適宜取り入れる。 期末試験		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。テキスト後ろの Grammar ページ等を参考に、各ユニットの文法を理解するよう努める。(0.5 時間) 復習：各ユニットの指定された課題を行う。Online Practice に取り組む。(0.5 時間)		
教科書	Ken Wilson. Smart Choice Level 2 Student Book with Online Practice (Fourth Edition). Oxford University Press, 2020.		

参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 50%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・小テスト 20%（確認後フィードバックを行う） ・期末試験 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	95	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312755
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	96	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312778
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	97	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312799
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第１回 Introduction 第２回 Abilities (1) 第３回 Abilities (2) 第４回 Personal information (1) 第５回 Personal information (2) 第６回 Time and date (1) 第７回 Time and date (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 Daily routine (1) 第10回 Daily routine (2) 第11回 Location (1) 第12回 Location (2) 第13回 Directions (1) 第14回 Review and Consolidation 第15回 In-class Final Exam 第１回 はじめに 第２回 能力 (1) 第３回 能力(2) 第４回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	98	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312800
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	99	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312808
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	100	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312866
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Class Objective: Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans.（「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達させる。各コースでの学習と将来の仕事に関係する英語力を身に着ける。）		
授業概要	Class Outline: This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations.（この授 業はコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。様々な材料、音楽や映画等を含 めて、英語の「聞く」練習を行う。話せるようになるために、他の学生と英語でコミュニケ ーションをする、それから英語で発表を行う。）		
授業計画	1. Introduction, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation 15. Final Review, Final Evaluation Note: I may make adjustments to this schedule depending on the needs of the class.		
授業方法	This class will have four main components- 1. Hip-Hop Music: We will use hip-hop music to practice intonation and fluency. 2. Movie: We will use scenes from a movie to develop listening and speaking skills. 3. Conversation: We will practice basic English conversation strategies. 4. Writing: Primarily for homework, we will practice communicative writing.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. Please be prepared to learn English in the same way that you would learn to play soccer, baseball, or any other physical sport: through practice, repetition, and physical motion. Active participation is absolutely essential in this class!		
授業外学習	Outside of class, you will need to practice speaking out loud, complete writing assignments, and review all of the class materials.		
教科書	No textbook required. I will provide handouts and other materials.		
参考書			
評価方法	Active Participation- 60% Homework and Writing- 20% Final Evaluation- 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。		

No.	101	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312887
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	102	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312888
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	103	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312954
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達させる。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations. この授業はコミュニケーション、自己表現、実用英語を重視する。音楽や映画等を含む様々な英語を聞く練習を行う。また、他の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、話す練習や発表を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Introducing Yourself (1) 第２回 Unit 1 Introducing Yourself (2) 第３回 Unit 2 A Geography Lesson (1) 第４回 Unit 2 A Geography Lesson (2) 第５回 Unit 3 Arriving (1) 第６回 Unit 3 Arriving (2) 第７回 Unit 1～Unit 3 Speaking Test 第８回 Unit 4 People (1) 第９回 Unit 4 People (2) 第10回 Unit 5 House Rules (1) 第11回 Unit 5 House Rules (2) 第12回 Unit 6 Orientation (1) 第13回 Unit 6 Orientation (2) 第14回 Unit 4～Unit 6 Speaking Test 第15回 Unit1～Unit 6 Writing Test *Unit 13, Unit14, Unit15の内容も適宜取り入れる。 *テキストとプリントを併用して授業をおこなう。		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5時間)		

	復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)
教科書	Alan Jackson and Hiroko Uchida. Ready for Takeoff! English for Study Abroad. Kinseido, 2020.
参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 40%（参加度、提出物、欠席課題等）(提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う) ・Speaking Test 40% ・Writing and Listening Test 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	104	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312975
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達させる。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations. この授業はコミュニケーション、自己表現、実用英語を重視する。音楽や映画等を含む様々な英語を聞く練習を行う。また、他の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、話す練習や発表を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 1 Introducing Yourself (1) 第２回 Unit 1 Introducing Yourself (2) 第３回 Unit 2 A Geography Lesson (1) 第４回 Unit 2 A Geography Lesson (2) 第５回 Unit 3 Arriving (1) 第６回 Unit 3 Arriving (2) 第７回 Unit 1～Unit 3 Speaking Test 第８回 Unit 4 People (1) 第９回 Unit 4 People (2) 第10回 Unit 5 House Rules (1) 第11回 Unit 5 House Rules (2) 第12回 Unit 6 Orientation (1) 第13回 Unit 6 Orientation (2) 第14回 Unit 4～Unit 6 Speaking Test 第15回 Unit1～Unit 6 Writing Test *Unit 13, Unit14, Unit15の内容も適宜取り入れる。 *テキストとプリントを併用して授業をおこなう。		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5時間)		

	復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)
教科書	Alan Jackson and Hiroko Uchida. Ready for Takeoff! English for Study Abroad. Kinseido, 2020.
参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 40%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・Speaking Test 40% ・Writing and Listening Test 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	105	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312978
教員名	Robert　Jolly		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。		
授業計画	第１回 Introduction 第２回 Abilities (1) 第３回 Abilities (2) 第４回 Personal information (1) 第５回 Personal information (2) 第６回 Time and date (1) 第７回 Time and date (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 1 第 15 回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回　はじめに 第２回　能力 (1) 第３回　能力 (2)		

	第４回　個人情報（1） 第５回　個人情報　(2) 第６回　日時（1） 第７回　日時（2） 第８回　中間試験 第９回　日課（1） 第 10 回　日課（2） 第 11 回　位置（1） 第 12 回　位置（2） 第 13 回　道案内 第 14 回　前期まとめ 1 第 15 回　前期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。自分の役割をきちんと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英：英和辞典（高校で使われるような辞書で十分です。）
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); In-class presentations (20%); Listening and Speaking tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度　30％ 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの　20％ プレゼンテーション　20％ 会話テスト　30％ ＊会話テストは第 78 週目頃と第 14、15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	106	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312986
教員名	Robert　Jolly		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。		
授業計画	第１回 Introduction 第２回 Abilities (1) 第３回 Abilities (2) 第４回 Personal information (1) 第５回 Personal information (2) 第６回 Time and date (1) 第７回 Time and date (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 Daily routine (1) 第10回 Daily routine　(2) 第11回 Location (1) 第12回 Location (2) 第13回 Directions (1) 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回　はじめに 第２回　能力 (1) 第３回　能力 (2)		

	第４回　個人情報（1） 第５回　個人情報　(2) 第６回　日時（1） 第７回　日時（2） 第８回　中間試験 第９回　日課（1） 第 10 回　日課（2） 第 11 回　位置（1） 第 12 回　位置（2） 第 13 回　道案内 第 14 回　前期まとめ 1 第 15 回　前期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。自分の役割をきちんと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英：英和辞典（高校で使われるような辞書で十分です。）
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); In-class presentations (20%); Listening and Speaking tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度　30％ 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの　20％ プレゼンテーション　20％ 会話テスト　30％ ＊会話テストは第 78 週目頃と第 14、15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	107	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語 1	授業コード	9312987
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	108	科目コード	68002
科目名	コミュニケーション英語１	授業コード	9312991
教員名	Robert　Jolly		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。		
授業計画	第１回 Introduction 第２回 Abilities (1) 第３回 Abilities (2) 第４回 Personal information (1) 第５回 Personal information (2) 第６回 Time and date (1) 第７回 Time and date (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 Daily routine (1) 第10回 Daily routine　(2) 第11回 Location (1) 第12回 Location (2) 第13回 Directions (1) 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回　はじめに 第２回　能力 (1) 第３回　能力 (2)		

	第４回　個人情報（1） 第５回　個人情報　(2) 第６回　日時（1） 第７回　日時（2） 第８回　中間試験 第９回　日課（1） 第 10 回　日課（2） 第 11 回　位置（1） 第 12 回　位置（2） 第 13 回　道案内 第 14 回　前期まとめ 1 第 15 回　前期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。自分の役割をきちんと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英：英和辞典（高校で使われるような辞書で十分です。）
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); In-class presentations (20%); Listening and Speaking tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度　30％ 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの　20％ プレゼンテーション　20％ 会話テスト　30％ ＊会話テストは第 78 週目頃と第 14、15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	109	科目コード	60080
科目名	英語会話1	授業コード	9318714
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第1回 Introduction 第2回 Abilities (1) 第3回 Abilities (2) 第4回 Personal information (1) 第5回 Personal information (2) 第6回 Time and date (1) 第7回 Time and date (2) 第8回 Mid-Term Exam 第9回 Daily routine (1) 第10回 Daily routine (2) 第11回 Location (1) 第12回 Location (2) 第13回 Directions (1) 第14回 Review and Consolidation 第15回 In-class Final Exam 第1回 はじめに 第2回 能力 (1) 第3回 能力(2) 第4回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	110	科目コード	60080
科目名	英語会話 1	授業コード	9318946
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	Students will improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力を上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. This allows them to decide what they want to talk about. They will produce some original work using language focused in the class. この授業では大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるよ うにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信がもてるように、クラスルーム・アクティビテ ィーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の 復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピック では学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を 作 る。		
授業計画	第 1 回 Introduction 第 2 回 Abilities (1) 第 3 回 Abilities (2) 第 4 回 Personal information (1) 第 5 回 Personal information (2) 第 6 回 Time and date (1) 第 7 回 Time and date (2) 第 8 回 Mid-Term Exam 第 9 回 Daily routine (1) 第 10 回 Daily routine (2) 第 11 回 Location (1) 第 12 回 Location (2) 第 13 回 Directions (1) 第 14 回 Review and Consolidation 第 15 回 In-class Final Exam 第 1 回 はじめに 第 2 回 能力 (1) 第 3 回 能力(2) 第 4 回 個人情報(1)		

	第 5 回 個人情報 (2) 第 6 回 日時(1) 第 7 回 日時(2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 日課 (1) 第 10 回 日課 (2) 第 11 回 位置(1) 第 12 回 位置 (2) 第 13 回 道案内 第 14 回 前期まとめ 第 15 回 前期授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD 聞く。自分の役割をきちん と果たし、グループで発表などをする
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になった トピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Class Participation (30%) Homework and written class work (20%) Speaking Tests (20%) Listening and Writing Tests (30%) *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 30% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	111	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321088
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	112	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321109
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	113	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321130
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	114	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321197
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	115	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321218
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	116	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321285
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Class Objective: Continuing from Communication English 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans.（コミュニケーション英語１から続き、「話す」 と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達させる。各コースでの学習 と将来の仕事に関係する英語力を身に着ける。）		
授業概要	Class Outline: This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations.（この授 業はコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。様々な材料、音楽や映画等を含 めて、英語の「聞く」練習を行う。話せるようになるために、他の学生と英語でコミュニケ ーションをする、それから英語で発表を行う。）		
授業計画	1. Introduction, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation 15. Final Review, Final Evaluation Note: I may make adjustments to this schedule depending on the needs of the class.		
授業方法	This class will have four main components- 1. Hip-Hop Music: We will use hip-hop music to practice intonation and fluency. 2. Movie: We will use scenes from a movie to develop listening and speaking skills. 3. Conversation: We will practice basic English conversation strategies. 4. Writing: Primarily for homework, we will practice communicative writing.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. Please be prepared to learn English in the same way that you would learn to play soccer, baseball, or any other physical sport: through practice, repetition, and physical motion. Active participation is absolutely essential in this class!		
授業外学習	Outside of class, you will need to practice speaking out loud, complete writing assignments, and review all of the class materials.		
教科書	No textbook required. I will provide handouts and other materials.		
参考書			
評価方法	Active Participation- 60% Homework and Writing- 20% Final Evaluation- 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。		

No.	117	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321286
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	118	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321306
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	119	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321307
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 2, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. コミュニケーション英語１に引き続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達させる。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations. この授業はコミュニケーション、自己表現、実用英語を重視する。音楽や映画等を含む様々な英語を聞く練習を行う。また、他の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、話す練習や発表を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 7 First Lesson Day (1) 第２回 Unit 7 First Lesson Day (2) 第３回 Unit 8 Activities and Trips (1) 第４回 Unit 8 Activities and Trips (2) 第５回 Unit 9 Housework (1) 第６回 Unit 9 Housework (2) 第７回 Unit 7～Unit 9 Speaking Test 第８回 Unit 10 Food and Drink (1) 第９回 Unit 10 Food and Drink (2) 第10回 Unit 11 Money and Shopping (1) 第11回 Unit 11 Money and Shopping (2) 第12回 Unit 12 Safety on Campus (1) 第13回 Unit 12 Safety on Campus (2) 第14回 Unit 10～Unit 12 Speaking Test 第15回 Unit 7～Unit 12Writing Test *Unit 13, Unit 14, Unit 15の内容も適宜取り入れる。 *テキストとプリントを併用して授業をおこなう。		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5時間)		

	復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)
教科書	Alan Jackson and Hiroko Uchida. Ready for Takeoff! English for Study Abroad. Kinseido, 2020.
参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 40%（参加度、提出物、欠席課題等）（提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う） ・Speaking Test 40% ・Writing and Listening Test 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	120	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321312
教員名	竹野内　倫子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 2, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. コミュニケーション英語１に引き続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達させる。各コースと将来の仕事に関係する英語力を身に付ける。		
授業概要	This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations. この授業はコミュニケーション、自己表現、実用英語を重視する。音楽や映画等を含む様々な英語を聞く練習を行う。また、他の学生と英語でコミュニケーションを取りながら、話す練習や発表を行う。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（授業内容、採点基準説明)、Unit 7 First Lesson Day (1) 第２回 Unit 7 First Lesson Day (2) 第３回 Unit 8 Activities and Trips (1) 第４回 Unit 8 Activities and Trips (2) 第５回 Unit 9 Housework (1) 第６回 Unit 9 Housework (2) 第７回 Unit 7～Unit 9 Speaking Test 第８回 Unit 10 Food and Drink (1) 第９回 Unit 10 Food and Drink (2) 第10回 Unit 11 Money and Shopping (1) 第11回 Unit 11 Money and Shopping (2) 第12回 Unit 12 Safety on Campus (1) 第13回 Unit 12 Safety on Campus (2) 第14回 Unit 10～Unit 12 Speaking Test 第15回 Unit 7～Unit 12Writing Test *Unit 13, Unit 14, Unit 15の内容も適宜取り入れる。 *テキストとプリントを併用して授業をおこなう。		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク)、口頭発表		
授業外学習	予習：英文法の参考書・辞書等を使用し、各ユニットの指定された課題を行う。(0.5時間)		

	復習：各ユニットの指定された課題を行う。音声ファイルを利用し、音読練習をおこなう。(0.5 時間)
教科書	Alan Jackson and Hiroko Uchida. Ready for Takeoff! English for Study Abroad. Kinseido, 2020.
参考書	指定なし。適時、資料を配布。
評価方法	・授業への取り組み姿勢 40%（参加度、提出物、欠席課題等）(提出物、欠席課題は確認後フィードバックを行う) ・Speaking Test 40% ・Writing and Listening Test 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	121	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321315
教員名	Robert　Jolly		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 英語会話１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	第１回　Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people　(2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回　Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回　The future　(2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回　Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回　前期まとめ 第２回　人々形容 (1) 第３回　人々形容 (2)		

	第４回　家族　(1) 第５回 家族　(2) 第６回　好き嫌い　(1) 第７回　好き嫌い　(2) 第８回 中間試験 第９回　未来　(1) 第 10 回 未来　(2) 第 11 回 過去　(1) 第 12 回　過去　(2) 第 13 回　レストラン 第 14 回　後期まとめ 1 第 15 回　後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。自分の役割をきちんと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英：英和辞典（高校で使われるような辞書で十分です。）
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); In-class presentations (20%); Listening and Speaking tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度　30％ 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの　20％ プレゼンテーション　20％ 会話テスト　30％ ＊会話テストは第 7、8 週目頃と第 14、15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	122	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321318
教員名	Robert　Jolly		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 英語会話１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	第１回　Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people　(2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回　Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回　The future　(2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回　Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回　前期まとめ 第２回　人々形容 (1) 第３回　人々形容 (2)		

	第４回　家族　(1) 第５回 家族　(2) 第６回　好き嫌い　(1) 第７回　好き嫌い　(2) 第８回 中間試験 第９回　未来　(1) 第 10 回 未来　(2) 第 11 回 過去　(1) 第 12 回　過去　(2) 第 13 回　レストラン 第 14 回　後期まとめ 1 第 15 回　後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。自分の役割をきちんと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英：英和辞典（高校で使われるような辞書で十分です。）
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); In-class presentations (20%); Listening and Speaking tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度　30％ 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの　20％ プレゼンテーション　20％ 会話テスト　30％ ＊会話テストは第 7、8 週目頃と第 14、15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	123	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321323
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	124	科目コード	68003
科目名	コミュニケーション英語２	授業コード	9321331
教員名	Robert　Jolly		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. 英語会話１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	第１回　Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people　(2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回　Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回　The future　(2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回　Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回　前期まとめ 第２回　人々形容 (1) 第３回　人々形容 (2)		

	第４回　家族　(1) 第５回 家族　(2) 第６回　好き嫌い　(1) 第７回　好き嫌い　(2) 第８回 中間試験 第９回　未来　(1) 第 10 回 未来　(2) 第 11 回 過去　(1) 第 12 回　過去　(2) 第 13 回　レストラン 第 14 回　後期まとめ 1 第 15 回　後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。自分の役割をきちんと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英：英和辞典（高校で使われるような辞書で十分です。）
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); In-class presentations (20%); Listening and Speaking tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度　30％ 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの　20％ プレゼンテーション　20％ 会話テスト　30％ ＊会話テストは第 7、8 週目頃と第 14、15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	125	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326129
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	126	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326138
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	127	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326160
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	128	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326187
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	129	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326190
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students’ progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students’ interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	130	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326201
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	Class Objective: Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will also develop English skills relevant to their course of study and future career plans. (英語会話１から続き、「話す」 と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達させる。各コースでの学習 と将来の仕事に関係する英語力を身に着ける。)		
授業概要	Class Outline: This class will focus on communication, self-expression, and practical English usage. Students will practice listening to a variety of resources which may include music and films. Students will practice speaking by communicating with each other in English and by giving presentations. (この授 業はコミュニケーション、自己表現と実用英語を重視する。様々な材料、音楽や映画等を含 めて、英語の「聞く」練習を行う。話せるようになるために、他の学生と英語でコミュニケ ーションをする、それから英語で発表を行う。)		
授業計画	1. Introduction, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation 15. Final Review, Final Evaluation Note: I may make adjustments to this schedule depending on the needs of the class.		
授業方法	This class will have four main components- 1. Hip-Hop Music: We will use hip-hop music to practice intonation and fluency. 2. Movie: We will use scenes from a movie to develop listening and speaking skills. 3. Conversation: We will practice basic English conversation strategies. 4. Writing: Primarily for homework, we will practice communicative writing.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. Please be prepared to learn English in the same way that you would learn to play soccer, baseball, or any other physical sport: through practice, repetition, and physical motion. Active participation is absolutely essential in this class!		
授業外学習	Outside of class, you will need to practice speaking out loud, complete writing assignments, and review all of the class materials.		
教科書	No textbook required. I will provide handouts and other materials.		
参考書			
評価方法	Active Participation- 60% Homework and Writing- 20% Final Evaluation- 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。		

No.	131	科目コード	60090
科目名	英語会話２	授業コード	9326225
教員名	Lewis Powell		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023年度 後期
到達目標	Continuing from English Conversation 1, students will further improve their practical communicative English ability, with a focus on speaking and listening. Students will be able to understand simple conversations and messages in English and they will be able to express themselves in simple English and talk about various topics. They will enjoy communicating in English. コミュニケーション１から続き、「話す」と「聞く」英語の実用的なコミュニケーション能力をさらに上達する。簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には 英語が好きになり、英語で話すことが楽しくなる。		
授業概要	This course is a continuation of semester 1. The work will be adjusted to fit the level of the class taking account of students' progress from semester 1. The topics discussed will be mainly of students' interests so that they can take initiative. Class activities will focus on pair and group work to improve their confidence in the four skills, listening, speaking, reading and writing. They will review basic grammar and vocabulary. They will listen to CDs that feature variety of genres, including conversations, interviews and radio shows. At each topic they are encouraged to bring their own information, ideas and opinion into the class. They will review basic grammar and vocabulary that will be useful in their future careers. この授業は前期の続きなので、前期の授業の様子や、レベルに合わせて進めていく。大学生が興味を持てそうなトピックを取り上げて行くことによって、積極的に授業に参加できるようにする。話す、聞く、読む、書くといった四つのスキルに自信が持てるように、クラスルーム・アクティビティーはグループワークやペアワークで進めていく。また簡単なアクティビティーを通して基本的な文法や単語の復習をする。会話、インタビュー、トークショーなどの様々なジャンルから取り出した聴解もする。各トピックでは学生が簡単な英語を使って自分のアイデアや身の回りのことをクラスメートとシェアできるような機会を作る。将来の仕事に役立つような簡単な文法や語彙の教え方の指導も行う。		
授業計画	授業計画 第１回 Review 第２回 Describing people (1) 第３回 Describing people (2) 第４回 Family (1) 第５回 Family (2) 第６回 Likes and dislikes (1) 第７回 Likes and dislikes (2) 第８回 Mid-Term Exam 第９回 The future (1) 第10回 The future (2) 第11回 The past (1) 第12回 The past (2) 第13回 Restaurants 第14回 Review and Consolidation 1 第15回 Review and Consolidation 2, in-class test 第１回 前期まとめ		

	第 2 回 人々形容 (1) 第 3 回 人々形容(2) 第 4 回 家族 (1) 第 5 回 家族 (2) 第 6 回 好き嫌い (1) 第 7 回 好き嫌い (2) 第 8 回 中間試験 第 9 回 未来 (1) 第 10 回 未来 (2) 第 11 回 過去 (1) 第 12 回 過去 (2) 第 13 回 レストラン 第 14 回 後期まとめ 1 第 15 回 後期まとめ 2 および授業内テスト
授業方法	Students are expected to participate actively. They will study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. 積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク。基本的な文法を復習し、CD を聞く。 自分の役割をきち んと果たし、グループで発表などをする。
アクティブラーニングの視点	
授業外学習	Out of class students are expected to do short exercises from the textbook which cover grammar, reading, writing and vocabulary. From time to time they are asked to produce some written or oral work related to topics focused in the class. The textbook includes Online Practice that helps to improve vocabulary, grammar, speaking and listening skills. The students are expected to do these exercises at the end of each unit. Students will be asked to prepare at home for speaking test and presentation. ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	W. Wilson and R. Barnard, Fifty-Fifty Book One 3rd ed. student book only, Pearson Longman 2007
参考書	Students should bring a small Japanese-English-Japanese dictionary to the class. The kind of dictionary used in High School is adequate. 基礎和英:英和辞典(高校で使われるような辞書で十分です。)
評価方法	Students will be evaluated by: Participation (30%), Homework and written class work (20%); Speaking Tests (20%); Listening and Writing tests* (30%). *A mid-term and term-end listening & speaking test will be announced and conducted at around week 7-8 and week 14-15. 授業への参加度 30% 宿題や授業中書いたり読んだりしたもの 20% スピーキングテスト 20% 会話テスト 3 0% *会話テストは第 7~8 週目頃と第 14~15 週目頃に予告後、実施されます。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	132	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技 1	授業コード	9312409
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2. 個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3. 小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	133	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技１	授業コード	9312430
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 ２．個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 ３．幼稚園・小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。幼稚園・小学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス（授業方針、内容と評価方法、振り返りシート） 第２回　新体力テスト 第３回　リズム運動（個人） 第４回　リズム運動（グループ） 第５回　ボール遊び（小さいボール） 第６回　ボール遊び（大きいボール） 第７回　短縄遊び 第８回　長縄遊び　短縄評価 第９回　マット遊び 第 10 回　跳び箱遊び 第 11 回　鉄棒遊び 第 12 回　マット・跳び箱・鉄棒評価 第 13 回　走遊び 第 14 回　竹馬・棒遊び 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスした内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習：体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主体的に収集すること。 復習：授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。		

No.	134	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技１	授業コード	9312451
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる. ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる. ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる.		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動 を実践・指導することが求められる. そこで，本演習においては，体育授業の導入部分に焦点を当て，集団行動の基礎・応用，導 入エクササイズの基礎体操・応用体操に取り組むことで，実際の授業場面に活用できる指導 力，応用力の向上を目指す. また，グループワークにおいてコミュニケーションスキルとリーダーシップを高めること も本演習の目的とする.		
授業計画	第１回 ガイダンス(講義目的と評価法等) 第２回 導入エクササイズ１(基礎体操　実践) 第３回 導入エクササイズ２(基礎体操　グループワーク) 第４回 導入エクササイズ３(基礎体操　実演発表①) 第５回 導入エクササイズ４(基礎体操　実演発表②) 第６回 導入エクササイズ５(応用体操　実践) 第７回 導入エクササイズ６(応用体操　グループワーク) 第８回 導入エクササイズ７(応用体操　実演発表) 第９回 集団行動１(基礎行動) 第 10 回 集団行動２（基礎行動　グループワーク） 第 11 回 集団行動３（起訴集団行動発表） 第 12 回 集団行動４（応用行動） 第 13 回 集団行動５（応用行動　グループワーク） 第 14 回 集団行動６（応用集団行動発表） 第 15 回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習(実技)形式としてグループワーク，発表を行う.		
アクティブラーニングの視点	集団行動，導入エクササイズにおいてグループワークを行うことで独創的能力の向上を狙いとする。		
授業外学習	各課題(集団行動，導入エクササイズ)の発表をより充実した内容とするために各自，各グループの授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である.		
教科書	特に指定なし.必要に応じ，適宜資料を配布する.		
参考書	特に指定なし.		
評価方法	各課題(集団行動，導入エクササイズ)の完成度(60%)と授業への参加度(40%)で評価 する. 完成度は，独創性，表現力，指導力の観点から評価を行い.参加度は，積極性，コミ ュニケーション力，協調性の観点より評価する.		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導・生徒指導の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する。		

No.	135	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技 1	授業コード	9312462
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2. 個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3. 小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	136	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技１	授業コード	9312463
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる. ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる. ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる.		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動 を実践・指導することが求められる. そこで，本演習においては，体育授業の導入部分に焦点を当て，集団行動の基礎・応用，導 入エクササイズの基礎体操・応用体操に取り組むことで，実際の授業場面に活用できる指導 力，応用力の向上を目指す. また，グループワークにおいてコミュニケーションスキルとリーダーシップを高めること も本演習の目的とする.		
授業計画	第１回 ガイダンス(講義目的と評価法等) 第２回 導入エクササイズ１(基礎体操　実践) 第３回 導入エクササイズ２(基礎体操　グループワーク) 第４回 導入エクササイズ３(基礎体操　実演発表①) 第５回 導入エクササイズ４(基礎体操　実演発表②) 第６回 導入エクササイズ５(応用体操　実践) 第７回 導入エクササイズ６(応用体操　グループワーク) 第８回 導入エクササイズ７(応用体操　実演発表) 第９回 集団行動１(基礎行動) 第 10 回 集団行動２（基礎行動　グループワーク） 第 11 回 集団行動３（起訴集団行動発表） 第 12 回 集団行動４（応用行動） 第 13 回 集団行動５（応用行動　グループワーク） 第 14 回 集団行動６（応用集団行動発表） 第 15 回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習(実技)形式としてグループワーク，発表を行う.		
アクティブラーニングの視点	集団行動，導入エクササイズにおいてグループワークを行うことで独創的能力の向上を狙いとする。		
授業外学習	各課題(集団行動，導入エクササイズ)の発表をより充実した内容とするために各自，各グループの授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である.		
教科書	特に指定なし.必要に応じ，適宜資料を配布する.		
参考書	特に指定なし.		
評価方法	各課題(集団行動，導入エクササイズ)の完成度(60%)と授業への参加度(40%)で評価 する. 完成度は，独創性，表現力，指導力の観点から評価を行い.参加度は，積極性，コミ ュニケーション力，協調性の観点より評価する.		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導・生徒指導の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する。		

No.	137	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技 1	授業コード	9312464
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2. 個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3. 小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	138	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技 1	授業コード	9312465
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2. 個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3. 小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	139	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技１	授業コード	9312474
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる． ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる． ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる．		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動を実践・指導することが求められる． そこで，本演習においては，体育授業の導入部分に焦点を当て，集団行動の基礎・応用，導入エクササイズの基礎体操・応用体操に取り組むことで，実際の授業場面に活用できる指導力，応用力の向上を目指す．また，グループワークにおいてコミュニケーションスキルとリーダーシップを高めることも本演習の目的とする．		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価法等） 第２回　導入エクササイズ１（基礎体操　実践） 第３回　導入エクササイズ２（基礎体操　グループワーク） 第４回　導入エクササイズ３（基礎体操　実演発表①） 第５回　導入エクササイズ４（基礎体操　実演発表②） 第６回　導入エクササイズ５（応用体操　実践） 第７回　導入エクササイズ５（応用体操　グループワーク） 第８回　導入エクササイズ５（応用体操　実演発表） 第９回　集団行動１（基礎行動） 第 10 回　集団行動２（基礎行動　グループワーク） 第 11 回　集団行動３（基礎集団行動発表） 第 12 回　集団行動４（応用行動） 第 13 回　集団行動５（応用行動　グループワーク） 第 14 回　集団駆動６（応用集団行動発表） 第 15 回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習（実技）形式としてグループワーク，発表を行う．		
アクティブラーニングの視点	集団行動，導入エクササイズにおいてグループワークを行うことで独創的能力の向上を狙いとする．		
授業外学習	各課題（集団行動，導入エクササイズ）の発表をより充実した内容とするために各自，各グループの授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である．		
教科書	特に指定なし．必要に応じ，適宜資料を配布する．		
参考書	特に指定なし．		
評価方法	各課題（集団行動，導入エクササイズ）の完成度（60%）と授業への参加度（40%）で評価する．完成度は，独創性，表現力，指導力の観点から評価を行い．参加度は，積極性，コミュニケーション力，協調性の観点より評価する．		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導，生徒指導等の経験　、大阪府の指導教諭としての教員育成の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する．		

No.	140	科目コード	68004
科目名	スポーツ実技１	授業コード	9312477
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる． ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる． ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる．		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動を実践・指導することが求められる． そこで，本演習においては，体育授業の導入部分に焦点を当て，集団行動の基礎・応用，導入エクササイズの基礎体操・応用体操に取り組むことで，実際の授業場面に活用できる指導力，応用力の向上を目指す．また，グループワークにおいてコミュニケーションスキルとリーダーシップを高めることも本演習の目的とする．		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価法等） 第２回　導入エクササイズ１（基礎体操　実践） 第３回　導入エクササイズ２（基礎体操　グループワーク） 第４回　導入エクササイズ３（基礎体操　実演発表①） 第５回　導入エクササイズ４（基礎体操　実演発表②） 第６回　導入エクササイズ５（応用体操　実践） 第７回　導入エクササイズ５（応用体操　グループワーク） 第８回　導入エクササイズ５（応用体操　実演発表） 第９回　集団行動１（基礎行動） 第 10 回　集団行動２（基礎行動　グループワーク） 第 11 回　集団行動３（基礎集団行動発表） 第 12 回　集団行動４（応用行動） 第 13 回　集団行動５（応用行動　グループワーク） 第 14 回　集団駆動６（応用集団行動発表） 第 15 回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習（実技）形式としてグループワーク，発表を行う．		
アクティブラーニングの視点	集団行動，導入エクササイズにおいてグループワークを行うことで独創的能力の向上を狙いとする．		
授業外学習	各課題（集団行動，導入エクササイズ）の発表をより充実した内容とするために各自，各グループの授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である．		
教科書	特に指定なし．必要に応じ，適宜資料を配布する．		
参考書	特に指定なし．		
評価方法	各課題（集団行動，導入エクササイズ）の完成度（60%）と授業への参加度（40%）で評価する．完成度は，独創性，表現力，指導力の観点から評価を行い．参加度は，積極性，コミュニケーション力，協調性の観点より評価する．		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導，生徒指導等の経験　、大阪府の指導教諭としての教員育成の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する．		

No.	141	科目コード	60100
科目名	体育実技 1	授業コード	9318419
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	142	科目コード	60100
科目名	体育実技 1	授業コード	9318440
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	143	科目コード	60100
科目名	体育実技 1	授業コード	9318461
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めること を目的とする。		
授業計画	第 1 回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第 2 回 ゴール型 1(ボール操作の基本練習) 第 3 回 ゴール型 2(ルール学習とゲーム) 第 4 回 ゴール型 3(ゲームと評価) 第 5 回 ベースボール型 1(ボール操作の基本練習) 第 6 回 ベースボール型 2(ルール学習とゲーム) 第 7 回 ベースボール型 3(ゲームと評価) 第 8 回 ネット型 1(ボール操作の基本練習) 第 9 回 ネット型 2(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型 3(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス 1(基本のステップ) 第 12 回 ダンス 2(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス 3(即興・創作) 第 14 回 ダンス 4(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	144	科目コード	60100
科目名	体育実技１	授業コード	9318472
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 ２．個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 ３．幼稚園・小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。幼稚園・小学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス（授業方針、内容と評価方法、振り返りシート） 第２回　新体力テスト 第３回　リズム運動（個人） 第４回　リズム運動（グループ） 第５回　ボール遊び（小さいボール） 第６回　ボール遊び（大きいボール） 第７回　短縄遊び 第８回　長縄遊び　短縄評価 第９回　マット遊び 第 10 回　跳び箱遊び 第 11 回　鉄棒遊び 第 12 回　マット・跳び箱・鉄棒評価 第 13 回　走遊び 第 14 回　竹馬・棒遊び 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスした内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習：体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主体的に収集すること。 復習：授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。		

No.	145	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321585
教員名	乾　　匡		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 ２．個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 ３．幼稚園小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。幼稚園・小学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション（授業の方針、内容と評価方法、その他） 第　2回　ラジオ体操第２評価、運動会の種目考案 第　3回　運動会の種目考案、集団行動 第　4回　フォークダンス、集団行動　①（姿勢、整列、方向転換） 第　5回　フォークダンス、集団行動　②（列の増減、歩行進、号令） 第　6回　陸上競技　①（トラックの作成方法、走の基本、、姿勢）、集団行動評価 第　7回　陸上競技　②（ハードル走、バトンパス、リレー） 第　8回　陸上競技　③（ハードル走と評価） 第　9回　バレーボール　①（パス、サーブ、レセプション） 第 10 回　バレーボール　②（トス、アタック、ルール学習） 第 11 回　バレーボール　③（ゲームと評価） 第 12 回　バドミントン　①（サーブ、ストローク） 第 13 回　バドミントン　②（ルール学習、ゲーム） 第 14 回　バドミントン　③（ゲームと評価） 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスした内容を記録して提出する。		
授業外学習	①授業内容にあった課題を出すので、レポートを提出する。 ※　ラジオ体操の図解、運動会の種目考案など		
教科書	なし、適宜資料を配布する。		
参考書	中学校体育実技書「ワンダフルスポーツ」　新学社		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物１０%、体力づくり実践状況１０%とする。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。		

No.	146	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321606
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	147	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321627
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる. ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる. ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる.		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動 を実践・指導することが求められる. そこで，本演習においては，体育授業の導入部分に焦点を当て，集団行動の基礎・応用，導 入エクササイズの基礎体操・応用体操に取り組むことで，実際の授業場面に活用できる指導 力，応用力の向上を目指す. また，グループワークにおいてコミュニケーションスキルとリーダーシップを高めること も本演習の目的とする.		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価方法等） 第２回　スポーツテスト１（測定） 第３回　スポーツテスト２（測定結果の評価と分析） 第４回　導入エクササイズ１（基礎体操　実演発表） 第５回　指導実践　導入 第６回　指導実践　解説・教授法 第７回　実技実践①　グラウンド球技・指導内容　教授法 第８回　実技実践②　グラウンド球技・指導内容　教授法 第９回　実技実践③　体育館球技・指導内容　教授法 第１０回　実技実践④ 体育館球技・指導内容　教授法 第１１回　実技実践⑤ ダンス・指導内容　教授法 第１２回　実技実践⑥ ダンス・指導内容　教授法 第１３回　実技実践⑦ テニス・指導内容　教授法 第１４回　実技実践⑧ バドミントン・指導内容　教授法 第１５回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習(実技)形式としてグループワーク，実践指導も行う.		
アクティブラーニングの視点	様々な競技の指導内容、教授法についてグループワークを行うことで指導力向上を狙いとする。		
授業外学習	実践指導をより充実した内容とするため、授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である.		
教科書	特に指定なし.必要に応じ，適宜資料を配布する.		
参考書	特に指定なし.		
評価方法	実践指導(60%)と授業への参加度(40%)で評価 する. 実践指導は、コミュニケーション指導力、独創性、表現力の観点から評価を行い、参加度は、積極性、コミュニケーション力、協調性の観点より評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導・生徒指導の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する。		

No.	148	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321638
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	149	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321651
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	150	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321652
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる. ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる. ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる.		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動 を実践・指導することが求められる. そこで，本演習においては，体育授業の導入部分に焦点を当て，集団行動の基礎・応用，導 入エクササイズの基礎体操・応用体操に取り組むことで，実際の授業場面に活用できる指導 力，応用力の向上を目指す. また，グループワークにおいてコミュニケーションスキルとリーダーシップを高めること も本演習の目的とする.		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価方法等） 第２回　スポーツテスト１（測定） 第３回　スポーツテスト２（測定結果の評価と分析） 第４回　導入エクササイズ１（基礎体操　実演発表） 第５回　指導実践　導入 第６回　指導実践　解説・教授法 第７回　実技実践①　グラウンド球技・指導内容　教授法 第８回　実技実践②　グラウンド球技・指導内容　教授法 第９回　実技実践③　体育館球技・指導内容　教授法 第１０回　実技実践④ 体育館球技・指導内容　教授法 第１１回　実技実践⑤ ダンス・指導内容　教授法 第１２回　実技実践⑥ ダンス・指導内容　教授法 第１３回　実技実践⑦ テニス・指導内容　教授法 第１４回　実技実践⑧ バドミントン・指導内容　教授法 第１５回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習(実技)形式としてグループワーク，実践指導も行う.		
アクティブラーニングの視点	様々な競技の指導内容、教授法についてグループワークを行うことで指導力向上を狙いとする。		
授業外学習	実践指導をより充実した内容とするため、授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である.		
教科書	特に指定なし.必要に応じ，適宜資料を配布する.		
参考書	特に指定なし.		
評価方法	実践指導(60%)と授業への参加度(40%)で評価 する. 実践指導は、コミュニケーション指導力、独創性、表現力の観点から評価を行い、参加度は、積極性、コミュニケーション力、協調性の観点より評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導・生徒指導の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する。		

No.	151	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321653
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる． ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる． ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる．		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動を実践・指導することが求められる． そこで，本演習においては，体育授業の指導法に焦点を当て，実践を通じて課題を発見し，その課題の解決策と教授法について探求する．この過程より実際の授業場面に活用できる指導力の向上を目指す． また，実践指導においては，模擬授業に繋げるための基礎スキルを養うことを目的とする．		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価法等） 第２回　スポーツテスト１（測定） 第３回　スポーツテスト２（測定結果の評価と分析） 第４回　導入エクササイズ１（基礎体操　実演発表 第５回　指導実践　導入 第６回　指導実践　解説・教授法 第７回　実技実践①　グラウンド球技・指導内容　教授法 第８回　実技実践②　グラウンド球技・指導内容　教授法 第９回　実技実践③　体育館球技・指導内容　教授法 第 10 回　実技実践④　体育館球技・指導内容　教授法 第 11 回　実技実践⑤　ダンス・指導内容　教授法 第 12 回　実技実践⑥　ダンス・指導内容　教授法授法 第 13 回　実技実践⑦　テニス・教授法　教授法 第 14 回　実技実践⑧　バドミントン・教授法　教授法 第 15 回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習（実技）形式としてグループワーク，実践指導も行う．		
アクティブラーニングの視点	様々な競技の指導内容，教授法についてグループワークを行うことで指導力向上を狙いとする．		
授業外学習	様々な競技の指導内容，教授法についてグループワークを行うことで指導力向上を狙いとする．		
教科書	実践指導をより充実した内容とするため，授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である．		
参考書			
評価方法	実践指導（60%）と授業への参加度（40%）で評価する．実践指導は，コミュニケーション指導力，独創性，表現力の観点から評価を行い．参加度は，積極性，コミュニケーション力，協調性の観点より評価する．		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導，生徒指導等の経験　、大阪府の指導教諭としての教員育成の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する．		

No.	152	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321654
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・保健体育科教員としての資質を高めることができる． ・体育指導スキルに関する能力を習得することができる． ・体育科教育の指導実践場面における適切な対応力を身につけることができる．		
授業概要	中学・高等学校の体育教員の求められる能力として，集団に対して安全に且つ，適切な運動を実践・指導することが求められる． そこで，本演習においては，体育授業の指導法に焦点を当て，実践を通じて課題を発見し，その課題の解決策と教授法について探求する．この過程より実際の授業場面に活用できる指導力の向上を目指す． また，実践指導においては，模擬授業に繋げるための基礎スキルを養うことを目的とする．		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価法等） 第２回　スポーツテスト１（測定） 第３回　スポーツテスト２（測定結果の評価と分析） 第４回　導入エクササイズ１（基礎体操　実演発表 第５回　指導実践　導入 第６回　指導実践　解説・教授法 第７回　実技実践①　グラウンド球技・指導内容　教授法 第８回　実技実践②　グラウンド球技・指導内容　教授法 第９回　実技実践③　体育館球技・指導内容　教授法 第 10 回　実技実践④　体育館球技・指導内容　教授法 第 11 回　実技実践⑤　ダンス・指導内容　教授法 第 12 回　実技実践⑥　ダンス・指導内容　教授法授法 第 13 回　実技実践⑦　テニス・教授法　教授法 第 14 回　実技実践⑧　バドミントン・教授法　教授法 第 15 回　総括（リフレクション・まとめ）		
授業方法	演習（実技）形式としてグループワーク，実践指導も行う．		
アクティブラーニングの視点	様々な競技の指導内容，教授法についてグループワークを行うことで指導力向上を狙いとする．		
授業外学習	様々な競技の指導内容，教授法についてグループワークを行うことで指導力向上を狙いとする．		
教科書	実践指導をより充実した内容とするため，授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である．		
参考書			
評価方法	実践指導（60%）と授業への参加度（40%）で評価する．実践指導は，コミュニケーション指導力，独創性，表現力の観点から評価を行い．参加度は，積極性，コミュニケーション力，協調性の観点より評価する．		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での保健体育科教員としての教科指導，生徒指導等の経験　、大阪府の指導教諭としての教員育成の経験を活かして、体育科教育の指導実践について指導する．		

No.	153	科目コード	68005
科目名	スポーツ実技２	授業コード	9321658
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	154	科目コード	60110
科目名	体育実技２	授業コード	9326595
教員名	乾　　匡		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 ２．個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 ３．幼稚園小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。幼稚園・小学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション（授業の方針、内容と評価方法、その他） 第　2回　ラジオ体操第２評価、運動会の種目考案 第　3回　運動会の種目考案、集団行動 第　4回　フォークダンス、集団行動　①（姿勢、整列、方向転換） 第　5回　フォークダンス、集団行動　②（列の増減、歩行進、号令） 第　6回　陸上競技　①（トラックの作成方法、走の基本、、姿勢）、集団行動評価 第　7回　陸上競技　②（ハードル走、バトンパス、リレー） 第　8回　陸上競技　③（ハードル走と評価） 第　9回　バレーボール　①（パス、サーブ、レセプション） 第 10 回　バレーボール　②（トス、アタック、ルール学習） 第 11 回　バレーボール　③（ゲームと評価） 第 12 回　バドミントン　①（サーブ、ストローク） 第 13 回　バドミントン　②（ルール学習、ゲーム） 第 14 回　バドミントン　③（ゲームと評価） 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスした内容を記録して提出する。		
授業外学習	①授業内容にあった課題を出すので、レポートを提出する。 ※　ラジオ体操の図解、運動会の種目考案など		
教科書	なし、適宜資料を配布する。		
参考書	中学校体育実技書「ワンダフルスポーツ」　新学社		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物１０%、体力づくり実践状況１０%とする。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。		

No.	155	科目コード	60110
科目名	体育実技２	授業コード	9326608
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	156	科目コード	60110
科目名	体育実技２	授業コード	9326661
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	157	科目コード	60110
科目名	体育実技２	授業コード	9326662
教員名	鈴木　慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.各運動種目の基本技術の習得とルールを理解することができる。 2.個人や集団とのコミュニケーションをとる能力を習得することができる。 3.小学校での体育指導法につながる技能を習得することができる。		
授業概要	体育とは子供たちの健全な身体と精神を育むために行う活動であり、「人として生き生きと 楽しく健康に生きること」を目的として、様々な身体活動を行うことと考えられる。小学校・ 中学校で行われる各種目の基本の実技を通じ、健康管理能力及び運動指導力を高めることを目的とする。		
授業計画	第１回 ガイダンス(授業のすすめ方、内容と評価方法、振り返りシート) 第２回 ゴール型１(ボール操作の基本練習) 第３回 ゴール型２(ルール学習とゲーム) 第４回 ゴール型３(ゲームと評価) 第５回 ベースボール型１(ボール操作の基本練習) 第６回 ベースボール型２(ルール学習とゲーム) 第７回 ベースボール型３(ゲームと評価) 第８回 ネット型１(ボール操作の基本練習) 第９回 ネット型２(ルール学習とゲーム) 第 10 回 ネット型３(ゲームと評価) 第 11 回 ダンス１(基本のステップ) 第 12 回 ダンス２(コミュニケーションを高める動き) 第 13 回 ダンス３(即興・創作) 第 14 回 ダンス４(発表と評価) 第 15 回 まとめ		
授業方法	実技指導を中心に行うが、種目の特性やルールは随時配布プリントで学習する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペアワーク、振り返りシート作成) 毎時間の授業で理解できたこと、実技でペア学習者の観察をしてできたこと、アドバイスし た内容を記録して提出する。		
授業外学習	予習:体の柔軟性を高めるために、各自でストレッチを行うこと。各種目に関する資料を主 体的に収集すること。 復習:授業で学習・体験した内容を各自で整理してまとめること。		
教科書	適宜、紹介する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、各種目の技術習得度 50%、提出物 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	158	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312770
教員名	広瀬　勝則		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	１．ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 ２．大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 ３．プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 ４．文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 ５．表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 ６．学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 ７．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 ８．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 ９．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 10．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 11．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 12．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 13．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 14．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 15．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019 対応』実教出版株式会社　定価 682 円(税込)		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。		

No.	159	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312791
教員名	広瀬　勝則		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	１．ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 ２．大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 ３．プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 ４．文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 ５．表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 ６．学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 ７．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 ８．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 ９．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 10．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 11．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 12．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 13．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 14．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 15．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019 対応』実教出版株式会社　定価 682 円(税込)		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。		

No.	160	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312812
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	161	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312833
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	162	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312834
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	163	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312900
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	164	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312901
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析して，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での実務経験を有する教員がその経験を活かして，学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	165	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312910
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	166	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312921
教員名	広瀬　勝則		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	１．ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 ２．大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 ３．プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 ４．文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 ５．表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 ６．学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 ７．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 ８．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 ９．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 10．Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 11．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 12．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 13．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 14．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 15．Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019 対応』実教出版株式会社　定価 682 円(税込)		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。		

No.	167	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312924
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	168	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312932
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	169	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312942
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	170	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312943
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	171	科目コード	68006
科目名	情報リテラシー１	授業コード	9312945
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトの基本的な仕組みを理解する。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 学習の見通しをもちながら資料を作成するとともに，PC をどのように活用すればより良い資料を作成することができるのかを振り返る。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技能の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった､総合的な情報リテラシーの獲得を目指す｡授業内容は次第に難しくなっていくので、毎回出席することが重要となってくる。初心者を想定した授業になるが、上級者向けの別課題も用意する予定である。		
授業計画	第１回　ガイダンス：本講座の目標と学校現場の教育の情報化 第２回　大学生活で必要となるソフトの基本的な仕組みと操作 第３回　プレゼンテーションソフト PowerPoint：プレゼンテーションに向けた PowerPoint の操作や諸機能の理解 第４回　文書作成ソフト Word：レポート作成に向けた Word の操作や諸機能の理解 第５回　表計算ソフト Excel：データ活用に向けた Excel の操作や諸機能の理解 第６回　学習支援ソフト：ロイロノートの操作や諸機能の理解 第７回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等に向けての情報を収集するとともに，個人情報の取り扱いについて理解する。 第８回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を作成する。 第９回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：学校・学級通信等を完成させる。 第 10 回　Word，Excel を活用した学校・学級通信等の作成：完成した学校・学級通信等を交流する。 第 11 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成するという課題をもち，情報を収集する。 第 12 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する上で集めた情報を整理する。 第 13 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 14 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を作成する。 第 15 回　Powerpoint を活用した解説動画の作成：ロイロノートの解説動画を共有する。情報リテラシー１のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習、自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	172	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321055
教員名	広瀬　勝則		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	１．アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 ２．アンケート調査とデータ活用： アンケートを作成する。 ３．アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 ４．アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 ５．アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 ６．アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 ７．アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 ８．動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 ９．動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 10．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 11．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 12．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 13．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 14．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 15．情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019 対応』実教出版株式会社　定価 682 円(税込)		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。		

No.	173	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321076
教員名	広瀬　勝則		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	１．アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 ２．アンケート調査とデータ活用： アンケートを作成する。 ３．アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 ４．アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 ５．アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 ６．アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 ７．アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 ８．動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 ９．動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 10．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 11．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 12．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 13．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 14．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 15．情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019 対応』実教出版株式会社　定価 682 円(税込)		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。		

No.	174	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321097
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	175	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321107
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) 実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 (2) コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 (3) 収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	176	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321118
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	177	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321128
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	178	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321185
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での実務経験を有する教員がその経験を活かして，学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	179	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321206
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	180	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321226
教員名	広瀬　勝則		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	１．アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 ２．アンケート調査とデータ活用： アンケートを作成する。 ３．アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 ４．アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 ５．アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 ６．アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 ７．アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 ８．動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 ９．動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 10．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 11．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 12．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 13．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 14．動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 15．情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2019 対応』実教出版株式会社　定価 682 円(税込)		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。		

No.	181	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321227
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	182	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321231
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	183	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321236
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	184	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321237
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	185	科目コード	68007
科目名	情報リテラシー２	授業コード	9321241
教員名	住山　晋一		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし。		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大学の情報演習科目を担当していた者が、その経験を活かして、コンピューターの操作やインターネットの利用スキルについて指導する。		

No.	186	科目コード	60130
科目名	情報演習２	授業コード	9326091
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	187	科目コード	60130
科目名	情報演習２	授業コード	9326098
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	188	科目コード	60130
科目名	情報演習２	授業コード	9326099
教員名	科 瑶		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	189	科目コード	60130
科目名	情報演習２	授業コード	9326108
教員名	浦田　陽子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析し，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	なし		
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校の情報リテラシー演習や企業研修経験がある教員が、その経験を活かして、コンピューターの操作や学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	190	科目コード	60130
科目名	情報演習２	授業コード	9326186
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	（1）実習を通じて、コンピュータやソフトを効果的に活用することができる。 （2）コンピュータを活用して，主体的に情報を収集し，整理・分析して，表現することができる。 （3）収集した情報をもとに新たな価値を創造し，適切に発信・共有することができる。		
授業概要	一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得をしていく。それと同時に、操作の仕組みや背景を理解するといった総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。また，目的に応じて適切なアプリケーションを選択し，効果的に活用することができるようになる。		
授業計画	第１回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査の基礎知識，質問の作り方，選択肢の作り方について理解する。 第２回　　アンケート調査とデータ活用：　アンケートを作成する。 第３回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート調査を実施する。 第４回　　アンケート調査とデータ活用：アンケートによる回答結果を分析（量的分析，質的分析）し，回答者の傾向を知る。 第５回　　アンケート調査とデータ活用：調査結果を交流し，レポートの内容を構造化する。 第６回　　アンケート調査とデータ活用：アンケート結果を根拠に　レポートを執筆する。 第７回　　アンケート調査とデータ活用：レポートを読み合い，データを基にした文章の書き方について知る。 第８回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：桃山学院教育大学のアピール動画を作成するに当たりアピール動画の作成について調べる。 第９回　　動画編集ソフトを活用した動画づくり：著作権，肖像権，個人情報の取り扱い。 第 10 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画作成のための情報を収集する。 第 11 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 12 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を編集する。 第 13 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を完成させる。 第 14 回　動画編集ソフトを活用した動画づくり：アピール動画を共有し，視聴し合う。 第 15 回　情報リテラシー２のまとめ		
授業方法	個人での演習，グループでの演習，課題解決に向けた探究的な学習		
アクティブラーニングの視点	演習、探究的学習，自己調整的学習，協働学習（ペア若しくはグループワークでの作品制作）をおこなう。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書			
評価方法	授業で作成した作品及びレポート６０％，授業の参加度と授業態度４０％の割合で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での実務経験を有する教員がその経験を活かして，学校教育における情報リテラシーについて指導する。		

No.	191	科目コード	68008
科目名	現代政治と経済	授業コード	9313314
教員名	吉井　武史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。		
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。		
授業計画	１　法と憲法 ２　大日本帝国憲法 ３　日本国憲法の制定 ４　内閣 ５　国会 ６　裁判所 ７　地方自治 ８　防衛問題 ９　日本の領土問題 10　アメリカ合衆国の政治 11　ヨーロッパ主要国の政治 12　国際連合 13　EU 14　経済学の歴史 15　第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。		
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。		
教科書	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 70%、小テスト 30%。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	192	科目コード	68008
科目名	現代政治と経済	授業コード	9322315
教員名	吉井　武史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。		
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。		
授業計画	１　法と憲法 ２　大日本帝国憲法 ３　日本国憲法の制定 ４　内閣 ５　国会 ６　裁判所 ７　地方自治 ８　防衛問題 ９　日本の領土問題 10　アメリカ合衆国の政治 11　ヨーロッパ主要国の政治 12　国際連合 13　EU 14　経済学の歴史 15　第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。		
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。		
教科書	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 70%、小テスト 30%。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	193	科目コード	45210
科目名	現代政治理解	授業コード	9318313
教員名	吉井　武史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。		
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。		
授業計画	１　法と憲法 ２　大日本帝国憲法 ３　日本国憲法の制定 ４　内閣 ５　国会 ６　裁判所 ７　地方自治 ８　防衛問題 ９　日本の領土問題 10　アメリカ合衆国の政治 11　ヨーロッパ主要国の政治 12　国際連合 13　EU 14　経済学の歴史 15　第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。		
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。		
教科書	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 70%、小テスト 30%。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	194	科目コード	45210
科目名	現代政治理解	授業コード	9326316
教員名	吉井　武史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。		
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。		
授業計画	１　法と憲法 ２　大日本帝国憲法 ３　日本国憲法の制定 ４　内閣 ５　国会 ６　裁判所 ７　地方自治 ８　防衛問題 ９　日本の領土問題 10　アメリカ合衆国の政治 11　ヨーロッパ主要国の政治 12　国際連合 13　EU 14　経済学の歴史 15　第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。		
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。		
教科書	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 70%、小テスト 30%。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	195	科目コード	68009
科目名	現代社会と科学技術	授業コード	9313555
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。 くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。 ①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。 ②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。 ③収集した情報・知見をもとに、(他者と協働して) 自らの意見をまとめ主張することができる。		
授業概要	本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。 社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、(クローン技術のように) 科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいのかが問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。 この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。 また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術 (IT) を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。 本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション「科学と社会　科学的知識だけで社会問題は解決するか」 第 2 回　論理的なディスカッションーディベートの手法 第 3 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (1) 第 4 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (2) 第 5 回　情報の検索の仕方を理解する (1) インターネットを用いた情報検索 第 6 回　情報の検索の仕方を理解する (2) 図書館を用いた情報検索 第 7 回　情報の検索の仕方を理解する (3) 文献の参照と引用 第 8 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (1) 第 9 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (2) 第 10 回　論理を構築する (1) 論理的な考え方をする 第 11 回　論理を構築する (2) 主張を文章化する 第 12 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (1) 第 13 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (2) 第 14 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (3) 第 15 回　社会の中の科学　自己の学びとの関連		
授業方法	本科目では、科学技術に関する基本的な知識および情報活用に関する手法について講義を行うとともに、科学技術に関わる具体的なテーマについて、学んだ手法を活用しながらディベートを繰り返すことを通じて、学術的な議論に関するリテラシーを身につける。		
アクティブラーニングの視点	情報活用に関する講義では、実際に自らの手を動かして情報検索・収集を体験することにより、主体的に技能を習得する。 ディベート活動の中では、準備段階でグループワークを通じて、他の学生と意見交換し、対立するグループの反論も想定しながら主張を組み立てるとともに、本番のディベート時には対立グループへの具体的反論を行うとともに、他のグループのディベートを傍聴し、双方の意見を踏まえて判定を下す。		
授業外学習	授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。 あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。		
教科書	授業内で適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて適宜指示する。		

評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度（遠隔授業時の課題提出を含む）60%、期末レポート 40%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	196	科目コード	68009
科目名	現代社会と科学技術	授業コード	9322558
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。 くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。 ①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。 ②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。 ③収集した情報・知見をもとに、(他者と協働して) 自らの意見をまとめ主張することができる。		
授業概要	本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。 社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、(クローン技術のように) 科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいのかが問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。 この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。 また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術 (IT) を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。 本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション「科学と社会　科学的知識だけで社会問題は解決するか」 第 2 回　論理的なディスカッションーディベートの手法 第 3 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (1) 第 4 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (2) 第 5 回　情報の検索の仕方を理解する (1) インターネットを用いた情報検索 第 6 回　情報の検索の仕方を理解する (2) 図書館を用いた情報検索 第 7 回　情報の検索の仕方を理解する (3) 文献の参照と引用 第 8 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (1) 第 9 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (2) 第 10 回　論理を構築する (1) 論理的な考え方をする 第 11 回　論理を構築する (2) 主張を文章化する 第 12 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (1) 第 13 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (2) 第 14 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (3) 第 15 回　社会の中の科学　自己の学びとの関連		
授業方法	本科目では、科学技術に関する基本的な知識および情報活用に関する手法について講義を行うとともに、科学技術に関わる具体的なテーマについて、学んだ手法を活用しながらディベートを繰り返すことを通じて、学術的な議論に関するリテラシーを身につける。		
アクティブラーニングの視点	情報活用に関する講義では、実際に自らの手を動かして情報検索・収集を体験することにより、主体的に技能を習得する。 ディベート活動の中では、準備段階でグループワークを通じて、他の学生と意見交換し、対立するグループの反論も想定しながら主張を組み立てるとともに、本番のディベート時には対立グループへの具体的反論を行うとともに、他のグループのディベートを傍聴し、双方の意見を踏まえて判定を下す。		
授業外学習	授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。 あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。		
教科書	授業内で適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて適宜指示する。		

評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度（遠隔授業時の課題提出を含む）60%、期末レポート 40%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	197	科目コード	45230
科目名	現代社会理解	授業コード	9318556
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。 くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。 ①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。 ②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。 ③収集した情報・知見をもとに、(他者と協働して) 自らの意見をまとめ主張することができる。		
授業概要	本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。 社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、(クローン技術のように) 科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいのかが問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。 この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。 また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術 (IT) を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。 本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション「科学と社会　科学的知識だけで社会問題は解決するか」 第 2 回　論理的なディスカッションーディベートの手法 第 3 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (1) 第 4 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (2) 第 5 回　情報の検索の仕方を理解する (1) インターネットを用いた情報検索 第 6 回　情報の検索の仕方を理解する (2) 図書館を用いた情報検索 第 7 回　情報の検索の仕方を理解する (3) 文献の参照と引用 第 8 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (1) 第 9 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (2) 第 10 回　論理を構築する (1) 論理的な考え方をする 第 11 回　論理を構築する (2) 主張を文章化する 第 12 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (1) 第 13 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (2) 第 14 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (3) 第 15 回　社会の中の科学　自己の学びとの関連		
授業方法	本科目では、科学技術に関する基本的な知識および情報活用に関する手法について講義を行うとともに、科学技術に関わる具体的なテーマについて、学んだ手法を活用しながらディベートを繰り返すことを通じて、学術的な議論に関するリテラシーを身につける。		
アクティブラーニングの視点	情報活用に関する講義では、実際に自らの手を動かして情報検索・収集を体験することにより、主体的に技能を習得する。 ディベート活動の中では、準備段階でグループワークを通じて、他の学生と意見交換し、対立するグループの反論も想定しながら主張を組み立てるとともに、本番のディベート時には対立グループへの具体的反論を行うとともに、他のグループのディベートを傍聴し、双方の意見を踏まえて判定を下す。		
授業外学習	授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。 あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。		
教科書	授業内で適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて適宜指示する。		

評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度（遠隔授業時の課題提出を含む）60%、期末レポート 40%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	198	科目コード	45230
科目名	現代社会理解	授業コード	9326559
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。 くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。 ①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。 ②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。 ③収集した情報・知見をもとに、(他者と協働して) 自らの意見をまとめ主張することができる。		
授業概要	本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。 社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、(クローン技術のように) 科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいのかが問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。 この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。 また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術 (IT) を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。 本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション「科学と社会　科学的知識だけで社会問題は解決するか」 第 2 回　論理的なディスカッションーディベートの手法 第 3 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (1) 第 4 回　AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか (2) 第 5 回　情報の検索の仕方を理解する (1) インターネットを用いた情報検索 第 6 回　情報の検索の仕方を理解する (2) 図書館を用いた情報検索 第 7 回　情報の検索の仕方を理解する (3) 文献の参照と引用 第 8 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (1) 第 9 回　宇宙開発と関連技術　宇宙進出の意義と社会的課題 (2) 第 10 回　論理を構築する (1) 論理的な考え方をする 第 11 回　論理を構築する (2) 主張を文章化する 第 12 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (1) 第 13 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (2) 第 14 回　環境問題とエネルギー　持続可能な開発とは何か (3) 第 15 回　社会の中の科学　自己の学びとの関連		
授業方法	本科目では、科学技術に関する基本的な知識および情報活用に関する手法について講義を行うとともに、科学技術に関わる具体的なテーマについて、学んだ手法を活用しながらディベートを繰り返すことを通じて、学術的な議論に関するリテラシーを身につける。		
アクティブラーニングの視点	情報活用に関する講義では、実際に自らの手を動かして情報検索・収集を体験することにより、主体的に技能を習得する。 ディベート活動の中では、準備段階でグループワークを通じて、他の学生と意見交換し、対立するグループの反論も想定しながら主張を組み立てるとともに、本番のディベート時には対立グループへの具体的反論を行うとともに、他のグループのディベートを傍聴し、双方の意見を踏まえて判定を下す。		
授業外学習	授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。 あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。		
教科書	授業内で適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて適宜指示する。		

評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度（遠隔授業時の課題提出を含む）60%、期末レポート 40%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	199	科目コード	68010
科目名	現代メディアとジャーナリズム	授業コード	9313022
教員名	宮坂　政宏		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	今日のジャーナリズムとは何か、様々なメディア・マスコミの現状、課題を通して学ぶ。 同時にジャーナリズムの担い手であるジャーナリストが備えている諸手法への理解と初歩的な技能を理解し、将来、教員・社会人にも求められている高度で複雑な情報化社会での情報の主体的な受け手（情報の価値理解)、良識ある批判者（客観的分析者)、活用者（表現・発信を通し社会＝我々の世界の課題解決を図る）となる実践的素養の基礎を身に着ける。(主としてディプロマポリシー１－3、カリキュラムポリシー２に対応)		
授業概要	前半の講義ではメディアとジャーナリズムとは何か、具体的に紹介する。 後半の講義では情報の受け手、分析、発信者としての実践的な授業を展開する。 授業全般を通し、情報の価値、今起こりつつある事象の課題発見力、課題分析力設定力、自ら設定した課題を解決するための取材方法、取材で得た情報の編集、記述・表現、マスメディアに乗せた発信など一連のプロセスを学ぶことで、情報源（事象）にアクセス（情報選択力）し、課題を発見する力、情報・事象の分析力、情報編集力、表現力・発信力の基礎をつけるとともに、情報発信による 社会（我々の世界）への訴求力、課題を主体的に解決する力の基礎を習得する。		
授業計画	第１～２回　講義概要（講義の目的、方法、評価） 第３回　メディア、ジャーナリズムを知っていますか触れていますか 「あなたのジャーナリスト度を測る」「関心あるニュースを探してみよう」 第４回　ジャーナリズムの定義 昔から様々な定義がされてきた。それらを紹介する。 第５回　ジャーナリズムの社会的な位置づけ プロパガンダ＊権力の監視＊民主主義の担い手 第６回　ジャーナリズムの法的な位置づけ 表現・原論の自由＊名誉棄損 第７回　ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像１ ジャーナリストとはどのような人たちで、どんな仕事に携わっているのか 第８回　ジャーナリズムのフィールド、メディア論１ メディアの種類、特徴について。 第９回　ジャーナリズムのフィールド、メディア論２ 受け手から見たメディアについて解説、フリートーク 第 10 回　ジャーナリズムのフィールド、メディア論 3 「マスコミ」の変容。巨大で独占的な「マスコミ」から誰もが参加する「マスコミ」へ 第 11 回　前回までの振り返り 第 12 回　ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像２ ジャーナリストの現場で活躍する人を招きニュース・番組作りで大切なことは何か、具体的のどのように企画～発信するのか、などついて講義と意見交換を行う。 第 13 回　ニュースの読み方、作られ方 商業的ジャーナリズム、ブラックジャーナリズム、フェイクニュースなど、ジャーナリズムが抱える問題点を批判的に読み解く。 第 14 回　実際のニュースの作成 プレスリリースからニュースを創る 第 15 回　実際のニュースの作成 ニュースを完成、プレゼン		
授業方法	講義並びにワークショップ、グループワーク、調べ学習		
アクティブラーニングの視点	調べ学習、協同学習（討議、課題に基づくなどのグループワーク等)、プレゼンテーションの作製・プレゼンテーション		

授業外学習	第３回以降は、各講義内容にあった課題を出すことがある。
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価方法	ペーパーテストは実施しない。 授業での討議等の場面での参加度・発言の適格性（40%）、授業内容に関する知識理解（確認アンケート 30%）、ジャーナリズム的手法を用いた初歩的視点・技能の理解（制作、プレゼン 30%）、各観点について５段階評定する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	新聞記者、雑誌編集長、広告代理店などジャーナリストの経験を有する教員が、取材、メディアによる報道の実例を交えて指導・演習を行う。

No.	200	科目コード	41650
科目名	ジャーナリズム論	授業コード	9318021
教員名	宮坂　政宏		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	今日のジャーナリズムとは何か、様々なメディア・マスコミの現状、課題を通して学ぶ。 同時にジャーナリズムの担い手であるジャーナリストが備えている諸手法への理解と初歩的な技能を理解し、将来、教員・社会人にも求められている高度で複雑な情報化社会での情報の主体的な受け手（情報の価値理解)、良識ある批判者（客観的分析者)、活用者（表現・発信を通し社会＝我々の世界の課題解決を図る）となる実践的素養の基礎を身に着ける。(主としてディプロマポリシー１－3、カリキュラムポリシー２に対応)		
授業概要	前半の講義ではメディアとジャーナリズムとは何か、具体的に紹介する。 後半の講義では情報の受け手、分析、発信者としての実践的な授業を展開する。 授業全般を通し、情報の価値、今起こりつつある事象の課題発見力、課題分析力設定力、自ら設定した課題を解決するための取材方法、取材で得た情報の編集、記述・表現、マスメディアに乗せた発信など一連のプロセスを学ぶことで、情報源（事象）にアクセス（情報選択力）し、課題を発見する力、情報・事象の分析力、情報編集力、表現力・発信力の基礎をつけるとともに、情報発信による 社会（我々の世界）への訴求力、課題を主体的に解決する力の基礎を習得する。		
授業計画	第１～２回　講義概要（講義の目的、方法、評価） 第３回　メディア、ジャーナリズムを知っていますか触れていますか 「あなたのジャーナリスト度を測る」「関心あるニュースを探してみよう」 第４回　ジャーナリズムの定義 昔から様々な定義がされてきた。それらを紹介する。 第５回　ジャーナリズムの社会的な位置づけ プロパガンダ＊権力の監視＊民主主義の担い手 第６回　ジャーナリズムの法的な位置づけ 表現・原論の自由＊名誉棄損 第７回　ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像１ ジャーナリストとはどのような人たちで、どんな仕事に携わっているのか 第８回　ジャーナリズムのフィールド、メディア論１ メディアの種類、特徴について。 第９回　ジャーナリズムのフィールド、メディア論２ 受け手から見たメディアについて解説、フリートーク 第 10 回　ジャーナリズムのフィールド、メディア論 3 「マスコミ」の変容。巨大で独占的な「マスコミ」から誰もが参加する「マスコミ」へ 第 11 回　前回までの振り返り 第 12 回　ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像２ ジャーナリストの現場で活躍する人を招きニュース・番組作りで大切なことは何か、具体的のどのように企画～発信するのか、などついて講義と意見交換を行う。 第 13 回　ニュースの読み方、作られ方 商業的ジャーナリズム、ブラックジャーナリズム、フェイクニュースなど、ジャーナリズムが抱える問題点を批判的に読み解く。 第 14 回　実際のニュースの作成 プレスリリースからニュースを創る 第 15 回　実際のニュースの作成 ニュースを完成、プレゼン		
授業方法	講義並びにワークショップ、グループワーク、調べ学習　、制作、プレゼン		
アクティブラーニングの視点	調べ学習、協同学習（討議、課題に基づくなどのグループワーク等)、プレゼンテーションの作製・プレゼンテーション		
授業外学習	第３回以降は、各講義内容にあった課題を出すことがある。		

教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価方法	ペーパーテストは実施しない。 授業での討議等の場面での参加度・発言の適格性（40%）、授業内容に関する知識理解（確認アンケート 30%）、ジャーナリズム的手法を用いた初歩的視点・技能の理解（制作、プレゼン 30%）、各観点について 5 段階評定する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	新聞記者、雑誌編集長、広告代理店などジャーナリストの経験を有する教員が、取材、メディアによる報道の実例を交えて指導・演習を行う。

No.	201	科目コード	68011
科目名	現代思想と哲学	授業コード	9313624
教員名	上島　洋一郎		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・哲学の諸概念を理解できる ・学んだ知識を自分自身の具体的な生活との関連を通して考察できる ・自らの考察を他者に対して表現できる		
授業概要	・私たち大人はいつの間にか私たちも子供のころに感じていた様々な「なんで」に対して「簡単な答え」で済ませようとする。しかし、あの問いは「簡単な答え」で済ませられるものなのか。「なんで勉強しないといけないの」「なんで悪いことしちゃいけないの」「なんで人間（私）は生きているの」　―　さらに言えば、そうした「本質的な問い」に自分自身で立ち向かうことなしに、これからの多様で複雑な社会を私たちそして私たちが教える子供たちは生きていけるのだろうか。 ・本授業では〈私たちはそもそも何者であるのか、現代において私たちがどのようにあるべきなのか〉について考える手がかりを西洋哲学における以下のテーマに即して探る。 ・魂（「よい」とは何か、「学ぶ・教える」とは何か） ・存在（「ある」とは何か、「あるべき」とは何か） ・意識（「世界」とは何か、「私・他者」とは何か） ・言語（「ことば」とは何か） ・生命（「生きる」とは何か、「人間」とは何か）		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　―　哲学は何をする学問なのか 第 2 回　私達の生きる現代とは、そもそもどういう時代なのか 第 3 回　古代から近世　魂（1） 第 4 回　古代から近世　魂（2） 第 5 回　古代から近世　魂（3） 第 6 回　古代から近世　存在（1） 第 7 回　古代から近世　存在（2） 第 8 回　古代から近世　存在（3） 第 9 回　魂と実在 第 10 回　近代から現代　意識（1） 第 11 回　近代から現代　意識（2） 第 12 回　近代から現代　言語 第 13 回　近代から現代　生命（1） 第 14 回　近代から現代　生命（2） 第 15 回　意識と言語と生命		
授業方法	・授業は講義形式とグループワーク形式で実施する ・第 1 回レポートについてはコメントを加えて返却する		
アクティブラーニングの視点	グループワークを適宜行う ・(各回授業) 講義の中で学んだ内容をより具体的に理解するために他の受講生と議論するグループワークを行う ・(レポート作成) 自分の準備したレポート内容について推敲するために他の受講生と議論するグループワークを行う		
授業外学習	・復習として、各授業の後でアップロードされる授業資料およびグループワークの間に作成した自分のメモを基に授業内容を振り返る ・社会の様々な現象について自分自身でゆっくり時間をかけて考えてみる		
教科書	教科書は指定しない		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	第一回レポート（４０％） 第二回レポート（６０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	202	科目コード	68012
科目名	言語と社会	授業コード	9322800
教員名	上野　利江		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・社会や文化と言語の関係について理解し、説明することができる。 ・様々な社会的状況における言語行動の様相や方略について理解し、説明することができる。		
授業概要	授業では、はじめに、日本語と英語および東アジア諸国の言語における文法形態や表現を比較対照させ、それぞれの言語表現の形態や論理について解説する。 次に、言語が思考や認識、文化にどのように関係するのかについての議論を紹介し、言語と文化の関係についての考察を深めるとともに、様々な社会的状況における言語使用の様態について、社会言語学や語用論等の観点から解説する。 さらに、これらの知見をもとに、異なる文化を持つ人々が共存する社会における言語の役割を考え、言語教育や、互いの文化および言語を尊重しながら相互関係を構築する方法について議論する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（講義目的、評価方法および評価方法など） 第２回　言語の種類と意味 第３回　日本語と英語および東アジア諸国の言語との比較 第４回　言語の形式と論理 第５回　言語記号の特徴 第６回　言語と文化 第７回　表現構造 第８回　表現と文化 第９回　コミュニケーションとしての言語 第 10 回　オーディエンス・デザインとスピーチ・アコモデーション 第 11 回　ポライトネス・ストラテジー 第 12 回　異文化コミュニケーション 第 13 回　地域方言と社会方言 第 14 回　多文化社会と言語政策 第 15 回　全体のまとめとディスカッション		
授業方法	講義形式とし、可能な限り対話的に授業を進める。		
アクティブラーニングの視点	言語と社会に関する調査・発表・ディスカッション（遠隔授業の場合は適宜変更する）。		
授業外学習	・毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察を各自ノートにまとめておくこと(1 時間) ・次回の授業範囲を指示した場合は、指定する用語の意味や概念を各自で調べておくこと(1 時間) ・小論文作成のために各自のテーマに合った文献資料を収集し、その内容を整理しておくこと(2 時間)		
教科書	指定なし、適時、資料を配布		
参考書	東照二 1997『社会言語学入門（改訂版）―生きた言葉のおもしろさに迫る』研究社 安藤貞雄 1986『英語の論理・日本語の論理―対象言語学的研究』大修館書店 小島義郎 1988『日本語の意味　英語の意味』南雲堂 スペンサー=オーティー，ヘレン編著（田中典子他訳）2004『異文化理解の語用論―理論と実践』研究社 藤本敏之 1993『英語と日本語とその文化―対照言語学的研究』近代文藝社		
評価方法	授業への参加度(30%)、学期末に提出する小論文(70%)により評価する。なお、授業への参加度は、教員からの質問等に積極的に応じることを標準とし、的確かつ論理的である発言をより高く評価する。小論文は、小論文の基本的な構成に沿って作成されていることに加え、何に関する意見が求められているかを適切に把握し、妥当性のある根拠を用いて分かりやすい表現で作成されていることを評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	203	科目コード	68014
科目名	キャリア基礎（一般教養 A）	授業コード	9306440
教員名	後藤　由枝　藤原　義彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	１．社会基礎として，主要５科目の基礎的教養を習得することができる ２．自習を通して「学ぶ面白さ」を感じ，将来のキャリアに生かすことができる ３．自己到達度を確認しながら，計画的に学習を進めることができる		
授業概要	AI 教材「すらら」で学習を進める。自己到達度を確認しながら，計画的・継続的に勉強することで，自学習慣を身に付ける。勉強を通して記憶を再起させ，苦手は範囲を克服することを目指す。このような個別最適な学びを中心にしつつ、コミニュケーションタイム設定など、共同的・対話的な学びも重視する。		
授業計画	学習ソフトウエア「すらら」を活用した学習 【前期】 全 15 回に参加し，希望教科の希望箇所を学習 〇基本的にベーシック（中学校レベル）を学習 〇毎時間、教員と学生とのコミュニケーション・タイムを持つ。 〇授業時間外での自習も含めて，一定数以上のユニットを履修。 【後期】 全 15 回に参加し，希望教科の希望箇所を学習 〇基本的にベーシック（中学校レベル）を学習 〇毎時間、教員と学生とのコミュニケーション・タイムを持つ。 〇授業時間外での自習も含めて，一定数以上のユニットを履修。		
授業方法	「すらら」による学習 履修者は、レクチャー機能（アニメーションによる授業），ドリル機能（AI が習熟度を計り出題），テスト機能（自動生成可能，苦手発見が目的）を利用し学習を進める。 担当教員とのコミュニケーション・タイムで、学習した内容を履修者同士が共有し、学びを深める。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	各自習熟度に合うユニットで自習をすすめる。		
教科書	指定なし		
参考書	『整理と対策』シリーズ（明治図書）		
評価方法	・前・後期の出席数 ・一定数以上のユニットを履修		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭の経験に加え、教育委員会事務局における指導主事及び管理職として、教育課程や支援教育に長く携わってきた経験を生かし、理論と実践を兼ね備えた教員を養成する。		

No.	204	科目コード	68014
科目名	キャリア基礎（一般教養 A）	授業コード	9306455
教員名	田中　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	１．社会としての基礎となる主要５科目の基礎的教養を修得することができる ２．自学自習を通して「学ぶ面白さ」を感じ，将来のキャリアに生かすことができる ３．自己到達度を確認しながら，主体的・計画的に学習を進めることができる		
授業概要	AI 教材「すらら」で学習を進める。自己到達度を確認しながら，計画的・継続的に勉強することで，自学習慣を身に付ける。勉強を通して記憶を再起させ，苦手は範囲を克服することを目指す。このような個別最適な学びを中心にしつつ、コミニュケーションタイム設定など、共同的・対話的な学びも重視する。		
授業計画	学習ソフトウエア「すらら」を活用した学習 【前期】 第１回　オリエンテーション 第２回から第１４回　各自の課題意識に基づき、希望する教科の希望する内容を計画的に個別に学修する。学修内容はベーシック・レベルとなる。 第１５回　まとめ ○毎時間、教員と学生とのコミュニケーション・タイムを持つ 【後期】 第１６回　オリエンテーション 第１７回から第２９回　各自の課題意識に基づき、希望する教科の希望する内容を計画的に個別に学修する。学修内容はベーシック・レベルとなる。 第３０回　まとめ ○毎時間、教員と学生とのコミュニケーション・タイムを持つ		
授業方法	AI 教材「すらら」を活用して学習を行う。学生はレクチャー機能（アニメーションによる授業）、ドリル機能（AI が各自の習熟度を想定して出題する）、テスト機能（問題の自動生成が可能である。これにより各自の苦手な内容を発見できる。）の 3 つの機能を利用して学習を個別に進める。各自の取り組みの後、担当教員とのコミュニーケーション・タイムで学習した内容について学生同士で共有化し、お互いの学びを深める。		
アクティブラーニングの視点	個別学習で終わるのではなく、最後にコミュニーケーション・タイムをとることで学生間の対話を通した学びの深まりを想定している。		
授業外学習	各自習熟度に合うユニットで自習をすすめる。		
教科書	指定なし		
参考書	『整理と対策』シリーズ（明治図書）		
評価方法	前期・後期共に同じ評価基準とする。授業中の学習意欲 70%、「すらら」のユニット進捗状況、ふりかえりノート 30%で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	205	科目コード	68015
科目名	キャリア基礎（一般教養 B）	授業コード	9306471
教員名	田中　典子　藤原　義彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	１．社会としての基礎となる主要４科目の基礎的教養を修得することができる ２．自学自習を通して「学ぶ面白さ」を感じ，将来のキャリアに生かすことができる ３．自己到達度を確認しながら，主体的に学習を進めることができる		
授業概要	・主要４科目の基礎学力の強化のための学習を行う。特に、教員採用試験合格を目指し、学力向上を図る。その過程で、自らの強みと弱みを知ることで、進路の選択肢を広げられるよう支援をしながら学修をすすめる。 ・目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、グループワークや模擬授業形式を組み合わせながら授業をすすめる。また、個々の学力の状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	主要４科目（国語・数学・社会・理科）の基本的内容を、テスト形式のプリントを用いて学習する。 前期 第 1 回から第 7 回　国語・数学について基本的な内容を学習する。 第 8 回から第 14 回　社会・理科について基本的な内容を学習する。 第 15 回　4 教科の確認テストの実施 後期 第１６回から第２２回　国語・数学について基本的な内容を学習する。 第２３回から第２９回　社会・理科について基本的な内容を学習する。 第３０回　4 教科の確認テストの実施		
授業方法	テスト形式の「テストプリント」を用いて学習する。 １．科目担当者がパワーポイントなどを用いて、当該授業で学習する科目の単元の基本内容を確認する。 ２．数グループに分かれ、学生同士で討議を通して学び合いを行う。 ３．学生が教師役となり、他の学生に学習内容について解説を行うことを通して相互の学びを深める。 以上の方法により主体的・対話的な学びの実現を目指す。		
アクティブラーニングの視点	グループ活動による話し合いや相互解説を行うことを通して、主体的に課題の解決ができるようにする。		
授業外学習	授業で使用したプリントの復習		
教科書	履修者が確定した後、授業担当者から指示する。		
参考書	『整理と対策』シリーズ（明治図書）		
評価方法	前期・後期共に同じ評価基準とする。授業中の学修意欲 70%、確認テストおよびふりかえりプリント 30%、などで総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立小学校・中学校で教鞭経験がある教員が専門性を活かし指導をする。		

No.	206	科目コード	66190
科目名	キャリア基礎（教職教養Ａ）	授業コード	9322702
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校に生起する様々な教育課題に関する基礎的事項を理解し、その課題解決に向けて考察することにより、以後の教職に関する学習の基礎的基盤を培う。		
授業概要	①　学校に生起する教育課題に関する基礎的事項について、講義動画による予習と授業内での演習という反転授業形式によって理解を深める。 ②　討議と問題演習（復習課題）を通じて、教員採用時に求められる基礎的知識（いわゆる教職教養）の定着を図る。		
授業計画	第１回　学校教育と教育課題（オリエンテーション） 第２回　学力問題と教育プラン 第３回　授業方法と学習理論、学習評価 第４回　いじめ・不登校問題と解決策 第５回　子どもを大切にする教育①（子ども、女性、同和問題、外国人） 第６回　子どもを大切にする教育②（生徒指導の方法、児童虐待） 第７回　子どもを大切にする教育③（特別支援教育） 第８回　子ども理解（子どもの発達） 第９回　子ども理解（学習理論と動機付け） 第 10 回　子ども理解（子どもの性格と心理療法） 第 11 回　教育振興基本計画 第 12 回　学習指導要領とその背景 第 13 回　学校における諸課題についての調査 第 14 回　国内外の学力調査 第 15 回　国内の重要答申（チームとしての学校と働き方改革）		
授業方法	事前に示す予習動画をもとに、講義・演習・討議を適宜行う。		
アクティブラーニングの視点	毎回の授業で主体的・協働的学習を進めるよう、事前に予習動画の視聴を求めるとともに、授業中の討議・演習を行う		
授業外学習	事前に示す予習動画を視聴し、内容を理解したうえで授業に参加すること。授業では動画の視聴を前提として個人ワーク・グループワークを行う。あわせて、授業内容の定着を図るため、必要に応じて演習問題を提示するので各自の復習に活用すること。		
教科書	担当教員が作成した授業教材・資料を配付する。		
参考書	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業内での発表・提出物 45%　期末テスト 55%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	207	科目コード	66200
科目名	キャリア基礎（教職教養Ｂ）	授業コード	9313809
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	学校教育に関する基礎的事項（とくに法制度）を理解するとともに、学校課題の解決に向けて主体的に思考する態度と能力を養う。		
授業概要	①　学校教育の基礎的事項について、講義動画による予習と授業内での演習という反転授業形式によって理解を深める。 ②　討議と問題演習（復習課題）を通じて、教員採用時に求められる基礎的知識（いわゆる教職教養）の定着を図る。		
授業計画	第１回　教育と学校（オリエンテーション） 第２回　学校教育を支える法体系（憲法と教育関連法規） 第３回　学校教育の仕組みと学校教育法 第４回　学校の教育活動①　学習活動と学習指導要領 第５回　学校の教育活動②　特別活動と学習指導要領 第６回　学校の安全・安心と学校保健、防災教育 第７回　学校施設と教材・教具 第８回　児童生徒の就学・卒業・懲戒 第９回　教職員の資格（免許制度）と養成 第 10 回　教職員の配置と役割 第 11 回　特別支援教育 第 12 回　教育委員会と教育行政 第 13 回　欧米の教育の歴史 第 14 回　日本の教育の歴史 第 15 回　学習指導要領の変遷		
授業方法	事前に示す予習動画をもとに、講義・演習・討議を適宜行う。		
アクティブラーニングの視点	毎回の授業で主体的・協働的学習を進めるよう、事前に予習動画の視聴を求めるとともに、授業中の討議・演習を行う。		
授業外学習	事前に示す予習動画を視聴し、内容を理解したうえで授業に参加すること。授業では動画の視聴を前提として個人ワーク・グループワークを行う。あわせて、授業内容の定着を図るため、必要に応じて演習問題を提示するので各自の復習に活用すること。		
教科書	担当教員が作成した授業教材・資料を配付する。		
参考書	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業内での発表・提出物 45%　期末テスト 55%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	208	科目コード	42291
科目名	韓国語１	授業コード	9313020
教員名	朴　榮三		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週２回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	ハングル文字の構成を理解し、正しく発音し、正確に書くことができる。 簡単な挨拶や自己紹介をはじめ、日常表現および基礎文法を身に付ける。 韓国文化の理解を深め、コミュニケーション能力および国際的視野を養うことができる。		
授業概要	ハングルの文字の仕組みを理解し、単語および文法の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。 日常生活に必要な短文表現を理解し、基礎文法を学習する。 韓国の社会や生活などの理解ができるように韓国に関する映像や動画などを選定し、語学能力を含む韓国文化や社会の理解を深める。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション ・第 1 課 ハングルの基本文字(母音 10 個)について 第 2 回 第 2 課 基本子音（平音） 第 3 回 第 2 課 基本子音（平音練習） 第 4 回 第 2 課 合成母音字 第 5 回 第 3 課 基本子音（激音） 第 6 回 第 3 課 基本子音（濃音） 第 7 回 第 4 課 終声子音(バッチムⅠ) 第 8 回 第 4 課 終声子音(バッチムⅡ練習) 第 9 回 第 4 課 発音の規則(連音化・鼻音化) 第 10 回 第 4 課 発音の規則(濃音化・激音化・口蓋音化・ヒウッ音の変化) 第 11 回 第 5 課 初めまして(初めての挨拶) 第 12 回 第 5 課 私は上田です。(自己紹介) 第 13 回 第 5 課 私は上田です。(かしこまった形式の肯定/否定表現) 第 14 回 第 6 課 チスさん、勉強しますか。(用言の丁寧な表現) 第 15 回 第 6 課 用言の否定表現 第 16 回 第 6 課 目的助詞表現・会話練習・聞き取り練習 第 17 回 第 7 課 学校に寮がありますか。(位置表現・存在詞) 第 18 回 第 7 課 指示表現・助詞のまとめ 第 19 回 第 7 課 所有表現 第 20 回 第 8 課 午後、何をしますか。(用言の丁寧な表現①) 第 21 回 第 8 課 用言の丁寧な表現② 第 22 回 第 8 課 用言の否定表現、場所表現 第 23 回 第 9 課 土曜日に何をしましたか。(用言の過去表現①) 第 24 回 第 9 課 用言の過去表現② 第 25 回 第 9 課 事柄の前後関係の表現(理由・原因) 第 26 回 第 10 課 このズボンいくらですか。(漢数字の読み方：日時、電話番号の表現) 第 27 回 第 10 課 名詞の会話体と否定表現 第 28 回 第 10 課 命令表現 第 29 回 第 11 課　時間の読み方①：固有数字、助数詞 第 30 回 まとめ（授業内の確認テスト実施）		
授業方法	文字学習の段階で小テストを実施する。小テストを通じて文字習得の状況を確認し、単語の読み方・書き方を正確に習得できるように指導する。基礎文法を通じて会話練習を行う。パワーポイント、韓国に関する音楽・ドラマ・映画などの DVD を使用する。		
アクティブラーニングの視点	主にワークシートの活用(文字の書き方の練習)、文字の読み方の練習及び簡単な会話練習		
授業外学習	テキストの予習や復習をする、小テストの勉強と課題への取り組み。		
教科書	曺美庚他(著)『キャンパス韓国語』白帝社		
参考書	韓必南他(著)『マル韓国語』朝日出版社		
評価方法	授業中に行う小テスト 30%、確認テスト 40%、授業への参加度 30%の割合で評価する。 授業への参加度は、文字の読み書きや会話練習への積極的な参加、教員からの質問などに応じて的確に回		

	答を高く評価する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	209	科目コード	42295
科目名	韓国語２	授業コード	9322133
教員名	朴　榮三		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週２回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	ハングル文字を正しく発音ができ正確に書くことができる。 決まり文句以外の表現を用いて簡単な会話ができる。 使用頻度の高い単語や文型を理解し、様々な場面で短い質問に答えることができる。		
授業概要	韓国語１を続き、韓国語２では、韓国語の基本的な文法を応用し会話力を高め、コミュニケーションの力が身につくようにする。 使用頻度の高い単語を身につけ、韓国語の文法と表現を理解し、自然な会話の練習ができることを目指す。 短文作文や実践会話を行う。		
授業計画	第１回　授業へのガイダンスと第 11 課　数字の読み方の復習(固有数字／漢数字) 第２回　第 11 課 アルバイトは何時からですか。(時間の表現・理由表現・計画/意志表現) 第３回　第 12 課 写真を見せてください。(理由表現) 第４回　第 12 課 丁寧なお願い表現・確認表現 第５回　第 13 課 キムチチゲが食べたいです。(勧誘表現・願望表現) 第６回　第 13 課 動詞の目的表現 第７回　第 13 課 逆接表現 第８回　第 14 課 注文について(尊敬表現) 第９回　第 14 課 推量・推測表現 第 10 回　第 14 課 比較表現(助詞)、感嘆表現 第 11 回　第 15 課 病気について(尊敬の過去表現) 第 12 回　第 15 課 禁止表現 第 13 回　第 15 課 提案表現・順序表現 第 14 回　第 16 課 計画/予定表現 第 15 回　第 16 課 許可/承諾表現・意志表現 第 16 回　第 16 課 形容詞の連体表現 第 17 回　第 17 課 テニスができます。(趣味について) 第 18 回　第 17 課 可能/能力表現・動作の進行表現 第 19 回　第 17 課 条件表現・選択表現 第 20 回　第 18 課 経験を表す表現 第 21 回　第 18 課 用言の連体表現 第 22 回　第 19 課 買い物 第 23 回　第 19 課 意図表現・許可表見 第 24 回　第 20 課 道案内・授受表現 第 25 回　第 20 課 丁寧な要請表現・状況の説明表現 第 26 回　第 20 課　提案・腕曲を表す表現 第 27 回　第 21 課 ドックはスプーンで食べなければなりません。(当為表現・禁止表現) 第 28 回　第 21 課 確認表現・感嘆表現 第 29 回　第 22 課 推量・推測表現・同時動作の表現 第 30 回　まとめ(授業内の確認テスト)		
授業方法	テキストと配布プリントを中心に進む(短文作文や文法習得のために主にワークシートの活用する)、会話練習の場合はペアワークがある。パワーポイント、韓国に関する音楽、ドラマ、映画などの DVD を使用する。		
アクティブラーニングの視点	用言と名詞の単語カードや、質問紙などを使用しペアとの簡単な会話練習を行う。		
授業外学習	テキストの予習と復習をする。小テストの勉強と課題への取り組み。		
教科書	曺美庚他(著)『キャンパス韓国語』白帝社		
参考書	李潤玉他(著)『改正版・韓国語の世界へ初中級編ーコツコツ学び、カジュアルに話そう』朝日出版社		
評価方法	授業中の小テスト 30%、確認テスト 40%、授業への参加度 30%の割合で評価する。授業への参加度は、積極的にワークシートへの取り組み、会話練習、課題提出、教員からの質問などに応じて的確に回答すること		

	を基準とする。
既修条件	韓国語 1
実務経験のある 教員による授業	

No.	210	科目コード	42310
科目名	中国語１	授業コード	9313472
教員名	左　虹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週２回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・中国語の発音と文法を習得し、基本的な日常会話ができる。 ・さまざまな側面から、現代中国について理解する。		
授業概要	中国語を初めて勉強する学生に対して、表現力を中心とした授業を実施する。音声、特に会話力に重点を置く。正しい発音の基礎、聴く力の向上に努める。もちろん、構造を理解して、会話文を正しく読解する力を身につけることも心がける。毎回の授業は、発音を練習しながら、自己紹介、家族、趣味、年齢、日付などを主にした簡単な会話文を中心に進める。また中国の文化、思想、中国人の考え方、習慣なども紹介する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　中国語の紹介 第２回　発音編その１ 第３回　発音編その１ 第４回　発音編その２ 第５回　発音編その２ 第６回　発音編その３ 第７回　発音編その３ 第８回　発音編総合復習 第９回　発音編確認テスト 第 10 回 第１課　お名前（ポイント・翻訳） 第 11 回 第１課　お名前　（ポイント：人称代名詞、姓とフルネームの言い方） 第 12 回 第１課　お名前（練習） 第 13 回 第２課　これは何ですか（ポイント・翻訳） 第 14 回 第２課　これは何ですか　（ポイント：指示代名詞①、疑問詞疑問文など） 第 15 回 第２課　これは何ですか　（練習） 第 16 回 第３課　中国語は難しいですか（ポイント・翻訳） 第 17 回 第３課　中国語は難しいですか（ポイント：形容詞述語文、反復疑問文など） 第 18 回 第３課　中国語は難しいですか（練習） 第 19 回 第１課～第３課の総合復習・中間テスト 第 20 回 第４課　あなたは何人家族ですか（ポイント・翻訳） 第 21 回 第４課　あなたは何人家族ですか（ポイント：助数詞の使い方、家族構成の言い方） 第 22 回 第４課　あなたは何人家族ですか（練習） 第 23 回 第５課　私たちと一緒に行きましょう（ポイント・翻訳） 第 24 回 第５課　私たちと一緒に行きましょう（ポイント：動詞述語文、選択疑問文） 第 25 回 第５課　私たちと一緒に行きましょう（練習） 第 26 回 第６課　明日は何曜日ですか（ポイント・翻訳） 第 27 回 第６課　明日は何曜日ですか（ポイント：曜日、月日、年齢の言い方） 第 28 回 第６課　明日は何曜日ですか　（練習） 第 29 回 第４課～第６課の総合復習 第 30 回 第１課～第６課の確認・練習		
授業方法	・毎回の授業において、声を出して繰り返し発音する予定。学生の学習能力に合わせて、進度を調整する。 ・指定した教科書の他、ビデオ、カセット、DVD などを通じて、発音を練習し、習った言葉を会話にチャレンジさせる。		
アクティブラーニングの視点	月一回習った言葉を使って自分の感じたことや思ったことを中国語で話すようにする。 月一回習った言葉をクラスメートと会話を頑張ること。		
授業外学習	習った内容の復習。教科書に付属している CD を聞いて習った発音を確認する。		
教科書	『楽しくはじめる中国語』　改訂新版　　郭　海燕・周　一川　　松柏社		
参考書	適宜紹介する。		

評価方法	期末試験（筆記）の成績 50%と授業への参加度 50%で総合評価する。 授業への参加度：授業への取り組み 15%、提出物など 35%の成績。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	・国立、公立、私の大学で中国語（基礎・会話など）を出講しています。 ・中国語検定の審査委員会に勤めた経験から生徒に個別指導などして、参加者が希望級に全員合格できた実績を持っています。 ・毎年夏休み、中国語有志生徒とともに中国の有名大学（北京大学・北京外国語大学など）へ短期留学・ホームステイした実績を持っています。

No.	211	科目コード	42320
科目名	中国語２	授業コード	9322473
教員名	左　虹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週２回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・中国語の発音と文法を習得し、基本的な日常会話ができる。 ・さまざまな側面から、現代中国について理解する。		
授業概要	中国語を初めて勉強する学生に対して、表現力を中心とした授業を実施する。音声、特に会話力に重点を置く。正しい発音の基礎、聴く力の向上に努める。もちろん、構造を理解して、会話文を正しく読解する力を身につけることも心がける。毎回の授業は、発音を練習しながら、自己紹介、家族、趣味、年齢、日付などを主にした簡単な会話文を中心に進める。また中国の文化、思想、中国人の考え方、習慣なども紹介する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　第７課　家はどこですか（本文・ポイントの翻訳） 第３回　第７課　家はどこですか（ポイント①所在の表現、前置詞の位置） 第４回　第７課　家はどこですか（ポイント②動詞の重ね方など練習問題・解答） 第５回　第７課　家はどこですか（練習問題・解答） 第６回　第８課　映画は３時から始まる（本文・ポイントの翻訳） 第７回　第８課　映画は３時から始まる（ポイント①動作の進行形） 第８回　第８課　映画は３時から始まる　（ポイント②時刻の表現） 第９回　第８課　映画は３時から始まる　（練習問題・解答） 第 10 回 第９課　あなたはどこから来たのですか　（本文・ポイントの翻訳） 第 11 回 第９課　あなたはどこから来たのですか　（ポイント①連動文） 第 12 回 第９課　あなたはどこから来たのですか　（ポイント②時間の長さ） 第 13 回 第９課　あなたはどこから来たのですか　（練習問題・解答） 第 14 回 ７課～第９課　総合復習第 10 課 第 15 回 第 10 課　あなたは何を食べたいですか（本文・ポイントの翻訳） 第 16 回 第 10 課　あなたは何を食べたいですか（ポイント①助動詞の使い方） 第 17 回 第 10 課　あなたは何を食べたいですか（ポイント②程度を表す表現） 第 18 回 第 10 課　あなたは何を食べたいですか（練習問題・解答） 第 19 回 第 11 課　これはあれより安い　（本文・ポイントの翻訳） 第 20 回 第 11 課　これはあれより安い　（ポイント①比較の表現） 第 21 回 第 11 課　これはあれより安い　（ポイント②お金の単位） 第 22 回 第 11 課　これはあれより安い　（練習問題・解答） 第 23 回 第 12 課　話すのが上手ですね　（本文・ポイントの翻訳） 第 24 回 第 12 課　話すのが上手ですね　（ポイント①助動詞「得」の使い方） 第 25 回 第 12 課　話すのが上手ですね　（ポイント②二重目的語） 第 26 回 第 12 課　話すのが上手ですね　（練習問題・解答） 第 27 回 第 13 課　もうすぐ休みになる（本文・ポイントの翻訳） 第 28 回 第 13 課　もうすぐ休みになる（ポイント：数の使い方＆読み方、主述述語文など） 第 29 回 第 13 課　もうすぐ休みになる（練習問題・解答） 第 30 回 第 10 課～第 13 課　総合復習		
授業方法	・毎回の授業において、声を出して繰り返し発音する予定。学生の学習能力に合わせて、進度を調整する。 ・指定した教科書の他、ビデオ、カセット、DVD などを通じて、発音を練習し、習った言葉を会話にチャレンジさせる。		
アクティブラーニングの視点	月一回習った言葉を使って自分の感じたことや思ったことを中国語で小論文を書く。 月一回習った言葉をクラスメートと課題を決めて会話を頑張ること。		
授業外学習	習った内容の復習。教科書に付属している CD を聞いて習った発音を確認する。		
教科書	『楽しくはじめる中国語』　改訂新版　　郭　海燕・周　一川　　松柏社		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	期末試験（筆記）の成績 50%と授業への参加度 50%で総合評価する。		

	授業への参加度：授業への取り組み 15%、提出物など 35%の成績。
既修条件	中国語 1
実務経験のある教員による授業	・国立、公立、私の大学で中国語（基礎・会話など）を出講しています。 ・中国語検定の審査委員会に勤めた経験から生徒に個別指導などして、参加者が希望級に全員合格できた実績を持っています。 ・毎年夏休み、中国語有志生徒とともに中国の有名大学（北京大学・北京外国語大学など）へ短期留学・ホームステイした実績を持っています。

No.	212	科目コード	68016
科目名	日本文学概論	授業コード	9313824
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１、日本文学の大まかな歴史を知り、日本文学の特質を理解する。 ２、日本文学の基本的な特質を学び、先人たちの表現法についての基礎を身に付ける。 ３、各時代の大まかな文学の変遷を学んで、日本文学の特質を研究する態度を身に付ける。		
授業概要	授業の概要 年代を追って各時代の代表的な作品を読んで国文学の歴史のおおまかを学ぶ。時代とともに変化するそれぞれの価値観や人間理解とその文学性について学んでいくとともに、底流に流れる変化のない固有の価値観にも気付くような学習をすすめる。講義・解説のみでなくグループワーク等を適宜取り入れて理解を深めていく。		
授業計画	テーマ 第１回：　日本文学史の時代区分と時代の特質 第２回：　上代の文学①　古事記 第３回：　上代の文学②　万葉集 第４回：　中古の文学①　古今和歌集　竹取物語 第５回：　中古の文学②　土佐日記　伊勢物語 第６回：　中古の文学③　枕草子 第７回：　中古の文学④　源氏物語 第８回：　中古の文学⑤　大鏡　今昔物語集 第９回：　中世の文学①　新古今和歌集 第 10 回：中世の文学②　方丈記　徒然草 第 11 回：中世の文学③　平家物語 第 12 回：近世の文学①　松尾芭蕉　小林一茶　与謝蕪村 第 13 回：近世の文学②　近松門左衛門　井原西鶴 第 14 回：近現代の文学 第 15 回：まとめ　日本文学の特質 期末試験		
授業方法	講義を中心に、資料作成などを支援して授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、ディスカッションなどを取り入れた展開を進め、内容理解を深化させる。		
授業外学習	①講義の予習として、該当作品を読む。資料作成を指示することもある。 ②課題のレポートなどを作成する。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	授業で適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 20%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

No.	213	科目コード	41045
科目名	日本の文学	授業コード	9318823
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１.日本文学の大まかな歴史を知り、日本文学の特質を理解する。 ２.日本文学の基本的な特質を学び、先人たちの表現法についての基礎を身に付ける。 ３.各時代の大まかな文学の変遷を学んで、日本文学の特質を研究する態度を身に付ける。		
授業概要	授業の概要 年代を追って各時代の代表的な作品を読んで国文学の歴史のおおまかを学ぶ。時代とともに変化するそれぞれの価値観や人間理解とその文学性について学んでいくとともに、底流に流れる変化のない固有の価値観にも気付くような学習をすすめる。講義・解説のみでなくグループワーク等を適宜取り入れて理解を深めていく。		
授業計画	テーマ 第１回：　日本文学史の時代区分と時代の特質 第２回：　上代の文学①　古事記 第３回：　上代の文学②　万葉集 第４回：　中古の文学①　古今和歌集　竹取物語 第５回：　中古の文学②　土佐日記　伊勢物語 第６回：　中古の文学③　枕草子 第７回：　中古の文学④　源氏物語 第８回：　中古の文学⑤　大鏡　今昔物語集 第９回：　中世の文学①　新古今和歌集 第 10 回：中世の文学②　方丈記　徒然草 第 11 回：中世の文学③　平家物語 第 12 回：近世の文学①　松尾芭蕉　小林一茶　与謝蕪村 第 13 回：近世の文学②　近松門左衛門　井原西鶴 第 14 回：近現代の文学 第 15 回：まとめ　日本文学の特質 期末試験		
授業方法	講義を中心に、資料作成などを支援して授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、ディスカッションなどを取り入れた展開を進め、内容理解を深化させる。		
授業外学習	①講義の予習として、該当作品を読む。資料作成を指示することもある。 ②課題のレポートなどを作成する。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	授業で適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 20%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

No.	214	科目コード	68017
科目名	大阪の文学	授業コード	9313825
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１、大阪が舞台となった文学作品に親しみ、日本文学の歴史における大阪の文学の位置付けを理解する。 ２、京や江戸と違う大阪の文学の伝統を学び、言語表現のもつ特色と味わいについて理解する。 ３、近代以降に舞台となった大阪の文化や地理の特色を理解して大阪の伝統を守る態度を身に付ける。		
授業概要	上代から現代に至る文学作品の中で大阪が舞台となったものを読んで、他の地域ではあまり見られない長い歴史をもった上方の文学の特質や変遷を学び、特に大阪の文化への理解を深めていく。これからはグローバル化が進む一方で地域性を大切にする必要があり、生徒たちの指導に活かせる力量と意欲を身に付けていく。		
授業計画	第１回：大阪の歴史。日本文学史における大阪の位置づけの理解 第２回：古事記　日本書紀　万葉集 第３回：伊勢物語　土佐日記 第４回：古今和歌集　源氏物語 第５回：西行　小倉百人一首 第６回：平家物語　謡曲 第７回：松尾芭蕉 第８回：近松門左衛門 第９回：井原西鶴 第 10 回：川端康成 第 11 回：谷崎潤一郎 第 12 回：田辺聖子　開高健 第 13 回：司馬遼太郎 第 14 回：津村記久子ほか現代の作家 第 15 回：　まとめ　大阪の文学の特質 期末試験		
授業方法	各回のテーマに沿った作品を購読する（科目担当者による講義形式）とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の考えをまとめていく(演習形式:受講者による議論や発表を主とするグループワーク等)。また授業内で小テストも実施する。		
アクティブラーニングの視点	講義内容に関係して適宜個人発表やグループワーク、ディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	大阪が関係する文学について幅広く読むこと。学習の流れが定着した後は、各回必ず課題が出る。学生はこの課題に対する各自の考えを用意できるようあらかじめ作品を読んでおくこと。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	『大阪文学名作選』(富岡多惠子編、講談社文芸文庫)		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 20%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、文学の読みについての指導をする。		

No.	215	科目コード	41060
科目名	音楽	授業コード	9322847
教員名	内海　由美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・世界の様々なジャンルの音楽に触れることにより、教養としての音楽的知識を深めることができる。 ・「音楽」を実践的、多角的にとらえて、楽しむことができる。		
授業概要	ジャンルにとらわれず、さまざまな角度から音楽を考察し、鑑賞することで、自分自身にとっての音楽を考える機会を持つことを基本とする。民族音楽に関しては、その音楽の生まれた地域性や文化との関連を探る。西洋音楽に関しては、音楽史を中心に、時代背景やその時代を代表する作曲家や代表曲を知り、教養として音楽的知識を深める。オーケストラやオペラ、ミュージカルについては、その成り立ちや特徴を知る。また本学の建学精神であるキリスト教の音楽として、聖歌・賛美歌の歌唱も行う。		
授業計画	第１回　世界の民族音楽（ケルトの音楽、フランス、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル） 第２回　世界の民族音楽（オーストリア、ドイツ、ハンガリー、北アンデス周辺） 第３回　世界の民族音楽（ブラジル、アメリカ合衆国） 第４回　世界の民族音楽（アフリカ、インドネシア、インド、ハワイ） 第５回　世界の民族音楽（中国、韓国、日本） 第６回　中世・バロック時代の音楽（バッハ） 第７回　バロック時代（ヘンデル）と古典派の音楽（モーツァルト） 第８回　古典派の音楽（ベートヴェン） 第９回　ロマン派の音楽（シューベルト、ショパン） 第 10 回　ロマン派の音楽（リスト、メンデルスゾーン、シューマン） 第 11 回　ロマン派の音楽（ワーグナー、ブラームス） 第 12 回　ロマン派の音楽（チャイコフスキー）近代の音楽（ドビュッシー） 第 13 回　近代の音楽（ドヴォルザーク、ラヴェル）現代の音楽（ガーシュウィン、サティ、ケージ） 第 14 回　オペラ、オペレッタ、ミュージカル 第 15 回　ミュージカル鑑賞		
授業方法	講義と鑑賞を中心とするが、音楽の本質にふれるため、歌うなどの実技演習も行う。毎回授業の最後に、その日の内容に関するレポート（感想を含む）の提出を課す。		
アクティブラーニングの視点	身近にあふれている様々な音楽について、積極的に調べ、自分自身がどのような音楽に魅力を感じるか、また自分にとって音楽とはどのような存在がを知る。		
授業外学習	授業内で紹介する音楽について鑑賞する。		
教科書	授業内で適宜紹介する。		
参考書	授業内でプリントを配布するなど適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 40%、レポート課題 60%で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	216	科目コード	61100
科目名	和の伝統文化論	授業コード	9313002
教員名	中村　哲　　（梶田叡一）		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	①和の伝統文化の役割と創造に関心をもち、伝統文化の具体的領域に積極的に関与し、その理念と技法を体得する意欲を形成する。 ②和の伝統文化の魅力と役割を考察し、これからの日本文化の創造を図る課題と方策を判断し、各自の見解を最終レポートとしてまとめる。 ③和の伝統文化の魅力と役割についての理解を通して、日本文化の特性と他国の文化との共通性に関する理解を深める。		
授業概要	第２次世界大戦後の日本は、民主主義社会の建設と資本主義社会としての経済的成長を図り、現在のように国際的に重要な貢献を図る国家として発展してきた。さらに、今日では世界の国々の相互依存関係だけでなくそのような関係を超えたグローバル世界における諸課題に対応する役割を担う状況に直面している。このような状況において、今後の豊かな世界を創造するために従来の政治と経済の機能重視から文化に関心が向けられてきている。なぜなら、文化は政治と経済の機能の土台になるとともに、地域・国家・世界の社会的一員としての個人を結集し、国際社会の創造を図る文化力を生み出すからである。そして、日本を含めて世界の国々は文化振興と文化発信の施策を積極的に実施している。さらに、わが国の教育ではグローバル世界における人材教育が求められている。このような社会的背景を踏まえて本講義では、「これまでの日本を基軸とする和の伝統文化がどのように形成され、現在社会においてどのような役割を担い、これからのグローバル世界においてどのように意義を有するのか」という問いを考察するところにある。		
授業計画	第１回　　和の伝統文化論のオリエンテーション―授業の目的・内容・方法と趣旨―（中村） 第２回　　和の伝統文化の真髄―和の心―（梶田） 第３回　　和の伝統文化の伝統行事１―端午の節句と鯉のぼり―（中村） 第４回　　和の伝統文化の伝統行事２―鯉のぼりの作成―（中村） 第５回　　和の伝統文化の伝統芸能１－歌舞伎の歴史と演目―（中村） 第６回　　和の伝統文化の伝統芸能２－歌舞伎「勧進帳」の鑑賞―（中村） 第７回　　和の伝統文化の伝統芸能３―能楽の歴史と演目―（中村） 第８回　　和の伝統文化の伝統芸能４―能楽「敦盛」の鑑賞―（中村） 第９回　　和の伝統文化の遊戯１―折り紙と ORIGAMI―（中村） 第 10 回　和の伝統文化の遊戯２―折り紙の作成―（中村） 第 11 回　和の伝統文化の芸道１―茶道の歴史と理念―（中村） 第 12 回　和の伝統文化の芸道２―茶道の所作―（中村） 第 13 回　和の伝統文化の武道１―居合道の理―（中村） 第 14 回　和の伝統文化の武道２―居合道の技―　（中村） 第 15 回　和の伝統文化の意義―文化の継承と創造―（梶田）		
授業方法	和の伝統文化として基盤になる「和の心」「文化の継承と創造」（梶田担当、第 2 回と第 15 回）については担当者の講義形式になる。さらに、和の伝統文化としての具体的領域として、伝統行事の鯉のぼり活動、歌舞伎、能楽、折り紙、武道、茶道を取り上げ、中村教員が講義する。さらに、各文化領域の体験活動と実地見学等を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	日本文化の領域において各自が興味関心のある領域を選択し、その領域の内容についてのレポート作成を行う。また、各領域のレポートについての意見交換や体験活動を実施する。		
授業外学習	授業において指示される課題と考察レポートの作成		
教科書	便宜、資料を配付する。		
参考書	梶田叡一『和魂ルネッサンス』 あすとろ出版　 2009 年 中村　哲編著『和文化 QA 事典』 明治図書　2004 年 中村　哲編著『文化を基軸とする社会系教育の構築』 風間書房　2017 年 中村　哲編著『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』銀河書房　2019 年		

評価方法	成績については、授業への参加度（40%）、各授業での考察レポート（20%）、課題制作（20%）、講義内容を踏まえた各自の最終考察レポート（20%）に基づいて評価する。なお、出席の評価において授業中の態度も含める。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	217	科目コード	41095
科目名	日本国憲法	授業コード	9313960
教員名	梶居　佳広		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１　近代立憲政治の思想と歴史を理解し、社会の構成員としての意識を高める。 ２　日本国憲法の三大原則を学び、憲法についての理解と洞察を深める。 ３　憲法判断が分かれるような判例について考察することで、思考力・判断力・表現力を高める。 ４　日本国憲法を学ぶことで、教育公務員としての教養を身に付ける。		
授業概要	１　憲法は遠い存在ではなく、国民の基本的人権や安全を守ってくれる身近な存在であることに気付かせる。 ２　憲法改正に関する政治動向にも着目しながら解説する。 ３　憲法判断が分かれるような判例を取り上げ考察する。また、見解の異なる立場からディベートを行い、考察を深める。 ４　（対面講義の場合）憲法をめぐるテーマを定め、発表や討論を行う。		
授業計画	第１回：オリエンテーション・憲法とは何か 第２回：人権･憲法の歴史（大日本帝国憲法の成立まで） 第３回：人権･憲法の歴史（日本国憲法の成立まで） 第４回：日本国憲法の三大原則（国民主権） 第５回：日本国憲法の三大原則（平和主義　自衛隊をめぐる論議）／判例研究 第６回：日本国憲法の三大原則（平和主義　安全保障）／判例研究 第７回：日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重　人権総論）／判例研究 第８回：日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重　自由権）／判例研究 第９回：日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重　社会権）／判例研究 第 10 回：参政権＝国民の政治参加（選挙・地方自治のしくみ） 第 11 回：権力分立・議院内閣制（国会・内閣） 第 12 回：権力分立・司法について 第 13 回：新しい人権について（基本的人権の復習） 第 14 回：憲法改正の動き 第 15 回：憲法をめぐるテーマについての発表（まとめ） 期末試験（遠隔講義の場合、試験に代わるレポート提出）		
授業方法	講義形式とするが、一部発表・討議を盛り込みたい。		
アクティブラーニングの視点	共同学習、発表の実施など。		
授業外学習	日頃から新聞／参考書を活用して、憲法をめぐる諸問題について理解を深めること。		
教科書	指定教科書はありません。ただし、特に COVID-19 感染拡大により対面式講義が出来ない場合、参考書としてあげた文献（特に１ないし２）に目を通しておくことが望ましい。		
参考書	高等学校時代の教科書（現代社会、政治経済）も参考書として使えますが、持っていない方は 1.『もういちど読む　山川政治経済　新版』(山川出版社)，或いは 2. 君塚正臣『高校から大学への憲法』(法律文化社）がいいでしょう。また少々マニアックですが、3. 水島朝穂『18 歳からはじめる憲法（第２版)』(法律文化社）も刺激的な内容ですので、関心のある方は目を通してください。		
評価方法	原則、期末試験で評価する。ただし、試験だけで評価されたくない受講生は任意にレポートを提出することを認める（その場合、試験とレポートの配点は７：３の割合)。また講義への積極的な参加もプラス評価として考慮する。(補足) COVID-19 感染拡大により定期試験が実施出来ない場合は「最終レポート」を軸に評価するが、毎回の講義のコメントも重視する（最終レポート 40～50%：毎回の講義コメント 50～60%)。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	218	科目コード	41095
科目名	日本国憲法	授業コード	9322973
教員名	梶居　佳広		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１　近代立憲政治の思想と歴史を理解し、社会の構成員としての意識を高める。 ２　日本国憲法の三大原則を学び、憲法についての理解と洞察を深める。 ３　憲法判断が分かれるような判例について考察することで、思考力・判断力・表現力を高める。 ４　日本国憲法を学ぶことで、教育公務員としての教養を身に付ける。		
授業概要	１　憲法は遠い存在ではなく、国民の基本的人権や安全を守ってくれる身近な存在であることに気付かせる。 ２　憲法改正に関する政治動向にも着目しながら解説する。 ３　憲法判断が分かれるような判例を取り上げ考察する。また、見解の異なる立場からディベートを行い、考察を深める。 ４　（対面講義の場合）憲法をめぐるテーマを定め、発表や討論を行う。		
授業計画	第１回：オリエンテーション・憲法とは何か 第２回：人権･憲法の歴史（大日本帝国憲法の成立まで） 第３回：人権･憲法の歴史（日本国憲法の成立まで） 第４回：日本国憲法の三大原則（国民主権） 第５回：日本国憲法の三大原則（平和主義　自衛隊をめぐる論議）／判例研究 第６回：日本国憲法の三大原則（平和主義　安全保障）／判例研究 第７回：日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重　人権総論）／判例研究 第８回：日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重　自由権）／判例研究 第９回：日本国憲法の三大原則（基本的人権の尊重　社会権）／判例研究 第 10 回：参政権＝国民の政治参加（選挙・地方自治のしくみなど） 第 11 回：権力分立・議院内閣制（内閣・国会） 第 12 回：権力分立・司法について 第 13 回：「新しい人権」について（基本的人権の復習） 第 14 回：憲法改正の動き 第 15 回：憲法をめぐるテーマについての発表（まとめ） 期末試験（遠隔講義の場合、試験に代わるレポート提出）		
授業方法	講義形式とするが、一部発表・討議を盛り込みたい。		
アクティブラーニングの視点	共同学習、発表の実施など。		
授業外学習	日頃から新聞／参考書を活用して、憲法をめぐる諸問題について理解を深めること。		
教科書	指定教科書はありません。ただし、特に COVID-19 感染拡大により対面式講義が出来ない場合、参考書としてあげた文献（特に１ないし２）に目を通しておくことが望ましい。		
参考書	高等学校時代の教科書（現代社会、政治経済）も参考書として使えますが、持っていない方は 1.『もういちど読む　山川政治経済　新版』(山川出版社)，或いは 2. 君塚正臣『高校から大学への憲法』(法律文化社）がいいでしょう。また少々マニアックですが、3. 水島朝穂『18 歳からはじめる憲法（第２版)』(法律文化社）も刺激的な内容ですので、関心のある方は目を通してください。		
評価方法	原則、期末試験で評価する。ただし、試験だけで評価されたくない受講生は任意にレポートを提出することを認める（その場合、試験とレポートの配点は７：３の割合)。また講義への積極的な参加もプラス評価として考慮する。(補足) COVID-19 感染拡大により定期試験が実施出来ない場合は「最終レポート」を軸に評価するが、毎回の講義のコメントも重視する（最終レポート 40～50%：毎回の講義コメント 50～60%)。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	219	科目コード	41135
科目名	心理学	授業コード	9322434
教員名	永井　明子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	「出会い」と「かかわり」を通して、「これから」の大学生活や社会生活を有意義に生きるために必要な心構えや心理学の知識を身につけることで、 ①自分を振り返ることができるようになる。 ②学んだ知識や心構えを他者とのコミュニケーションに活用することができるようになる。		
授業概要	目に見えない「心」の仕組みを解き明かそうと、心理学という学問ではこれまでに様々な研究が行われてきた。この講義ではそのような研究を参考にして、自分自身の見えない「心」を見つめてみる。自己と向き合い、人とかかわり、社会との出会いを考えることで自分を再発見し、自分の未来を自分の力で切り開いていく。		
授業計画	１．オリエンテーションとグループ作り ２．パーソナリティをみる ３．心のなりたち ４．無意識のはたらき ５．自己をみつめる ６．自己をつかむ ７．私の子ども時代 ８．対人関係をふりかえる ９．対人態度を知る 10．人とのかかわり方 11．私の友人関係 12．社会とのかかわりと帰属意識 13．想像力と創造力 14．職業選択 15．自分の将来イメージ		
授業方法	演習形式で行い、毎回の授業内容についてグループ・ディスカッションやふり返りを行う。 第１回目の授業で、活動グループを作り、そのグループで 15 回の授業を受講していくので、必ず第１回目の授業に出席すること。		
アクティブラーニングの視点	対話を通して自分を知ることが授業の大きな目的になるため、事前に、教科書記載の心理テストを実施してくることが必須である。また授業中には自分の結果を振り返るだけではなく、この授業の為に編成された固定グループのメンバーとその振り返りをシェアすることになる。さらには自分と他のメンバーを比べる中で見えてきたものをミニレポートとして表出することも求められる。		
授業外学習	毎回、課題の内容を指示する。課題ができていない場合は授業に参加できない。		
教科書	川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩著『これからを生きる心理学「出会い」と「かかわり」のワークブック』ナカニシヤ出版，2008 年		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業の取り組み姿勢を重視する。毎回の課題への取り組みや授業への積極的な参加がない場合はその回の得点は 0 点とする。 授業外学習 40%・授業への参加度 20%・ミニレポート（振り返り）40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	220	科目コード	41105
科目名	人権論	授業コード	9322987
教員名	須郷　紳弘		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	＊人権尊重などに係わる基本的な考え方などを習得する。 ＊身近な事例等を通して理解を深める。 ＊倫理，人権をテーマとする学びを通して，社会人として求められる人間力を高めていく。		
授業概要	本授業では，人権等に関する基本的な考え方などを学ぶ。また，意思決定支援を軸に生命倫理などの各種事例を検証し，社会人としての必要な資質を養う。また，グループ討議などの活動を通して，自己理解，他者理解を深めていく。		
授業計画	1．オリエンテーション，障害者の権利条約と成年後見制度 2．意思決定支援の方法 3．意思決定を拒否する人への支援 4．愚行権と意思決定支援 5．臓器移植と意思決定支援（１） 6．臓器移植と意思決定支援（２） 7．医学の倫理（治験など） 8．出生前診断などについて考える 9．人間とは何かについて考える（パーソン論など） 10．高齢者の人権について考える（認知症など） 11．インフォームド・コンセントについて考える 12．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（１） 13．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（２） 14．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（３） 15．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（４），まとめ		
授業方法	講義，事例検討。グループ討議なども組み入れる予定。		
アクティブラーニングの視点	できるだけ，授業の中で，個々人の意見を発言してもらう機会を設けるとともに，可能な範囲で 少人数のグループを組みディスカッションなどを行う予定		
授業外学習	毎授業前に、当該授業回のテーマについて２時間以上の準備学修を行うこと。 また、毎授業後に、当該授業回で学習した内容について２時間以上復習すること		
教科書	授業中に適宜紹介する		
参考書	古橋エツ子監修，和田幸司編著 2021 年『人権論の教科書』ミネルヴァ書房		
評価方法	授業への参加度（20%）　授業中に毎回作成してもらうレポート（80%） 授業への参加度は，個々人の発言内容，グループ討議の参加態度などを評価する。 レポートは，毎授業に作成してもらう予定。内容とともに，誤字脱字がないか等についても評価する。文字数については，授業ごとに指定する。 ※なお、遠隔授業の際は，毎回作成してもらうレポート（１００%）のみで評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	障害児・者施設での勤務経験を有する者がその経験を活かして人権，倫理等の概要について解説する		

No.	221	科目コード	61110
科目名	教育倫理学	授業コード	9326000
教員名	須郷　紳弘		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	＊人権尊重などに係わる基本的な考え方などを習得する。 ＊身近な事例等を通して理解を深める。 ＊倫理，人権をテーマとする学びを通して，社会人として求められる人間力を高めていく。		
授業概要	本授業では，人権等に関する基本的な考え方などを学ぶ。また，意思決定支援を軸に生命倫理などの各種事例を検証し，社会人としての必要な資質を養う。また，グループ討議などの活動を通して，自己理解，他者理解を深めていく。		
授業計画	1．オリエンテーション，障害者の権利条約と成年後見制度 2．意思決定支援の方法 3．意思決定を拒否する人への支援 4．愚行権と意思決定支援 5．臓器移植と意思決定支援（１） 6．臓器移植と意思決定支援（２） 7．医学の倫理（治験など） 8．出生前診断などについて考える 9．人間とは何かについて考える（パーソン論など） 10．高齢者の人権について考える（認知症など） 11．インフォームド・コンセントについて考える 12．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（１） 13．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（２） 14．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（３） 15．　人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（４），まとめ		
授業方法	講義，事例検討。グループ討議なども組み入れる予定。		
アクティブラーニングの視点	できるだけ，授業の中で，個々人の意見を発言してもらう機会を設けるとともに，可能な範囲で 少人数のグループを組みディスカッションなどを行う予定		
授業外学習	毎授業前に、当該授業回のテーマについて２時間以上の準備学修を行うこと。 また、毎授業後に、当該授業回で学習した内容について２時間以上復習すること		
教科書	授業中に適宜紹介する		
参考書	古橋エツ子監修，和田幸司編著 2021 年『人権論の教科書』ミネルヴァ書房		
評価方法	授業への参加度（20%）　授業中に毎回作成してもらうレポート（80%） 授業への参加度は，個々人の発言内容，グループ討議の参加態度などを評価する。 レポートは，毎授業に作成してもらう予定。内容とともに，誤字脱字がないか等についても評価する。文字数については，授業ごとに指定する。 ※なお、遠隔授業の際は，毎回作成してもらうレポート（１００%）のみで評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	障害児・者施設での勤務経験を有する者がその経験を活かして人権，倫理等の概要について解説する		

No.	222	科目コード	66210
科目名	救急処置法	授業コード	9313922
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 救急処置の必要性について理解する。 2. CPR および AED を実施することができる。 3. RICE 処置、固定法、運搬法を実施することができる。		
授業概要	スポーツフィールドでの様々な内科的傷害、外科的傷害に対応できるようそれぞれの原因、症状、対処法に関して講義と演習を行う。スポーツ指導者としてスポーツ傷害への予防法、対処法としてテーピング、RICE 処置について演習を行う。重篤ケースに対しての応急処置方法の習得を目的とする。また最も緊急性の高い救急の ABC（気道確保、人工呼吸、心肺蘇生法）を習得するとともに救急手当ての法的問題についても講義を行う。		
授業計画	1. 救急法とは　＜担当：大槻＞ 2. 救急処置の基本的知識（重要性・実施者の心得、留意点と法的諸問題）　＜担当：大槻＞ 3. 緊急時の対応計画（救急医療体制の在り方）　＜担当：大槻＞ 4. 緊急時の救命処置Ⅰ（外科的疾患：頭頸部、骨髄損傷などの重篤例への対応）　＜担当：大槻＞ 5. 緊急時の救命処置Ⅱ（内科的疾患：意識障害、暑熱傷害、突然死、ショックなど）　＜担当：大槻＞ 6. 事故発生時のフローチャート　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 7. 緊急時の救命処置の実際Ⅰ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 8. 緊急時の救命処置の実際Ⅱ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 9. 外傷時の救急処置の実際Ⅲ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 10. 外傷時の固定Ⅰ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 11. 外傷時の固定Ⅱ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 12. 運搬法Ⅰ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 13. 運搬法Ⅱ　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 14. 総合演習Ⅰ（シミュレーション演習）　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞ 15. 総合演習Ⅱ（シミュレーション演習）　＜担当：大槻・中村・藤井・平岡＞		
授業方法	頻繁に演習を実施する。受講者は運動ができる服装で参加すること。初回ガイダンスにてグループ分けを行うので必ず出席すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎授業前に当該授業回テーマについて準備学修を行うこと。 また、毎授業後に当該授業回で学習した内容について復習すること。		
教科書	「赤十字救急法講習教本」日本赤十字社		
参考書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第 9 巻「救急処置」　日本スポーツ協会		
評価方法	試験およびレポート 60%、授業の参加度 40%を総合的に勘案し、評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が、その経験を活かして救急救命の指導にあたる。		

No.	223	科目コード	66220
科目名	生涯スポーツ論	授業コード	9322035
教員名	上田　真也		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・様々なスポーツ活動を通じて、自分の健康の維持・増進の方法について学ぶ。 ・運動の必要性について、体感する。 ・生涯にわたってスポーツを楽しむ意義について、理解を深める。		
授業概要	スポーツを通じて、性別、年齢を超えた“楽しみ”や“遊び”を感じることは重要なことである。生涯を通じて身体を動かすことの喜びや爽快感、達成感を味わえ、コミュニケーションづくりや心身のバランス等をもたらしてくれる。それが生涯スポーツの魅力といえる。本講義では、さまざまな運動やスポーツを通じ、生涯にわたって健康を維持・増進していくことの重要性を感じ取ってもらいたい。		
授業計画	第１回　本講義の目的、授業の進め方について 第２回　発育発達期の運動プログラム（１）（乳幼児） 第３回　発育発達期の運動プログラム（２）（小学校） 第４回　発育発達期の運動プログラム（３）（中学・高等学校） 第５回　社会とスポーツ（１） 第６回　社会とスポーツ（２） 第７回　中高年者とスポーツ（１） 第８回　中高年者とスポーツ（１） 第９回　女性とスポーツ（１） 第１０回　女性とスポーツ（２） 第１１回　障害者とスポーツ（１） 第１２回　障害者とスポーツ（２） 第１３回　介護予防と運動（１） 第１４回　介護予防と運動（２） 第１５回　生涯にわたる運動づくり		
授業方法	講義形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	ICT 機器を用いた情報収集を行うとともに、収集した情報についてのグループ討議を行う。		
授業外学習	予習・復習を行うこと。 また、生涯スポーツについて日頃から興味関心を持つ。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業態度…30% ミニレポート（毎時提出する。授業内容に対する理解度を評価する）…20% 課題レポート…50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	224	科目コード	66230
科目名	スポーツボランティア論	授業コード	9322148
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.ボランティアの起源や内容について理解することができる。 2.スポーツボランティアの取り組みについて理解することができる。 3.グループワークを通じて、発表、討論する力が身につく。		
授業概要	・ボランティアの種類について理解する。 ・スポーツボランティアの必要性を理解する。 ・スポーツボランティア種類と役割についての理解を深める。 ・「支える」側の立場に立って物事を考える。		
授業計画	第一回：オリエンテーション（授業の進め方と、評価方法について） 第二回：ボランティアとは（ボランティアの哲学・歴史） 第三回：生涯学習としてのボランティア 第四回：スポーツボランティアとは 第五回：スポーツ指導ボランティア 第六回：海外におけるスポーツボランティア 第七回：イベント運営に関わるボランティア①（世界大会） 第八回：イベント運営に関するボランティア②（市民大会） 第九回：障がい者スポーツにおけるボランティア 第十回：企業が行うスポーツボランティア 第十一回：グループワーク①（企画内容検討） 第十二回：グループワーク②（企画書の作成） 第十三回：グループワーク③（企画内容の ppt 作成） 第十四回：グループワーク④（企画発表会） 第十五回：授業の振り返りとまとめテスト		
授業方法	講義・ディスカッション・発表によって行う。 また、適宜動画も用いる。		
アクティブラーニングの視点	グループワークや、ディスカッションを行い、発表を行う		
授業外学習	・日頃からスポーツボランティアについて関心を持ち、新聞や雑誌などでスポーツボランティアに関する記事を読んでおく。 ・またスポーツだけに限定せず、ボランティア活動に関しても情報を収集しておくこと		
教科書	特に指定なし。必要に応じてレジュメを配布します。		
参考書	二宮雅也　「スポーツボランティア読本」 悠光堂　2017		
評価方法	毎授業の参加態度（30%） グループワークでの成果物（30%） 最終授業の際に実施するまとめテスト（40%）		
既修条件			
実務経験のある教員による授業	NGO の理事として、海外でのスポーツイベントを実施した実務経験のある教員が担当する。		

No.	225	科目コード	66240
科目名	生涯教育論	授業コード	9322101
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	生涯学習・成人教育（大人の学び）の視点から「学ぶこと」の意味を問い直す。そして、それを学校教育（子どもの学び）に応用できることを目的とする。		
授業概要	本授業では、生涯教育に関する基礎的な知識を学習した後に、生涯学習について見学実習を通して考えていくこととなる。また、学校教育においても授業デザインとして応用できることを目指す。		
授業計画	第 1 回　生涯について考える 第 2 回　生涯教育の意義 第 3 回　生涯教育の歴史 第 4 回　学習者の特性と学習の継続発展 第 5 回　生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育 第 6 回　各教育機能相互の連携と生涯学習支援システム 第 7 回　社会教育の内容、方法と形態 第 8 回　博物館見学実習（大阪市立自然史博物館） 第 9 回　博物館見学実習（大阪市立自然史博物館） 第 10 回　博物館見学実習（堺市立博物館） 第 11 回　博物館見学実習（堺市立博物館） 第 12 回　学校教育における体験学習 第 13 回　学校教育における指導方法 第 14 回　学習情報提供と学習相談の意義 第 15 回　生涯教育の今後の課題		
授業方法	最初の 5 回は遠隔授業となる予定である。その後は履修登録者数により対面授業となる。 博物館への 2 回の見学実習を行う。土曜日の午前中（9:20 から 12:30 まで実施し、2 回分の授業とする）に行う予定である。この 2 回の見学実習とレポートの提出を単位認定の条件とする。実施日については、第 1 回の授業資料に記載しておくので確認することとする。 現地までの交通費と入場料は各自の負担とする。		
アクティブラーニングの視点	講義を中心として授業を行うが、2 回の見学実習やその後の演習形式の授業を通してさらに深化した学習を目指す。		
授業外学習	レポートの作成等を通じて授業時間外に学習することを求める。		
教科書	適宜、プリントや資料を配布する。		
参考書	堀薫夫『生涯発達と生涯学習［第 2 版］』ミネルヴァ書房、2018 年 関口礼子・西岡正子・鈴木志元『新しい時代の生涯学習（第 3 版）』有斐閣、2018 年 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫『よくわかる生涯学習［改訂版］』ミネルヴァ書房、2016 年		
評価方法	平常点（毎回の課題の提出による評価）（３０％） 中間レポート課題（2 回の見学実習それぞれについて 1000 字程度のレポート課題）（各３０％、計６０％）：2 回の見学実習への参加を単位認定の要件とする。 最終レポート課題（学校現場における具体的な指導についての課題）（１０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	226	科目コード	68018
科目名	キリスト教概論	授業コード	9313159
教員名	松平　功		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	● 国際人に必要とされる基本的なキリスト教の知識を得ることができる。 ● 世界人口の３分１がキリスト教徒であることを踏まえ、キリスト教の基本的な思考方法を知ることで多面的に国際社会を知ることができる。 ● キリスト教と国際問題等の関係性を知ることで、外国籍生徒の多くなった幼稚園や学校の教師として、生徒たちを深く理解することができる。 ● 桃山学院の建学の精神の土台であるキリスト教に関する、初歩的かつ基礎的な知識を習得することができる。 ●（個人あるいは他学生と共同して）プレゼンテーションを作成して、会衆の前で発表することができる。		
授業概要	はじめに、キリスト教の倫理的観点を概観することで、どのような概念（あるいは信仰）を柱として社会を形成しているのかを知る。その中には、キリスト教の歴史的背景から生み出された陰と陽の世界が見え隠れする。そのような宗教から派生される諸問題に関して、深く掘り下げて考究する。 また、現代社会でのキリスト教に関わる諸問題（キリスト教に関わるか否かすら日本人は知らない事が多い）を取り上げ、聖書の記述から問題点についての検証を試みる。 現代社会の心の問題に触れ、キリスト教の視点から教師として生徒に寄り添うとは具体的にどういう事であるのかを解説し、次に学生達自らが熟考し何らかの答えを（可能であれば）考えてまとめる。 自ら社会問題をリサーチして、聖書の記述を参考にして自分なりの解決策（もしあれば）を検証してエレノアタイムで発表してもらう。		
授業計画	第一回　授業オリエンテーション 第二回　聖書の開き方、およびキリスト教の思考方法や倫理感等の初歩的知識の解説 第三回　キリスト教と世界：中東問題と旧約聖書（１） 第四回　キリスト教と世界：中東問題と旧約聖書（２） 第五回　キリスト教と人間：教師の視点から障がいのある生徒を考える（１） 第六回　キリスト教と人間：教師の視点から障がいのある生徒を考える（2） 第七回　キリスト教と人間：命は誰のものか：堕胎、脳死、自死等の考察 第八回　キリスト教と社会：キリスト教の黄金律の理想と現実 第九回　キリスト教と社会：資本主義とキリスト教 第十回　キリスト教と社会：科学の発展と自然破壊 第十一回　キリスト教と社会：隣人愛の教えと差別 第十二回　キリスト教と社会：隣人愛と他者に寄り添うということ 第十三回　キリスト教と社会：第一の近代化と第二の近代化・リスク社会 第十四回　キリスト教と LGBT：性の多様性・性的指向等 第十五回　キリスト教と LGBT：性の多様性・性自認等および授業の総まとめとテスト		
授業方法	基本的に講義形式であるが、討論的な場を持って学生自ら考えて意見を述べてもらいます。授業では、パワーポイントを使用するので視覚による学びも重視します。授業の中で共同研究および共同発表（どちらも個人も可）の解説を行います。基本的にパワーポイントを使用して、研究した内容をエレノアタイムで発表してもらいます（強制はしない）。		
アクティブラーニングの視点	共同研究および共同発表（個人でも可）の準備。学生（グループあるいは個人でも可）がテーマ（聖書と社会問題や聖書の教え等）を考えて、パワーポイントをツールとして作成しエレノアタイムで発表する。発表自体は強制しないが、教員になる訓練の一環として奨励する。		
授業外学習	自分の関心のある（あるいは関心を持つであろう）社会問題（少子高齢化社会、相対的貧困者、いじめ問題、幼児虐待問題等）を自分で選択し、本学図書館でその問題についての書籍を探し、毎週 2 時間リサーチすること。（注：テーマは必ず講師と相談して決めること） 聖書の通読を行う。ただし、内容が膨大であるため、４つある福音書のひとつを選んで通読すること。聖書に 30 分、教科書に 30 分の合計 1 時間を毎週朗読すること。 月・金の昼休みに 20 分程度の長さで行われるエレノアタイムの中で、グループワークあるいは個人でリサーチした内容を発表すること。		
教科書	遠藤まめた著『先生と親のための LGBT ガイド　もしあなたがカミングアウトされたなら』、2016 年、合同		

	出版。
参考書	『新共同訳聖書』日本聖書協会。購入する必要はありません。 エレノアホールに備え付けの聖書を貸し出しますので、キリスト教センター事務局で手続きしてください。（注：聖書に書き込まないこと） その他、適宜、資料を配布する。
評価方法	クラスの後に小テストを何度か行う（合計５０パーセント）、ファイナルテストまたは研究発表（グループまたは個人での発表＊３０パーセント）、 授業への参加度および発言内容などの総合評価（２０パーセント）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	本学、桃山学院を創設した日本聖公会の司祭であり、高槻聖マリヤ教会、石橋聖トマス教会、聖ルシヤ教会、守口聖オーガスティン教会の牧師として働き、プール学院大学および神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、プール学院中学高等学校、プール学院大学、桃山学院大学チャプレンを歴任し、現在、桃山学院教育大学のチャプレンがキリスト教学の講義を行う。

No.	227	科目コード	68018
科目名	キリスト教概論	授業コード	9322169
教員名	松平　功		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	● 国際人に必要とされる基本的なキリスト教の知識を得ることができる。 ● 世界人口の３分１がキリスト教徒であることを踏まえ、キリスト教の基本的な思考方法を知ることで多面的に国際社会を知ることができる。 ● キリスト教と国際問題等の関係性を知ることで、外国籍生徒の多くなった幼稚園や学校の教師として、生徒たちを深く理解することができる。 ● 桃山学院の建学の精神の土台であるキリスト教に関する、初歩的かつ基礎的な知識を習得することができる。 ●（個人あるいは他学生と共同して）プレゼンテーションを作成して、会衆の前で発表することができる。		
授業概要	はじめに、キリスト教の倫理的観点を概観することで、どのような概念（あるいは信仰）を柱として社会を形成しているのかを知る。その中には、キリスト教の歴史的背景から生み出された陰と陽の世界が見え隠れする。そのような宗教から派生される諸問題に関して、深く掘り下げて考究する。 また、現代社会でのキリスト教に関わる諸問題（キリスト教に関わるか否かすら日本人は知らない事が多い）を取り上げ、聖書の記述から問題点についての検証を試みる。 現代社会の心の問題に触れ、キリスト教の視点から教師として生徒に寄り添うとは具体的にどういう事であるのかを解説し、次に学生達自らが熟考し何らかの答えを（可能であれば）考えてまとめる。 自ら社会問題をリサーチして、聖書の記述を参考にして自分なりの解決策（もしあれば）を検証してエレノアタイムで発表してもらう。		
授業計画	第一回　授業オリエンテーション 第二回　聖書の開き方、およびキリスト教の思考方法や倫理感等の初歩的知識の解説 第三回　キリスト教と世界：中東問題と旧約聖書（１） 第四回　キリスト教と世界：中東問題と旧約聖書（２） 第五回　キリスト教と人間：教師の視点から障がいのある生徒を考える（１） 第六回　キリスト教と人間：教師の視点から障がいのある生徒を考える（2） 第七回　キリスト教と人間：命は誰のものか：堕胎、脳死、自死等の考察 第八回　キリスト教と社会：キリスト教の黄金律の理想と現実 第九回　キリスト教と社会：資本主義とキリスト教 第十回　キリスト教と社会：科学の発展と自然破壊 第十一回　キリスト教と社会：隣人愛の教えと差別 第十二回　キリスト教と社会：隣人愛と他者に寄り添うということ 第十三回　キリスト教と社会：第一の近代化と第二の近代化・リスク社会 第十四回　キリスト教と LGBT：性の多様性・性的指向等 第十五回　キリスト教と LGBT：性の多様性・性自認等および授業の総まとめとテスト		
授業方法	基本的に講義形式であるが、討論的な場を持って学生自ら考えて意見を述べてもらいます。授業では、パワーポイントを使用するので視覚による学びも重視します。授業の中で共同研究および共同発表（どちらも個人も可）の解説を行います。基本的にパワーポイントを使用して、研究した内容をエレノアタイムで発表してもらいます（強制はしない）。		
アクティブラーニングの視点	共同研究および共同発表（個人でも可）の準備。学生（グループあるいは個人でも可）がテーマ（聖書と社会問題や聖書の教え等）を考えて、パワーポイントをツールとして作成しエレノアタイムで発表する。発表自体は強制しないが、教員になる訓練の一環として奨励する。		
授業外学習	自分の関心のある（あるいは関心を持つであろう）社会問題（少子高齢化社会、相対的貧困者、いじめ問題、幼児虐待問題等）を自分で選択し、本学図書館でその問題についての書籍を探し、毎週 2 時間リサーチすること。（注：テーマは必ず講師と相談して決めること） 聖書の通読を行う。ただし、内容が膨大であるため、４つある福音書のひとつを選んで通読すること。聖書に 30 分、教科書に 30 分の合計 1 時間を毎週朗読すること。 月・金の昼休みに 20 分程度の長さで行われるエレノアタイムの中で、グループワークあるいは個人でリサーチした内容を発表すること。		
教科書	遠藤まめた著『先生と親のための LGBT ガイド　もしあなたがカミングアウトされたなら』、2016 年、合同		

	出版。
参考書	『新共同訳聖書』日本聖書協会。購入する必要はありません。 エレノアホールに備え付けの聖書を貸し出しますので、キリスト教センター事務局で手続きしてください。（注：聖書に書き込まないこと） その他、適宜、資料を配布する。
評価方法	クラスの後に小テストを何度か行う（合計５０パーセント）、ファイナルテストまたは研究発表（グループまたは個人での発表＊３０パーセント）、 授業への参加度および発言内容などの総合評価（２０パーセント）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	本学、桃山学院を創設した日本聖公会の司祭であり、高槻聖マリヤ教会、石橋聖トマス教会、聖ルシヤ教会、守口聖オーガスティン教会の牧師として働き、プール学院大学および神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、プール学院中学高等学校、プール学院大学、桃山学院大学チャプレンを歴任し、現在、桃山学院教育大学のチャプレンがキリスト教学の講義を行う。

No.	228	科目コード	68019
科目名	社会貢献論	授業コード	9313160
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１，社会情勢を理解し，これからの生き方を考える ２，SDGs を通じ，世界に目を向けられる ３，グループワーク等を通じて、発表、討論する力が身につく。		
授業概要	人間は家族、学校、職場などの集団に属し、そこでの習慣、規範に従って行動している。しかし一方で、個人として社会に影響を与え、社会を変化させることもできる。そして、人を傷つけ殺すこともするが、人を助けることもする。したがって、どのような生き方をするかは、人間の意志によるのである。 社会貢献も、まさに人間の意志によって行われる活動である。21 世紀の明暗は、社会貢献活動が活発に行われるか否かにかかっているといってよい。なぜならば、グローバル化のなか、自分だけ、自分の国だけがよければ良い、という世界は成立しなくなっているからである。 この授業では、人間としてのあり方を、国際協力やボランティア活動、災害援助等の事例を踏まえ、社会貢献という観点から考えたい。 ※本科目の履修学生は後期開講の「環境教育論」も合わせて履修することを推奨する。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　世界がもし 100 人の村だったら 第３回　　社会貢献とは 第４回　　社会貢献の歴史と社会的背景 第５回　　グローバリズムについて 第６回　　SDGs と MDGs 第７回　　SDGs と日本 第８回　　ボランティアとは 第９回　　ボランティアと災害 第 10 回　　ボランティアと国際協力 第 11 回　世界が抱える問題 第 12 回　ESD について 第 13 回　総合的な学習の時間での SDGs 教育 第 14 回　これからの企業活動と教育について 第 15 回　振り返りとまとめテスト		
授業方法	講義・グループワーク・発表によって行う。 映像等も用いながら授業を進めます。		
アクティブラーニングの視点	グループワークやディスカッション，発表を行う。		
授業外学習	・ニュース報道を通じて国内外の課題について情報を収集しておくこと。 ・レポートの作成，課題作成		
教科書	前林清和・中村浩也 編　　「SDGs 時代の社会貢献活動」　昭和堂　2021		
参考書	前林清和　「Ｗｉｎ－Ｗｉｎの社会をめざして-社会貢献の多面的考察-」　晃洋書房　2009 江田英里香　「ボランティア解体新書」　木立の文庫　2019		
評価方法	授業への参加度（45%） 最終授業の際に実施するまとめテスト（55%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業，教育機関，NGO での実践経験を持つ教員が担当する		

No.	229	科目コード	68020
科目名	多文化共生論	授業コード	9322161
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・多文化共生論の特性と課題を歴史、経済、政治、文化の視点を踏まえて理解する。 ・多文化共生の課題や今後の国際化について、資料活用によって調査し、発表する。 ・内なる国際化の現状を学びながら、在留外国人が抱える課題について理解を深める。 ・増加するニューカマーの子どもたちの学校生活と現状を知り、理解を深める。		
授業概要	多文化共生論の動向と課題についての講義によって理解し、各自の疑問や関心あるの課題について調査し、発表する。　多文化教育のニーズに対応でき、相互の違いを受け入れる教員の育成を目指す。		
授業計画	第１回　　授業に関するオリエンテーション「多文化共生とは」 第２回　　私たちの生活におけるグローバル化「モノとヒトのグローバル化」 第３回　　多文化主義政策の歴史と課題 第４回　　EU など西洋諸国における「難民」「移民」の受け入れと課題 第５回　　日本における多文化共生の様々な課題①　「送り出し国としての歴史」 第６回　　日本における多文化共生の様々な課題②「在留外国人の増加と政策」 第７回　　ゲストスピーカー講義と交流： 「「アフリカの子どもたちーキンシャサのストリートチルドレンの事例から」」 第８回　　学校における異文化理解や多文化共生の実態について① 第９回　学校における異文化理解や多文化共生の実態について② 第１０回　　ゲストスピーカー講義と交流： 「多文化共生時代のコミュニケーション：やさしい日本語の仕組み」 第 11 回　　ヘイト・スピーチ／ヘイト・クライムの課題と防止 第 12 回　　国際社会の軍縮・平和の課題 第 13 回　多文化共生論の様々な課題の調査内容の発表と議論① 第 14 回　多文化共生論の様々な課題の調査内容の発表と議論② 第 15 回　授業の総括として，これまで身に付けたことについて振り返る。		
授業方法	教師の講義と各自の調査内容の論議と発表		
アクティブラーニングの視点	多文化共生論における課題設定、課題に関する現状と原因の調査、課題の調査内容の発表と討論、課題に関する調査内容と対応策のレポート作成。		
授業外学習	多文化共生論の課題の調査と調査報告内容の作成		
教科書	教科書は使用しないが、必要なプリントを配布する。また参考書も紹介する。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	成績については、授業への取り組み姿勢（参加度・態度・提出物）（40%）、授業での考察と発表の報告内容（30%）、さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	230	科目コード	68021
科目名	社会福祉学概論	授業コード	9313162
教員名	森定　玲子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・社会福祉の基本的な考え方について説明できる。 ・社会福祉の制度や実施体系について説明できる。 ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の社会福祉の課題について考察することができる。		
授業概要	私たちは、誰でも、病気や失業、子育て、離婚、事故や老化による心身機能の低下など様々な生活上の困難や障害に直面することがある。そのような困難や障害に、自分ひとりの力で乗り切ることは難しく、社会の成員が相互に支え合う形で、社会福祉制度が作られてきた。本授業では、私たちの生活が予期しない出来事にいかに脆いものであり、誰もが社会福祉サービスを必要とする存在であることを、事例を通して理解していく。同時に、私たち自身が社会福祉サービスの担い手でもあることを理解していく。必要とされる支援とはどのようなものか、それを可能にするシステムはどのようなものか、受講者の皆さんと一緒に考察していく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（評価法と講義目的について）／社会福祉とは何か 第２回　ライフステージと社会福祉 第３回　ジェンダーと社会福祉 第４回　社会福祉の援助原理 第５回　ノーマライゼーション 第６回　少子社会の展開 第７回　子ども家庭福祉 第８回　社会の高齢化と介護問題 第９回　介護保険制度 第 10 回　障害の概念 第 11 回　障害者福祉 第 12 回　貧困問題 第 13 回　社会保障・公的扶助 第 14 回　地域福祉 第 15 回　これからの社会福祉の課題 期末試験		
授業方法	主として講義の形で行う。適宜、グループ討議を組み入れる。		
アクティブラーニングの視点	・授業に先立ち、テーマに関する情報をインターネットで検索したり、新聞記事を読んでコメントを書いたりする宿題を課す。そのことによって、学生は予備知識を持って授業に臨むことができると同時に、授業に対する学生の関心を高めることができる。 ・授業の中で、毎回、複数の質問を学生に投げかけ、テーマについて学生が深く考察するよう促す。 ・振り返りシートを毎回配布し、学生に授業内容についてまとめてもらい、それに対するコメントを記入して、翌週学生に返却する。振り返りシートを、教員と学生とのコミュニケーションツールとして活用する。		
授業外学習	毎回、課題用紙が配布され、翌週提出する。毎回、2 時間以上かけて、テーマに関する情報をインターネットで検索したり、関連する新聞記事を読んでコメントを書いたりする。		
教科書	指定なし。適時、資料（プリント）を配布する。		
参考書	山縣文治・岡田忠克編、2016 年、『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之、2013 年、『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門　改訂版』有斐閣 岩崎晋也、2018 年、『福祉原理―社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』有斐閣		
評価方法	期末試験 50%、毎回の課題用紙提出 40%、授業への参加度 10%（教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、積極的な発言などを評価する。）提出課題は確認後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	福祉現場での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、福祉現場の現状と課題について講義する。		

No.	231	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313261
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	232	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313272
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	233	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313283
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，中間報告会，進路別調査説明会 第 11 回　振り返り６，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 12 回　振り返り７，実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　コース別実践報告会 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かしてインターンシップの目的とそこでの学びについて具体的に指導する。		

No.	234	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313328
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における勤務経験や国際協力業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かし、人間教育を行う。		

No.	235	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313395
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．　観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．　自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．　体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かして小学校教師になるためのキャリア形成について指導する．		

No.	236	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313462
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	237	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313529
教員名	網代　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	238	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313601
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	239	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313606
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	240	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313611
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	241	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313612
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	242	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313615
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かしてインターンシップの目的とそこでの学びについて具体的に指導する。		

No.	243	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313616
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，中間報告会，進路別調査説明会 第 11 回　振り返り６，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 12 回　振り返り７，実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　コース別実践報告会 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かしてインターンシップの目的とそこでの学びについて具体的に指導する。		

No.	244	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313621
教員名	乾　匡		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	245	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313626
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	246	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313631
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。		

No.	247	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313636
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	248	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313641
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	249	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313646
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、キャリア形成、自己実現に向けて、具体性をふまえた実践的な指導を行う。		

No.	250	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313651
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，中間報告会，進路別調査説明会 第 11 回　振り返り６，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 12 回　振り返り７，実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　コース別実践報告会 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	民間企業での勤務経験がある教員が、その経験を活かして民間企業でのキャリアや育児との両立などについて指導を行う。		

No.	251	科目コード	66301
科目名	人間教育演習１	授業コード	9313659
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１.大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」と位置付けて学修の見通しを持ち、必要なスキル・態度を身につけることができる。 ２.多様な経験を通して「子ども」や「教育」に対する理解を深めることができる。 ３.キャリア・プランニングの基礎を理解することができる。 ４.演習や体験行事を通して、企画力・実行力・コミュニケーション能力・問題解決能力を高め、「人間力」を向上させることができる。 ５.「７つのやくそく 2.0」を実行することができる。		
授業概要	入学年次の学生が大学での学修や生活を円滑に開始することを支援するとともに、これからの４年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。そのため、大学生活のオリエンテーション、４年間の学修計画の立案と動機づけ、人間関係づくり、「子ども」や「教育」に対する基礎的な理解などに取り組む。学校園等での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視し、「自らが考える」ことを重視する。担当教員が担任（チューター）の役割を担うため、１年次の基礎的なクラスとしてキャリア・プランニングの時間としても活用する。		
授業計画	第 01 回　PC 学習①　ノート PC による office365 の活用について（課程） 第 02 回　オリエンテーション（学年全体） 第 03 回　PC 学習②　アカデミックライティング① メールの書き方（TG） 第 04 回　PC 学習③　アカデミックライティング② レポートの書き方（TG） 第 05 回　「キャリア講演会」（学年全体） 第 06 回　自分を語る①　個人面談、図書館ツアーを含む（TG） 第 07 回　自分を語る②　個人面談、図書館ツアーを含む（TG） 第 08 回　チューターによる専門教育講義①（課程） 第 09 回　学外演習事前指導①（課程） 第 10 回　学外演習事前指導②（TG） 第 11 回　学外演習「学校で学ぶ（小学校学校見学）」（課程） 第 12 回　学外演習の振り返り、お礼状（TG） 第 13 回　「人間力向上プロジェクト」①　人生で大切な価値を生きる　概要説明（学年全体） 第 14 回　「人間力向上プロジェクト」②　　人生で大切な価値を生きる　プランチェック（TG） 第 15 回　前期の振り返り（e ポートフォリオ　他）（TG）		
授業方法	各コースでチューターグループを単位として演習を行う。 授業内容により、学年全体やコース単位での指導を行う。学外での活動や授業も実施する。 なお、感染症予防対策、外部講師の都合等により、予定を変更する場合がある。		
アクティブラーニングの視点	班別での討論やグループ学習を積極的に取り入れる。 意見発表・実践報告の機会を設け、コミュニケーション能力の向上を重視する。 その際、 ICT の活用も促進する。		
授業外学習	指定された図書の購読、発表の事前準備、レポート作成、夏季休業中の「人間力」向上プロジェクトなど		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	必要に応じて適宜紹介する		
評価方法	原則として、各授業ごとにレポートを作成し提出することとし、授業への参加度（60%）、課題に対する理解度・到達度（40%）を評価する。 なお、この授業は演習が中心であり、それぞれの授業が全て関連付けられて構成されているので、欠席しないようにすること。 本科目は厚労省指定の保育士科目であるため、公欠及び単位認定の基準は、厚労省の指導及び学則に準ずることになる。このことも踏まえ、欠席が 3 回以上あると評価できなくなるので注意すること。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間のうち特別支援学校も含む）を活かして、発達障害児への教育や保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	252	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322044
教員名	網代　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	253	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322060
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	254	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322065
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	255	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322070
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	256	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322075
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	257	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322080
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かしてキャリア形成にむけて具体的に指導する。		

No.	258	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322085
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	259	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322090
教員名	乾　匡		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	260	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322095
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	261	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322100
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。		

No.	262	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322105
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	263	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322110
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	264	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322115
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、自己のキャリア形成、アカデミックスキル向上のために、具体性をふまえた実践的な指導を行う。		

No.	265	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322121
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．観察や補助的役割を通して教員や健康・スポーツ関連等の仕事の実際を知る． ２．自分のキャリア形成について常に意識し、その達成に向けて努力できる． ３．体験実習を通して自らの職業適性を見極める．		
授業概要	本演習の目的は，インターシップおよび各種体験活動を実践することにより，自己のキャリア形成意識を高めることであり，これらの実際の就業体験を通して自己実現に向けてのスキルアップを図ることに繋がる．また，具体的な目標を設定してインターシップ等の活動に臨み，活動終了後の振り返りでは，直面した課題をテーマにおき，ディスカッションすることで課題解決力を高める．また，教員をはじめ社会人としての人間力向上を目指す.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　自己のキャリア形成意識について・個人面談 第３回　インターシップ等活動に関する手続きについて（履歴書，誓約書，日誌等） 第４回　インターシップ等活動先　事前訪問指導 第５回　事前訪問の報告，訪問先との契約事項確認，直前指導（最終確認） 第６回　振り返り１，グループディスカッション１ 第７回　振り返り２，グループディスカッション２ 第８回　振り返り３，グループディスカッション３ 第９回　振り返り４，グループディスカッション４ 第 10 回　振り返り５，教育実習希望調査（希望届配布説明会） 第 11 回　キャリア形成プログラム，進路別調査説明会 第 12 回　実践報告会準備，お礼状作成準備，教育実習希望調査回収，進路別調査回収 第 13 回　クラス別実践報告会 第 14 回　クラス別全体振り返り、お礼状の作成等 第 15 回　全体実践報告会		
授業方法	オリエンテーション、事前研修、ふり返り、グループ討議、インターンシップ等報告会を行う。授業時間外に所定の活動を行い、日誌を提出することが必須となる。		
アクティブラーニングの視点	就業体験、日誌作成、ふり返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等		
授業外学習	１．授業時間外に所定のインターンシップ等活動を行なう。 ２．毎週、日誌を書き、直近の授業時に提出する。 ３．発表原稿やレポートを作成する。 ４．訪問にあたっては、社会的なマナーやルールを心がけること。 ５．その他、授業中に出された課題を行うこと。		
教科書	・インターンシップ A 学生用ハンドブック（20Ｐ） ・教職課程ガイドブック ・教育実習ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	インターンシップ活動および各種体験活動等を通じたキャリア形成状況について、活動日誌およびふり返り(60%)、報告会での発表(20%)、報告書(20%)で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	266	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322123
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．大学での４年間を「意欲」「体験」「本気」「本番」として学修の見通しを持ち，必要なスキルを身につける。 ２．多様な経験を通して「子ども」や「教育」の理解を深める。 ３．キャリア・プランニングの基礎を理解する。 ４．演習や体験行事を通して、企画実行力・コミュニケーション能力・問題解決力を高め、人間力を獲得する。		
授業概要	１年次の学生が大学での学習や生活を円滑に開始することを支援するとともに、その後の 4 年間を意欲的に取り組むための基礎を培うことを目的とする。具体的には、大学生活のオリエンテーション、これからの 4 年間の学修計画の立案と動機づけ、学習スキルの獲得、人間関係づくり、子ども教育学の基礎の理解などが内容である。学校園での見学実習、外部講師による講演会等を交え、体験や実践を重視した授業とする。担当教員が担任(チューター）の役割を担うため、1 年次の基礎的なクラスとしてキャリア・デザインの時間としても活用する。		
授業計画	第１回後期オリエンテーション（全コース全体） 第２回演習「主体的・対話的で深い学びについて」「個人発表会１」「個別面談」 第３回演習「主体的・対話的で深い学びについて」「個人発表会２」「個別面談」 第４回演習「主体的・対話的で深い学びについて」「個人発表会３」「個別面談」 第５回全体講演「子どもの安全について　サイバー犯罪」大阪府警本部生活安全部　奥田良氏（全コース全体） 第６回演習「教育課題について考える。」人権と教育（老いること） 第７回演習「教育課題について考える。」人権と教育（様々な人権課題） 第８回演習「教育課題について語る。」（人権学習発表会） 第９回演習「心豊かな教育」（インターシップ基礎１） 第１０回演習「心豊かな教育」（インターシップ基礎２） 第１１回演習「心豊かな教育」（インターシップ基礎３） 第１２回学外演習「本物に触れる」（模擬特別活動） 第１３回演習「みんなで考える。」（インターシップ振り返り） 第１４回演習「学校や社会を語る」（学校見学報告会） 第１５回演習「学校や社会を語る」（全コース全体発表会）		
授業方法	それぞれのコースでグループを単位として演習を行う。コースや内容によって大学の教室だけではなく外部で実施する。学外活動等による予定変更の可能性がある。		
アクティブラーニングの視点	６名程度の構成で協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、意見発表や報告などで学生間での評価を積極的に行う。 （その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。）		
授業外学習	課題図書読書、レポート作成		
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。		
参考書	なし。		
評価方法	毎回授業内にレポートを作成し必ず授業終了時に提出することし、そのレポートをもとに授業への参加度（50%）や課題への達成度（50%）を評価する。この授業は演習が中心でそれぞれの授業が全て関連付けられているので欠席しないようにすること。それゆえ欠席が３回以上あると評価できなくなるので注意すること。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	267	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322776
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	268	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322787
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	269	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322798
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　キャリア形成１：基礎学力調査Ⅰ（教員），「一般企業、公務員，福祉等」の職種について 第３回　　合同演習１：テーマ設定と計画立案（チューター指導） 第４回　　合同演習２：課題に関わる役割分担と実施（チューター指導） 第５回　　キャリア形成２：進路選択に向けた指導Ⅰ（共通） 第６回　　キャリア形成３：夢実現基礎づくりテスト（教員），採用試験について（一般） 第７回　　キャリア形成４：論作文指導（教員），夢実現基礎づくりテスト（一般） 第８回　　キャリア形成５：個人面接（教員），テスト解説と今後の学習について（一般） 第９回　　キャリア形成６：進路選択に向けた指導Ⅱ（共通） 第１０回　キャリア形成７：基礎学力調査Ⅱ（教員），進路選択に向けた指導Ⅱ（一般） 第１１回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導，就職登録カードの解説（共通） 第１２回　キャリア形成９：エントリーシートの作成（教員），企業研究とマッチングⅠ（一般） 第１３回　キャリア形成１０：　私学採用に関する解説（教員），企業研究とマッチングⅡ（一般） 第１４回　キャリア形成１１：人間教育フォーラムから学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成１２：教育実習報告会から学ぶ（共通）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かしてインターンシップの目的とそこでの学びについて具体的に指導する。		

No.	270	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322843
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における勤務経験や国際協力業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かし、人間教育を行う。		

No.	271	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322910
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かして小学校教師になるためのキャリア形成について指導する．		

No.	272	科目コード	66311
科目名	人間教育演習 2	授業コード	9322977
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自己のキャリア形成について考え，その達成に向けた方策を具体的に示せる． ２．社会人に必要な教養を身につけることができる． ３．アカデミックスキル（課題解決力，読解力，文章力，プレゼンテーション力等）を獲得する．		
授業概要	自己のキャリア形成意識とアカデミックスキルを向上させ，社会人としての核となる人間力を高めることを目的とする．そこで，本演習では，「キャリア形成」「アカデミックスキル」を中核に据え授業を展開し，進路および専門演習の方向性を明確にすることを試みる．そこで進路希望調査を基に進路別クラス編成を組み，各進路別で演習を進める．その過程において専門的知識，協同的な学びを深め，課題探究を授業計画のテーマに沿って実践する．		
授業計画	第１回　全体オリエンテーション・教育実習ガイダンス等 第２回　進路別コース・オリエンテーション 第３回　キャリア形成１：基礎学力調査①（教員）、夢実現プログラム①（幼保・一般） 第４回　キャリア形成２：基礎学力向上プログラム①（教員）、夢実現プログラム②（幼保・一般） 第５回　キャリア形成３：基礎学力向上プログラム②（教員）、夢実現プログラム③（幼保・一般） 第６回　キャリア形成４：基礎学力向上プログラム③（教員）、夢実現プログラム④（幼保・一般） 第７回　キャリア形成５：基礎学力調査②（教員）、夢実現プログラム⑤（幼保・一般） 第８回　キャリア形成６：基礎学力向上プログラム④（教員）、キャリア形成指導①（幼保・一般） 第９回　キャリア形成７：基礎学力向上プログラム⑤（教員）、キャリア形成指導②（幼保・一般） 第１０回　キャリア形成８：ゼミ選択に向けた指導、就職登録カードの解説（共通） 第１１回　キャリア形成９：基礎学力調査③（教員）、キャリア形成指導③（幼保・一般） 第１２回　キャリア形成 10：小論文指導（教員），キャリア形成指導④（幼保・一般） 第１３回　キャリア形成 11： エントリーシート、個人面接対策（教員），キャリア形成指導⑤（幼保・一般） 第１４回　キャリア形成 12：教育実習報告会から学ぶ（共通） 第１５回　キャリア形成 13：まとめ、学部長講話、キャリアガイダンス（キャリア・ラーニングセンター等）		
授業方法	講義，調査，討議，レポート作成，発表など，授業内容に応じた方法で実践される．		
アクティブラーニングの視点	調査，グループ討議，レポート作成，発表など		
授業外学習	１．自らの進路を選択していくために自己の適性を見極めることに努める． ２．教員採用試験，就職試験のための演習問題を学習する． ３．授業中に出された調査，課題を行う．		
教科書	・教職課程ハンドブック ・教育実習ハンドブック ・就職ハンドブック ＊授業で配布		
参考書	参考書は適宜紹介する．		
評価方法	授業やグループワークでの貢献度（積極的な質問や意見，リーダーシップ）６０％，　課題の提出等１５％，調査研究の内容（発表、資料）１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	273	科目コード	66320
科目名	学校保健	授業コード	9314291
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校保健に関する法的根拠や構造を学び、学校教育機関における健康指導のあり方について理解を深めて実践できる。		
授業概要	平成２０年に策定された「学校保健安全法」を基に、学校保健活動を進める前提となる児童・生徒の健康問題について理解を深める。また、学校保健の教育現場における領域、構造や内容を具体的な実践活動を含め概説し、教育活動全体で取り組む健康教育が次世代の健康推進に関与していることを学ぶ。		
授業計画	第１回：学校保健の考え方（学校保健の概要と学校保健計画等） 第２回：健康診断、健康相談、健康相談活動 第３回：疾病と予防 第４回：感染症と対応 第５回：学校教育機関におけるメンタルヘルス 第６回：子どもの発育・発達に関する諸問題 第７回：保健室の役割 第８回：学校安全の現状と課題 第９回：救急処置の理論と実際 第１０回：現代的な健康課題（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育等） 第１１回：現代的な健康問題（性に関する指導・生活習慣病） 第１２回：学校保健安全法について 第１３回：食育と学校給食 第１４回：学校保健活動の課題 第１５回：教育課程における保健教育（保健学習・保健指導） 期末試験		
授業方法	講義方式を基本とする		
アクティブラーニングの視点	ワークや振り返りコメントシートの作成・活用を通して協同的な学びの時間も重視する。		
授業外学習	報道されている学校における健康問題（いじめ、自殺、学校内感染など）についてどのような対処がなされているのか、また、どのような行政的な対応がなされているのかを学ぶ。 予習として、次回の授業該当部分について教科書の内容を読み、学習の課題や疑問を確認する。復習として、授業終了後に教科書の該当部分の内容を確認する。		
教科書	教員養成系大学保健協議会編 『学校保健ハンドブック　第 7 次改訂』 ぎょうせい，2019 年		
参考書	衛藤隆・岡田加奈子編 『学校保健マニュアル改訂 10 版』 南山堂，2022 年		
評価方法	授業への参加度（授業中の積極的な質問や意見など）30%、期末試験　70%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	養護教諭として学校現場の執務経験や児童生徒への指導・支援経験を豊富に持つ教員が、学校保健の理論と実践について講義する。さらに、その養護教諭経験を活かして各テーマに係わる学習活動や症例に対して体験事例を交えて指導する。		

No.	274	科目コード	66320
科目名	学校保健	授業コード	9322302
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校保健に関する法的根拠や構造を学び、学校教育機関における健康指導のあり方について理解を深めて実践できる。		
授業概要	平成２０年に策定された「学校保健安全法」を基に、学校保健活動を進める前提となる児童・生徒の健康問題について理解を深める。また、学校保健の教育現場における領域、構造や内容を具体的な実践活動を含め概説し、教育活動全体で取り組む健康教育が次世代の健康推進に関与していることを学ぶ。		
授業計画	第１回：学校保健の考え方（学校保健の概要と学校保健計画等） 第２回：健康診断、健康相談、健康相談活動 第３回：疾病と予防 第４回：感染症と対応 第５回：学校教育機関におけるメンタルヘルス 第６回：子どもの発育・発達に関する諸問題 第７回：保健室の役割 第８回：学校安全の現状と課題 第９回：救急処置の理論と実際 第１０回：現代的な健康課題（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育等） 第１１回：現代的な健康問題（性に関する指導・生活習慣病） 第１２回：学校保健安全法について 第１３回：食育と学校給食 第１４回：学校保健活動の課題 第１５回：教育課程における保健教育（保健学習・保健指導） 期末試験		
授業方法	講義方式を基本とする		
アクティブラーニングの視点	ワークや振り返りコメントシートの作成・活用を通して協同的な学びの時間も重視する。		
授業外学習	報道されている学校における健康問題（いじめ、自殺、学校内感染など）についてどのような対処がなされているのか、また、どのような行政的な対応がなされているのかを学ぶ。 予習として、次回の授業該当部分について教科書の内容を読み、学習の課題や疑問を確認する。復習として、授業終了後に教科書の該当部分の内容を確認する。		
教科書	教員養成系大学保健協議会編 『学校保健ハンドブック　第 7 次改訂』 ぎょうせい，2019 年		
参考書	衛藤隆・岡田加奈子編 『学校保健マニュアル改訂 10 版』 南山堂，2022 年		
評価方法	授業への参加度（授業中の積極的な質問や意見など）30%、期末試験　70%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	養護教諭として学校現場の執務経験や児童生徒への指導・支援経験を豊富に持つ教員が、学校保健の理論と実践について講義する。さらに、その養護教諭経験を活かして各テーマに係わる学習活動や症例に対して体験事例を交えて指導する。		

No.	275	科目コード	65320
科目名	特別支援教育	授業コード	9314579
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 （１）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 （２）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 （３）障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。		
授業概要	特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童及び生徒が、発達的観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。 これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童及び生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。		
授業計画	第１回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 第２回：発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や心理的特性　LD・ADHD 第３回：発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や心理的特性　自閉スペクトラム症 第４回：様々な障害のある幼児、児童及び生徒の基礎的な理解　視覚障害・聴覚障害について 第５回：様々な障害のある幼児、児童及び生徒の基礎的な理解　知的障害・肢体不自由・病弱等について 第６回：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難と対応　母国語や貧困などの問題について 第７回：発達障害のある幼児、児童及び生徒に対する支援方法 第８回：軽度知的障害のある幼児、児童及び生徒に対する支援方法 第９回：「通級による指導」の教育課程上の位置づけと理解 第 10 回：「自立活動」と教育課程上の位置付けと理解 第 11 回：特別支援教育に関する教育課程の枠組み 第 12 回：個別の指導計画と個別の教育支援計画作成の意義と方法の理解 第 13 回：特別支援教育コーディネーターの必要性への理解 第 14 回：関係機関や家庭との連携 第 15 回：特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒への組織的な対応		
授業方法	講議とグループ学習		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等）、振り返りシートの活用		
授業外学習	毎回、レポートに授業内容や感想をまとめたり、次回の予習として、提示されたテーマについて調べ学習を行い、翌週提出する。		
教科書	「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」（小林倫代他、学研）2018 年 必要に応じて、資料やレジメを配布する。		
参考書	「あったかクラスづくり　通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」 （著：松久 真実・米田 和子・高山 恵子　明治図書　2009 年）		
評価方法	①授業中の参加態度（授業における積極的な態度・発言など）20% ②ワークシート（内容の整合性、的確な記述など）30%		

	③課題レポート（提出期日、内容への理解度、字数、文献引用など）50%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。

No.	276	科目コード	65320
科目名	特別支援教育	授業コード	9322646
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 （１）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 （２）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 （３）障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。		
授業概要	特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童及び生徒が、発達的観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。 これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童及び生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。		
授業計画	第１回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 第２回：発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や心理的特性　LD・ADHD 第３回：発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や心理的特性　自閉スペクトラム症 第４回：様々な障害のある幼児、児童及び生徒の基礎的な理解　視覚障害・聴覚障害について 第５回：様々な障害のある幼児、児童及び生徒の基礎的な理解　知的障害・肢体不自由・病弱等について 第６回：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難と対応　母国語や貧困などの問題について 第７回：発達障害のある幼児、児童及び生徒に対する支援方法 第８回：軽度知的障害のある幼児、児童及び生徒に対する支援方法 第９回：「通級による指導」の教育課程上の位置づけと理解 第 10 回：「自立活動」と教育課程上の位置付けと理解 第 11 回：特別支援教育に関する教育課程の枠組み 第 12 回：個別の指導計画と個別の教育支援計画作成の意義と方法の理解 第 13 回：特別支援教育コーディネーターの必要性への理解 第 14 回：関係機関や家庭との連携 第 15 回：特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒への組織的な対応		
授業方法	講議とグループ学習		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等）、振り返りシートの活用		
授業外学習	毎回、レポートに授業内容や感想をまとめたり、次回の予習として、提示されたテーマについて調べ学習を行い、翌週提出する。		
教科書	「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」（小林倫代他、学研）2018 年 必要に応じて、資料やレジメを配布する。		
参考書	「あったかクラスづくり　通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」 （著：松久 真実・米田 和子・高山 恵子　明治図書　2009 年）		
評価方法	①授業中の参加態度（授業における積極的な態度・発言など）20% ②ワークシート（内容の整合性、的確な記述など）30%		

	③課題レポート（提出期日、内容への理解度、字数、文献引用など）50%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。

No.	277	科目コード	33070
科目名	教育原理	授業コード	9314455
教員名	網代 典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 　教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。 ①教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 ②教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関りや過去から現在に至るまでの教育及び変遷を理解する。 ③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する		
授業概要	教育という人間的な営みが、なぜ必要なのかを様々な角度から考えつつ、教育の理念や目標を理解する。そのために、教育の歴史を辿り、そこに現れた代表的な思想を検討しながら、とりわけ学校教育のあるべき姿を模索する。		
授業計画	第１回・・教育の本質及び目標 第２回・・教育学の諸概念 第３回・・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係（1） 第４回・・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係（2） 第５回・・家族による教育とその歴史 第６回・・社会による教育とその歴史 第７回・・近代教育制度の成立 第８回・・近代教育制度の展開 第９回・・教育課題の歴史的変遷 第 10 回・現代社会と教育課題 第 11 回・家庭や子どもに関わる教育の思想 第 12 回・学校や学習に関わる教育の思想 第 13 回・代表的な教育家の思想（1）17 世紀以前 第 14 回・代表的な教育家の思想（2）18 世紀 第 15 回・代表的な教育家の思想（3）19 世紀		
授業方法	歴史的な教育学の思想を学ぶに際して、現代の教育問題を取り上げるなど、具体的な教育学の授業として展開することを通して、教育原理の本質的な授業の理解を深めるようにする。		
アクティブラーニングの視点	可能な範囲でグループ等での意見交換などを取り入れる。また、振り返りカードなどを活用し、主体的で対話的で深い学習をめざす。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。 授業における課題レポートの作成		
教科書	「やさしい教育原理』（新版）田嶋一、中野新之助、福田須美子、狩野浩二編　有斐閣アルマ 必要に応じて、資料やレジュメを配付する		
参考書	「実践につながる教育原理」國崎大恩、藤川信夫　編著　北樹出版 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示）文部科学省 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示）文部科学省 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示）文部科学省		
評価方法	①授業への参加状況　（授業における積極的な態度・発言など）　20% ②授業で課すレポート（提出期日、内容の理解度、字数　など）　60% ③まとめのレポート　（提出期日、内容の理解度、字数　など）　20% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での教育実務の経験を持ち、教育行政での勤務経験のある者が、教育することの実質的意義について講義する。		

No.	278	科目コード	33070
科目名	教育原理	授業コード	9322482
教員名	網代 典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 　教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。 ①教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 ②教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関りや過去から現在に至るまでの教育及び変遷を理解する。 ③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する		
授業概要	教育という人間的な営みが、なぜ必要なのかを様々な角度から考えつつ、教育の理念や目標を理解する。そのために、教育の歴史を辿り、そこに現れた代表的な思想を検討しながら、とりわけ学校教育のあるべき姿を模索する。		
授業計画	第１回・・教育の本質及び目標 第２回・・教育学の諸概念 第３回・・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係（1） 第４回・・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係（2） 第５回・・家族による教育とその歴史 第６回・・社会による教育とその歴史 第７回・・近代教育制度の成立 第８回・・近代教育制度の展開 第９回・・教育課題の歴史的変遷 第 10 回・現代社会と教育課題 第 11 回・家庭や子どもに関わる教育の思想 第 12 回・学校や学習に関わる教育の思想 第 13 回・代表的な教育家の思想（1）17 世紀以前 第 14 回・代表的な教育家の思想（2）18 世紀 第 15 回・代表的な教育家の思想（3）19 世紀		
授業方法	歴史的な教育学の思想を学ぶに際して、現代の教育問題を取り上げるなど、具体的な教育学の授業として展開することを通して、教育原理の本質的な授業の理解を深めるようにする。		
アクティブラーニングの視点	可能な範囲でグループ等での意見交換などを取り入れる。また、振り返りカードなどを活用し、主体的で対話的で深い学習をめざす。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。 授業における課題レポートの作成		
教科書	「やさしい教育原理』（新版）田嶋一、中野新之助、福田須美子、狩野浩二編　有斐閣アルマ 必要に応じて、資料やレジュメを配付する		
参考書	「実践につながる教育原理」國崎大恩、藤川信夫　編著　北樹出版 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示）文部科学省 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示）文部科学省 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示）文部科学省		
評価方法	①授業への参加状況　（授業における積極的な態度・発言など）　20% ②授業で課すレポート（提出期日、内容の理解度、字数　など）　60% ③まとめのレポート　（提出期日、内容の理解度、字数　など）　20% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での教育実務の経験を持ち、教育行政での勤務経験のある者が、教育することの実質的意義について講義する。		

No.	279	科目コード	40020
科目名	教育心理学	授業コード	9314633
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。そのため、以下の各目標を掲げる。 （１）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 （２）幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。		
授業概要	将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。		
授業計画	テーマ 第１回：教育心理学とは 第２回：学習への行動論的アプローチを学び、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する 第３回：学習への認知論的アプローチを学び、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する 第４回：個人差について学び、主体的学習を支える動機づけ・集団づくりについて、発達の特徴と関連付けて理解する 第５回：主体的学習を支える動機づけの在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する 第６回：様々な学習の過程を説明する代表的理論の基礎を理解する 第７回：発達と教育について学び、幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する 第８回：乳幼児期の発達について学び、乳幼児期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する 第９回：児童期の発達について学び、児童期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する 第 10 回：青年期の発達について学び、青年期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する 第 11 回：教師と児童・生徒について学び、主体的学習を支える集団づくりについて、発達の特徴と関連付けて理解する 第 12 回：学校生活への不適応について学び、幼児、児童の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する 第 13 回：発達障害の諸相について学び、幼児、児童の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する 第 14 回：発達障害児への支援について学び、幼児、児童の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する 第 15 回：教育評価について学び、主体的学習を支える学習評価について、発達の特徴と関連付けて理解する		
授業方法	講義形式中心だが、ディスカッション・簡単な実験等も取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	授業への事前準備（予習）、振り返りシートの記入とクラスメートの振り返り内容へのコメント		
授業外学習	①授業の範囲を予習し、予習ノートを作ったものを提出。 ②授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やボランティア・インターンシップ等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートに		

	して提出。 ③新聞から教育や発達に関する記事を選びコピーし、内容を要約した上でコメントしたものを提出。
教科書	指定なし。講義で随時資料を配付する。
参考書	教育心理学（東京アカデミー　教職教養Ⅱ　サイエンス社） 教育心理学Ⅰ：発達と学習（心理学ベーシックライブラリ 5-I　著：渡部雅之・豊田弘司）
評価方法	①授業外学習（予習８％、復習ミニレポート８％、新聞記事についてのミニレポート８％） ②予習テスト（毎回授業開始時に行う）17％ ③振り返りシートの記入（８％）およびクラスメートの振り返りに対するコメント記入　（８％） ④授業内テスト（毎回授業終了時に行う）43％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	なし

No.	280	科目コード	40020
科目名	教育心理学	授業コード	9314654
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。そのため，以下の各目標を掲げる。 （１）幼児，児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 （２）幼児，児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。		
授業概要	将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため，その発達，学習の過程や支援方法，動機付け，人格と適応，教育評価，学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また，特別支援教育についても取り上げる。		
授業計画	第１回：人間発達の理解（１）：教育における発達理解の意義 第２回：人間発達の理解（２）：発達の原理 第３回：乳幼児期の発達 第４回：児童期の発達 第５回：青年期の発達 第６回：学習理論（１）：行動論的アプローチ 第７回：学習理論（２）：認知論的アプローチ 第８回：学習・授業の形態 第９回：学習と記憶（１）：記憶理論の基礎 第 10 回：学習と記憶（２）：記憶理論の応用 第 11 回：動機づけ 第 12 回：学級集団づくり 第 13 回：発達障害の諸相 第 14 回：発達障害児への支援 第 15 回：教育評価の在り方		
授業方法	教科書をもとに遠隔授業形式で行います。毎回、パワーポイントの資料と教科書を読んで、課題を提出してください。中間レポート課題と最終レポート課題は課題をダウンロードして、手書きで書いたものを提出してください。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート形式のプリントを用いた遠隔授業を行う。		
授業外学習	授業資料を参考に自ら教科書を読んで復習を行うこと及び授業中に配布される資料等を通じた深化学修を行うことにより授業外学習を２時間以上の行うこと		
教科書	本郷一夫・八木成和(編著)『シードブック教育心理学』 建帛社 2008 年発売		
参考書	本郷一夫（編著）　「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ[第２版]」　建帛社　2011 年発売		
評価方法	①平常点（授業中に課した課題の提出）30% ②中間レポート課題（教科書の内容についての要約の課題になります。記述の内容，内容への関心と理解度，字数，提出期限等）30% ③最終レポート課題（教科書の内容についての要約の課題になります。記述の内容，内容への関心と理解度，字数，提出期限等）40% なお，出席回数が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	281	科目コード	40020
科目名	教育心理学	授業コード	9322662
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。そのため，以下の各目標を掲げる。 （１）幼児，児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 （２）幼児，児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。		
授業概要	将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため，その発達，学習の過程や支援方法，動機付け，人格と適応，教育評価，学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また，特別支援教育についても取り上げる。		
授業計画	第１回：人間発達の理解（１）：教育における発達理解の意義 第２回：人間発達の理解（２）：発達の原理 第３回：乳幼児期の発達 第４回：児童期の発達 第５回：青年期の発達 第６回：学習理論（１）：行動論的アプローチ 第７回：学習理論（２）：認知論的アプローチ 第８回：学習・授業の形態 第９回：学習と記憶（１）：記憶理論の基礎 第 10 回：学習と記憶（２）：記憶理論の応用 第 11 回：動機づけ 第 12 回：学級集団づくり 第 13 回：発達障害の諸相 第 14 回：発達障害児への支援 第 15 回：教育評価の在り方 第 16 回：期末試験		
授業方法	教科書をもとに遠隔授業形式で行います。毎回、パワーポイントの資料と教科書を読んで、課題を提出してください。中間レポート課題と最終レポート課題は課題をダウンロードして、手書きで書いたものを提出してください。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート形式のプリントを用いた遠隔授業を行う。		
授業外学習	授業資料を参考に自ら教科書を読んで復習を行うこと及び授業中に配布される資料等を通じた深化学修を行うことにより授業外学習を２時間以上の行うこと		
教科書	本郷一夫・八木成和(編著)『シードブック教育心理学』 建帛社 2008 年発売		
参考書	本郷一夫（編著）　「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ[第２版]」　建帛社　2011 年発売		
評価方法	①平常点（授業中に課した課題の提出）30% ②中間レポート課題（教科書の内容についての要約の課題になります。記述の内容，内容への関心と理解度，字数，提出期限等）30% ③最終レポート課題（教科書の内容についての要約の課題になります。記述の内容，内容への関心と理解度，字数，提出期限等）40% なお，出席回数が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	282	科目コード	62110
科目名	教職概論	授業コード	9314564
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。そのために、以下の各目標を掲げる。 （1）我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 （2）教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 （3）教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 （4）学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。		
授業概要	教員に求められるもの、求められる力は、近年その重要性をますます増している。教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を理解し、深く考え、自己の適性を判断し、児童・生徒を守り育てる教職への意欲を高めていく。それらの学びから、4 年間の大学生活で自己を主体的能動的に磨いていこうとする意欲を高めていく。		
授業計画	第 1 回：公教育の目的 第 2 回：公教育の担い手である教員の存在意義 第 3 回：進路選択に向け、他の職業との比較からみた教職の職業的特徴 第 4 回：教職観の変遷 第 5 回：教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を考える 第 6 回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力（1）文部科学省、各教育委員会の文書を通して 第 7 回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力（2）テキストを通して 第 8 回：幼児への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像 第 9 回：児童への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像 第 10 回：教員研修の意義及び制度上の位置付け 第 11 回：教員研修の意義及び制度上の位置付けを踏まえ、専門職として適切に職務を遂行するために教員が生涯にわたって学び続けることの重要性 第 12 回：教員に課せられる服務上・身分上の義務 第 13 回：教員に与えられる身分保障 第 14 回：校内の教職員や多様な専門性を持つ人物との効果的に連携・分担できる教員を目指して 第 15 回：校内の教職員や多様な専門性を持つ人物とチームとして組織的に諸課題に対応できる教員を目指して		
授業方法	前時の終わりに学校現場で起きた事例を取り上げた講話から学生は学びの視点をもつ。本時においては、事前学習で作成してきたワークシート（前時の講話から得たポイントを足場にテキストを読み、学習課題に沿って記入）を読み合う協働学習①（他者のワークシートを読み、自分として価値ある作品と評価した場合にはサインを入れる）、協働学習②（全員の前で自分のワークシート内容を語り、発表者の語りを傾聴する）、自分学習（教員の話を聴き、その上で自分の学びを振り返る）と授業は展開される。		
アクティブラーニングの視点	テキストを読み、学習課題にそってワークシートを記入（予習）の後、協働学習（他者のワークシートを読み、他者の発表を聴き、自分として最も価値あるものを選ぶ）、自分学習（協働学習の後、教員の話を聴き、その上で自分の学びを振り返る）へと進む。		
授業外学習	毎時間、必ずワークシートを事前学習で作成する。本時で扱うテキスト内容に関連した講話から、学習課題を考える足場をつくり、学習課題を読み解くためにテキストを熟読し、自分の意見、その理由【根拠】、意見に関連する自分のエピソード、学んだことを自分にどう生かすのかを記入する。		
教科書	鎌田首治朗編著『教職概論――人間教育の理念から学ぶ』ミネルヴァ書房		
参考書	幼稚園教育要領、小学校　学習指導要領（文部科学省）		
評価方法	①意欲的能動的な学習への参加状況（指示通りにできているだけでなく、進んで傾聴しているか、進んで理解したり、考えたりしているか、進んで発表しているか）　５０％ ②ワークシートにおける学びの質（提出、意見と理由【根拠】の論理性、理由【根拠】におけるエピソー		

	ド）　２０％ ③授業の振り返りにおける学びの質（授業内容の理解、自分なりの意見、記述内容の価値）　１０％ ④まとめレポート（記述内容、価値、段落構成、字数、提出期日）　１０％ ※出席回数が所定の回数に満たない場合は評価対象にしません。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして指導する。

No.	283	科目コード	62110
科目名	教職概論	授業コード	9322714
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。そのために、以下の各目標を掲げる。 （1）我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 （2）教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 （3）教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 （4）学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。		
授業概要	教員に求められるもの、求められる力は、近年その重要性をますます増している。教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を理解し、深く考え、自己の適性を判断し、児童・生徒を守り育てる教職への意欲を高めていく。それらの学びから、4 年間の大学生活で自己を主体的能動的に磨いていこうとする意欲を高めていく。		
授業計画	第 1 回：公教育の目的 第 2 回：公教育の担い手である教員の存在意義 第 3 回：進路選択に向け、他の職業との比較からみた教職の職業的特徴 第 4 回：教職観の変遷 第 5 回：教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を考える 第 6 回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力（1）文部科学省、各教育委員会の文書を通して 第 7 回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力（2）テキストを通して 第 8 回：幼児への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像 第 9 回：児童への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像 第 10 回：教員研修の意義及び制度上の位置付け 第 11 回：教員研修の意義及び制度上の位置付けを踏まえ、専門職として適切に職務を遂行するために教員が生涯にわたって学び続けることの重要性 第 12 回：教員に課せられる服務上・身分上の義務 第 13 回：教員に与えられる身分保障 第 14 回：校内の教職員や多様な専門性を持つ人物との効果的に連携・分担できる教員を目指して 第 15 回：校内の教職員や多様な専門性を持つ人物とチームとして組織的に諸課題に対応できる教員を目指して		
授業方法	前時の終わりに学校現場で起きた事例を取り上げた講話から学生は学びの視点をもつ。本時においては、事前学習で作成してきたワークシート（前時の講話から得たポイントを足場にテキストを読み、学習課題に沿って記入）を読み合う協働学習①（他者のワークシートを読み、自分として価値ある作品と評価した場合にはサインを入れる）、協働学習②（全員の前で自分のワークシート内容を語り、発表者の語りを傾聴する）、自分学習（教員の話を聴き、その上で自分の学びを振り返る）と授業は展開される。		
アクティブラーニングの視点	テキストを読み、学習課題にそってワークシートを記入（予習）の後、協働学習（他者のワークシートを読み、他者の発表を聴き、自分として最も価値あるものを選ぶ）、自分学習（協働学習の後、教員の話を聴き、その上で自分の学びを振り返る）へと進む。		
授業外学習	毎時間、必ずワークシートを事前学習で作成する。本時で扱うテキスト内容に関連した講話から、学習課題を考える足場をつくり、学習課題を読み解くためにテキストを熟読し、自分の意見、その理由【根拠】、意見に関連する自分のエピソード、学んだことを自分にどう生かすのかを記入する。		
教科書	鎌田首治朗編著『教職概論――人間教育の理念から学ぶ』ミネルヴァ書房		
参考書	幼稚園教育要領、小学校　学習指導要領（文部科学省）		
評価方法	①意欲的能動的な学習への参加状況（指示通りにできているだけでなく、進んで傾聴しているか、進んで理解したり、考えたりしているか、進んで発表しているか）　５０％ ②ワークシートにおける学びの質（提出、意見と理由【根拠】の論理性、理由【根拠】におけるエピソー		

	ド）　２０％ ③授業の振り返りにおける学びの質（授業内容の理解、自分なりの意見、記述内容の価値）　１０％ ④まとめレポート（記述内容、価値、段落構成、字数、提出期日）　１０％ ※出席回数が所定の回数に満たない場合は評価対象にしません。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして指導する。

No.	284	科目コード	33071
科目名	保育者論	授業コード	9322574
教員名	土田　明子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.保育者の役割と倫理について理解できる 2.保育士の制度的な位置づけを理解できる 3.保育士の専門性について考察し、理解できる 4.保育者の連携・協働について理解できる 5.保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる		
授業概要	保育者として期待され実践者として知識や態度を習得する 特に保育現場に求められる力を知ることができ、学びながら子供たちが豊かに育っていくための保育その役割（子ど発達発達保障・保護者支援・職員間の連携）と保育者の役割が（地域交流・専門機関との連携・地域子育て支援）理解できるようになる		
授業計画	1.保育所の役割 2.乳児の生活　　（食事・睡眠・排泄・着脱・アレルギー） 3.乳児のあそび　０歳児 4.乳児のあそび　１歳児 5.乳児のあそび　２歳児 6.幼児の生活　　（食事・睡眠・排泄・着脱） 7.幼児のあそび　３歳児 8.幼児のあそび　４歳児 9.幼児のあそび　５歳児（社会との接点） 10.保護者支援　　①（懇談会・面接・連絡帳・引き継ぎ・行事） 11.保護者支援　　②（地域との関係・地域活動・一時預かり・赤ちゃん訪問事業・地域のお祭り）） 12.保育者に求められる力　①（子ども理解） 13.保育者に求められる力　②（保育者・保護者とのコミュニケーション力） 14.法令規則　　（虐待・セクハラ・パワハラ・個人情報など） 15.授業の振り返りとまとめを文章化		
授業方法	保育現場で使っている資料や、子どもの活動映像を見ながら保育園の役割がイメージできるようにし、授業での発言、グループでの討議を重視し共に考えていく授業にしていく。		
アクティブラーニングの視点	授業での発言、グループ討議、振り返りシートの活用		
授業外学習	可能な限り、保育園などの見学、ボランティア、アルバイト体験などを通して、実際の保育者の仕事について触れる機会をもっておくこと。		
教科書	必要に応じて授業で配布する・実践集など		
参考書	特になし		
評価方法	授業の参加度：50%　・　課題レポート：50% 授業への参加度は教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	「保育とは何か」「保育士の役割」について保育園での４２年の勤務経験を活かし、現園長として今どんな人材を求めているのかなどを実践や具体例を通し講義をしていく。		

No.	285	科目コード	62120
科目名	教育行政学	授業コード	9314404
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。 具体的には以下の到達目標を掲げる。 １．現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ２．学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 ３．学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 ４．学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。		
授業概要	この授業では、学校教育の制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。公教育制度に関する原理的、法規上の知識を理解し、学校・学級の経営における仕組みや方法について学ぶ。また、近年重要になっている学校の安全管理や地域との連携についても理解する。		
授業計画	第１回：公教育の原理及び理念 第２回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第３回：公教育制度を構成している教育関係法規①日本国憲法と教育基本法 第４回：公教育制度を構成している教育関係法規②学校教育法 第５回：子供の生活の変化と指導上の課題いじめ・体罰と懲戒 第６回：公教育の目的を実現するための学校経営 第７回：学校における年間の教育活動とＰＤＣＡによる学校評価 第８回：学級経営の仕組みと効果的な方法 第９回：教職員の役割　関係法規と職務 第 10 回：学校と学校外の連携・協働 第 11 回：学校安全の必要性 第 12 回：生活安全・交通安全・災害安全に対応する具体的な取組 第 13 回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 第 14 回：地域との連携を基とする開かれた学校づくり 第 15 回：教育制度をめぐる諸課題　これからの学校教育		
授業方法	教科書の内容に即して講義を行いつつ、学生同士のディスカッションも行う。 受講生には原則その回の教科書の内容を予習してもらい、講義ではその補足を行いつつディスカッションに臨んでもらう。		
アクティブラーニングの視点	各回授業後にコメントシートに記入してもらい、翌週にコメントに対するフィードバックを返す。 また、授業内でのディスカッションを適宜実施する。		
授業外学習	講義内のディスカッションに参加するため、内容の予習は必ず行うこと。 具体的な範囲は授業の各回で指示する。 授業後にはコメントシートに意見・質問・感想等を記入し提出してもらう。		
教科書	高見茂 他編『教育法規スタートアップネクスト』昭和堂、2018 年。		
参考書	2022 年度版教職六法（監修：若井彌一、協同出版、2021 年） その他授業中にプリントを配布。		
評価方法	授業後のコメントシートへの記述：30％ 授業への参加度：10％ 期末レポートによる評価：60％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	286	科目コード	62120
科目名	教育行政学	授業コード	9322677
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。 具体的には以下の到達目標を掲げる。 １．現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ２．学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 ３．学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 ４．学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。		
授業概要	この授業では、学校教育の制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。公教育制度に関する原理的、法規上の知識を理解し、学校・学級の経営における仕組みや方法について学ぶ。また、近年重要になっている学校の安全管理や地域との連携についても理解する。		
授業計画	第１回：公教育の原理及び理念 第２回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第３回：公教育制度を構成している教育関係法規①日本国憲法と教育基本法 第４回：公教育制度を構成している教育関係法規②学校教育法 第５回：子供の生活の変化と指導上の課題いじめ・体罰と懲戒 第６回：公教育の目的を実現するための学校経営 第７回：学校における年間の教育活動とＰＤＣＡによる学校評価 第８回：学級経営の仕組みと効果的な方法 第９回：教職員の役割　関係法規と職務 第 10 回：学校と学校外の連携・協働 第 11 回：学校安全の必要性 第 12 回：生活安全・交通安全・災害安全に対応する具体的な取組 第 13 回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 第 14 回：地域との連携を基とする開かれた学校づくり 第 15 回：教育制度をめぐる諸課題　これからの学校教育		
授業方法	教科書の内容に即して講義を行いつつ、学生同士のディスカッションも行う。 受講生には原則その回の教科書の内容を予習してもらい、講義ではその補足を行いつつディスカッションに臨んでもらう。		
アクティブラーニングの視点	各回授業後にコメントシートに記入してもらい、翌週にコメントに対するフィードバックを返す。 また、授業内でのディスカッションを適宜実施する。		
授業外学習	講義内のディスカッションに参加するため、内容の予習は必ず行うこと。 具体的な範囲は授業の各回で指示する。 授業後にはコメントシートに意見・質問・感想等を記入し提出してもらう。		
教科書	高見茂 他編『教育法規スタートアップネクスト』昭和堂、2018 年。		
参考書	2022 年度版教職六法（監修：若井彌一、協同出版、2021 年） その他授業中にプリントを配布。		
評価方法	授業後のコメントシートへの記述：30％ 授業への参加度：10％ 期末レポートによる評価：60％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	287	科目コード	66360
科目名	教育行政学（中・高）	授業コード	9318745
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。 具体的には以下の到達目標を掲げる。 １．現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ２．学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 ３．学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 ４．学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。		
授業概要	この授業では、学校教育の制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。公教育制度に関する原理的、法規上の知識を理解し、学校・学級の経営における仕組みや方法について学ぶ。また、近年重要になっている学校の安全管理や地域との連携についても理解する。		
授業計画	第１回：公教育の原理及び理念 第２回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第３回：公教育制度を構成している教育関係法規①日本国憲法と教育基本法 第４回：公教育制度を構成している教育関係法規②学校教育法 第５回：子供の生活の変化と指導上の課題いじめ・体罰と懲戒 第６回：公教育の目的を実現するための学校経営 第７回：学校における年間の教育活動とＰＤＣＡによる学校評価 第８回：学級経営の仕組みと効果的な方法 第９回：教職員の役割　関係法規と職務 第 10 回：学校と学校外の連携・協働 第 11 回：学校安全の必要性 第 12 回：生活安全・交通安全・災害安全に対応する具体的な取組 第 13 回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 第 14 回：地域との連携を基とする開かれた学校づくり 第 15 回：教育制度をめぐる諸課題　これからの学校教育		
授業方法	教科書の内容に即して講義を行いつつ、学生同士のディスカッションも行う。 受講生には原則その回の教科書の内容を予習してもらい、講義ではその補足を行いつつディスカッションに臨んでもらう。		
アクティブラーニングの視点	各回授業後にコメントシートに記入してもらい、翌週にコメントに対するフィードバックを返す。 また、授業内でのディスカッションを適宜実施する。		
授業外学習	講義内のディスカッションに参加するため、内容の予習は必ず行うこと。 具体的な範囲は授業の各回で指示する。 授業後にはコメントシートに意見・質問・感想等を記入し提出してもらう。		
教科書	高見茂 他編『教育法規スタートアップネクスト』昭和堂、2018 年。		
参考書	2022 年度版教職六法（監修：若井彌一、協同出版、2021 年） その他授業中にプリントを配布。		
評価方法	授業後のコメントシートへの記述：30％ 授業への参加度：10％ 期末レポートによる評価：60％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	288	科目コード	66360
科目名	教育行政学（中・高）	授業コード	9326740
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。 具体的には以下の到達目標を掲げる。 １．現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ２．学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 ３．学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 ４．学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。		
授業概要	この授業では、学校教育の制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。公教育制度に関する原理的、法規上の知識を理解し、学校・学級の経営における仕組みや方法について学ぶ。また、近年重要になっている学校の安全管理や地域との連携についても理解する。		
授業計画	第１回：公教育の原理及び理念 第２回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第３回：公教育制度を構成している教育関係法規①日本国憲法と教育基本法 第４回：公教育制度を構成している教育関係法規②学校教育法 第５回：子供の生活の変化と指導上の課題いじめ・体罰と懲戒 第６回：公教育の目的を実現するための学校経営 第７回：学校における年間の教育活動とＰＤＣＡによる学校評価 第８回：学級経営の仕組みと効果的な方法 第９回：教職員の役割　関係法規と職務 第 10 回：学校と学校外の連携・協働 第 11 回：学校安全の必要性 第 12 回：生活安全・交通安全・災害安全に対応する具体的な取組 第 13 回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 第 14 回：地域との連携を基とする開かれた学校づくり 第 15 回：教育制度をめぐる諸課題　これからの学校教育		
授業方法	教科書の内容に即して講義を行いつつ、学生同士のディスカッションも行う。 受講生には原則その回の教科書の内容を予習してもらい、講義ではその補足を行いつつディスカッションに臨んでもらう。		
アクティブラーニングの視点	各回授業後にコメントシートに記入してもらい、翌週にコメントに対するフィードバックを返す。 また、授業内でのディスカッションを適宜実施する。		
授業外学習	講義内のディスカッションに参加するため、内容の予習は必ず行うこと。 具体的な範囲は授業の各回で指示する。 授業後にはコメントシートに意見・質問・感想等を記入し提出してもらう。		
教科書	高見茂 他編『教育法規スタートアップネクスト』昭和堂、2018 年。		
参考書	2022 年度版教職六法（監修：若井彌一、協同出版、2021 年） その他授業中にプリントを配布。		
評価方法	授業後のコメントシートへの記述：30％ 授業への参加度：10％ 期末レポートによる評価：60％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	289	科目コード	68022
科目名	教育課程論	授業コード	9314811
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 そのため、以下の各目標を掲げる。 (1)学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (2)教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。		
授業概要	学校教育は目標や価値の実現を目ざした意識的、目的的な活動である。その目標に即して子ども、青年を教授、指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的、体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成のしかたを具体的に考える。		
授業計画	第１回：学習指導要領・幼稚園教育要領及び教育課程編成について 第２回：学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷及び改訂内容 第３回：学習指導要領の社会的背景 第４回：教育課程の社会的役割と機能 第５回：教育課程編成の基本原理 第６回：教育内容の選択と配列 第７回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程 第８回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導計画 第９回：カリキュラム・マネジメントの意義（１）-学びのメカニズム- 第 10 回：カリキュラム・マネジメントの意義（２）-社会に開かれた教育課程- 第 11 回：カリキュラム評価（１）-必要性と意義- 第 12 回：カリキュラム評価（２）-教育評価の変遷と機能- 第 13 回：カリキュラム評価（３）-効果測定の方法と実際- 第 14 回：新しい教育課程の課題（１）-新学習指導要領・幼稚園教育要領を中心に- 第 15 回：新しい教育課程の課題（２）-これからの社会と教育課程-		
授業方法	講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省） ※　いずれも文科省 HP にてダウンロード可		
参考書	よくわかる教育課程（田中耕治　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②ワークシート（正確さ、考えを整理した記述、資料の整理状態、提出期日等）　２０％ ③授業についてのコメント（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等）　３０％ ④課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　２０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。		

No.	290	科目コード	68022
科目名	教育課程論	授業コード	9322924
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 そのため、以下の各目標を掲げる。 (1)学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (2)教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。		
授業概要	学校教育は目標や価値の実現を目ざした意識的、目的的な活動である。その目標に即して子ども、青年を教授、指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的、体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成のしかたを具体的に考える。		
授業計画	第１回：学習指導要領・幼稚園教育要領及び教育課程編成について 第２回：学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷及び改訂内容 第３回：学習指導要領の社会的背景 第４回：教育課程の社会的役割と機能 第５回：教育課程編成の基本原理 第６回：教育内容の選択と配列 第７回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程 第８回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導計画 第９回：カリキュラム・マネジメントの意義（１）-学びのメカニズム- 第 10 回：カリキュラム・マネジメントの意義（２）-社会に開かれた教育課程- 第 11 回：カリキュラム評価（１）-必要性と意義- 第 12 回：カリキュラム評価（２）-教育評価の変遷と機能- 第 13 回：カリキュラム評価（３）-効果測定の方法と実際- 第 14 回：新しい教育課程の課題（１）-新学習指導要領・幼稚園教育要領を中心に- 第 15 回：新しい教育課程の課題（２）-これからの社会と教育課程-		
授業方法	講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省） ※　いずれも文科省 HP にてダウンロード可		
参考書	よくわかる教育課程（田中耕治　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②ワークシート（正確さ、考えを整理した記述、資料の整理状態、提出期日等）　２０％ ③授業についてのコメント（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等）　３０％ ④課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　２０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。		

No.	291	科目コード	62131
科目名	教育課程論(幼・小)	授業コード	9318827
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 そのため、以下の各目標を掲げる。 (1)学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (2)教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。		
授業概要	学校教育は目標や価値の実現を目ざした意識的、目的的な活動である。その目標に即して子ども、青年を教授、指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的、体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成のしかたを具体的に考える。		
授業計画	第１回：学習指導要領・幼稚園教育要領及び教育課程編成について 第２回：学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷及び改訂内容 第３回：学習指導要領の社会的背景 第４回：教育課程の社会的役割と機能 第５回：教育課程編成の基本原理 第６回：教育内容の選択と配列 第７回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程 第８回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導計画 第９回：カリキュラム・マネジメントの意義（１）-学びのメカニズム- 第 10 回：カリキュラム・マネジメントの意義（２）-社会に開かれた教育課程- 第 11 回：カリキュラム評価（１）-必要性と意義- 第 12 回：カリキュラム評価（２）-教育評価の変遷と機能- 第 13 回：カリキュラム評価（３）-効果測定の方法と実際- 第 14 回：新しい教育課程の課題（１）-新学習指導要領・幼稚園教育要領を中心に- 第 15 回：新しい教育課程の課題（２）-これからの社会と教育課程-		
授業方法	講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等)、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省） ※　いずれも文科省 HP にてダウンロード可		
参考書	よくわかる教育課程（田中耕治　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②ワークシート（正確さ、考えを整理した記述、資料の整理状態、提出期日等）　２０％ ③授業についてのコメント（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等）　３０％ ④課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　２０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。		

No.	292	科目コード	62131
科目名	教育課程論(幼・小)	授業コード	9326820
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 そのため、以下の各目標を掲げる。 (1)学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (2)教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。		
授業概要	学校教育は目標や価値の実現を目ざした意識的、目的的な活動である。その目標に即して子ども、青年を教授、指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的、体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成のしかたを具体的に考える。		
授業計画	第１回：学習指導要領・幼稚園教育要領及び教育課程編成について 第２回：学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷及び改訂内容 第３回：学習指導要領の社会的背景 第４回：教育課程の社会的役割と機能 第５回：教育課程編成の基本原理 第６回：教育内容の選択と配列 第７回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程 第８回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導計画 第９回：カリキュラム・マネジメントの意義（１）-学びのメカニズム- 第 10 回：カリキュラム・マネジメントの意義（２）-社会に開かれた教育課程- 第 11 回：カリキュラム評価（１）-必要性と意義- 第 12 回：カリキュラム評価（２）-教育評価の変遷と機能- 第 13 回：カリキュラム評価（３）-効果測定の方法と実際- 第 14 回：新しい教育課程の課題（１）-新学習指導要領・幼稚園教育要領を中心に- 第 15 回：新しい教育課程の課題（２）-これからの社会と教育課程-		
授業方法	講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等)、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省） ※　いずれも文科省 HP にてダウンロード可		
参考書	よくわかる教育課程（田中耕治　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②ワークシート（正確さ、考えを整理した記述、資料の整理状態、提出期日等）　２０％ ③授業についてのコメント（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等）　３０％ ④課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　２０％ 　なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。		

No.	293	科目コード	33072
科目名	保育課程論	授業コード	9314032
教員名	小田　真弓		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1)保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 (2)全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 (3)子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。		
授業概要	本科目は、保育・教育課程とはどのようなものであるかを学び、その必要性と重要性を理解する。また、乳幼児６年間の成長を捉え、保育課程の編成と指導計画の作成、作成上の留意点などへの理解を深め、計画、実践、省察・評価、改善という一連のプロセスを通して保育の質を点検・評価する方法を学ぶとともに、実習に向けた指導計画作成の際に必要な基本的知識を身につける。		
授業計画	第１回 保育課程における保育計画① カリキュラムの基礎理論・保育における計画と評価の意義 第２回 保育課程における保育計画② 保育所保育指針における保育の目標と計画 第３回 保育課程における保育計画③ 全体的な計画と指導計画の関係性 第４回 保育所における指導計画① 指導計画（長期的・短期的）の作成・指導作成上の留意事項 第５回 保育所における指導計画② 年間計画から週案、週案から日案の作成 第６回 保育所における指導計画③ 2 月保育実習の担当における「指導計画」（年間指導計画作成） 第７回 保育所における指導計画④ 発達に応じた保育計画（0 歳児）のつくり方 第８回 保育所における指導計画⑤ 発達に応じた保育計画（1 歳児）のつくり方 第９回 保育所における指導計画⑥ 発達に応じた保育計画（2 歳児）のつくり方 第１０回 保育所における指導計画⑦ 発達に応じた保育計画（3 歳児）のつくり方 第１１回 保育所における指導計画⑧ 発達に応じた保育計画（4 歳児）のつくり方 第１２回 保育所における指導計画⑨ 発達に応じた保育計画（5 歳児）のつくり方 第１３回 保育所における保育評価① 保育の記録および省察・保育士および保育所の自己評価 第１４回 保育所における保育評価② 生活と発達の連続性を踏まえた保育要録 第１５回 まとめと振り返り		
授業方法	保育計画の作成と実践、実践後の省察による実力の把握		
アクティブラーニングの視点	インターンシップ実習等で観察、体験したことを授業内で出し合いながら、より実際の保育現場に合わせた指導計画を立てていく。		
授業外学習	２年前期で保育・幼児教育施設にインターンシップ実習に行く方は、施設での保育計画（年間・季・週）を可能であれば参照してください。その他の施設に行く方は、母園や希望する就職施設の保育計画をホームページ等で参照しておくこと。		
教科書	『よくわかる！保育士エクササイズ１ 保育の指導計画と実践演習ブック』(門谷真希・山中早苗 編著）ミネルヴァ書房		
参考書	随時、授業内で紹介する。 『よくわかる！保育士エクササイズ１ 保育の計画と評価　演習ブック』(松本峰雄 監修)　ミネルヴァ書房 保育所保育指針解説　(厚生労働省 編)　平成 30 年 3 月　フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　(内閣府,文部科学省,厚生労働省 編)　平成 30 年 3 月　フレーベル館 幼稚園教育要領解説　(文部科学省 編)　平成 30 年 3 月　フレーベル館		
評価方法	授業・課題・活動・授業毎のリアクションペーパーでの学びの参加状況（50%）、期末の課題（保育指導案）の提出を（50%）を総合して評価する。課題は、評価後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	294	科目コード	62020
科目名	児童文学論	授業コード	9322103
教員名	阿部　秀高		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	「児童文学」とは何かについて、各自の問題意識に照らしつつ、その概念の大まかな把握を試みる。主に小学校教科書に掲載された児童文学を中心にその世界観や文学的、教材的価値を学ぶ。		
授業概要	前半は、日本と海外の児童図書の歴史や小学校教科書における児童文学の変遷学ぶ。 後半は、日本と海外の児童文学を学び、併せて「読み聞かせ」や「朗読」、「読書紹介」の実践を行う。		
授業計画	オリエンテーション 言葉の発達と児童文学 児童文学と子ども文化 児童文学の読み方 小学校教科書に掲載された児童文学①「おおきなかぶ」 小学校教科書に掲載された児童文学②「スイミー」 小学校教科書に掲載された児童文学③「もちもちの木」 読み聞かせ、朗読発表会 小学校教科書に掲載された児童文学④「ごんぎつね」 小学校教科書に掲載された児童文学⑤「海の命」 代表的児童文学作家について①「宮澤賢治の生涯と思想」 代表的児童文学作家について②「宮澤賢治の作品」 読書紹介発表会オリエンテーションと準備（図書館） 読書紹介発表会 最終課題		
授業方法	本科目は、講義による解説を中心とするが、学びの履歴シートを活用した授業を行う。 併せて「読み聞かせ」や「朗読」、「読書紹介」の実践を行う。グループワークを取り入れる予定である。		
アクティブラーニングの視点	講義の中で意見交流、グループワークの場を設定する。読み聞かせ、読書紹介などの発表場面では、相互評価、推薦などを行う場を設定する。		
授業外学習	図書館における図書選定時間をもうける。		
教科書	必要に応じて授業中に指示する。		
参考書	小学校国語教科書 1 年～6 年（光村図書・東京書籍）、		
評価方法	①毎回提出の学びの履歴シート　50% ②読書紹介　20% ③最終課題　20% ④発言・意欲など平常点　10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	実務経験あり 小学校教諭　16 年 幼稚園長・小学校長・中学校長　5 年		

No.	295	科目コード	62040
科目名	子どもと遊び	授業コード	9314999
教員名	川口　裕之		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．遊びの本質とその大切さがわかる。 ２．実践で生かせる知識と技術が習得できる。 ３．学び（教育）と遊びのバランスとその重要性を学ぶことができる。 ４．子どもの遊びや学びに大人（教育者）としてどう向き合えばよいのかを学び 日々の実践を習得できる。		
授業概要	遊びとは本来、自由で自発的活動である。従ってその遊びを学ぶ本授業においては、学生が自らの体験によって自由に感じ自発的に考えていく過程を大切にし、目標への到達を目指す。 それが彼らに「子ども達の遊びを保障する」ことの社会的重要性を認識し実践していくことにつながると考える。 授業は講義、ワークショップ、体験実習によってすすめ、講義では遊びに関する基本的な理論や現場の事例を紹介する。 以上の概要についてベースとなる理論はイギリスにおける「子どもの遊びに関わる大人の役割」を概念化した「プレイワーク」によるものである。		
授業計画	１．アイスブレイク　　子どもにとって本当の遊びとは　　全１５回についてのオリエンテーション ２．子どもと向き合い、自分自身と向き合うための ASE（行動社会化経験プログラム）その１ ３．子どもと向き合い、自分自身と向き合うための ASE（行動社会化経験プログラム）その２ ４．子どもと向き合い、自分自身と向き合うための ASE（行動社会化経験プログラム）その３ ５．冒険遊び場からの事例紹介　　子ども達が遊ぶことの大切さを学ぶ ６．体験活動　その１　　自然体験プログラムの紹介 ７．体験活動　その２　　遊びの絵日記を描こう ８．体験活動　その３　　何もないけど何して遊ぶ ９．プレイワーク論　　子どもの遊びに関わることの姿勢を学ぶ １０．作って遊ぼう　　その１ １１．作って遊ぼう　　その２ １２．ワークショップ　「遊びの現場からの発題」　遊びに関わる大人としてすべきことを考える １３．子どもと遊びに関わる大人の役割　　その１ １４．子どもと遊びに関わる大人の役割　　その２ １５．ふり返りとまとめ　　レポート作成		
授業方法	教科書に促した座学やグループワーク（屋内、屋外）自然体験プログラム等で構成している。 従って本授業においては、屋外での授業やキャンパス周辺の森の中なども授業の実施場所となる。 このため本授業を選択する学生は、その点を充分理解していることを大前提として実施するものである。		
アクティブラーニングの視点	ASE（行動社会化経験プログラム）の指導プロセスにグループワーク、振り返りシート作成などが盛り込まれている。 ワークシート作成、ディベート等も実施		
授業外学習	・毎授業のふり返りシート作成及び提出 ・第 2, 4 日曜日を利用し、泉北高速鉄道泉ヶ丘駅前の堺市立児童館ビッグバン敷地内にある冒険遊び場で現場体験実習を実施。体験実習としては、一日 7 時間×2 日間を本授業終了までに行うことを基本とする（状況によって変更となる事がある）。但し、学生より相談がある場合、適宜調整する。		
教科書	「プレイワーク」Play　Wales　&　Bob・hughes　著　嶋村仁志　訳　　学文社　2009 年 「グラウンド・フォー・プレイ　イギリス　冒険遊び場事始め」ジョー・ベンジャミン　著　嶋村仁志　訳　鹿島出版会　2011 年 ＊提出課題でもあり、教科書からの出題もあるので必ず購入すること。 授業初日に購入したかを確認する。		

参考書	授業中、随時紹介
評価方法	授業への参加姿勢、課題、ふり返りシート、期末のレポートをそれぞれ２５％とする。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府内の幼稚園、保育園、養護学校の職員研修。大阪府児童厚生員指導者養成講座。 キッズプラザ大阪インタープリター養成講座等、学びと遊びがどちらも重要である職場や 諸団体にむけてアクティブラーニング、ワークショップの展開や指導方法を実践しており、 本授業においては技術面とそれぞれの現場の事情等を授業で紹介していく。

No.	296	科目コード	62050
科目名	子どもと文化	授業コード	9314116
教員名	永井　明子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	子どもの成長を文化人類学的な視点でとらえることで、文化が個人を形成する多様な過程を理解し、教育や 子育てについて広い視野から説明できる。		
授業概要	子どもと文化の関係に注目した場合、子どもの成長は「文化が個人を形づくる過程」として捉えることができる。人類学ではこれを、育児慣行やしつけにみられる非定型の文化化、村落社会にみられる通過儀礼や年齢集団による準定型的文化化、教育機関における定型的文化化に分類している。本講義では民族学的資料の通文化比較だけでなく、教育人類学や学校教育の民族誌的研究についても検討し、子どもの文化化について様々な視点から解説する。		
授業計画	第１回　文化とは 第２回　文化の古典的定義 第３回　今日における文化のとらえ方 第４回　「子ども」の誕生 第５回　教育人類学における文化化の視点 第６回　育児慣行としつけ 第７回　民族社会における育児慣行としつけ 第８回　しつけと教育ー日本人の「気持ち」志向 第９回　しつけと教育ー「教え込み型」と「滲み込み型」 第 10 回　しつけと教育ー 考察とディスカッション 第 11 回　儀礼の構造 第 12 回　子どもと通過儀礼 第 13 回　伝統社会における成人儀礼 第 14 回　現代社会と通過儀礼 第 15 回　全体のまとめとディスカッション		
授業方法	ビデオなどの資料を用いながら可能な限り対話的に授業を進める。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）など（遠隔授業の場合は適宜変更する）。		
授業外学習	毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察を各自ノートにまとめる。また、小論文作成のた めに各自のテーマに合った文献資料を収集し、その内容を整理する。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布		
参考書	適宜授業で紹介する。		
評価方法	授業への参加度（２０％）と学期中に提示される課題の提出物（８０％）を総合して評価する。授業への参加度については小テストや発言等で評価する。発言は積極的かつ的確である点を重視する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	297	科目コード	62060
科目名	子どもの社会史	授業コード	9314225
教員名	森定　玲子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・子ども観や学びの変遷を、背景にある歴史事象と共に説明できる。 ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察できる。		
授業概要	私たちは、就学年齢になると学校に通って教育を受け、教育を妨げるような労働から守れられることを、当たり前のこととして受け止めている。「子ども」は「大人」と異なり、守られ、教育される存在であると考えている。そのような「子ども」観は、歴史的・社会的な状況の中から形成されたものである。西欧と日本の資料に基づき、子どもたちがどのような存在として社会に認知されてきたのかを明らかにする。これらを通して、今日の子どもが直面している課題について考察する。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション（評価法と講義目的について）／子どもをどう捉えるか 第 2 回　近代以前の子育てと教育 第 3 回　近代における子どもの発見 第 4 回　近代教育思想の形成 第 5 回　近代家族の出現 第 6 回　子どもと労働 第 7 回　近代学校の成立と子どもの学び 第 8 回　子どもの福祉と教育 第 9 回　子どもの世紀 第 10 回　日本の近世における子ども 第 11 回　学校化社会の成立と子ども 第 12 回　都市の貧困と子ども 第 13 回　戦争と子ども 第 14 回　大衆教育社会の中の子ども 第 15 回　現代社会の子どもと教育の将来 期末試験		
授業方法	主として講義の形で行う。適宜、グループ討議を組み入れる。		
アクティブラーニングの視点	・授業に先立ち、テーマに関する情報をインターネットで検索し、コメントを書く宿題を課す。そのことによって、学生は予備知識を持って授業に臨むことができると同時に、授業に対する学生の関心を高めることができる。 ・授業の中で、毎回、複数の質問を学生に投げかけ、テーマについて学生が深く考察するよう促す。 ・振り返りシートを毎回配布し、学生に授業内容についてまとめてもらい、それに対するコメントを記入して、翌週学生に返却する。振り返りシートを、教員と学生とのコミュニケーションツールとして活用する。		
授業外学習	毎回、課題用紙が配布され、翌週提出する。毎回、2 時間以上かけて、テーマに関する情報をインターネットで検索したり、関連する新聞記事を読んでコメントを書いたりする。		
教科書	指定なし。適時、資料（プリント）を配布する。		
参考書	小針誠　2007 年　『教育と子どもの社会史』梓出版社 江藤恭二監修、篠田弘・鈴木正幸・加藤詔士・吉川卓治編　2008 年『新版　子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会 H. カニンガム　2013 年　『概説 子ども観の社会史』新曜社 元森絵里子・南出和余・高橋靖幸編　2020 年　『子どもへの視覚：新しい子ども社会研究』新曜社		
評価方法	期末試験 50%、毎回の課題用紙提出 40%、授業への参加度 10%（教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、積極的な発言などを評価する。）提出課題は確認後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	福祉現場での勤務経験を有する教員が、その経験を活かして、社会福祉の視点から今日の子どもが直面している課題について講義する。		

No.	298	科目コード	62070
科目名	子どもとメディア	授業コード	9314338
教員名	藤井　玲子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	子どもとメディアのかかわりについて多様な観点から考察し、問題点を理解できる。 メディア・情報リテラシーの重要性を理解し、基本概念や教育実践におこなうにあたっての知識が身につく。		
授業概要	現代社会において、子どもを取り巻くメディア環境は日々変化している。子どもがデジタルメディアも含め、多くの情報に接する機会が増えていることから、情報を批判的に読み解き、自らの意見を発信していく力の育成が急務となっている。本講義では子どもとメディアの関係を社会学、教育学、心理学の観点から考察し、課題を認識する。その上で、受講者自身がメディア・テクストの分析やディスカッションをグループでおこなうことで、メディア・情報リテラシー授業実践の展開に向けて手がかりを得る		
授業計画	第１回　オリエンテーション　　メディアと私たちとの関わり 第２回　子どもとメディアの関係を考える視点 第３回　メディアの役割 第４回　メディア・情報リテラシーとは 第５回　子どもとポピュラーカルチャー 第６回　メディアとジェンダー 第７回　メディアと暴力 第８回　消費者としての子ども 第９回　子どもとデジタルメディア 第 10 回　子どもにメディアを教える（1）メディア・リテラシー教育とは　　→課題レポート 第 11 回　子どもにメディアを教える（2）リプレゼンテーションについて 第 12 回　子どもにメディアを教える（3）メディアのステレオタイプについて 第 13 回　子どもにメディアを教える（4）インターネットを読み解く 第 14 回　子どもにメディアを教える（5）ネット時代のメディア･情報リテラシー教育 第 15 回　総括と授業内テスト		
授業方法	講義とグループ・ディスカッションなどのワークショップ　受講者の積極的な参加が必要		
アクティブラーニングの視点	毎時間、映像などのテクストの分析、議論、発表をグループでおこなう		
授業外学習	子どもとメディアに関して常に意識し、毎授業のテーマについて子ども向けのメディアを視聴したり、関連する文献、新聞やテレビのニュース、インターネットの記事を収集して、課題の提出に備えておく。		
教科書	指定なし　適時資料を配付する		
参考書	鈴木みどり編『最新 Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』（リベルタ出版）2015 年 鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー【ジェンダー編】』（リベルタ出版）2003 年 『教師のためのメディア・情報リテラシーカリキュラム』 http://unesdoc.unesco.org/images/0019/001929/192971jpn.pdf		
評価方法	授業への参加度（４０％）、課題レポート（３０％）、総括テスト（30％） 授業への参加度については、毎回の授業後に記述する授業内容についての理解度とグループ活動における発言や貢献度を評価する。課題レポートは、それまで学習したテーマについて、本講義で獲得した理論および視点から、自ら収集した資料・課題を用いて論じているか評価する。総括テストについては全講義の内容を理解し、総合的にふり返っているかを評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高校でのメディア・リテラシーの授業実践の経験がある教員が、様々な学校種の現場で授業を行う上での手がかりを示す。		

No.	299	科目コード	68023
科目名	子どもと絵本の世界	授業コード	9322339
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1)絵本の意義や成り立ち、歴史などを踏まえ、絵本について包括的かつ総合的な見方ができる。 (2)子どもたちに絵本を提供していく際の留意点を学ぶことができる。 (3)保育や幼稚園、小学校で親しまれる、絵本を取り上げ、自分なりにその活用方法を生み出すことができる。 保育職をめざすうえで、保育教材として使われる絵本そのもの（歴史、子どもの発達の位置づけ等）を知り、特に幼児期において絵本が豊かな人格形成をもたらすものとして幼児期の健やかな成長を促す絵本の可能性やその活用法、絵本が子どもの保育活動に多大な影響を与えることについて学びを深めることも、絵本を専門とした体系的な学びが必要である。		
授業概要	本授業は、「認定絵本士」資格取得に基づく科目として位置づけられている。特に幼児期において絵本は、豊かな人格形成をもたらすものとして幼児期の健やかな成長を促す絵本の可能性やその活用法、絵本が子どもの保育活動に多大な影響を与える。保育所や幼稚園、認定こども園では、絵本を取り扱う機会が多く、年齢に応じて選書できる力や、幅広い年齢にも対応できる絵本の活用法など、絵本に関する専門家から多面的に絵本に関する学びを深める機会とする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　絵本総論（絵本とはなにか）【課題あり】 第３回　心に寄りそう絵本（心のケアと絵本の可能性） 第４回　さまざまなジャンルの絵本①[物語の絵本] 第５回　絵本各論②（視覚表現、言語表現から見た絵本）【課題あり】 第６回　絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ）【課題あり】 第７回　絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る） 第８回　絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）【課題あり】 第９回　絵本が生まれる現場②（絵本の編集） 第１０回　絵本と出会う④（書店での出会い） 第１１回　さまざまなジャンルの絵本②[昔話、童話をもとにした絵本] 第１２回　絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について）【課題あり】 第１３回　大人の心を豊かにする絵本【課題あり】 第１４回　ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませる為の手法を学ぼう） 第１５回　絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い）		
授業方法	児童文化財の中でも特に絵本、スケッチブックシアターなどを取りあげ、書店や図書館、保育施設やお話し会など、絵本が活用されている機関の職員を外部講師として、より専門的な学びをしていく。		
アクティブラーニングの視点	絵本の成り立ちや保育、教育現場のみならず人類にとって必要な文化遺産であることを知り、絵本が子どもたちの成長発達にどれだけ影響を及ぼしているかについて学びを深める。必要な保育職を目指すうえで、子どもの発達に見合った絵本の選書など、授業で学んだことを発表する機会を設ける。		
授業外学習	本科目はそれぞれの授業に対して、事前事後課題が課せられる場合があります(事後課題は６回あります)。学習内容を深めるためにも課題の提出に励んでください。日頃から図書館や書店、保育施設などで、絵本についてたくさん触れておくこと。		
教科書	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ（編）(2020)『認定絵本士養成講座テキスト』中央法規		
参考書	生田美秋・石井光恵・藤本朝己（2013)『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房		
評価方法	授業への参加度（討論・発表）を 30%、課題の提出（ミニレポート含む）を 70%として評価する。 事前学習と積極的な参加（授業内での発言や実地研修での参加）については、より高い評価を行なう。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	絵本専門士として、ＮＰＯ法人での保健センターでの絵本の読み聞かせ活動や言語活動推進フォーラム事業での読み語りの経験などを活かして授業を進めていく。		

No.	300	科目コード	33080
科目名	発達心理学	授業コード	9314595
教員名	永井　明子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ２．子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ３．乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		
授業概要	ヒトはこの世に生を受けてから死ぬまで止まることなく発達を続け、その過程で生物としてのヒトから社会的な存在としての人となっていく。その中でも特にめざましい変化を遂げるのが乳幼児期や児童期である。このような変化やそれぞれの時期のエピソードを紹介することで、各発達段階における特徴を受講生自らの経験や体験と重ね合わせながら考察し、自我形成、学習、コミュニケーション、社会性、親子関係、パーソナリティ等の諸側面から科学的にとらえ教育との関連を視野に入れながら検討する。		
授業計画	第１回　発達の意味　発達とは何か 第２回　発達の主要理論 第３回　発達心理学の研究法 第４回　発達の諸問題 第５回　周産期の特徴 第６回　新生児期の特徴 第７回　乳児期の特徴 第８回　幼児期の特徴 第９回　児童期の特徴 第 10 回　知覚の形成 第 12 回　コミュニケーションと言語の発達 第 13 回　感情と意志の発達 第 14 回　社会性の発達と社会化 第 15 回　まとめ		
授業方法	講義形式中心だが､振り返り（ミニッツペーパー）の記入もある。グループディスカッション・簡単な実験等を取り入れることもある。		
アクティブラーニングの視点	授業範囲の予習が必須で、事前に授業内容を自分の力である程度理解してくることが求められる。そうして自分の力で得た先行オーガナイザーを活かし、ただ聞くだけではなく、考えながら受講する事により、積極的に授業に参加してもらう。講義には、ディスカッションの時間や振り返りの時間を適宜挿入していく。また、振り返りに書く内容は振り返りの時間になってから考えるのではなく、予習の際や講義を聴いている途中にも疑問点やアイディアをもつようにし、ディスカッションの内容も振り返りに反映してほしい。口や体を動かすだけではない、頭を使ったアクティブラーニングもしてほしい。		
授業外学習	①予習：予定された範囲を熟読し、課題に取り組む。 ②発達に関連する新聞記事を探し、要約・考察する。 ③授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やインターンシップ・ボランティア・子どもと関わるアルバイト等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートにして提出。		
教科書	山内光哉編『発達心理学上』ナカニシヤ出版		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	予習課題 30%授業内テスト 50%ミニッツペーパー10%新聞課題５％ミニレポート５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	堺市私立幼稚園巡回相談事業で巡回相談を行い、発達に課題のある園児や幼稚園での活動等の支援・配慮を必要とする園児への個に応じた指導を支援するため、園児への指導方法や配慮すべき内容等を教職員に直接指導・助言している教員が講義する。		

No.	301	科目コード	33080
科目名	発達心理学	授業コード	9314602
教員名	永井　明子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ２．子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ３．乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		
授業概要	ヒトはこの世に生を受けてから死ぬまで止まることなく発達を続け、その過程で生物としてのヒトから社会的な存在としての人となっていく。その中でも特にめざましい変化を遂げるのが乳幼児期や児童期である。このような変化やそれぞれの時期のエピソードを紹介することで、各発達段階における特徴を受講生自らの経験や体験と重ね合わせながら考察し、自我形成、学習、コミュニケーション、社会性、親子関係、パーソナリティ等の諸側面から科学的にとらえ教育との関連を視野に入れながら検討する。		
授業計画	第１回　発達の意味　発達とは何か 第２回　発達の主要理論 第３回　発達心理学の研究法 第４回　発達の諸問題 第５回　周産期の特徴 第６回　新生児期の特徴 第７回　乳児期の特徴 第８回　幼児期の特徴 第９回　児童期の特徴 第 10 回　知覚の形成 第 12 回　コミュニケーションと言語の発達 第 13 回　感情と意志の発達 第 14 回　社会性の発達と社会化 第 15 回　まとめ		
授業方法	講義形式中心だが､振り返り（ミニッツペーパー）の記入もある。グループディスカッション・簡単な実験等を取り入れることもある。		
アクティブラーニングの視点	授業範囲の予習が必須で、事前に授業内容を自分の力である程度理解してくることが求められる。そうして自分の力で得た先行オーガナイザーを活かし、ただ聞くだけではなく、考えながら受講する事により、積極的に授業に参加してもらう。講義には、ディスカッションの時間や振り返りの時間を適宜挿入していく。また、振り返りに書く内容は振り返りの時間になってから考えるのではなく、予習の際や講義を聴いている途中にも疑問点やアイディアをもつようにし、ディスカッションの内容も振り返りに反映してほしい。口や体を動かすだけではない、頭を使ったアクティブラーニングもしてほしい。		
授業外学習	①予習：予定された範囲を熟読し、課題に取り組む。 ②発達に関連する新聞記事を探し、要約・考察する。 ③授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やインターンシップ・ボランティア・子どもと関わるアルバイト等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートにして提出。		
教科書	山内光哉編『発達心理学上』ナカニシヤ出版		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	予習課題 30%授業内テスト 50%ミニッツペーパー10%新聞課題５％ミニレポート５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	堺市私立幼稚園巡回相談事業で巡回相談を行い、発達に課題のある園児や幼稚園での活動等の支援・配慮を必要とする園児への個に応じた指導を支援するため、園児への指導方法や配慮すべき内容等を教職員に直接指導・助言している教員が講義する。		

No.	302	科目コード	65330
科目名	人権教育論	授業コード	9322780
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．人権に関する知識や理論の習得をはじめ人権教育の基礎を学ぶ。 ２．子どもたちの人権を尊重する教育的意義や重要性を理解する。 ３・人権教育の本質的な意義や重要性を認識し、指導方法等を習得する。		
授業概要	人権尊重の観点は、あらゆる教育活動の基礎となるものである。本授業では、人権に関する基礎的な知識や現状を学ぶことから始める。そのうえで、教育の現場で取り組まれている人権教育の事例などを検証し、実践的で効果的な教材や指導法について探求する。		
授業計画	第　１回　オリエンテーション 第　２回　人権に係る知識及び法令 第　３回　人権教育の意義、目的 第　４回　人権教育の探究　　いじめ、体罰、虐待などについて考える 第　５回　人権教育の探究　　同和問題について考える 第　６回　人権教育の探究　　障害について考える 第　７回　人権教育の探究　　国籍、性別などについて考える 第　９回　人権教育の探求　　人権に係る国内外の現況を学ぶ 第１０回　人権教育の指導方法の考察及び事例検討による協議１ 第１１回　　人権教育の指導方法の考察及び事例検討による協議２ 第１２回　人権教育の指導方法の考察及び事例検討による協議３ 第１３回　人権教育に係る地域連携、保護者連携のあり方 第１４回　人権教育基本方針について 第１５回　まとめ		
授業方法	講義、事例検討、グループ協議等による。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等)、振り返りシートの活用など		
授業外学習	課題レポートの提出		
教科書	指定しない　　適時　資料を配付		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	レポート（４０%)、提出物（３０%)、授業への参加度（３０%）　但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校現場における教員経験のあるものが、その経験をいかして、人権教育に係る教育現場の現況をふまえた授業内容を計画・実施する。		

No.	303	科目コード	62030
科目名	教育評価論	授業コード	9322790
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	教育の目的は、教育基本法の人格の完成である。学校の独自の役割は「学力形成」を通して人間教育を実現していくことである。教育の目的が実現したかどうかを、学びと育ちの確かめとして見取り、確認していく営みが教育評価という教育活動である。教育活動においては、目指すべき子供の姿を明確に持ち、目標の実現に向けた手立てを講じ、結果として目指した学びと育ちの姿が実現できたかを確認・改善し、次に進んでいくという営みが教育評価の意義である。本講義では、上記の点を視野に入れ、学力保障と成長保障の両全を実現するという観点から評価について考え、具体的な内容をもとに展望することを目的とする。		
授業概要	桃山学院教育大学の教育理念である人間教育の実現、それを実現するために目指すべき子供の姿や学力評価に収まらない新しい能力（コンピテンシー）の明確化、その目的の実現に向けた手立てと育ちの確かめとしての評価、教育評価の概念、理論、技法等について学修する。		
授業計画	第 1 回　　教育評価の意義 第 2 回　　教育評価の歴史 第 3 階　　相対評価、絶対評価、個人内評価 第 4 回　　ブルームのマスタリーラーニング 第 5 回　　診断的評価、形成的評価、総括的評価の実際 第 6 回　　具体的な評価方法 第 7 回　　ポートフォリオ評価 第 8 回　　教育測定の意義 第 9 回　　教育測定の実際 第 10 回　ルーブリックによるパフォーマンス評価 第 11 回　ルーブリックの作成 第 12 回　アクティブラーニングと評価 第 13 回　文部科学省による全国学力・学習状況調査の分析 第 14 回　PISA 調査の分析 第 15 回　評価の歪み		
授業方法	最初の 5 回は遠隔授業となる予定である。その後は履修登録者数により対面授業となる。一部の内容について高校 1 年生程度の数学の知識が必要である。		
アクティブラーニングの視点	講義を中心に授業を進めるが、教育測定や調査結果の分析の際には、パソコンを使った実習を一部取り入れる。		
授業外学習	教育測定やルーブリックの作成等の授業時間以外の学習が必要となる。また、レポート課題作成のための学習が必要となる。		
教科書	適宜プリントや資料を配布する。		
参考書	梶田叡一著　『教育評価第 2 版補訂 2 版』　有斐閣 梶田叡一著　『教育評価を学ぶ』　文渓堂 古川治著　『ブルームと梶田理論に学ぶ』　ミネルヴァ書房 田中耕治著　『教育評価』　岩波書店		
評価方法	平常点（毎回の課題の提出により評価する）（30%） 中間レポート課題（800 字程度のレポートを 1 つ作成する）（30%） 最終レポート課題（800 字程度のレポートを 2 つ作成する）（40%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	304	科目コード	68024
科目名	異文化間教育	授業コード	9322001
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・異文化間教育の形態と動向について理解する。 ・異文化間教育の教育実践の性格と事例を調査する。 ・異文化間教育の学ぶ意義を考察し、学習者参加型の教育実践を体験し、議論と発表をする。 ・教員養成大学として、日本語指導の必要な児童生徒の多様な背景を知り、その指導技術を身につける。		
授業概要	異文化間教育の形態と動向についての講義を理解し、学習者参加型の教育実践を体験する。さらに、各自の疑問や関心に基づいて異文化間教育の教育実践について調査し、発表する。		
授業計画	第１回　　授業に関するオリエンテーション 第２回　　異文化間教育とは 第３回　　異文化間教育の歴史と課題：　日本における異文化教育の実態について概説する。 第４回　　異文化間教育の教育実践①　EU など移民受け入れ国の異文化教育の実態 第５回　　異文化間教育の教育実践②　移民の子どもたちの現状と課題 第６回　　第２言語習得とそのメカニズム 第７回　　日本語指導の必要な児童生徒の指導方法と教材について 第８回　　ゲストスピーカー講義と交流： 「急成長するフィリピンとマレーシア・マカオの現地教育視察から」 第９回　　外国につながりのある児童生徒のキャリア支援：進路指導と将来への展望について 第 10 回　　学校における異文化理解や多文化共生の教育実践の事例 第 11 回　　ゲストスピーカー講義と交流： 多言語化する日本の学校：バイリンガリズムを励ます学校・学級作り 第 12 回　学校における人権教育の推進とジェンダー教育 第 13 回　異文化間教育の意義と教育実践の論議と発表 第 14 回　異文化間教育の意義と教育実践の議論と発表 第 15 回　授業の総括として，これまで身に付けたことについて振り返る。		
授業方法	教師の講義と各自の調査内容の討論と発表		
アクティブラーニングの視点	異文化間教育の事例調査、調査事例報告内容の作成、調査事例報告内容の討論と発表。		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	教科書は使用しないが、必要なプリントを配布する。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	成績については、授業への取り組み姿勢（参加度・態度・提出物）（40%）、授業での考察と発表の報告内容（30%）、さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	305	科目コード	68025
科目名	異文化間コミュニケーション論	授業コード	9322834
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背　景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を学ぶことを通して英語表現への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。 (1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 (2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 (3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 (4) 日本社会の内なる国際化について学び、実践的な体験や交流を通じて多様な考え方を認め、共生に向けて協働できる人間関係を構築できる。 (5) 異文化コミュニケーションの観点から文化摩擦の状況を分析し、実践的な問題解決ができる。		
授業概要	高度にグローバル化した現代社会の状況を概観することを出発点に、コミュニケーションにおける文化の問題に関して多様な観点から解説する。さまざまな地域や社会における個人が成長する過程で、言語・慣習・価値観等、多様な文化の影響を受ける。その影響は決して小さくないにもかかわらず、文化は必ずしも目に見えたり、意識されたりするものではない。文化間の対立や緊張はそうした文化のありようから生じることが多いだけでなく、問題の原因が見えにくいために深刻化し、解決が困難になることも少なくない。授業では、言葉や振る舞い等の目に見える文化現象だけでなく、アイデンティティ・価値観・世界観等、直接見ることのできない文化の内面的諸相が、私たちのコミュニケーションにどのような影響を及ぼすのかについて具体例を示して解説し、多様な文化が交錯する今日の社会において文化の違いにどのように向き合うかを検討する。		
授業計画	第 1 回：　《オリエンテーション》グローバル化と異文化間コミュニケーション 第 2 回：　コミュニケーションと互酬性 第 3 回：　個人内・個人間・文化間コミュニケーション 第 4 回：　文化とコミュニケーション 第 5 回：　言語と文化的認識 第 6 回：　非言語コミュニケーション 第 7 回：　高コンテクスト文化と低コンテクスト文化 第 8 回：　異文化間コミュニケーションにおけるアイデンティティの問題 第 9 回：　異文化間コミュニケーションにおける価値観の問題 第 10 回：　異文化間コミュニケーションにおける世界観の問題 第 11 回：　多文化社会における文化摩擦 第 12 回：　多文化社会における共生 第 13 回：　カルチャーショックと文化適応 第 14 回：　文化を超えて 第 15 回：　まとめ		
授業方法	講義形式とし、視覚的資料を用いながら可能な限り対話的に授業を進める。また、グループアクティビティやシミュレーションゲームを随時行う。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワークによる協同学習		
授業外学習	毎授業で学んだ知識の整理や、それについての考察（1 時間程度）。各授業で指示する課題への取り組み（2 時間程度）。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布する。		
参考書	・池田理知子・クレーマー、E.M.著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣、2000 年 ・石井敏 他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション―多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013 年 ・コンドン、ジョン著、近藤千恵訳『異文化間コミュニケーション―カルチャー・ギャップの理解』サイマル出版会、1980 年		

	・原沢伊都夫著『異文化理解入門―グローバルな時代を生きるための』研究社、2013 年
評価方法	授業への参加度（２０％）と学期中に提示される課題の提出物（８０％）を総合して評価する。授業への参加度については小テストや発言等で評価する。発言は積極的かつ的確である点を重視する。学期中に提出された課題については講評によるフィードバックを行う。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	306	科目コード	68026
科目名	環境教育論	授業コード	9322318
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1,社会情勢を理解することで，世界に目を向けられる。 2,SDGs についての学びを深めることができる。 3.グループワーク等を通じて、発表、討論する力がつく。		
授業概要	SDG s は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。私たちは、この目標を日本人として、あるいは国際人として生きていくうえで、自分事として自覚することが重要である。 本科目は SDG s について学ぶとともに、その前提となる世界や日本の負の状況を知り、私たちは如何に社会活動を通して SDG s の達成に貢献できるかを考えることを目的とする。 なお，本科目は複数の教員によるオムニバス形式によって実施する。 ※必須要件ではないが前期開講の「社会貢献論」とセットで受けることが望ましい。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（柴田） 第２回　社会貢献と SDGs について（中村） 第３回　SDGs（貧困）（柴田） 第４回　SDGs（飢餓）（柴田） 第５回　SDGs（健康と福祉）（柴田） 第６回　SDGs （教育）（柴田） 第７回　途上国の教育現場（江田） 第８回　SDGs(ジェンダー)（諏訪） 第９回　SDGs(衛生・エネルギー）（諏訪） 第 10 回　SDGs(働きがい・経済成長）（諏訪） 第 11 回　SDGs(人や国の不平等）（諏訪） 第 12 回　SDGs(住み続けられる街づくり）（諏訪） 第 13 回　SDGs(つくる責任・つかう責任）（諏訪） 第 14 回　SDGs(世界の環境問題）（諏訪） 第 15 回　振り返りとまとめ（柴田）		
授業方法	講義・グループワーク・発表によって行う。 映像等も用いながら授業を進めます。		
アクティブラーニングの視点	グループワークやディスカッション，発表を行う。		
授業外学習	・ニュース報道を通じて世の中の課題について情報を収集しておくこと。 ・レポートの作成，課題作成		
教科書	前林清和・中村浩也 編　　「SDGs 時代の社会貢献活動」　昭和堂　2021		
参考書	適宜紹介		
評価方法	授業への参加度（70%） 最終授業の際に実施するまとめレポート（３０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	企業，教育機関，NGO での実践経験を持つ教員が担当する		

No.	307	科目コード	68027
科目名	防災・安全教育論	授業コード	9322021
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1,日本だけでなく，世界の災害について理解できる。 ２，学校現場等において児童生徒の命を守る方法，手段が身につく。 ３，グループワーク等を通じて、発表、討論する力が身につく。		
授業概要	21 世紀の課題の１つは安全で安心な社会の構築にある。近年多発する災害事象は複雑多様化し顕在化しており、犯罪など身近な社会生活の安全をおびやかすリスクも凶悪化し多様化している。 そのなかで、阪神・淡路大震災や東日本大震災から学んだ大きな教訓は、日常的な取り組みと助け合いの精神の大切さである。この教訓は安全で安心な暮らしを守る防災と防犯対策においても重要なキーワードとなる。特に 2011 年に発生した東日本大震災では、学校現場の対応により生徒の命に直結する残念な事例も発生した。 この授業では、教育現場における安全教育について理解できるようになる事を目標とし、「防災対策」「防犯対策」を軸とし、複数の教員によるオムニバス形式にて広く展開していく。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション（担当：柴田） 第２回　　日本における災害の現状と歴史（担当：柴田） 第３回　　学校管理下で発生した過去の災害と事件（担当：柴田） 第４回　　災害医療について（担当：中田） 第５回　　災害と防災の文化：災害大国日本にいきる作法（担当：諏訪） 第６回　　戦後災害史と防災教育の歴史：災害から学ぶ（担当：諏訪） 第７回　　学校での防災教育：「生きる力」を育む防災教育（担当：諏訪） 第８回　　防災教育と総合学習：方法論と教材論（担当：諏訪） 第９回　　地域と防災教育：災害からの復興と地域に開かれた防災教育（担当：諏訪） 第 10 回　海外での防災教育支援：ネパールの事例から（担当：諏訪） 第 11 回　「生きる力」を育む安全教育（担当：村上（佳）） 第 12 回　児童生徒のリスクと安全教育（担当：西岡） 第 13 回　学校現場における安全管理（担当：西岡） 第 14 回　学校保健としての安全教育（担当：八木（利）） 第 15 回　振り返りとまとめレポート（担当：柴田）		
授業方法	講義・ディスカッション・発表によって行う。 また、適宜動画も用いる。		
アクティブラーニングの視点	グループワークや、ディスカッションを行い、発表を行う		
授業外学習	・日頃から災害情報等に関心を持ち、新聞や雑誌などで関連する記事を読んでおく。 ・レポート作成等		
教科書	特に指定しない		
参考書	適宜		
評価方法	授業への参加度(70%) まとめレポート（30%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	308	科目コード	68028
科目名	予防的心理教育	授業コード	9322143
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．予防的・開発的教育相談の実践方法の理論について説明できる。 ２．予防的・開発的教育相談の実践方法について体験し、その結果について説明できる。 ３．すべての子どもを対象とする一次的援助サービスにかかわる授業実践を考えることができる。		
授業概要	本授業では、子どもの心身の不適応を未然に防ぐ予防的アプローチができることを目標とする。すなわち、「予防的・開発的な教育相談の実践力」を身につけることを目的とする。		
授業計画	第１回　予防的心理教育とは 第２回　カウンセリング・マインドと傾聴訓練 第３回　アクティブ・リスニングの理論 第４回　アクティブ・リスニングの演習 第５回　アサーション・トレーニングの理論と演習 第６回　ロールプレイングの理論と演習 第７回　ソーシャルスキル・トレーニング（SST）の理論と演習 第８回　構成的グループエンカウンターの理論 第９回　構成的グループエンカウンターの演習 第 10 回　ピアサポートの理論と実際 第 11 回　アンガー・マネジメントの理論と演習 第 12 回　アンガー・マネジメントの演習 第 13 回　ストレスマネジメント教育の理論 第 14 回　ストレスマネジメント教育の演習 第 15 回　学校現場における予防的心理教育の応用例		
授業方法	本授業は演習を中心に行うため、人数制限を行い 30 名を限度とする。 授業は以下のようにして進める。 １．毎回プリントを配布する。 ２．毎回、課題を提示して演習を行う。 ３．毎回、演習を行った結果を振り返り、共有化を行う。 ４．最後に、学校園現場における指導計画を作成する。		
アクティブラーニングの視点	毎回、課題を提して演習をい、討論の中で各種実践方法について理解を深める。		
授業外学習	適宜、演習をった後、体験した実践方法について各自で調べたことを次回の授業時に提出する。これは平常時の課題として指示する。		
教科書	授業時に適宜プリントを配付する。		
参考書	授業時に適宜指示する。		
評価方法	評価方法は、演習中心のため毎回の課題の提出をもって７０％とし、3 回以上欠席した場合、単位認定は行わない。学校現場の授業時の指導計画案を作成し、これを３０％とする。		
既修条件	本授業を履修する場合、以下の 3 点を満たしていること。 １．「心理学」（1 年生）か「発達心理学」（1 年生）のどちらかの単位を修得していること。 ２．「特別支援教育」（1 年生）「学校インターンシップ」（2 年生前期）の単位を修得していること。 ３．「教育心理学」（2 年生）「教育相談」（2 年生）の単位を修得しているか、履修中であること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	309	科目コード	68029
科目名	教育臨床心理学	授業コード	9314144
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	いじめや非行などの「問題行動」や不登校、引きこもり、中退などへの対応・指導が必要とされている。今後、教員として課題解決に向けた能力を身につけることが必要である。具体的には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携してチームとして協働できる能力が必要なのである。そこで本授業では、教育・保育現場での実態について理解を深めることを第一の目的とする。その上で、教育・保育現場におけるチームとして協働するために必要な能力を身につけることを目的とする。		
授業概要	教育相談実践基礎プログラムに必要な授業である。本プログラムへの登録を事前に教務課に提出していることが望ましい。15 回すべて出席することが必要である。演習形式の授業内容も取り入れるため、積極的に参加することが必要である。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　いじめの現状と今後の課題 第 3 回　不登校の現状と今後の課題 第 4 回　暴力行為及び自殺の現状と今後の課題 第 5 回　引きこもりの現状と課題 第 6 回　虐待の現状と課題 第 7 回　通級指導の役割 第 8 回　スクールカウンセラーの役割 第 9 回　スクールカウンセラーの仕事の実際 第 10 回　スクールソーシャルワーカーの役割 第 11 回　スクールソーシャルワーカーの仕事の実際 第 12 回　特別支援教育の現状と推進 第 13 回　特別支援学校の仕事の実際 第 14 回　福祉との連携（乳幼児健診や福祉施設） 第 15 回　医療との連携の実際		
授業方法	対面授業として演習形式で実施する。毎回、授業終了後に課題の提出を求める。 中間レポート３回と最終レポート課題の提出を単位認定に要件とする。 講義形式で授業を行うが、討論を取り入れ学校・園での連携について理解を深める。 レポートの作成等を通じて授業時間外に学習することを求める。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習			
教科書	適宜プリントや資料を配布する。		
参考書	石村卓也・伊藤　朋子　『チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か』晃洋書房、2017 年		
評価方法	平常点（毎回の課題の提出による評価）（３０％） 中間レポート課題（文献を読んだ内容について 1000 字程度のレポート課題） （各２０％、計４０％） 最終レポート課題（事例に基づく個別の指導計画の作成）（３０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	310	科目コード	68030
科目名	ソーシャルワーク論	授業コード	9314452
教員名	大台　賢史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	ソーシャルワークの意義や基本的な考え方を説明できる。 ソーシャルワーカーの活動や多職種連携が理解できる。 ソーシャルワークの視点を通して子どもや子どもを取り巻く環境の問題が具体的にイメージできる。		
授業概要	現在子どもや家庭が抱える問題は複雑化しており、ソーシャルワークの重要性が指摘されている。ソーシャルワークの考え方や視点、支援方法などの学びを通して、子どもや家庭をどのように理解し、サポートすることができるのか学習する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　ソーシャルワークとは 第２回　ソーシャルワークの視点と考え方 第３回　児童福祉とスクールソーシャルワーク 第４回　子どもをめぐる現状（不登校）とスクールソーシャルワーク 第５回　子どもをめぐる現状（児童虐待）とスクールソーシャルワーク 第６回　子どもをめぐる現状（発達障害）とスクールソーシャルワーク 第７回　精神保健福祉とソーシャルワーク 第８回　ソーシャルワークと人権（子どもの権利を中心に） 第９回　　ソーシャルワークと他機関連携 第 10 回　ソーシャルワークと地域との連携 第 11 回　ソーシャルワーク実践におけるアセスメント（事例検討） 第 12 回　ソーシャルワーク実践における援助 第 13 回　ソーシャルワーク実践における開発機能 第 14 回　ソーシャルワーク実践におけるアセスメントとそれに基づく環境調整（事例検討） 第 15 回　ソーシャルワークの展望、期末レポート		
授業方法	講義（演習形式も行う）		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、振り返りシートの活用		
授業外学習	振り返りシートの作成		
教科書	適宜紹介する。毎週授業内容をまとめたプリントを配布する。		
参考書			
評価方法	授業への参加度 50%　課題レポート（振り返りシート）10%　期末レポート 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場におけるスクールソーシャルワーカーとしての経験のある者が、その経験を活かして、ソーシャルワークについて講義する。		

No.	311	科目コード	62090
科目名	スクール・ソーシャルワーク論	授業コード	9314469
教員名	大台　賢史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	ソーシャルワークの意義や基本的な考え方を説明できる。 ソーシャルワーカーの活動や多職種連携が理解できる。 ソーシャルワークの視点を通して子どもや子どもを取り巻く環境の問題が具体的にイメージできる。		
授業概要	現在子どもや家庭が抱える問題は複雑化しており、ソーシャルワークの重要性が指摘されている。ソーシャルワークの考え方や視点、支援方法などの学びを通して、子どもや家庭をどのように理解し、サポートすることができるのか学習する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　ソーシャルワークとは 第２回　ソーシャルワークの視点と考え方 第３回　児童福祉とスクールソーシャルワーク 第４回　子どもをめぐる現状（不登校）とスクールソーシャルワーク 第５回　子どもをめぐる現状（児童虐待）とスクールソーシャルワーク 第６回　子どもをめぐる現状（発達障害）とスクールソーシャルワーク 第７回　精神保健福祉とソーシャルワーク 第８回　ソーシャルワークと人権（子どもの権利を中心に） 第９回　　ソーシャルワークと他機関連携 第 10 回　ソーシャルワークと地域との連携 第 11 回　ソーシャルワーク実践におけるアセスメント（事例検討） 第 12 回　ソーシャルワーク実践における援助 第 13 回　ソーシャルワーク実践における開発機能 第 14 回　ソーシャルワーク実践におけるアセスメントとそれに基づく環境調整（事例検討） 第 15 回　ソーシャルワークの展望、期末レポート		
授業方法	講義（演習形式も行う）		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、振り返りシートの活用		
授業外学習	振り返りシートの作成		
教科書	適宜紹介する。毎週授業内容をまとめたプリントを配布する。		
参考書			
評価方法	授業への参加度 50%　課題レポート（振り返りシート）10%　期末レポート 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場におけるスクールソーシャルワーカーとしての経験のある者が、その経験を活かして、ソーシャルワークについて講義する。		

No.	312	科目コード	68031
科目名	心理教育的アセスメント	授業コード	9322145
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	心理教育的なアセスメントの理論を理解し、実践的な応用ができる能力を高める。具体的なアセスメント・ツールの理論と実践を通して、長所と限界について理解する。アセスメント結果に基づき、個別の指導計画を立案できるようになることを目指す。		
授業概要	教育相談実践基礎プログラムに必要な授業である。本プログラムへの登録を事前に教務課に提出していることが望ましい。授業内容は高度になるため、欠席すると次回の授業時に理解できない部分が出てくるため、15 回すべて出席することが必要である。演習形式の授業内容のため、積極的に参加することが必要である。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　アセスメントとは 第 3 回　発達アセスメントの理論と具体的な方法 第 4 回　検査法、観察法、質問紙法の理論 第 5 回　発達検査の理論と具体的な検査内容 第 6 回　知能検査の理論 第 7 回　知能検査の具体的な検査方法 第 8 回　性格検査の理論 第 9 回　性格検査の具体的な検査方法 第 10 回　発達障害の特性とアセスメント方法 第 11 回　親子関係の理論とアセスメント方法 第 12 回　ことば・コミュニケーションの発達とアセスメント方法 第 13 回　認知発達への支援の実際 第 14 回　個別の指導計画とは 第 15 回　個別の指導計画の作成		
授業方法	対面授業として演習形式で実施する。毎回、授業終了後に課題の提出を求める。 中間レポート 2 回と最終レポート課題の提出を単位認定に要件とする。		
アクティブラーニングの視点	演習形式で授業を行い、各種検査の体験をもとにアセスメントの長所と限界について理解することを求める。		
授業外学習	レポートの作成等を通じて授業時間外に学習することを求める。		
教科書	適宜プリントや資料を配布する。		
参考書	本郷一夫　『シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』　建帛社、2011 年 本郷一夫『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』　有斐閣、2008 年		
評価方法	平常点（毎回の課題の提出による評価）（３０％） 中間レポート課題（文献を読んだ内容について 1000 字程度のレポート課題） （各２０％、計４０％） 最終レポート課題（事例に基づく個別の指導計画の作成）（３０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	乳幼児健診において心理判定士として関わった経験や発達障害のある成人の支援事業に関わった経験をもとに授業を行う。		

No.	313	科目コード	68032
科目名	部活動論	授業コード	9322168
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	1. プレーヤーズセンタードの理念を持ち，自主性を重視することでスポーツ及び文化的活動の本来の楽しさを伝え，生涯に渡って活力のある生活に繋がる指導の基礎を培う。 2. 発育発達の視点，健康管理，人権尊重などの視点を踏まえ「個」の育成について科学的根拠に基づいて計画的かつ合理的な指導の基礎を培う。 3. インテグリティ教育を推進し，協調性，社会性，規範意識など人間力の向上を目指す指導の基礎を培う。 4. 社会や地域と連携を図り，学校教育活動の活性化に繋げ，学校だけでなく地域の発展を視野にいれた社会貢献が遂行できる資質を培う。		
授業概要	本授業では，学校教育の一環としての部活動の意義を理解し，自主性・自発性を引き出すとともに「学びに向かう力，人間性」を身につけ，合理的かつ効率的な部活動を推進できる部活動指導者の基礎を身につける。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　部活動とは 第 2 回　部活動の現状と課題 第 3 回　部活動指導の原理 第 4 回　運動部活動と行政１ 第 5 回　運動部活動と行政２ 第 6 回　運動部活動と企業１ 第 7 回　運動部活動と企業２ 第 8 回　運動部活動と総合型地域スポーツクラブ 第 9 回　部活動指導者の事例報告１ 第 10 回　部活動指導者の事例報告２ 第 11 回　運動部活動と体罰・ハラスメント 第 12 回　運動部活動の事故と予防 第 13 回　部活動の実践論１ 第 14 回　部活動の実践論２ 第 15 回　まとめ　部活動のこれから		
授業方法	講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。		
教科書	指定なし		
参考書	「運動部活動の教育学入門 -歴史とのダイアローグ-」，大修館書店，2015 「部活動学」，ベースボール・マガジン社，2020		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ③授業毎の小レポート（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等） ４０％ ④課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　３０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する		

No.	314	科目コード	33041
科目名	保育原理	授業コード	9322256
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．保育の意義及び目的について理解する。 ２．保育に関する法令及び制度を理解する。 ３．保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ４．保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ５．保育の現状と課題について理解する。 保育の内容と基本についての理解をとおして、それらの保育がこれまでの思想と歴史的変遷について現在につながっていること、さらに、現代の保育の現状と課題について考察する。		
授業概要	内外の保育理論の検証を試みながら、実践的知識・技能を磨き、保育者として期待される実践者としての知識や態度を修得する。理論と実践の双方向的視点から、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」を中心に保育計画・教育課程の編成、保育内容の指導法、教育の方法及び技術を学んでいく。保育の場に関する事項を体系的に取り上げ、子どもが豊かに育つための理論的基礎を習得する。取り上げるテーマは「保育の意義と思想」「保育の特性・目的・方法・環境」「乳幼児の発達段階に応じた保育内容」「家庭、幼稚園、保育所という保育の場」「保育のねらい、内容、領域」などである。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　保育の理念と意義 第 2 回　保育の社会的意義：子どもの最善の利益と保育 第 3 回　現代社会における子育て支援と保育：家庭福祉と保育 第 4 回　子ども理解に基づく保育の課程：「けんか」の場面から 第 5 回　子どもの発達に応じた保育 第 6 回　環境をとおして行う保育 第 7 回　保育者の倫理と社会的役割 第 8 回　保育に関する法令及び制度 第 9 回　保育の目的、目標、ねらい 第 10 回　世界の保育の歴史 第 11 回　わが国の保育の歴史 第 12 回　日本の保育の現状と課題 第 13 回　諸外国の保育の現状 第 14 回　保育所保育指針の基本原則 第 15 回　保育の計画と評価：全体的な計画・指導計画		
授業方法	保育の原理・理論を深めるために、事前にテキストの予習や文献を読み、授業での発表や討論を重視して、双方向型の授業をすすめる。		
アクティブラーニングの視点	各テーマに応じて、小グループで調べたり、話し合い、内容について、深める活動を実施する。		
授業外学習	事前に教科書を中心に学習して、課題について考察する。また、事後には、今回のテーマに沿ってまとめる。この繰り返しを積み重ねていく。		
教科書	戸江茂博編著『保育原理』ミネルヴァ書房		
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル社 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル社 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル社		
評価方法	授業への参加（40%）、レポート、発表の内容（60%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	315	科目コード	33000
科目名	社会福祉	授業コード	9314917
教員名	須郷　紳弘		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	＊現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ＊社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ＊社会福祉における相談援助について理解する。 ＊社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ＊社会福祉の動向と課題について理解する。		
授業概要	社会福祉は将来、対人関係や対人援助を行う者が持つべき基礎知識であり、福祉マインドを身に着ける基礎となる。知識だけでなく、心で感じ、考える授業とする。近年、子どもの健全な発達を支援ために、親や家族の抱える問題にも対応できる力が求められており、人間の理解と援助という視点から社会福祉を学ぶ。		
授業計画	1. オリエンテーション・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 2. 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉 3. 児童の人権擁護と社会福祉 4. 家庭支援と社会福祉 5. 社会福祉の制度と法体制 6. 社会福祉行財政と実施機関 7. 社会福祉施設等 8. 社会福祉の専門職・実施者 9. 社会保障および関連制度の概要 10.　相談援助の意義と原則 11.　相談援助の方法と技術 12.　社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 13.　少子高齢化社会への対応 14.　地域福祉の推進とネットワーク 15.　社会福祉の諸外国の動向		
授業方法	基本的には講義になるが、身近なこととして感じられるように、事例紹介や映像資料などを取り入れる。また、現場の生の声が届けられるようにしていく予定である。		
アクティブラーニングの視点	できるだけ，授業の中で，個々人の意見を発言してもらう機会を設けるとともに，可能な範囲で少人数のグループを組みディスカッションなどを行う予定		
授業外学習	予習は，次回の授業範囲の教科書を読み，2 時間以上の準備学修を行うこと 復習は，当該授業範囲の教科書とレジュメを読み返し，２時間以上復習すること。 授業範囲の目安は，１回目の授業では教科書の第１講，２回目の授業では教科書の第２講という具合に進めていく。		
教科書	公益財団法人児童育成協会監修『社会福祉』（新基本保育シリーズ④）中央法規		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業への参加度（20%）　授業中に毎回作成してもらうレポート（80%） 授業への参加度は，個々人の発言内容，グループ討議の参加態度などを評価する。 レポートは，毎授業に作成してもらう予定。内容とともに，誤字脱字がないか等についても評価する。文字数については，授業ごとに指定する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	障害児・者施設での勤務経験を有する者がその経験を活かして社会福祉の概要について解説する		

No.	316	科目コード	33048
科目名	子ども家庭福祉	授業コード	9322155
教員名	藪　一裕		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ２．子どもの人権擁護について理解する。 ３．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ４．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する ５．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。		
授業概要	児童福祉の理念をはじめ、子どもや家庭の権利の考え方や児童福祉関係諸施策など保育実践活動に役立つ知識を身に付けるよう講義を展開していく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　子ども家庭福祉の理念と概念 第３回　子ども家庭福祉の歴史的変遷 第４回　現代社会と子ども家庭福祉 第５回　子どもの人権擁護の歴史的変遷 第６回　児童の権利に関する条約 第７回　子どもの人権擁護と現代社会における課題 第８回　子ども家庭福祉の制度と法体系 第９回　子ども家庭福祉の実施体系 第 10 回　児童福祉施設 第 11 回　子ども家庭福祉の専門職 第 12 回　子ども家庭福祉の現状と課題 （１）少子化と地域子育て支援 （２）母子保健と子どもの健全育成 （３）多様な保育ニーズへの対応 （４）子ども虐待・ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）とその防止 第 13 回　社会的養護 （１）障害のある子どもへの対応 （２）少年非行等への対応 (3) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 第 14 回　子ども家庭福祉の動向と展望 （１）次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 （２）地域における連携・協働とネットワーク （３）諸外国の動向 第 15 回　まとめ及び振り返り		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	教科書の「学びのポイント」や適時提示する参考書、映像教材をもとにグループディスカッションやロールプレイなどを実施する。		
授業外学習	教科書や、参考書の次回授業箇所について確認をしておくこと。		
教科書	直島正樹，河野清志『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』萌文書林，2019.		
参考書	適時提示、配付する。		
評価方法	平常点（受講態度，授業参加度，リアクションペーパー等の課題，小テスト）50％ 期末レポート　50％（期末レポートは授業の内容を踏まえ，テーマに関する理解度と学生自身の考えが反映しているものを評価する）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	授業担当者は、児童養護施設で「児童指導員」「主任指導員」「個別対応職員」「里親支援専門相談員」「家庭支援専門相談員」を歴任した。子どもの権利を擁護し、家庭の幸福のために子ども家庭福祉が果たす役割を学んでほしい。		

No.	317	科目コード	33051
科目名	社会的養護１	授業コード	9322031
教員名	藪　一裕		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ２．子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ３．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ４．社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ５．社会的養護の現状と課題について理解する。		
授業概要	「保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、 公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」が社会的養護の役割である。近年、社会的養護においては、子どもの権利擁護や、子どもや家庭のニーズに対応するために、里親等の家庭養護、施設養護など様々な養育形態があり、子どもの養育を担う保育士は、独自の専門性と役割が必要とされている。この授業では、その現状と機能、変遷を学ぶ。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　社会的養護の理念と概念そして歴史的変遷 第３回　子どもの人権擁護と社会的養護 第４回　社会的養護の基本原則社会的養護における保育士等の倫理と責務 第５回　社会的養護の制度と実施体系 第６回　社会的養護の仕組みと実施体系 第７回　家庭養護と施設養護 第８回　社会的養護の対象・形態・専門職 第９回　社会的養護の対象・形態・専門職 第 10 回　社会的養護に関する社会的状況 第 11 回　施設等の運営管理 第 12 回　被措置児童等の虐待防止 第 13 回　社会的養護と地域福祉 第 14 回　外国の社会的養護 第 15 回　まとめ及び振り返り		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	教科書各章の「学びのポイント」を活用し、具体的な事例を提示する。それに沿って、グループワークで学生同士のディスカッションを行い、相互理解、学びを深める。		
授業外学習	授業で教科書、参考書などで事前学習が必要な箇所を指示をするので、予習を行うこと。 授業で指示したテーマを、新聞やインターネット等で記事を検索し、予習を行うこと。		
教科書	原田旬哉・杉山宗尚編『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ』萌文書林、2020.		
参考書	参考資料：「新しい社会的養育ビジョン」，2017（平成 29）年８月 「社会的養育の推進に向けて」，（最新版）		
評価方法	平常点（受講態度、授業参加度、リアクションペーパー等の課題、小テスト）50％ 期末レポート　50％（期末レポートは授業の内容を踏まえ、テーマに関する理解度と学生自身の考えが反映しているものを評価する）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	授業担当者は、児童養護施設で「児童指導員」「主任指導員」「個別対応職員」「里親支援専門相談員」「家庭支援専門相談員」を歴任した。子どもの権利を擁護し，保護者を含めた家庭の福祉を保証するという視点から，社会的養護が果たす役割を学んでほしいと考えている。		

No.	318	科目コード	33101
科目名	子どもの保健１	授業コード	9314729
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 ２．子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解できる。 ３．子どもの疾病とその予防及び適切な対応について理解できる。 ４．子どもの精神保健とその課題等について理解できる。 ５．保育における環境及び衛生管理並びに安全の実施体制について理解できる。 ６．施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解できる。		
授業概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することを目的とする。すなわち、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について習得する。また子どもの精神保健とその課題等について学ぶ。そして、保育における環境及び衛生管理並びに安全管理を知り、施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。また小児の生活環境、健康増進などについての知識を習得し、幼稚園、保育所における集団保育と保健、保護者と園児への健康増進教育の方法とその教材についても解説する。		
授業計画	第１回　生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 第２回　健康の概念と健康指標 第３回　地域における保健活動と児童虐待防止 第４回　生物としてのヒトの成り立ち 第５回　身体発育と保健 第６回　生理機能の発達と保健 第７回　運動機能と発達と保健 第８回　精神機能の発達と保健 第９回　子どもの生活環境と精神保健 第 10 回　子どもの心の健康とその課題 第 11 回　子どもの生活習慣と健康 第 12 回　保健に関する行事と健康づくりの実践 第 13 回　乳幼児期の栄養 第 14 回　幼児期の栄養 第 15 回　全体の復習とまとめ 期末試験		
授業方法	講義と実習形式で行う。毎回、小レポートを行う。		
アクティブラーニングの視点	教科書の内容から提示されたテーマに従い、協同学習によりグループの意見をまとめる。 その後、グループごとに意見を発表し、個人で講義全体の振り返りとして小レポートを書く。		
授業外学習	予習として教科書の該当する所を事前に読んでおく。専門用語などの理解をしておくこと。		
教科書	八木利津子他編　『子どもの保健ー子どもと社会の未来を拓くー』　青踏社　2020 年 3 月発行		
参考書	巷野悟郎監修『保育保健の基礎知識』 日本小児医事出版社		
評価方法	期末試験 50%、授業中に行う小レポート 30%、グループワークでのワークシートによる授業への参加度 20%とする。小レポート、ワークシートは次週の講義の最初に評価を付けて返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	319	科目コード	33111
科目名	子どもの保健２	授業コード	9322842
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶことができる。 ２．子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えることができる。 ３．子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。 ４．救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。 ５．現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解できる。		
授業概要	本講義では、①保健活動の計画及び評価、②子どもの保健と環境、③子ども疾病と適切な対応、④事故防止及び健康安全管理の４点について具体的な事例を含めながら学習し、理解を深めていくことを目的とする。①では、保健計画の作成と活用、記録や評価、また、衛生管理の大切さについて学習する。②では、養護、健康増進、生活習慣、発達援助を中心に、適切な保健活動を行うための知識・技能を習得する。③では、子どもの体調不良や障害、感染症、配慮を必要とする子どもへの対応について学習する。④では、子どもの事故防止や健康安全管理、一次救命処置について事例を挙げながら理解する。		
授業計画	第１回　保健計画の作成と活用 第２回　保健活動の記録と自己評価 第３回　子どもの保健に係る個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理 第４回　保健における養護と教育の一体性 第５回　子どもの健康増進と保育の環境 第６回　子どもの生活習慣と心身の健康 第７回　子どもの発達援助と保健活動 第８回　体調不良や障害が発生した場合の対応 第９回　感染症の予防と対策 第 10 回　個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等） 第 11 回　乳児への適切な対応 第 12 回　障害のある子どもへの適切な対応 第 13 回　事故防止及び健康安全管理に関する組織的取り組み 第 14 回　救急処置及び救急蘇生法の習得 第 15 回　全体の復習とまとめ 期末試験		
授業方法	講義と実習。毎回の講義の最後に小レポートの提出を求める。		
アクティブラーニングの視点	教科書の内容から提示されたテーマに従い、協同学習によりグループの意見をまとめる。 その後、グループごとに意見を発表し、個人で講義全体の振り返りとして小レポートを記述する。		
授業外学習	予習として教科書の該当する所を事前に読んでおく。専門用語などの理解をしておくこと。		
教科書	大森 正英（編集） 図解 新・子どもの保健（新時代の保育双書）　株式会社みらい　2022 年３月		
参考書	巷野悟郎監修『保育保健の基礎知識』日本小児医事出版社		
評価方法	期末試験 50%、授業中に行う小レポート 30%、グループワークでのワークシートによる授業への参加度 20%とする。小レポート、ワークシートは次週の講義の最初に評価を付けて返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	320	科目コード	33128
科目名	子どもの健康と安全	授業コード	9322041
教員名	安部　惠子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。 ２．関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解できる。 ３．子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解できる。 ４．関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解できる。 ５．保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解できる。 ６．子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。		
授業概要	本講義では、（1）保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、（2）保育における健康及び安全の管理　、（3）子どもの体調不良等に対する適切な対応、（4）感染症対策、（5）保育における保健的対応、（6）健康及び安全の管理の実施体制について学修する。（1）では、子どもの健康と保育の環境および子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理について学習する。（2）では、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理および災害への備えの具体的方法を修得する。（3）では、体調不良や傷害が発生した場合の対応、応急処置、救急処置及び救急蘇生法について具体的方法を修得する。（4）では、感染症の集団発生の予防および発生時、罹患後の対応、（5）では、保育における保健的対応の基本的な考え方、３歳未満児への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）、障害のある子どもへの対応について学習する。（6）では、職員間の連携・協働と組織的取組、保育における保健活動の計画及び評価、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携について学習する。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション、保健計画の作成と活用、並びに記録と自己評価 第 2 回　子どもの健康状態の観察；身体測定の技術とその評価 第 3 回　子どもの健康状態の観察；観察方法、体温・呼吸・脈拍・血圧の測定方法、尿、便の検査法 第 4 回　養護技術；手の洗い方、抱き方、おんぶの仕方、食事の与え方、調乳・ミルクの与え方 第 5 回　養護技術；身体の清潔、沐浴実習、衣服の着脱の仕方、おむつの当て方 第 6 回　看護技術；水枕、氷枕、冷湿布、湯たんぽ、薬の飲ませ方、浣腸 第 7 回　子どもの病気の特徴、異常症状に気づいたときの対応、3 歳未満児への対応 第 8 回　感染症の予防、感染症が発生した時の対応 第 9 回　配慮を要する子どもへの適切な対応 （慢性疾患、アレルギー性疾患、乳児、障がいのある子ども） 第 10 回　基本的生活習慣の自立と健康教育；歯磨き、うがい、手洗い、薄着 第 11 回　日常におこりやすいけがや事故と応急処置、並びに事故防止と安全教育 第 12 回　事故発生時の対応；心肺蘇生法実習 第 13 回　事故発生時の対応；三角巾・包帯の使い方、患者の運び方 第 14 回　集団保育における健康管理；健康診断、保護者への啓蒙について 第 15 回　職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携		
授業方法	講義と実習		
アクティブラーニングの視点	教科書の内容から提示されたテーマに従い、協同学習によりグループの意見をまとめる。 その後、グループごとに意見を発表し、個人で講義全体の振り返りとして小レポートを書く		
授業外学習	予習として教科書の該当する所を事前に読んでおく。専門用語などの理解をしておくこと。		
教科書	八木利津子　他編「子どもの健康と安全　子どもと社会の未来を拓く」青踏社		
参考書	資料配布		

評価方法	期末試験 50%、授業中に行う小レポート 30%、グループワークでのワークシートによる授業への参加度 20%とする。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	321	科目コード	33131
科目名	子どもの食と栄養	授業コード	9322068
教員名	宇佐見　美佳		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.　健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2.　子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3.　養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容について理解する。 4.　家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5.　保育所におけるアレルギー対応ガイドライン、保育所における食事の提供ガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授業概要	子どもの心身の健やかな発育・発達には毎日の食生活が大きく関わる。子どもの時から適切な食習慣をはぐくむことは、生涯にわたる健康の保持増進のための最も基礎的な課題である。家庭や児童福祉施設で営まれる食生活の現状と課題を把握し、適切な栄養の知識や技術を学び、子どもと保護者への食育、地域との連携した食育、アレルギーなど特別な配慮を要する子どもへの対応等、子どもの食に関するさまざまな食の営みのあり方を学ぶ。必要に応じて実習、演習を取り入れる。		
授業計画	1.子どもの健康と食生活の意義 (1)子どもの心身の健康と食生活、その現状と課題 2.栄養に関する基礎的知識 (2)栄養の基本的概念と栄養素について (3)食事摂取基準、食品の選び方と献立作成 (4)調理の基本 3.子どもの発育・発達と栄養生理 (5)子どもの身体の発達 (6)子どもの栄養と生理機能 4.子どもの食生活 (7)乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 (8)幼児期の心身の発達と食生活 (9)学童期の心身の発達と食生活 (10)妊娠期の心身の発達と食生活 5.食育の基本とその内容 (11)養護・教育と食育、食育の内容と計画及び評価 (12)食育のための環境（地域の関連機関との連携・職員間の連携・保護者との連携） 6.家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (13)家庭・児童福祉施設における具体的な食事と栄養について 7.特別な配慮を要する子どもへの対応 (14)疾病・体調不良、食物アレルギー。障がいのある子どもへの対応 (15)食物アレルギーをもつ子どもへの対応（給食時の留意点） 8.期末試験と授業のまとめ		
授業方法	講義と実習・演習によって進める。		
アクティブラーニングの視点	現代の子どもたちの食生活状況の課題について、ペア、グループ学習を通じて学習者間の意見交換を行い、課題解決への理解を深める。また、調理実習を行い、基本的な調理技術を身につけ、自身の食生活に生かし、次世代に伝えられる食生活習慣を培う。		
授業外学習	事前に教科書を読み、内容を把握しておく。課題レポートが課されたときは学習した内容について復習し、レポートを期日までに完成させる。		
教科書	子どもの食と栄養演習　第６版　小川雄二（編者）　建帛社		
参考書	授乳・離乳の支援ガイド　（厚生労働省）		
評価方法	授業への参加態度 30%　レポート提出 10%　期末試験 60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	保育所・地域にて幼児と保護者に対する栄養教育や調理実習指導の経験を有する教員である。		

No.	322	科目コード	33141
科目名	子ども家庭支援論	授業コード	9322051
教員名	大台　賢史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる。 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、支援の具体的なイメージができるようになる。 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。		
授業概要	家族の養育機能の変遷を通して、現代の家族の持つ意味や機能、家族を取り巻く社会的状況を確認し、子育て支援体制の意義や実情を概説する。そして今日における夫婦、親子の家族関係の現状を踏まえ、子育て支援としての家族対応をいかに図っていくかについて、適切な相談助言の在り方、虐待等への対応、子育て支援サービスの抱える課題等について解説する。また各分野、場面における子育て支援サービスの具体的展開を理解し、家族福祉を図るための様々な活動を行っている子育て支援サービスの関係機関の連携について概説する。		
授業計画	・子ども家庭支援の意義と役割 第１回　オリエンテーション（子ども家庭支援の意義と必要性） 第２回　子ども家庭支援の目的と機能 ・保育士による子ども家庭支援の意義と基本 第３回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 第４回　保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第５回　保育士に求められる基本的態度 第６回　家庭の状況に応じた支援 第７回　地域の資源の活用と関係機関との連携・協力 ・子育て家庭に対する支援の体制 第８回　子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第９回　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 ・多様な支援の展開と関係機関との連携 第 10 回　さまざまな家庭への支援（ひとり親家庭、ステップファミリー等） 第 11 回　発達のつまづきや障害のある子どもの家庭支援 第 12 回　保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第 13 回　地域の子育て家庭への支援 第 14 回　要保護児童等及びその家庭に対する支援 第 15 回　子ども家庭支援に関する現状と課題と授業内テスト		
授業方法	講義(授業内容に応じて演習形式も行う)		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）		
授業外学習	毎時の授業内容について復習し、小レポートに備えること。 演習後振り返りシートの作成。		
教科書	適宜紹介する。また毎回、授業内容をまとめたプリントを配布する。		
参考書	保育所保育指針解説書(厚生労働省編)		
評価方法	授業への参加度 50%、小レポート 10%、最終レポート 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	スクールソーシャルワーク業務の経験を持つものが、こども家庭支援・児童福祉について講義する。		

No.	323	科目コード	33220
科目名	乳児保育	授業コード	9314294
教員名	増本　敏子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	＊乳児保育の理念と保育所・乳児院等における乳児の現状と課題について理解することができる ＊３歳児未満の発育・発達・生活と遊びについて理解することができる ＊乳児クラスの保育内容や方法、環境構成や観察・記録について学ぶことができる ＊乳児保育の歴史的変遷及び役割について学ぶ		
授業概要	はじめに乳児保育の保育観の歴史的変遷について概説し、現代の乳児保育のニーズと意義について確認する。乳児期は一生の中で最も発達変化の大きい時期であり、養育者との信頼関係を築き、それを支えに発達成長を遂げていく時期である。0 歳から 2 歳の年齢ごとの発達の特徴、それぞれの年齢で大切にしたいことを確認しながら、生活が遊びへの援助の実際について学ぶ。ビデオ視聴などで実際の乳児の姿を見ることで、発達の理解、乳児と保育者との関わり、子ども同士の関わり、乳児保育を行う上での環境構成の実際などについて学びを深めていく。子育て支援における乳児保育の意義についても触れ、保育者が保護者の良き理解者・相談相手となり共に育っていく姿勢を持つことの大切さも理解できるようにする。乳児院での保育内容、果たしている役割についても学習する。		
授業計画	１．オリエンテーション・乳児保育の理念 ２．乳児保育の歴史と現状 ３．胎児期と新生児期 ４．０歳児前半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 ５．０歳児後半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 ６．絵本と出会う（はじめての絵本との出会い）　ブックスタート：赤ちゃん絵本について知る ７．０歳児後半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 ８．１歳児前半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 ９．１歳児後半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 10．１歳児後半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 11．２歳児前半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 12．２歳児後半の発達をふまえた生活と援助にもとづく保育の実際 13．現役保育士から心構えや現状を学ぶ 14．乳児期の記録と保育指導計画・保護者との連携 15．乳児院における保育・まとめ		
授業方法	乳児保育の歴史的変遷など事前学習をし、現代の保育実践・理論と比較しながら乳児保育の意義が実感できるようにすすめる。 演習科目であるので教材研究やオモチャ・絵本・手遊び・など実技も取り入れ、乳児保育の実践に役立つ授業を行う。		
アクティブラーニングの視点	教材研究・振り返り・グループ討議など		
授業外学習	授業内容の復習をする 予習として教科書の該当する章を事前に読んでくる 乳児期のオモチャの制作や絵本等の教材研究を行う ワークショップの準備をする		
教科書	長瀬美子　『乳児期の発達と生活・あそび』　ちいさいなかま社		
参考書	乳児保育研究会編　『乳児の保育新時代』　ひとなる書房 丸山美和子『保育者が基礎から学ぶ乳児の発達』かもがわ出版 高内正子・梶美保　辺著『乳児保育演習ガイド』建帛社　　他　授業で適宜紹介する		
評価方法	授業への参加度（授業態度・課題　50%）　小テスト・レポート（50%）により総合的に評価する		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立保育所・保健センターでの勤務経験を活かして乳児保育を指導する。		

No.	324	科目コード	33231
科目名	障がい児保育	授業コード	9322407
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。また保育における計画の作成や援助の具体的方法について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。		
授業概要	障がい児保育を支える理念や歴史的変遷を踏まえ、障がい観を問い直す。様々な障がいのある子どもや配慮を要する子どもについて基本的理解を深め、発達援助や支援の方法、支援計画の立て方を学ぶ。保護者や家族への支援、園における子ども同士の関わりや職員間の連携のあり方、地域の保健・医療・福祉・教育の関係機関についても理解し、望ましい連携・協働のあり方や障がい児保育の課題について考える。		
授業計画	第１回：障がい児保育を学ぶ意義及び障がいの捉え方 第２回：障がい児保育を支える理念と歴史的変遷 第３回：障がいのある子どもの地域社会への参加・インクルージョン及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本 第４回：障がいの特性理解と保育における発達の援助 ①肢体不自由児、視覚・聴覚障がい児 第５回：障がいの特性理解と保育における発達の援助 ②知的障がい児、言語障がい児 第６回：障がいの特性理解と保育における発達の援助 ③発達障がい児（ADHD、LD、ASD） 第７回：障がいの特性理解と保育における発達の援助 ④重症心身障がい児、医療的ケア児 第８回：その他の特別な配慮を要する子どもの理解と発達の援助 第９回：障がい児等の保育の実際 ①指導計画及び個別の支援計画の作成 第 10 回：障がい児等の保育の実際 ②発達を促す生活や遊びの環境、子どもの健康と安全 第 11 回：障がい児等の保育の実際 ③子ども同士の育ち合いと職員間の連携・協働 第 12 回：保護者や家族に対する理解と支援、保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 第 13 回：障がい児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関の連携・協働 第 14 回：小学校等との連携 第 15 回：障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題		
授業方法	視聴覚教材やワークシートを活用する。発表やグループ討議を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループ発表、ペアワーク・グループワーク、グループ討議等）、ワークシート・振り返りシートの活用		
授業外学習	障がいの特性と発達の援助について、担当箇所の調べ学習を行い、発表用レジュメにまとめて事前に提出すること。他に準備が必要な協同学習については、随時事前課題を指示するので、取り組んで授業に臨むこと。		
教科書	「実践にいかす特別支援教育・障がい児保育の理論と支援」嵯峨野書院、小川圭子・矢野正編著		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年３月告示＞』『保育所保育指針解説＜平成 30 年３月＞』 内山登紀夫他　新しい発達と障害を考える本　シリーズ　ミネルヴァ書房　2013　2014 社会福祉法人全国社会福祉協議会全国保育士会『医療的ケアを必要とする子どもの保育実践事例集』 https://unleash.or.jp/wp-content/uploads/2019/10/iryotekicare-1.pdf その他適宜紹介する		
評価方法	授業活動への参加と振り返りシート提出（30%）、調べ学習と発表（30%）、授業中に行う小テスト（20%）、レポート（20%）		
既修条件			
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、発達に遅れのある子どもの母子通所訓練事業、発達に課題のある園児の巡回相談事業、園・学校や教育センター・心理教育相談センターでの障がい等特別な配慮を要する子ども、保護者、保育者・教師等に相談活動を行ってきた経験を生かし、適切な理解と支援を考えることができるよう指導する。		

No.	325	科目コード	33238
科目名	社会的養護２	授業コード	9322061
教員名	柏木　邑太		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	社会的養護の基本的な内容、保育委の役割について理解する。また、施設養護や家庭用語の実際を学び、社会的養護にかかわる相談援助の方法や技術について理解するとともに虐待防止や家庭支援についても理解する。		
授業概要	現代社会において、様々な理由から社会的養護を必要とする家族が増加している。なかには虐待であったりと悲惨な結果を招くことにも繋がっており、事例検討などを通して要保護児童の現状を知り、背景に触れて理解するとともに実際にどのような支援が必要なのか考察していく。また、本講義を通してその中で保育士としての知識や技術の獲得、職業倫理の確立に繋げていく。		
授業計画	１，ガイダンス等 ２，社会的養護の内容①社会的養護における子どもの理解 ３，社会的養護の内容②日常生活支援 ４，社会的養護の内容③治療的支援 ５，社会的養護の内容④自立支援 ６，社会的養護の実際①施設養護の実際 ７，社会的養護の実際②施設養護で行われる支援 ８，社会的養護の実際③家庭養護の実際 ９，社会的養護の実際④家庭養護で行われる支援 １０，社会的養護における自立支援①アセスメントシートと自立支援計画書の作成 １１，社会的養護における自立支援②アセスメントシートと自立支援計画書の作成 １２，社会的養護にかかわる専門的技術①保育の専門性にかかわる知識、技術とその実践 １３，社会的養護にかかわる専門的技術②社会的養護にかかわる相談援助の知識、技術とその実践 １４，社会的養護に携わる際の職業倫理 １５，総括		
授業方法	演習		
アクティブラーニングの視点	毎回、教科書、他から事例を提示する。子どもと保護者、また、支援者の視点からその事例を検討し、受講者同士で分かち合い、相互理解を深める。		
授業外学習	授業で教科書、参考書など指示をするので、予習を行うこと。 授業で指示したテーマを、新聞やインターネットなどで記事を検索し、予習を行うこと。		
教科書	「演習・保育と社会的養護内容(学ぶ・わかる・見える　シリーズ保育と現代社会)」(2014/4/15) 出版社：株式会社みらい　　編集：橋本好市・原田旬哉		
参考書	適時プリント配布等		
評価方法	授業態度、授業参加度、リアクションペーパー等の課題など　60% 期末レポート　40%（期末レポートは授業の内容を踏まえ、テーマに関する理解度と学生自身の考えが反映しているものを評価する） 本授業は演習科目であるために、グループワークを多用する。グループでのディスカッション、発表などは学生相互の学びを深めるために不可欠な活動である。受講学生には特に積極的な授業への参加を求める。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	現在、児童養護施設で主任をしており現場での子どもの様子や職員・チームでの支援など実際に経験していることや取り組んでいることを伝え、社会的養護への理解を深める。		

No.	326	科目コード	33275
科目名	子育て支援	授業コード	9314071
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 ２．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。		
授業概要	保護者に対する保育相談支援及び保育士の行う子育て支援の意義と原則について理解し、保育の特性と保育者の専門性を生かした支援のあり方を学ぶ。保育者に求められる子育て支援の基本的な知識から実践的な技術・方法までをワークやケーススタディを通して学ぶ。		
授業計画	第１回：　保育者が行う子育て支援・保護者支援 第２回：　子育て支援の特性①子どもの保育とともに行う保護者の支援 第３回：　子育て支援の特性②日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 第４回：　子育て支援の特性③保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 第５回：　子育て支援の特性④子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 第６回：　子育て支援の展開①子ども及び保護者の状況・状態の把握 第７回：　子育て支援の展開②支援の計画と環境の構成 第８回：　子育て支援の展開③支援の実践・記録・評価・カンファレンス 第９回：　子育て支援の展開④職員間の連携・協働 第 10 回：子育て支援の展開⑤社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 第 11 回：子育て支援とその実際（内容・方法・技術）①保育所等における支援 第 12 回：子育て支援とその実際（内容・方法・技術）②地域の子育て家庭に対する支援 第 13 回：子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③障害のある子ども及びその家庭に対する支援　④特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 第 14 回：子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤子ども虐待の予防と対応　⑥要保護児童等の家庭に対する支援 第 15 回：子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑦多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解		
授業方法	理論学習を踏まえ、演習課題に取り組む。発表・討議を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート・振り返りシートの活用。ロールプレイング、グループ発表、グループ討議等を行う。		
授業外学習	担当箇所について発表準備をすること。演習方式で進める前提となる理論について予習しておくこと。		
教科書	小原敏郎ほか『演習・保育と子育て支援（学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会）』　みらい　2019		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年 3 月告示＞』『保育所保育指針解説＜平成 30 年 3 月＞』 長島和代ほか『日常の保育を基盤とした子育て支援子どもの最善の利益を護るために』 萌文書林 2018		
評価方法	演習課題の振り返りシート提出（60%）、授業内の発表（20%）、レポート（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	私立幼稚園でのキンダーカウンセリング、教育センターや学校での教育相談、心理教育相談センターでのインテーク面接等の経験を活かして、子育て支援について指導する。		

No.	327	科目コード	33295
科目名	保育実習指導１A	授業コード	9323162
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・保育所実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護を守秘義務について理解する。 ・保育の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・保育士の専門性や職業倫理について理解する		
授業概要	保育実習指導では、保育所での実習をおこなうにあたって、必要な事前学習をおこなう。保育所実習の意義、目的、内容を理解し、自らの課題が明確に出来るように、双方型で演習形式で行う。 また、実習にあたっての倫理や守秘義務などを身につけ、保育の計画や記録の方法等学ぶ。		
授業計画	事前指導　〈２年次後期〉 第１回　　オリエンテーション 第２回　　保育所実習の目的・意義、実習生カードの作成 第３回　　子どもの人権と最善の利益の考慮・プライバシー保護と守秘義務 第４回　　保育実習の内容・保育所実習の目標と課題 第５回　　保育の計画・保育実習の記録 第６回　　模擬保育（1） 第７回　　模擬保育（2） 第８回　　模擬保育（3） 第９回　　模擬保育(4) 第 10 回　　模擬保育(5) 第 11 回　　模擬保育(6) 第 12 回　　実習生の心得え・お礼状の書き方 事後指導　3 年前期 第 13 回　　事後指導のおける実習の総括・実習日誌の振り返り 第 14 回　　実習総括と自己評価・自己評価に基ずく課題の明確化 第 15 回　　実習報告書の作成指導・実習報告会		
授業方法	実習にむけての事前授業であるので、学生の主体的な学びが重要である。 実習にむけての提出物の期限までの提出や指導案の作成、模擬保育など実際におこなう授業である。 無断遅刻や欠席は認められない。		
アクティブラーニングの視点	模擬保育の実施、指導案の作成、振り返り、グループ討議での積極的な意見表明		
授業外学習	テキストならびに参考書を事前・事後に確認して、重要事項をまとめて知識として身につける。		
教科書	大元千種『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習の日誌と指導案サポートブック』ナツメ社 『保育実習ハンドブック』(授業内で配布) 適宜、必要な資料を配布する		
参考書	名須川知子（監修）『保育者になる人のための実習ガイドブック　AtoZ』萌文書林		
評価方法	記録、目標、指導案、課題など提出物（40%）　授業での模擬保育などの発表内容（40%）　日常点（20%）		
既修条件	教育原理、保育者論、発達心理学、幼児理解かつ原則として以下の科目を修得済み、もしくは履修中教育心理学、保育原理、社会福祉、保育内容（環境）、子どもの保健１、保育課程論、子ども家庭福祉、乳児保育、保育領域（人間関係）、保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（言葉）、保育内容（音楽表現）、保育内容（造形表現）		
実務経験のある教員による授業	実習指導については、幼稚園長の経験をもとに、実習生としての心得や「実習とは何か」ということを伝えていく。特に、初めての実習であり現場でのさまざまな事例を紹介して、実習にいく気持ちを高めていくよう指導する。		

No.	328	科目コード	33295
科目名	保育実習指導１A	授業コード	9323172
教員名	増本敏子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・保育所実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護を守秘義務について理解する。 ・保育の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・保育士の専門性や職業倫理について理解する		
授業概要	保育実習指導では、保育所での実習をおこなうにあたって、必要な事前学習をおこなう。保育所実習の意義、目的、内容を理解し、自らの課題が明確に出来るように、双方型で演習形式で行う。 また、実習にあたっての倫理や守秘義務などを身につけ、保育の計画や記録の方法等学ぶ。		
授業計画	事前指導　〈２年次後期〉 第１回　　オリエンテーション 第２回　　保育所実習の目的・意義、実習生カードの作成 第３回　　子どもの人権と最善の利益の考慮・プライバシー保護と守秘義務 第４回　　保育実習の内容・保育所実習の目標と課題 第５回　　保育の計画・保育実習の記録 第６回　　模擬保育（1） 第７回　　模擬保育（2） 第８回　　模擬保育（3） 第９回　　模擬保育(4) 第 10 回　　模擬保育(5) 第 11 回　　模擬保育(6) 第 12 回　　実習生の心得え・お礼状の書き方 事後指導　3 年前期 第 13 回　　事後指導のおける実習の総括・実習日誌の振り返り 第 14 回　　実習総括と自己評価・自己評価に基ずく課題の明確化 第 15 回　　実習報告書の作成指導・実習報告会		
授業方法	実習にむけての事前授業であるので、学生の主体的な学びが重要である。 実習にむけての提出物の期限までの提出や指導案の作成、模擬保育など実際におこなう授業である。 無断遅刻や欠席は認められない。		
アクティブラーニングの視点	模擬保育の実施、指導案の作成、振り返り、グループ討議での積極的な意見表明		
授業外学習	テキストならびに参考書を事前・事後に確認して、重要事項をまとめて知識として身につける。		
教科書	大元千種『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習の日誌と指導案サポートブック』ナツメ社 『保育実習ハンドブック』(授業内で配布) 適宜、必要な資料を配布する		
参考書	授業で適宜紹介する		
評価方法	記録、目標、指導案、課題など提出物（40%）　授業での模擬保育などの発表内容（40%）　日常点（20%）		
既修条件	教育原理、保育者論、発達心理学かつ原則として以下の科目を修得済み、もしくは履修中教育心理学、教育相談、保育原理、社会福祉、保育内容（環境）、子どもの保健１、保育課程論、児童家庭福祉、子どもの保健２、乳児保育、保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（言葉）、保育内容（音楽表現）、保育内容（造形表現）		
実務経験のある教員による授業	実習指導については、幼稚園長の経験をもとに、実習生としての心得や「実習とは何か」ということを伝えていく。特に、初めての実習であり現場でのさまざまな事例を紹介して、実習にいく気持ちを高めていくよう指導する。		

No.	329	科目コード	33305
科目名	保育実習指導１B	授業コード	9323169
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	1. 保育実習（施設）の意義と目的を理解する。 2. 施設の利用児・者を理解する 3. 施設での保育士の職務や役割、実習内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 4. 施設での保育士以外の職種と職務を理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標を明確にする。		
授業概要	この授業は、施設実習の事前指導と事後指導から構成されている。 まず事前指導は、実習開始前にどのような準備が必要なのか、一つひとつ確認して、自らの課題を明確にして心構えを養い、必要書類の作成、実習課題・計画作成、日誌の書き方を学ぶ。また、事後指導においては、総括と自己評価を行い、施設保育士の業務や職業倫理への理解をより深め、自分自身の振り返りと今後の課題を明確にする。		
授業計画	事前指導（3 年次後期） 第１回　オリエンテーション（施設実習の意義・目的） 第２回　子ども・職員に対する態度・行動（自己点検）、実習のねらいの設定 第３回　施設実習の内容と課題１（児童養護施設、乳児院） 第４回　施設実習の内容と課題２（障がい児・者施設等） 第５回　実習生カードの作成・実習計画の立案 第６回　実習日誌（記録）の書き方 第７回　実習生カード・実習計画書の添削指導と提出 第８回　子どもの人権と最善の利益の考慮・プライバシー保護と守秘義務 第９回　４回生による保育実習報告会 第 10 回　施設実習計画のプレゼンテーション発表（施設の概要・自己目標） 第 11 回　実習ガイダンス 第 12 回　実習生の心構え・お礼状の作成・事後指導について 事後指導（4 年次前期） 第 13 回　事後指導における実習の総括・実習日誌の振り返り 第 14 回　実習総括と自己評価・自己評価に基づく課題の明確化 第 15 回　実習報告書の作成・実習報告会		
授業方法	演習。外部講師招聘、4 回生との交流、視聴覚教材の活用等による現場理解。 事後指導の内容は、4 年前期授業にて実施。		
アクティブラーニングの視点	ロールプレイングや実習先別グループワークを通して討議し、発表する		
授業外学習	必要書類の作成。実習先施設の理解を深める調べ学習。 事前連絡票に指示された内容の事前学習や制作物準備等。		
教科書	適宜資料を配布する。『保育実習ハンドブック』（授業内で配布）		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年 3 月告示＞』『保育所保育指針解説＜平成 30 年 3 月＞』 保育実習１A で使用した教科書および参考書 立花直樹編著　『施設実習』MINERVA はじめて学ぶ保育⑪　ミネルヴァ書房　2019		
評価方法	事前・事後指導の提出物 40%　授業への参加度・態度 40%　実習発表 20%		
既修条件	教育原理、保育者論、発達心理学かつ原則として以下の科目を修得済み、もしくは履修中教育心理学、教育相談（幼・小）、保育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、子育て支援、社会的養護２		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校での施設実習先への訪問指導の経験を生かして、実習指導を行う。		

No.	330	科目コード	33305
科目名	保育実習指導１B	授業コード	9323208
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 保育実習（施設）の意義と目的を理解する。 2. 施設の利用児・者を理解する 3. 施設での保育士の職務や役割、実習内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 4. 施設での保育士以外の職種と職務を理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標を明確にする。		
授業概要	この授業は、施設実習の事前指導と事後指導から構成されている。 まず事前指導は、実習開始前にどのような準備が必要なのか、一つひとつ確認して、自らの課題を明確にして心構えを養い、必要書類の作成、実習課題・計画作成、日誌の書き方を学ぶ。また、事後指導においては、総括と自己評価を行い、施設保育士の業務や職業倫理への理解をより深め、自分自身の振り返りと今後の課題を明確にする。		
授業計画	事前指導（3 年次後期） 第１回　オリエンテーション（施設実習の意義・目的） 第２回　子ども・職員に対する態度・行動（自己点検）、実習のねらいの設定 第３回　施設実習の内容と課題１（児童養護施設、乳児院） 第４回　施設実習の内容と課題２（障がい児・者施設等） 第５回　実習生カードの作成・実習計画の立案 第６回　実習日誌（記録）の書き方 第７回　実習生カード・実習計画書の添削指導と提出 第８回　子どもの人権と最善の利益の考慮・プライバシー保護と守秘義務 第９回　4 回生による保育実習報告会 第 10 回　施設実習計画のプレゼンテーション発表（施設の概要・自己目標） 第 11 回　実習ガイダンス 第 12 回　実習生の心構え・お礼状の作成・事後指導について 事後指導（4 年次前期） 第 13 回　事後指導における実習の総括・実習日誌の振り返り 第 14 回　実習総括と自己評価・自己評価に基づく課題の明確化 第 15 回　実習報告書の作成・実習報告会		
授業方法	演習。外部講師招聘、4 回生との交流、視聴覚教材の活用等による現場理解。 事後指導の内容は、4 年前期授業にて実施。		
アクティブラーニングの視点	ロールプレイングや実習先別グループワークを通して討議し、発表する		
授業外学習	必要書類の作成。実習先施設の理解を深める調べ学習。 事前連絡票に指示された内容の事前学習や制作物準備等。		
教科書	適宜資料を配布する。『保育実習ハンドブック』（授業内で配布）		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年 3 月告示＞』『保育所保育指針解説＜平成 30 年 3 月＞』 保育実習１A で使用した教科書および参考書 立花直樹編著　『施設実習』MINERVA はじめて学ぶ保育⑪　ミネルヴァ書房　2019		
評価方法	事前・事後指導の提出物 40%　授業への参加度・態度 40%　実習発表 20%		
既修条件	教育原理、保育者論、発達心理学かつ原則として以下の科目を修得済み、もしくは履修中教育心理学、教育相談（幼・小）、保育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、子育て支援、社会的養護２		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校での施設実習先への訪問指導の経験を生かして、実習指導を行う。		

No.	331	科目コード	34185
科目名	保育実習指導２	授業コード	9300039
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	4	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶと共に、実習や既習の評価の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。そのために、保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。さらに、保育上の専門性や職業倫理について理解する。 また、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		
授業概要	保育実習Ｉでの学習成果を基礎として、保育所における保育全般に参加するなかで、保育士としての必要な資質や能力、技術を高める。具体的には、指導案の計画、立案、保育実践のための知識を深める。特に、子どもの人権、子どもの理解のため既習の教科との関連性を深めていく。実習後の自己評価等から課題を明らかにする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　保育実習Ⅱの意義 第３回　保育実習Ⅱの目的 第４回　保育計画について 第５回　保育記録について 第６回　保育士の専門性と職業倫理について 第７回　模擬保育（１）保育案の作成と実践（音と動きを入れて） 第８回　模擬保育（２）　〃 第９回　模擬保育（３）　〃 第１０回　実習目的・課題について 第１１回　実習にむけての留意事項 第１２回　事後指導における実習の総括と評価 第１３回　個別指導（１） 第１４回　個別指導（２） 第１５回　個別指導（３）		
授業方法	実習のための事前・事後指導であるので、学生の主体的な学びを重視する。 提出物の期限厳守、指導案の作成や模擬保育など保育士になったつもりでおこなう授業である。 無断遅刻・欠席は認められない。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業の準備・実施、指導案の作成、振り返り、討議において、自発的な態度で話し合い等実施する。		
授業外学習	指導案の作成、模擬（設定）保育等の教材準備、記録の作成などを授業外で実施する。		
教科書	『実習ハンドブック』（授業で配布）をしっかり購読すること		
参考書	模擬（設定）保育などの発表（30%）、実習報告書（30%）、指導案・課題、教材準備などの提出物（30%）授業への参加態度（10%）など総合的に評価する。		
評価方法	模擬（設定）保育などの発表（30%）、実習報告書（30%）、指導案・課題、教材準備などの提出物（30%）授業への参加態度（10%）など総合的に評価する。		
既修条件	保育実習１Ａ、保育実習１Ｂ		
実務経験のある教員による授業	長年の多くの保育園での指導体験や他の養成校での実習担当経験を活かして、学生の最後の実習を実りあるものとするための指導を行う。		

No.	332	科目コード	34195
科目名	保育実習指導３	授業コード	9300152
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	4	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	1．保育実習（施設）の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2．実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4．保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		
授業概要	本授業は、特に児童福祉施設をはじめとした福祉施設での実習に興味、関心をもつ学生、就職を希望している学生に対し、施設で従事する保育実践能力のさらなる向上をねらいとして開講する科目である。 事前指導では保育実習１B を通して得られた課題、保育実習３に向けての自分の新たな課題や目的意識を明確にし、実り多き実習となるための必要な準備を行う。事後指導で実習の総括と評価を行う。		
授業計画	事前指導 第１回　　オリエンテーション、保育実習１B の振り返り 第２回　　保育実習３の意義と目的 第３回　　乳児院・児童養護施設の理解 第４回　　知的障害児施設・障害者支援施設（知的障害者更生施設）の理解 第５回　　その他施設の理解（児童厚生施設、児童発達支援センター等） 第６回　　実習のねらいの設定、実習生カードの作成 第７回　　実習に際しての留意事項 第８回　　実習の計画と記録 第９回　　実習計画書の作成 第 10 回　実習日誌（記録）の書き方 第 11 回　実習ガイダンス 第 12 回　保育士の専門性と職業倫理　　実習計画書の推敲 事後指導 第 13 回　実習の総括と自己評価 第 14 回　実習報告書の作成・自己課題の明確化 第 15 回　実習報告会		
授業方法	演習　事後指導の内容は、後期授業にて実施		
アクティブラーニングの視点	報告会は３年生の「保育実習指導１B」の授業で実施し、グループ討議のファシリテートを行う。		
授業外学習	児童福祉施設の見学や福祉分野の就職フェア等適宜紹介するので、希望者は参加すること。 事前連絡票で指示された準備物・事前学習に取り組むこと。		
教科書	「保育実習ハンドブック」		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年３月告示＞』『保育所保育指針解説＜平成 30 年３月＞』 保育実習１で使用した教科書および参考書 立花直樹編著　『施設実習』MINERVA はじめて学ぶ保育⑪　ミネルヴァ書房　2019		
評価方法	事前・事後指導の提出物 40%　授業内の発表 40%　実習報告会 20%		
既修条件	保育実習１Ａ、保育実習１Ｂ		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校での施設実習先への訪問指導の経験を生かして、実習指導を行う。		

No.	333	科目コード	33073
科目名	保育実践演習	授業コード	9323178
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	＜目標＞ １．指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ２．保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ３．１及び２を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。		
授業概要	１．学びの振り返り グループ討論、ロールプレイング等の授業方法を活用し、以下の①～④の観点を中心に、これまでの自らの学びを、保育実習等における体験と結びつけながら振り返る。 ① 保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理 ② 社会性、対人関係能力 ③ 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携 ④ 保育や子育て家庭に対する支援の展開 ２．保育に関する現代的課題の分析に基づく探究 グループワークや研究発表、討論等により、保育に関わる今日の社会的状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法等について検討する。 ３．１及び２を踏まえて、自身の習得した知識・技術等と保育に関する現代的課題等から、自己の課題を把握する。その上で、目指す保育士像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化する。 ４．実践的な内容（畑プロジェクト）と通して、保護者・地域との関わりについて考察する。		
授業計画	第１回　保育者としての倫理 第２回　保育者の社会的意義、職務内容 第３回　保育者の同僚性 第４回　子どもに対する責任 第５回　家庭との連携 第６回　子どもをめぐる法制度 第７回　関係機関との連携 第８回　子育て支援：保育園の役割 第９回　子育て支援：地域における役割 第 10 回　子育て支援の実際 第 11 回　保育に関する現代的課題 第 12 回　保育をめぐる社会的問題 第 13 回　保育者の社会的責任と省察 第 14 回　地域に開かれた保育所と保育者の役割 第 15 回　まとめ		
授業方法	各課題に対して、各人の調査とグループによる討論をとおして、課題への提案を出せるようにする。		
アクティブラーニングの視点	ロールプレイングやグループワークをとおして、自らの問いを立て、課題に対する考察を深める。		
授業外学習	テーマに対して事前に調査する。また、グループワークの討論をまとめて次回の授業に活かす。　さらに、実践的な保育を構築する全般的な内容についても学ぶ。		
教科書	伊藤篤編著『子育て支援』ミネルヴァ書房		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業態度４０％。発表、レポート６０％		
既修条件	保育実習２または保育実習３を履修中もしくは修得済み		

実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援ルーム施設長を 10 年以上経験し、複数の自治体で子ども子育て審議会委員長の経験を活かして、社会における保育のあり方について指導する。

No.	334	科目コード	68033
科目名	道徳教育指導法	授業コード	9314060
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株〉ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	335	科目コード	68033
科目名	道徳教育指導法	授業コード	9314069
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株〉ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２0％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２0％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	336	科目コード	68033
科目名	道徳教育指導法	授業コード	9323065
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	337	科目コード	68033
科目名	道徳教育指導法	授業コード	9323075
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	338	科目コード	65155
科目名	道徳教育指導法（小）	授業コード	9318064
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	339	科目コード	65155
科目名	道徳教育指導法（小）	授業コード	9318070
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	340	科目コード	65165
科目名	道徳教育指導法（中）	授業コード	9318074
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	341	科目コード	65165
科目名	道徳教育指導法（中）	授業コード	9318077
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	342	科目コード	65165
科目名	道徳教育指導法（中）	授業コード	9326930
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	343	科目コード	65165
科目名	道徳教育指導法（中）	授業コード	9326931
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	344	科目コード	65155
科目名	道徳教育指導法（小）	授業コード	9326935
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	345	科目コード	65155
科目名	道徳教育指導法（小）	授業コード	9326937
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 ①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	第１回：道徳の本質（道徳とは何か） 第２回：道徳教育の歴史 第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第４回：子供の心の成長と道徳性の発達 第５回：学習指導要領と道徳教育 第６回：道徳科の目標及び主な内容 第７回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性 第８回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴 第９回：道徳科における教材(1)その特徴 第 10 回：道徳科における教材(2)授業設計への活用 第 11 回：道徳科の学習指導案の作成 第 12 回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程 第 13 回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方 第 14 回：模擬授業の実施(1)その振り返り 第 15 回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科　道徳」の基礎基本ハンドブック』　〈株）ERP　2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年告示　文部科学省)、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が６0%、提出物（提出状況、内容）２０％　および授業への参加度（発表、関わり方等）が２０％、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

No.	346	科目コード	68034
科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業コード	9314107
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	347	科目コード	68034
科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業コード	9314110
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	348	科目コード	68034
科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業コード	9323108
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	349	科目コード	68034
科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業コード	9323109
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	350	科目コード	65159
科目名	総合的な学習の時間の指導法（小）	授業コード	9318081
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	351	科目コード	65159
科目名	総合的な学習の時間の指導法（小）	授業コード	9318082
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	352	科目コード	65159
科目名	総合的な学習の時間の指導法（小）	授業コード	9326083
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	353	科目コード	65159
科目名	総合的な学習の時間の指導法（小）	授業コード	9326084
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	354	科目コード	65168
科目名	総合的な学習の時間の指導法（中･高）	授業コード	9318102
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	355	科目コード	65168
科目名	総合的な学習の時間の指導法（中･高）	授業コード	9318105
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	356	科目コード	65168
科目名	総合的な学習の時間の指導法（中･高）	授業コード	9326103
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	357	科目コード	65168
科目名	総合的な学習の時間の指導法（中･高）	授業コード	9326104
教員名	網代　　典子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	第１回　イントロダクション 　　総合的な学習の成立背景と現状 第２回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 　　学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力 第３回　総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 　　社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力 第４回　総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 　　各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈 第５回　総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 　　総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動 第６回　総合的な学習の時間の授業構想(1) 　　指導計画立案のための概念地図の作成 第７回　総合的な学習の時間の授業構想(2) 　　指導計画立案のための概念地図の交流と検討 第８回　総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント 第９回　総合的な学習の時間の指導計画(1) 　　目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性 第 10 回　総合的な学習の時間の指導計画(2) 　　主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動 第 11 回　総合的な学習の時間の指導計画(3) 　　総合的な学習の時間の学習指導案の構成 第 12 回　総合的な学習の時間の評価 　　評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例 第 13 回　総合的な学習の時間の立案(1) 　　学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、 第 14 回　総合的な学習の時間の立案(2) 　　学習指導案の交流と検討 第 15 回　講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間篇」 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「総合的な探究の時間篇」		
参考書	講義の中で適宜指示する		
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など）　30% ②ワークシート、振り返りシートなどの提出物（提出期日、内容の理解度、字数　など）　30% ③試験（小テストを含む）　40%		

	出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

No.	358	科目コード	68035
科目名	特別活動論	授業コード	9323575
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 ①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。		
授業概要	特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ 。		
授業計画	第１回　イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標 第２回　学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力 第３回　学級活動（１）学級活動の目的と内容 第４回：学級活動（２）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法） 第５回：生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容 第６回：生徒会活動（２）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法） 第７回：学校行事（１）学校行事の目的と内容（５つの学校行事の種類とそれぞれの目的） 第８回：学校行事（２）事例研究から考える（5 つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点） 第９回：現代の教育課題と特別活動（１）　特別活動が果たす教育的意義 第 10 回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例 第 11 回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例 第 12 回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例 第 13 回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例 第 14 回：特別活動の評価と改善の方法 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成 29 年版　小学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 平成 29 年版　中学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省）		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験(40%)、毎回の授業後に提出する小レポート(60%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

No.	359	科目コード	68035
科目名	特別活動論	授業コード	9323580
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 ①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。		
授業概要	特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ 。		
授業計画	第１回　イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標 第２回　学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力 第３回　学級活動（１）学級活動の目的と内容 第４回：学級活動（２）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法） 第５回：生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容 第６回：生徒会活動（２）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法） 第７回：学校行事（１）学校行事の目的と内容（５つの学校行事の種類とそれぞれの目的） 第８回：学校行事（２）事例研究から考える（5 つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点） 第９回：現代の教育課題と特別活動（１）　特別活動が果たす教育的意義 第 10 回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例 第 11 回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例 第 12 回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例 第 13 回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例 第 14 回：特別活動の評価と改善の方法 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成 29 年版　小学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 平成 29 年版　中学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省）		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験(40%)、毎回の授業後に提出する小レポート(60%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

No.	360	科目コード	65171
科目名	特別活動論（小）	授業コード	9326177
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 ①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。		
授業概要	特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ 。		
授業計画	第１回　イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標 第２回　学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力 第３回　学級活動（１）学級活動の目的と内容 第４回：学級活動（２）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法） 第５回：生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容 第６回：生徒会活動（２）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法） 第７回：学校行事（１）学校行事の目的と内容（５つの学校行事の種類とそれぞれの目的） 第８回：学校行事（２）事例研究から考える（5 つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点） 第９回：現代の教育課題と特別活動（１）　特別活動が果たす教育的意義 第 10 回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例 第 11 回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例 第 12 回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例 第 13 回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例 第 14 回：特別活動の評価と改善の方法 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成 29 年版　小学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 平成 29 年版　中学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省）		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験(40%)、毎回の授業後に提出する小レポート(60%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

No.	361	科目コード	65171
科目名	特別活動論（小）	授業コード	9326178
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 ①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。		
授業概要	特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ 。		
授業計画	第１回　イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標 第２回　学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力 第３回　学級活動（１）学級活動の目的と内容 第４回：学級活動（２）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法） 第５回：生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容 第６回：生徒会活動（２）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法） 第７回：学校行事（１）学校行事の目的と内容（５つの学校行事の種類とそれぞれの目的） 第８回：学校行事（２）事例研究から考える（5 つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点） 第９回：現代の教育課題と特別活動（１）　特別活動が果たす教育的意義 第 10 回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例 第 11 回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例 第 12 回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例 第 13 回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例 第 14 回：特別活動の評価と改善の方法 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成 29 年版　小学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 平成 29 年版　中学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省）		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験(40%)、毎回の授業後に提出する小レポート(60%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

No.	362	科目コード	65173
科目名	特別活動論（中・高）	授業コード	9326311
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 ①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。		
授業概要	特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ 。		
授業計画	第１回　イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標 第２回　学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力 第３回　学級活動（１）学級活動の目的と内容 第４回：学級活動（２）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法） 第５回：生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容 第６回：生徒会活動（２）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法） 第７回：学校行事（１）学校行事の目的と内容（５つの学校行事の種類とそれぞれの目的） 第８回：学校行事（２）事例研究から考える（5 つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点） 第９回：現代の教育課題と特別活動（１）　特別活動が果たす教育的意義 第 10 回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例 第 11 回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例 第 12 回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例 第 13 回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例 第 14 回：特別活動の評価と改善の方法 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成 29 年版　小学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 平成 29 年版　中学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省）		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験(40%)、毎回の授業後に提出する小レポート(60%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

No.	363	科目コード	65173
科目名	特別活動論（中・高）	授業コード	9326312
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の 3 つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 ①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。		
授業概要	特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ 。		
授業計画	第１回　イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標 第２回　学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力 第３回　学級活動（１）学級活動の目的と内容 第４回：学級活動（２）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法） 第５回：生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容 第６回：生徒会活動（２）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法） 第７回：学校行事（１）学校行事の目的と内容（５つの学校行事の種類とそれぞれの目的） 第８回：学校行事（２）事例研究から考える（5 つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点） 第９回：現代の教育課題と特別活動（１）　特別活動が果たす教育的意義 第 10 回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例 第 11 回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例 第 12 回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例 第 13 回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例 第 14 回：特別活動の評価と改善の方法 第 15 回：まとめと振り返り 定期試験		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成 29 年版　小学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 平成 29 年版　中学校新学習指導要領の展開　特別活動編（明治図書） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編＜最新版（平成 29 年告示）＞（文部科学省）		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験(40%)、毎回の授業後に提出する小レポート(60%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

No.	364	科目コード	68111
科目名	教育方法の理論と実践(情報通信技術の活用含む)	授業コード	9314580
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	365	科目コード	68111
科目名	教育方法の理論と実践(情報通信技術の活用含む)	授業コード	9314585
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	366	科目コード	68111
科目名	教育方法の理論と実践(情報通信技術の活用含む)	授業コード	9323590
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	367	科目コード	68111
科目名	教育方法の理論と実践(情報通信技術の活用含む)	授業コード	9323595
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	368	科目コード	68036
科目名	教育方法の理論と実践	授業コード	9314026
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	369	科目コード	68036
科目名	教育方法の理論と実践	授業コード	9314027
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	370	科目コード	68036
科目名	教育方法の理論と実践	授業コード	9323170
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５%，課題レポート５０%，学習指導案２０%，学習目標と授業の振り返り１５%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	371	科目コード	68036
科目名	教育方法の理論と実践	授業コード	9323171
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	372	科目コード	40087
科目名	教育方法の理論と実践（幼・小）	授業コード	9318993
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	373	科目コード	40087
科目名	教育方法の理論と実践（幼・小）	授業コード	9318994
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	374	科目コード	40087
科目名	教育方法の理論と実践（幼・小）	授業コード	9326014
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	375	科目コード	40087
科目名	教育方法の理論と実践（幼・小）	授業コード	9326015
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	376	科目コード	40089
科目名	教育方法の理論と実践（中・高）	授業コード	9318127
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	377	科目コード	40089
科目名	教育方法の理論と実践（中・高）	授業コード	9318128
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	378	科目コード	40089
科目名	教育方法の理論と実践（中・高）	授業コード	9326119
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	379	科目コード	40089
科目名	教育方法の理論と実践（中・高）	授業コード	9326120
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するための必要な教育方法を理解する。 (2)　教育目的に適した指導技術を理解し，身に付ける。 (3)　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法，教育の技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	第１回　　教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力 第２回　　教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第３回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材 第４回　　教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程 第５回　　教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得 第６回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（単元を見通した授業設計） 第７回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（１時間の授業設計） 第８回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの育成） 第９回　　教育の技術：学習指導案の作成を通した教育の技術の習得（学習スキルの発揮） 第 10 回　情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT 第 11 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 12 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計 第 13 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 14 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業 第 15 回　情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ		
授業方法	テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に，教育方法及び技術についての理解を深める。また，授業全般でコンピュータを活用し，授業中に資料等を共有したり，提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。 学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	なし		
評価方法	授業の様子１５％，課題レポート５０％，学習指導案２０％，学習目標と授業の振り返り１５％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	380	科目コード	68037
科目名	生徒・進路指導論	授業コード	9314235
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 そのため、以下の目標を掲げる。 （１）生徒指導の意義や原理を理解する。 （２）すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 （３）児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 （４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 （５）全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 （６）児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。		
授業概要	生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。		
授業計画	第１回：教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第３回：集団指導・個別指導の方法原理 第４回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第５回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第６回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第７回：　児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第８回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第９回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第 10 回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、 専門家や関係機関との連携の在り方 第 11 回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第 12 回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第 13 回：　キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第 14 回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第 15 回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。		

	・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月
参考書	小学校学習指導要領＜最新版＞（文部科学省） 中学校学習指導要領＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	①毎回の授業で課すレポート（字数、内容の深さ、独自性等により評価する）　７０％ ②まとめのレポート　（字数、内容の深さ、独自性等により評価する）　２０％ ③授業への参加度　（積極的参加度を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	381	科目コード	68037
科目名	生徒・進路指導論	授業コード	9323236
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 そのため、以下の目標を掲げる。 （１）生徒指導の意義や原理を理解する。 （２）すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 （３）児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 （４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 （５）全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 （６）児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。		
授業概要	生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。		
授業計画	第１回：教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第３回：集団指導・個別指導の方法原理 第４回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第５回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第６回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第７回：　児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第８回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第９回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第 10 回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、 専門家や関係機関との連携の在り方 第 11 回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第 12 回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第 13 回：　キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第 14 回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第 15 回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。		

	・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月
参考書	小学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省 中学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省 高等学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省
評価方法	①授業で課すレポート（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　７０％ ②まとめのレポート　（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　２０％ ③授業への参加度　（積極的に授業に参加する姿勢を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	382	科目コード	40092
科目名	生徒・進路指導論（小）	授業コード	9318248
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 そのため、以下の目標を掲げる。 （１）生徒指導の意義や原理を理解する。 （２）すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 （３）児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 （４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 （５）全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 （６）児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。		
授業概要	生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。		
授業計画	第１回：教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第３回：集団指導・個別指導の方法原理 第４回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第５回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第６回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第７回： 児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第８回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第９回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第 10 回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、 専門家や関係機関との連携の在り方 第 11 回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第 12 回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第 13 回： キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第 14 回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第 15 回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。		

	・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月
参考書	小学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省
評価方法	①授業で課すレポート（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　７０％ ②まとめのレポート　（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　２０％ ③授業への参加度　　（積極的に授業に参加する姿勢を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	383	科目コード	40092
科目名	生徒・進路指導論（小）	授業コード	9326240
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 そのため、以下の目標を掲げる。 （１）生徒指導の意義や原理を理解する。 （２）すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 （３）児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 （４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 （５）全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 （６）児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。		
授業概要	生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。		
授業計画	第１回：教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第３回：集団指導・個別指導の方法原理 第４回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第５回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第６回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第７回：　児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第８回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第９回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第 10 回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、 専門家や関係機関との連携の在り方 第 11 回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第 12 回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第 13 回：　キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第 14 回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第 15 回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。		

	・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月
参考書	小学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省
評価方法	①授業で課すレポート（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　７０％ ②まとめのレポート　（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　２０％ ③授業への参加度　　（積極的に授業に参加する姿勢を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	384	科目コード	40094
科目名	生徒・進路指導論（中・高）	授業コード	9318353
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 そのため、以下の目標を掲げる。 （１）生徒指導の意義や原理を理解する。 （２）すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 （３）児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 （４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 （５）全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 （６）児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。		
授業概要	生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。		
授業計画	第１回：教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第３回：集団指導・個別指導の方法原理 第４回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第５回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第６回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第７回： 児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第８回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第９回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第 10 回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、 専門家や関係機関との連携の在り方 第 11 回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第 12 回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第 13 回： キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第 14 回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第 15 回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。		

	・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月
参考書	中学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省 高等学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省
評価方法	①授業で課すレポート（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　７０％ ②まとめのレポート　（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　２０％ ③授業への参加度　（積極的に授業に参加する姿勢を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	385	科目コード	40094
科目名	生徒・進路指導論（中・高）	授業コード	9326341
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 そのため、以下の目標を掲げる。 （１）生徒指導の意義や原理を理解する。 （２）すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 （３）児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 （４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 （５）全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 （６）児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。		
授業概要	生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。		
授業計画	第１回：教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第３回：集団指導・個別指導の方法原理 第４回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第５回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第６回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第７回： 児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第８回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第９回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第 10 回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、 専門家や関係機関との連携の在り方 第 11 回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第 12 回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第 13 回： キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第 14 回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第 15 回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。		

	・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月
参考書	中学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省 高等学校学習指導要領＜最新版＞文部科学省
評価方法	①授業で課すレポート（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　７０％ ②まとめのレポート　（分量、内容の深さ、独自性等により評価）　２０％ ③授業への参加度　（積極的に授業に参加する姿勢を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。 なお、授業形態（対面授業か遠隔授業か）により評価方法を変更する場合がある。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	386	科目コード	65260
科目名	生徒指導論	授業コード	9323151
教員名	平野　裕一		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることができる。		
授業概要	生徒指導の意義や原理、すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方、児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方について、学校における指導の状況を踏まえながら実際的に理解する。学校のおける生徒指導の実際について、各種資料を活用しながら調査したり、効果的な生徒指導の方法等について、意見交換や協議をしたりするほか、ワークシート、ペアワーク、グループワークなどを活用する。		
授業計画	第１回： 教育課程における生徒指導の位置付け 第２回：各教科・における生徒指導の意義 第３回：道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第４回：生徒指導における集団指導の方法と原理 第５回：生徒指導における個別指導の方法と原理 第６回：生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方 第７回：生徒指導における学級担任、教科担任その他の校務分掌上の役割 第８回：生徒指導における指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第９回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等を目指した生徒指導 第 10 回：生徒指導における児童生徒の自己の存在感を育くむ場や機会の設定 第 11 回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第 12 回：暴力行為・いじめ等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点 第 13 回：不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点 第 14 回：インターネットや性に関する生徒指導上の課題と専門家や関係機関との連携 第 15 回：児童虐待への対応等の生徒指導上の課題と専門家や関係機関との連携		
授業方法	講義・協議・演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	（予習） ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。 ・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 （復習） ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。		
教科書	『生徒指導提要』，文部科学省編，令和４年 12 月		
参考書	小学校学習指導要領＜最新版＞（文部科学省） 中学校学習指導要領＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領＜最新版＞（文部科学省）		
評価方法	①毎回の授業で課すレポート（字数、内容の深さ、独自性等により評価する）　７０％ ②まとめのレポート　（字数、内容の深さ、独自性等により評価する）　２０％ ③授業への参加度　（積極的参加度を評価する）　１０％ 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		

既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

No.	387	科目コード	68038
科目名	教育相談	授業コード	9314466
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしたながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 （1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。 （2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 （3）教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。		
授業概要	教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。		
授業計画	第１回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第２回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第３回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第４回：幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動及びシグナルの把握 第５回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第６回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第７回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第８回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第９回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第 10 回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第 11 回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第 12 回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第 13 回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第 14 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第 15 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談　建帛社　2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修　2017　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（演習への取組み姿勢、授業における積極的な関わり等）10% ②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20% ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10% ④授業内小テスト（2 回実施）60% なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

No.	388	科目コード	68038
科目名	教育相談	授業コード	9323615
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしたながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 （1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。 （2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 （3）教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。		
授業概要	教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。		
授業計画	第１回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第２回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第３回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第４回：幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動及びシグナルの把握 第５回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第６回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第７回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第８回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第９回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第 10 回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第 11 回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第 12 回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第 13 回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第 14 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第 15 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談　建帛社　2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修　2017　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（演習への取組み姿勢、授業における積極的な関わり等）10% ②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20% ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10% ④授業内小テスト（2 回実施）60% なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

No.	389	科目コード	40112
科目名	教育相談（幼・小）	授業コード	9318604
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしたながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 （1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。 （2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 （3）教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。		
授業概要	教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。		
授業計画	第１回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第２回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第３回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第４回：幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動及びシグナルの把握 第５回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第６回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第７回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第８回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第９回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第 10 回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第 11 回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第 12 回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第 13 回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第 14 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第 15 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談　建帛社　2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修　2017　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（演習への取組み姿勢、授業における積極的な関わり等）10% ②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20% ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10% ④授業内小テスト（2 回実施）60% なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

No.	390	科目コード	40112
科目名	教育相談（幼・小）	授業コード	9326627
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしたながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 （1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。 （2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 （3）教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。		
授業概要	教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。		
授業計画	第１回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第２回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第３回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第４回：幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動及びシグナルの把握 第５回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第６回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第７回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第８回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第９回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第 10 回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第 11 回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第 12 回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第 13 回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第 14 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第 15 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談　建帛社　2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修　2017　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（演習への取組み姿勢、授業における積極的な関わり等）10% ②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20% ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10% ④授業内小テスト（2 回実施）60% なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

No.	391	科目コード	40114
科目名	教育相談（中・高）	授業コード	9318490
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしたながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 （1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。 （2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 （3）教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。		
授業概要	教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。		
授業計画	第１回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第２回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第３回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第４回：幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動及びシグナルの把握 第５回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第６回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第７回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第８回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第９回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第 10 回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第 11 回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第 12 回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第 13 回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第 14 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第 15 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修　2017　ミネルヴァ書房） コンパス教育相談（住本克彦他　2022　建帛社）		
評価方法	①授業への参加状況（演習への取組み姿勢、授業における積極的な関わり等）10% ②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20% ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10% ④授業内小テスト（2 回実施）60% なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

No.	392	科目コード	40114
科目名	教育相談（中・高）	授業コード	9326498
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしたながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。 （1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。 （2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 （3）教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。		
授業概要	教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。		
授業計画	第１回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第２回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第３回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第４回：幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動及びシグナルの把握 第５回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第６回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第７回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第８回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第９回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第 10 回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第 11 回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第 12 回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第 13 回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第 14 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第 15 回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談　建帛社　2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談　学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修　2017　ミネルヴァ書房）		
評価方法	①授業への参加状況（演習への取組み姿勢、授業における積極的な関わり等）10% ②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20% ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10% ④授業内小テスト（2 回実施）60% なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

No.	393	科目コード	66400
科目名	幼児理解	授業コード	9314517
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。 そのため、以下の各目標を掲げる。 （１）幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 （２）幼児理解の方法を具体的に理解する。		
授業概要	幼児を保育・教育するためには、一人一人の幼児を理解し、子どもの行動を多角的にとらえることが必要である。幼児期の心の発達への理解、その発達の課題や特性に応じた保育・教育を進めるための必要な技術を身につける。加えて、発達のつまずきや保護者との連携について学ぶ。「幼児の心理発達への理解」「教育・保育するために必要な基礎的知識の習得」「個人差への配慮」等について習得する。		
授業計画	第１回：幼児の発達及び子育て支援に関わる現代的課題について 第２回：現代的課題について理解及び幼児理解の意義 第３回：幼稚園入学までの幼児の発達や学び 第４回：幼稚園における幼児の発達や学び 第５回：幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度について 第６回：多面的な理解につなげるための、保育場面の観察や記録の意義 第７回：目的に応じた観察法の基礎的な理解 第８回：実際の保育場面の観察や記録から、個と集団の関係を捉える意義 第９回：幼児のつまづきの背景について 第 10 回：幼児のつまづきの要因の把握と対応の方法 第 11 回：つまづいている幼児と周りの幼児との関係 第 12 回：保護者の心情への理解 第 13 回：保護者対応のためのカウンセリングの基礎的な姿勢と理解 第 14 回：幼児に関わる専門機関との連携について 第 15 回：保護者を支える専門機関と園内の協力体制		
授業方法	講義とグループ学習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎回、レポートに授業内容や感想をまとめたり、次回の予習として、提示されたテーマについて調べ学習を行い、翌週提出する。		
教科書	対面授業の場合は、「実践につながる新しい子どもの理解と援助ーいまここに生きる子どもの育ちをみつめて」大浦賢治編著（ミネルバ書房 2021）。 遠隔授業の場合は、適宜資料を配付する。		
参考書	「ユニバーサルデザインへの挑戦」東洋館出版社 2018 「あったかクラスづくり−通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」明治図書 2009 「あったか絆づくり−発達障害の子どもを二次障害から守る」明治図書 2012		
評価方法	授業への参加度 20%　授業中の小レポート 35%　課題・期末レポート　45%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。また教育委員会指導主事として、幼稚園巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の幼稚園を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	394	科目コード	66400
科目名	幼児理解	授業コード	9314538
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。 そのため、以下の各目標を掲げる。 （１）幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 （２）幼児理解の方法を具体的に理解する。		
授業概要	幼児を保育・教育するためには、一人一人の幼児を理解し、子どもの行動を多角的にとらえることが必要である。幼児期の心の発達への理解、その発達の課題や特性に応じた保育・教育を進めるための必要な技術を身につける。加えて、発達のつまずきや保護者との連携について学ぶ。「幼児の心理発達への理解」「教育・保育するために必要な基礎的知識の習得」「個人差への配慮」等について習得する。		
授業計画	第１回：幼児の発達及び子育て支援に関わる現代的課題について 第２回：現代的課題について理解及び幼児理解の意義 第３回：幼稚園入学までの幼児の発達や学び 第４回：幼稚園における幼児の発達や学び 第５回：幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度について 第６回：多面的な理解につなげるための、保育場面の観察や記録の意義 第７回：目的に応じた観察法の基礎的な理解 第８回：実際の保育場面の観察や記録から、個と集団の関係を捉える意義 第９回：幼児のつまづきの背景について 第 10 回：幼児のつまづきの要因の把握と対応の方法 第 11 回：つまづいている幼児と周りの幼児との関係 第 12 回：保護者の心情への理解 第 13 回：保護者対応のためのカウンセリングの基礎的な姿勢と理解 第 14 回：幼児に関わる専門機関との連携について 第 15 回：保護者を支える専門機関と園内の協力体制		
授業方法	講義とグループ学習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎回、レポートに授業内容や感想をまとめたり、次回の予習として、提示されたテーマについて調べ学習を行い、翌週提出する。		
教科書	対面授業の場合は、「実践につながる新しい子どもの理解と援助ーいまここに生きる子どもの育ちをみつめて」大浦賢治編著（ミネルバ書房 2021）。 遠隔授業の場合は、適宜資料を配付する。		
参考書	「ユニバーサルデザインへの挑戦」東洋館出版社 2018 「あったかクラスづくり-通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」明治図書 2009 「あったか絆づくり-発達障害の子どもを二次障害から守る」明治図書 2012		
評価方法	授業への参加度 20%　授業中の小レポート 35%　課題・期末レポート　45%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。また教育委員会指導主事として、幼稚園巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の幼稚園を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	395	科目コード	66410
科目名	教育実習指導（幼）	授業コード	9308651
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (2)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。		
授業概要	事前指導：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 事後指導：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回： 教育実習生として遵守すべき義務等の理解と意欲的な教育実習への参加 第２回：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり，教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等への理解 第３回：幼児との関わりを通じた実態や課題の把握 第４回：指導教員等の実施する授業を視点を持った観察と事実に即した記録 第５回：教育園の学校経営方針及び教育活動とそれらを実施するための組織体制についての理解 第６回： 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 第７回：幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成 第８回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）①導入保育の理解 第９回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）②年齢別における設定保育 第 10 回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）③設定保育の展開 第 11 回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）④設定保育のまとめ 第 12 回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）の理解 第 13 回：幼児の体験との関連を考慮した適切な場面での情報機器の活用 第 14 回：学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 第 15 回：様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。		
授業方法	教育実習に必要な事項（実習生としての姿勢、指導案作成、実習日誌の記録、保育技術の向上、実習に向けての留意事項、実習の振り返り）を学び、模擬保育演習を通して、自らが保育者として幼児教育を進めていく技術を身につける。		
アクティブラーニングの視点	絵本の読み聞かせの練習、保育指導案作成とその準備、クラス経営や保育指導に関する情報収集、保育日誌作成の練習		
授業外学習	教育実習において、保育対象となる子どもたちの理解に努める。主に、幼児期（３歳、４歳、５歳）における各年齢発達の特徴を日頃の生活の中で、よく観察し、掴んでおくこと。		
教科書	『実習の記録と指導案：改訂新版（日本語）大型本』ひかりのくに		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
評価方法	授業への参加度(30%)、保育指導案作成と模擬授業の実践内容(40%)、実習へ臨む姿勢や成果の整理(30%)		
既修条件	教職概論、教育原理、幼児理解かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論（幼・小）、教育方法の理論と実践（幼・小）、保育内容総論、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（健康）、保育内容（言葉）、保育内容（音楽表現）、保育内容（造形表現）		
実務経験のある教員による授業	臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、「堺市私立幼稚園巡回相談事業」に携わった経験を生かし、特別な支援を有する子どもたちも含めた、幼稚園における保育者の教育支援のあり方について講義する。		

No.	396	科目コード	66410
科目名	教育実習指導（幼）	授業コード	9308661
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 （1）幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （2）大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。		
授業概要	事前指導：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 事後指導：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第 1 回：教育実習生として遵守すべき義務等の理解と意欲的な教育実習への参加 第 2 回：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な技能等への理解 第 3 回：幼児との関わりを通じた実態や課題の把握 第 4 回：指導教員等の実施する授業の視点を持った観察と事実に即した記録 第 5 回：教育園の学校経営方針及び教育活動とそれらを実施するために組織体制についての理解 第 6 回：学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 第 7 回：幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成 第 8 回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）①導入保育の理解 第 9 回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）②年齢別における設定保育 第 10 回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）③設定保育の展開 第 11 回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）④設定保育のまとめ 第 12 回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）の理解 第 13 回：幼児の体験との関連を考慮した適切な場面での情報機器の活用 第 14 回：学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 第 15 回：様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる		
授業方法	教育実習に必要な事項（実習生としての姿勢、指導案作成、実習日誌の記録、保育技術の向上、実習に向けての留意事項、実習の振り返り）を学び、模擬保育演習を通して、自らが保育者として幼児教育を進めていく技術を身に付ける。		
アクティブラーニングの視点	絵本の読み聞かせの練習、保育指導案作成とその準備、クラス経営や保育指導に関する情報収集、保育日誌作成の練習		
授業外学習	教育実習において、保育対象となる子どもたちの理解に努める。主に、幼児期（3 歳、4 歳、5 歳）における各年齢発達の特徴を日頃の生活の中で、よく観察し、掴んでおくこと。		
教科書	『実習の記録と指導案：改訂新版（日本語）大型本』ひかりのくに		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
評価方法	授業への参加度(30%)、保育指導案作成と模擬授業の実践内容(40%)、実習へ臨む姿勢や成果の整理(30%)		
既修条件	教職概論、教育原理、幼児理解 かつ原則として以下の科目を修得済み。 教育心理学、教育課程論、教育方法の理論と実践、 保育内容総論、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、 保育内容（健康）、保育内容（言葉）、保育内容（音楽表現）、 保育内容（造形表現）		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校の教員として、実習園への訪問指導や卒業生支援を行ってきた経験や、幼稚園長、公立幼稚園、保育園での保育指導、認定こども園での講演、現職教員指導、子育て支援ルームの施設長、自治体の子育て会議委員の経験を生かして実習指導にあたる。		

No.	397	科目コード	66410
科目名	教育実習指導（幼）	授業コード	9308718
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (2)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。		
授業概要	事前指導：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 事後指導：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回： 教育実習生として遵守すべき義務等の理解と意欲的な教育実習への参加 第２回：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり，教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等への理解 第３回：幼児との関わりを通じた実態や課題の把握 第４回：指導教員等の実施する授業を視点を持った観察と事実に即した記録 第５回：教育園の学校経営方針及び教育活動とそれらを実施するための組織体制についての理解 第６回： 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 第７回：幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成 第８回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）①導入保育の理解 第９回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）②年齢別における設定保育 第 10 回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）③設定保育の展開 第 11 回： 指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）④設定保育のまとめ 第 12 回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）の理解 第 13 回：幼児の体験との関連を考慮した適切な場面での情報機器の活用 第 14 回：学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 第 15 回：様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。		
授業方法	教育実習に必要な事項（実習生としての姿勢、指導案作成、実習日誌の記録、保育技術の向上、実習に向けての留意事項、実習の振り返り）を学び、模擬保育演習を通して、自らが保育者として幼児教育を進めていく技術を身につける。		
アクティブラーニングの視点	絵本の読み聞かせの練習、保育指導案作成とその準備、クラス経営や保育指導に関する情報収集、保育日誌作成の練習		
授業外学習	教育実習において、保育対象となる子どもたちの理解に努める。主に、幼児期（３歳、４歳、５歳）における各年齢発達の特徴を日頃の生活の中で、よく観察し、掴んでおくこと。		
教科書	『実習の記録と指導案：改訂新版（日本語）大型本』ひかりのくに		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
評価方法	授業への参加度(30%)、保育指導案作成と模擬授業の実践内容(40%)、実習へ臨む姿勢や成果の整理(30%)		
既修条件	教職概論、教育原理、幼児理解かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論（幼・小）、教育方法の理論と実践（幼・小）、保育内容総論、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（健康）、保育内容（言葉）、保育内容（音楽表現）、保育内容（造形表現）		
実務経験のある教員による授業			

No.	398	科目コード	66420
科目名	教育実習指導（小）	授業コード	9308908
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。		
授業概要	（事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	第１回：教育実習の意義と目的を理解する。 第２回：学校（園）全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する 第３回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第４回：指導教員の授業の観察と記録 第５回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）：単元観および単元目標の検討 第６回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第７回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第８回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第９回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		

教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論（幼・小）、教育方法の理論と実践（幼・小）、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

No.	399	科目コード	66420
科目名	教育実習指導（小）	授業コード	9309099
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）　教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）　学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）　教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）　児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）　教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。		
授業概要	（事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	テーマ 各回の到達目標 第 1 回： 教育実習の意義と目的を理解する。 第 2 回：学校（園）全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する 第 3 回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第 4 回：指導教員の授業の観察と記録 第 5 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）： 単元観および単元目標の検討 第 6 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第 7 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第 8 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第 9 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：　実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		

授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理 かつ原則として以下の科目を修得済み。 教育心理学、教育課程論、教育方法の理論と実、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

No.	400	科目コード	66420
科目名	教育実習指導（小）	授業コード	9309100
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。		
授業概要	（事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	テーマ　　各回の到達目標 第１回：　教育実習の意義と目的を理解する。 第２回：学校（園）全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する 第３回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第４回：指導教員の授業の観察と記録 第５回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）：　単元観および単元目標の検討 第６回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第７回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第８回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第９回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。		

	特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論（幼・小）、教育方法の理論と実践（幼・小）、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法
実務経験のある教員による授業	長らく小学校での教育と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして、教育実習実務、模擬授業、学校実務などを指導する。

No.	401	科目コード	66420
科目名	教育実習指導（小）	授業コード	9309101
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる		
授業概要	事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	テーマ 各回の到達目標 第 1 回： 教育実習の意義と目的を理解する。 第 2 回：学校（園）全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する 第 3 回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第 4 回：指導教員の授業の観察と記録 第 5 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）： 単元観および単元目標の検討 第 6 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第 7 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第 8 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第 9 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わる実践的な資質・能力を講義と演習形式で学ぶ		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		
授業外学習	教育実習本諾訪問、模擬授業指導案作成、教育実習関連書類作成		

教科書	指定なし　適時、資料を配付
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理 かつ原則として以下の科目を修得済み。 教育心理学、教育課程論、教育方法の理論と実、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

No.	402	科目コード	66420
科目名	教育実習指導（小）	授業コード	9323577
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適正を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。		
授業概要	（事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	テーマ　　各回の到達目標 第１回：　教育実習の意義と目的を理解する。 第２回：学校（園）全体の教育活動の概観、実習生としの心構えを理解する 第３回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第４回：指導教員の授業の観察と記録 第５回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）：　単元観および単元目標の検討 第６回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第７回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第８回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第９回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。		

	特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論（幼・小）、教育方法の理論と実践（幼・小）、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法
実務経験のある教員による授業	長らく小学校での教育と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして、教育実習実務、模擬授業、学校実務などを指導する。

No.	403	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9304443
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。 (2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。		
授業概要	《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。 《事後》報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（１）－教育者の自覚－ 第２回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（２）－公務員の職責－ 第３回：生徒との関わり（１）－生徒指導－ 第４回：生徒との関わり（２）－教育相談－ 第５回：学級担任の役割と職務内容の理解 第６回：教科担任等の役割と職務内容の理解 第７回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解 第８回：　学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得 第９回：学校経営方針と学校組織体制の理解 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業（１）－教科指導の基礎－ 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業（２）－状況に応じた教科指導－ 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業（３）－協働的な教科指導－ 第 13 回：教育実習に向けての課題の整理 第 14 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（１）－課題の整理－ 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（２）－今後の計画－		
授業方法	講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導 ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		
教科書	「ステップアップ中学体育　2022」大修館書店 文部科学省、東山書房　「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」 文部科学省、東山書房　「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」 その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP，2017 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　３０％ ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等）　４０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教職概論（中・高）、教育原理（中・高）、保健体育科教育法１かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学（中・高）、特別活動論（中・高）、保健体育科教育法２、教育課程論（中・高）、教育方法の理論と実践（中・高）、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ)、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ)、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ)、器械運動、体つくり運動、武道、ダンス、水泳		

実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	404	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9304451
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。 (2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。		
授業概要	《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。 《事後》報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（１）－教育者の自覚－ 第２回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（２）－公務員の職責－ 第３回：生徒との関わり（１）－生徒指導－ 第４回：生徒との関わり（２）－教育相談－ 第５回：学級担任の役割と職務内容の理解 第６回：教科担任等の役割と職務内容の理解 第７回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解 第８回：　学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得 第９回：学校経営方針と学校組織体制の理解 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業（１）－教科指導の基礎－ 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業（２）－状況に応じた教科指導－ 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業（３）－協働的な教科指導－ 第 13 回：教育実習に向けての課題の整理 第 14 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（１）－課題の整理－ 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（２）－今後の計画－		
授業方法	講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導 ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		
教科書	「ステップアップ中学体育　2022」大修館書 文部科学省　「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省　「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校）」　㈱ERP，2017 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　３０％ ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等）　４０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教職概論（中・高）、教育原理（中・高）、保健体育科教育法１かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学（中・高）、特別活動論（中・高）、保健体育科教育法２、教育課程論（中・高）、教育方法の理論と実践（中・高）、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体つくり運動、武道、ダンス、水泳		

実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。

No.	405	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9304453
教員名	乾　　匡		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。 (2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。		
授業概要	《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。 《事後》報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（１）－教育者の自覚－ 第２回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（２）－公務員の職責－ 第３回：生徒との関わり（１）－生徒指導－ 第４回：生徒との関わり（２）－教育相談－ 第５回：学級担任の役割と職務内容の理解 第６回：教科担任等の役割と職務内容の理解 第７回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解 第８回：　学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得 第９回：学校経営方針と学校組織体制の理解 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業（１）－教科指導の基礎－ 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業（２）－状況に応じた教科指導－ 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業（３）－協働的な教科指導－ 第 13 回：教育実習に向けての課題の整理 第 14 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（１）－課題の整理－ 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（２）－今後の計画－		
授業方法	講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導 ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		
教科書	「ステップアップ中学体育　2022」大修館書店 文部科学省、東山書房　「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」 文部科学省、東山書房　「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」 その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP，2017 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　３０％ ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等）　４０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教職概論（中・高）、教育原理（中・高）、保健体育科教育法１かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学（中・高）、特別活動論（中・高）、保健体育科教育法２、教育課程論（中・高）、教育方法の理論と実践（中・高）、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ)、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ)、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ)、器械運動、体つくり運動、武道、ダンス、水泳		

実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	406	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9323411
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。 (2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。		
授業概要	《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。 《事後》報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（１）－教育者の自覚－ 第２回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（２）－公務員の職責－ 第３回：生徒との関わり（１）－生徒指導－ 第４回：生徒との関わり（２）－教育相談－ 第５回：学級担任の役割と職務内容の理解 第６回：教科担任等の役割と職務内容の理解 第７回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解 第８回：　学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得 第９回：学校経営方針と学校組織体制の理解 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業（１）－教科指導の基礎－ 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業（２）－状況に応じた教科指導－ 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業（３）－協働的な教科指導－ 第 13 回：教育実習に向けての課題の整理 第 14 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（１）－課題の整理－ 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（２）－今後の計画－		
授業方法	講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導 ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		
教科書	「ステップアップ中学体育　2022」大修館書店 文部科学省、東山書房　「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」 文部科学省、東山書房　「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」 その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP，2017 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　３０％ ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等）　４０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教職概論（中・高)、教育原理（中・高)、保健体育科教育法１かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学（中・高)、特別活動論（中・高)、保健体育科教育法２、教育課程論（中・高)、教育方法の理論と実践（中・高)、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ)、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ)、球技Ⅲ（ベース		

	ボール型スポーツ)、器械運動、体つくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	407	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9323433
教員名	舞　寿之		
授業種別	演習	授業形態	週間
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。 (2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。		
授業概要	《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。 《事後》報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（１）－教育者の自覚－ 第２回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（２）－公務員の職責－ 第３回：生徒との関わり（１）－生徒指導－ 第４回：生徒との関わり（２）－教育相談－ 第５回：学級担任の役割と職務内容の理解 第６回：教科担任等の役割と職務内容の理解 第７回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解 第８回：　学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得 第９回：学校経営方針と学校組織体制の理解 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業（１）－教科指導の基礎－ 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業（２）－状況に応じた教科指導－ 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業（３）－協働的な教科指導－ 第 13 回：教育実習に向けての課題の整理 第 14 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（１）－課題の整理－ 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（２）－今後の計画－		
授業方法	講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導 ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		
教科書	「ステップアップ中学体育　2022」大修館書 文部科学省　「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省　「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校）」　㈱ERP，2017 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　３０％ ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等）　４０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教職概論（中・高）、教育原理（中・高）、保健体育科教育法１かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学（中・高）、特別活動論（中・高）、保健体育科教育法２、教育課程論（中・高）、教育方法の理論と実践（中・高）、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体つくり運動、武道、ダンス、水泳		

実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。

No.	408	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9323466
教員名	乾　匡		
授業種別	演習	授業形態	週間
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。 (2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。		
授業概要	《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。 《事後》：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（１）－教育者の自覚－ 第２回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚（２）－公務員の職責－ 第３回：生徒との関わり（１）－生徒指導－ 第４回：生徒との関わり（２）－教育相談－ 第５回：学級担任の役割と職務内容の理解 第６回：教科担任等の役割と職務内容の理解 第７回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解 第８回：　学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得 第９回：学校経営方針と学校組織体制の理解 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業（１）－教科指導の基礎－ 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業（２）－状況に応じた教科指導－ 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業（３）－協働的な教科指導－ 第 13 回：教育実習に向けての課題の整理 第 14 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（１）－課題の整理－ 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り（２）－今後の計画－		
授業方法	講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導 ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集		
教科書	「ステップアップ中学体育　2022」大修館書店 文部科学省、東山書房　「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」 文部科学省、東山書房　「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」 その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校）」 ㈱ERP，2017 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　30％		

	②模擬授業の立案・実践（学習指導案の完成度、模擬授業の内容等）　40% ③実習に臨む姿勢や学習成果の整理（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の展望等）　30% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論（中・高）、教育原理（中・高）、保健体育科教育法１かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学（中・高）、特別活動論（中・高）、保健体育科教育法２、教育課程論（中・高）、教育方法の理論と実践（中・高）、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体つくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある教員による授業	公立学校の教諭、管理職及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、教育実習ついての指導をする

No.	409	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9323560
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 ・事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）生徒の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、生徒の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。		
授業概要	（事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	第 1 回：　教育実習の意義と目的を理解する 第 2 回：学校全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する 第 3 回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第 4 回：指導教員の授業の観察と記録 第 5 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）：　単元観および単元目標の検討 第 6 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第 7 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第 8 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第 9 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わる実践的な資質・能力を講義と演習形式で学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		
授業外学習	教育実習本諾訪問、模擬授業指導案作成、教育実習関連書類作成		
教科書	指定なし　適時、資料を配付		

参考書	中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理、国語科教育法 1（中・高）、国語科教育法 2（中・高）、国語科教育法 3（中・高）、国語科教育法 4（中・高） かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、教育課程論、教育方法の理論と実践、日本語学概論、日本語学演習 1、日本文学概論、日本文学史、漢文学概論、書道 1（中学校のみ）
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が，その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

No.	410	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9323565
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 ・事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 （1）教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 （2）学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 （3）教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 （4）生徒の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、生徒の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 （5）教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。		
授業概要	（事前） ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 （事後） ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。		
授業計画	第 1 回：　教育実習の意義と目的を理解する 第 2 回：学校全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する 第 3 回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する 第 4 回：指導教員の授業の観察と記録 第 5 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 1）：　単元観および単元目標の検討 第 6 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 2）：指導計画の検討 第 7 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 3）：本時の導入 第 8 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 4）：本時の展開 第 9 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 5）：本時のまとめ 第 10 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 6）：評価のあり方 第 11 回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導（その 7）：カリキュラム 第 12 回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解 第 13 回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養 第 14 回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する 第 15 回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり		
授業方法	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わる実践的な資質・能力を講義と演習形式で学ぶ。		
アクティブラー	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導		

ニングの視点	案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。
授業外学習	教育実習本諾訪問、模擬授業指導案作成、教育実習関連書類作成
教科書	指定なし　適時、資料を配付
参考書	中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理、国語科教育法 1（中・高）、国語科教育法 2（中・高）、国語科教育法 3（中・高）、国語科教育法 4（中・高） かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、教育課程論、教育方法の理論と実践、日本語学概論、日本語学演習 1、日本文学概論、日本文学史、漢文学概論、書道 1（中学校のみ）
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして指導する。国語科の教科指導を中心として教育実習に関する具体性をふまえた実践的な指導を行う。

No.	411	科目コード	65283
科目名	教育実習指導（中・高）	授業コード	9323570
教員名	有本　純		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・目標に沿った 50 分の授業計画を立て、その一部を実践できる。 ・教員に必要な服装・話し方ができる。 ・教育者としての自覚ができる。 ・教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、授業計画の作成と実施につなげることができる。		
授業概要	教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、手続きに関する事項、教員採用試験への申込に関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。		
授業計画	第１回　　シラバス説明、実習生として遵守すべき義務と責任（教員、公務員） 第２回　　生徒との関わり（生徒指導、教育相談）、学級担任・教科担任の役割と職務内容の理解 第３回　　教材研究１ 第４回　　教材研究２、観点別評価、　レポート１（教材研究）提出 第５回　　教材研究レポートの講評、教材研究の修正 第６回　　指導過程・指導案の概略、　レポート２（教材研究２）提出 第７回　　指導案の説明と書き方の要点（日英語）、語彙指導の工夫 第８回　　文法指導の在り方、教室英語の実際、oral introduction から新語導入まで、 レポート３（指導案）提出 第９回　　指導案の講評と相互評価、指導案の修正、板書計画の説明と実技 第 10 回　細案の作成、ALT の活用と Team Teaching、　レポート４（細案）提出 第 11 回　細案の講評と相互評価、英語版指導案の要点説明、　模擬授業の評価基準、 レポート５（指導案２）提出 第 12 回　細案に基づく模擬授業実施１(16 分×５名) 第 13 回　細案に基づく模擬授業実施２(16 分×５名) 第 14 回　細案に基づく模擬授業実施３(16 分×５名) 第 15 回　細案に基づく模擬授業実施４(16 分×３名)、まとめ、 レポート６（細案２および英語指導案）提出		
授業方法	講義と討論を中心に、演習形式で実施する		
アクティブラーニングの視点	各レポート・模擬授業の相互評価　　グループワークによる討論　　ふりかえりシート作成		
授業外学習	教材研究レポート、指導案（日英語版）、細案の作成および修正版作成、模擬授業に向けての準備		
教科書	土屋澄男（編著）「新編英語科教育法入門」改定版、研究社 「英語資料集 E-PILOT」　秀学社（教室で販売）		
参考書	「英語教育用語辞典」大修館書店		
評価方法	教材研究レポート 10+8=18%　　指導案レポート 14+10=24%　　細案レポート 10+10=20% 模擬授業 30%　　振り返り　8%		
既修条件	教職概論、教育原理、英語科教育法 1、英語科教育法 2、英語科教育法 3、英語科教育法 4、かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、教育課程論、教育方法の理論と実践、English Pronunciation Workshop、English Linguistics Workshop A、English Linguistics Workshop B、Literature in English 1、English for Communication、Writing and Oral Presentations 1、Integrated Listening 1、Interactive English A1、Learning and Teaching Grammar for Communication 1、Learning and Teaching Grammar for Communication 2		
実務経験のある教員による授業			

No.	412	科目コード	66462
科目名	教職実践演習（幼・小）	授業コード	9326462
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	今までに履修した保育内容に関する科目・教職に関する科目やさまざまな活動を通して身につけた資質能力が、実践現場で幼稚園教諭・保育士として生かされていくくのか、知識・能力・実践指導力がいかに身についてきたか、最終的に確認できる。 ・幼稚園教諭志望者として、自己の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、実践的指導力を身につけることができる。 ・幼児教育における新たな保育の展望として SDG s の理念を理解し、具体的に保育の中で実施することができる。		
授業概要	教育課程履修カルテを基に自己評価し、自己課題を明確にする。幼稚園教員としての使命や子どもへの責任の理解、子どもの発達や心身の理解、クラス運営、保育・教育の専門知識と保育の指導法、地域や他校種との連携について、グループ討議・事例研究・模擬保育・現地調査を通して学ぶ。		
授業計画	第 01 回　「教育実践演習」の目的、意義、授業進行の説明 第 02 回　「教育課程履修カルテ」に基づく教育実践力の自己評価 第 03 回　子どもの発達・心身の状況理解 第 04 回　幼稚園と家庭・保護者及び地域環境との連携 第 05 回　他校種（保育所・小学校）との連携 第 06 回　保育者としての倫理観と法律 第 07 回　教材研究（1）図形線譜と打楽器 第 08 回　教材研究（2）発達と保育内容 第 09 回　教材研究（3）子育て支援 第 10 回　子ども理解：保育実践の事例研究 第 11 回　諸外国の幼児教育：ニュージーランド 第 12 回　諸外国の幼児教育：スウェーデン 第 13 回　幼児教育内容と SDG s 第 14 回　幼児教育計画と SDG s 第 15 回　まとめと教育実践力の自己最終評価		
授業方法	講義・グループ討議・事例研究・模擬保育・現地調査等を取り入れて展開する。 ・毎回の授業テーマについて、自分自身の考えを整理しておくっこと。 ・毎回の授業内容とディスカッションの内容に関する考察をレポートとして提出すること。		
アクティブラーニングの視点	各時間は個人の作業とグループワークで実施する。主に、自分の意見をもって、グループでの討論をとして自分の意見をさらに深めるようにする。		
授業外学習	事前に自分の意見をまとめて、関連資料を読む、さらに、授業後は自分の意見をまとめて、次の授業につなげる。		
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加態度（30%）、発表。レポート（70%）		
既修条件	教育実習１，２（幼）または教育実習１，２（小）を履修中もしくは修得済み。		
実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援ルーム施設長、自治体の子育て審議委員、幼稚園教諭の研修、現職教員研修等の経験を活かして指導する。		

No.	413	科目コード	66462
科目名	教職実践演習（幼・小）	授業コード	9326473
教員名	後藤　由枝		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教職に関する科目履修や教育活動等を通して修得した知識・技能を、学校（園）で生かすことができるように、教師の実践力として高めることができる。 ・教員になる上で、特に必要となる力量を獲得したり、各自の課題を自覚しそれらを解決したりすることができる。		
授業概要	教員になる上で、実際に必要と考えられる知識・技能等の補完と定着を図り、指導力を高めていくために、次の事項について、講義・模擬授業・体験的な学習等を行う。 （1）　教育に対する使命感と責任感 （2）社会性・対人関係能力 （3）児童理解と学級経営 （4）教科・領域等の内容に関する専門性とその指導法		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション ・本授業の目的と意義の周知と授業計画 第 2 回　現在的な教育課題の理解 ・特に学習指導要領の改訂等に準拠 第 3 回　児童理解の重要性と教員の責任 ・休み時間・放課後の補充指導・給食時間・校外学習等における安全管理 第 4 回　社会人・教育職員・学校職員・担任としての教員の役割 ・地域とのつながり、学校組織と校務分掌、授業研究会等、学校組織 第 5 回　教育機関や保護者、地域との連携の在り方 第 6 回　教員になる上での自己課題の設定課題の 第 7 回　学級担任としての役割と実務 ・他教員との連携や学級経営、学級経営計画案 第 8 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り① 第 9 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り② 第 10 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り③ 第 11 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り④ 第 12 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り⑤ 第 13 回　自己の課題についての小論文記述と発表による相互交流① 第 14 回　自己の課題についての小論文記述と発表による相互交流② 第 15 回　まとめと振り返り		
授業方法	ロールプレイング、研究協議、模擬授業、小論文記述、学校参観など		
アクティブラーニングの視点	・研究協議や調査内容の発表などを行う。 ・実践的な課題を設定し、他者と協議しつつ、解決策を探る。 ・課題解決に向けた演習を行う。		
授業外学習	各自の課題設定の記述、学習指導案の作成、学級経営案の作成など		
教科書	なし		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	授業への参加度（30%）、小論文の提出及び内容（30%）、発表等（20%）、レポート等の提出及び内容（20%） 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、研究協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。小論文・レポートの提出は、内容を確認して返却する。小論文及びレポート、発表等は、内容及びその的確性を評価する。		
既修条件	教育実習１，２（幼）または教育実習１，２（小）を履修中もしくは修得済み。		

実務経験のある教員による授業	小学校教諭の経験に加え、教育委員会事務局における指導主事及び管理職として、教育課程や支援教育に長く携わってきた経験を生かし、理論と実践を兼ね備えた教員を養成する。

No.	414	科目コード	66462
科目名	教職実践演習（幼・小）	授業コード	9326489
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教職に関する科目履修や教育活動等を通して修得した知識・技能を、学校（園）で生かすことができるように、教師の実践力として高めることができる。 ・教員になる上で、特に必要となる力量を獲得したり、各自の課題を自覚しそれらを解決したりすることができる。		
授業概要	教員になる上で、実際に必要と考えられる知識・技能等の補完と定着を図り、指導力を高めていくために、次の事項について、講義・模擬授業・体験的な学習等を行う。 （1）教育に対する使命感と責任感 （2）社会性・対人関係能力 （3）児童理解と学級経営 （4）教科・領域等の内容に関する専門性とその指導法		
授業計画	第１回　オリエンテーション ・本授業の目的と意義の周知と授業計画 第２回　現在的な教育課題の理解 ・特に学習指導要領の改訂等に準拠 第３回　児童理解の重要性と教員の責任 ・休み時間・放課後の補充指導・給食時間・校外学習等における安全管理 第４回　社会人・教育職員・学校職員・担任としての教員の役割 ・地域とのつながり、学校組織と校務分掌、授業研究会等、学校組織 第５回　教育機関や保護者、地域との連携の在り方 第６回　教員になる上での自己課題の設定と課題解決の見通し 第７回　学級担任としての役割と実務 ・他教員との連携や学級経営、学級経営計画案 第８回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り① 第９回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り② 第 10 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り③ 第 11 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り④　（特別支援実地研修に行っている学生は別授業） 第 12 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り⑤（特別支援実地研修に行っている学生は別授業） 第 13 回　自己の課題についての小論文記述と発表による相互交流① 第 14 回　自己の課題についての小論文記述と発表による相互交流② 第 15 回　まとめと振り返り		
授業方法	ロールプレイング、研究協議、模擬授業、小論文記述、学校参観など		
アクティブラーニングの視点	教科教育法、学校行事、学級経営など毎時間課題を与えて、それについての自分の意見を明確に持たせる。その後、校務分掌など 4 月から夏休みにかけて取り組むべきことをグループワークで伝え合い、実践的な能力を身につける。		
授業外学習	各自の課題設定の記述、学習指導案の作成、学級経営案の作成など		
教科書	なし		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及び課題の内容 50%		
既修条件	教育実習１，２（幼）または教育実習１，２（小）を履修中もしくは修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事等の経験を活かして指導する。		

No.	415	科目コード	66462
科目名	教職実践演習（幼・小）	授業コード	9326495
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教職に関する科目履修や教育活動等を通して修得した知識・技能を、学校（園）で生かすことができるように、教師の実践力として高めることができる。 ・教員になる上で、特に必要となる力量を獲得したり、各自の課題を自覚しそれらを解決したりすることができる。		
授業概要	教員になる上で、実際に必要と考えられる知識・技能等の補完と定着を図り、指導力を高めていくために、次の事項について、講義・模擬授業・体験的な学習等を行う。 （1）教育に対する使命感と責任感 （2）社会性・対人関係能力 （3）児童理解と学級経営 （4）教科・領域等の内容に関する専門性とその指導法		
授業計画	第１回　オリエンテーション ・本授業の目的と意義の周知と授業計画 第２回　現在的な教育課題の理解 ・特に学習指導要領の改訂等に準拠 第３回　児童理解の重要性と教員の責任 ・休み時間・放課後の補充指導・給食時間・校外学習等における安全管理 第４回　社会人・教育職員・学校職員・担任としての教員の役割 ・地域とのつながり、学校組織と校務分掌、授業研究会等、学校組織 第５回　教育機関や保護者、地域との連携の在り方 第６回　教員になる上での自己課題の設定と課題解決の見通し 第７回　学級担任としての役割と実務 ・他教員との連携や学級経営、学級経営計画案 第８回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り① 第９回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り② 第 10 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り③ 第 11 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り④ （特別支援実地研修に行っている学生は別授業） 第 12 回　授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り⑤ （特別支援実地研修に行っている学生は別授業） 第 13 回　自己の課題についての小論文作成と発表による相互交流① 第 14 回　自己の課題についての小論文作成と発表による相互交流② 第 15 回　まとめと振り返り		
授業方法	ロールプレイング、研究協議、模擬授業、小論文作成、学校参観など		
アクティブラーニングの視点	グループでの討論、発表・スピーチなどの学習活動を重視する。また、自ら設定した課題に対する追究活動を設定する。		
授業外学習	各自の課題設定の記述、学習指導案の作成、学級経営案の作成など		
教科書	なし		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	授業への参加度（30%）、小論文の提出及び内容（30%）、発表等（20%）、レポート等の提出及び内容（20%） 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、研究協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。小論文・レポートの提出は、内容を確認して返却する。小論文及びレポート、発表等は、内容及びその的確性を評価する。		

既修条件	教育実習１，２（幼）または教育実習１，２（小）を履修中もしくは修得済み。
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして指導する。教員となる上で、現場での実践力を高めるために具体性をふまえた実践的な指導を行う。

No.	416	科目コード	40170
科目名	教職実践演習（中・高）	授業コード	9326506
教員名	乾　匡		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.教職や学級経営の意義を理解し、望ましい教師像や学級経営像を明確に持つことができる。 2.学級経営案や教科内容の指導案を適切に作成し、授業を実施できる。 3.生徒理解を深め、教職に携わるにふさわしい社会性や対人関係能力を備える。		
授業概要	これまでに履修した学修を踏まえて自己診断し、教職に向けた実践的反省的取り組みを行う。 教職の意義や学級経営、教科の指導、生徒指導などの諸側面について、ロールプレイやグループ討論等の実践的な方法でアプローチすることによって、人間的能力と専門的力量を高める。		
授業計画	第１回 オリエンテーションと「履修カルテ」による自己診断 第２回 教職の意義や教員の役割についてのグループ討議 第３回 教員経験者をゲスト講師に招いての講話と研修 第４回 学校現地調査 第５回 学級経営の事例研究 第６回 学級経営案の作成と発表、グループ討議 第７回 教科内容指導案の作成（グループ学習） 第８回 模擬授業の実施とロールプレイ①（教科指導） 第９回 模擬授業の実施とロールプレイ②（特別活動） 第 10 回 模擬授業の実施とロールプレイ③（道徳活動） 第 11 回 教職経験者による評価とアドバイス 第 12 回 生徒理解と特別支援教育 第 13 回 特別支援教育の方法を通常クラスに活かす方法 第 14 回 生徒・進路指導についてのグループ討議 第 15 回 学生相互評価と自己点検		
授業方法	演習を中心とした授業形態をとる。これまでの教育実践を元に補足内容をカバーし、より実践的な指導法につながるよう、調査研究および発表を含めた授業展開を行う。		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	履修カルテの自己点検と総まとめ		
教科書	特に指定せず、プリント等資料を配付する。		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	授業への参加度及び課題の達成度 50%、レポート 50%により総合的に評価する。 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教育実習１，２（中・高）を履修中もしくは修得済み		
実務経験のある教員による授業	公立学校の教諭、管理職及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、教職についての指導をする。		

No.	417	科目コード	40170
科目名	教職実践演習（中・高）	授業コード	9326517
教員名	加島　良彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	1. 教職や学級経営の意義を理解し、望ましい教師像や学級経営像を明確に持つことができる。 2. 学級経営案や教科内容の指導案を適切に作成し、授業を実施できる。 3. 生徒理解を深め、教職に携わるにふさわしい社会性や対人関係能力を備える。		
授業概要	これまでに履修した学修を踏まえて自己診断し、教職に向けた実践的反省的取り組みを行う。 教職の意義や学級経営、教科の指導、生徒指導などの諸側面について、ロールプレイやグループ討論等の実践的な方法でアプローチすることによって、人間的能力と専門的力量を高める。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーションと「履修カルテ」による自己診断 第 2 回 教職の意義や教員の役割についてのグループ討議 第 3 回 教員経験者をゲスト講師に招いての講話と研修 第 4 回 学校現地調査 第 5 回 学級経営の事例研究 第 6 回 学級経営案の作成と発表、グループ討議 第 7 回 教科内容指導案の作成（グループ学習） 第 8 回 模擬授業の実施とロールプレイ①（教科指導） 第 9 回 模擬授業の実施とロールプレイ②（特別活動） 第 10 回 模擬授業の実施とロールプレイ③（道徳活動） 第 11 回 教職経験者による評価とアドバイス 第 12 回 生徒理解と特別支援教育 第 13 回 特別支援教育の方法を通常クラスに活かす方法 第 14 回 生徒・進路指導についてのグループ討議 第 15 回 学生相互評価と自己点検		
授業方法	演習を中心とした授業形態をとる。これまでの教育実践を元に補足内容をカバーし、より実践的な指導法につながるよう、調査研究および発表を含めた授業展開を行う。		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	履修カルテの自己点検と総まとめ		
教科書	特に指定せず、プリント等資料を配付する。		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	授業への参加度及び課題の達成度 50%、レポート 50%により総合的に評価する。 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	教育実習１，２（中・高）を履修中もしくは修得済み		
実務経験のある教員による授業	公立学校の教諭、管理職及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、教職についての指導をする。		

No.	418	科目コード	65380
科目名	介護等体験指導	授業コード	9323583
教員名	松久　眞実		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1)障害者支援の基本的な知識、特別支援学校の目的、制度、教育内容と方法等についての基本的な知識を習得する。 (2)高齢介護の基本的な知識、社会福祉施設の目的、制度、事業内容等の基本的な知識を習得する。		
授業概要	教育職員免許法第 5 条にもとづいておこなわれる、社会福祉施設（5 日間）と特別支援学校（2 日間）の実習に向けての事前学習。具体的には、障害者支援と高齢者介護の具体的知識と方法、特別支援学校の目的、教育内容と方法等について、演習的方法も一部取り入れた準備学習をおこなう。		
授業計画	第 01 回　介護等体験の目的・心構え／障がいに関する基礎知識等 第 02 回　実習先についての学習（社会福祉施設）／高齢者福祉施設 第 03 回　実習先についての学習（社会福祉施設）／障害者福祉施設 第 04 回　高齢者福祉施設と障害者福祉施設との違い／グループ発表 第 05 回　実習先についての学習（特別支援学校）／法的位置づけ／教育内容と教育方法等 第 06 回　特別支援学校の障害種別による教育内容の違い／グループ発表 第 07 回　高齢者や障害者に関する人権 第 08 回　まとめと介護等体験の意義		
授業方法	「介護等体験ノート」を使用し、課題解決的学習等の演習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。		
授業外学習	毎回の授業で「介護等体験ノート」等を中心に課題を提示する。		
教科書	『新・よくわかる社会福祉施設（第５版)』(全国社会福祉協議会) 『介護体験ハンドブック　フィリア』(ジ アース教育出版会)		
参考書	授業で必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。		
評価方法	授業時の課題学習と意欲 50%と提出物 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	419	科目コード	65190
科目名	保育内容総論	授業コード	9314424
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 （1）各領域のねらい及び内容 ・幼稚園教育要領等に示さ幼児幼児教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 （2）保育内容の指導方法と保育の構想 ・幼児の発達や学びの課程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を学び、5 領域（健康、人間関係、環境、言語、表現）のねらいと内容の理解とともに、総合的にとらえる視点や保育内容を構造的に理解する。幼児の発達、生活、遊びの発達段階を踏まえ、幼稚園での具体的な活動を学ぶ。さらに、具体的な実践がイメージできるように、実践的な振り返りや保育記録、指導計画の作成などもおこなう		
授業計画	第 1 回：幼児教育の基本と保育内容 第 2 回：幼稚園教育要領等の各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第 3 回：保育内容の歴史的変遷と社会的背景 第 4 回：教材文化としての保育内容：保育内容の開発 第 5 回：子どもの発達特性と保育内容 5 領域の総合性・系統性 第 6 回：保育における観察・記録・省察・評価と子ども理解：ラーニングストーリーの評価法 第 7 回：就学前から小学校の連続性：架け橋プログラムについて 第 8 回：環境をとおした保育と保育内容のあり方：アフォーダンス理論 第 9 回：遊びをとおした学びについて：教材研究と保育内容の実際 第 10 回：保育内容横断としての ESD/SDGs 第 11 回：家庭・地域との連携：子育て支援の実際 第 12 回：乳児保育と保育内容 第 13 回：長時間保育のあり方と保育内容 第 14 回：特別な支援を必要とする子どもの保育内容：具体的展開 第 15 回：多文化共生としての保育内容		
授業方法	教科書やレジュメをもとに、幼稚園・保育所での実態・事例を講義し、ディスカッションを行うなど、主体的に学べるようにする。授業での発言・討議を重視し、レポートを課しその都度学びを確認する。また、実際に体験することで、教材開発の視点を得るようにする。		
アクティブラーニングの視点	グループでの討議等をとおして、自分の意見を明確に述べることができるようにする。また、グループでの実技経験・発表等を得て、保育内容の教材開発に活かせるようにする。		
授業外学習	事前に教科書から、課題を行う。また、授業後は、課題について、さらに深くレポートを記載する。 実際の子どもの様子を実習や、ボランティア等で観察して、その様子を参考に授業を受講する。		
教科書	鈴木裕子編著『保育内容総論ー乳幼児の生活文化』ミネルヴァ書房		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容等）　30% ②授業についてのコメント（記述内容・字数・提出日等）　30% ③課題レポート（論述内容・内容の理解・字数・提出日等）　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援ルーム施設長の経験と、幼稚園。保育所、認定こども園での長年にわたる保育内容指導経験、現職研修等を踏まえて指導する。		

No.	420	科目コード	65190
科目名	保育内容総論	授業コード	9314445
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 （1）各領域のねらい及び内容 ・幼稚園教育要領等に示さ幼児幼児教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 （2）保育内容の指導方法と保育の構想 ・幼児の発達や学びの課程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を学び、5 領域（健康、人間関係、環境、言語、表現）のねらいと内容の理解とともに、総合的にとらえる視点や保育内容を構造的に理解する。幼児の発達、生活、遊びの発達段階を踏まえ、幼稚園での具体的な活動を学ぶ。さらに、具体的な実践がイメージできるように、実践的な振り返りや保育記録、指導計画の作成などもおこなう		
授業計画	第 1 回：幼児教育の基本と保育内容 第 2 回：幼稚園教育要領等の各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第 3 回：保育内容の歴史的変遷と社会的背景 第 4 回：教材文化としての保育内容：保育内容の開発 第 5 回：子どもの発達特性と保育内容 5 領域の総合性・系統性 第 6 回：保育における観察・記録・省察・評価と子ども理解：ラーニングストーリーの評価法 第 7 回：就学前から小学校の連続性：架け橋プログラムについて 第 8 回：環境をとおした保育と保育内容のあり方：アフォーダンス理論 第 9 回：遊びをとおした学びについて：教材研究と保育内容の実際 第 10 回：保育内容横断としての ESD/SDGs 第 11 回：家庭・地域との連携：子育て支援の実際 第 12 回：乳児保育と保育内容 第 13 回：長時間保育のあり方と保育内容 第 14 回：特別な支援を必要とする子どもの保育内容：具体的展開 第 15 回：多文化共生としての保育内容		
授業方法	教科書やレジュメをもとに、幼稚園・保育所での実態・事例を講義し、ディスカッションを行うなど、主体的に学べるようにする。授業での発言・討議を重視し、レポートを課しその都度学びを確認する。また、実際に体験することで、教材開発の視点を得るようにする。		
アクティブラーニングの視点	グループでの討議等をとおして、自分の意見を明確に述べることができるようにする。また、グループでの実技経験・発表等を得て、保育内容の教材開発に活かせるようにする。		
授業外学習	事前に教科書から、課題を行う。また、授業後は、課題について、さらに深くレポートを記載する。 実際の子どもの様子を実習や、ボランティア等で観察して、その様子を参考に授業を受講する。		
教科書	鈴木裕子編著『保育内容総論ー乳幼児の生活文化』ミネルヴァ書房		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容等）　30% ②授業についてのコメント（記述内容・字数・提出日等）　30% ③課題レポート（論述内容・内容の理解・字数・提出日等）　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援ルーム施設長の経験と、幼稚園。保育所、認定こども園での長年にわたる保育内容指導経験、現職研修等を踏まえて指導する。		

No.	421	科目コード	66444
科目名	保育領域（健康）	授業コード	9314530
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解し，体の諸機能の発達に伴う生活習慣の形成や安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。また，幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。		
授業概要	「領域」健康に関する現代的課題が，学生に取り身近に広範囲にわたることを理解するため，映像等の資料や事例を含む多面的な資料を活用しながら，体験，ディスカッション等を通して，問題意識をもって考察する。また，領域「健康」における，幼児の食・運動に関わる発達的特徴について，学術的なデータを理解し，実践に繋げるための支援の在り方について理解する。		
授業計画	第１回：保育領域「健康」と健康の発達的意味 第２回：乳幼児期の心の発達と健康課題 第３回：乳幼児期の体の発達と健康課題 第４回：健康の定義と乳幼児期の健康の意義 第５回：乳幼児期の体の発達とその特徴 第６回：乳幼児期の基本的な生活習慣形成 第７回：幼児の安全教育 第８回：幼児期の怪我や病気の特徴と予防 第９回：乳幼児期の危険に対するリスクとハザード 第 10 回：乳幼児期の安全管理 第 11 回：幼児期の運動発達の特徴 第 12 回：幼児期の遊びを通した動きの獲得 第 13 回：幼児期における身体活動の在り方と配慮 第 14 回：幼児期の心身発達にふさわしい環境，教育とは（グループ発表） 第 15 回：講義の振り返りと総括 期末試験		
授業方法	講義および実習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	毎回の講義の最初に講義内容について問題提起し，講義前半はワークシートを使用してグループワークを行う。その後，グループが調べたこと以上に講義で何が追加されたかをワークシートに記入しながら講義を受ける。第４回から９回の講義内容をプレゼンテーションにまとめ，各グループで実践したい内容を第９回で発表する。		
授業外学習	グループワークのための資料作成、および文献やデータの整理を行う必要がある。また、各自で子どもの健康課題について具体的事例を収集していく必要がある。		
教科書	「子どもの姿からはじめる領域・健康（シリーズ知のゆりかご)」 監修：秋田喜代美　株式会みらい		
参考書	イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK（武藤隆（編） 学陽書房，2017）		
評価方法	毎回のワークシート（20%），発表および成果物（40%），期末試験（40%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	保健体育科教育学を研究し、長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして指導する。		

No.	422	科目コード	66444
科目名	保育領域（健康）	授業コード	9314647
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解し，体の諸機能の発達に伴う生活習慣の形成や安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。また，幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。		
授業概要	「領域」健康に関する現代的課題が，学生に取り身近に広範囲にわたることを理解するため，映像等の資料や事例を含む多面的な資料を活用しながら，体験，ディスカッション等を通して，問題意識をもって考察する。また，領域「健康」における，幼児の食・運動に関わる発達的特徴について，学術的なデータを理解し，実践に繋げるための支援の在り方について理解する。		
授業計画	第１回：保育領域「健康」と健康の発達的意味 第２回：乳幼児期の心の発達と健康課題 第３回：乳幼児期の体の発達と健康課題 第４回：健康の定義と乳幼児期の健康の意義 第５回：乳幼児期の体の発達とその特徴 第６回：乳幼児期の基本的な生活習慣形成 第７回：幼児の安全教育 第８回：幼児期の怪我や病気の特徴と予防 第９回：乳幼児期の危険に対するリスクとハザード 第 10 回：乳幼児期の安全管理 第 11 回：幼児期の運動発達の特徴 第 12 回：幼児期の遊びを通した動きの獲得 第 13 回：幼児期における身体活動の在り方と配慮 第 14 回：幼児期の心身発達にふさわしい環境，教育とは（グループ発表） 第 15 回：講義の振り返りと総括 期末試験		
授業方法	講義および実習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	毎回の講義の最初に講義内容について問題提起し，講義前半はワークシートを使用してグループワークを行う。その後，グループが調べたこと以上に講義で何が追加されたかをワークシートに記入しながら講義を受ける。第４回から９回の講義内容をプレゼンテーションにまとめ，各グループで実践したい内容を第９回で発表する。		
授業外学習	グループワークのための資料作成、および文献やデータの整理を行う必要がある。また、各自で子どもの健康課題について具体的事例を収集していく必要がある。		
教科書	「子どもの姿からはじめる領域・健康（シリーズ知のゆりかご)」 監修：秋田喜代美　株式会みらい		
参考書	イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK（武藤隆（編） 学陽書房，2017）		
評価方法	毎回のワークシート（20%），発表および成果物（40%），期末試験（40%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	保健体育科教育学を研究し、長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして指導する。		

No.	423	科目コード	66447
科目名	保育領域（人間関係）	授業コード	9314212
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。 (1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 (2)幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。		
授業概要	保育領域「人間関係」の位置づけ、乳児期、幼児期、就学に向けた接続期にわたる就学前児の社会性の発達過程について概説する。子ども同士、子どもと保育者、保育者同士の関係をよりよくするための教育的配慮について紹介した保育事例を討議しながら保育者としての対応についても考える。		
授業計画	第１回： 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴の理解 第２回： 人間関係の現代的特徴とその社会的背景の理解 第３回： 人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることへの理解 第４回： 乳児期に育つ人と関わる力の発達過程の理解①（乳児期・幼児期前期） 第５回： 乳児期に育つ人と関わる力の発達過程の理解②（幼児期後期・就学前児） 第６回： 身近な大人との関係における人と関わる力の理解 第７回： 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達の理解 第８回： 教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点における関係性の理解 第９回： 自立心の育ちにおける発達の理解 第 10 回：協同性の育ちにおける発達の理解 第 11 回：道徳性・規範意識の芽生えにおける発達の理解 第 12 回：家族や地域との関りと育ちにおける発達の理解 第 13 回：幼稚園教育において育みたいコミュニケーションに関する資質能力の考察 第 14 回：幼稚園生活における集団規範（きまり）に関する理解 第 15 回：集団の中でみられる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係発達の理解		
授業方法	科目担当者による講義が中心であるが、保育・幼児教育における人間関係を考えるワークやグループ討議などを行うため、積極的な受講姿勢が求められる。		
アクティブラーニングの視点	保育教材指導のワークシートの作成、保育教材の作成、模擬保育発表と指導法の振り返りはグループワークなどの演習形式で行います。		
授業外学習	保育・教育現場において,、各年齢の人間関係の発達、人間関係を広げる子どもの「あそび」について学んでおくこと。本授業では、人間関係を広げる保育教材の実演もしてもらいます。特大絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びの実演など、受講生全員の前でできるように日頃から素材を集め、練習をしておいてください。		
教科書	子どもと社会の未来を拓く　保育内容　人間関係　（徳安敦(編)青鞜社　2019 年）		
参考書	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（文部科学省）		
評価方法	(1)模擬保育演習の発表（30%） (2)グループワークの振り返りに関するミニッツペーパー（30%） (3)保育対応の個人ワークシート作成（40%） 本授業では、積極的な授業への参加を求めます。 なお、大幅な遅刻は欠席とみなすことがあります（詳細は第１回目授業で説明します)。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた子育て支援や子育て相談など、保護者との連携における保育者のあり方について講義する。		

No.	424	科目コード	66447
科目名	保育領域（人間関係）	授業コード	9314233
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。 (1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 (2)幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。		
授業概要	保育領域「人間関係」の位置づけ、乳児期、幼児期、就学に向けた接続期にわたる就学前児の社会性の発達過程について概説する。子ども同士、子どもと保育者、保育者同士の関係をよりよくするための教育的配慮について紹介した保育事例を討議しながら保育者としての対応についても考える。		
授業計画	第１回： 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴の理解 第２回： 人間関係の現代的特徴とその社会的背景の理解 第３回： 人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることへの理解 第４回： 乳児期に育つ人と関わる力の発達過程の理解①（乳児期・幼児期前期） 第５回： 乳児期に育つ人と関わる力の発達過程の理解②（幼児期後期・就学前児） 第６回： 身近な大人との関係における人と関わる力の理解 第７回： 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達の理解 第８回： 教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点における関係性の理解 第９回： 自立心の育ちにおける発達の理解 第 10 回：協同性の育ちにおける発達の理解 第 11 回：道徳性・規範意識の芽生えにおける発達の理解 第 12 回：家族や地域との関りと育ちにおける発達の理解 第 13 回：幼稚園教育において育みたいコミュニケーションに関する資質能力の考察 第 14 回：幼稚園生活における集団規範（きまり）に関する理解 第 15 回：集団の中でみられる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係発達の理解		
授業方法	科目担当者による講義が中心であるが、保育・幼児教育における人間関係を考えるワークやグループ討議などを行うため、積極的な受講姿勢が求められる。		
アクティブラーニングの視点	保育教材指導のワークシートの作成、保育教材の作成、模擬保育発表と指導法の振り返りはグループワークなどの演習形式で行います。		
授業外学習	保育・教育現場において,、各年齢の人間関係の発達、人間関係を広げる子どもの「あそび」について学んでおくこと。本授業では、人間関係を広げる保育教材の実演もしてもらいます。特大絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びの実演など、受講生全員の前でできるように日頃から素材を集め、練習をしておいてください。		
教科書	子どもと社会の未来を拓く　保育内容　人間関係　（徳安敦(編)青鞜社　2019 年）		
参考書	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（文部科学省）		
評価方法	(1)模擬保育演習の発表（30%） (2)グループワークの振り返りに関するミニッツペーパー（30%） (3)保育対応の個人ワークシート作成（40%） 本授業では、積極的な授業への参加を求めます。 なお、大幅な遅刻は欠席とみなすことがあります（詳細は第１回目授業で説明します)。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた子育て支援や子育て相談など、保護者との連携における保育者のあり方について講義する。		

No.	425	科目コード	66452
科目名	保育領域（環境）	授業コード	9323346
教員名	岩﨑　巧		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。 領域のあり方と人的・物的環境の理解、保育室の空間の作り方と子どもの理解 ・環境を通した保育と子どもの主体性の引きだし方について理解する。 ・領域のあり方と人的・物的環境の大切さについて理解する。 ・子どもの理解からなる保育室の空間の作り方について理解する。		
授業概要	子どもの視座から環境をとらえることの重要性を踏まえ、乳幼児がこころを揺さぶられ、自発的、意欲的に関われるような環境のあり方を学ぶ。その中で主体的に活動が展開できるような環境の構成や、幼児と共につくりつくりかえ、変化していく可塑性のある環境づくりを目指し、乳幼児期にふさわしい体験が得られるような総合的な遊びとの関連について具体的な保育場面の考察を通して学修する。		
授業計画	テーマ 第１回： ガイダンス、幼児を取り巻く環境の諸側面と領域、学びのプレ 第２回：環境を通して行う教育の意義について 第３回： 「自然」に触れ気付くこと、草や木の遊びが授けてくれるもの 第４回： 身近な自然を通した保育事例、森の中を保育環境として過ごす実践例 第５回： 動植物に関わる環境 第６回： 砂・土・水の活動、園庭あそびと「原体験」 第７回： ごっこ遊びの環境構成・積み木の重要性（数量・図形、文字等の環境） 第８回： 興味や欲求に応じた環境（レッジョ・エミリアの保育環境） 第９回： 発達の時期に即した環境 第 10 回：3 歳児の環境構成の作成 第 11 回：4 歳児の環境構成の作成 第 12 回：5 歳児の環境構成の作成 第 13 回： コーナー保育の設定理解（環境構成図小テスト） 第 14 回：科学的概念の発達と保育の意図性、学びのポスト 第 15 回：まとめ		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	授業に積極的にかかわれるよう発問に答え、授業中の主体的な学びとしてラーニング・ストーリーをまとめ、まとめた内容について学生同士で話し合い、さらに理解が深まったことも記述し、授業課題（ポートフォリオ）として毎回提出する。＜ガイダンスで解説＞		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版		
参考書	平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド本社，2017）		
評価方法	授業に対する意欲、保育領域に関する理解度・知識の定着度を総合的に判断し評価する。 授業課題の提出（42%）・まとめの提出(18%)・小テスト(30%)・授業態度（10%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	426	科目コード	66452
科目名	保育領域（環境）	授業コード	9323413
教員名	岩﨑　巧		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。 領域のあり方と人的・物的環境の理解、保育室の空間の作り方と子どもの理解 ・環境を通した保育と子どもの主体性の引きだし方について理解する。 ・領域のあり方と人的・物的環境の大切さについて理解する。 ・子どもの理解からなる保育室の空間の作り方について理解する。		
授業概要	子どもの視座から環境をとらえることの重要性を踏まえ、乳幼児がこころを揺さぶられ、自発的、意欲的に関われるような環境のあり方を学ぶ。その中で主体的に活動が展開できるような環境の構成や、幼児と共につくりつくりかえ、変化していく可塑性のある環境づくりを目指し、乳幼児期にふさわしい体験が得られるような総合的な遊びとの関連について具体的な保育場面の考察を通して学修する。		
授業計画	テーマ 第１回： ガイダンス、幼児を取り巻く環境の諸側面と領域、学びのプレ 第２回：環境を通して行う教育の意義について 第３回： 「自然」に触れ気付くこと、草や木の遊びが授けてくれるもの 第４回： 身近な自然を通した保育事例、森の中を保育環境として過ごす実践例 第５回： 動植物に関わる環境 第６回： 砂・土・水の活動、園庭あそびと「原体験」 第７回： ごっこ遊びの環境構成・積み木の重要性（数量・図形、文字等の環境） 第８回： 興味や欲求に応じた環境（レッジョ・エミリアの保育環境） 第９回： 発達の時期に即した環境 第 10 回：3 歳児の環境構成の作成 第 11 回：4 歳児の環境構成の作成 第 12 回：5 歳児の環境構成の作成 第 13 回： コーナー保育の設定理解（環境構成図小テスト） 第 14 回：科学的概念の発達と保育の意図性、学びのポスト 第 15 回：まとめ		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	授業に積極的にかかわれるよう発問に答え、授業中の主体的な学びとしてラーニング・ストーリーをまとめ、まとめた内容について学生同士で話し合い、さらに理解が深まったことも記述し、授業課題（ポートフォリオ）として毎回提出する。＜ガイダンスで解説＞		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版		
参考書	平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド本社，2017）		
評価方法	授業に対する意欲、保育領域に関する理解度・知識の定着度を総合的に判断し評価する。 授業課題の提出（42%）・まとめの提出(18%)・小テスト(30%)・授業態度（10%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	427	科目コード	66453
科目名	保育領域（言葉）	授業コード	9314660
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 （１）人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 （２）言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 （３）幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。		
授業概要	子どもがどのように言葉を獲得し発達させていくか、言葉の力を育むとはどういうことか、言葉の問題をどう考えるか等の課題について考えることを通して、言葉の指導の基本を理解するとともに、保育実践に生かそうとする意識を醸成する。また、様々な言葉遊びを通して、子どもが楽しさや喜びを感じながら、言葉の力を獲得できるような、保育者として必要な資質・能力（実践的技術）を習得する。		
授業計画	第１回：人間にとっての話し言葉の意義と機能（言葉による伝え合い） 第２回：人間にとっての書き言葉の意義と機能（文字の機能） 第３回：乳幼児の言葉の発達過程①（０歳～３歳） 第４回：乳幼児の言葉の発達過程①（３歳～就学前） 第５回：言葉の楽しさや美しさ 第６回：言語感覚を豊かにする実践の基本 第７回：言葉遊びの実践①（しりとり遊び、なぞなぞ遊びなど） 第８回：言葉遊びの実践②（ごっこ遊び、ジェスチャー遊び、劇遊びなど） 第９回：言葉遊びの実践③（回文、連想ゲームなど） 第 10 回：児童文化財（絵本・物語・紙芝居）の基本（さまざまなジャンルの絵本①[物語の絵本]） 第 11 回： 幼児の発達における児童文化財の役割（さまざまなジャンルの絵本②[昔話、童話をもとにした絵本]） 第 12 回：絵本・物語の読み聞かせの方法 第 13 回：絵本・物語の読み聞かせの実践 第 14 回： 紙芝居づくりの方法 第 15 回： 紙芝居づくりの実践 定期試験		
授業方法	講義と討論、ワークショップ等の演習。		
アクティブラーニングの視点	「言葉遊び」や「読み聞かせ」など、主体的に言語活動に関わるという学びの姿勢を重視する。 グループごとの対話を中心とした学び合いや発表形式を取り入れた学習活動を展開する。		
授業外学習	自らの課題設定と課題追究活動。		
教科書	『生活事例からはじめる-保育内容-言葉』徳安敦，堀科，山本弥栄子編著，2022 年，青踏社		
参考書	幼稚園教育要領（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討論の内容、授業における積極的な関わり等）３０％ ②ワークシート（記述内容・字数等）２０％ ③定期試験５０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としません		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	428	科目コード	66453
科目名	保育領域（言葉）	授業コード	9314681
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 そのため、以下の各目標を掲げる。 （１）人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 （２）言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 （３）幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。		
授業概要	子どもがどのように言葉を獲得し発達させていくか、言葉の力を育むとはどういうことか、言葉の問題をどう考えるか等の課題について考えることを通して、言葉の指導の基本を理解するとともに、保育実践に生かそうとする意識を醸成する。また、様々な言葉遊びを通して、子どもが楽しさや喜びを感じながら、言葉の力を獲得できるような、保育者として必要な資質・能力（実践的技術）を習得する。		
授業計画	第１回：人間にとっての話し言葉の意義と機能（言葉による伝え合い） 第２回：人間にとっての書き言葉の意義と機能（文字の機能） 第３回：乳幼児の言葉の発達過程①（０歳～３歳） 第４回：乳幼児の言葉の発達過程①（３歳～就学前） 第５回：言葉の楽しさや美しさ 第６回：言語感覚を豊かにする実践の基本 第７回：言葉遊びの実践①（しりとり遊び、なぞなぞ遊びなど） 第８回：言葉遊びの実践②（ごっこ遊び、ジェスチャー遊び、劇遊びなど） 第９回：言葉遊びの実践③（回文、連想ゲームなど） 第 10 回：児童文化財（絵本・物語・紙芝居）の基本（さまざまなジャンルの絵本①[物語の絵本]） 第 11 回： 幼児の発達における児童文化財の役割（さまざまなジャンルの絵本②[昔話、童話をもとにした絵本]） 第 12 回：絵本・物語の読み聞かせの方法 第 13 回：絵本・物語の読み聞かせの実践 第 14 回： 紙芝居づくりの方法 第 15 回： 紙芝居づくりの実践 定期試験		
授業方法	講義と討論、ワークショップ等の演習。		
アクティブラーニングの視点	「言葉遊び」や「読み聞かせ」など、主体的に言語活動に関わるという学びの姿勢を重視する。 グループごとの対話を中心とした学び合いや発表形式を取り入れた学習活動を展開する。		
授業外学習	自らの課題設定と課題追究活動。		
教科書	『生活事例からはじめる-保育内容-言葉』徳安敦，堀科，山本弥栄子編著，2022 年，青踏者		
参考書	幼稚園教育要領（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討論の内容、授業における積極的な関わり等）３０％ ②ワークシート（記述内容・字数等）２０％ ③定期試験５０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としません		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	429	科目コード	66456
科目名	保育領域（造形表現）	授業コード	9314928
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが表現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第１回：新しい学力観と幼児の遊びや生活における表現の位置付けについての理解 第２回：幼稚園教育要領の目標と内容について表現を生成する過程からの理解 第３回：幼児の発達と幼児の素朴な表現と評価（見出し、受け止め、共感等）の理解 第４回：表現とコミュニケーション（協働して表現することによる他者理解） 第５回：表現の活動体験から学ぶ。（画材や用具の理解とその活用について考察） 第６回：表現の活動体験から学ぶ。（モダンテクニックの理解とその活用について考察） 第７回：「体験と造形」（経験や体験からイメージの再構成し表現すること） 第８回：「遊びと造形」（身体の諸感覚を通した表現活動の可能性と重要性の理解） 第９回：「環境と造形」（身近な素材を用いた表現活動の可能性と重要性の理解） 第 10 回：「言葉と造形」（「お話」と表現活動の理解） 第 11 回：「造形と子供の変容」（造形の楽しさを生み出す要因についての分析） 第 12 回：「保育指導案作成『かく』」（模擬保育） 第 13 回：「保育指導案作成『つくる』」（模擬保育） 第 14 回：幼児期の表現と発達支援についての理解 第 15 回：「年間指導計画」と授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。 （その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。）		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	文部科学省,フレーベル館「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）解説」 厚生労働省,フレーベル館「保育所保育指針解説」 日本文教出版,京都市立芸術大学美術教育研究会「つくる・見る・学ぶ　美術のきほんー美術資料」		
参考書	必要に応じて指示。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（５０％）、レポートや指導案等の提出物（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	430	科目コード	66456
科目名	保育領域（造形表現）	授業コード	9314949
教員名	松田　朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養 い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが表現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第 1 回：新しい学力観と幼児の遊びや生活における表現の位置付けについての理解 第 2 回：幼稚園教育要領の目標と内容について表現を生成する過程からの理解 第 3 回：幼児の発達と幼児の素朴な表現と評価（見出し、受け止め、共感等）の理解 第 4 回：表現とコミュニケーション（協働して表現することによる他者理解） 第 5 回：表現の活動体験から学ぶ。（画材や用具の理解とその活用について考察） 第 6 回：表現の活動体験から学ぶ。（モダンテクニックの理解とその活用について考察） 第 7 回：「体験と造形」（経験や体験からイメージの再構成し表現すること） 第 8 回：「遊びと造形」（身体の諸感覚を通した表現活動の可能性と重要性の理解） 第 9 回：「環境と造形」（身近な素材を用いた表現活動の可能性と重要性の理解） 第 10 回：「言葉と造形」（「お話」と表現活動の理解） 第 11 回：「造形と子供の変容」（造形の楽しさを生み出す要因についての分析） 第 12 回：「保育指導案作成『かく』」（模擬保育） 第 13 回：「保育指導案作成『つくる』」（模擬保育） 第 14 回：幼児期の表現と発達支援についての理解 第 15 回：「年間指導計画」と授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は 4 名から 6 名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。（その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。）		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	文部科学省,フレーベル館「幼稚園教育要領(平成 29 年告示)解説」 厚生労働省,フレーベル館「保育所保育指針解説」 日本文教出版,京都市立芸術大学美術教育研究会「つくる・見る・学ぶ　美術のきほん一美術資料」		
参考書	必要に応じて指示。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解(50%)、レポートや指導案等の提出物(50%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所等にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

No.	431	科目コード	66459
科目名	保育領域（音楽表現）	授業コード	9314794
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	当該科目では領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。 （１）幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 （２）音楽表現、また音楽を通しての身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。		
授業概要	幼児表現のための基本的な技能、知識を修得する。 子どもの音楽的発達と成長について理解し、子どもの発想に共感できる自らの感性を磨いていく。 グループ演習を通して、自らの思いや考えを伝えながら様々な表現方法を探る。		
授業計画	第１回： 幼児にとっての音楽のあり方を探る 第２回：音楽と幼児のかかわり方の基本 第３回：聴覚経験と音楽・歌への親密性 第４回：わらべうたの歴史とこれから 第５回：わらべうたの実践と保育者の取り組み 第６回：幼児期の歌唱と歌唱法 第７回：保育者の歌声を磨く（呼吸法の探求）、楽典（導入、音名など） 第８回：保育者の歌声を磨く（表声、裏声の使い分け）、楽典（拍子とリズム、記号） 第９回：保育者の歌声を磨く（正しい音程を取る）、楽典（音程） 第 10 回：保育者の歌声を磨く（ソルフェージュの練習）、楽典（音階） 第 11 回：歌の伴奏のとらえ方、伴奏譜の選び方、楽典（和音） 第 12 回：簡易伴奏の方法、アレンジの仕方、楽典（コードネーム） 第 13 回：幼児期と楽器の関わり 第 14 回：合奏体験 第 15 回：合奏発表		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	具体的な実践現場をわかるために、幼児向けのテレビ番組や DVD などを観たり、ボランティアなどで積極的に子どもと関わること。		
教科書	必要に応じて資料、レジュメを配布する		
参考書	領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現（柳澤邦子編著　フレーベル館）、 乳幼児の音楽表現(日本赤ちゃん学会監修　中央法規、 音楽表現　三森桂子　小畠エマ　編著　一藝社)、 超やさしい楽譜の読み方（甲斐彰著　音楽之友社）		
評価方法	毎回の授業レポート 20%、授業における発表 20%、楽典テスト 20%、授業に取り組む姿勢 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	432	科目コード	66459
科目名	保育領域（音楽表現）	授業コード	9314815
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	当該科目では領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。 （１）幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 （２）音楽表現、また音楽を通しての身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。		
授業概要	幼児表現のための基本的な技能、知識を修得する。 子どもの音楽的発達と成長について理解し、子どもの発想に共感できる自らの感性を磨いていく。 グループ演習を通して、自らの思いや考えを伝えながら様々な表現方法を探る。		
授業計画	第１回： 幼児にとっての音楽のあり方を探る 第２回：音楽と幼児のかかわり方の基本 第３回：聴覚経験と音楽・歌への親密性 第４回：わらべうたの歴史とこれから 第５回：わらべうたの実践と保育者の取り組み 第６回：幼児期の歌唱と歌唱法 第７回：保育者の歌声を磨く（呼吸法の探求）、楽典（導入、音名など） 第８回：保育者の歌声を磨く（表声、裏声の使い分け）、楽典（拍子とリズム、記号） 第９回：保育者の歌声を磨く（正しい音程を取る）、楽典（音程） 第 10 回：保育者の歌声を磨く（ソルフェージュの練習）、楽典（音階） 第 11 回：歌の伴奏のとらえ方、伴奏譜の選び方、楽典（和音） 第 12 回：簡易伴奏の方法、アレンジの仕方、楽典（コードネーム） 第 13 回：幼児期と楽器の関わり 第 14 回：合奏体験 第 15 回：合奏発表		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	具体的な実践現場をわかるために、幼児向けのテレビ番組や DVD などを観たり、ボランティアなどで積極的に子どもと関わること。		
教科書	必要に応じて資料、レジュメを配布する		
参考書	領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現（柳澤邦子編著　フレーベル館）、 乳幼児の音楽表現(日本赤ちゃん学会監修　中央法規、 音楽表現　三森桂子　小畠エマ　編著　一藝社)、 超やさしい楽譜の読み方（甲斐彰著　音楽之友社）		
評価方法	毎回の授業レポート 20%、授業における発表 20%、楽典テスト 20%、授業に取り組む姿勢 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	433	科目コード	66465
科目名	保育内容（健康）	授業コード	9314526
教員名	内藤　真希		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 （１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 （２）幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	はじめに健康の概念を明らかにし、幼児期の健康について「幼稚園教育要領」の領域「健康」に基づき、その意義やねらい、内容を具体的に学ぶ。幼児期に生きる力の基本となる生活習慣を身につけることの大切さを理解し、そのために必要な援助の方法を習得する。遊びは心身の健康的な発達をもたらし、健康は充実した主体的活動の基となるという連関のなかで、幼児の成長発達が成し遂げられていくことを理解する。年齢に応じた遊び方、保育と安全教育について、保育の現場での事例研究に基づいて学ぶ。		
授業計画	第１回：幼稚園教育の基本 第２回：各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第３回：幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第４回：幼稚園教育における評価の考え方 第５回：領域ごとの内容の関連性 第６回：小学校の教科等とのつながり 第７回：幼児の認識・思考、動き 第８回：幼児の特性を踏まえた保育の構想の重要性 第９回：情報機器及び教材の活用法(1)情報機器の特性と有効的な活用 第 10 回：情報機器及び教材の活用法(2)教材の工夫 第 11 回：指導案の理解と作成(1)指導案の構成の理解 第 12 回：指導案の理解と作成(2)指導案の作成 第 13 回：模擬保育とその振り返り(1) （各年齢の発達に沿った運動あそびと実際１） 第 14 回：模擬保育とその振り返り(2) （各年齢の発達に沿った運動あそびと実際２） 第 15 回：保育実践の理解（まとめ）・授業内テスト		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション等		
授業外学習			
教科書	事例で学ぶ保育内容　領域　健康（無藤　隆　監修　萌文書林）		
参考書	保育所保育指針＜最新版＞（厚生労働省）、幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
評価方法	①授業内テスト及びレポート提出　60％ ②課題提出（課題について発表を行う）20％ ③授業への参加状況　授業中の発表内容、積極的な関わり等）20％ 尚、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	認定こども園の園長が、その経験を活かして、就学前の子どもたちの健康について授業を行う		

No.	434	科目コード	66465
科目名	保育内容（健康）	授業コード	9314547
教員名	内藤　真希		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 （１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 （２）幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	はじめに健康の概念を明らかにし、幼児期の健康について「幼稚園教育要領」の領域「健康」に基づき、その意義やねらい、内容を具体的に学ぶ。幼児期に生きる力の基本となる生活習慣を身につけることの大切さを理解し、そのために必要な援助の方法を習得する。遊びは心身の健康的な発達をもたらし、健康は充実した主体的活動の基となるという連関のなかで、幼児の成長発達が成し遂げられていくことを理解する。年齢に応じた遊び方、保育と安全教育について、保育の現場での事例研究に基づいて学ぶ。		
授業計画	第１回：幼稚園教育の基本 第２回：各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第３回：幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第４回：幼稚園教育における評価の考え方 第５回：領域ごとの内容の関連性 第６回：小学校の教科等とのつながり 第７回：幼児の認識・思考、動き 第８回：幼児の特性を踏まえた保育の構想の重要性 第９回：情報機器及び教材の活用法(1)情報機器の特性と有効的な活用 第 10 回：情報機器及び教材の活用法(2)教材の工夫 第 11 回：指導案の理解と作成(1)指導案の構成の理解 第 12 回：指導案の理解と作成(2)指導案の作成 第 13 回：模擬保育とその振り返り(1) （各年齢の発達に沿った運動あそびと実際１） 第 14 回：模擬保育とその振り返り(2) （各年齢の発達に沿った運動あそびと実際２） 第 15 回：保育実践の理解（まとめ）・授業内テスト		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション等		
授業外学習			
教科書	事例で学ぶ保育内容　領域　健康（無藤　隆　監修　萌文書林）		
参考書	保育所保育指針＜最新版＞（厚生労働省）、幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
評価方法	①授業内テスト及びレポート提出　60％ ②課題提出（課題について発表を行う）20％ ③授業への参加状況　授業中の発表内容、積極的な関わり等）20％ 尚、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	認定こども園の園長が、その経験を活かして、就学前の子どもたちの健康について授業を行う		

No.	435	科目コード	66463
科目名	保育内容（人間関係）	授業コード	9323212
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	保育領域「人間関係」の保育指導法の探求として、各年齢の発達の理解をふまえながら、人間関係をつなぐ保育内容を研究し、開発する機会を設ける。また人間関係をつなぐ保育内容として、手遊びや折り紙指導の発表、連絡帳やクラスだよりなどを作成する実践力を養う。		
授業計画	第１回： 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本の理解 第２回： 領域人間関係の全体構造の理解 第３回： 人間関係のねらい及び内容の理解 第４回： 幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第５回： 幼稚園教育における評価の考え方の理解 第６回： 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性の理解 第７回： 幼稚園の指導内容と小学校の教科等とのつながりの理解 第８回： 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解 第９回： 各領域の特性や幼児の体験との関連の理解 第 10 回： 情報機器及び教材の活用法の理解と保育の構想への活用 第 11 回： 指導案の構成の理解 第 12 回： 具体的な保育を想定した指導案を作成 第 13 回： 模擬保育の演習発表 第 14 回： 模擬保育の振り返り 第 15 回： 各領域の特性に応じた保育実践の動向の理解と保育構想の向上		
授業方法	科目担当者による講義形式と、保育内容の研究（演習形式：受講者による制作や発表を主とするグループワーク）を取り入れる。特に人間関係を広げる遊び（ルールのある遊び）や折り紙指導を取りあげ、指導案作成の学びにつなげる。また保育者と保護者をつなぐ保育だよりの作成や連絡帳の書き方指導なども行なう。		
アクティブラーニングの視点	保育教材指導のワークシートの作成、保育教材の作成、模擬保育発表と指導法の振り返りはグループワークなどの演習形式で行います。		
授業外学習	保育・教育現場において,、各年齢の人間関係の発達、人間関係を広げる子どもの「あそび」について学んでおくこと。本授業では、人間関係を広げる保育教材の実演もしてもらいます。特大絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びの実演、またはその他の保育教材（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、エプロンシアター等）など、受講生全員の前でできるように日頃から素材を集め、練習をしておいてください。		
教科書	子どもと社会の未来を拓く　保育内容　人間関係（徳安敦(編)　青鞜社　2018 年）		
参考書	幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府・文部科学省　厚生労働省）		
評価方法	①模擬保育発表（30%） ②模擬保育発表及びグループワークの振り返りに関するミニッツペーパー（40%） ③保育指導法のワークシート作成（30%） 本授業では、積極的な授業への参加を求めます。 なお、大幅な遅刻は欠席とみなすことがあります（詳細は第１回目授業で説明します）。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた子育て支援や子育て相談など、保護者との連携における保育者のあり方について講義する。		

No.	436	科目コード	66463
科目名	保育内容（人間関係）	授業コード	9323233
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	保育領域「人間関係」の保育指導法の探求として、各年齢の発達の理解をふまえながら、人間関係をつなぐ保育内容を研究し、開発する機会を設ける。また人間関係をつなぐ保育内容として、手遊びや折り紙指導の発表、連絡帳やクラスだよりなどを作成する実践力を養う。		
授業計画	第１回： 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本の理解 第２回： 領域人間関係の全体構造の理解 第３回： 人間関係のねらい及び内容の理解 第４回： 幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第５回： 幼稚園教育における評価の考え方の理解 第６回： 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性の理解 第７回： 幼稚園の指導内容と小学校の教科等とのつながりの理解 第８回： 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解 第９回： 各領域の特性や幼児の体験との関連の理解 第 10 回： 情報機器及び教材の活用法の理解と保育の構想への活用 第 11 回： 指導案の構成の理解 第 12 回： 具体的な保育を想定した指導案を作成 第 13 回： 模擬保育の演習発表 第 14 回： 模擬保育の振り返り 第 15 回： 各領域の特性に応じた保育実践の動向の理解と保育構想の向上		
授業方法	科目担当者による講義形式と、保育内容の研究（演習形式：受講者による制作や発表を主とするグループワーク）を取り入れる。特に人間関係を広げる遊び（ルールのある遊び）や折り紙指導を取りあげ、指導案作成の学びにつなげる。また保育者と保護者をつなぐ保育だよりの作成や連絡帳の書き方指導なども行なう。		
アクティブラーニングの視点	保育教材指導のワークシートの作成、保育教材の作成、模擬保育発表と指導法の振り返りはグループワークなどの演習形式で行います。		
授業外学習	保育・教育現場において,、各年齢の人間関係の発達、人間関係を広げる子どもの「あそび」について学んでおくこと。本授業では、人間関係を広げる保育教材の実演もしてもらいます。特大絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びの実演、またはその他の保育教材（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、エプロンシアター等）など、受講生全員の前でできるように日頃から素材を集め、練習をしておいてください。		
教科書	子どもと社会の未来を拓く　保育内容　人間関係（徳安敦(編)　青鞜社　2018 年）		
参考書	幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府・文部科学省　厚生労働省）		
評価方法	①模擬保育発表（30%） ②模擬保育発表及びグループワークの振り返りに関するミニッツペーパー（40%） ③保育指導法のワークシート作成（30%） 本授業では、積極的な授業への参加を求めます。 なお、大幅な遅刻は欠席とみなすことがあります（詳細は第１回目授業で説明します）。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた子育て支援や子育て相談など、保護者との連携における保育者のあり方について講義する。		

No.	437	科目コード	66464
科目名	保育内容（環境）	授業コード	9314346
教員名	岩﨑　巧		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 １．子どもの遊びを通した「環境」についての理解を深める。 ２．領域「環境」の指導計画・指導案を作成し、実践するための基礎的能力を身に付ける。		
授業概要	子どもを取り巻く多様化する環境の中において、保育者は環境に対する総合的かつ高度な知識と視野が要求される。したがって、子どもを取り巻く環境を様々な面からとらえ、保育者として必要な資質や保育技術を習得し理論と実践の総合を図る。		
授業計画	テーマ 第１回：ガイダンス、保育の基本及び新しい保育観と子ども観 第２回：教育要領・保育指針をふまえた教育課程・保育課程と年間指導計画 第３回： 遊びを通した子どもと環境の関わり、１年を通した保育観察と評価 第４回：導入方法と主体的・対話的で深い学び及び小学校での連接 第５回：子どもの絵で見る乳幼児と小学生の発達観、情報機器の活用 第６回：指導案の作成方法、事例から考える保育の指導 第７回：模擬保育の活動決めと教材研究＜グループワーク＞ 第８回：指導案の作成＜グループワーク＞ 第９回：模擬保育発表＜A グループ＞ 第 10 回：模擬保育発表＜B グループ＞ 第 11 回：模擬保育発表＜C グループ＞ 第 12 回：模擬保育発表＜D グループ＞ 第 13 回：模擬保育発表＜E グループ＞ 第 14 回：模擬保育総括、活動写真を使った記録の作成 第 15 回：授業のまとめ		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	・授業に積極的にかかわれるよう発問に答え、授業中の主体的な学びとしてラーニング・ストーリーをまとめ、まとめた内容について学生同士で話し合い、さらに理解が深まったことも記述し、授業課題（ポートフォリオ）として毎回提出する。＜ガイダンスで解説＞ ・グループワークを通じた主体的・対話的・深い学びを積極的に活発に行う。		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	保育実践に生かす保育内容「環境」高内正子監修、上中修編著、教育情報出版 2021 年 12 月 ＩＳＢＮ　978-4-909378-44-6 C3337		
参考書	平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド本社，2017）		
評価方法	授業に対する意欲、保育領域に関する理解度・知識の定着度を総合的に判断し評価する。 授業課題の提出 42%・まとめの提出 18%・模擬保育発表 20%・観察シート 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	438	科目コード	66464
科目名	保育内容（環境）	授業コード	9314413
教員名	岩﨑　巧		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 １．子どもの遊びを通した「環境」についての理解を深める。 ２．領域「環境」の指導計画・指導案を作成し、実践するための基礎的能力を身に付ける。		
授業概要	子どもを取り巻く多様化する環境の中において、保育者は環境に対する総合的かつ高度な知識と視野が要求される。したがって、子どもを取り巻く環境を様々な面からとらえ、保育者として必要な資質や保育技術を習得し理論と実践の総合を図る。		
授業計画	テーマ 第１回：ガイダンス、保育の基本及び新しい保育観と子ども観 第２回：教育要領・保育指針をふまえた教育課程・保育課程と年間指導計画 第３回： 遊びを通した子どもと環境の関わり、１年を通した保育観察と評価 第４回：導入方法と主体的・対話的で深い学び及び小学校での連接 第５回：子どもの絵で見る乳幼児と小学生の発達観、情報機器の活用 第６回：指導案の作成方法、事例から考える保育の指導 第７回：模擬保育の活動決めと教材研究＜グループワーク＞ 第８回：指導案の作成＜グループワーク＞ 第９回：模擬保育発表＜A グループ＞ 第 10 回：模擬保育発表＜B グループ＞ 第 11 回：模擬保育発表＜C グループ＞ 第 12 回：模擬保育発表＜D グループ＞ 第 13 回：模擬保育発表＜E グループ＞ 第 14 回：模擬保育総括、活動写真を使った記録の作成 第 15 回：授業のまとめ		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	・授業に積極的にかかわれるよう発問に答え、授業中の主体的な学びとしてラーニング・ストーリーをまとめ、まとめた内容について学生同士で話し合い、さらに理解が深まったことも記述し、授業課題（ポートフォリオ）として毎回提出する。＜ガイダンスで解説＞ ・グループワークを通じた主体的・対話的・深い学びを積極的に活発に行う。		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	保育実践に生かす保育内容「環境」高内正子監修、上中修編著、教育情報出版 2021 年 12 月 ＩＳＢＮ　978-4-909378-44-6 C3337		
参考書	平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド本社，2017）		
評価方法	授業に対する意欲、保育領域に関する理解度・知識の定着度を総合的に判断し評価する。 授業課題の提出 42%・まとめの提出 18%・模擬保育発表 20%・観察シート 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	439	科目コード	66466
科目名	保育内容（言葉）	授業コード	9323660
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	保育内容における「言葉」の領域の位置づけ、乳幼児期、就学に向けた接続期にわたる言語発達の過程について概説する。ことばを促す保育内容として、児童文化財（素話しづくり、絵本の読み聞かせ、ペープサート、パネルシアターなど）の理解を深め、保育教材として活用できる力を身につける。		
授業計画	第 1 回： 幼稚園教育の基本 第 2 回：各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第 3 回：幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第 4 回：幼稚園教育における評価の考え方 第 5 回：領域ごとの内容の関連性 第 6 回：小学校の教科等とのつながり 第 7 回：幼児の認識・思考、動き 第 8 回：幼児の特性を踏まえた保育の構想の重要性 第 9 回：情報機器及び教材の活用法(1)情報機器の特性と有効的な活用 第 10 回：情報機器及び教材の活用法(2)教材の工夫 第 11 回：指導案の理解と作成(1)指導案の構成の理解 第 12 回：指導案の理解と作成(2)指導案の作成 第 13 回：模擬保育とその振り返り(1)保育の理解と模擬保育の構想 第 14 回：模擬保育とその振り返り(2)模擬保育の実施と振り返り 第 15 回：保育実践の理解と保育構想の向上		
授業方法	言葉の機能や発達過程の解説（科目担当者による講義形式）と、言葉を促す保育内容の研究（演習形式：受講者による制作や発表を主とするグループワーク）を取り入れる。また幼稚園教諭、保育採用試験の内容に準じて、授業内で小テストも実施する。		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。模擬保育も適宜取り入れる。		
授業外学習	ことばを促す保育教材（絵本、紙芝居、ペープサート、パネル[エプロン]シアター、手遊びなど）に触れておくこと。		
教科書	必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省）、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領　＜最新版＞（内閣府・文部科学省　厚生労働省）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　３０％ ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　２０％ ③振り返りシート（記述内容と授業内容の適合性、授業内容への関与、自己への振り返り等）　２０％ ④課題レポート（記述内容と授業内容の適合性、自己への振り返り、研究の展望等）　３０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、幼児・児童の言語についての指導をする。		

No.	440	科目コード	66466
科目名	保育内容（言葉）	授業コード	9323681
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	保育内容における「言葉」の領域の位置づけ、乳幼児期、就学に向けた接続期にわたる言語発達の過程について概説する。ことばを促す保育内容として、児童文化財（素話しづくり、絵本の読み聞かせ、ペープサート、パネルシアターなど）の理解を深め、保育教材として活用できる力を身につける。		
授業計画	第 1 回： 幼稚園教育の基本 第 2 回：各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第 3 回：幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第 4 回：幼稚園教育における評価の考え方 第 5 回：領域ごとの内容の関連性 第 6 回：小学校の教科等とのつながり 第 7 回：幼児の認識・思考、動き 第 8 回：幼児の特性を踏まえた保育の構想の重要性 第 9 回：情報機器及び教材の活用法(1)情報機器の特性と有効的な活用 第 10 回：情報機器及び教材の活用法(2)教材の工夫 第 11 回：指導案の理解と作成(1)指導案の構成の理解 第 12 回：指導案の理解と作成(2)指導案の作成 第 13 回：模擬保育とその振り返り(1)保育の理解と模擬保育の構想 第 14 回：模擬保育とその振り返り(2)模擬保育の実施と振り返り 第 15 回：保育実践の理解と保育構想の向上		
授業方法	言葉の機能や発達過程の解説（科目担当者による講義形式）と、言葉を促す保育内容の研究（演習形式：受講者による制作や発表を主とするグループワーク）を取り入れる。また幼稚園教諭、保育採用試験の内容に準じて、授業内で小テストも実施する。		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。模擬保育も適宜取り入れる。		
授業外学習	ことばを促す保育教材（絵本、紙芝居、ペープサート、パネル[エプロン]シアター、手遊びなど）に触れておくこと。		
教科書	必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省）、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領　＜最新版＞（内閣府・文部科学省　厚生労働省）		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等）　20% ③振り返りシート（記述内容と授業内容の適合性、授業内容への関与、自己への振り返り等）　20% ④課題レポート（記述内容と授業内容の適合性、自己への振り返り、研究の展望等）　30% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、幼児・児童の言語についての指導をする。		

No.	441	科目コード	66468
科目名	保育内容（造形表現）	授業コード	9323928
教員名	松田　朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、造形表現のねらい及び内容並びに全体構造の理解、造形表現のねらい及び内容を踏まえ幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解、幼稚園教育における評価の考えの理解、表現での幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校図画工作とのつながりを理解する。また、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解、造形表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法の理解とそれを保育構想への活用、指導案の構成の理解と具体的な保育を想定した指導案の作成、模擬保育とその振り返りを通した保育の改善する視点の習得、造形表現の特性に応じた保育の実践動向を知り保育構想の向上への取組などができる。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第 1 回:講義「子供と美術」について 第 2 回:講義「言葉と表現」について、造形表現「豊かな表情を求めて、顔いろいろ」 第 3 回:造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『見て描く(制作)』 第 4 回:造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『行事と絵(制作)』 第 5 回:講義「環境と表現」について、造形表現「動物を描く」 第 6 回:講義「ほめてのばす表現活動(評価方法)」について、造形表現「野菜を描く」 第 7 回:造形表現「モダンテクニックを生かした造形遊び(制作・模擬保育)」 第 8 回:講義「作品展示」について、鑑賞「形や色から楽しく現代美術」(模擬保育) 第 9 回:造形表現「材料を生かした表現(紙)『お面』(制作・模擬保育)」 第 10 回:造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』(制作)」 第 11 回:造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』(模擬保育)」 第 12 回:造形表現「材料を生かした表現(粘土)小麦粘土(制作・模擬保育)」 第 13 回:造形表現「総合造形『ペープサート』(制作) 第 14 回:造形表現「総合造形『ペープサート』(模擬保育)」 第 15 回:作品発表と授業のまとめ・ふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は 4 名から 6 名のグループとして、協議やグループ学習を行う。全ての授業の 初めに、児童の作品や美術作品の鑑賞を行い、それについて感じたことやイメージしたことについて話し合う。		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出が ある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	「幼稚園教育要領解説(平成 30 年 3 月)」フレーベル館、文部科学省 「保育所保育指針解説(平成 30 年 3 月)」フレーベル館、厚生労働省 「つくる・見る・学ぶ美術のきほん 美術資料」日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会		
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領<最新版>(内閣府・文部科学省厚生労働省) 必要に応じて指示する。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び作品やレポートを基に総合的に評価を行 う。作品の内容理解や制作への取組(50%)、レポートや課題作品等の提出物(50%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所等にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

No.	442	科目コード	66468
科目名	保育内容（造形表現）	授業コード	9323949
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、造形表現のねらい及び内容並びに全体構造の理解、造形表現のねらい及び内容を踏まえ幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解、幼稚園教育における評価の考えの理解、表現での幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校図画工作とのつながりを理解する。また、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解、造形表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法の理解とそれを保育構想への活用、指導案の構成の理解と具体的な保育を想定した指導案の作成、模擬保育とその振り返りを通した保育の改善する視点の習得、造形表現の特性に応じた保育の実践動向を知り保育構想の向上への取組などができる。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第１回：講義「子供と美術」について 第２回：講義「言葉と表現」について、造形表現「豊かな表情を求めて、顔いろいろ」 第３回：造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『見て描く（制作)』 第４回：造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『行事と絵（制作)』 第５回：講義「環境と表現」について、造形表現「動物を描く」 第６回：講義「ほめてのばす表現活動（評価方法)」について、造形表現「野菜を描く」 第７回：造形表現「モダンテクニックを生かした造形遊び（制作・模擬保育)」 第８回：講義「作品展示」について、鑑賞「形や色から楽しく現代美術」（模擬保育） 第９回：造形表現「材料を生かした表現（紙)『お面』（制作・模擬保育)」 第 10 回：造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』（制作)」 第 11 回：造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』（模擬保育)」 第 12 回：造形表現「材料を生かした表現（粘土）小麦粘土（制作・模擬保育)」 第 13 回：造形表現「総合造形『ペープサート』（制作)」 第 14 回：造形表現「総合造形『ペープサート』（模擬保育)」 第 15 回：作品発表と授業のまとめ・ふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を行う。全ての授業の初めに、児童の作品や美術作品の鑑賞を行い、それについて感じたことやイメージしたことについて話し合う。		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	「幼稚園教育要領解説（平成 30 年３月)」フレーベル館、文部科学省 「保育所保育指針解説（平成 30 年３月)」フレーベル館、厚生労働省 「つくる・見る・学ぶ美術のきほん美術資料」日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会		
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府・文部科学省厚生労働省） 必要に応じて指示する。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び作品やレポートを基に総合的に評価を行う。作品の内容理解や制作への取組（５０％)、レポートや課題作品等の提出物（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	443	科目コード	66467
科目名	保育内容（音楽表現）	授業コード	9323794
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	子どもたちが自然や家庭などとのとの人間的コミュニケーションの中で心に感じたことをどのように音楽で表すのか、その表現方法を実際に体験する。さらに、声を出して自然に歌う、何かをたたいて音を出してみる、さらに自分だけでなく相手と表現したときの喜びを経験する。これらの経験を積み重ねて楽曲を演奏する。というそれぞれの過程における指導法を子供の発達に踏まえ解説する。これらを理解したうえで指導案を作成し、模擬保育を通して実践的な音楽表現指導の内容・方法を学ぶ。		
授業計画	第１回：オリエンテーション、幼稚園教育要領における音楽指導について 第２回： 保育の実際と課題及び幼稚園教育要領（音楽指導）の改定内容 第３回： 子どもと音楽の関わり（１）子どもの表現について 第４回：子どもと音楽の関わり（２）子どもの心身の発達と音楽的発達 第５回：遊びと音楽（１）童謡と唱歌の教材研究、情報機器等の活用 第６回：遊びと音楽（２）指遊び、手遊びの教材研究、情報機器等の活用 第７回：遊びと音楽（３）身体遊びの教材研究、情報機器等の活用 第８回：遊びと音楽（４）リトミックの教材研究、情報機器等の活用 第９回：音楽劇の創作（１）発表準備 第 10 回：音楽劇の創作（２）発表 第 11 回：音楽表現における指導者の役割（１）指導計画 第 12 回：音楽表現における指導者の役割（２）指導案の作成 第 13 回：音楽表現における指導者の役割（３）模擬保育を通した指導方法の検討 第 14 回：音楽表現における指導者の役割（４）模擬保育を通した指導方法の改善 第 15 回：幼小連携としての音楽表現指導の現状と課題		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	・授業で取上げる音楽表現指導法の理論と実践を復習しておくこと。 ・具体的な音楽表現指導法についてレパートリーを増やし、自作の音楽表現指導教材を作成すること。 ・音楽表現指導の指導案を作成し提出すること。		
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領（平成 29 年告示)』フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示)』フレーベル館		
参考書	柴田礼子『音楽指導ブック　子どものための　たのしい音遊び　伝え合い、表現する力を育む』音楽之友社　2009 島津多美子『いつも手あそびをもっと楽しく：子どもが好きな手遊びで一年中遊び通そう』ひかりのくに 2013 幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府 文部科学省 厚生労働省）		
評価方法	毎回の授業レポート 30%、　指導案　30%、　授業に取り組む姿勢　40% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	444	科目コード	66467
科目名	保育内容（音楽表現）	授業コード	9323815
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	子どもたちが自然や家庭などとのとの人間的コミュニケーションの中で心に感じたことをどのように音楽で表すのか、その表現方法を実際に体験する。さらに、声を出して自然に歌う、何かをたたいて音を出してみる、さらに自分だけでなく相手と表現したときの喜びを経験する。これらの経験を積み重ねて楽曲を演奏する。というそれぞれの過程における指導法を子供の発達に踏まえ解説する。これらを理解したうえで指導案を作成し、模擬保育を通して実践的な音楽表現指導の内容・方法を学ぶ。		
授業計画	第１回：オリエンテーション、幼稚園教育要領における音楽指導について 第２回： 保育の実際と課題及び幼稚園教育要領（音楽指導）の改定内容 第３回： 子どもと音楽の関わり（１）子どもの表現について 第４回：子どもと音楽の関わり（２）子どもの心身の発達と音楽的発達 第５回：遊びと音楽（１）童謡と唱歌の教材研究、情報機器等の活用 第６回：遊びと音楽（２）指遊び、手遊びの教材研究、情報機器等の活用 第７回：遊びと音楽（３）身体遊びの教材研究、情報機器等の活用 第８回：遊びと音楽（４）リトミックの教材研究、情報機器等の活用 第９回：音楽劇の創作（１）発表準備 第 10 回：音楽劇の創作（２）発表 第 11 回：音楽表現における指導者の役割（１）指導計画 第 12 回：音楽表現における指導者の役割（２）指導案の作成 第 13 回：音楽表現における指導者の役割（３）模擬保育を通した指導方法の検討 第 14 回：音楽表現における指導者の役割（４）模擬保育を通した指導方法の改善 第 15 回：幼小連携としての音楽表現指導の現状と課題		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	・授業で取上げる音楽表現指導法の理論と実践を復習しておくこと。 ・具体的な音楽表現指導法についてレパートリーを増やし、自作の音楽表現指導教材を作成すること。 ・音楽表現指導の指導案を作成し提出すること。		
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領（平成 29 年告示)』フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示)』フレーベル館		
参考書	柴田礼子『音楽指導ブック　子どものための　たのしい音遊び　伝え合い、表現する力を育む』音楽之友社　2009 島津多美子『いつも手あそびをもっと楽しく：子どもが好きな手遊びで一年中遊び通そう』ひかりのくに 2013 幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府 文部科学省 厚生労働省）		
評価方法	毎回の授業レポート 30%、　指導案　30%、　授業に取り組む姿勢　40% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	445	科目コード	64590
科目名	幼稚園指導法	授業コード	9323343
教員名	小田　真弓		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	保育現場での具体的な方法を獲得すると共に、その内容を実践する意味を把握できるようにする。また、そこから子どもの様子に応じた新たな保育内容と指導法のあり方を開発できるように、主に SDGｓの考え方も含めて、持続可能な開発に関わる保育のあり方を探求することができる力を身につける。		
授業概要	この授業は、認定こども園や幼稚園での教育を前提に、実践力を養うために開講するものである。保育現場で、戸惑わず自信をもって子どもの遊びに対する援助ができることをめざし、幼稚園指導における各領域の内容をしっかり理解し、具体的な指導技術を身につけることを目的とする。事例に基づきながら、保育の現場で遭遇する様々な場面での指導法を考えながら、保育者としての援助のポイントについて獲得できるようにする。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション・発達に応じた指導法とは 第 2 回　指導法の創意工夫について 第 3 回　領域「健康」と指導法（1）子どもの身体性と遊び 第 4 回　領域「健康」と指導法（2）子どもの健康と食育 第 5 回　領域「人間関係」と指導法（1）発達と人の関係性 第 6 回　領域「人間関係」と指導法（2）遊びで育つ人との関係性 第 7 回　領域「環境」と指導法（1）発達にふさわしい人的・物的環境 第 8 回　領域「環境」と指導法（2）自然環境と子どもの育ち 第 9 回　領域「言葉」と指導法（1）対話のある生活から育まれる言葉 第 10 回　領域「言葉」と指導法（2）言葉遊びと絵本教材 第 11 回　領域「表現」と指導法（1）生活における感性と表現 第 12 回　領域「表現」と指導法（2）音・もの・身体の動きにによる表現 第 13 回　総合的な保育指導（1）各領域の総合的名保育指導 第 14 回　総合的な保育指導（2）生活・遊びを通した保育指導 第 15 回　総合的な保育指導（3）子どもの実態と観察・記録から保育実践へ		
授業方法	テキストを中心とした課題方式で実施する。各領域の内容を理解した上で、具体的な保育事例に沿って考察を深めていく。		
アクティブラーニングの視点	各自で考えたことをグループで話し合い、具体的な保育環境と援助について、検討し、まとめ、発表する。		
授業外学習	事前にテキストを学び、課題を明確にしていく。質問を準備する。授業後は、紹介された文献、論文を探索し、次回の授業につなげる。		
教科書	保育内容の指導法（MINERVA はじめて学ぶ保育）（谷村宏子 編著）ミネルヴァ書房		
参考書	随時、授業内で紹介する。 幼保連携型認定こども園における 園児が心を寄せる環境の構成 （内閣府，文部科学省，厚生労働省 著）フレーベル館 新・保育環境評価スケール①3 歳以上 （ハームス.テルマ他 著） 法律文化社 環境構成の理論と実践　保育の専門性に基づいて （高山静子 著） エイデル研究所 新・保育と言葉－発達・子育て支援と実践をつなぐために－ （石上浩美 編著） 嵯峨野書院		
評価方法	事前準備（20%）、授業への参加態度（40%）、レポート内容（40%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園現場経験や多くの保育現場での指導経験を活かして、保育者として必要な資質をと技術と省察力をつけることができるように指導する。		

No.	446	科目コード	66475
科目名	初等国語	授業コード	9314196
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	初等国語の内容と構造を理解し、学習指導の基本事項を身に付けることができる。		
授業概要	小学校国語の目的とその意義を理解することを目的としている。特に、小学校学習指導要領国語編（文部科学省作成）をもとに内容を理解し書写を含む小学校国語教科書の構成を理解する。		
授業計画	第１回　国語科学習指導要領を解説し、理解と内容の定着を理解させる。 第２回　国語教科書の「知識及び技能」の系統を理解させる。 第３回　国語教科書の「A 話すこと・聞くこと」の系統を理解させる。 第４回　国語教科書の「B 書くこと」の系統を理解させる。 第５回　国語教科書の「C 読むこと」の系統を理解させる。 第６回　小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動１を行う。 第７回　小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動２を行う。 第８回　小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動１を行う。 第９回　小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動２を行う。 第１０回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（説明的文章）の単元について理解し、言語活動１を行う。 第１１回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（説明的文章）の単元について理解し、言語活動２を行う。 第１２回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（文学的文章）の単元について理解し、言語活動１を行う。 第１３回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（文学的文章）の単元について理解し、言語活動２を行う。 第１４回　小学校低・中・高学年の「知識及び技能」の単元について理解し、言語活動を行う。 第１５回　まとめと書写の指導について理解し、言語活動を行う。		
授業方法	講義と討論、ワークショップ等の演習。		
アクティブラーニングの視点	講義を聞くという学びから、主体的に言語活動に関わるという学びの姿勢を重視する。 グループごとの対話を中心とした学び合いや発表形式を取り入れた学習活動を展開する。		
授業外学習	ワークシートの記入や言語活動を行うので、その予習をする。 提示した教科書や教材をよく読んでおく。 文字を正しく整えて書く練習をする。		
教科書	小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説「国語編」（東洋館出版社、文部科学省）		
参考書	必要に応じて関連プリントを配布する。		
評価方法	レポート（４０%）、提出物（３０%）、授業への参加度（３０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	447	科目コード	66475
科目名	初等国語	授業コード	9314227
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	初等国語の内容と構造を理解し、学習指導の基本事項を身に付けることができる。		
授業概要	小学校国語の目的とその意義を理解することを目的としている。特に、小学校学習指導要領国語編（文部科学省作成）をもとに内容を理解し書写を含む小学校国語教科書の構成を理解する。		
授業計画	第１回　国語科学習指導要領を解説し、理解と内容の定着を理解させる。 第２回　国語教科書の「知識及び技能」の系統を理解させる。 第３回　国語教科書の「A 話すこと・聞くこと」の系統を理解させる。 第４回　国語教科書の「B 書くこと」の系統を理解させる。 第５回　国語教科書の「C 読むこと」の系統を理解させる。 第６回　小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動１を行う。 第７回　小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動２を行う。 第８回　小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動１を行う。 第９回　小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動２を行う。 第１０回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（説明的文章）の単元について理解し、言語活動１を行う。 第１１回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（説明的文章）の単元について理解し、言語活動２を行う。 第１２回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（文学的文章）の単元について理解し、言語活動１を行う。 第１３回　小学校低・中・高学年の「読むこと」（文学的文章）の単元について理解し、言語活動２を行う。 第１４回　小学校低・中・高学年の「知識及び技能」の単元について理解し、言語活動を行う。 第１５回　まとめと書写の指導について理解し、言語活動を行う。		
授業方法	講義と討論、ワークショップ等の演習。		
アクティブラーニングの視点	講義を聞くという学びから、主体的に言語活動に関わるという学びの姿勢を重視する。 グループごとの対話を中心とした学び合いや発表形式を取り入れた学習活動を展開する。		
授業外学習	ワークシートの記入や言語活動を行うので、その予習をする。 提示した教科書や教材をよく読んでおく。 文字を正しく整えて書く練習をする。		
教科書	小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説「国語編」（東洋館出版社、文部科学省）		
参考書	必要に応じて関連プリントを配布する。		
評価方法	レポート（４０%）、提出物（３０%）、授業への参加度（３０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	448	科目コード	65010
科目名	国語科教育法	授業コード	9323477
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。 １．学習指導要領における小学校国語科の内容を理解し、資質・能力を育むためのその指導法を習得する。 ２．板書や話し方、表情など授業を行うための授業技術を様々な学問理論に基づいて理解し、習得する。 ３．学習指導要領の理論を踏まえて、国語科の目標を育成するための具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成する。 ４．小学校国語科における評価のあり方について理解し、学習指導案に生かし実践する。 ５．基幹教科としての国語科の内容を踏まえ、他教科領域との横断的な指導として教材研究し、授業設計する。		
授業概要	学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解させる。 国語科学習指導案の記述の方法について理解し、教科書教材に従って、それぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。学習指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。		
授業計画	第１回：　学習指導要領及び教育課程編成について 第２回：　単元を構想した授業のあり方と国語科学習指導案の書き方についての解説 第３回：　主体的・対話的で深い学びとしての国語科学習 第４回：　主体的に学習に取り組む態度を高める国語科学習 第５回：　言葉による見方・考え方の指導と教材研究 第６回：　国語科における思考力育成のあり方 第７回：　国語科における判断力育成のあり方 第８回：　国語科における表現力育成のあり方 第９回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価 第 10 回:「書くこと」の学習指導案作成とその評価 第 11 回:「読むこと」文学的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 12 回:「読むこと」説明的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 13 回：　書写指導・語彙指導の実際とそのあり方 第 14 回：　情報機器及び教材の効果的な活用法 第 15 回：　模擬授業の実施と振りかえり		
授業方法	指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論		
アクティブラーニングの視点	学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、模擬授業と事後討議において、身につけさせる。ノートテイクを授業外課題として課す。 授業外学習 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
授業外学習	指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』東洋館出版,文部科学省 『新しい国語３年　上下セット』東京書籍, 『新しい国語４年　上下セット』東京書籍,		
参考書	森山卓郎編『コンパクトに書く国語科授業モデル』明治図書 『国語教科書定番教材の授業』株式会社 ERP		

評価方法	学習指導案（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	国公私立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。

No.	449	科目コード	65010
科目名	国語科教育法	授業コード	9323498
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。 １．学習指導要領における小学校国語科の内容を理解し、資質・能力を育むためのその指導法を習得する。 ２．板書や話し方、表情など授業を行うための授業技術を様々な学問理論に基づいて理解し、習得する。 ３．学習指導要領の理論を踏まえて、国語科の目標を育成するための具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成する。 ４．小学校国語科における評価のあり方について理解し、学習指導案に生かし実践する。 ５．基幹教科としての国語科の内容を踏まえ、他教科領域との横断的な指導として教材研究し、授業設計する。		
授業概要	学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解させる。 国語科学習指導案の記述の方法について理解し、教科書教材に従って、それぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。学習指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。		
授業計画	第１回：　学習指導要領及び教育課程編成について 第２回：　単元を構想した授業のあり方と国語科学習指導案の書き方についての解説 第３回：　主体的・対話的で深い学びとしての国語科学習 第４回：　主体的に学習に取り組む態度を高める国語科学習 第５回：　言葉による見方・考え方の指導と教材研究 第６回：　国語科における思考力育成のあり方 第７回：　国語科における判断力育成のあり方 第８回：　国語科における表現力育成のあり方 第９回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価 第 10 回:「書くこと」の学習指導案作成とその評価 第 11 回:「読むこと」文学的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 12 回:「読むこと」説明的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 13 回：　書写指導・語彙指導の実際とそのあり方 第 14 回：　情報機器及び教材の効果的な活用法 第 15 回：　模擬授業の実施と振りかえり		
授業方法	指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論		
アクティブラーニングの視点	学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、模擬授業と事後討議において、身につけさせる。ノートテイクを授業外課題として課す。 授業外学習 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
授業外学習	指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』東洋館出版,文部科学省 『新しい国語３年　上下セット』東京書籍, 『新しい国語４年　上下セット』東京書籍,		
参考書	森山卓郎編『コンパクトに書く国語科授業モデル』明治図書 『国語教科書定番教材の授業』株式会社 ERP		

評価方法	学習指導案（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	国公私立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。

No.	450	科目コード	65010
科目名	国語科教育法	授業コード	9323502
教員名	阿部　秀高		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。 １．学習指導要領における小学校国語科の内容を理解し、資質・能力を育むためのその指導法を習得する。 ２．板書や話し方、表情など授業を行うための授業技術を様々な学問理論に基づいて理解し、習得する。 ３．学習指導要領の理論を踏まえて、国語科の目標を育成するための具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成する。 ４．小学校国語科における評価のあり方について理解し、学習指導案に生かし実践する。 ５．基幹教科としての国語科の内容を踏まえ、他教科領域との横断的な指導として教材研究し、授業設計する。		
授業概要	学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解させる。 国語科学習指導案の記述の方法について理解し、教科書教材に従って、それぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。学習指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。		
授業計画	第１回：　学習指導要領及び教育課程編成について 第２回：　単元を構想した授業のあり方と国語科学習指導案の書き方についての解説 第３回：　主体的・対話的で深い学びとしての国語科学習 第４回：　主体的に学習に取り組む態度を高める国語科学習 第５回：　言葉による見方・考え方の指導と教材研究 第６回：　国語科における思考力育成のあり方 第７回：　国語科における判断力育成のあり方 第８回：　国語科における表現力育成のあり方 第９回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価 第 10 回:「書くこと」の学習指導案作成とその評価 第 11 回:「読むこと」文学的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 12 回:「読むこと」説明的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 13 回：　書写指導・語彙指導の実際とそのあり方 第 14 回：　情報機器及び教材の効果的な活用法 第 15 回：　模擬授業の実施と振りかえり		
授業方法	指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論		
アクティブラーニングの視点	学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、模擬授業と事後討議において、身につけさせる。ノートテイクを授業外課題として課す。 授業外学習 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
授業外学習	指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』東洋館出版,文部科学省 『新しい国語３年　上下セット』東京書籍, 『新しい国語４年　上下セット』東京書籍,		
参考書	森山卓郎編『コンパクトに書く国語科授業モデル』明治図書 『国語教科書定番教材の授業』株式会社 ERP		

評価方法	学習指導案（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	実務経験あり 小学校教諭　16 年 幼稚園長・小学校長・中学校長　5 年

No.	451	科目コード	65010
科目名	国語科教育法	授業コード	9323516
教員名	阿部　秀高		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。 １．学習指導要領における小学校国語科の内容を理解し、資質・能力を育むためのその指導法を習得する。 ２．板書や話し方、表情など授業を行うための授業技術を様々な学問理論に基づいて理解し、習得する。 ３．学習指導要領の理論を踏まえて、国語科の目標を育成するための具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成する。 ４．小学校国語科における評価のあり方について理解し、学習指導案に生かし実践する。 ５．基幹教科としての国語科の内容を踏まえ、他教科領域との横断的な指導として教材研究し、授業設計する。		
授業概要	学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解させる。 国語科学習指導案の記述の方法について理解し、教科書教材に従って、それぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。学習指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。		
授業計画	第１回：　学習指導要領及び教育課程編成について 第２回：　単元を構想した授業のあり方と国語科学習指導案の書き方についての解説 第３回：　主体的・対話的で深い学びとしての国語科学習 第４回：　主体的に学習に取り組む態度を高める国語科学習 第５回：　言葉による見方・考え方の指導と教材研究 第６回：　国語科における思考力育成のあり方 第７回：　国語科における判断力育成のあり方 第８回：　国語科における表現力育成のあり方 第９回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価 第 10 回:「書くこと」の学習指導案作成とその評価 第 11 回:「読むこと」文学的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 12 回:「読むこと」説明的文章教材の学習指導案作成とその評価 第 13 回：　書写指導・語彙指導の実際とそのあり方 第 14 回：　情報機器及び教材の効果的な活用法 第 15 回：　模擬授業の実施と振りかえり		
授業方法	指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論		
アクティブラーニングの視点	学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、模擬授業と事後討議において、身につけさせる。ノートテイクを授業外課題として課す。 授業外学習 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
授業外学習	指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』東洋館出版,文部科学省 『新しい国語３年　上下セット』東京書籍, 『新しい国語４年　上下セット』東京書籍,		
参考書	森山卓郎編『コンパクトに書く国語科授業モデル』明治図書 『国語教科書定番教材の授業』株式会社 ERP		

評価方法	学習指導案（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	実務経験あり 小学校教諭　16 年 幼稚園長・小学校長・中学校長　5 年

No.	452	科目コード	65015
科目名	国語科教育法２	授業コード	9314611
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．教育実習で活用できる国語科の指導法を習得することができる。 ２．単元を構想した授業について理解し、児童に合わせた教材研究を行うことができる。		
授業概要	この授業は、小学校で教育実習を行う学生が、国語の指導力をさらに向上できるように開講する。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解する。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の関連性について理解するとともに、丁寧な教材分析に基づいた国語科学習指導案を作成することができるようにする。特に、単元を構想した国語科学習指導案を作成し、指導案に基づいた模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。		
授業計画	第１回：学習指導要領における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」についての解説を理解する。 第２回：カリキュラム・マネージメントと教育課程における位置付けを理解する。 第３回：低学年教材の分析、指導方法の検討、指導案作成 第４回：作成した指導案の検討をグループで行い、低学年の特質を知る。 第５回：模擬授業を通して指導法（板書）についての検討を行う。 第６回：中学年教材の分析、指導方法の検討、指導案作成 第７回：作成した指導案の検討をグループで行い、中学年の特質を知る。 第８回：模擬授業を通して指導法（発問）についての検討を行う。 第９回：高学年教材の分析、指導方法の検討、指導案作成 第 10 回：作成した指導案の検討をグループで行い、高学年の特質を知る。 第 11 回：模擬授業を通して指導法（机間指導）についての検討を行う。 第 12 回：情報機器の活用とその効果について検討する。 第 13 回：国語科における評価のあり方について検討する。 第 14 回：授業リフレクションについて理解し、その方法について身につける。 第 15 回：教育実習で実践したい国語科の授業についてレポートにまとめる。		
授業方法	講義、指導案作成、模擬授業の実施とその指導		
アクティブラーニングの視点	教育実習に向けた実践的な国語科指導をグループで確認させる。模擬授業に意欲的に取り組む。教材開発も積極的に行う。合評会やプレゼン報告会など、グループ討議を行う。		
授業外学習	学習指導案作成と模擬授業の準備		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「国語編」、東洋館出版社、文部科学省		
参考書	『国語教科書定番教材の授業』株式会社 ERP		
評価方法	学習指導案作成・模擬授業実施（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして指導する。小学校国語科の指導内容と指導に必要な知識・技能について、具体性をふまえた実践的な指導を行う。		

No.	453	科目コード	66480
科目名	国語科教育法３	授業コード	9314309
教員名	今宮　信吾		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	国語科教育法１、２を踏まえ、国語教育に求められる話題を実践的に取り上げ、新学習指導要領に資する目標とテーマ意識をもち、教科書教材以外の教材開発を行い、それに基づく指導案作成、模擬授業検討を行うことができる。国語科の授業を担当する際に求められる資質・能力の育成、指導計画等の作成とそれに基づく実践的な指導力を身に付ける。		
授業概要	「国語」を教えるとはどういう営みかを再確認することから始め、これからの時代に求められている能力、言語活動の充実、各種調査の結果などと、国語科の指導との関連について考える。また、実際の授業に向けて、教材 研究の在り方、学習評価の在り方などを取り上げ、それらを踏まえて指導計画等の作成と模擬授業を行う。授業は、それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。 ペアやグループなどによる活動を重視し、取り上げるテーマに関するディスカッション等を行う。		
授業計画	第１回：「国語」を教えるとはどういう営みかの再確認 言語の教育としての国語科の果たすべき役割や、目指すべき方向について再確認する。 第２回： 生きる力、これからの時代に求められる能力等と国語科の指導 学習指導要領の理念である生きる力や、求められる資質・能力等と国語科の指導との関係を考える。 第３回： 言語活動の充実と国語科の指導 学習指導要領で重視している各教科等における言語活動の充実と国語科の指導と関係を考える。 第４回： 各種調査の結果と国語科の指導 PISA や全国学力・学習状況調査など国内外の調査の結果と国語科の指導との関係を考える。 第５回： 国語科教育の先達に学ぶ 近代以降の国語科教育の先達の業績についてその概要を知る。 第６回： 教材研究は何のために行うのか 教材研究の現状と課題について学び、指導の工夫改善に必要な教材研究の在り方について考える。 第７回： 学習評価は何のために行うのか 学習評価の現状と課題について学び、指導に生きる学習評価を充実していく方法について考える。 第８回： 年間、各単元の指導と評価の計画の作成(1) 指導と評価の計画の作成の方法について学ぶ。 第９回： 年間、各単元の指導と評価の計画の作成(2) 指導と評価の計画を実際に作成し、課題等について考える。 第 10 回：学習指導案の作成と模擬授業(1)（主に「話すこと・聞くこと」領域） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。 第 11 回：学習指導案の作成と模擬授業(2)（主に「書くこと」領域） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。 第 12 回：学習指導案の作成と模擬授業(3)（主に「読むこと」領域） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。 第 13 回：学習指導案の作成と模擬授業(4)（主に「知識・技能」に関する内容） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。 第 14 回：情報活用のための ICT 活用 タブレット活用などの実態を考慮し、国語科における ICT 活用の効果と課題を考察する。 第 15 回：授業の総括 これまで身に付けたことを振り返り深めためのレポート作成を行う。		
授業方法	オリエンテーションにおいて、自分の課題を決め、それに向けて毎時間の課題について事前に予習し、授業においては、それぞれが調べたことを元にして討議を行う。協働的な学習を中心として、自分の授業ストックを積み重ねていき、教師力を高めていく。		
アクティブラーニングの視点	テキストを読み、学習課題にそってワークシートを記入（予習）の後、協働的な学習（他者のワークシートを読み、他者の発表を聴き、自分として最も価値あるものを選ぶ)、自分学習（協働学習の後、教員の話を聴き、その上で自分の学びを振り返る）へと進む。		
授業外学習	学習の流れが定着した後は、各回必ず課題が出るので、それについて予習を行う。この課題に対する各自の解を用意できる予習を行わなければならない。		

教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』東洋館出版, 文部科学省
参考書	『国語教科書定番教材の授業』二瓶弘行・今宮信吾・山下敦子・阿部秀高　株式会社 ERP 『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編　東洋館出版
評価方法	①授業中に行う模擬授業や小レポート評価し、授業に対する関心・意欲・態度や理解度を評価する(30%) ②課題レポートにおいて、課題探究の深さ、緻密さ、斬新さなどを評価する（30%)。 ③学期末においては総合的な理解を確認する（40%） ※出席回数が所定の回数に満たない場合は評価対象としない。 ※国語科教育法 1、2 を既修していることが望ましい。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	国公私立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。　講義中心ではなく、演習中心の授業を行う。

No.	454	科目コード	66485
科目名	初等社会	授業コード	9323422
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１授業について受ける立場から行う立場への視点の転換。 ２小学校社会科の成立経緯と教育課程の編成を理解する。 ３社会科授業実践の教科書の内容と構成を理解する。 ４社会科教科書の単元に関する教科書を開発する。		
授業概要	小学校社会科の歴史、目的、内容、方法に関する基礎的教養を培うとともに、教師としての基本的資質を社会科教科書の開発によって形成する。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：社会科の成立 第 3 回：社会科の展開 第 4 回：小学校低学年の授業実践（学校及び身近な地域） 第 5 回：小学校低学年の授業内容（学校及び身近な地域） 第 6 回：小学校社会科の教科書の役割と利用 第 7 回：小学校社会科の教科書の内容と構成 第 8 回：小学校社会科の教科書の開発単元の決定と開発計画 第 9 回：小学校社会科の教科書の開発単元の開発作業の着手 第 10 回：小学校社会科の教科書の開発単元の開発作業の遂行 第 11 回：小学校社会科中学年（3 学年）の開発単元の発表と評価（自分たちの地域） 第 12 回：小学校社会科中学年（4 学年）の開発単元の発表と評価（自分たちの地域） 第 13 回：小学校社会科高学年（5 学年）の開発単元の発表と評価（日本の国土と産業） 第 14 回：小学校社会科高学年（6 学年）の開発単元の発表と評価（日本の歴史と世界） 第 15 回：小学校社会科の教科書の開発単元の総合評価		
授業方法	１　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の理解 ２　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の分析 ３　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の開発 ４　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の開発事例の発表と評価		
アクティブラーニングの視点	教科書の構成分析を踏まえて教科書作成の課題を設定する。課題遂行のためにグループで資料調査と共同学習をする。課題盛夏のグループによる発表と相互評価する。		
授業外学習	授業中に指示する。		
教科書	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（ 日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加状況 30%、授業内の課題作成 40%、授業後最終の課題 30%。なお、授業への参加状況には出席数と授業中の態度を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	455	科目コード	66485
科目名	初等社会	授業コード	9323443
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１授業について受ける立場から行う立場への視点の転換。 ２小学校社会科の成立経緯と教育課程の編成を理解する。 ３社会科授業実践の教科書の内容と構成を理解する。 ４社会科教科書の単元に関する教科書を開発する。		
授業概要	小学校社会科の歴史、目的、内容、方法に関する基礎的教養を培うとともに、教師としての基本的資質を社会科教科書の開発によって形成する。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：社会科の成立 第 3 回：社会科の展開 第 4 回：小学校低学年の授業実践（学校及び身近な地域） 第 5 回：小学校低学年の授業内容（学校及び身近な地域） 第 6 回：小学校社会科の教科書の役割と利用 第 7 回：小学校社会科の教科書の内容と構成 第 8 回：小学校社会科の教科書の開発単元の決定と開発計画 第 9 回：小学校社会科の教科書の開発単元の開発作業の着手 第 10 回：小学校社会科の教科書の開発単元の開発作業の遂行 第 11 回：小学校社会科中学年（3 学年）の開発単元の発表と評価（自分たちの地域） 第 12 回：小学校社会科中学年（4 学年）の開発単元の発表と評価（自分たちの地域） 第 13 回：小学校社会科高学年（5 学年）の開発単元の発表と評価（日本の国土と産業） 第 14 回：小学校社会科高学年（6 学年）の開発単元の発表と評価（日本の歴史と世界） 第 15 回：小学校社会科の教科書の開発単元の総合評価		
授業方法	１　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の理解 ２　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の分析 ３　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の開発 ４　小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の開発事例の発表と評価		
アクティブラーニングの視点	教科書の構成分析を踏まえて教科書作成の課題を設定する。課題遂行のためにグループで資料調査と共同学習をする。課題盛夏のグループによる発表と相互評価する。		
授業外学習	授業中に指示する。		
教科書	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（ 日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加状況 30%、授業内の課題作成 40%、授業後最終の課題 30%。なお、授業への参加状況には出席数と授業中の態度を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	456	科目コード	66487
科目名	国際社会と教育	授業コード	9314542
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・国際社会を学ぶ国際教育の形態と動向について説明できる。 ・国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の性格と事例を調査できる。 ・国際社会を学ぶ国際教育の学習者参加型の教育実践を体験する。 ・国際社会を学ぶ国際教育の意義を考察し、学習者参加型の教育実践を開発できる。		
授業概要	国際社会を学ぶ国際教育の形態と動向についての講義によって理解し、学習者参加型の教育実践を体験する。さらに、各自の問題関心に基づいて国際教育の教育実践について調査し、発表する。		
授業計画	第１回　　授業に関するオリエンテーション 第２回　　国際社会を学ぶ教育の形態と性格 第３回　　国際社会を学ぶ教育の歴史と課題 第４回　　国際社会を学ぶ国際理解教育の教育実践の事例 第５回　　国際社会を学ぶ国際理解教育の教育実践の評価 第６回　　国際社会を学ぶ開発教育の教育実践の事例 第７回　　国際社会を学ぶ開発教育の教育実践の評価 第８回　　国際社会を学ぶグローバル教育の教育実践の事例 第９回　　国際社会を学ぶグローバル教育の教育実践の評価 第 10 回　国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の事例 第 11 回　　国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の評価 第 12 回　国際社会を学ぶ持続可能な開発のための教育の事例 第 13 回　国際社会を学ぶ持続可能な開発のための教育の評価 第 14 回　国際社会を学ぶ教育の意義と教育実践の議論 第 15 回　国際社会を学ぶ教育の意義と教育実践の発表		
授業方法	講義と各自の調査内容についての議論と発表		
アクティブラーニングの視点	国際社会を学ぶ教育の事例調査、調査事例報告内容の作成、調査事例報告内容の議論と発表。		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	特になし。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	授業への参加度（40%）、授業での考察と発表の報告内容（30%）、最終課題の調査報告内容（30%）に基づいて評価する。授業への参加度については、授業における発言（質問やコメントなど）が積極的かつ的確であることを高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	457	科目コード	66487
科目名	国際社会と教育	授業コード	9323556
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・国際社会を学ぶ国際教育の形態と動向について説明できる。 ・国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の性格と事例を調査できる。 ・国際社会を学ぶ国際教育の学習者参加型の教育実践を体験する。 ・国際社会を学ぶ国際教育の意義を考察し、学習者参加型の教育実践を開発できる。		
授業概要	国際社会を学ぶ国際教育の形態と動向についての講義によって理解し、学習者参加型の教育実践を体験する。さらに、各自の問題関心に基づいて国際教育の教育実践について調査し、発表する。		
授業計画	第１回　　授業に関するオリエンテーション 第２回　　国際社会を学ぶ教育の形態と性格 第３回　　国際社会を学ぶ教育の歴史と課題 第４回　　国際社会を学ぶ国際理解教育の教育実践の事例 第５回　　国際社会を学ぶ国際理解教育の教育実践の評価 第６回　　国際社会を学ぶ開発教育の教育実践の事例 第７回　　国際社会を学ぶ開発教育の教育実践の評価 第８回　　国際社会を学ぶグローバル教育の教育実践の事例 第９回　　国際社会を学ぶグローバル教育の教育実践の評価 第 10 回　国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の事例 第 11 回　　国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の評価 第 12 回　国際社会を学ぶ持続可能な開発のための教育の事例 第 13 回　国際社会を学ぶ持続可能な開発のための教育の評価 第 14 回　国際社会を学ぶ教育の意義と教育実践の議論 第 15 回　国際社会を学ぶ教育の意義と教育実践の発表		
授業方法	講義と各自の調査内容についての議論と発表		
アクティブラーニングの視点	国際社会を学ぶ教育の事例調査、調査事例報告内容の作成、調査事例報告内容の議論と発表。		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	特になし。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	授業への参加度（40%）、授業での考察と発表の報告内容（30%）、最終課題の調査報告内容（30%）に基づいて評価する。授業への参加度については、授業における発言（質問やコメントなど）が積極的かつ的確であることを高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	458	科目コード	65020
科目名	社会科教育法	授業コード	9314600
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。そのため、以下の各目標を設定する。 (1) 学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解する。 (2) 基礎的な社会科学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校社会科の基本的性格を社会的背景・歴史的背景・学問的背景・児童の発達的特性等と関連づけて基本的に理解し、小学校社会科としての目標・内容・方法を各学年の社会科教科書の内容構成と関連づけて具体的に理解する。そして、各学年の単元計画と授業計画の学習指導案を設計し、その学習指導案を活用する模擬授業を実施する。模擬授業の実践結果を踏まえて授業改善の方法を検討して、教師としての社会科指導能力の形成を意図している。		
授業計画	第 1 回：小学校社会科の基本的性格と成立背景 第 2 回：小学校社会科の教科目標と教科課程 第 3 回：小学校社会科の第３学年の目標と内容 第 4 回：小学校社会科の第４学年の目標と内容 第 5 回：小学校社会科の第５学年の目標と内容 第 6 回：小学校社会科の第６学年の目標と内容 第 7 回：小学校社会科の指導方法と学習評価 第 8 回：小学校社会科の学習指導案作成方法の類型 第 9 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案作成の基本的方法教材研究及び情報機器の活用 第 10 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（１）－３学年－ 第 11 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（２）－４学年－ 第 12 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（３）－５学年－ 第 13 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（４）－６学年－ 第 14 回：小学校社会科教科書活用の改善学習指導案の作成 第 15 回：小学校社会科の基本的性格と学習指導方法の意義と課題		
授業方法	講義とグループ学習が核になる。		
アクティブラーニングの視点	学習指導案作成の課題設定、課題遂行の文献資料の調査、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学習		
授業外学習	必要に応じて授業内で指示する		
教科書	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（ 日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
参考書	・原田智仁編『社会科教育のルネサンス－実践知を求めて－[第 3 版]』(教育情報出版) そのほか必要に応じて、教材資料等を配布する。		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、各授業への参画と学習の成果（20%）。なお、授業への参加状況については、授業における学習への参加意欲・積極性も含める。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	459	科目コード	65020
科目名	社会科教育法	授業コード	9314605
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。そのため、以下の各目標を設定する。 (1) 学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解する。 (2) 基礎的な社会科学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校社会科の基本的性格を社会的背景・歴史的背景・学問的背景・児童の発達的特性等と関連づけて基本的に理解し、小学校社会科としての目標・内容・方法を各学年の社会科教科書の内容構成と関連づけて具体的に理解する。そして、各学年の単元計画と授業計画の学習指導案を設計し、その学習指導案を活用する模擬授業を実施する。模擬授業の実践結果を踏まえて授業改善の方法を検討して、教師としての社会科指導能力の形成を意図している。		
授業計画	第 1 回：小学校社会科の基本的性格と成立背景 第 2 回：小学校社会科の教科目標と教科課程 第 3 回：小学校社会科の第３学年の目標と内容 第 4 回：小学校社会科の第４学年の目標と内容 第 5 回：小学校社会科の第５学年の目標と内容 第 6 回：小学校社会科の第６学年の目標と内容 第 7 回：小学校社会科の指導方法と学習評価 第 8 回：小学校社会科の学習指導案作成方法の類型 第 9 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案作成の基本的方法教材研究及び情報機器の活用 第 10 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（１）－３学年－ 第 11 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（２）－４学年－ 第 12 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（３）－５学年－ 第 13 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（４）－６学年－ 第 14 回：小学校社会科教科書活用の改善学習指導案の作成 第 15 回：小学校社会科の基本的性格と学習指導方法の意義と課題		
授業方法	講義とグループ学習が核になる。		
アクティブラーニングの視点	学習指導案作成の課題設定、課題遂行の文献資料の調査、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学習		
授業外学習	必要に応じて授業内で指示する		
教科書	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（ 日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
参考書	・原田智仁編『社会科教育のルネサンス－実践知を求めて－［第 3 版］』（教育情報出版） そのほか必要に応じて、教材資料等を配布する。		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、各授業への参画と学習の成果（20%）。なお、授業への参加状況については、授業における学習への参加意欲・積極性も含める。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	460	科目コード	65020
科目名	社会科教育法	授業コード	9314724
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。そのため、以下の各目標を設定する。 (1) 学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解する。 (2) 基礎的な社会科学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校社会科の基本的性格を社会的背景・歴史的背景・学問的背景・児童の発達的特性等と関連づけて基本的に理解し、小学校社会科としての目標・内容・方法を各学年の社会科教科書の内容構成と関連づけて具体的に理解する。そして、各学年の単元計画と授業計画の学習指導案を設計し、その学習指導案を活用する模擬授業を実施する。模擬授業の実践結果を踏まえて授業改善の方法を検討して、教師としての社会科指導能力の形成を意図している。		
授業計画	第 1 回：小学校社会科の基本的性格と成立背景 第 2 回：小学校社会科の教科目標と教科課程 第 3 回：小学校社会科の第３学年の目標と内容 第 4 回：小学校社会科の第４学年の目標と内容 第 5 回：小学校社会科の第５学年の目標と内容 第 6 回：小学校社会科の第６学年の目標と内容 第 7 回：小学校社会科の指導方法と学習評価 第 8 回：小学校社会科の学習指導案作成方法の類型 第 9 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案作成の基本的方法教材研究及び情報機器の活用 第 10 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（１）－３学年－ 第 11 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（２）－４学年－ 第 12 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（３）－５学年－ 第 13 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（４）－６学年－ 第 14 回：小学校社会科教科書活用の改善学習指導案の作成 第 15 回：小学校社会科の基本的性格と学習指導方法の意義と課題		
授業方法	講義とグループ学習が核になる。		
アクティブラーニングの視点	学習指導案作成の課題設定、課題遂行の文献資料の調査、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学習		
授業外学習	必要に応じて授業内で指示する		
教科書	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（ 日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
参考書	・原田智仁編『社会科教育のルネサンス－実践知を求めて－[第 3 版]』(教育情報出版) そのほか必要に応じて、教材資料等を配布する。		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、各授業への参画と学習の成果（20%）。なお、授業への参加状況については、授業における学習への参加意欲・積極性も含める。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	461	科目コード	65020
科目名	社会科教育法	授業コード	9314745
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。そのため、以下の各目標を設定する。 (1) 学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解する。 (2) 基礎的な社会科学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校社会科の基本的性格を社会的背景・歴史的背景・学問的背景・児童の発達的特性等と関連づけて基本的に理解し、小学校社会科としての目標・内容・方法を各学年の社会科教科書の内容構成と関連づけて具体的に理解する。そして、各学年の単元計画と授業計画の学習指導案を設計し、その学習指導案を活用する模擬授業を実施する。模擬授業の実践結果を踏まえて授業改善の方法を検討して、教師としての社会科指導能力の形成を意図している。		
授業計画	第 1 回：小学校社会科の基本的性格と成立背景 第 2 回：小学校社会科の教科目標と教科課程 第 3 回：小学校社会科の第３学年の目標と内容 第 4 回：小学校社会科の第４学年の目標と内容 第 5 回：小学校社会科の第５学年の目標と内容 第 6 回：小学校社会科の第６学年の目標と内容 第 7 回：小学校社会科の指導方法と学習評価 第 8 回：小学校社会科の学習指導案作成方法の類型 第 9 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案作成の基本的方法教材研究及び情報機器の活用 第 10 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（１）－３学年－ 第 11 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（２）－４学年－ 第 12 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（３）－５学年－ 第 13 回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（４）－６学年－ 第 14 回：小学校社会科教科書活用の改善学習指導案の作成 第 15 回：小学校社会科の基本的性格と学習指導方法の意義と課題		
授業方法	講義とグループ学習が核になる。		
アクティブラーニングの視点	学習指導案作成の課題設定、課題遂行の文献資料の調査、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学習		
授業外学習	必要に応じて授業内で指示する		
教科書	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（ 日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
参考書	・原田智仁編『社会科教育のルネサンス－実践知を求めて－[第 3 版]』(教育情報出版) そのほか必要に応じて、教材資料等を配布する。		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、各授業への参画と学習の成果（20%）。なお、授業への参加状況については、授業における学習への参加意欲・積極性も含める。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	462	科目コード	66490
科目名	社会科教育法２	授業コード	9323669
教員名	宅島　大尭		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	教育方法としての主な学習指導理論の性格を理解し、情報化時代における社会科教育方法としての教材・教具（教授メディア）活用による授業開発と授業実践の能力を形成する。		
授業概要	教育方法としての学習指導論を授業要素から類型し、主な学習指導方法の特質と課題を理解する。そして、授業実践において重要な役割を担う教材・教具（教授メディア）の歴史と理論を理解し、今後の教育において教師の専門的能力として求められる社会科の教材･教具（教授メディア）の活用と開発の方法を理解する。さらに、パワーポイントを活用して社会科の授業開発を行う。		
授業計画	第 1 回：学校教育における社会科教育の意義 第 2 回：教育方法としての学習指導論の性格と類型 第 3 回：問題解決社会科学習指導方法の特性と課題 第 4 回：探究学習社会科学習指導方法の特性と課題 第 5 回：構成主義社会科学習指導方法の特性と課題 第 6 回：社会科教材・教具（教授メディア）の種類と活用方法 第 7 回：社会科サイン的構成の教材・教具（教授メディア）の特性と事例 第 8 回：社会科プログラム的構成の教材・教具（教授メディア）の特性と事例 第 9 回：社会科システム的構成の教材・教具（教授メディア）の特性と事例 第 10 回：社会科教材・教具（教授メディア）開発の方法 第 11 回：社会科教材・教具（教授メディア）モデル開発の構想と事例分析 第 12 回：社会科教材・教具（教授メディア）開発モデル活用の模擬授業 1 第 13 回：社会科教材・教具（教授メディア）開発モデル活用の模擬授業 2 第 14 回：社会科教材・教具（教授メディア）開発モデル活用の模擬授業 3 第 15 回：社会科教材・教具（教授メディア）の開発と活用の課題		
授業方法	講義とグループ活動		
アクティブラーニングの視点	社会科教材・教具（教授メディア）開発の課題設定、課題遂行の事例分析、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学習		
授業外学習	授業内で必要に応じて指示する。		
教科書	必要に応じて、教材資料等を配布する。		
参考書	・原田智仁編『初等社会科教育の理論と実践：学びのレリバンス』（教育情報出版、2022） ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「社会編」』（日本文教出版） ※文部科学省 HP に PDF ファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、授業への参画意欲・学習成果（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長崎県立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

No.	463	科目コード	66495
科目名	初等算数	授業コード	9323782
教員名	井上　正人		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・算数科の目標と内容を理解し、学習指導の基本を身に付けることができる。 ・小学校算数の基本用語と基本概念を説明することができる。 ・算数学習における数学的活動の重要性について論じることができる。		
授業概要	・算数の教科書と関連づけながら、５つの領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）について解説する。 ・小学校算数の教科書との関連づけを行いながら、算数の背景にある体系と数学を解説する。 ・数学的活動を通した学習の重要性を実践例や教具等を示しながら解説する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　（何のための算数教育か） 第２回　学習指導要領と算数科の目標　（言語・表現活動） 第３回　内容領域の構成 （５つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」について） 第４回　数と計算①（低学年：数の表し方） 第５回　数と計算②（高学年：たし算とひき算、かけ算とわり算） 第６回　図形①（低学年：平面図形、立体図形） 第７回　図形②（高学年：球積、拡大縮小） 第８回　測定　（量の性格、測定の 4 段階） 第９回　変化と関係　（関数の考えと比例の関係） 第 10 回　データの活用①（低学年） 第 11 回　データの活用②（高学年） 第 12 回　数学的活動と数学的な考え方 第 13 回　算数の授業づくり①（低学年） 第 14 回　算数の授業づくり②（高学年） 第 15 回　まとめ　教材開発とまとめ		
授業方法	講義と学生によるプレゼンテーションを中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	指定した資料を事前に読み、ミニレポートを作成する。 講義内容を復習し、ミニレポートを作成する。		
教科書	小学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説 算数編　文部科学省　　日本文教出版		
参考書	赤井利行　編著：わかる算数科指導法・改訂版　東洋館出版社		
評価方法	授業への参加度 50%　課題レポート 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・算数部会代表部長等の経験を活かして、初等算数を指導する。		

No.	464	科目コード	66495
科目名	初等算数	授業コード	9323783
教員名	井上　正人		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・算数科の目標と内容を理解し、学習指導の基本を身に付けることができる。 ・小学校算数の基本用語と基本概念を説明することができる。 ・算数学習における数学的活動の重要性について論じることができる。		
授業概要	・算数の教科書と関連づけながら、５つの領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）について解説する。 ・小学校算数の教科書との関連づけを行いながら、算数の背景にある体系と数学を解説する。 ・数学的活動を通した学習の重要性を実践例や教具等を示しながら解説する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　（何のための算数教育か） 第２回　学習指導要領と算数科の目標　（言語・表現活動） 第３回　内容領域の構成 （５つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」について） 第４回　数と計算①（低学年：数の表し方） 第５回　数と計算②（高学年：たし算とひき算、かけ算とわり算） 第６回　図形①（低学年：平面図形、立体図形） 第７回　図形②（高学年：球積、拡大縮小） 第８回　測定　（量の性格、測定の 4 段階） 第９回　変化と関係　（関数の考えと比例の関係） 第 10 回　データの活用①（低学年） 第 11 回　データの活用②（高学年） 第 12 回　数学的活動と数学的な考え方 第 13 回　算数の授業づくり①（低学年） 第 14 回　算数の授業づくり②（高学年） 第 15 回　まとめ　教材開発とまとめ		
授業方法	講義と学生によるプレゼンテーションを中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	指定した資料を事前に読み、ミニレポートを作成する。 講義内容を復習し、ミニレポートを作成する。		
教科書	小学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説 算数編　文部科学省　　日本文教出版		
参考書	赤井利行　編著：わかる算数科指導法・改訂版　東洋館出版社		
評価方法	授業への参加度 50%　課題レポート 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・算数部会代表部長等の経験を活かして、初等算数を指導する。		

No.	465	科目コード	65030
科目名	算数科教育法	授業コード	9314858
教員名	藤井善信		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・学習指導要領に示された算数科の目標及び内容、育成を目指す資質・能力を理解する。 ・算数科における教材研究や児童理解、指導方法、授業設計について理解し、具体的な授業の展開を主体的に考えることができるようにする。		
授業概要	・子どもが算数を好きになるための指導の工夫について考える。 ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 ・学習内容についての指導上の留意点を理解する。		
授業計画	第１回　算数科教育法のオリエンテーション 第２回　主体的・対話的で深い学びのある算数科学習指導展開 第３回　子供の認識・思考、学力等の実態把握と授業設計 第４回　算数科学習指導における板書計画・ノート指導 第５回　算数科学習指導案の作成の仕方 第６回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成①（低学年） 第７回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成②（高学年） 第８回　「図形」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第９回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認① 第 10 回　「測定」領域の模擬授業と学習指導案作成（低学年） 第 11 回　「変化と関係」領域の模擬授業と学習指導案作成（高学年） 第 12 回　「データの活用」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第 13 回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認② 第 14 回　算数科学習指導における ICT の活用 第 15 回　算数科教育法のまとめ		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	模擬授業の学習指導略案（本時の目標と展開）と学習指導案を作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「算数編」文部科学省　日本文教出版		
参考書	「改訂新版　講座　算数授業の新展開」第１学年～第６学年　東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 40%　②課題レポート（学習指導略案・振り返りシート）40%　③学習指導案 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

No.	466	科目コード	65030
科目名	算数科教育法	授業コード	9314879
教員名	藤井善信		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・学習指導要領に示された算数科の目標及び内容、育成を目指す資質・能力を理解する。 ・算数科における教材研究や児童理解、指導方法、授業設計について理解し、具体的な授業の展開を主体的に考えることができるようにする。		
授業概要	・子どもが算数を好きになるための指導の工夫について考える。 ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 ・学習内容についての指導上の留意点を理解する。		
授業計画	第１回　算数科教育法のオリエンテーション 第２回　主体的・対話的で深い学びのある算数科学習指導展開 第３回　子供の認識・思考、学力等の実態把握と授業設計 第４回　算数科学習指導における板書計画・ノート指導 第５回　算数科学習指導案の作成の仕方 第６回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成①（低学年） 第７回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成②（高学年） 第８回　「図形」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第９回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認① 第 10 回　「測定」領域の模擬授業と学習指導案作成（低学年） 第 11 回　「変化と関係」領域の模擬授業と学習指導案作成（高学年） 第 12 回　「データの活用」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第 13 回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認② 第 14 回　算数科学習指導における ICT の活用 第 15 回　算数科教育法のまとめ		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	模擬授業の学習指導略案（本時の目標と展開）と学習指導案を作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「算数編」文部科学省　日本文教出版		
参考書	「改訂新版　講座　算数授業の新展開」第１学年～第６学年　東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 40%　②課題レポート（学習指導略案・振り返りシート）40%　③学習指導案 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

No.	467	科目コード	65030
科目名	算数科教育法	授業コード	9314886
教員名	上西　知恵		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・学習指導要領に示された算数科の目標及び内容、育成を目指す資質・能力を理解する。 ・算数科における教材研究や児童理解、指導方法、授業設計について理解し、具体的な授業の展開を主体的に考えることができるようにする。		
授業概要	・子どもが算数を好きになるための指導の工夫について考える。 ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 ・学習内容についての指導上の留意点を理解する。		
授業計画	第１回　算数科教育法のオリエンテーション 第２回　主体的・対話的で深い学びのある算数科学習指導展開 第３回　子供の認識・思考、学力等の実態把握と授業設計 第４回　算数科学習指導における板書計画・ノート指導 第５回　算数科学習指導案の作成の仕方 第６回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導略案作成①（低学年） 第７回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導略案作成②（高学年） 第８回　「図形」領域の模擬授業と学習指導略案作成①（全学年） 第９回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認① 第 10 回　「測定」領域の模擬授業と学習指導略案作成（低学年） 第 11 回　「変化と関係」領域の模擬授業と学習指導略案作成（高学年） 第 12 回　「データの活用」領域の模擬授業と学習指導略案作成①（全学年） 第 13 回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認② 第 14 回　算数科学習指導における ICT の活用 第 15 回　算数科教育法のまとめ		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	模擬授業の学習指導略案（本時の目標と展開）と学習指導案を作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「算数編」文部科学省　日本文教出版		
参考書	「改訂新版　講座　算数授業の新展開」第１学年～第６学年　東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 40%　②課題レポート（学習指導略案・振り返りシート）40% ③学習指導案 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会指導主事等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

No.	468	科目コード	65030
科目名	算数科教育法	授業コード	9315889
教員名	上西　知恵		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・学習指導要領に示された算数科の目標及び内容、育成を目指す資質・能力を理解する。 ・算数科における教材研究や児童理解、指導方法、授業設計について理解し、具体的な授業の展開を主体的に考えることができるようにする。		
授業概要	・子どもが算数を好きになるための指導の工夫について考える。 ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 ・学習内容についての指導上の留意点を理解する。		
授業計画	第１回　算数科教育法のオリエンテーション 第２回　主体的・対話的で深い学びのある算数科学習指導展開 第３回　子供の認識・思考、学力等の実態把握と授業設計 第４回　算数科学習指導における板書計画・ノート指導 第５回　算数科学習指導案の作成の仕方 第６回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導略案作成①（低学年） 第７回　「数と計算」領域の模擬授業と学習指導略案作成②（高学年） 第８回　「図形」領域の模擬授業と学習指導略案作成①（全学年） 第９回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認① 第 10 回　「測定」領域の模擬授業と学習指導略案作成（低学年） 第 11 回　「変化と関係」領域の模擬授業と学習指導略案作成（高学年） 第 12 回　「データの活用」領域の模擬授業と学習指導略案作成①（全学年） 第 13 回　模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認② 第 14 回　算数科学習指導における ICT の活用 第 15 回　算数科教育法のまとめ		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	模擬授業の学習指導略案（本時の目標と展開）と学習指導案を作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「算数編」文部科学省　日本文教出版		
参考書	「改訂新版　講座　算数授業の新展開」第１学年～第６学年　東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 40%　②課題レポート（学習指導略案・振り返りシート）40% ③学習指導案 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会指導主事等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

No.	469	科目コード	65035
科目名	算数科教育法２	授業コード	9323992
教員名	上西知恵		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 ①学習指導要領に示された算数科の目標及び内容の理解を深める。 ②基礎的基本的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	・算数科と背景になる学力・学習状況調査等との関係を理解し、教材研究に活用する。 ・模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、学習評価の考え方を理解する。 ・算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用に取り組む。		
授業計画	第１回　学習指導要領における算数科の目標及び主な内容並びに全体構造 第２回　子供の認識・思考の実態を視野に入れた授業設計の重要性 第３回　個別の学習内容（A「数と計算」領域）と指導上の留意点 第４回　算数科の学習評価の考え方 第５回　算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法と授業設計の活用 第６回　個別の学習内容（B「図形」領域）と指導上の留意点 第７回　算数科における教科横断的な指導 第８回　具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の構成及び作成 第９回　個別の学習内容（C「測定」・「変化と関係」領域）と指導上の留意点 第 10 回　個別最適化された授業設計の重要性 第 11 回　模擬授業の実施とその振り返りを通した授業改善（1） 第 12 回　個別の学習内容（D「データの活用」領域）と指導上の留意点 第 13 回　模擬授業の実施とその振り返りを通した授業改善（2） 第 14 回　発展的な学習内容についての探究と学習指導への位置付け 第 15 回　教育実習で実践したい算数科の学習指導		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	指定した文献等を事前に読み、ミニレポートを作成する。 講義内容の復習や宿題レポートを作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「算数編」文部科学省　日本文教出版		
参考書	「改訂新版　講座　算数授業の新展開」第１学年～第６学年　東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 40%　②課題レポート（振り返りシート）40%　③学習指導案 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会指導主事等の経験を活かして、算数科教育法２を指導する。		

No.	470	科目コード	66500
科目名	算数科教育法３	授業コード	9323916
教員名	上西　知恵		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計(特にユニバーサルデザインの授業設計)を行う方法を身に付ける。 ①学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 ②支援を必要とする児童・生徒の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	（1）子供の認識・思考、学力等の実態に応じた発展的な学習内容について探求する。 （2）模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善に取り組む （3）算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用する。		
授業計画	テーマ 第１回：算数科における実践研究の動向と取り組む授業の設計について 第２回：学習指導要領算数科の目標と内容及びその全体構造について 第３回：論文・文献の実践研究の問題点と授業改善の向上について 第４回：個別の学習内容と指導上の留意点等について 第５回：取り組む授業の学習評価の考え方について 第６回：認識・思考、学力と授業設計について 第７回：実態を捉えた授業設計の重要性について 第８回：算数科の特性に応じた情報機器の活用とその授業設計について 第９回：具体的な授業設計と学習指導案の作成について 第 10 回：作成された指導案についての指導上の留意点について 第 11 回：模擬授業１の実施と振り返り及び授業改善について 第 12 回：算数科における背景となる学問領域と教材研究について 第 13 回：模擬授業２の実施と振り返り及び授業改善について 第 14 回：取り組んだ授業の学習評価の考え方について 第 15 回：学習指導への位置付けの考察と発展的な学習内容の探究について		
授業方法	講義形式とグループ討議（必要に応じて演習を行う）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・論文・文献研究を行う。 ・教育実習やインターンシップ等での活動記録をまとめ資料を作成する。 ・宿題レポートの作成を行う。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「算数編」』文部科学省、日本文教出版 2018 年		
参考書	授業中に適宜資料を配布 「改訂新版　講座　算数授業の新展開」第１学年～第６学年　東洋館出版社 「ユニバーサルデザインへの挑戦」東洋館出版社　２０１８年		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等）　２０％ ②授業コメントとワークシート（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、資料の整理、字数等）　３０％ ③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等）　５０％ なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会指導主事等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

No.	471	科目コード	66505
科目名	初等理科	授業コード	9323029
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領の変遷をその歴史的背景と関連づけて理解する。 小学校理科の指導目標を理解するとともに，目標達成のために必要な学習のあり方を検討することができる。 小学校理科の体系を理解し，その学習意義を説明できる。 小学校理科の指導に必要な，自然科学の基礎的内容の理解を深める。		
授業概要	学習指導要領における小学校理科の目標や内容について，講義や調べ学習を通して理解を深める。 自然科学に関する基礎的な知識の習得のため，必要に応じて問題演習なども行う。 小学校理科の学習内容や単元にの意義を学習方法と関連づけたレポートを作成する。		
授業計画	1 学習指導要領の変遷と小学校理科の概要 2 理科の教え方・学び方 3 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成１（エネルギー編　電流とエネルギー） 4 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成 2（エネルギー編　力とエネルギー） 5 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成 3（粒子編　物質と原子・分子） 6 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成 4（粒子編　化学変化,イオン） 7 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 1（生命編　生物の活動） 8 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 2（生命編　生物の体の仕組みと分類） 9 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 3（地球編　太陽と地面,雨水の行方） 10 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 4（地球編　流れる水の働き,火山・地殻） 11 学習指導案の作成について（単元構成） 12 学習指導案の作成について（単元計画・本時の学習） 13 理科における評価（目標に準拠した評価） 14 理科における評価（新しい学習評価の考え方） 15 初等理科のまとめ （明日の理科を構想するために）		
授業方法	前半は講義形式中心の授業を行う。毎時間授業記録を提出し，それを元にノートの作成を行いながら進める。後半は理科授業に関わる単元の目標や意義についての調べ学習を行いレポートを作成する。		
アクティブラーニングの視点	個別の調べ学習によるレポート作成とノート作成。		
授業外学習	毎回の講義内容を記録し，その記録用紙を基にしてノート作成を行う。継続的にノートの整理をする習慣が必要である。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「理科編」』文部科学省、東洋館出版社 『初等理科教育』山下芳樹／平田豊誠［編著］　ミネルヴァ書房		
参考書	小学校理科教科書，中学校学習指導要領解説理科編，中学校理科教科書		
評価方法	授業の参加姿勢３０％，　中間・期末テスト 20%，　レポート５０％ 評価の詳細については，第 1 回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、学習指導要領の内容を踏まえた授業の在り方を指導する。		

No.	472	科目コード	66505
科目名	初等理科	授業コード	9323030
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領の変遷をその歴史的背景と関連づけて理解する。 小学校理科の指導目標を理解するとともに，目標達成のために必要な学習のあり方を検討することができる。 小学校理科の体系を理解し，その学習意義を説明できる。 小学校理科の指導に必要な，自然科学の基礎的内容の理解を深める。		
授業概要	学習指導要領における小学校理科の目標や内容について，講義や調べ学習を通して理解を深める。 自然科学に関する基礎的な知識の習得のため，必要に応じて問題演習なども行う。 小学校理科の学習内容や単元にの意義を学習方法と関連づけたレポートを作成する。		
授業計画	1 学習指導要領の変遷と小学校理科の概要 2 理科の教え方・学び方 3 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成１（エネルギー編　電流とエネルギー） 4 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成 2（エネルギー編　力とエネルギー） 5 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成 3（粒子編　物質と原子・分子） 6 小学校理科Ａ分野（エネルギー・粒子）の内容と構成 4（粒子編　化学変化,イオン） 7 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 1（生命編　生物の活動） 8 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 2（生命編　生物の体の仕組みと分類） 9 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 3（地球編　太陽と地面,雨水の行方） 10 小学校理科Ｂ分野（生命・地球）の内容と構成 4（地球編　流れる水の働き,火山・地殻） 11 学習指導案の作成について（単元構成） 12 学習指導案の作成について（単元計画・本時の学習） 13 理科における評価（目標に準拠した評価） 14 理科における評価（新しい学習評価の考え方） 15 初等理科のまとめ （明日の理科を構想するために）		
授業方法	前半は講義形式中心の授業を行う。毎時間授業記録を提出し，それを元にノートの作成を行いながら進める。後半は理科授業に関わる単元の目標や意義についての調べ学習を行いレポートを作成する。		
アクティブラーニングの視点	個別の調べ学習によるレポート作成とノート作成。		
授業外学習	毎回の講義内容を記録し，その記録用紙を基にしてノート作成を行う。継続的にノートの整理をする習慣が必要である。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「理科編」』文部科学省、東洋館出版社 『初等理科教育』山下芳樹／平田豊誠［編著］　ミネルヴァ書房		
参考書	小学校理科教科書，中学校学習指導要領解説理科編，中学校理科教科書		
評価方法	授業の参加姿勢３０％，　中間・期末テスト 20%，　レポート５０％ 評価の詳細については，第 1 回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、学習指導要領の内容を踏まえた授業の在り方を指導する。		

No.	473	科目コード	64060
科目名	理科実験演習	授業コード	9323891
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	理科授業に必要な実験・観察に関わる基本的な知識と技能を習得するとともに、理科授業の実践力を養う。		
授業概要	・はじめの数回は実験・観察に必要な技能習得のための実験・観察を行い，レポートの書き方も学習する。 ・実験・観察はグループ単位で行うが，レポートは個人で作成する。 ・段階的に高度な課題に取り組み，レポート作成を通じて「考察する」力を高めていく。		
授業計画	１）オリエンテーション、スケッチ・野外活動について ２）植物の養分と水の通り道 ３）だ液による食べ物の変化（きん肉のはたらき） ４）温度による空気の変化 ５）水を熱したときの変化 ６）酸素中でものを燃やした時 ７）食塩とミョウバンが溶ける量 ８）水の温度とものが溶ける量 ９）金属を変化させる水溶液 １０）溶けた金属のゆくえ １１）電磁石の強さ １２）ふりこが１往復する時間 １３）手回し発電機での発電と利用 １４）もの作り １５）月の形と太陽		
授業方法	毎回テーマを設定して，そのテーマに沿った実験・観察を行う。毎回，各自で実験・観察の結果をもとにしたレポートを作成して提出する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによる演習，レポート作成。		
授業外学習	毎回行った実験・観察についてのレポートを次回までに作成する。		
教科書	小学校理科「授業力をみがく」観察・実験ガイドブック（啓林館）		
参考書	初回授業で指示する。		
評価方法	授業への参加姿勢２０％ 毎回提出するレポート８０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、安全で正確な結果が検証できる実験・観察の方法を指導する。		

No.	474	科目コード	65040
科目名	理科教育法	授業コード	9315120
教員名	中島　英康		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校理科における教育目標，育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 (1)学習指導要領における小学校理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 (2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 (3)小学校理科の学習評価の考え方を理解している。 (4)小学校理科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。		
授業概要	小学校理科の目標論，内容構成論，授業論，評価論，現代の課題に基づいた指導法を探求する。特に，理科の目標や評価に関する考え方と，代表的な教材の学習を通して，その教材の必要性やそこに込められている意義を探求する。また，実際の指導場面を想定したマイクロティーチングなどの活動を通して，授業実践力の向上を目指す。		
授業計画	第１回： 小学校理科の目標及び内容構成 第２回： 小学校理科の指導計画において留意すべき内容・自然事象についての子どもの考え方 第３回： 小学校理科授業の実践　効果的に授業を進める視点 第４回： 小学校理科授業の実践　効果的な指導技術　板書・ノート指導 第５回： 理科学習の評価と授業改善 第６回： 授業における評価の視点 第７回： 理科授業における ICT の活用 第８回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成１ 第９回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成２ 第 10 回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成３ 第 11 回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成４ 第 12 回：生命，地球領域の学習指導案の作成１ 第 13 回：生命，地球領域の学習指導案の作成２ 第 14 回：生命，地球領域の学習指導案の作成３ 第 15 回： 理科教育法まとめ 期末試験		
授業方法	前半は講義によって，理科教育の概観を説明する。必要に応じてグループ討議を取り入れて，理科教育のあり方や現在の課題を探求する。その後，物理・化学・生物・地学各分野の内容に関わる小学校の教材をとりあげ，グループごとで実際の指導場面を想定したマイクロティーチングを行う。最後に，それまでの授業の内容を元にして学習指導案の作成を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによるマイクロティーチングとその振り返り		
授業外学習	毎回の講義内容を別のノートに整理しておく。マイクロティーチングの授業案を作成する。 最後に学習指導案を作成する。		
教科書	小学校理科教育法（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説理科編＜平成 29 年告示＞，小学校理科教科書		
評価方法	授業への参加度（毎時間提出する授業記録の評価）30% レポート・マイクロティーチング授業案 20%，　期末試験 20%，指導案作成 30% 評価の詳細については，第１回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び全国理科研究会の活動経験のある者が、その経験を活かして、理科授業の進め方を指導する。		

No.	475	科目コード	65040
科目名	理科教育法	授業コード	9315126
教員名	中島　英康		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校理科における教育目標，育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 (1)学習指導要領における小学校理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 (2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 (3)小学校理科の学習評価の考え方を理解している。 (4)小学校理科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。		
授業概要	小学校理科の目標論，内容構成論，授業論，評価論，現代の課題に基づいた指導法を探求する。特に，理科の目標や評価に関する考え方と，代表的な教材の学習を通して，その教材の必要性やそこに込められている意義を探求する。また，実際の指導場面を想定したマイクロティーチングなどの活動を通して，授業実践力の向上を目指す。		
授業計画	第１回： 小学校理科の目標及び内容構成 第２回： 小学校理科の指導計画において留意すべき内容・自然事象についての子どもの考え方 第３回： 小学校理科授業の実践　効果的に授業を進める視点 第４回： 小学校理科授業の実践　効果的な指導技術　板書・ノート指導 第５回： 理科学習の評価と授業改善 第６回： 授業における評価の視点 第７回： 理科授業における ICT の活用 第８回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成１ 第９回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成２ 第 10 回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成３ 第 11 回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成４ 第 12 回：生命，地球領域の学習指導案の作成１ 第 13 回：生命，地球領域の学習指導案の作成２ 第 14 回：生命，地球領域の学習指導案の作成３ 第 15 回： 理科教育法まとめ 期末試験		
授業方法	前半は講義によって，理科教育の概観を説明する。必要に応じてグループ討議を取り入れて，理科教育のあり方や現在の課題を探求する。その後，物理・化学・生物・地学各分野の内容に関わる小学校の教材をとりあげ，グループごとで実際の指導場面を想定したマイクロティーチングを行う。最後に，それまでの授業の内容を元にして学習指導案の作成を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによるマイクロティーチングとその振り返り		
授業外学習	毎回の講義内容を別のノートに整理しておく。マイクロティーチングの授業案を作成する。 最後に学習指導案を作成する。		
教科書	小学校理科教育法（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説理科編＜平成 29 年告示＞，小学校理科教科書		
評価方法	授業への参加度（毎時間提出する授業記録の評価）30% レポート・マイクロティーチング授業案 20%，　期末試験 20%，指導案作成 30% 評価の詳細については，第１回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び全国理科研究会の活動経験のある者が、その経験を活かして、理科授業の進め方を指導する。		

No.	476	科目コード	65040
科目名	理科教育法	授業コード	9315130
教員名	松田　雅代		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校理科における教育目標，育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 (1)学習指導要領における小学校理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 (2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 (3)小学校理科の学習評価の考え方を理解している。 (4)小学校理科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。		
授業概要	小学校理科の目標論，内容構成論，授業論，評価論，現代の課題に基づいた指導法を探求する。特に，理科の目標や評価に関する考え方と，代表的な教材の学習を通して，その教材の必要性やそこに込められている意義を探求する。また，実際の指導場面を想定したマイクロティーチングなどの活動を通して，授業実践力の向上を目指す。		
授業計画	第１回： 小学校理科の目標及び内容構成 第２回： 小学校理科の指導計画において留意すべき内容・自然事象についての子どもの考え方 第３回： 小学校理科授業の実践　効果的に授業を進める視点 第４回： 小学校理科授業の実践　効果的な指導技術　板書・ノート指導 第５回： 理科学習の評価と授業改善 第６回： 授業における評価の視点 第７回： 理科授業における ICT の活用 第８回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成１ 第９回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成２ 第 10 回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成３ 第 11 回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成４ 第 12 回：生命，地球領域の学習指導案の作成１ 第 13 回：生命，地球領域の学習指導案の作成２ 第 14 回：生命，地球領域の学習指導案の作成３ 第 15 回：理科教育法まとめ 期末試験		
授業方法	前半は講義によって，理科教育の概観を説明する。必要に応じてグループ討議を取り入れて，理科教育のあり方や現在の課題を探求する。その後，粒子・エネルギー・生命・地球の内容に関わる小学校の教材をとりあげ，グループごとで実際の指導場面を想定したマイクロティーチングを行う。最後に，それまでの授業の内容を元にして学習指導案の作成を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによるマイクロティーチングとその振り返り		
授業外学習	毎回の講義内容を別のノートに整理しておく。マイクロティーチングの授業案を作成する。 最後に学習指導案を作成する。		
教科書	小学校理科教育法（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説理科編＜平成 29 年告示＞，小学校理科教科書		
評価方法	授業への参加度（毎時間提出する授業記録の評価）30% レポート・マイクロティーチング授業案 20%，　期末試験 20%，指導案作成 30% 評価の詳細については，第１回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び全国理科研究会の活動経験のある者が、その経験を活かして、理科授業の進め方を指導する。		

No.	477	科目コード	65040
科目名	理科教育法	授業コード	9315139
教員名	松田　雅代		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校理科における教育目標，育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 (1)学習指導要領における小学校理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 (2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 (3)小学校理科の学習評価の考え方を理解している。 (4)小学校理科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。		
授業概要	小学校理科の目標論，内容構成論，授業論，評価論，現代の課題に基づいた指導法を探求する。特に，理科の目標や評価に関する考え方と，代表的な教材の学習を通して，その教材の必要性やそこに込められている意義を探求する。また，実際の指導場面を想定したマイクロティーチングなどの活動を通して，授業実践力の向上を目指す。		
授業計画	第１回： 小学校理科の目標及び内容構成 第２回： 小学校理科の指導計画において留意すべき内容・自然事象についての子どもの考え方 第３回： 小学校理科授業の実践　効果的に授業を進める視点 第４回： 小学校理科授業の実践　効果的な指導技術　板書・ノート指導 第５回： 理科学習の評価と授業改善 第６回： 授業における評価の視点 第７回： 理科授業における ICT の活用 第８回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成１ 第９回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成２ 第 10 回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成３ 第 11 回： 粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成４ 第 12 回：生命，地球領域の学習指導案の作成１ 第 13 回：生命，地球領域の学習指導案の作成２ 第 14 回：生命，地球領域の学習指導案の作成３ 第 15 回： 理科教育法のまとめ 期末試験		
授業方法	前半は講義によって，理科教育の概観を説明する。必要に応じてグループ討議を取り入れて，理科教育のあり方や現在の課題を探求する。その後，粒子・エネルギー・生命・地球の内容に関わる小学校の教材をとりあげ，グループごとで実際の指導場面を想定したマイクロティーチングを行う。最後に，それまでの授業の内容を元にして学習指導案の作成を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによるマイクロティーチングとその振り返り		
授業外学習	毎回の講義内容を別のノートに整理しておく。マイクロティーチングの授業案を作成する。 最後に学習指導案を作成する。		
教科書	小学校理科教育法（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説理科編＜最新版＞，小学校理科教科書		
評価方法	授業への参加度（毎時間提出する授業記録の評価）30% レポート・マイクロティーチング授業案 20%，　期末試験 20%，指導案作成 30% 評価の詳細については，第１回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び全国理科研究会の活動経験のある者が、その経験を活かして、理科授業の進め方を指導する。		

No.	478	科目コード	66506
科目名	初等生活	授業コード	9315184
教員名	馬野　範雄		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校の生活科を指導するための基礎的内容を体験を通して習得する。		
授業概要	本講義では、教科改訂の趣旨と基本的な考え方を理解し、教科目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」ことを理解させることを目的とする。 また、生活科の内容と基礎知識を獲得し、小学校低学年における学習指導の在り方を学ぶ。特に、「成長のアルバム」「学校探検」「おもちゃランド」などを事例として、制作活動や探検活動を体験し、その目標及び内容、子どもの思いや教師の役割等を考察する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（心に残った生活科学習と学修計画） 第２回：生活科誕生の背景と基本的な考え方 第３回：生活科の目標と内容（カリキュラム） 第４回：２年「成長のアルバム」の作成 第５回：２年「成長のアルバム」における単元の目標と教師の役割 第６回：１年「学校探検」（学内探検） 第７回：１年「学校探検」（ポスターづくり） 第８回：１年「学校探検」（ポスターセッション、単元の目標と教師の役割） 第９回：２年「おもちゃランド」（おもちゃづくり） 第 10 回 ：２年「おもちゃランド（交流会、単元の目標と教師の役割） 第 11 回 :「人・社会と関わり」における目標・内容と教師の役割 第 12 回 :「自分自身のあり方」における目標・内容と教師の役割 第 13 回 :「自然との関わり」における目標・内容と教師の役割 第 14 回 ： 生活科学習の評価 第 15 回 ： 生活科学習のポイント		
授業方法	講義形式とし，少人数による協議や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	自ら調べる（個）→まとめて発表する（グループ）→自分のまとめと比較する（全体）→自分で学修を総括する（個）という学修過程を重視している。		
授業外学習	(1)次時の学修に関連する内容について、学習指導要領解説や教科書に目を通し、重要事項にはマーカーを引くなど、概要を捉えておくこと。 (2)講義内容に即して出された課題は、ワークシートに書き込んだりレポートにまとめたり，作品を作成したりして提出する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「生活編」　東洋館出版社　文部科学省 小学校教科書「わたしと生活上・下」日本文教出版		
参考書	木原俊行・馬野範雄編著「生活科・総合的な学習の時間の理論と実践（新時代の学びを創る)」あいり出版		
評価方法	(1)毎授業での小レポート(振り返り）(80%) (2)作品や課題レポートの提出など（20%） ※提出物とともに、グループワークや全体交流への積極的な参加・参画など、主体的・協働的な取り組みも考慮する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立・国立小学校教諭としての経験を活かして、子どもの実態や思い、指導の工夫等について具体的に取り上げる。		

No.	479	科目コード	66506
科目名	初等生活	授業コード	9315185
教員名	馬野　範雄		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校の生活科を指導するための基礎的内容を体験を通して習得する。		
授業概要	本講義では、教科改訂の趣旨と基本的な考え方を理解し、教科目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」ことを理解させることを目的とする。 また、生活科の内容と基礎知識を獲得し、小学校低学年における学習指導の在り方を学ぶ。特に、「成長のアルバム」「学校探検」「おもちゃランド」などを事例として、制作活動や探検活動を体験し、その目標及び内容、子どもの思いや教師の役割等を考察する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（心に残った生活科学習と学修計画） 第２回：生活科誕生の背景と基本的な考え方 第３回：生活科の目標と内容（カリキュラム） 第４回：２年「成長のアルバム」の作成 第５回：２年「成長のアルバム」における単元の目標と教師の役割 第６回：１年「学校探検」（学内探検） 第７回：１年「学校探検」（ポスターづくり） 第８回：１年「学校探検」（ポスターセッション、単元の目標と教師の役割） 第９回：２年「おもちゃランド」（おもちゃづくり） 第 10 回 ：２年「おもちゃランド（交流会、単元の目標と教師の役割） 第 11 回 :「人・社会と関わり」における目標・内容と教師の役割 第 12 回 :「自分自身のあり方」における目標・内容と教師の役割 第 13 回 :「自然との関わり」における目標・内容と教師の役割 第 14 回 ： 生活科学習の評価 第 15 回 ： 生活科学習のポイント		
授業方法	講義形式とし，少人数による協議や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	自ら調べる（個）→まとめて発表する（グループ）→自分のまとめと比較する（全体）→自分で学修を総括する（個）という学修過程を重視している。		
授業外学習	(1)次時の学修に関連する内容について、学習指導要領解説や教科書に目を通し、重要事項にはマーカーを引くなど、概要を捉えておくこと。 (2)講義内容に即して出された課題は、ワークシートに書き込んだりレポートにまとめたり，作品を作成したりして提出する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「生活編」　東洋館出版社　文部科学省 小学校教科書「わたしと生活」日本文教出版		
参考書	木原俊行・馬野範雄編著「生活科・総合的な学習の時間の理論と実践（新時代の学びを創る)」あいり出版		
評価方法	(1)毎授業での小レポート(振り返り）(80%) (2)作品や課題レポートの提出など（20%） ※提出物とともに、グループワークや全体交流への積極的な参加・参画など、主体的・協働的な取り組みも考慮する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立・国立小学校教諭としての経験を活かして、子どもの実態や思い、指導の工夫等について具体的に取り上げる。		

No.	480	科目コード	65050
科目名	生活科教育法	授業コード	9323239
教員名	中井　精一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	子どもは本来、生活体験の中で様々なことがらについて興味関心を持ち、そのものの本質や疑問に探究心を持って取り組もうとする姿がある。このような子どもの本来持っている主体的な態度を、学校で活かしていくべきと考えられた生活科をどのように展開していくことが望ましいか、実際の授業や事例を通して学ぶことを目的とする。 さらに、具体的な活動や体験を通して見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接働きかける活動ができるような指導案の作成、指導を実践する。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における生活科の目標 第 2 回：生活科の主な内容、全体構造 第 3 回：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 4 回：生活科と背景となる学問領域との関係および教材研究 第 5 回：学習指導案の構成 第 6 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「自然や身近なものを使った遊び」 第 7 回：第 6 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 8 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「季節の変化と生活」 第 9 回：第 8 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 10 回：模擬授業の実施とその振り返り「自然の中での遊び」 第 11 回：模擬授業の実施とその振り返り「身近なものを使った遊び」 第 12 回：模擬授業の実施とその振り返り「季節の変化と生活」 第 13 回：生活科の学習評価の考え方 第 14 回：生活科の特性に応じた教材の効果的な活用法及び情報機器の活用 第 15 回：まとめ		
授業方法	講義並びに演習，グループワーク		
アクティブラーニングの視点	ICT を活用したグループワークと学習指導案作成		
授業外学習	生活科についての質問事項，「気付きの質が高まる生活科の授業の進め方」等を課題とする。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「生活編」』東洋館出版社、文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」』東洋館出版社、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校生活』　令和 2 年 3 月　文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター		
参考書	『小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン』　亀岡正睦　編著　明治図書		
評価方法	授業後のレポート　30%　　平常点　30%　　課題レポート　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして「生活科教育法」について講義する。		

No.	481	科目コード	65050
科目名	生活科教育法	授業コード	9323241
教員名	中井　精一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	子どもは本来、生活体験の中で様々なことがらについて興味関心を持ち、そのものの本質や疑問に探究心を持って取り組もうとする姿がある。このような子どもの本来持っている主体的な態度を、学校で活かしていくべきと考えられた生活科をどのように展開していくことが望ましいか、実際の授業や事例を通して学ぶことを目的とする。 さらに、具体的な活動や体験を通して見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接働きかける活動ができるような指導案の作成、指導を実践する。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における生活科の目標 第 2 回：生活科の主な内容、全体構造 第 3 回：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 4 回：生活科と背景となる学問領域との関係および教材研究 第 5 回：学習指導案の構成 第 6 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「自然や身近なものを使った遊び」 第 7 回：第 6 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 8 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「季節の変化と生活」 第 9 回：第 8 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 10 回：模擬授業の実施とその振り返り「自然の中での遊び」 第 11 回：模擬授業の実施とその振り返り「身近なものを使った遊び」 第 12 回：模擬授業の実施とその振り返り「季節の変化と生活」 第 13 回：生活科の学習評価の考え方 第 14 回：生活科の特性に応じた教材の効果的な活用法及び情報機器の活用 第 15 回：まとめ		
授業方法	講義並びに演習，グループワーク		
アクティブラーニングの視点	ICT を活用したグループワークと学習指導案作成		
授業外学習	生活科についての質問事項，「気付きの質が高まる生活科の授業の進め方」等を課題とする。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「生活編」』東洋館出版社、文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」』東洋館出版社、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校生活』　令和 2 年 3 月　文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター		
参考書	『小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン』　亀岡正睦　編著　明治図書		
評価方法	授業後のレポート　30%　　平常点　30%　　課題レポート　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして「生活科教育法」について講義する。		

No.	482	科目コード	65050
科目名	生活科教育法	授業コード	9323257
教員名	中井　精一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	子どもは本来、生活体験の中で様々なことがらについて興味関心を持ち、そのものの本質や疑問に探究心を持って取り組もうとする姿がある。このような子どもの本来持っている主体的な態度を、学校で活かしていくべきと考えられた生活科をどのように展開していくことが望ましいか、実際の授業や事例を通して学ぶことを目的とする。 さらに、具体的な活動や体験を通して見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接働きかける活動ができるような指導案の作成、指導を実践する。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における生活科の目標 第 2 回：生活科の主な内容、全体構造 第 3 回：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 4 回：生活科と背景となる学問領域との関係および教材研究 第 5 回：学習指導案の構成 第 6 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「自然や身近なものを使った遊び」 第 7 回：第 6 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 8 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「季節の変化と生活」 第 9 回：第 8 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 10 回：模擬授業の実施とその振り返り「自然の中での遊び」 第 11 回：模擬授業の実施とその振り返り「身近なものを使った遊び」 第 12 回：模擬授業の実施とその振り返り「季節の変化と生活」 第 13 回：生活科の学習評価の考え方 第 14 回：生活科の特性に応じた教材の効果的な活用法及び情報機器の活用 第 15 回：まとめ		
授業方法	講義並びに演習，グループワーク		
アクティブラーニングの視点	ICT を活用したグループワークと学習指導案作成		
授業外学習	生活科についての質問事項，「気付きの質が高まる生活科の授業の進め方」等を課題とする。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「生活編」』東洋館出版社、文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」』東洋館出版社、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校生活』　令和 2 年 3 月　文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター		
参考書	『小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン』　亀岡正睦　編著　明治図書		
評価方法	授業後のレポート　30%　　平常点　30%　　課題レポート　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして「生活科教育法」について講義する。		

No.	483	科目コード	65050
科目名	生活科教育法	授業コード	9323280
教員名	中井　精一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	子どもは本来、生活体験の中で様々なことがらについて興味関心を持ち、そのものの本質や疑問に探究心を持って取り組もうとする姿がある。このような子どもの本来持っている主体的な態度を、学校で活かしていくべきと考えられた生活科をどのように展開していくことが望ましいか、実際の授業や事例を通して学ぶことを目的とする。 さらに、具体的な活動や体験を通して見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接働きかける活動ができるような指導案の作成、指導を実践する。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における生活科の目標 第 2 回：生活科の主な内容、全体構造 第 3 回：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 4 回：生活科と背景となる学問領域との関係および教材研究 第 5 回：学習指導案の構成 第 6 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「自然や身近なものを使った遊び」 第 7 回：第 6 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 8 回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「季節の変化と生活」 第 9 回：第 8 回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討 第 10 回：模擬授業の実施とその振り返り「自然の中での遊び」 第 11 回：模擬授業の実施とその振り返り「身近なものを使った遊び」 第 12 回：模擬授業の実施とその振り返り「季節の変化と生活」 第 13 回：生活科の学習評価の考え方 第 14 回：生活科の特性に応じた教材の効果的な活用法及び情報機器の活用 第 15 回：まとめ		
授業方法	講義並びに演習，グループワーク		
アクティブラーニングの視点	ICT を活用したグループワークと学習指導案作成		
授業外学習	生活科についての質問事項，「気付きの質が高まる生活科の授業の進め方」等を課題とする。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「生活編」』東洋館出版社、文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」』東洋館出版社、文部科学省 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校生活』　令和 2 年 3 月　文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター		
参考書	『小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン』　亀岡正睦　編著　明治図書		
評価方法	授業後のレポート　30%　　平常点　30%　　課題レポート　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして「生活科教育法」について講義する。		

No.	484	科目コード	66507
科目名	初等音楽	授業コード	9323298
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・小学校・幼稚園・保育所の実践指導において必要となる音楽の基礎知識や技能を身につけることができる。 ・小学校で扱われる音楽教材の内容について分析し、総合的に理解することができる。 ・簡単な楽器演奏の実習を通して音楽指導への理解を深めることができる。		
授業概要	小学校学習指導要領の内容で取り扱われている表現・鑑賞の指導内容に即し、小学校教科書教材の基礎的な音楽の知識や技能、指導方法を、講義及び演習によって獲得する。基本的な楽典や音楽の構成を理解し、授業実践に必要な実技を身につけ、教員採用試験における音楽実技試験に対応する。		
授業計画	第 01 回　小学校音楽科学習の概要及びオリエンテーション 第 02 回　音楽科学習指導要領の概要と理解 第 03 回　歌唱教材研究（共通教材） 第 04 回　歌唱教材研究（合唱教材） 第 05 回　歌唱教材研究（構成、形式） 第 06 回　器楽教材研究（鍵盤） 第 07 回　器楽教材研究（リコーダー） 第 08 回　器楽教材研究（打楽器） 第 09 回　音づくり教材研究（旋律） 第 10 回　音づくり教材研究（リズム） 第 11 回　音づくり教材研究（身の回りの音） 第 12 回　鑑賞教材研究（西洋音楽） 第 13 回　鑑賞教材研究（民族音楽） 第 14 回　鑑賞教材研究（楽曲分析） 第 15 回　実技試験、最終レポートの準備		
授業方法	毎回授業の最初に指導内容について解説し、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽づくりをするなどの実技を実演を含む授業を行う。また、音楽の授業に必要な基本的な楽典、鑑賞授業の講義も行う。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、楽典に関する小テストも授業内で行う。演奏の発表会、授業内での実技試験も行う。		
アクティブラーニングの視点	音楽の授業に必要な基礎的な知識を身に付け、それらを実際に教材研究の課題や指導の実践に活用させる。また、アンサンブルなどの実技を行うことで、より主体的に個人やグループによる音楽活動に関わり、各々の基礎能力を高め、発表を行うことで自己の振り返りや指導の視点を深める機会を持つ。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究、実技演習、プリントなどの課題を出す。		
教科書	適宜授業内で指示する。		
参考書	初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2020		
評価方法	平常点：50 点、小テスト 30 点、実技テスト：10 点、最終課題：10 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	485	科目コード	66507
科目名	初等音楽	授業コード	9323341
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・小学校・幼稚園・保育所の実践指導において必要となる音楽の基礎知識や技能を身につけることができる。 ・小学校で扱われる音楽教材の内容について分析し、総合的に理解することができる。 ・簡単な楽器演奏の実習を通して音楽指導への理解を深めることができる。		
授業概要	小学校学習指導要領の内容で取り扱われている表現・鑑賞の指導内容に即し、小学校教科書教材の基礎的な音楽の知識や技能、指導方法を、講義及び演習によって獲得する。基本的な楽典や音楽の構成を理解し、授業実践に必要な実技を身につけ、教員採用試験における音楽実技試験に対応する。		
授業計画	第 01 回　小学校音楽科学習の概要及びオリエンテーション 第 02 回　音楽科学習指導要領の概要と理解 第 03 回　歌唱教材研究（共通教材） 第 04 回　歌唱教材研究（合唱教材） 第 05 回　歌唱教材研究（構成、形式） 第 06 回　器楽教材研究（鍵盤） 第 07 回　器楽教材研究（リコーダー） 第 08 回　器楽教材研究（打楽器） 第 09 回　音づくり教材研究（旋律） 第 10 回　音づくり教材研究（リズム） 第 11 回　音づくり教材研究（身の回りの音） 第 12 回　鑑賞教材研究（西洋音楽） 第 13 回　鑑賞教材研究（民族音楽） 第 14 回　鑑賞教材研究（楽曲分析） 第 15 回　実技試験、最終レポートの準備		
授業方法	毎回授業の最初に指導内容について解説し、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽づくりをするなどの実技を実演を含む授業を行う。また、音楽の授業に必要な基本的な楽典、鑑賞授業の講義も行う。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、楽典に関する小テストも授業内で行う。演奏の発表会、授業内での実技試験も行う。		
アクティブラーニングの視点	音楽の授業に必要な基礎的な知識を身に付け、それらを実際に教材研究の課題や指導の実践に活用させる。また、アンサンブルなどの実技を行うことで、より主体的に個人やグループによる音楽活動に関わり、各々の基礎能力を高め、発表を行うことで自己の振り返りや指導の視点を深める機会を持つ。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究、実技演習、プリントなどの課題を出す。		
教科書	適宜授業内で指示する。		
参考書	初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2020		
評価方法	平常点：50 点、小テスト 30 点、実技テスト：10 点、最終課題：10 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	486	科目コード	66512
科目名	ピアノ 1	授業コード	9315452
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽の基礎的な理論を学ぶことによって、読譜力を向上させることができる。 ・ピアノ演奏や歌唱に関する基礎力を身につけることができ、教育・保育現場で必要な基礎的な音楽的能力を獲得することができる。		
授業概要	各クラスを 2 グループに分割し、45 分で各グループに対し、ピアノ・声楽の授業を交互に指導する。 保育所、幼稚園、小学校での音楽活動の場で必要とされる伴奏、弾き歌いの歌唱の基礎的な力を身につけるために、ピアノでは、鍵盤楽器初心者から経験者まで、個人のピアノ経験に合わせたピアノ教材を選択し、ピアノ演奏に必要不可欠なピアノ・キーボード奏法の基礎技術習得と音楽的な知識の獲得をめざす。 また、声楽では、必要に応じて個人レッスン、グループレッスンを行い、声づくり、共鳴と発声、呼吸法、歌唱表現の基礎力獲得に挑戦する。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…手のフォームと姿勢　　声楽…声づくり（1） 第 02 回　ピアノ…鍵盤と楽譜　　声楽…声づくり（2） 第 03 回　ピアノ…音符と休符　　声楽…声づくり（3） 第 04 回　ピアノ…音名　　声楽…呼吸法（1） 第 05 回　ピアノ…拍子　　声楽…呼吸法（2） 第 06 回　ピアノ…リズム　　声楽…呼吸法（3） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…調と音階（長調）　　声楽…共鳴と発声（1） 第 09 回　ピアノ…調と音階（短調）　　声楽…共鳴と発声（2） 第 10 回　ピアノ…調と調子記号　　声楽…共鳴と発声（3） 第 11 回　ピアノ…色々な奏法と記号　　声楽…歌唱表現（1） 第 12 回　ピアノ…強弱、速度に関する記号　　声楽…歌唱表現（2） 第 13 回　ピアノ…曲想、反復に関する記号　　声楽…歌唱表現（3） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ　　声楽…基礎的な歌唱の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	487	科目コード	66512
科目名	ピアノ 1	授業コード	9315473
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽の基礎的な理論を学ぶことによって、読譜力を向上させることができる。 ・ピアノ演奏や歌唱に関する基礎力を身につけることができ、教育・保育現場で必要な基礎的な音楽的能力を獲得することができる。		
授業概要	各クラスを 2 グループに分割し、45 分で各グループに対し、ピアノ・声楽の授業を交互に指導する。 保育所、幼稚園、小学校での音楽活動の場で必要とされる伴奏、弾き歌いの歌唱の基礎的な力を身につけるために、ピアノでは、鍵盤楽器初心者から経験者まで、個人のピアノ経験に合わせたピアノ教材を選択し、ピアノ演奏に必要不可欠なピアノ・キーボード奏法の基礎技術習得と音楽的な知識の獲得をめざす。 また、声楽では、必要に応じて個人レッスン、グループレッスンを行い、声づくり、共鳴と発声、呼吸法、歌唱表現の基礎力獲得に挑戦する。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…手のフォームと姿勢　　声楽…声づくり（1） 第 02 回　ピアノ…鍵盤と楽譜　　声楽…声づくり（2） 第 03 回　ピアノ…音符と休符　　声楽…声づくり（3） 第 04 回　ピアノ…音名　　声楽…呼吸法（1） 第 05 回　ピアノ…拍子　　声楽…呼吸法（2） 第 06 回　ピアノ…リズム　　声楽…呼吸法（3） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…調と音階（長調）　　声楽…共鳴と発声（1） 第 09 回　ピアノ…調と音階（短調）　　声楽…共鳴と発声（2） 第 10 回　ピアノ…調と調子記号　　声楽…共鳴と発声（3） 第 11 回　ピアノ…色々な奏法と記号　　声楽…歌唱表現（1） 第 12 回　ピアノ…強弱、速度に関する記号　　声楽…歌唱表現（2） 第 13 回　ピアノ…曲想、反復に関する記号　　声楽…歌唱表現（3） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ　　声楽…基礎的な歌唱の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	488	科目コード	66512
科目名	ピアノ 1	授業コード	9315494
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽の基礎的な理論を学ぶことによって、読譜力を向上させることができる。 ・ピアノ演奏や歌唱に関する基礎力を身につけることができ、教育・保育現場で必要な基礎的な音楽的能力を獲得することができる。		
授業概要	各クラスを 2 グループに分割し、45 分で各グループに対し、ピアノ・声楽の授業を交互に指導する。 保育所、幼稚園、小学校での音楽活動の場で必要とされる伴奏、弾き歌いの歌唱の基礎的な力を身につけるために、ピアノでは、鍵盤楽器初心者から経験者まで、個人のピアノ経験に合わせたピアノ教材を選択し、ピアノ演奏に必要不可欠なピアノ・キーボード奏法の基礎技術習得と音楽的な知識の獲得をめざす。 また、声楽では、必要に応じて個人レッスン、グループレッスンを行い、声づくり、共鳴と発声、呼吸法、歌唱表現の基礎力獲得に挑戦する。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…手のフォームと姿勢　　声楽…声づくり（1） 第 02 回　ピアノ…鍵盤と楽譜　　声楽…声づくり（2） 第 03 回　ピアノ…音符と休符　　声楽…声づくり（3） 第 04 回　ピアノ…音名　　声楽…呼吸法（1） 第 05 回　ピアノ…拍子　　声楽…呼吸法（2） 第 06 回　ピアノ…リズム　　声楽…呼吸法（3） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…調と音階（長調）　　声楽…共鳴と発声（1） 第 09 回　ピアノ…調と音階（短調）　　声楽…共鳴と発声（2） 第 10 回　ピアノ…調と調子記号　　声楽…共鳴と発声（3） 第 11 回　ピアノ…色々な奏法と記号　　声楽…歌唱表現（1） 第 12 回　ピアノ…強弱、速度に関する記号　　声楽…歌唱表現（2） 第 13 回　ピアノ…曲想、反復に関する記号　　声楽…歌唱表現（3） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ　　声楽…基礎的な歌唱の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	489	科目コード	66512
科目名	ピアノ１	授業コード	9315515
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽の基礎的な理論を学ぶことによって、読譜力を向上させることができる。 ・ピアノ演奏や歌唱に関する基礎力を身につけることができ、教育・保育現場で必要な基礎的な音楽的能力を獲得することができる。		
授業概要	各クラスを 2 グループに分割し、45 分で各グループに対し、ピアノ・声楽の授業を交互に指導する。 保育所、幼稚園、小学校での音楽活動の場で必要とされる伴奏、弾き歌いの歌唱の基礎的な力を身につけるために、ピアノでは、鍵盤楽器初心者から経験者まで、個人のピアノ経験に合わせたピアノ教材を選択し、ピアノ演奏に必要不可欠なピアノ・キーボード奏法の基礎技術習得と音楽的な知識の獲得をめざす。 また、声楽では、必要に応じて個人レッスン、グループレッスンを行い、声づくり、共鳴と発声、呼吸法、歌唱表現の基礎力獲得に挑戦する。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…手のフォームと姿勢　　声楽…声づくり（１） 第 02 回　ピアノ…鍵盤と楽譜　　声楽…声づくり（２） 第 03 回　ピアノ…音符と休符　　声楽…声づくり（３） 第 04 回　ピアノ…音名　　声楽…呼吸法（１） 第 05 回　ピアノ…拍子　　声楽…呼吸法（２） 第 06 回　ピアノ…リズム　　声楽…呼吸法（３） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…調と音階（長調）　　声楽…共鳴と発声（１） 第 09 回　ピアノ…調と音階（短調）　　声楽…共鳴と発声（２） 第 10 回　ピアノ…調と調子記号　　声楽…共鳴と発声（３） 第 11 回　ピアノ…色々な奏法と記号　　声楽…歌唱表現（１） 第 12 回　ピアノ…強弱、速度に関する記号　　声楽…歌唱表現（２） 第 13 回　ピアノ…曲想、反復に関する記号　　声楽…歌唱表現（３） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ　　声楽…基礎的な歌唱の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	490	科目コード	66522
科目名	ピアノ２	授業コード	9324670
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・ピアノ１に続き、音楽の基礎的な理論を学び、ピアノ演奏技術や歌唱力をさらに向上させ、教育現場での実践に生きる音楽的能力の向上を図ることができる。 ・アンサンブルや歌の伴奏や弾き歌いを通して音楽の楽しさを体験し、より豊かな音楽表現力を身につけることができる。		
授業概要	ピアノ１に引き続き、教育者・保育者としての基本的な音楽的能力を向上させるだけなく、小学校、幼稚園、保育所の現場において必要とされる、多様な音楽活動に対応できるピアノ演奏技能・歌唱力を養う。さらに、様々な教育・保育場面に対応できる教材をとりあげ、より豊かな音楽表現力を身につける。 ピアノでは、ピアノ演奏に必要不可欠な保育所、幼稚園、小学校の実践の場で使用される頻度の高い歌唱教材や子どもの歌の伴奏力を身につける。また、声楽では、歌唱力のさらなる伸展をはかり、二部・三部合唱を行う能力や、弾き歌いにおける歌唱力を身につける。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…音程（１）　声楽…歌詞と歌唱表現（１） 第 02 回　ピアノ…音程（２）　声楽…歌詞と歌唱表現（２） 第 03 回　ピアノ…三和音（１）　声楽…フレーズを生かす歌唱表現 第 04 回　ピアノ…三和音（２）　声楽…リズムや拍子感を生かす歌唱表現 第 05 回　ピアノ…コードネーム（１）　声楽…斉唱から合唱へ（１） 第 06 回　ピアノ…コードネーム（２）　声楽…斉唱から合唱へ（２） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…伴奏づけ（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（１） 第 09 回　ピアノ…伴奏づけ（２）　声楽…曲の構成と歌唱表現（２） 第 10 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（３） 第 11 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（２）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（１） 第 12 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（３）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（２） 第 13 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（４）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（３） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノによる音楽表現の仕上げ　声楽による音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	491	科目コード	66522
科目名	ピアノ２	授業コード	9324691
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・ピアノ１に続き、音楽の基礎的な理論を学び、ピアノ演奏技術や歌唱力をさらに向上させ、教育現場での実践に生きる音楽的能力の向上を図ることができる。 ・アンサンブルや歌の伴奏や弾き歌いを通して音楽の楽しさを体験し、より豊かな音楽表現力を身につけることができる。		
授業概要	ピアノ１に引き続き、教育者・保育者としての基本的な音楽的能力を向上させるだけなく、小学校、幼稚園、保育所の現場において必要とされる、多様な音楽活動に対応できるピアノ演奏技能・歌唱力を養う。さらに、様々な教育・保育場面に対応できる教材をとりあげ、より豊かな音楽表現力を身につける。 ピアノでは、ピアノ演奏に必要不可欠な保育所、幼稚園、小学校の実践の場で使用される頻度の高い歌唱教材や子どもの歌の伴奏力を身につける。また、声楽では、歌唱力のさらなる伸展をはかり、二部・三部合唱を行う能力や、弾き歌いにおける歌唱力を身につける。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…音程（１）　声楽…歌詞と歌唱表現（１） 第 02 回　ピアノ…音程（２）　声楽…歌詞と歌唱表現（２） 第 03 回　ピアノ…三和音（１）　声楽…フレーズを生かす歌唱表現 第 04 回　ピアノ…三和音（２）　声楽…リズムや拍子感を生かす歌唱表現 第 05 回　ピアノ…コードネーム（１）　声楽…斉唱から合唱へ（１） 第 06 回　ピアノ…コードネーム（２）　声楽…斉唱から合唱へ（２） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…伴奏づけ（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（１） 第 09 回　ピアノ…伴奏づけ（２）　声楽…曲の構成と歌唱表現（２） 第 10 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（３） 第 11 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（２）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（１） 第 12 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（３）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（２） 第 13 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（４）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（３） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノによる音楽表現の仕上げ　声楽による音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	492	科目コード	66522
科目名	ピアノ２	授業コード	9324712
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・ピアノ１に続き、音楽の基礎的な理論を学び、ピアノ演奏技術や歌唱力をさらに向上させ、教育現場での実践に生きる音楽的能力の向上を図ることができる。 ・アンサンブルや歌の伴奏や弾き歌いを通して音楽の楽しさを体験し、より豊かな音楽表現力を身につけることができる。		
授業概要	ピアノ１に引き続き、教育者・保育者としての基本的な音楽的能力を向上させるだけなく、小学校、幼稚園、保育所の現場において必要とされる、多様な音楽活動に対応できるピアノ演奏技能・歌唱力を養う。さらに、様々な教育・保育場面に対応できる教材をとりあげ、より豊かな音楽表現力を身につける。 ピアノでは、ピアノ演奏に必要不可欠な保育所、幼稚園、小学校の実践の場で使用される頻度の高い歌唱教材や子どもの歌の伴奏力を身につける。また、声楽では、歌唱力のさらなる伸展をはかり、二部・三部合唱を行う能力や、弾き歌いにおける歌唱力を身につける。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…音程（１）　声楽…歌詞と歌唱表現（１） 第 02 回　ピアノ…音程（２）　声楽…歌詞と歌唱表現（２） 第 03 回　ピアノ…三和音（１）　声楽…フレーズを生かす歌唱表現 第 04 回　ピアノ…三和音（２）　声楽…リズムや拍子感を生かす歌唱表現 第 05 回　ピアノ…コードネーム（１）　声楽…斉唱から合唱へ（１） 第 06 回　ピアノ…コードネーム（２）　声楽…斉唱から合唱へ（２） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…伴奏づけ（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（１） 第 09 回　ピアノ…伴奏づけ（２）　声楽…曲の構成と歌唱表現（２） 第 10 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（３） 第 11 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（２）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（１） 第 12 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（３）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（２） 第 13 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（４）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（３） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノによる音楽表現の仕上げ　声楽による音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	493	科目コード	66522
科目名	ピアノ２	授業コード	9324733
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・ピアノ１に続き、音楽の基礎的な理論を学び、ピアノ演奏技術や歌唱力をさらに向上させ、教育現場での実践に生きる音楽的能力の向上を図ることができる。 ・アンサンブルや歌の伴奏や弾き歌いを通して音楽の楽しさを体験し、より豊かな音楽表現力を身につけることができる。		
授業概要	ピアノ１に引き続き、教育者・保育者としての基本的な音楽的能力を向上させるだけなく、小学校、幼稚園、保育所の現場において必要とされる、多様な音楽活動に対応できるピアノ演奏技能・歌唱力を養う。さらに、様々な教育・保育場面に対応できる教材をとりあげ、より豊かな音楽表現力を身につける。 ピアノでは、ピアノ演奏に必要不可欠な保育所、幼稚園、小学校の実践の場で使用される頻度の高い歌唱教材や子どもの歌の伴奏力を身につける。また、声楽では、歌唱力のさらなる伸展をはかり、二部・三部合唱を行う能力や、弾き歌いにおける歌唱力を身につける。		
授業計画	第 01 回　ピアノ…音程（１）　声楽…歌詞と歌唱表現（１） 第 02 回　ピアノ…音程（２）　声楽…歌詞と歌唱表現（２） 第 03 回　ピアノ…三和音（１）　声楽…フレーズを生かす歌唱表現 第 04 回　ピアノ…三和音（２）　声楽…リズムや拍子感を生かす歌唱表現 第 05 回　ピアノ…コードネーム（１）　声楽…斉唱から合唱へ（１） 第 06 回　ピアノ…コードネーム（２）　声楽…斉唱から合唱へ（２） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　ピアノ…伴奏づけ（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（１） 第 09 回　ピアノ…伴奏づけ（２）　声楽…曲の構成と歌唱表現（２） 第 10 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（１）　声楽…曲の構成と歌唱表現（３） 第 11 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（２）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（１） 第 12 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（３）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（２） 第 13 回　ピアノ…子どもの歌の伴奏（４）　声楽…伴奏を生かす歌唱表現（３） 第 14 回　歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験 第 15 回　ピアノによる音楽表現の仕上げ　声楽による音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

No.	494	科目コード	64210
科目名	ピアノ３	授業コード	9315016
教員名	山田　真由美		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・幼稚園・保育所の現場で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いを通して、実践的なピアノ演奏の基礎を習得することができる。 ・伴奏の基本となるコードによる伴奏法を習得できる。 ・ピアノ 2 で習得したピアノの基礎的な演奏能力を、より豊かな音楽表現のできる能力へと向上させることができる。		
授業概要	音楽理論の理解を深め、幼稚園・保育所で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いと、コードネームによる子どもの歌の伴奏を習得する。個人レッスンを中心に、ピアノ 2 で習得したピアノ演奏のレベルをさらに向上させ、幼稚園・保育所で子どもの豊かな感性を引き出す、弾き歌いのためのピアノ演奏テクニックと、指導者としての音楽性の向上を目指す。		
授業計画	第 01 回　コードネームを用いた伴奏の意義と弾き歌いについて 第 02 回　C/F/G コードの理論と弾き歌い（１） 第 03 回　C/F/G コードの理論と弾き歌い（２） 第 04 回　C/F/G コードの理論と弾き歌い（３） 第 05 回　コードの転回形と弾き歌い（１） 第 06 回　コードの転回形と弾き歌い（２） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　コードによる伴奏練習と弾き歌い（1） 第 09 回　コードによる伴奏練習と弾き歌い（２） 第 10 回　色々なコードネームを用いた伴奏（１） 第 11 回　色々なコードネームを用いた伴奏（２） 第 12 回　幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い（１） 第 13 回　幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い（２） 第 14 回　幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い（3） 第 15 回　コードネーム伴奏による弾き歌い、幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い、まとめと授業内試験		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	・音楽理論については小テストを行うので、毎回の授業で受けた講義内容を復習し理解を深めること。 ・弾き歌いの曲については、歌詞を覚え、暗譜で弾き歌いできるまで練習すること。		
教科書	・初回授業時に指示する		
参考書	・授業時に適宜紹介する。 ・小林美実 『こどものうた 200』 チャイルド本社 2014 ・小林美実　井戸和秀 『こどものうた 100』 チャイルド本社 2017 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新　初等科音楽教育法　小学校教員養成課程用』 音楽之友社　2013 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017 年告示「小学校学習指導要領」準 拠』音楽之友社 2018 ・鈴木恵津子　冨田英也 『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選』 教育芸術社　2017		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	495	科目コード	64210
科目名	ピアノ３	授業コード	9315083
教員名	山田　真由美		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・幼稚園・保育所の現場で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いを通して、実践的なピアノ演奏の基礎を習得することができる。 ・伴奏の基本となるコードによる伴奏法を習得できる。 ・ピアノ 2 で習得したピアノの基礎的な演奏能力を、より豊かな音楽表現のできる能力へと向上させることができる。		
授業概要	音楽理論の理解を深め、幼稚園・保育所で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いと、コードネームによる子どもの歌の伴奏を習得する。個人レッスンを中心に、ピアノ 2 で習得したピアノ演奏のレベルをさらに向上させ、幼稚園・保育所で子どもの豊かな感性を引き出す、弾き歌いのためのピアノ演奏テクニックと、指導者としての音楽性の向上を目指す。		
授業計画	第 01 回　コードネームを用いた伴奏の意義と弾き歌いについて 第 02 回　C/F/G コードの理論と弾き歌い（１） 第 03 回　C/F/G コードの理論と弾き歌い（２） 第 04 回　C/F/G コードの理論と弾き歌い（３） 第 05 回　コードの転回形と弾き歌い（１） 第 06 回　コードの転回形と弾き歌い（２） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　コードによる伴奏練習と弾き歌い（1） 第 09 回　コードによる伴奏練習と弾き歌い（２） 第 10 回　色々なコードネームを用いた伴奏（１） 第 11 回　色々なコードネームを用いた伴奏（２） 第 12 回　幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い（１） 第 13 回　幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い（２） 第 14 回　幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い（3） 第 15 回　コードネーム伴奏による弾き歌い、幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い、まとめと授業内試験		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	・音楽理論については小テストを行うので、毎回の授業で受けた講義内容を復習し理解を深めること。 ・弾き歌いの曲については、歌詞を覚え、暗譜で弾き歌いできるまで練習すること。		
教科書	・初回授業時に指示する		
参考書	・授業時に適宜紹介する。 ・小林美実 『こどものうた 200』 チャイルド本社 2014 ・小林美実　井戸和秀 『こどものうた 100』 チャイルド本社 2017 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新　初等科音楽教育法　小学校教員養成課程用』 音楽之友社　2013 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017 年告示「小学校学習指導要領」準 拠』音楽之友社 2018 ・鈴木恵津子　冨田英也 『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選』 教育芸術社　2017		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	496	科目コード	64220
科目名	ピアノ４	授業コード	9324196
教員名	山田　真由美		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・行進曲やスキップといった色々なリズム変化をつけた伴奏型を習得し、子どもの歌だけではなく、幼稚園や保育所の様々な生活場面に対応できるピアノ演奏技術を習得することができる。 ・ピアノ 3 で習得した演奏能力を、様々な曲想の子どもの歌に応じてより豊かな音楽表現のできる能力へと向上させることができる。		
授業概要	幼稚園・保育所の現場で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やし、実践現場での音楽表現活動に対応できるようにする。また、色々なリズムの曲や伴奏の型を習得し、その技術を用いて子どもの歌や幼稚園や保育所の生活の場面に応じて伴奏に変化をつけることができるように、応用力をつける。		
授業計画	第 01 回　行進曲・スキップ・駆け足（１） 第 02 回　行進曲・スキップ・駆け足（２） 第 03 回　行進曲・スキップ・駆け足（３） 第 04 回　色々な伴奏型（１） 第 05 回　色々な伴奏型（２） 第 06 回　色々な伴奏型（３） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　季節・行事の歌の弾き歌い（１） 第 09 回　季節・行事の歌の弾き歌い（２） 第 10 回　季節・行事の歌の弾き歌い（３） 第 11 回　季節・行事の歌の弾き歌い（４） 第 12 回　ペダルを用いた伴奏による弾き歌い（１） 第 13 回　ペダルを用いた伴奏による弾き歌い（２） 第 14 回　高難易度の伴奏による弾き歌い 第 15 回 行進曲・スキップ・駆け足の律動リズム演奏と、季節・行事の歌の弾き歌い伴奏、まとめと授業内試験		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	・音楽理論については小テストを行うので、毎回の授業で受けた講義内容を復習し理解を深めること。 ・ピアノの実技については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習して、レパートリーを自主的に増やしておくこと。		
教科書	・初回授業時に指示する		
参考書	・授業時に適宜紹介する。 ・小林美実 『こどものうた 200』 チャイルド本社 2014 ・小林美実　井戸和秀 『こどものうた 100』 チャイルド本社 2017 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新　初等科音楽教育法　小学校教員養成課程用』 音楽之友社　2013 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2018 ・鈴木恵津子　冨田英也 『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選』 教育芸術社　2017 ・石丸由理 『うごきのためのリトミック百科　ピアノ曲集』　ひかりのくに　2008		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	497	科目コード	64220
科目名	ピアノ４	授業コード	9324263
教員名	山田　真由美		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・行進曲やスキップといった色々なリズム変化をつけた伴奏型を習得し、子どもの歌だけではなく、幼稚園や保育所の様々な生活場面に対応できるピアノ演奏技術を習得することができる。 ・ピアノ 3 で習得した演奏能力を、様々な曲想の子どもの歌に応じてより豊かな音楽表現のできる能力へと向上させることができる。		
授業概要	幼稚園・保育所の現場で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やし、実践現場での音楽表現活動に対応できるようにする。また、色々なリズムの曲や伴奏の型を習得し、その技術を用いて子どもの歌や幼稚園や保育所の生活の場面に応じて伴奏に変化をつけることができるように、応用力をつける。		
授業計画	第 01 回　行進曲・スキップ・駆け足（１） 第 02 回　行進曲・スキップ・駆け足（２） 第 03 回　行進曲・スキップ・駆け足（３） 第 04 回　色々な伴奏型（１） 第 05 回　色々な伴奏型（２） 第 06 回　色々な伴奏型（３） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　季節・行事の歌の弾き歌い（１） 第 09 回　季節・行事の歌の弾き歌い（２） 第 10 回　季節・行事の歌の弾き歌い（３） 第 11 回　季節・行事の歌の弾き歌い（４） 第 12 回　ペダルを用いた伴奏による弾き歌い（１） 第 13 回　ペダルを用いた伴奏による弾き歌い（２） 第 14 回　高難易度の伴奏による弾き歌い 第 15 回 行進曲・スキップ・駆け足の律動リズム演奏と、季節・行事の歌の弾き歌い伴奏、まとめと授業内試験		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	・音楽理論については小テストを行うので、毎回の授業で受けた講義内容を復習し理解を深めること。 ・ピアノの実技については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習して、レパートリーを自主的に増やしておくこと。		
教科書	・初回授業時に指示する		
参考書	・授業時に適宜紹介する。 ・小林美実 『こどものうた 200』 チャイルド本社 2014 ・小林美実　井戸和秀 『こどものうた 100』 チャイルド本社 2017 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新　初等科音楽教育法　小学校教員養成課程用』 音楽之友社　2013 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2018 ・鈴木恵津子　冨田英也 『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選』 教育芸術社　2017 ・石丸由理 『うごきのためのリトミック百科　ピアノ曲集』　ひかりのくに　2008		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	498	科目コード	64230
科目名	ピアノ５	授業コード	9324230
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・色々な伴奏型を習得し、幼稚園・保育所で必要とされる即興的なリズム変奏や子どものうたの移調に取り組み、実践的なピアノ演奏能力を向上させることができる。 ・音楽表現指導に必要な音楽性の獲得をめざし、ピアノによる弾き歌いの能力をさらに向上させることができる。		
授業概要	即興的にマーチ・スキップなどのリズムで音楽に変化を加え、子どもたちの音楽表現に合わせてピアノで対応できる応用力を習得する。また、子どもたちが無理なく歌える音の高さに合わせて伴奏することができるように移調や、転調や短調の曲の弾き歌いに取り組む。		
授業計画	第 01 回　色々なリズムによる伴奏（１） 第 02 回　色々なリズムによる伴奏（２） 第 03 回　色々なリズムによる伴奏（３） 第 04 回　転調・短調の曲の弾き歌い（１） 第 05 回　転調・短調の曲の弾き歌い（２） 第 06 回　転調・短調の曲の弾き歌い（３） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　移調（１）移調の方法 第 09 回　移調（２）移調の方法 第 10 回　移調（３）ハ長調からヘ長調へ 第 11 回　移調（４）ハ長調からト長調へ 第 12 回　移調（５）ハ長調からニ長調へ 第 13 回　移調（６）ハ長調から変ロ長調へ 第 14 回　弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内テスト 第 15 回　音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	・音楽理論については、毎回の授業で受けた講義内容を復習する。 ・移調の課題については、それぞれの楽譜を提出する。 ・弾き歌いの曲については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習し、暗譜で弾き歌いができるようにする。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校の音楽授業（音楽鑑賞）、小学校の世代間交流活動事業（音楽演奏活動）、幼稚園の音楽会行事に携わった経験や、高等学校現場における教員（音楽）経験がある者が、その経験を活かしてピアノ実技を指導する。		

No.	499	科目コード	64240
科目名	ピアノ６	授業コード	9315204
教員名	児玉　達郎		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・幼稚園採用試験に向けてのピアノ演奏能力を向上させることができる。 ・音楽表現指導で指導者に求められる豊かな音楽性の獲得をめざし、ピアノ演奏能力をさらに向上させることができる。		
授業概要	幼稚園で予想されるあらゆる音楽の場面で、ピアノで対応できる応用力をつける。幼稚園の就職試験に対応する各自のレヴェルに合った曲に取り組み、確実な演奏技術とより音楽的なピアノ演奏を求め、総合的に音楽的能力を向上させる。		
授業計画	第 01 回　マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ（１） 第 02 回　マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ（２） 第 03 回　マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ（３） 第 04 回　マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ（４） 第 05 回　マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ（５） 第 06 回　マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ（６） 第 07 回　中間試験と復習 第 08 回　幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲（１） 第 09 回　幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲（２） 第 10 回　幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲（３） 第 11 回　幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲（４） 第 12 回　幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲（５） 第 13 回　幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲（６） 第 14 回　弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内テスト 第 15 回　音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	音楽理論については、毎回の授業で受けた講義内容を復習すること。 ピアノの実技については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習し、幼稚園現場で使用頻度の多い子どもの歌に関してはレパートリーを自主的に増やしておくこと。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校の音楽授業（音楽鑑賞）、小学校の世代間交流活動事業（音楽演奏活動）、幼稚園の音楽会行事に携わった経験や、高等学校現場における教員（音楽）経験がある者が、その経験を活かしてピアノ実技を指導する。		

No.	500	科目コード	65060
科目名	音楽科教育法	授業コード	9315373
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽科学習指導要領を理解し、児童の実態に応じた指導方法を身につけることができる。 ・音楽授業に必要な教材分析力と実践指導力を身につけることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、教科としての特性を知り、授業を実践する上で必要な内容について学習する。特に学習指導要領に基づいた指導内容を習得し、音楽科の授業を進める上で必要となる歌唱・器楽・鑑賞・創作の教材研究と基本的な指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説（目標及び主な内容） 第 2 回：指導内容と学習評価の考え方 第 3 回：歌唱・器楽の教材研究と指導上の留意点 第 4 回：鑑賞・創作の教材研究と指導上の留意点 第 5 回：情報機器及び教材の効果的な活用法 第 6 回：低学年の授業設計 第 7 回：低学年授業の指導案の作成 第 8 回：中学年授業の授業設計 第 9 回：中学年授業の指導案の作成 第 10 回：高学年授業の授業設計 第 11 回：高学年授業の指導案の作成 第 12 回：模擬授業（１）低学年 第 13 回：模擬授業（２）中学年 第 14 回：模擬授業（３）高学年 第 15 回：模擬授業振り返り、まとめ		
授業方法	講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。		
アクティブラーニングの視点	教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成などの課題を出す。		
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　東洋館出版社		
参考書	初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』音楽之友社 2020		
評価方法	毎回の授業での課題（平常点）：30 点（各回 2 点）、指導内容に関する小テスト 20 点、 指導案作成：30 点、模擬授業実践：20 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	501	科目コード	65060
科目名	音楽科教育法	授業コード	9315374
教員名	丸野　彩菜		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽科学習指導要領を理解し、児童の実態に応じた指導方法を身につけることができる。 ・音楽授業に必要な教材分析力と実践指導力を身につけることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、教科としての特性を知り、授業を実践する上で必要な内容について学習する。特に学習指導要領に基づいた指導内容を習得し、音楽科の授業を進める上で必要となる歌唱・器楽・鑑賞・創作の教材研究と基本的な指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説（目標及び主な内容） 第 2 回：指導内容と学習評価の考え方 第 3 回：歌唱・器楽の教材研究と指導上の留意点 第 4 回：鑑賞・創作の教材研究と指導上の留意点 第 5 回：情報機器及び教材の効果的な活用法 第 6 回：低学年の授業設計 第 7 回：低学年授業の指導案の作成 第 8 回：中学年授業の授業設計 第 9 回：中学年授業の指導案の作成 第 10 回：高学年授業の授業設計 第 11 回：高学年授業の指導案の作成 第 12 回：模擬授業（１）低学年 第 13 回：模擬授業（２）中学年 第 14 回：模擬授業（３）高学年 第 15 回：模擬授業振り返り、まとめ		
授業方法	講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。		
アクティブラーニングの視点	教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成などの課題を出す。		
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　東洋館出版社		
参考書	初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2018		
評価方法	毎回の授業での課題（平常点）：30 点（各回 2 点）、指導内容に関する小テスト 20 点、 指導案作成：30 点、模擬授業実践：20 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・高等学校等での音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、合唱指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	502	科目コード	65060
科目名	音楽科教育法	授業コード	9315394
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽科学習指導要領を理解し、児童の実態に応じた指導方法を身につけることができる。 ・音楽授業に必要な教材分析力と実践指導力を身につけることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、教科としての特性を知り、授業を実践する上で必要な内容について学習する。特に学習指導要領に基づいた指導内容を習得し、音楽科の授業を進める上で必要となる歌唱・器楽・鑑賞・創作の教材研究と基本的な指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説（目標及び主な内容） 第 2 回：指導内容と学習評価の考え方 第 3 回：歌唱・器楽の教材研究と指導上の留意点 第 4 回：鑑賞・創作の教材研究と指導上の留意点 第 5 回：情報機器及び教材の効果的な活用法 第 6 回：低学年の授業設計 第 7 回：低学年授業の指導案の作成 第 8 回：中学年授業の授業設計 第 9 回：中学年授業の指導案の作成 第 10 回：高学年授業の授業設計 第 11 回：高学年授業の指導案の作成 第 12 回：模擬授業（１）低学年 第 13 回：模擬授業（２）中学年 第 14 回：模擬授業（３）高学年 第 15 回：模擬授業振り返り、まとめ		
授業方法	講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。		
アクティブラーニングの視点	教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成などの課題を出す。		
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　東洋館出版社		
参考書	初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』音楽之友社 2020		
評価方法	毎回の授業での課題（平常点）：30 点（各回 2 点）、指導内容に関する小テスト 20 点、 指導案作成：30 点、模擬授業実践：20 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	503	科目コード	65060
科目名	音楽科教育法	授業コード	9315395
教員名	丸野　彩菜		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・音楽科学習指導要領を理解し、児童の実態に応じた指導方法を身につけることができる。 ・音楽授業に必要な教材分析力と実践指導力を身につけることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、教科としての特性を知り、授業を実践する上で必要な内容について学習する。特に学習指導要領に基づいた指導内容を習得し、音楽科の授業を進める上で必要となる歌唱・器楽・鑑賞・創作の教材研究と基本的な指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説（目標及び主な内容） 第 2 回：指導内容と学習評価の考え方 第 3 回：歌唱・器楽の教材研究と指導上の留意点 第 4 回：鑑賞・創作の教材研究と指導上の留意点 第 5 回：情報機器及び教材の効果的な活用法 第 6 回：低学年の授業設計 第 7 回：低学年授業の指導案の作成 第 8 回：中学年授業の授業設計 第 9 回：中学年授業の指導案の作成 第 10 回：高学年授業の授業設計 第 11 回：高学年授業の指導案の作成 第 12 回：模擬授業（１）低学年 第 13 回：模擬授業（２）中学年 第 14 回：模擬授業（３）高学年 第 15 回：模擬授業振り返り、まとめ		
授業方法	講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。		
アクティブラーニングの視点	教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成などの課題を出す。		
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　東洋館出版社		
参考書	初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2018		
評価方法	毎回の授業での課題（平常点）：30 点（各回 2 点）、指導内容に関する小テスト 20 点、 指導案作成：30 点、模擬授業実践：20 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・高等学校等での音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、合唱指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	504	科目コード	66530
科目名	音楽科教育法２	授業コード	9324888
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・音楽科学習指導要領を理解し、教材の研究を深めた指導方法を身につけることができる。 ・日本伝統音楽、世界の音楽の教材分析力や、指揮法を身につけ、授業実践に備えることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、授業を実践する上で必要な教材研究を深める。特に日本伝統音楽、世界の音楽を教材とした指導法や、合唱・合奏などを指導する上で必要となる指揮法の習得、鑑賞教材、音楽づくりの教材の研究と指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。		
授業計画	第１回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説と学習評価 第２回：日本伝統音楽を教材とした歌唱 第３回：日本伝統音楽を教材とした鑑賞 第４回：日本伝統音楽を教材とした音楽づくり 第５回：世界の音楽を教材とした鑑賞及び教材の効果的な活用法 第６回：低学年授業における合唱指導と指揮法 第７回：中学年授業における合唱指導と指揮法 第８回：高学年授業における合唱指導と指揮法 第９回：低学年授業の表現教材の研究と指導法 第 10 回：中学年授業の表現教材の研究と指導法 第 11 回：高学年授業の表現教材の研究と指導法 第 12 回：模擬授業を想定した指導案作成 第 13 回：模擬授業（１）日本伝統音楽 第 14 回：模擬授業（２）表現教材 第 15 回：模擬授業振り返り、まとめ		
授業方法	講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。		
アクティブラーニングの視点	教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成など１、２時間程度の課題を出す。		
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　教育芸術社		
参考書	初等科音楽教育研究会編　『最新 初等科音楽教育法(改訂版) 小学校教員養成課程用』 音楽之友社　2011		
評価方法	毎回の授業での課題（平常点）：30 点（各回 2 点）、指導内容に関する小テスト 20 点、 指導案作成：30 点、模擬授業実践：20 点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

No.	505	科目コード	66535
科目名	初等図画工作	授業コード	9315011
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	○ 「みて、感じて、描く・つくる」ことを基本とする造形活動において、必要な技術と材料や用具の知識を身につける。 ○幼稚園及び小学校における表現活動及び鑑賞活動の学習指導にあたって、必要な子どもの発達段階に応じた題材設定や教材開発のあり方、指導と評価について、実技をとおして実践的スキルをを身につける。		
授業概要	図画工作は 「みて、感じて、描く・つくる」 を基本に、感性を働かせて発想し、構想の能力や鑑賞する能力を育み、造形と豊かに関わる活動を目指すことが求められている。そのためにも実技をとおして、教師自身が自ら造形と豊かに関わることが大切であり、様々な造形体験をとおして感性を磨き、造形への理解を深める。		
授業計画	第１回：ガイダンス「みて、感じて、描く・つくる」造形活動について 第２回：造形遊び「材料から発想する（紙)」 第３回：造形遊び「材料から発想する（身近な材料)」 第４回：絵画表現「パスで描くその１」 第５回：絵画表現「パスで描くその２」 第６回：絵画表現「水彩絵の具で描く（静物画)」 第７回：絵画表現「パスと水彩絵の具で描く（イメージ画)」 第８回：絵画表現「人物を描く」 第９回：絵画表現「木版画その１」 第１０回：絵画表現「木版画その２」 第１１回：絵画表現「木版画その３」 第１２回：立体表現「立方体の制作」 第１３回：立体表現「ダンボールで作る」 第１４回：立体表現「粘土」 第１５回：まとめ		
授業方法	講義及び実技		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から 6 名のグループとして、鑑賞やグループ制作を積極的に行う。また全体としても、作品発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	材料や用具又は作品鑑賞などのレポート作成、作品制作準備、題材ごとにまとめなどを行う。		
教科書	『つくる・見る・学ぶ　美術のきほん一美術資料』、日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「図画工作編」、日本文教出版、文部科学省		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価や作品及びレポートを基に評価を行う。 レポート（６０%)、作品の取り組みと理解（４０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	506	科目コード	66535
科目名	初等図画工作	授業コード	9315022
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	○ 「みて、感じて、描く・つくる」ことを基本とする造形活動において、必要な技術と材料や用具の知識を身につける。 ○幼稚園及び小学校における表現活動及び鑑賞活動の学習指導にあたって、必要な子どもの発達段階に応じた題材設定や教材開発のあり方、指導と評価について、実技をとおして実践的スキルをを身につける。		
授業概要	図画工作は 「みて、感じて、描く・つくる」 を基本に、感性を働かせて発想し、構想の能力や鑑賞する能力を育み、造形と豊かに関わる活動を目指すことが求められている。そのためにも実技をとおして、教師自身が自ら造形と豊かに関わることが大切であり、様々な造形体験をとおして感性を磨き、造形への理解を深める。		
授業計画	第１回：ガイダンス「みて、感じて、描く・つくる」造形活動について 第２回：造形遊び「材料から発想する（紙)」 第３回：造形遊び「材料から発想する（身近な材料)」 第４回：絵画表現「パスで描くその１」 第５回：絵画表現「パスで描くその２」 第６回：絵画表現「水彩絵の具で描く（静物画)」 第７回：絵画表現「パスと水彩絵の具で描く（イメージ画)」 第８回：絵画表現「人物を描く」 第９回：絵画表現「木版画その１」 第１０回：絵画表現「木版画その２」 第１１回：絵画表現「木版画その３」 第１２回：立体表現「立方体の制作」 第１３回：立体表現「ダンボールで作る」 第１４回：立体表現「粘土」 第１５回：まとめ		
授業方法	講義及び実技		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から 6 名のグループとして、鑑賞やグループ制作を積極的に行う。また全体としても、作品発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	材料や用具又は作品鑑賞などのレポート作成、作品制作準備、題材ごとにまとめなどを行う。		
教科書	『つくる・見る・学ぶ　美術のきほん一美術資料』、日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「図画工作編」、日本文教出版、文部科学省		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価や作品及びレポートを基に評価を行う。 レポート（６０%)、作品の取り組みと理解（４０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	507	科目コード	65070
科目名	図画工作科教育法	授業コード	9324507
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体の構造を理解、個別の学習内容について指導上の注意点の理解、学習評価の考えの理解、背景となる学問の領域との関係の理解と教材研究への活用、発展的な学習内容について探求し学習指導への位置付けを考察する。また、それを踏まえ子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用、学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計及び学習指導案の作成、模擬授業の実践と振り返りからの授業改善の視点などを身に付ける。		
授業概要	図画工作は、子供の発育発達において重要な意味を持つ学習活動である。本授業では、図画工作の指導と評価方法について、学習計画や指導案の作成を基に学ぶ。また、様々な用具や材料などを用いて、図画工作の基礎から応用までを実践的に学ぶ。さらに、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞することに取り組むことで、感性を磨き、造形の楽しさや面白さ、達成感を体験し豊かな情操を養う。		
授業計画	第１回：小学校学習指導要領における図画工作科の位置付けとこれまでの歩みの理解 第２回：小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容についての理解 第３回：小学校図画工作科の学習評価についての理解 第４回：子供の実態を踏まえた年間指導計画と評価についての理解 第５回：「A表現(1)造形遊び」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第６回：「A表現(1)造形遊び」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２年生対象） 第７回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第８回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第９回：「A表現(2)絵」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２・３・４年生対象） 第10回：「B鑑賞(1)」授業実践と情報機器の効果的な活用（３・４年生対象） 第11回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第12回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第13回：「A表現(2)工作」授業設計と学習指導案の作成（５・６年生対象） 第14回：「A表現(2)工作」授業実践とその振り返りを通した授業改善（５・６年生対象） 第15回：授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	・　予習あるいは復習として学習指導要領をまとめる。 ・　課題ごとに制作記録をファイルにまとめる。 ・　学習指導案の作成 ・　実技課題など		
教科書	文部科学省『「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「図画工作編」』日本文教出版		
参考書	『つくる・見る・学ぶ美術のきほん　美術資料』日本文教出版京都市立芸術大学美術教育研究会		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（５０％）、レポートや指導案等の提出物（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	508	科目コード	65070
科目名	図画工作科教育法	授業コード	9324508
教員名	松田　朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体の構造を理解、個別の学習内容について指導上の注意点の理解、学習評価の考えの理解、背景となる学問の領域との関係の理解と教材研究への活用、発展的な学習内容について探求し学習指導への位置付けを考察する。また、それを踏まえ子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用、学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計及び学習指導案の作成、模擬授業の実践と振り返りからの授業改善の視点などを身に付ける。		
授業概要	図画工作は、子供の発育発達において重要な意味を持つ学習活動である。本授業では、図画工作の指導と評価方法について、学習計画や指導案の作成を基に学ぶ。また、様々な用具や材料などを用いて、図画工作の基礎から応用までを実践的に学ぶ。さらに、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞することに取り組むことで、感性を磨き、造形の楽しさや面白さ、達成感を体験し豊かな情操を養う。		
授業計画	第 1 回：小学校学習指導要領における図画工作科の位置付けとこれまでの歩みの理解 第 2 回：小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容についての理解 第 3 回：小学校図画工作科の学習評価についての理解 第 4 回：子供の実態を踏まえた年間指導計画と評価についての理解 第 5 回：「A表現(1)造形遊び」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 6 回：「A表現(1)造形遊び」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２年生対象） 第 7 回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 8 回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第 9 回：「A表現(2)絵」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２・３・４年生対象） 第 10 回：「B鑑賞(1)」授業実践と情報機器の効果的な活用（３・４年生対象） 第 11 回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 12 回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第 13 回：「A表現(2)工作」授業設計と学習指導案の作成（５・６年生対象） 第 14 回：「A表現(2)工作」授業実践とその振り返りを通した授業改善（５・６年生対象） 第 15 回：授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から 6 名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	・　予習あるいは復習として学習指導要領をまとめる。 ・　課題ごとに制作記録をファイルにまとめる。 ・　学習指導案の作成 ・　実技課題など		
教科書	文部科学省『「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「図画工作編」』日本文教出版		
参考書	「つくる・見る・学ぶ美術のきほん　美術資料」日本文教出版京都市立芸術大学美術教育研究会		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（５０％）、レポートや指導案等の提出物（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所等にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

No.	509	科目コード	65070
科目名	図画工作科教育法	授業コード	9324528
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体の構造を理解、個別の学習内容について指導上の注意点の理解、学習評価の考えの理解、背景となる学問の領域との関係の理解と教材研究への活用、発展的な学習内容について探求し学習指導への位置付けを考察する。また、それを踏まえ子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用、学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計及び学習指導案の作成、模擬授業の実践と振り返りからの授業改善の視点などを身に付ける。		
授業概要	図画工作は、子供の発育発達において重要な意味を持つ学習活動である。本授業では、図画工作の指導と評価方法について、学習計画や指導案の作成を基に学ぶ。また、様々な用具や材料などを用いて、図画工作の基礎から応用までを実践的に学ぶ。さらに、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞することに取り組むことで、感性を磨き、造形の楽しさや面白さ、達成感を体験し豊かな情操を養う。		
授業計画	第１回：小学校学習指導要領における図画工作科の位置付けとこれまでの歩みの理解 第２回：小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容についての理解 第３回：小学校図画工作科の学習評価についての理解 第４回：子供の実態を踏まえた年間指導計画と評価についての理解 第５回：「A表現(1)造形遊び」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第６回：「A表現(1)造形遊び」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２年生対象） 第７回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第８回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第９回：「A表現(2)絵」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２・３・４年生対象） 第 10 回：「B鑑賞(1)」授業実践と情報機器の効果的な活用（３・４年生対象） 第 11 回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 12 回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第 13 回：「A表現(2)工作」授業設計と学習指導案の作成（５・６年生対象） 第 14 回：「A表現(2)工作」授業実践とその振り返りを通した授業改善（５・６年生対象） 第 15 回：授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	・　予習あるいは復習として学習指導要領をまとめる。 ・　課題ごとに制作記録をファイルにまとめる。 ・　学習指導案の作成 ・　実技課題など		
教科書	文部科学省『「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「図画工作編」』日本文教出版		
参考書	『つくる・見る・学ぶ美術のきほん　美術資料』日本文教出版京都市立芸術大学美術教育研究会		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（５０％）、レポートや指導案等の提出物（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	510	科目コード	65070
科目名	図画工作科教育法	授業コード	9324529
教員名	松田　朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体の構造を理解、個別の学習内容について指導上の注意点の理解、学習評価の考えの理解、背景となる学問の領域との関係の理解と教材研究への活用、発展的な学習内容について探求し学習指導への位置付けを考察する。また、それを踏まえ子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用、学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計及び学習指導案の作成、模擬授業の実践と振り返りからの授業改善の視点などを身に付ける。		
授業概要	図画工作は、子供の発育発達において重要な意味を持つ学習活動である。本授業では、図画工作の指導と評価方法について、学習計画や指導案の作成を基に学ぶ。また、様々な用具や材料などを用いて、図画工作の基礎から応用までを実践的に学ぶ。さらに、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞することに取り組むことで、感性を磨き、造形の楽しさや面白さ、達成感を体験し豊かな情操を養う。		
授業計画	第 1 回：小学校学習指導要領における図画工作科の位置付けとこれまでの歩みの理解 第 2 回：小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容についての理解 第 3 回：小学校図画工作科の学習評価についての理解 第 4 回：子供の実態を踏まえた年間指導計画と評価についての理解 第 5 回：「A表現(1)造形遊び」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 6 回：「A表現(1)造形遊び」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２年生対象） 第 7 回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 8 回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第 9 回：「A表現(2)絵」授業実践とその振り返りを通した授業改善（１・２・３・４年生対象） 第 10 回：「B鑑賞(1)」授業実践と情報機器の効果的な活用（３・４年生対象） 第 11 回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（１・２年生対象） 第 12 回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（３・４年生対象） 第 13 回：「A表現(2)工作」授業設計と学習指導案の作成（５・６年生対象） 第 14 回：「A表現(2)工作」授業実践とその振り返りを通した授業改善（５・６年生対象） 第 15 回：授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から 6 名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	・　予習あるいは復習として学習指導要領をまとめる。 ・　課題ごとに制作記録をファイルにまとめる。 ・　学習指導案の作成 ・　実技課題など		
教科書	文部科学省『「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「図画工作編」』日本文教出版		
参考書	「つくる・見る・学ぶ美術のきほん　美術資料」日本文教出版京都市立芸術大学美術教育研究会		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（５０％）、レポートや指導案等の提出物（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所等にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

No.	511	科目コード	66536
科目名	初等家庭	授業コード	9315135
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校家庭科の 3 つの指導内容について理解する。 ・それぞれの内容の指導に必要な知識と技能を身に付け、家庭科の教材を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領をもとに、家庭科の３つの内容「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の教材について基礎的な事項を取り上げる。実習や教材作成の機会を設けながら、家庭科の内容について論理的、実証的に理解を深める。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（家庭科学習についての基本姿勢・学習の進め方・評価について） 第２回：「C 消費生活・環境」１（買い物の仕方について） 第３回：「C 消費生活・環境」２（身近な環境について） 第４回：「C 消費生活・環境」３（消費者教育について） 第５回：「B 衣食住の生活」１（ミシン縫いの計画） 第６回：「B 衣食住の生活」２（ランチョンマットの製作１） 第７回：「B 衣食住の生活」３（ランチョンマットの製作２） 第８回：「B 衣食住の生活」４（調理の計画） 第９回：「B 衣食住の生活」５（調理実習１・ご飯とみそ汁） 第１０回：「B 衣食住の生活」６（調理実習２・いろいろな切り方・皮のむき方） 第１１回：「A 家族・家庭生活」１（調理実習３・団らんの工夫） 第１２回：「B 衣食住の生活」７（ファストファッションとライフスタイル） 第１３回：「B 衣食住の生活」８（安全で快適な住まい方の工夫） 第１４回：「A 家族・家庭生活」２（生活時間の工夫） 第１５回：「A 家族・家庭生活」３（家族や地域の人々との関わり）とまとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの活用による主体的な学び 製作実習、調理実習を通した体験的学び、 学習課題に対するペアワーク、グループワークでの相互的学び 振り返りシートによる学びの定着		
授業外学習	該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて実習の準備と記録レポートを作成すること。		
教科書	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編」（文部科学省、東洋館出版社） 「わたしたちの家庭科　小学校５・６年（令和３年版）」（開隆堂書店）		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト　３０％　　授業時の課題（レポート、製作作品など・小テスト）　４０％ 実習や授業への参加態度　３０％　　レポートや作品には、各自の課題解決への工夫が見られるかを見る。授業への参加は、よりよい家庭生活の実現に向けて、生活経験をもとにした積極的な発言を重視する。提出物については、確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	512	科目コード	66536
科目名	初等家庭	授業コード	9315156
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校家庭科の 3 つの指導内容について理解する。 ・それぞれの内容の指導に必要な知識と技能を身に付け、家庭科の教材を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領をもとに、家庭科の３つの内容「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の教材について基礎的な事項を取り上げる。実習や教材作成の機会を設けながら、家庭科の内容について論理的、実証的に理解を深める。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（家庭科学習についての基本姿勢・学習の進め方・評価について） 第２回：「C 消費生活・環境」１（買い物の仕方について） 第３回：「C 消費生活・環境」２（身近な環境について） 第４回：「C 消費生活・環境」３（消費者教育について） 第５回：「B 衣食住の生活」１（ミシン縫いの計画） 第６回：「B 衣食住の生活」２（ランチョンマットの製作１） 第７回：「B 衣食住の生活」３（ランチョンマットの製作２） 第８回：「B 衣食住の生活」４（調理の計画） 第９回：「B 衣食住の生活」５（調理実習１・ご飯とみそ汁） 第１０回：「B 衣食住の生活」６（調理実習２・いろいろな切り方・皮のむき方） 第１１回：「A 家族・家庭生活」１（調理実習３・団らんの工夫） 第１２回：「B 衣食住の生活」７（ファストファッションとライフスタイル） 第１３回：「B 衣食住の生活」８（安全で快適な住まい方の工夫） 第１４回：「A 家族・家庭生活」２（生活時間の工夫） 第１５回：「A 家族・家庭生活」３（家族や地域の人々との関わり）とまとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの活用による主体的な学び 製作実習、調理実習を通した体験的学び、 学習課題に対するペアワーク、グループワークでの相互的学び 振り返りシートによる学びの定着		
授業外学習	該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて実習の準備と記録レポートを作成すること。		
教科書	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編」（文部科学省、東洋館出版社） 「わたしたちの家庭科　小学校５・６年（令和３年版）」（開隆堂書店）		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト　３０％　　授業時の課題（レポート、製作作品など・小テスト）　４０％ 実習や授業への参加態度　３０％　　レポートや作品には、各自の課題解決への工夫が見られるかを見る。授業への参加は、よりよい家庭生活の実現に向けて、生活経験をもとにした積極的な発言を重視する。提出物については、確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	513	科目コード	66536
科目名	初等家庭	授業コード	9315177
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校家庭科の 3 つの指導内容について理解する。 ・それぞれの内容の指導に必要な知識と技能を身に付け、家庭科の教材を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領をもとに、家庭科の３つの内容「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の教材について基礎的な事項を取り上げる。実習や教材作成の機会を設けながら、家庭科の内容について論理的、実証的に理解を深める。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（家庭科学習についての基本姿勢・学習の進め方・評価について） 第２回：「C 消費生活・環境」１（買い物の仕方について） 第３回：「C 消費生活・環境」２（身近な環境について） 第４回：「C 消費生活・環境」３（消費者教育について） 第５回：「B 衣食住の生活」１（ミシン縫いの計画） 第６回：「B 衣食住の生活」２（ランチョンマットの製作１） 第７回：「B 衣食住の生活」３（ランチョンマットの製作２） 第８回：「B 衣食住の生活」４（調理の計画） 第９回：「B 衣食住の生活」５（調理実習１・ご飯とみそ汁） 第１０回：「B 衣食住の生活」６（調理実習２・いろいろな切り方・皮のむき方） 第１１回：「A 家族・家庭生活」１（調理実習３・団らんの工夫） 第１２回：「B 衣食住の生活」７（ファストファッションとライフスタイル） 第１３回：「B 衣食住の生活」８（安全で快適な住まい方の工夫） 第１４回：「A 家族・家庭生活」２（生活時間の工夫） 第１５回：「A 家族・家庭生活」３（家族や地域の人々との関わり）とまとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの活用による主体的な学び 製作実習、調理実習を通した体験的学び、 学習課題に対するペアワーク、グループワークでの相互的学び 振り返りシートによる学びの定着		
授業外学習	該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて実習の準備と記録レポートを作成すること。		
教科書	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編」（文部科学省、東洋館出版社） 「わたしたちの家庭科　小学校５・６年（令和３年版）」（開隆堂書店）		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト　３０％　　授業時の課題（レポート、製作作品など・小テスト）　４０％ 実習や授業への参加態度　３０％　　レポートや作品には、各自の課題解決への工夫が見られるかを見る。授業への参加は、よりよい家庭生活の実現に向けて、生活経験をもとにした積極的な発言を重視する。提出物については、確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	514	科目コード	66536
科目名	初等家庭	授業コード	9315178
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校家庭科の 3 つの指導内容について理解する。 ・それぞれの内容の指導に必要な知識と技能を身に付け、家庭科の教材を作成することができる。		
授業概要	学習指導要領をもとに、家庭科の３つの内容「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の教材について基礎的な事項を取り上げる。実習や教材作成の機会を設けながら、家庭科の内容について論理的、実証的に理解を深める。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（家庭科学習についての基本姿勢・学習の進め方・評価について） 第２回：「C 消費生活・環境」１（買い物の仕方について） 第３回：「C 消費生活・環境」２（身近な環境について） 第４回：「C 消費生活・環境」３（消費者教育について） 第５回：「B 衣食住の生活」１（ミシン縫いの計画） 第６回：「B 衣食住の生活」２（ランチョンマットの製作１） 第７回：「B 衣食住の生活」３（ランチョンマットの製作２） 第８回：「B 衣食住の生活」４（調理の計画） 第９回：「B 衣食住の生活」５（調理実習１・ご飯とみそ汁） 第１０回：「B 衣食住の生活」６（調理実習２・いろいろな切り方・皮のむき方） 第１１回：「A 家族・家庭生活」１（調理実習３・団らんの工夫） 第１２回：「B 衣食住の生活」７（ファストファッションとライフスタイル） 第１３回：「B 衣食住の生活」８（安全で快適な住まい方の工夫） 第１４回：「A 家族・家庭生活」２（生活時間の工夫） 第１５回：「A 家族・家庭生活」３（家族や地域の人々との関わり）とまとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの活用による主体的な学び 製作実習、調理実習を通した体験的学び、 学習課題に対するペアワーク、グループワークでの相互的学び 振り返りシートによる学びの定着		
授業外学習	該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて実習の準備と記録レポートを作成すること。		
教科書	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編」（文部科学省、東洋館出版社） 「わたしたちの家庭科　小学校５・６年（令和３年版）」（開隆堂書店）		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト　３０％　　授業時の課題（レポート、製作作品など・小テスト）　４０％ 実習や授業への参加態度　３０％　　レポートや作品には、各自の課題解決への工夫が見られるかを見る。授業への参加は、よりよい家庭生活の実現に向けて、生活経験をもとにした積極的な発言を重視する。提出物については、確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	515	科目コード	65080
科目名	家庭科教育法	授業コード	9324641
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を設定する。 （1）学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。 （2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校家庭科で扱う 3 つの内容に関する授業展開について具体的な実践事例から学び、基礎的な知識と技能をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより実践的な指導力を養う。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における家庭科の目標・主な内容と全体構造 第 2 回：家庭科の学習内容における指導上の留意点 第 3 回：家庭科の背景となる知見と、教材研究へのその活用 第 4 回：家庭科における学習評価 第 5 回：児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 6 回：学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計 第 7 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「栄養」 第 8 回：第 7 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 9 回：調理実習の授業設計・指導案の作成「ご飯とみそ汁」 第 10 回：第 9 回の指導案をふまえた調理実習の模擬授業の実施と振り返り 第 11 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「快適な衣服と住まい」「手縫いの基礎」 第 12 回：第 11 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 13 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「家庭生活と家族」 第 14 回：第 13 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 15 回：まとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習と模擬授業を行う		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、プレゼンテーション、振りかえりシートの活用		
授業外学習	２回目以降については、該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて模擬授業の立案と準備を行うこと。		
教科書	「わたしたちの家庭科　小学校５・６年」（開隆堂出版） 「小学校家庭科教育法」（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説　家庭編＜最新版＞（文部科学省） 授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト・提出課題　３０％　　模擬授業・指導案作成　４０％　　実習や授業への参加態度　３０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	516	科目コード	65080
科目名	家庭科教育法	授業コード	9324662
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を設定する。 （1）学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。 （2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校家庭科で扱う 3 つの内容に関する授業展開について具体的な実践事例から学び、基礎的な知識と技能をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより実践的な指導力を養う。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における家庭科の目標・主な内容と全体構造 第 2 回：家庭科の学習内容における指導上の留意点 第 3 回：家庭科の背景となる知見と、教材研究へのその活用 第 4 回：家庭科における学習評価 第 5 回：児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 6 回：学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計 第 7 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「栄養」 第 8 回：第 7 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 9 回：調理実習の授業設計・指導案の作成「ご飯とみそ汁」 第 10 回：第 9 回の指導案をふまえた調理実習の模擬授業の実施と振り返り 第 11 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「快適な衣服と住まい」「手縫いの基礎」 第 12 回：第 11 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 13 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「家庭生活と家族」 第 14 回：第 13 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 15 回：まとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習と模擬授業を行う		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、プレゼンテーション、振りかえりシートの活用		
授業外学習	２回目以降については、該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて模擬授業の立案と準備を行うこと。		
教科書	「わたしたちの家庭科　小学校５・６年」（開隆堂出版） 「小学校家庭科教育法」（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説　家庭編＜最新版＞（文部科学省） 授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト・提出課題　３０％　　模擬授業・指導案作成　４０％　　実習や授業への参加態度　３０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	517	科目コード	65080
科目名	家庭科教育法	授業コード	9324665
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を設定する。 （1）学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。 （2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校家庭科で扱う 3 つの内容に関する授業展開について具体的な実践事例から学び、基礎的な知識と技能をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより実践的な指導力を養う。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における家庭科の目標・主な内容と全体構造 第 2 回：家庭科の学習内容における指導上の留意点 第 3 回：家庭科の背景となる知見と、教材研究へのその活用 第 4 回：家庭科における学習評価 第 5 回：児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 6 回：学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計 第 7 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「栄養」 第 8 回：第 7 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 9 回：調理実習の授業設計・指導案の作成「ご飯とみそ汁」 第 10 回：第 9 回の指導案をふまえた調理実習の模擬授業の実施と振り返り 第 11 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「快適な衣服と住まい」「手縫いの基礎」 第 12 回：第 11 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 13 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「家庭生活と家族」 第 14 回：第 13 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 15 回：まとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習と模擬授業を行う		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、プレゼンテーション、振りかえりシートの活用		
授業外学習	２回目以降については、該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて模擬授業の立案と準備を行うこと。		
教科書	「わたしたちの家庭科　小学校５・６年」（開隆堂出版） 「小学校家庭科教育法」（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説　家庭編＜最新版＞（文部科学省） 授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト・提出課題　３０％　　模擬授業・指導案作成　４０％　　実習や授業への参加態度　３０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	518	科目コード	65080
科目名	家庭科教育法	授業コード	9324683
教員名	脇　淳子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 具体的には以下の目標を設定する。 （1）学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。 （2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	小学校家庭科で扱う 3 つの内容に関する授業展開について具体的な実践事例から学び、基礎的な知識と技能をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより実践的な指導力を養う。		
授業計画	第 1 回：学習指導要領における家庭科の目標・主な内容と全体構造 第 2 回：家庭科の学習内容における指導上の留意点 第 3 回：家庭科の背景となる知見と、教材研究へのその活用 第 4 回：家庭科における学習評価 第 5 回：児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計 第 6 回：学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計 第 7 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「栄養」 第 8 回：第 7 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 9 回：調理実習の授業設計・指導案の作成「ご飯とみそ汁」 第 10 回：第 9 回の指導案をふまえた調理実習の模擬授業の実施と振り返り 第 11 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「快適な衣服と住まい」「手縫いの基礎」 第 12 回：第 11 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 13 回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「家庭生活と家族」 第 14 回：第 13 回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り 第 15 回：まとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習と模擬授業を行う		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、プレゼンテーション、振りかえりシートの活用		
授業外学習	２回目以降については、該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて模擬授業の立案と準備を行うこと。		
教科書	「わたしたちの家庭科　小学校５・６年」（開隆堂出版） 「小学校家庭科教育法」（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説　家庭編＜最新版＞（文部科学省） 授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト・提出課題　３０％　　模擬授業・指導案作成　４０％　　実習や授業への参加態度　３０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

No.	519	科目コード	66537
科目名	初等体育	授業コード	9315311
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校の体育科教育に関する基礎的な知識を習得することができる。 ・学習指導要領の目標や内容を理解した上で，場づくりのイメージや指導案を作成することができる。		
授業概要	小学校体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための，内容および学習指導法について理解することが目的である。授業では理論と実践を結びつけるために協同学習を取り入れ，実際に場づくりのイメージや言語化，学習指導案をつくる実践力も身につけるようにしていく。また，国際的な諸外国の体育授業理論や捉え方，体育教師の役割や成長についても理論と実践事例を紹介しながら理解を深めていくようにする。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション　（授業の方針，内容と評価方法，その他） 第　2回　小学校体育科の目標と内容 第　3回　産業社会における体育 第　4回　産業社会の体育に見出された諸課題 第　5回　子どもと運動の関係を考える体育授業のあり方 第　6回　現在の子どもと運動の関係を見る 第　7回　体育の社会的役割と目標 第　8回　運動の特性と分類 第　9回　体育の学習内容・方法 第 10 回　「器械運動系」の体育授業づくり 第 11 回　「陸上運動系」の体育授業づくり 第 12 回　「ボール運動系」の体育授業づくり 第 13 回　「表現運動系」の体育授業づくり 第 14 回　世界的な体育授業の動向 第 15 回　まとめ		
授業方法	講義，グループ協議，発表を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等），ケーススタディ		
授業外学習	各領域の場づくりについてまとめ，レポートを作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告知）」東洋館出版社 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	授業への参加度（出席・関心・意欲・態度）50%，理解度（リフレクションシート・レポート）50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	520	科目コード	66537
科目名	初等体育	授業コード	9315321
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・小学校の体育科教育に関する基礎的な知識を習得することができる。 ・学習指導要領の目標や内容を理解した上で，場づくりのイメージや指導案を作成することができる。		
授業概要	小学校体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための，内容および学習指導法について理解することが目的である。授業では理論と実践を結びつけるために協同学習を取り入れ，実際に場づくりのイメージや言語化，学習指導案をつくる実践力も身につけるようにしていく。また，国際的な諸外国の体育授業理論や捉え方，体育教師の役割や成長についても理論と実践事例を紹介しながら理解を深めていくようにする。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション　（授業の方針，内容と評価方法，その他） 第　2回　小学校体育科の目標と内容 第　3回　産業社会における体育 第　4回　産業社会の体育に見出された諸課題 第　5回　子どもと運動の関係を考える体育授業のあり方 第　6回　現在の子どもと運動の関係を見る 第　7回　体育の社会的役割と目標 第　8回　運動の特性と分類 第　9回　体育の学習内容・方法 第 10 回　「器械運動系」の体育授業づくり 第 11 回　「陸上運動系」の体育授業づくり 第 12 回　「ボール運動系」の体育授業づくり 第 13 回　「表現運動系」の体育授業づくり 第 14 回　世界的な体育授業の動向 第 15 回　まとめ		
授業方法	講義，グループ協議，発表を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等），ケーススタディ		
授業外学習	各領域の場づくりについてまとめ，レポートを作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告知）」東洋館出版社 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	授業への参加度（出席・関心・意欲・態度）50%，理解度（リフレクションシート・レポート）50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	521	科目コード	64160
科目名	子ども健康学	授業コード	9324004
教員名	安部　惠子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	こどもの心身の発育発達特性を理解し、対象およびめあてにそった指導案の作成ができる。 小学校 1 年生から 6 年生の心身の特性を理解し、指導案の作成ができる。 幼児期の運動指針の意義と内容を深く理解する		
授業概要	現在の子どもの健康に関する諸問題は深刻であり，その解決には子どもの発達特性を知った上で小学校保健授業を実施する必要がある。本講義では，子どもの体力・運動能力特性を学んだ上で，小学校指導要領を基に保健授業の指導案作成と指導を模擬授業形式で実践する。また，子どもの身体的特性を学び呼吸器系・循環器系・神経系の発達と各種運動が生体にどのような影響を及ぼすのかを学習し保健教育の重要性を学ぶ。		
授業計画	第１回：本講義の目的と評価基準について 第２回：体力と健康について〈科学的根拠〉 第３回：体力の測定方法と評価基準について〈評価方法含む〉 第４回：形態と体組成について〈測定方法と評価基準〉 第５回：骨格・筋・エネルギー供給機構について 第６回：児童の発育発達特性について〈呼吸器・循環器・神経〉 第７回：児童の身体活動量について１　〈測定方法〉 第８回：児童の身体活動量について２　〈課題抽出と提案〉 第９回：体育授業での身体活動量について３　〈課題抽出と提案〉 第１０回：体育授業での身体活動量について４　〈教材研究〉 第１１回：栄養　〈食育〉 第１２回：生活習慣病 第１３回：幼児期の運動指針（１）運動指針策定の背景と意義 第１４回：幼児期の運動指針（２）運動指針の読み解き 第１５回：幼児期の運動指針（３）運動遊び事例と注意点		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	毎回、1 つのテーマについてグループで意見交換を行い発表、もしくはレポート提出。		
授業外学習	授業の振り返りと疑問点の抽出		
教科書	特になし		
参考書	資料配布		
評価方法	取り組み状況 60%　　指導案作成 20%　　レポート作成　20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	522	科目コード	65090
科目名	体育科教育法	授業コード	9324796
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。そのため、以下の目標を掲げる。 1）学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。 2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。		
授業概要	体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための授業づくりについて，内容を理解した上で計画・実行・省察という具体的な方法を理解することが目的である。計画については学習指導案を作成，修正する活動を通して，理論と実践を身につけるようにしていく。実行・省察については模擬授業を行い、具体的な授業マネジメントを学ぶとともにその授業を省察することで実践的知識を身につけていくようにする。		
授業計画	第１回： 体育科の目標と内容について 第２回：体育科における教師の役割：子供の実態を視野に入れた計画・実践・省察 第３回：体育科における場づくりの役割、活用の方法 第４回：学習指導案の意味と体育科の授業づくりの特徴 第５回：「体つくり運動」の内容及び指導上の留意点 第６回：「体つくり運動」の模擬授業と学習評価及び省察 第７回：「器械運動系」の内容及び指導上の留意点 第８回：「器械運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第９回：「陸上運動系」の内容及び指導上の留意点 第 10 回：「陸上運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 11 回：「ボール運動系」の内容及び指導上の留意点 第 12 回：「ボール運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 13 回：「表現運動系」の内容及び指導上の留意点 第 14 回：「表現運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 15 回：これからの体育授業にむけて：情報機器の活用等		
授業方法	講義，模擬授業，授業反省会を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等）、メタファー法によるふり返りシートの活用		
授業外学習	模擬授業にむけて場づくりの分析及び略案を作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）東洋館出版社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容・授業における積極的な関わり等）30% ②リフレクションシート（授業内容の関心及び理解、字数）20% ③学習指導案(略案)（正確さ、記述内容、提出期限等）30% ④レポート及び小論文（学びの内容、オリジナリティ、字数）20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	523	科目コード	65090
科目名	体育科教育法	授業コード	9324806
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。そのため、以下の目標を掲げる。 1）学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。 2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。		
授業概要	体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための授業づくりについて，内容を理解した上で計画・実行・省察という具体的な方法を理解することが目的である。計画については学習指導案を作成，修正する活動を通して，理論と実践を身につけるようにしていく。実行・省察については模擬授業を行い、具体的な授業マネジメントを学ぶとともにその授業を省察することで実践的知識を身につけていくようにする。		
授業計画	第１回： 体育科の目標と内容について 第２回：体育科における教師の役割：子供の実態を視野に入れた計画・実践・省察 第３回：体育科における場づくりの役割、活用の方法 第４回：学習指導案の意味と体育科の授業づくりの特徴 第５回：「体つくり運動」の内容及び指導上の留意点 第６回：「体つくり運動」の模擬授業と学習評価及び省察 第７回：「器械運動系」の内容及び指導上の留意点 第８回：「器械運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第９回：「陸上運動系」の内容及び指導上の留意点 第 10 回：「陸上運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 11 回：「ボール運動系」の内容及び指導上の留意点 第 12 回：「ボール運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 13 回：「表現運動系」の内容及び指導上の留意点 第 14 回：「表現運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 15 回：これからの体育授業にむけて：情報機器の活用等		
授業方法	講義，模擬授業，授業反省会を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等）、メタファー法によるふり返りシートの活用		
授業外学習	模擬授業に向けて場づくりの分析及び略案を作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）「体育編」東洋館出版社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容・授業における積極的な関わり等）30% ②リフレクションシート（授業内容の関心及び理解、字数）20% ③学習指導案(略案)（正確さ、記述内容、提出期限等）30% ④レポート及び小論文（学びの内容、オリジナリティ、字数）20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	524	科目コード	65090
科目名	体育科教育法	授業コード	9324808
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。そのため、以下の目標を掲げる。 1）学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。 2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。		
授業概要	体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための授業づくりについて，内容を理解した上で計画・実行・省察という具体的な方法を理解することが目的である。計画については学習指導案を作成，修正する活動を通して，理論と実践を身につけるようにしていく。実行・省察については模擬授業を行い、具体的な授業マネジメントを学ぶとともにその授業を省察することで実践的知識を身につけていくようにする。		
授業計画	第１回： 体育科の目標と内容について 第２回：体育科における教師の役割：子供の実態を視野に入れた計画・実践・省察 第３回：体育科における場づくりの役割、活用の方法 第４回：学習指導案の意味と体育科の授業づくりの特徴 第５回：「体つくり運動」の内容及び指導上の留意点 第６回：「体つくり運動」の模擬授業と学習評価及び省察 第７回：「器械運動系」の内容及び指導上の留意点 第８回：「器械運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第９回：「陸上運動系」の内容及び指導上の留意点 第 10 回：「陸上運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 11 回：「ボール運動系」の内容及び指導上の留意点 第 12 回：「ボール運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 13 回：「表現運動系」の内容及び指導上の留意点 第 14 回：「表現運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 15 回：これからの体育授業にむけて：情報機器の活用等		
授業方法	講義，模擬授業，授業反省会を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等）、メタファー法によるふり返りシートの活用		
授業外学習	模擬授業にむけて場づくりの分析及び略案を作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）「体育編」東洋館出版社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容・授業における積極的な関わり等）30% ②リフレクションシート（授業内容の関心及び理解、字数）20% ③学習指導案(略案)（正確さ、記述内容、提出期限等）30% ④レポート及び小論文（学びの内容、オリジナリティ、字数）20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	525	科目コード	65090
科目名	体育科教育法	授業コード	9324817
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。そのため、以下の目標を掲げる。 1）学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。 2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。		
授業概要	体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための授業づくりについて，内容を理解した上で計画・実行・省察という具体的な方法を理解することが目的である。計画については学習指導案を作成，修正する活動を通して，理論と実践を身につけるようにしていく。実行・省察については模擬授業を行い、具体的な授業マネジメントを学ぶとともにその授業を省察することで実践的知識を身につけていくようにする。		
授業計画	第１回： 体育科の目標と内容について 第２回：体育科における教師の役割：子供の実態を視野に入れた計画・実践・省察 第３回：体育科における場づくりの役割、活用の方法 第４回：学習指導案の意味と体育科の授業づくりの特徴 第５回：「体つくり運動」の内容及び指導上の留意点 第６回：「体つくり運動」の模擬授業と学習評価及び省察 第７回：「器械運動系」の内容及び指導上の留意点 第８回：「器械運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第９回：「陸上運動系」の内容及び指導上の留意点 第 10 回：「陸上運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 11 回：「ボール運動系」の内容及び指導上の留意点 第 12 回：「ボール運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 13 回：「表現運動系」の内容及び指導上の留意点 第 14 回：「表現運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第 15 回：これからの体育授業にむけて：情報機器の活用等		
授業方法	講義，模擬授業，授業反省会を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等）、メタファー法によるふり返りシートの活用		
授業外学習	模擬授業に向けて場づくりの分析及び略案を作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省（編）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」東洋館出版社 文部科学省（編）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容・授業における積極的な関わり等）30% ②リフレクションシート（授業内容の関心及び理解、字数）20% ③学習指導案(略案)（正確さ、記述内容、提出期限等）30% ④レポート及び小論文（学びの内容、オリジナリティ、字数）20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	526	科目コード	66540
科目名	体育科教育法２	授業コード	9315424
教員名	安部　惠子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1)1 年生の学年特性や種目の特性を踏まえた上で体育科指導の指導案の立案ができる。 ２）各種目の「できない」を「できる」にするための「こつ」を理解した上で教材提案ができる ３）小学校体育実技指導を安全効果的に実践できる。		
授業概要	小学校体育科の授業を安全効果的に遂行するには、使用する器具備品・環境の整備と児童自身の形態特性、運動暦、体力・運動能力など科学的根拠を基に把握することや、児童の「動き」に対して指導者の観察力が求められる。体育科指導法Ⅰでは、各学年および種目の特性と「こつ」を理解した指導案の立案と指導実践を行った。本授業では、その際の気づきを基に、種目の系統性を理解し、「動き」の見極めと怪我防止および児童の能力に見合った補助法の習得を目指す。また、体力要素別に見た体つくり運動の指導案作成と指導実践を行う。		
授業計画	第１回：　本授業の目的と評価基準および学習プランについて 第２回：「つまづき」の事例と原因、解決のための方法（１）陸上運動・器械運動 第３回：「つまづき」の事例と原因、解決のための方法（２）マット・跳び箱・鉄棒 第４回：「つまづき」の事例と原因、解決のための方法（２）球技運動 第５回：「体つくり」運動の意義と目標の解説及び模擬授業の学年、指導種目と日程 第６回：低学年・中学年・高学年別にみた、「ハードル走」の模擬授業 第７回：低学年・中学年・高学年別にみた、「跳び箱」の模擬授業 第８回：低学年・中学年・高学年別にみた、「マット」の模擬授業 第９回：低学年・中学年・高学年別にみた、「鉄棒」の模擬授業 第 10 回：学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業　（１）身体活動量確保 第 11 回：学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業　（２）巧緻性 第 12 回：学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業　（３）瞬発力 第 13 回：学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業　（４）手具の運動 第 14 回：怪我・落雷・熱中症予防のためのポイントについて解説 第 15 回：総括と質疑応答　　体育授業遂行時のリスク管理について総括する		
授業方法	アクティブラーニングの視点 模擬授業終了時に、ミニレポート作成および学生間で意見交換を行う。		
アクティブラーニングの視点	擬授業終了時に、ミニレポート作成および学生間で意見交換を行う。		
授業外学習	毎回の模擬授業の単元ごとに、各学年、各単元の指導要領を読み解き学習準備を行う		
教科書	特になし		
参考書	資料配布		
評価方法	①担当種目の学習指導案の作成（40 点） ②模擬授業（40 点） 模擬授業は、自ら作成した指導案と指導案に基づく模擬授業の技能面を評価する。 ③ミニレポート（20 点） ④授業参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	527	科目コード	66520
科目名	初等英語	授業コード	9315040
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けることができる。 (2) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けることができる。		
授業概要	小学校における外国語教育指導者に求められる英語力について、実際の指導場面を想定し継続的に練習するとともに、教師自ら主体的に実践的な英語を学び続けるための手立てを知る。また、子どもの言語習得の特徴や英語教授法に関する基本的事項について、授業ビデオの分析、活動の体験を通して理解を深め、学習したことをどう授業に生かしていくか考える。		
授業計画	第 01 回：小学校における外国語教育の理念と指導者の役割 第 02 回：英語に関する基本的事柄１（音声、語彙） 第 03 回：英語に関する基本的事柄２（文構造、文法、正書法等） 第 04 回：第二言語習得に関する基本的事柄１（言語習得、言葉の学ばれ方の実際） 第 05 回：第二言語習得に関する基本的事柄２（英語教授法・英語学習法） 第 06 回：授業実践に必要な知識・技能１（指導者に求められる英語力、聞く力） 第 07 回：授業実践に必要な知識・技能２（話す力［やり取り・発表］） 第 08 回：授業実践に必要な知識・技能３（読む力、指導者としての英語学習法） 第 09 回：授業実践に必要な知識・技能４（書く力、発音と文字の関係） 第 10 回：授業実践に必要な知識・技能５（正確さの保障とＩＣＴの活用） 第 11 回：授業の実際１（クラスルーム・イングリッシュ、意味内容と量の確保） 第 12 回：授業の実際２（言語使用を通した言語習得、音声から文字へ） 第 13 回：授業の実際３（絵本、子供向けの歌や詩等の児童文学の活用） 第 14 回：授業の実際４（言語や文化についての気づきと異文化理解） 第 15 回：小学校における外国語教育に必要な知識・技能（まとめと振り返り）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、ワークシート作成、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・音声教材やｅドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で練習した活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（文部科学省、開隆堂書店） 3・4 年児童用冊子 “Let’s Try！1･2”（文部科学省、東京書籍） 5・6 年児童用冊子 “We Can！1･2”（文部科学省、東京書籍）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省） 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ（酒井秀樹　三省堂　2017）		
評価方法	・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）３０％ ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）　３０％ ・授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）　２０％ ・ワークシート（考えの整理、資料の整理、正確さ、期限等）　２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	528	科目コード	66520
科目名	初等英語	授業コード	9315050
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けることができる。 (2) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けることができる。		
授業概要	小学校における外国語教育指導者に求められる英語力について、実際の指導場面を想定し継続的に練習するとともに、教師自ら主体的に実践的な英語を学び続けるための手立てを知る。また、子どもの言語習得の特徴や英語教授法に関する基本的事項について、授業ビデオの分析、活動の体験を通して理解を深め、学習したことをどう授業に生かしていくか考える。		
授業計画	第 01 回：小学校における外国語教育の理念と指導者の役割 第 02 回：英語に関する基本的事柄１（音声、語彙） 第 03 回：英語に関する基本的事柄２（文構造、文法、正書法等） 第 04 回：第二言語習得に関する基本的事柄１（言語習得、言葉の学ばれ方の実際） 第 05 回：第二言語習得に関する基本的事柄２（英語教授法・英語学習法） 第 06 回：授業実践に必要な知識・技能１（指導者に求められる英語力、聞く力） 第 07 回：授業実践に必要な知識・技能２（話す力［やり取り・発表］） 第 08 回：授業実践に必要な知識・技能３（読む力、指導者としての英語学習法） 第 09 回：授業実践に必要な知識・技能４（書く力、発音と文字の関係） 第 10 回：授業実践に必要な知識・技能５（正確さの保障とＩＣＴの活用） 第 11 回：授業の実際１（クラスルーム・イングリッシュ、意味内容と量の確保） 第 12 回：授業の実際２（言語使用を通した言語習得、音声から文字へ） 第 13 回：授業の実際３（絵本、子供向けの歌や詩等の児童文学の活用） 第 14 回：授業の実際４（言語や文化についての気づきと異文化理解） 第 15 回：小学校における外国語教育に必要な知識・技能（まとめと振り返り）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、ワークシート作成、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・音声教材やｅドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で練習した活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（文部科学省、開隆堂書店） 3・4 年児童用冊子 “Let’s Try！1･2”（文部科学省、東京書籍） 5・6 年児童用冊子 “We Can！1･2”（文部科学省、東京書籍）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省） 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ（酒井秀樹　三省堂　2017）		
評価方法	・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）３０％ ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）　３０％ ・授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）　２０％ ・ワークシート（考えの整理、資料の整理、正確さ、期限等）　２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	529	科目コード	66525
科目名	外国語（英語）教育法	授業コード	9324540
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。 (2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。 (3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。 (4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。		
授業概要	新学習指導要領への移行に伴い、小学 3、4 年生で外国語活動、小学 5、6 年生で外国語の授業が実施される。これら小学校外国語教育について「学習指導要領」や様々な資料等を用いて、目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解を深め、効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、授業ビデオの分析、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。		
授業計画	第 01 回：小学校外国語教育の変遷と理念及び小・中・高等学校における外国語教育の目標と内容 第 02 回：小・中・高等学校の外国語教育における連携と各校種に期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応 第 03 回：第二言語習得についての知識と活用の実際１ （言語使用を通した言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第 04 回：第二言語習得についての知識と活用の実際２ （発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第 05 回：第二言語習得についての知識と活用の実際３ （受信から発信へ音声から文字への導き方、言葉の面白さや豊かさへの気づき） 第 06 回：ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング、ＩＣＴ等の効果的な活用 第 07 回：パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した学習状況の評価 第 08 回：外国語活動の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 09 回：外国語活動の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第 10 回：外国語の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 11 回：外国語の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案 第 12 回：模擬授業１（多様な児童のニーズへの対応） 第 13 回：模擬授業２（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第 14 回：模擬授業３（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第 15 回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の目標と指導、評価）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。模擬授業や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、 振り返りシートの活用など		
授業外学習	・インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。 ・音声教材やｅドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で行う活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（開隆堂出版、文部科学省） 3・4 年児童用冊子 “Let’s try！1･2”（東京書籍、文部科学省） 5・6 年児童用冊子 “We Can！1･2”（東京書籍、文部科学省）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）		
評価方法	・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）３０％ ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）　３０％ ・授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）　２０％ ・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等）　２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	530	科目コード	66525
科目名	外国語（英語）教育法	授業コード	9324543
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。 (2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。 (3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。 (4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。		
授業概要	新学習指導要領への移行に伴い、小学 3、4 年生で外国語活動、小学 5、6 年生で外国語の授業が実施される。これら小学校外国語教育について「学習指導要領」や様々な資料等を用いて、目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解を深め、効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、授業ビデオの分析、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。		
授業計画	第 01 回：小学校外国語教育の変遷と理念及び小・中・高等学校における外国語教育の目標と内容 第 02 回：小・中・高等学校の外国語教育における連携と各校種に期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応 第 03 回：第二言語習得についての知識と活用の実際１ （言語使用を通した言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第 04 回：第二言語習得についての知識と活用の実際２ （発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第 05 回：第二言語習得についての知識と活用の実際３ （受信から発信へ音声から文字への導き方、言葉の面白さや豊かさへの気づき） 第 06 回：ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング、ＩＣＴ等の効果的な活用 第 07 回：パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した学習状況の評価 第 08 回：外国語活動の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 09 回：外国語活動の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第 10 回：外国語の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 11 回：外国語の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案 第 12 回：模擬授業１（多様な児童のニーズへの対応） 第 13 回：模擬授業２（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第 14 回：模擬授業３（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第 15 回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の目標と指導、評価）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。模擬授業や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、 振り返りシートの活用など		
授業外学習	・インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。 ・音声教材やｅドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で行う活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（開隆堂出版、文部科学省） 3・4 年児童用冊子 “Let’s try！1･2”（東京書籍、文部科学省） 5・6 年児童用冊子 “We Can！1･2”（東京書籍、文部科学省）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）		
評価方法	・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）３０％ ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）　３０％ ・授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）　２０％ ・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等）　２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	531	科目コード	66525
科目名	外国語（英語）教育法	授業コード	9324545
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。 (2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。 (3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。 (4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。		
授業概要	新学習指導要領への移行に伴い、小学 3、4 年生で外国語活動、小学 5、6 年生で外国語の授業が実施される。これら小学校外国語教育について「学習指導要領」や様々な資料等を用いて、目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解を深め、効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、授業ビデオの分析、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。		
授業計画	第 01 回：小学校外国語教育の変遷と理念及び小・中・高等学校における外国語教育の目標と内容 第 02 回：小・中・高等学校の外国語教育における連携と各校種に期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応 第 03 回：第二言語習得についての知識と活用の実際１ （言語使用を通した言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第 04 回：第二言語習得についての知識と活用の実際２ （発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第 05 回：第二言語習得についての知識と活用の実際３ （受信から発信へ音声から文字への導き方、言葉の面白さや豊かさへの気づき） 第 06 回：ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング、ＩＣＴ等の効果的な活用 第 07 回：パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した学習状況の評価 第 08 回：外国語活動の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 09 回：外国語活動の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第 10 回：外国語の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 11 回：外国語の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案 第 12 回：模擬授業１（多様な児童のニーズへの対応） 第 13 回：模擬授業２（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第 14 回：模擬授業３（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第 15 回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の目標と指導、評価）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。模擬授業や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、 振り返りシートの活用など		
授業外学習	・インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。 ・音声教材やｅドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で行う活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（開隆堂出版、文部科学省） 3・4 年児童用冊子 “Let’s try！1･2”（東京書籍、文部科学省） 5・6 年児童用冊子 “We Can！1･2”（東京書籍、文部科学省）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）		
評価方法	・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）３０％ ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）　３０％ ・授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）　２０％ ・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等）　２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	532	科目コード	66525
科目名	外国語（英語）教育法	授業コード	9324590
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。 (2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。 (3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。 (4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。		
授業概要	新学習指導要領への移行に伴い、小学 3、4 年生で外国語活動、小学 5、6 年生で外国語の授業が実施される。これら小学校外国語教育について「学習指導要領」や様々な資料等を用いて、目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解を深め、効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、授業ビデオの分析、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。		
授業計画	第 01 回：小学校外国語教育の変遷と理念及び小・中・高等学校における外国語教育の目標と内容 第 02 回：小・中・高等学校の外国語教育における連携と各校種に期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応 第 03 回：第二言語習得についての知識と活用の実際１ （言語使用を通した言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第 04 回：第二言語習得についての知識と活用の実際２ （発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第 05 回：第二言語習得についての知識と活用の実際３ （受信から発信へ音声から文字への導き方、言葉の面白さや豊かさへの気づき） 第 06 回：ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング、ＩＣＴ等の効果的な活用 第 07 回：パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した学習状況の評価 第 08 回：外国語活動の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 09 回：外国語活動の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第 10 回：外国語の授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第 11 回：外国語の授業づくり２（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案 第 12 回：模擬授業１（多様な児童のニーズへの対応） 第 13 回：模擬授業２（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第 14 回：模擬授業３（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第 15 回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の目標と指導、評価）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。模擬授業や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、 振り返りシートの活用など		
授業外学習	・インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。 ・音声教材やｅドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で行う活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（開隆堂出版、文部科学省） 3・4 年児童用冊子 “Let’s try！1･2”（東京書籍、文部科学省） 5・6 年児童用冊子 “We Can！1･2”（東京書籍、文部科学省）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）		
評価方法	・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）３０％ ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）　３０％ ・授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）　２０％ ・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等）　２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	533	科目コード	66545
科目名	外国語（英語）教育法２	授業コード	9315550
教員名	黒川　愛子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。そのために、以下の目標を掲げる。 (1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 (2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解する。 (3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。 (4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。		
授業概要	新学習指導要領への移行に伴い、小学 3、4 年生で外国語活動、小学 5、6 年生で外国語の授業が実施される。「外国語（英語）教育法」での学修をもとに、外国語教育の目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解をさらに深め、より効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。		
授業計画	第１回：小・中・高等学校における外国語教育の目標・内容と校種間連携に関する小学校の役割 第２回：多様な学校・児童のニーズへの対応と合理的配慮 第３回：活動の実際１（言語使用を通した言語習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第４回：活動の実際２（発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第５回：活動の実際３（受信から発信へ、音声から文字への導き方、） 第６回：活動の実際４（言葉の面白さや豊かさへの気づき、絵本や歌、詩等の活用） 第７回：活動の実際５（ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング、ＩＣＴ等の効果的な活用） 第８回：授業づくり１（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第９回：授業づくり２（パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した評価等） 第 10 回：授業づくり３（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第 11 回：模擬授業１（言語使用を通した言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第 12 回：模擬授業２（発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第 13 回：模擬授業３（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第 14 回：模擬授業４（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第 15 回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の学習、指導、評価）		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して実践的に外国語活動の指導法を学ぶ。発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、 振り返りシートの活用など		
授業外学習	インターネット等を活用し必要なの資料をダウンロードして印刷する。 音声教材やｅドリルを利用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 授業で練習した活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業で使用する英語を練習する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。		
教科書	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「外国語活動・外国語編」（文部科学省、開隆堂書店） 小学校英語教育の基礎知識（村野井仁編著、大修館書店） 小学校検定教科書　New Horizon Elementary 5 年生用，6 年生用，Picture Dictionary（東京書籍）		
参考書	小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省） 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ（酒井秀樹　三省堂　2017） 小学校教師のためのやってはいけない英語の授業（菅正隆　ぎょうせい　2020）		
評価方法	・授業への取り組み（小テスト、授業中の発表・討議内容、模擬授業や発表に対するコメント・質問、受講態度）　40% ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）30% ・模擬授業のための学習指導案　15% ・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等）　15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

No.	534	科目コード	57300
科目名	異文化間理解論	授業コード	9315835
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・異文化間理解についての基本的な考え方や概念を理解し、説明することができる。 ・現代の北米社会の状況について異文化間関係学の観点から説明することができる。		
授業概要	カナダは言語だけでなく、歴史や文化においてもイギリス・アメリカ両国との関係が深く、その文化を知ることは英語を学ぶ者にとっても興味深い。この授業では現地で取材した多様な資料を提示し、カナダの文化や社会のありようについて概観する。また、様々な具体例をもとに、異文化間の理解とはどのようなものか、また、そこにどのような問題があるのかについて考え、文化と文化の間に注目することの重要性について解説する。		
授業計画	第１回　「文化」の定義を考える 第２回　「文化」の性質 第３回　「異文化間理解」とは 第４回　カナダの概説 第５回　カナダの歴史を概観する 第６回　カナダ人のアイデンティティ 第７回　カナダを象徴するもの　カナダ人の国民意識と文化の危機 第８回　ヨーロッパからの非英仏系移民の増加と移民政策の変化 第９回　メノナイトの人々とその文化　変化と持続 第 10 回　カナダのアジア系移民 変貌する都市 第 11 回　日系カナダ人　移民の始まり・排斥運動・出稼ぎから定住へ 第 12 回　日系カナダ人　　二つの戦争を経験して 第 13 回　日系カナダ人のその後　カナダと日本 第 14 回　カナダの公的機関による多文化受容 第 15 回　多文化主義のジレンマと可能性		
授業方法	講義形式とし、視覚的資料を用いながら可能な限り対話的に授業を進める。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）など（遠隔授業の場合は適宜変更する）。		
授業外学習	毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察をまとめる（1 時間程度）。また、授業の各テーマに関連する情報や参考文献に目を通し、各自が主体的に学習内容を深める（2 時間程度）。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布する。		
参考書	綾部恒雄・飯野正子編 2003『カナダを知るための６０章』明石書店 飯野正子 1997『日系カナダ人の歴史』東京大学出版会 太田好信・浜本満編 2005『メイキング文化人類学』世界思想社 佐々木敏二 1999『日本人カナダ移民史』不二出版 津島克子 2003「メノナイトの生活」『英米学研究』37:47-56 初瀬龍平編 1996『エスニシティと多文化主義』同文館出版 山田千香子 2000『カナダ日系社会の文化変容 「海を渡った日本の村」三世代の変遷』お茶の水書房 Denlinger, A. Martha. 1986. Real People: Amish and Mennonites in Lancaster County, Pennsylvania. Scottdale, PA.: Herald Press Yesaki, Mitsuo, Harold Steves and Cathy Steves. 1998 Steveston Cannery Row: An Illustrated History. British Columbia: Lulu Island Printing Ltd.		
評価方法	授業への参加度（２０％）と学期中に提示される課題の提出物（８０％）を総合して評価する。授業への参加度については小テストや発言等で評価する。発言は積極的かつ的確である点を重視する。学期中に提出された課題については講評によるフィードバックを行う。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	535	科目コード	68040
科目名	日本語学概論	授業コード	9324091
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１、日本語学の概要を学ぶことで、日本語についての学問的理解を身に付けることができる。 ２、日本語の言語的構造の基本を学び、発展的な学習に向けての基礎を身に付けることができる。 ３、日本語の特質を理解して、効果的な表現力を高めようとする態度を身に付けることができる。		
授業概要	音声・音韻、表記、語彙、文法等の全般的な学習により、国語学（日本語学）の基礎を理解する。特に、日本語の構造について、音韻と語彙及び文法の各方面から学んでいくことで、これまでの知識の整理を行って、国語科授業で必要な理解を求めていく。さらに、講義・解説のみでなくグループワーク等で深めていく。		
授業計画	第１回：　日本語学とは。日本語学の学習内容について。 第２回：　日本語の音声・音韻①　音声学 第３回：　日本語の音声・音韻②　音韻論 第４回：　日本語の音声・音韻③　拍と音節 第５回：　日本語の音声・音韻④　アクセント、イントネーション 第６回：　日本語の表記①　文字、仮名、漢字、ローマ字 第７回：　日本語の表記②　正書法 第８回：　日本語の語彙①　語の意味、類義語・対義語 第９回：　日本語の語彙②　語構成、位相語、役割語、待遇表現 第 10 回：　日本語の語彙③　方言 第 11 回：　日本語の文法①　文法論 第 12 回：　日本語の文法②　用言 第 13 回：　日本語の文法③　助動詞、助詞 第 14 回：　日本語の文法④　敬語法 第 15 回：　まとめ　日本語を考える 定期試験		
授業方法	講義形式で授業を進める。毎回、授業の最後にコメントカードの提出を求める。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業前後に 1 時間以上の予習・復習をすること。教科書の該当箇所を読み、分からない点をメモしておくこと。また、授業のノートを見直し、授業前に分からなかった点が分かるようになっているか、教科書の内容が理解できているか確認すること。		
教科書	荻野綱男編著『現代日本語学入門改訂版』明治書院、2018 年		
参考書	『新ここから始まる日本語学』（伊坂淳一著、ひつじ書房）		
評価方法	中間試験 25%、期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 25%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	536	科目コード	68041
科目名	日本語学演習 1	授業コード	9315106
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．日本語学の諸事項について学びを深めることで、日本語についての学問的理解を高める。 ２．音声・音韻や日本語の文法の概要を学ぶことで文法的構造の基本を学び理解を確かなものにする。 ３．日本語の文法的特質を理解して、日本語の構造的理解を深めようとする態度を身に付ける。		
授業概要	日本語学概論で習得した事をもとに、音声・音韻、表記、語彙、文法等の全般的な理解を確認して、音韻と文法体系についてより深まった学習をする。 特に口語文法については高等学校ではほとんど採り上げられておらず、国語の教員として、その指導にあたっての理解を深める。さらに、演習やグループワーク等で深めていく。		
授業計画	第 1 回：　日本語の音声・音韻①　母音、子音 第 2 回：　日本語の音声・音韻②　音素、音声、拍、音節 第 3 回：　日本語の音声・音韻③　アクセント、イントネーション 第 4 回：　日本語の音声・音韻④　理論、史的研究 第 5 回：　日本語の文法①　日本語の歴史（表記と音韻の変遷） 第 6 回：　日本語の文法②　日本語の歴史（史的研究） 第 7 回：　日本語の文法③　日本語の歴史（理論、現代） 第 8 回：　日本語の文法④　用言の知識の深化（動詞） 第 9 回：　日本語の文法⑤　用言の知識の深化（形容詞、形容動詞） 第 10 回：日本語の文法⑥　助動詞の知識の深化 第 11 回：　日本語の文法⑦　助動詞の知識の定着 第 12 回：　日本語の文法⑧　助詞の知識 第 13 回：　日本語の文法⑨　日本語の文法についての系統的な整理と理解の深化 第 14 回：　地域言語、方言 第 15 回：　まとめ　日本語の体系を考える 定期試験		
授業方法	前半部分は講義形式，後半部分はグループでの調査・発表を行う。 毎回、授業の最後にコメントカードの提出を求める。		
アクティブラーニングの視点	演習内容に関連して適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業前後に 1 時間以上の予習・復習をすること。教科書の該当箇所を読み、分からない点をメモしておくこと。 また、授業のノートを見直し、授業前に分からなかった点が分かるようになっているか、教科書の内容が理解できているか確認すること。 グループ発表担当回については，グループで協力して発表資料を作成すること。		
教科書	荻野綱男編著『現代日本語学入門改訂版』明治書院、2018 年		
参考書	『基礎日本語学』（衣畑智秀編、ひつじ書房） 『ガイドブック日本語文法史』（高山善行・青木博史編、ひつじ書房） 『国文法ちかみち』（小西甚一著、ちくま学芸文庫）		
評価方法	期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	537	科目コード	68042
科目名	日本語学演習 2	授業コード	9324117
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．日本語学の諸事項について学びを深めることで、日本語についての学問的理解をさらに高める。 ２．敬語法や助動詞・助詞等の日本語文法の核心を学ぶことで文法的構造の理解をより深いものにする。 ３．文法的特質を理解して、日本語の文法構造を理解したうえでの表現力を高める態度を身に付ける		
授業概要	日本語学演習１の後をうけて、取り扱い方が変化してきて敬語法と理解が難しい助動詞・助詞等について的確な理解を求めていく。 国語の教員としてだけでなく、専門的知識を身に付けて自主的な研究を継続できる力量も併せて求めていく。 さらに演習やグループワーク等で深めていく。		
授業計画	第 1 回： 敬語法とは 第 2 回： 敬語文の構造的理解 第 3 回： 複数の敬語の構造的理解 第 4 回： 敬語の識別 第 5 回： 敬語の歴史的変遷 第 6 回： 助動詞①　打消、推量、断定 第 7 回： 助動詞②　受身、可能、自発、尊敬、使役 第 8 回： 助動詞③　総合的に理解を深める 第 9 回： 助詞①　助詞の理解の深化 第 10 回： 助詞②　係り結び 第 11 回： 文章、文体 第 12 回： 言語生活、社会言語 第 13 回： 日本語の文法の系統的整理 第 14 回： 日本語と他言語との比較、海外における日本語研究 第 15 回： まとめ　日本語学の諸課題について考える 定期試験		
授業方法	グループごとに文献を読み，発表を行い，その後全体で討議する。 毎回、授業の最後にコメントカードの提出を求める。		
アクティブラーニングの視点	演習内容に関連して適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業前後に 1 時間以上の予習・復習をすること。教科書の該当箇所を読み、分からない点をメモしておくこと。 また、授業のノートを見直し、授業前に分からなかった点が分かるようになっているか、教科書の内容が理解できているか確認すること。 発表担当者となる回には，発表資料を作成すること。		
教科書	荻野綱男編著『現代日本語学入門改訂版』明治書院、2018 年		
参考書	『基礎日本語学』（衣畑智秀編、ひつじ書房） 『ガイドブック日本語文法史』（高山善行・青木博史編、ひつじ書房） 『国文法ちかみち』（小西甚一著、ちくま学芸文庫）		
評価方法	期末試験 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 60%、レポート課題 15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	538	科目コード	68044
科目名	コミュニケーション特論	授業コード	9315610
教員名	八坂　尚美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・日本語史の大まかな流れを知ること ・資料の読解を行うことができること ・授業内容を活かした模擬授業を通し、話す・聞くコミュニケーション能力をみがくこと		
授業概要	我々は普段、日本語によるコミュニケーションを行っている。しかし、日本語とひとことで言っても、例えば古典のことばと現代のことばは大きく異なっており、現代語においても方言や世代による違いがあるなど、一様ではない。本授業では、そのような日本語に関する事象を広く取り上げる。 本授業はまず日本語史の流れを大まかにつかんだあと、古典資料の読解を行う。取り上げる古典資料は、狂言資料の予定である。難しい内容のものではなく、今でいう「コント」のような喜劇であるため、古典が苦手な受講生にも取り組みやすいものと考える。 また、実際のコミュニケーション力をみがく一環として、受講者による模擬授業を取り入れる。 なお、授業内容・計画は履修人数により柔軟に変更する。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　日本語の歴史 第３回　　日本語の歴史 第４回　　日本語の歴史 第５回　　日本語の歴史 第６回　　古典資料に触れる 第７回　　古典資料に触れる 第８回　　古典資料に触れる 第９回　　古典資料に触れる 第 10 回　古典資料に触れる 第 11 回　模擬授業 第 12 回　模擬授業 第 13 回　模擬授業 第 14 回　模擬授業 第 15 回　授業のまとめ		
授業方法	講義、演習、ペア・グループでの活動を行う。		
アクティブラーニングの視点	ペア・グループで作業を行い理解を深める。 また、模擬授業を通し受講者相互の意見交換を行う。		
授業外学習	発表準備等は授業時間外に行うこと。		
教科書			
参考書			
評価方法	課題・発表 70%、授業への参加状況 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	539	科目コード	68043
科目名	日本語表現法１	授業コード	9315101
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．文章作成の基礎的知識及び技能を獲得して、目的意識を持った的確な表現力を身に付けることができる。 ２．日本語の言語的構造を理解したうえで、効果的な表現法についての基礎を身に付けることができる。 ３．他者の表現と比較することで、自己の表現力を高める態度を身に付けることができる。		
授業概要	日本語の表現方法についての基礎的な理解のもとに、様々な文章に関して文章表現や口頭発表の技能を広く知って、書くことや話すことの基礎的な技量を身に付ける。これからの国語教育には特に求められる力量であり、必須の技量として習得することを求めていく。		
授業計画	第１回：　日本語の特質①　日本語で表現するとは、日本語の表記の特質を知る 第２回：　日本語の特質②　話し言葉と書き言葉、書くことと話すこと 第３回：　日本語の特質③　伝わる表現とは 第４回：　文章作成の実際①　説明する文章 第５回：　文章作成の実際②　意見を述べる文章 第６回：　文章作成の実際③　手紙文 第７回：　口頭発表の実際①　説明すること 第８回：　口頭発表の実際②　意見を述べること 第９回：　討論の実際　少人数のグループでの討議、多人数での討議 第 10 回：伝わりにくい表現、誤解を生む表現 第 11 回：実用的な文章の作成①　手紙文、依頼や通知 第 12 回：実用的な文章の作成②　商業的な文章や宣伝・広告 第 13 回：要約文 第 14 回：報告書やレポート 第 15 回：まとめ　表現するとは		
授業方法	受講生の作品（氏名は非公表）等を基に、自ら思考し、議論することを通して到達目標の達成を目指す。演習形式に近い授業方法であり、課題が毎回テーマごとに出され、受講生は課題を行わなければならない。コロナ感染予防の観点から小集団形式の議論ができない分、受講生全体の前で自分が一人で意見を時に即座に発表することになる。これらのことをよく承知し、自覚的に中高国語免許取得に挑む受講生の参加が求められる。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	「授業方法」でも述べたように、課題がテーマごとに出される。この課題を終えて授業に参加することになる。また、授業後は授業の復習をしっかりと行うことが求められる。		
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	沖森卓也編著『日本語表現法　改訂版』三省堂 中西一弘編著『新編　やさしい文章表現法』朝倉書店		
評価方法	まとめのレポート 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 35%。全体を通して、教員に求められる意欲、自主性、積極性等の能動的態度を重視して評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験をもち、表現に関する実践的研究をしてきた者が、その経験を活かして、自己表現力を高めるための指導を行う。		

No.	540	科目コード	68045
科目名	日本語表現法２	授業コード	9324111
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．文章作成や口頭表現の知識及び技能を伸ばして効果的な表現力を磨いて豊かな言語感覚を身に付けることができる。 ２．様々な場面における効果的な表現法について学び、より高い表現力について理解することができる。 ３．場面に応じた表現法を身に付けて、効果的な表現力を伸ばす態度を身に付けることができる。		
授業概要	日本語表現法１の後を受けて、様々な場面を想定した文章表現や口頭表現の技能を高め、目的と場に応じた表現力を身に付けるよう求めていく。特に、論文作成と口頭表現の学習を通じて、言語の効果的な表現法を理解し習得する。教員養成だけでなく様々な場面で必要とされ、他の学生にも指導できる力量を目指す。		
授業計画	第１回：社会を理解するために言語文化に着目する意義、相互行為、時間性、書き起こし、位置と構成 第２回： 会話分析、会話のための順番交替、行為連鎖、修復 第３回： 電話会話における言語使用：掛け手と受け手、呼びかけ-応答連鎖、同定、認識連鎖 第４回： 飲食店における言語使用：注文をめぐるやりとり 第５回： 介護現場における言語使用：認知症高齢者と介護職員のやりとり、ケア、表現の選択 第６回： 被災地でのボランティア活動における言語使用：語らい、共感とは何か 第７回： 論文作成①　構想を練る、考えの筋をまとめる、テーマ設定 第８回： 論文作成②　取材とデータ収集 第９回： 論文作成③　考えを練る、考えを積み上げる 第 10 回：論文作成④　効果的な表現でまとめる 第 11 回：口頭表現①　プレゼンテーションの実際 第 12 回：口頭表現②　効果的な口頭表現 第 13 回：口頭表現③　討論 第 14 回：口頭表現④　聞く力、話す力 第 15 回：まとめ　日本語で効果的に表現するとは		
授業方法	受講生の作品（氏名は非公表）等を基に、自ら思考し、議論することを通して到達目標の達成を目指す。演習形式に近い授業方法であり、課題が毎回テーマごとに出され、受講生は課題を行わなければならない。コロナ感染予防の観点から小集団形式の議論ができない分、受講生全体の前で自分が一人で意見を時に即座に発表することになる。これらのことをよく承知し、自覚的に中高国語免許取得に挑む受講生の参加が求められる。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	「授業方法」でも述べたように、課題がテーマごとに出される。この課題を終えて授業に参加することになる。また、授業後は授業の復習をしっかりと行うことが求められる。		
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	沖森卓也編著『日本語表現法　改訂版』三省堂 真田治子・野原佳代子編著『実用日本語表現ドリル』三省堂 中西一弘編著『基礎文章表現法』朝倉書店		
評価方法	まとめのレポート 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 35%。全体を通して、教員に求められる意欲、自主性、積極性等の能動的態度を重視して評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験をもち、表現に関する実践的研究をしてきた者が、その経験を活かして、豊かな言語感覚、効果的な表現力を身につけるための指導を行う。		

No.	541	科目コード	68046
科目名	日本文学演習 1	授業コード	9324121
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.明治以降の日本文学の歴史を知り、近現代日本文学の特質を理解して、文学に対する関心を高めることができる。 2.明治以降の口語表現の変化を学び、文学的文章における言語表現について理解することができる。 3.近代・現代の文学が目指してきた特色を理解して自らの表現を楽しむ態度を身に付けることができる。		
授業概要	概論で学んだ近代までの歴史の上に、明治以降の代表的な文学作品を読んで、社会と個人のあり方と価値観を通して、近代以降の文学性について学ぶ。表現することは人としての喜びでありアイデンティティーへの道であることを理解して、国語の教員としての指導に活かせる力をつける。適宜グループワーク等も入れて深めていく。		
授業計画	テーマ 第 1 回： 近現代という時代のそれぞれの特質 第 2 回： 啓蒙期（坪内逍遥、二葉亭四迷、尾崎紅葉、幸田露伴)） 第 3 回： 明治から大正へ①（樋口一葉、泉鏡花、島崎藤村、田山花袋） 第 4 回： 明治から大正へ②（森鴎外、夏目漱石） 第 5 回： 明治時代の詩歌 第 6 回： 大正時代の文学①（永井荷風、谷崎潤一郎） 第 7 回： 大正時代の文学②（芥川龍之介、菊池寛、山本有三） 第 8 回： 大正時代の詩歌 第 9 回： 昭和時代の文学①（川端康成、井伏鱒二、太宰治） 第 10 回：昭和時代の文学②（志賀直哉、中島敦、三島由紀夫） 第 11 回：昭和時代の文学③（安部公房、遠藤周作、田辺聖子） 第 12 回：昭和から平成時代の文学（吉本ばなな、村上春樹、赤川次郎） 第 13 回：昭和時代の詩歌 第 14 回：昭和から平成時代の詩歌 第 15 回：まとめ　日本文学が表現しようとしたもの 定期試験		
授業方法	グループ発表、対話学習等の演習形式で授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	担当を決めた輪読を中心に進め、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	①作品を読み込み、資料作成等演習準備を十分にする。 ②補充発表、課題レポートなどを作成する。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	学生に対する評価 期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 25%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語)、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

No.	542	科目コード	68047
科目名	日本文学演習２	授業コード	9315163
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．上代から中古の日本文学の歴史を知り、日本の古典文学の特質を理解して、文学に対する関心を高める。 ２．古典文学をより深く学ぶことで、それぞれの文学的文章における表現効果について理解する。 ３．伝統的な日本文学が目指してきた特色を理解して自らの表現を楽しむ態度を身に付ける。		
授業概要	概論で学んだ近代までの理解の上に、日本文学演習１の後をうけて、上代から中古の代表的な文学作品を読んで、 時代背景と価値観の理解を通して、日本の文学性について学ぶ。。適宜グループワーク等も入れて主に教科書で採用される文章を学び、 専門的な知識のもとで生徒たちの興味関心を引き出せる力量を目指す。		
授業計画	第１回：上代から中古という時代のそれぞれの特質 第２回： 古事記 第３回： 万葉集 第４回： 古今和歌集 第５回： 古今和歌集より後の八代集 第６回： 竹取物語 第７回： 伊勢物語 第８回： 源氏物語①（藤裏葉まで） 第９回： 源氏物語②（若菜から） 第 10 回：枕草子 第 11 回：土佐日記 第 12 回：大鏡①（巻四） 第 13 回：大鏡②（巻五、巻六） 第 14 回：日記文学 第 15 回：まとめ　上代から中古の文学の特質 定期試験		
授業方法	グループ発表、対話学習等の演習形式で授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	担当を決めた輪読を中心に進め、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	①作品を読み込み、資料作成等演習準備を十分にする。 ②補充発表、課題レポートなどを作成する。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	『日本文学史 古代・中世編』１～３（ドナルド・キーン著、中公文庫）		
評価方法	期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 25%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

No.	543	科目コード	68048
科目名	文学表現特論	授業コード	9315615
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・語彙や構成に着目して文学的文章をはじめとした作品（説明的文章を含む）を深く読むことができる。 ・中学校、高等学校で広く扱われる作品について深く理解し、教材研究に向かう力と見識をつけることができる ・ことばの学習に向かう態度や方法を身につけることができる。 ・ことばの学習を通して、社会と自身との関係を新たに見つめなおし、ことばの学習の指導を構想することができる。		
授業概要	語彙や構成など、主に表現に着目して文学的文章をはじめとした作品（説明的文章を含む）を読み取ることを学ぶ。中学校、高等学校で広く扱われる中心的作品から実験的な作品、また、ことばを鍛える学習に資する教材の学習を通して研究する態度や方法を身につける学びを目指す。		
授業計画	第１回：文学表現特論での学習はどう展開されるか、あるいはその目標と方法 第２回：スピーチを磨くⅠ 第３回：スピーチを磨くⅡ 第４回：視点を鍛えるⅠ（文章を読んで、書く） 第５回：視点を鍛えるⅡ（文章を読んで、書く） 第６回：ビデオ教材活用の可能性Ⅰ（マイケル・サンデルに学ぶ） 第７回：ビデオ教材活用の可能性Ⅱ（マイケル・サンデルに学ぶ） 第８回：構造図を描くⅠ（開高健「パニック」） 第９回：構造図を描くⅡ（開高健「パニック」） 第 10 回：作品研究はどこへ向かうかⅠ（走れメロス　羅生門　山月記） 第 11 回：作品研究はどこへ向かうかⅡ（夏目漱石の諸作品） 第 12 回：語彙に着目したグループ発表Ⅰ 第 13 回：語彙に着目したグループ発表Ⅱ 第 14 回：語彙に着目したグループ発表Ⅲ 第 15 回：ことばの学習を構成するために		
授業方法	講義に加えて構造図の作成、ペアワーク、ディスカッション、グループ発表など、学習者のことばを鍛えるさまざまな方法を用いて理解を進化させる。		
アクティブラーニングの視点	内容を整理した上でのスピーチ、文章の作成、構造図の作成、ディスカッション、グループ発表などを用い、学習者のことばを鍛える。		
授業外学習	教材の熟読、課題の作成などに加えてスピーチ、資料作成や発表などの授業外活動を求める。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	授業で適宜紹介する。		
評価方法	期末試験（50%）、発表や討論など授業への参加状況（20%）、提出課題（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

No.	544	科目コード	68049
科目名	日本文学史	授業コード	9324862
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．日本文学の歴史を知り日本文学の特質と時代背景との関係を理解して文学の特質についての理解を深める。 ２．先人たちが表現しようとした意欲と態度を学ぶことで、日本文学が目指したものについて理解する。 ３．日本文学の歴史を学ぶことで文学とは何かを理解して、自らの文学的表現を高める態度を身に付ける。		
授業概要	作品の読解が中心となる日本文学の授業とは区別して、各時代の代表的な文学作品を通じて社会と個人のあり方や時代の価値観の変遷と文学の意味を学ぶ。この授業を契機として学生自らが自分の興味関心や研究テーマに沿った読書を進める態度を求めていく。 発表やディスカッション等も適宜取り入れていく。		
授業計画	第１回：　文学の時代区分の特徴とジャンルについて 第２回：　上代から中世の文学①　和歌（万葉集から新古今和歌集の前まで） 第３回：　上代から中世の文学②　和歌（新古今和歌集、私家集） 第４回：　上代から中世の文学③　物語等 第５回：　上代から中世の文学④　源氏物語 第６回：　上代から中世の文学⑤　随筆、日記 第７回：　近世の文学①　俳句等 第８回：　近世の文学①　散文 第９回：　明治から大正の文学①　小説等 第 10 回：明治から大正の文学②　韻文等 第 11 回：昭和以降の文学①　小説等 第 12 回：昭和以降の文学②　小説等特に平成 第 13 回：昭和以降の文学③　韻文等 第 14 回：文学とは、文学がめざすもの 第 15 回：まとめ　日本文学が持つもの 定期試験		
授業方法	講義に加え、資料作成などを支援しながら演習を交えて授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	①講義の予習として、該当作品を読む。資料作成を指示することもある。 ②課題のレポートなどを作成する。		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	『精選 日本文学史 改訂版』（市古貞次・中島国彦編著、明治書院）		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 25%、レポート課題 25%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

No.	545	科目コード	68050
科目名	文化社会論特論	授業コード	9315620
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・文化と社会の関係ができるようになる。 ・社会構造の違いによる文化の違いが理解できるようになる。 ・世界各国の社会構造と文化の関連性の特異性について理解できるようになる。 ・日本の独自性が理解できるようになる。		
授業概要	講義科目であるが、授業担当者による講義をもとに自分で文献研究や資料探索をして、自分なりの考えを持てるような取り組みを行う。最終回の授業では学習の成果を発表し合う。		
授業計画	１：オリエンテーション：文化とは、社会とは ２：文化とは１：文化の定義について、文献検索 ３：文化とは２：前回の文献についての購読の続き ４：文化とは３：関連資料の探索 ５：文化とは４：自分としての文化の定義をまとめる ６：社会とは１：社会の定義について、文献検索 ７：社会とは２：前回の文献についての購読の続き ８：社会とは３：関連資料の探索 ９：社会とは４：自分としての社会の定義をまとめる 10：文化と社会の関係の探索 11：社会構造が与える文化への影響の探索 12：世界の諸国における社会と文化の関連性の研究 13：日本の社会と文化の独自性の研究 14：これまでの研究のまとめと発表準備 15：研究成果の発表会		
授業方法	科目担当者による講義形式による学習をもとにして、各回のテーマに沿って文献を探索したり購読したりする。適宜グループワーク等を取り入れて各自の考えをまとめていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等)。		
アクティブラーニングの視点	講義内容に関係して適宜個人発表やグループワーク、ディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	・指定されたテーマについて調査すること。 ・毎回の講義で示された内容をもとに関連する文献を読み、内容をまとめること。 ・世界と日本の社会や文化に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。 ・発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。		
教科書	指定しない。適宜関連資料を提示する。		
参考書	なし		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 30%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場及び行政での教育経験を活かして、幅広く研究を指導する。		

No.	546	科目コード	68051
科目名	海外の文学 1	授業コード	9324625
教員名	江藤　高志		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1、中国文学の変遷と表現に対して多角的な観点による理解を深めることができる。 2、様々な表現を分析し考察することで、自身の表現力へ反映させて豊かにできる。 3、未知の中国文学の作品に対して、自身で調べられる研究方法が身につけられる。		
授業概要	この講義では、中国文学の様々な作品を読んで考えることを通して、表現における創意工夫や意図などを多角的に分析し、作品への理解を深めることを目的としています。各講義は、時代と主題によって選んだ複数の作品を取り上げてゆきます。作品を読む際には、概要理解と漢文訓読による精読とを合わせて進め、そこに内在する様々な問題や背景についても解説してゆきます。また、学生による作品の解題の紹介や、主題に対する考えをまとめるワークシートを実施し、各自の作品への問題意識を深める機会も作ってゆきます。この講義を通して、受講生が中国文学の魅力を知り関心を深めながら、今後中国古典文学を魅力ある教材にできるような研究力も身につけられるように目指します。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション、比喩の文学　『孟子』『荘子』 本講義の目的・概要・評価方法について説明する。 春秋戦国時代の作品から豊富な比喩の役割について理解する。 第 2 回：洞察の文学　『孫子』『韓非子』 秋戦国時代の作品から戦乱を生き抜くために生まれた人間心理への洞察について理解する。 第 3 回：抒情の文学　『毛詩』『楚辞』『韓詩外伝』 春秋戦国時代・前漢の時代の作品から様々な抒情の表現方法について理解する。 第 4 回：史伝の文学　『史記』『漢書』 前漢・後漢時代の作品から人物を通して歴史を描く手法について理解する。 第 5 回：経国の文学　『文選』「三曹七子の文学」 後漢・三国時代の作品から国家における文学の役割ついて理解する。 第 6 回：推薦の文学　『文選』『人物志』 後漢以降南北朝時代までの作品から人物評価や推薦の表現方法について理解する。 第 7 回：神仙の文学　『穆天子伝』『漢武故事』『神仙伝』『桃花源記』 春秋戦国時代以降南北朝時代までの作品から神仙の世界観について理解する。 第 8 回：隠逸の文学　「竹林の七賢」「隠逸伝」 後漢以降唐時代までの作品から世俗に背を向けて生きる逸民について理解する。 第 9 回：志怪の文学　『捜神記』『述異記』 南北朝時代の作品から奇怪な出来事や神秘的な世界観について理解する。 第 10 回：哀惜の文学　『文選』『白氏文集』 後漢以降唐時代までの作品から哀惜の念における文学の役割と表現を理解する。 第 11 回：華美の文学　『文選』『玉台新詠』 前漢以降南北朝時代までの作品から装飾と技巧を凝らした表現方法を理解する。 第 12 回：批評の文学　『世説新語』『蒙求』『文心彫龍』『詩品』 南北朝時代の作品から人物や文学を批評する表現方法とその理想像を理解する。 第 13 回：処世の文学　『列女伝』「人虎伝」「杜子春伝」「鶯鶯伝」 前漢以降唐時代までの作品から人生観や倫理規範を読み取り理解する。 第 14 回：諷喩の文学　杜甫・「長恨歌」「長恨歌伝」『水滸伝』 唐・明時代の作品から社会批判精神としての文学の役割を理解する。 第 15 回：伝承の文学　『梁山泊与祝英台』 南北朝以降現代の作品から中国の四大民間説話の一つである本作品について解説する。		
授業方法	講義形式を基本とし、学生による作品解題の紹介も行う。		
アクティブラーニングの視点	作品に関する話し合いや、各自が作品の主題への理解を深めた後にワークシートを実施する。また、学生による作品の紹介の機会も設ける。		
授業外学習	毎授業前に、当該授業で扱う作品について、概要をつかむなどの準備学修を 1 時間程行うこと。また、毎授業後に、当該授業で学習した内容について 30 分以上復習し、疑問点などを調べてまとめること。		
教科書	講義時に必要な資料を配付する。		

参考書	講義時に適宜紹介する。
評価方法	話し合いやワークシートなどを含めた積極的な参加状況 40%、課題発表 20%、期末レポート 40%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校の国語教育の現場における教員経験がある者が、その経験を活かして講義する。

No.	547	科目コード	68053
科目名	漢文学概論	授業コード	9324002
教員名	重田　明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	1、漢文学の歴史を知り代表的な作品を鑑賞して、漢文学の特質と日本文化に与えた影響について理解できる。 ２、漢文学の基本を学ぶことにより、それぞれの作品における表現効果について理解できる。 ３、漢文学がもつ特色を理解して、自らの表現力を活かして表現力を高める態度を身に付ける。		
授業概要	中国の歴史を知り、教科書に取り上げられることの多い代表的な文章について訓読に慣れて鑑賞する。併せて日本文化との関係を学び、日本の文化に与えた漢文学の影響を知る。高等学校であまり学習していない学生が多いと考えられるので、訓読の基本から始めて読みに慣れることを目指す。発表等も多く取り入れる。		
授業計画	第１回：　中国の歴史の概観、漢文を読むということとは 第２回：　漢文の構造の理解と訓読の基本①（送り仮名、返読する文字） 第３回：　漢文の構造の理解と訓読の基本②（再読文字、置字等） 第４回：　漢文に親しむ①（故事成語：矛盾、五十歩百歩、守株等） 第５回：　漢文に親しむ②（故事成語：画龍点睛、塞翁が馬等） 第６回：　漢文に親しむ③（故事成語：百聞は一見に如かず、虎の威を借る狐、断腸の思い等） 第７回：　漢文に親しむ④（『論語』：為政第二 ― 志学等） 第８回：　漢文に親しむ⑤（『史記』：項羽本紀 ― 四面楚歌等） 第９回：　漢文に親しむ⑥（故事成語の出展を調べる） 第 10 回：漢文に親しむ⑦（故事成語の出展について発表する） 第 11 回：漢詩を読む①（盛唐） 第 12 回：漢詩を読む②（中唐、晩唐） 第 13 回：漢詩について調べる 第 14 回：日本文化に根付いている漢文学 第 15 回：まとめ（全体の振り返り）		
授業方法	講義形式を基本とする。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	毎授業の最後に次の授業の資料を提供するので、辞書調べ、書き下し文の作成等の準備学修を 2 時間以上行うこと。また毎授業後には学んだ内容の振り返りを中心に 2 時間以上の復習を行うこと。		
教科書	全国高等学校国語教育研究連合会編『必携新明説漢文　句法と語彙を一緒に学ぶ』（尚文出版）。その他に必要な資料を提供する。		
参考書	『新字源』等の漢和辞典を各自持参すること。その他必要なものがあれば、授業長に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 40%、発表や討論や振り替えレシート等の授業への参加状況 30%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国語指導に携わった経験を持つ教員が、漢文について講義し、経験を活かして、中学校・高校における漢文指導の基礎を指導する。		

No.	548	科目コード	68054
科目名	漢文学演習	授業コード	9315630
教員名	重田　明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．漢文学の代表的な作品を鑑賞して、漢文学の特質と日本文化に与えた影響についての理解を深める。 ２．漢文学をより深く学ぶことにより、日本文化を支えてきたそれぞれの作品の特質について理解する。 ３．漢文学と日本文学のつながりを理解して、国語科におけるより高く授業力を磨く態度を身に付ける		
授業概要	漢文学概論の後をうけて輪読を続け、教科書に頻出する代表的な文章についての読解に慣れるようにするとともに、歴史的な背景も学んでより理解を深めていく。取り上げられた漢文学が日本文化に与えた影響は大きく、中・高等学校の生徒たちが日本文化の伝統を実感するような授業を実践できる力量を育てる。		
授業計画	第 1 回：　中国文学史の概観、日本との関係 第 2 回：　儒家①（学而第一） 第 3 回：　儒家②（為政第二） 第 4 回：　儒家③（子罕第九他） 第 5 回：　『論語』と日本文化 第 6 回：　諸子 第 7 回：　『史記』①（臥薪嘗胆） 第 8 回：　『史記』②（鴻門の会） 第 9 回：　『史記』③（刎頸の交わり） 第 10 回 :『史記』を調べる（授業実践を考えて） 第 11 回 :『史記』を発表する 第 12 回：　漢詩（唐詩）を読む①（盛唐） 第 13 回：　漢詩（唐詩）を読む②（中唐、晩唐） 第 14 回：　江戸時代から明治時代の漢文・漢詩 第 15 回：　まとめ（全体の振り返り） 定期試験		
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。		
アクティブラーニングの視点	担当を決めた輪読を中心に進め、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく		
授業外学習	輪読やグループワークに対応できるように辞書調べから現代語訳の事前準備を２時間以上行うこと。また授業後は学んだ内容の振り返りを中心に２時間以上の復習を行うこと。		
教科書	【『漢文学概論』で使用】全国高等学校国語教育研究連合会編『必携新明説漢文　句法と語彙を一緒に学ぶ』(尚文出版)。その他に必要な資料を提供する。		
参考書	『新字源』等の漢和辞典を各自持参すること。 『論語』(加地 伸行　(全訳注)、講談社学術文庫) 『史記１　本紀』(小竹 文夫　(訳),小竹 武夫　(訳)、ちくま学芸文庫) 『史記列伝２』(小川 環樹　(ほか訳)、岩波文庫) 等、テキストに応じて紹介する。		
評価方法	期末試験 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 60%、レポート課題 15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国語指導に携わった経験を持つ教員が、漢文について講義し、経験を活かして、中学校・高校における漢文指導について指導する。		

No.	549	科目コード	68055
科目名	書道 1	授業コード	9315635
教員名	重田　明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．書写教育を念頭に漢字の書法を身に付けて、書の鑑賞を通して日本及び東アジアの文化を理解する。 ２．様々な表現方法を学ぶことで、書写教育における幅広い指導力を身に付ける。 ３．書道の特色を理解して、書くことの楽しさを分からせる授業の工夫ができる態度を身に付ける。		
授業概要	基礎的な書法を知り、代表的な作品を鑑賞したり実技をとおして書法の基礎を学んだりして、書道の基本を理解して書写教育の在り方が理解できるようにする。中・高等学校での授業を想定して、筆による漢字のみでなく硬筆や仮名文字等も学ぶ。学んだこともとに最後に独自の作品を仕上げて、書道で表現する喜びを実感する。		
授業計画	第 1 回：　ガイダンス（授業の進め方、用具について等） 第 2 回：　漢字の変遷（書体等）や書法の基本について 第 3 回：　硬筆①（基本点画、縦書き） 第 4 回：　硬筆②（横書き、実用的な文章等） 第 5 回：　書道の基本①（大筆） 第 6 回：　書道の基本②（小筆） 第 7 回：　楷書①（基本練習） 第 8 回：　楷書②（臨書） 第 9 回：　行書①（基本練習） 第 10 回：行書②（臨書） 第 11 回：草書（基本練習、臨書） 第 12 回：仮名文字①（平仮名の基本） 第 13 回：仮名文字②（平仮名、変体仮名） 第 14 回：漢字仮名交じり文（平仮名、変体仮名） 第 15 回：自由選択で清書 定期試験		
授業方法	実技実習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	実技実習及び講義内容について適宜相互評価等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく		
授業外学習	授業後自宅にて振り返りとして毛筆・硬筆等の実技内容の練習をしっかりと行うこと。		
教科書	全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育[増補新訂版]』(萱原書房) 大筆・小筆・ボールペン等の個人持用具を持参すること。		
参考書	中学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 藤原鶴来著「和漢書道史」(二玄社)		
評価方法	期末試験 30%、作品制作や相互評価や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、書道を指導する。		

No.	550	科目コード	68055
科目名	書道１	授業コード	9315636
教員名	重田　明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．書写教育を念頭に漢字の書法を身に付けて、書の鑑賞を通して日本及び東アジアの文化を理解する。 ２．様々な表現方法を学ぶことで、書写教育における幅広い指導力を身に付ける。 ３．書道の特色を理解して、書くことの楽しさを分からせる授業の工夫ができる態度を身に付ける。		
授業概要	基礎的な書法を知り、代表的な作品を鑑賞したり実技をとおして書法の基礎を学んだりして、書道の基本を理解して書写教育の在り方が理解できるようにする。中・高等学校での授業を想定して、筆による漢字のみでなく硬筆や仮名文字等も学ぶ。学んだこともとに最後に独自の作品を仕上げて、書道で表現する喜びを実感する。		
授業計画	第１回：　ガイダンス（授業の進め方、用具について等） 第２回：　漢字の変遷（書体等）や書法の基本について 第３回：　硬筆①（基本点画、縦書き） 第４回：　硬筆②（横書き、実用的な文章等） 第５回：　書道の基本①（大筆） 第６回：　書道の基本②（小筆） 第７回：　楷書①（基本練習） 第８回：　楷書②（臨書） 第９回：　行書①（基本練習） 第 10 回：行書②（臨書） 第 11 回：草書（基本練習、臨書） 第 12 回：仮名文字①（平仮名の基本） 第 13 回：仮名文字②（平仮名、変体仮名） 第 14 回：漢字仮名交じり文（平仮名、変体仮名） 第 15 回：自由選択で清書 定期試験		
授業方法	実技実習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜相互評価等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく		
授業外学習	授業後自宅にて振り返りとして毛筆・硬筆等の実技内容の練習をしっかりと行うこと。		
教科書	全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育[増補新訂版]』(萱原書房) 大筆・小筆・ボールペン等の個人持用具を持参すること。		
参考書	中学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 藤原鶴来著「和漢書道史」(二玄社)		
評価方法	期末試験 30%、作品制作や相互評価や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして書道を指導する。		

No.	551	科目コード	68056
科目名	書道２	授業コード	9324640
教員名	重田　明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．代表的な書法を知り、書道の一般的な技法を理解して書写教育の発展的な在り方を身に付ける。 ２．代表的な書法についてより深く表現方法を学ぶことで、書写教育における専門的な指導力を身に付ける。 ３．書道の特色をより深く理解して、自分の特技を生かした発展的な授業の工夫ができる態度を身に付ける。		
授業概要	行書や楷書だけでなく隷書や篆書・篆刻も学び、実技をとおして書道の美意識を理解できるようにする。また、仮名文字や硬筆による書写も学んで、日本の文化とのつながりを実感する。最後に独自の作品を仕上げて、書道で表現することの喜びを実感するとともに、書写教育の在り方についての考えを高める。		
授業計画	第１回： ガイダンス（授業の進め方等）、書体の特徴と変遷 第２回： 漢字の変遷（書体等）や書法の基本について 第３回： 行書①（基本練習） 第４回： 行書②（「蘭亭序」臨書） 第５回： 行書③（臨書自由選択、清書） 第６回： 隷書（「曹全碑」他臨書） 第７回： 篆書（「泰山刻石」他臨書） 第８回： 篆刻 第９回： 楷書①（「九成宮醴泉銘」臨書） 第 10 回： 楷書②（臨書自由選択、清書） 第 11 回： 仮名文字（高野切他臨書） 第 12 回： 漢字仮名交じり文 第 13 回： 硬筆①（基本点画） 第 14 回： 硬筆②（実用的な文章等） 第 15 回： 作品制作 定期試験		
授業方法	実技実習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜相互評価等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業後自宅にて振り返りとして毛筆・硬筆等の実習内容の練習をしっかりと行うこと。		
教科書	【『書道１』で使用】全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育[増補新訂版]』(萱原書房) 大筆・小筆・ボールペン等の個人持用具を持参すること。		
参考書	中学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 藤原鶴来著「和漢書道史」(二玄社)		
評価方法	期末試験 30%、作品制作や相互評価や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして書道を指導する。		

No.	552	科目コード	68057
科目名	和文化演習 1	授業コード	9315645
教員名	中村　哲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．我が国の「伝統や文化」を基軸としてグローバルな視野から文化の交流と創造を意図する和文化の領域について理解し、その和文化の価値を指導する資質・能力を形成する。 ２．和文化の領域における言語文化の役割と活用を考察し、学校教育における教育課程の意義と編成を理解する。 ３．中学校・高等学校の国語科における和文化の価値の理解と体験を踏まえて国語科教育の教材研究と指導法の能力と技能を習得する。		
授業概要	国語科教育の教材研究と指導法の能力と技能の授業実践力を、我が国の「伝統や文化」を基軸としてグローバルな視野から文化の交流と創造を図る文化関与と国語科における言語文化の役割と活用が学校教育の教育課程の基盤になる教育関与を視野に形成する。その為に、和文化教育としての伝統行事、文芸、話芸、芸道などの領域から各自が興味関心を有する教材を開発する。		
授業計画	第 1 回：　和文化教育の基本的性格と社会的背景 第 2 回：　和文化教育の先駆的地域の教育動向と授業実践 第 3 回：　学校教育における教育課程の和文化教育の役割と意義（中等教育課程の調査も含む。） 第 4 回：　和文化教育における生活文化（衣食住、年中行事、通過儀礼、あそび、自然と生活）に関する教材研究 第 5 回：　和文化教育における生活文化に関する模擬授業と評価 第 6 回：　和文化教育における生活文化に関する改善教材開発 第 7 回：　和文化教育における伝統文化（能・狂言、茶道、華道、書道、神社・仏閣、武道等）に関する教材研究 第 8 回：　和文化教育における伝統文化に関する模擬授業と評価 第 9 回：　和文化教育における伝統文化に関する改善教材開発 第 10 回：和文化教育における地域文化（歌舞伎、人形浄瑠璃、丹波焼、城郭と寺社等）に関する教材研究 第 11 回：和文化教育における地域文化に関する模擬授業と評価 第 12 回：和文化教育における地域文化に関する改善教材開発 第 13 回：和文化教育における現代日本文化（漫画・アニメ、映画。音楽、テクノロジー等）に関する教材研究 第 14 回：和文化教育における現代日本文化に関する模擬授業と評価 第 15 回：和文化教育における現代日本文化に関する改善教材開発		
授業方法	演習科目であるので、基本的には学習者が各自の興味関心を有する教材研究と授業案を担当授業の際には報告し、模擬授業を実践する。さらに、教材研究と模擬授業の評価を踏まえて改善教材の開発をする。		
アクティブラーニングの視点	和文化教育と国語科教育のモデル教材として、生活文化、伝統文化、地域文化、現代日本文化に関する教材内容研究、学習指導案設計、模擬授業の実践と評価に関する課題について各自の問題関心を踏まえた主体的な対応と共にグループの協働的対応を関連づける学習活動を活用する。		
授業外学習	改善授業及び教材の開発に際しては、授業時間内で対応できない場合があるので、単位数に応じた授業外学習が必要になる。		
教科書	中学校学習指導要領解説　国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　国語編（平成 30 年 7 月　文部科学省）		
参考書	『和文化　日本の伝統文化を体感する QA 事典』（中村哲編、明治図書） 『伝統と文化に関する教育課程の編成と授業実践』（安部崇慶・中村哲編、風間書房） 『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』（中村哲編、銀河書房）		
評価方法	授業の出席と参加態度（４０%）　学習指導案の設計案と開発の評価（４０%）　課題レポート（２０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	553	科目コード	68058
科目名	和文化演習２	授業コード	9324650
教員名	中村　哲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 １.国際文化交流を視野に国語科教育を含む和文化教育に関連する日本文化（生活文化、伝統文化、地域文化、現代文化）を理解する。 ２.国際文化交流を視野に国語科教育を含む和文化教育に関連する日本文化（生活文化、伝統文化、地域文化、現代文化）の教材を研究・体験・表現する。 ３.国際文化交流を視野に国語科教育を含む和文化教育に関連する日本文化（生活文化、伝統文化、地域文化、現代文化）のマルチメディア教材（日本語・外国語）の開発と活用の能力・技能を習得する。		
授業概要	国際交流を視野に国語科教育を含む和文化教育に関連する日本文化（生活文化、伝統文化、地域文化、現代文化）のマルチメディア教材（日本語・外国語）の開発と活用の能力・技能を、文化内容の調査・体験・表現の理解関与とマルチメディア活用の技法関与を視野に形成する。その為の教材については学習者が選択する。		
授業計画	第１回：　国際文化交流を意図する日本文化の魅力と教育意義 第２回：　国際文化交流を意図する生活文化の魅力～衣食住・年中行事・遊びなど～の教材研究 第３回：　国際文化交流を意図する伝統文化の魅力～能・狂言・茶道・武道・書道など～の教材研究 第４回：　国際文化交流を意図する地域文化の魅力～焼物・伝統工芸・祭り・染色など～の教材研究 第５回：　国際文化交流を意図する現代文化の魅力～マンガ・アニメ・映画・歌謡曲など～の教材研究 第６回：　日本文化の魅力の教材開発の構想と設計～教材選択と全体構成案作成～ 第７回：　日本文化の魅力の教材開発ソフトの技法と利用～パワーポイントの基本操作とスライド作成～ 第８回：　日本文化の魅力の教材開発の準備と作業～パワーポイント開発教材の画面とキャンプション～ 第９回：　日本文化の魅力の開発教材の内容と構成～パワーポイント開発教材の言語表現とストーリー～ 第 10 回：日本文化の魅力の開発教材の活用と効果～パワーポイント開発教材の動作と検証～ 第 11 回：日本文化の魅力の開発教材の発表と評価～生活文化の魅力の開発教材～ 第 12 回：日本文化の魅力の開発教材の発表と評価～伝統文化の魅力の開発教材～ 第 13 回：日本文化の魅力の開発教材の発表と評価～地域文化の魅力の開発教材～ 第 14 回：日本文化の魅力の開発教材の発表と評価～現代文化の魅力の開発教材～ 第 15 回：国際文化交流を意図する日本文化の魅力の開発教材の教育意義と教育課題		
授業方法	演習科目であるので、基本的には学習者が各自の興味関心を有する教材研究と開発教材を担当授業の際には報告し、開発教材を発表する。その際に、パワーポイントのアプリを活用してマルチメディアの教材を開発する。		
アクティブラーニングの視点	国際文化交流を意図する日本文化の魅力に関する教材内容研究、パワーポイント活用の開発教材の選択と全体構成、開発作業と発表活動等に関する課題について各自の問題関心を踏まえた主体的な対応と開発教材の発表と評価に関する協働的対応を関連づける学習活動を活用する。		
授業外学習	改善教材の開発に際しては、授業時間内で対応できない場合があるので、単位数に応じた授業外学習が必要になる。		
教科書	内容に応じて、適宜テキストを配布する		
参考書	中学校学習指導要領解説　国語編（平成 29 年７月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　国語編（平成 30 年７月　文部科学省） 『よくわかる Microsoft Power Point 2019　基礎』(FOM 出版) 『和文化　日本の伝統文化を体感する QA 事典』(中村哲編、明治図書) 『伝統と文化に関する教育課程の編成と授業実践』(安部崇慶・中村哲編、風間書房) 『「伝統や文化」に関する教育の性格と教材開発』(中村哲編、銀河書房)		
評価方法	授業の出席と参加態度（４０%）　開発教材の作成と発表の評価（４０%）　課題レポート（２０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	554	科目コード	68059
科目名	言語技術論 1	授業コード	9315209
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. 基礎的な文章表現の方法を身につけ、筋の通った文章を書いたり話したりできる。 2. 文章読解の基本的な方法を理解して、根拠に基づいた正確な読解の技術を身につける。 3. より的確な表現、より正確な読解となるような指導の技法を向上させる態度を身につける。		
授業概要	言語技術の基本的な構造を学ぶことによって、効果的な表現方法と正確な読解方法を身につける。 日本語の基礎的知識を踏まえた上で、文章構造の正確な理解に基づく根拠を踏まえた読み取りの力をつけ、説得力のある表現方法を身に付ける。その上で、レポート・論文等の文章作成の基本事項を習得し、具体的な問題設定と材料の組立を意識した課題レポートを作成する。また、日常会話の表現技術を高めるとともに、口頭発表や討論などにおける効果的な表現を獲得する。		
授業計画	第 1 回：日本語表現の特質（1）言語の特質と表現法の基礎 第 2 回：日本語表現の特質（2）日本語の特質、表記と構造 第 3 回：効果的な対話：聞くことと話すこと、問答 第 4 回：効果的な口頭表現：プレゼンテーション、ディスカッション 第 5 回：文章読解の基礎（1）：構造を理解する、展開を理解する 第 6 回：文章読解の基礎（2）：正確な読解とは 第 7 回：文章読解の実際（1）：物語文 第 8 回：文章読解の実際（2）：文学的な文章 第 9 回：文章読解の実際（3）：説明的な文章 第 10 回：文章読解の実際（4）：論理的な文章 第 11 回：クリティカル・リーディングとは 第 12 回：クリティカルなディスカッションとは 第 13 回：より効果的なプレゼンテーションとは 第 14 回：話し言葉の表現(3)　討論 第 15 回：より豊かな表現のために　まとめ 定期試験		
授業方法	1. 必要な教材の読み込み 2. 議論 3. グループディスカッション 4. 発表 5. 作文 6. 作文の添削(学生同士)		
アクティブラーニングの視点	基礎的な文章作法を学ぶことと、実践的な課題に取り組むことを繰り返しながら表現法と読解法を学ぶ。また、口頭発表や討議などにおける話し言葉の効果的な表現を習得する。より豊かな言語感覚を目指すために、予習としてテキストを読み、復習として課題を完成させる。授業時間以外における文章作成やコミュニケーション上の言葉遣いについても、常に分析的な意識を持つことが望まれる。 【授業において重要なこと】 ・積極的に発言すること ・正解は存在しないため妥当な解を巡って恐れずに発言すること ・単語で発言しないこと。文形式の発言のみを行うこと ・他者の意見をよく読み、聞きながら、常に分析的、批判的に考えること ・自分の考え等を図解するなどして視覚的に表現する力を持つこと		
授業外学習	特に予定しない		
教科書	資料は授業で指示等します。		
参考書	資料は授業で指示等します。		
評価方法	期末試験 30%		

	発言や発表、討論、振り返りシート等の授業への参加状況 35% レポート課題 35% ★「言語技術」においてはとりわけ授業への積極的な参加態度を重視するため、授業における発言が非常に重要である ★作文課題の未提出は認めない
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。

No.	555	科目コード	68060
科目名	言語技術論２	授業コード	9324260
教員名	小山　秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	1．幅広く文章表現の方法を身につけ、説得力のある文章を書いたり話したりできる。 2．文章読解の方法を理解して、根拠に基づいた正確な読解の技術をより高度なものにする。 3．より的確な表現、より正確な読解となるような指導の技法を向上させる態度を身につける。		
授業概要	言語技術論 1 の発展として言語技術を深く理解して、正確な読解法と効果的な表現についてより高度な技術を身につけられるように学習する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全てに渡って正確な技能を習得できるよう様々な場面を踏まえた実践的な学習を行い、表現技術を高めるとともに、文章理解の技能や口頭発表や討論・議論などにおける効果的な表現を身につける。最終的には学校における指導についても考える。		
授業計画	第１回：コミュニケーション・スキルとは 第２回：論理的思考のために（1）：話す技術、聞く技術 第３回：論理的思考のために（2）：書く技術、読む技術 第４回：論理的思考のために（3）：論証の技術 第５回：論理的思考のために（4）：推論の技術 第６回：論理的思考のために（5）：説明の技術 第７回：効果的な表現のために（1）：描写の技術 第８回：効果的な表現のために（2）：ディスカッションの技術 第９回：効果的な表現のために（3）：プレゼンテーションの技術 第 10 回：効果的な表現のために（4）：交渉の技術、説得の技術 第 11 回：インタープリーティング(分析、解釈) 第 12 回：クリティカル・シンキング(批判的思考) 第 13 回：中学・高校生に求められる言語技術とその指導 第 14 回：言語技術の養成のための中学・高校生に向けた教材を作る 第 15 回：まとめと到達度の確認 定期試験		
授業方法	1．必要な教材の読み込み 2．議論 3．グループディスカッション 4．発表 5．作文 6．作文の添削(学生同士)		
アクティブラーニングの視点	そもそも講義そのものを議論形式で実施する。そのため、傍聴するだけの参加、居眠り、学生同士の雑談などの非能動的な授業態度は認めない。 講義内容について、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな進化を深めていく。		
授業外学習	特に予定しない。		
教科書	「言語技術 1」に同じ 「言語技術 2」においては特に「言語技術のレッスン」（つくば言語技術教育研究所編）を主に用いる ＊必要に応じて適宜プリントを印刷して配布する		
参考書	「言語技術 1」に同じ 1.「大学生・社会人のための言語技術トレーニング」（三森ゆりか著　大修館） 2.「ビジネス・パーソンのための『言語技術』超入門」（三森ゆりか著　中公新書ラクレ） 3.「外国語を身につけるための日本語レッスン」（三森ゆりか著　白水社） 4．欧米各国の国語の教科書類は基本的に言語技術の内容で構成されているため参考になる		
評価方法	期末試験 30% 発言や発表、討論、振り返りシート等の授業への参加状況 35% レポート課題 35%		

	★「言語技術」においてはとりわけ授業への積極的な参加態度を重視するため、授業における発言が非常に重要である。 ★作文課題の未提出は認めない
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。

No.	556	科目コード	68061
科目名	国語科教育法１（中・高）	授業コード	9315624
教員名	今宮　信吾		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校、高等学校の国語科の学習内容と指導過程に習熟することができる。国語科の概要や国語科の指導過程と指導案作成法について学びながら、国語力養成のための確認テストや国語科教材についての自らの見解を報告することができる。		
授業概要	学校教育の中で国語科が担う課題と要請とはどのようなものか、国語科の学習領域と指導過程とはどのようにかかわっているのか、こうした内容を学びながら、国語科のあり方および国語科教育のあり方についての認識を深める。それとともに、中学校、高等学校の国語科教材を用いながら、教材の扱い方、情報機器の用い方についての実践力を養成する。		
授業計画	第１回:学校教育における国語科教育の位置 第２回:国語科教育の領域と指導過程 第３回:国語科の指導過程と学習指導案の作成 第４回:論理的文章教材の指導過程-説明文教材の指導 第５回:音声・言語教材の指導過程 第６回:文学教材の指導過程(1)-詩教材の指導 第７回:文学教材の指導過程(2)-近代小説教材の指導 第８回:文学教材の指導過程(3)-現代小説教材の指導 第９回:確認テスト及び解説 2(論理的文章、音声・言語教材) 第 10 回:模擬授業(1)-文学教材の指導 第 11 回:模擬授業(２)-説明文教材の指導 第 12 回:模擬授業(３)-音声言語教材の指導 第 13 回:模擬授業(４)-高等学校選択教科の指導 第 14 回:関連学習の組織とアクティブ・ラーニングの視点および学習評価 第 15 回:確認テスト及び解説 3(文学教材、古典教材)		
授業方法	オリエンテーションにおいて、自分の課題を決め、それに向けて毎時間の課題について事前に予習し、授業においては、それぞれが調べたことを元にして討議を行う。協働的な学習を中心として、自分の授業ストックを積み重ねていき、教師力を高めていく。学習指導要領理解、指導過程の理解については、レポート作成を行う。		
アクティブラーニングの視点	学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	学習の流れが定着した後は、各回必ず課題が出るので、それについて予習を行う。この課題に対する各自の解を用意できる予習を行わなければならない。		
教科書	中学校学習指導要領解説 国語編(平成 29 年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 国語編(平成 30 年 7 月 文部科学省)		
参考書	国語科指導辞典(全国大学国語教育学会編、東洋館出版)		
評価方法	学習指導要領理解(50%)、指導過程の理解度(20%)、授業への参加度(30%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公私立小学校における教員経験があり、中学校国語科の免許と授業経験もある。その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。　講義中心ではなく、演習中心の授業を行う。		

No.	557	科目コード	68062
科目名	国語科教育法２（中・高）	授業コード	9324627
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・中学校、高等学校の国語科教材研究、指導案作成、模擬授業等を中心に授業を展開し、実践力を身につけることができる。 ・授業検討会の方法について学び、教師力向上の視点から授業研究の大切さを理解し、実践することができる。		
授業概要	国語科教育における指導過程の構想とその実践を中心に授業を進める。国語科の各指導領域において、教材の位置づけかた、教材研究と指導過程の構想、関連学習の組織・アクティブ・ラーニングの視点といった実践的な授業方法を学ぶとともに、実際の中学校、高等学校の国語科教材に即して教材研究を行い、受講者が自ら学習指導案を作成し、模擬授業によって授業技術に習熟するとともに、その成果を振り返り、評価する能力を高める。		
授業計画	第１回：国語科の領域と学習指導案の作成法 第２回：学習指導案の作成（１）説明文・論理的文章教材 第３回：学習指導案の作成（２）文学教材 第４回：学習指導案の作成（３）古典教材 第５回：確認テスト及び解説①（学習指導案の作成） 第６回：論理的文章教材の模擬授業（１）説明文・論説文教材 第７回：論理的文章教材の模擬授業（２）評論文教材 第８回：論理的文章教材の模擬授業についての振り返り・授業評価（アクティブ・ラーニングの視点からの評価を含む） 第９回：確認テスト及び解説②（論理的文章教材の模擬授業） 第10回：文学教材の模擬授業（１）詩教材 第11回：文学教材の模擬授業（２）近代小説 第12回：文学教材の模擬授業（３）現代小説 第13回：文学教材の模擬授業についての振り返り・授業評価（アクティブ・ラーニングの視点からの評価を含む） 第14回：古典教材の模擬授業 第15回：古典教材の模擬授業についての振り返り。確認テスト及び解説③（文学・古典教材模擬授業）		
授業方法	講義、指導案作成、模擬授業の実施とその指導		
アクティブラーニングの視点	教材の特性と教材解釈に基づく学習指導案の作成と模擬授業を行う。個別とクループワークの両方で行う。模擬授業の成果と課題については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	学習指導案作成と模擬授業の準備。教材として取り上げられている様々な作品の読み込み。		
教科書	中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）		
参考書	国語科指導辞典（全国大学国語教育学会編　東洋館出版）		
評価方法	期末テスト（30%）、学習指導案・模擬授業実施（30%）、模擬授業中の参加度（20%）、授業全体への参加度（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	558	科目コード	68063
科目名	国語科教育法 3（中・高）	授業コード	9315655
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・中学校国語科の理念、目標、全体構成を理解することができる。 ・ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容について、それぞれの目標や指導内容および背景を理解するとともに、授業実践に必要な知識、授業方法、技能等を身に付けることができる		
授業概要	・学習指導要領、教科書等を通して、中学校国語科の目標、全体構成、ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容を具体的に理解する。 ・中学校国語科の個別の学習内容に関する教材開発例や授業実践事例等を通して、授業実践に必要な考え方、知識、技能等を具体的に理解する。 ・中学校国語科の授業を実践するために、教材研究を行い、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を行う。		
授業計画	第１回：現代の国語科の課題・学習指導要領について 第２回：国語科の本質・目標・構造 第３回：国語科の指導過程 、指導・評価の視点、情報機器を利用した授業設計について 第４回：物語・小説教材の分析と指導例１中学校１年生教材　例「サーカスの馬」（安岡章太郎） 第５回：物語・小説教材の分析と指導例２ 中学校２年生教材　例「夏の葬列」（山川方夫） 第６回：物語・小説教材の分析と指導例３ 高等学校教材　例「カンガルー日和」（村上春樹） 第７回：詩歌教材の分析と指導例 第８回：教材研究と指導案作成１ 中学校１年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの） 第９回：教材研究と指導案作成２ 中学校２年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの） 第 10 回：教材研究と指導案作成３ 中学校３年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの 第 11 回：模擬授業１　 中学校１年生教材 第 12 回：模擬授業２　 中学校２年生教材 第 13 回：模擬授業３　 中学校３年生教材 第 14 回：模擬授業の評価、振り返り（アクティブ・ラーニングの取り入れ方についての評価を含む） 第 15 回：文学教材のまとめ		
授業方法	授業の実際を想定して国語科授業の組み立てについて学ぶ（科目担当者による講義形式）とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の理解を深めていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等）。また模擬授業を実施することで相互に確認する。		
アクティブラーニングの視点	教材の特性と教材解釈に基づく学習指導案の作成と模擬授業を行う。個別とクループワークの両方で行う。模擬授業の成果と課題については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	教科書をしっかり読み込んで理解しておく。また、教科書採録の作品以外にも幅広く読書をして見識を広め深めておき、グループワーク等で活かせるようにしておく。模擬授業の実施までに指導案の作成に慣れておく。		
教科書	中学校　国語１・２・３（光村図書） 基礎から学べる！文章力ステップ準２級対応　（公財）日本漢字能力検定協会		
参考書	光村図書以外の教科書（三省堂、東京書籍等） 中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）		
評価方法	期末テスト（30%）、学習指導案・模擬授業実施（30%）、模擬授業中の参加度（20%）、授業全体への参加度（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして授業づくりについての指導をする。		

No.	559	科目コード	68064
科目名	国語科教育法４（中・高）	授業コード	9324660
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・高等学校国語科の理念、目標、全体構成を理解することができる。 ・ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容について、それぞれの目標や指導内容および背景を理解するとともに、授業実践に必要な知識、授業方法、技能等を身に付けることができる。		
授業概要	・学習指導要領、教科書等を通して、高等学校国語科の目標、全体構成、ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容を具体的に理解する。 ・高等学校国語科の個別の学習内容に関する教材開発例や授業実践事例等を通して、授業実践に必要な考え方、知識、技能等を具体的に理解する。 ・高等学校国語科の授業を実践するために、小学校と中学校の教材を比較しながら教材研究を行い、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を行う。		
授業計画	第 1 回：説明文・評論教材の分析と指導例１　小学校高学年教材　例「インスタント食品とわたしたちの生活」（大塚滋） 第 2 回：説明文・評論教材の分析と指導例２　中学校 1 年生教材　例「食感のオノマトペ」（早川文代） 第 3 回：説明文・評論教材の分析と指導例３　中学校 3 年生教材　例「ディズニーランドという聖地」（能登路雅子） 第 4 回：説明文・評論教材の分析と指導例４　高等学校教材　例「らしさ」（鷲田清一） 第 5 回：教材研究と指導案作成１　高等学校校 1 年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの） 第 6 回：教材研究と指導案作成２　高等学校 2 年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの） 第 7 回：教材研究と指導案作成３　高等学校 3 年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの） 第 8 回：模擬授業１　高等学校 1 年生教材 第 9 回：模擬授業２　高等学校 2 年生教材 第 10 回：模擬授業３　高等学校 3 年生教材 第 11 回：模擬授業の評価、振り返り（アクティブ・ラーニングの取り入れ方についての評価を含む） 第 12 回：表現教育について１（作文教育の課題） 第 13 回：表現教育について２（作文教育の指導例） 第 14 回：音声言語教材の分析と指導例（情報機器を活用した指導例、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導例） 第 15 回：古典教材の指導例（情報機器を活用した指導例を含む）・まとめ		
授業方法	授業の実際を想定して国語科授業の組み立てについて学ぶ（科目担当者による講義形式）とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の理解を深めていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等）。また模擬授業を実施することで相互に確認する。		
アクティブラーニングの視点	教材の特性と教材解釈に基づく学習指導案の作成と模擬授業を行う。個別とクループワークの両方で行う。模擬授業の成果と課題については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	教科書をしっかり読み込んで理解しておく。また、教科書採録の作品以外にも幅広く読書をして見識を広め深めておき、グループワーク等で活かせるようにしておく。模擬授業の実施までに指導案の作成に慣れておく。		
教科書	高等学校国語教科書（東京書籍） 現代の国語（現国 703）、精選言語文化（言文 702）		
参考書	高等学校国語教科書（東京書籍）論理国語、文学国語、国語表現、古典探究 東京書籍以外の国語教科書（大修館等） 中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）		

	高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	期末テスト（30%）、学習指導案・模擬授業実施（30%）、模擬授業中の参加度（20%）、授業全体への参加度（20%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして授業づくりについての指導をする。

No.	560	科目コード	68065
科目名	Learning and Teaching Grammar for Communication 1	授業コード	9315131
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 3 回	単位数	3
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	授業のテーマ 4 技能と結びつけた英文法の再学習による文法力の向上と効果的な文法指導法の習得 到達目標 1. 中学校及び高等学校で学習した英文法を 4 技能と結びつけて再学習することにより、実際のコミュニケーション（特に、スピーキングとライティング）で使える文法力を身につける。 2. 英語史や認知言語学ほかの英語学・言語学の研究成果に基づく「学習者が納得できる文法説明」とこれまでの外国語習得研究の成果を応用した「4 技能と結びつけた文法の効果的指導法」を身につける。		
授業概要	英語力の向上に不可欠な文法力を強化するために、中学校及び高等学校で学習した英文法を再学習するとともに、導入から発展までの学習活動と言語活動、生徒の疑問に対して「ルールだから覚えておけ」というような指導ではなく、生徒が納得のいく説明まで、教員になったときに必要な効果的な文法指導法を学ぶ。 授業では次の①～⑧を様々な形態（一斉・グループ・ペア・個人）で行う。 ①前時の復習（瞬間英作文） ②前時に学習した文法事項を用いた発展練習 ③小テスト ④力試し（④で再学習する文法事項が現時点で使えるかどうか、場面状況を設定してスピーキングまたはライティングでチェック） ⑤演繹的な指導法または帰納的な指導法による導入 ⑥明示的説明・基本例文の音読練習 ⑦4 技能と結びつけた文法学習活動 ⑧学習した文法事項を用いた言語活動		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション　文の種類（1）：平叙文（肯定文と否定文）・疑問文・感嘆文・命令文・Wh 疑問文 第 2 回： 文の種類（2）：間接疑問文・慣用表現 第 3 回： 動詞と文型（1）：自動詞・第 1 文型・第 2 文型 第 4 回： 動詞と文型（2）：他動詞・第 3 文型・第 4 文型 第 5 回： 動詞と文型（3）：第 5 文型・複数の文型で用いられる動詞・句動詞 第 6 回： 現在と過去の表し方（1）：現在時制・現在進行形・過去時制・過去進行形 第 7 回： 現在と過去の表し方（2）：過去時制と現在完了 第 8 回： 現在と過去の表し方（3）：過去時制と過去完了 第 9 回： 現在と過去の表し方（4）；現在完了と過去完了 第 10 回： 現在と過去の表し方（5）：現在完了進行形と過去在完了進行形 第 11 回： 未来の表し方（1）：will・shall・be going to, be about to、 ：will と be going to の違い 第 12 回： 未来の表し方（2）：現在時制・現在進行形・未来進行形・be to 不定詞 第 13 回： 未来の表し方（3）：未来完了形：未来過去完了進行形 第 14 回： 条件・仮定の表し方（1）：直説法と仮定法 第 15 回： 条件・仮定の表し方（2）：仮定法過去 第 16 回： 条件・仮定の表し方（3）：仮定法過去完了 第 17 回： 条件・仮定の表し方（4）：should, were to を用いた仮定法 第 18 回： 条件・仮定の表し方（5）：if の省略・if 節に代わる仮定の表現 第 19 回： 不定詞(1)：名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法 第 20 回： 不定詞（2）：・不定詞の否定形・SVO+to 不定詞 第 21 回： 不定詞（3）：不定詞の意味上の主語・原形不定詞 第 22 回： 不定詞(4)：・様々な形の不定詞・注意すべき不定詞原形不定詞・不定詞を用いた重要表現 第 23 回： 使役の表し方（1）：make と let と have 第 24 回： 使役の表し方（2）：get 、その他の動詞による表現（force, compel, oblige）		

	第 25 回： 動名詞（1）：文中での働き・動名詞の意味上の主語・否定語の位置 第 26 回： 動名詞（2）：動名詞の位置・様々な形の動名詞 第 27 回： 動名詞（3）：動名詞の重要表現 第 28 回： 分詞（1）：限定用法・叙述用法 第 29 回： 分詞（2）：分詞構文 第 30 回： 分詞（3）：付帯状況を表す with＋分詞ほか 第 31 回： 分詞（4）：分詞の重要表現 第 32 回： 受け身の表し方（1）： 能動態と受動態・受動態の用法・動作主の省略 第 33 回： 受け身の表し方（2）： 様々な構文による表し方 1 第 34 回： 受け身の表し方（3）：様々な構文による表し方 2 第 35 回： 否定の表し方（1）：not，no を用いた表し方・部分否定と全部否定 第 36 回： 否定の表し方（2）：その他の表し方 1 第 37 回： 否定の表し方（3）：その他の表し方 2・二重否定 第 38 回： 文のつなぎ方（1）：関係代名詞の基本用法 第 39 回： 文のつなぎ方（2）：関係代名詞の非制限用法 第 40 回： 文のつなぎ方（3）：関係副詞の基本用法 第 41 回： 文のつなぎ方（4）：関係副詞の非制限用法 第 42 回： 文のつなぎ方（5）：関係代名詞 what・複合関係詞 第 43 回： 時制の一致 第 44 回： 話法（1）：直接話法と間接話法 第 45 回： 話法（2）平叙文以外の間接話法・接続詞を用いた発言の間接話法
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	共同で授業案を作成しお互いに学び合う 模擬授業を通じて基礎的な文法項目を教員として生徒に指導できるようにする 他者の模擬授業を建設的に批判できるようにする アドバイスを受けて自分の模擬授業を改善する
授業外学習	①教科書のモノローグ、ダイアログ、ロールプレイのシャドーイングを含む音読練習 ⑥文法項目を用いたオーラル・イントロダクション作成 ⑦例文と解説 ⑧学習した文法事項を用いた練習と言語活動作成 ⑨模擬授業計画作成
教科書	岩村圭南『音読で英文法をモノにする本』アルク，2020 年 田中 武夫・田中 知聡『英語教師のための文法指導デザイン』大修館書店，2014
参考書	赤野一郎・堀正広・投野由起夫（編著）『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館書店 井上永幸・赤野一郎（編）『ウイズダム英和辞典』三省堂 内田聖二（編）『英語談話表現辞典』三省堂 柏野健次（編著）『英語語法レファレンス』三省堂 久野暲・高見健一『謎解きの英文法シリーズ』くろしお出版
評価方法	音読 20%　日⇔英小テスト 20%　模擬授業計画作成 20%　模擬授業実施 20%　模擬授業振り返り 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、文法力の向上と文法指導法修得を援助する。

No.	561	科目コード	68066
科目名	Learning and Teaching Grammar for Communication 2	授業コード	9324141
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 3 回	単位数	3
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 テーマ 4 技能と結びつけた英文法の再学習による文法力の向上と効果的な文法指導法の習得 到達目標 1. 中学校及び高等学校で学習した英文法を 4 技能と結びつけて再学習することにより、実際のコミュニケーシ ョン（特に、スピーキングとライティング）で使える文法力を身につける。 2. 英語史や認知言語学ほかの英語学・言語学の研究成果に基づく「学習者が納得できる文法説明」とこれまでの外国語習得研究の成果を応用した「4 技能と結びつけた文法の効果的指導法」を身につける。		
授業概要	英語力の向上に不可欠な文法力を強化するために、中学校及び高等学校で学習した英文法を再学習するとともに、導入から発展までの学習活動と言語活動、生徒の疑問に対して「ルールだから覚えておけ」というような指導ではなく、生徒が納得のいく説明まで、教員になったときに必要な効果的な文法指導法を学ぶ。 授業では次の①～⑧を様々な形態（一斉・グループ・ペア・個人）で行う。 ①前時の復習（瞬間英作文） ②前時に学習した文法事項を用いた発展練習 ③小テスト ④力試し（④で再学習する文法事項が現時点で使えるかどうか、場面状況を設定してスピーキングまたはライティングでチェック） ⑤演繹的な指導法または帰納的な指導法による導入 ⑥明示的説明・基本例文の音読練習 ⑦4 技能と結びつけた文法学習活動 ⑧学習した文法事項を用いた言語活動		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション・ 文の種類（1）：平叙文（肯定文と否定文）・疑問文・感嘆文・命令文・Wh 疑問文 第 2 回： 文の種類（2）：間接疑問文・慣用表現 第 3 回： 動詞と文型（1）：自動詞・第 1 文型・第 2 文型 第 4 回： 動詞と文型（2）：他動詞・第 3 文型・第 4 文型 第 5 回： 動詞と文型（3）：第 5 文型・複数の文型で用いられる動詞・句動詞 第 6 回： 現在と過去の表し方（1）：現在時制・現在進行形・過去時制・過去進行形 第 7 回： 現在と過去の表し方（2）：過去時制と現在完了 第 8 回： 現在と過去の表し方（3）：過去時制と過去完了 第 9 回： 現在と過去の表し方（4）；現在完了と過去完了 第 10 回： 現在と過去の表し方（5）：現在完了進行形と過去在完了進行形 第 11 回： 未来の表し方（1）：will・shall・be going to, be about to、 ：will と be going to の違い 第 12 回： 未来の表し方（2）：現在時制・現在進行形・未来進行形・be to 不定詞 第 13 回： 未来の表し方（3）：未来完了形：未来過去完了進行形 第 14 回： 条件・仮定の表し方（1）：直説法と仮定法 第 15 回： 条件・仮定の表し方（2）：仮定法過去 第 16 回： 条件・仮定の表し方（3）：仮定法過去完了 第 17 回： 条件・仮定の表し方（4）： should, were to を用いた仮定法 第 18 回： 条件・仮定の表し方（5）：if の省略・if 節に代わる仮定の表現 第 19 回： 不定詞(1)：名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法 第 20 回： 不定詞（2）：・不定詞の否定形・SVO+to 不定詞 第 21 回： 不定詞（3）：不定詞の意味上の主語・原形不定詞 第 22 回： 不定詞(4)：・様々な形の不定詞・注意すべき不定詞原形不定詞・不定詞を用いた重要表現		

	第 23 回： 使役の表し方（1）：make と let と have 第 24 回： 使役の表し方（2）：get 、その他の動詞による表現（force, compel, oblige） 第 25 回： 動名詞（1）：文中での働き・動名詞の意味上の主語・否定語の位置 第 26 回： 動名詞（2）：動名詞の位置・様々な形の動名詞 第 27 回： 動名詞（3）：動名詞の重要表現 第 28 回： 分詞（1）：限定用法・叙述用法 第 29 回： 分詞（2）：分詞構文 第 30 回： 分詞（3）：付帯状況を表す with＋分詞ほか 第 31 回： 分詞（4）：分詞の重要表現 第 32 回： 受け身の表し方（1）： 能動態と受動態・受動態の用法・動作主の省略 第 33 回： 受け身の表し方（2）： 様々な構文による表し方 1 第 34 回： 受け身の表し方（3）：様々な構文による表し方 2 第 35 回： 否定の表し方（1）：not, no を用いた表し方・部分否定と全部否定 第 36 回： 否定の表し方（2）：その他の表し方 1 第 37 回： 否定の表し方（3）：その他の表し方 2・二重否定 第 38 回： 文のつなぎ方（1）：関係代名詞の基本用法 第 39 回： 文のつなぎ方（2）：関係代名詞の非制限用法 第 40 回： 文のつなぎ方（3）：関係副詞の基本用法 第 41 回： 文のつなぎ方（4）：関係副詞の非制限用法 第 42 回： 文のつなぎ方（5）：関係代名詞 what・複合関係詞 第 43 回： 時制の一致 第 44 回： 話法（1）：直接話法と間接話法 第 45 回： 話法（2）平叙文以外の間接話法・接続詞を用いた発言の間接話法
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	共同で授業案を作成しお互いに学び合う 模擬授業を通じて基礎的な文法項目を教員として生徒に指導できるようにする 他者の模擬授業を建設的に批判できるようにする アドバイスを受けて自分の模擬授業を改善する
授業外学習	①教科書のモノローグ、ダイアログ、ロールプレイのシャドーイングを含む音読練習 ⑥文法項目を用いたオーラル・イントロダクション作成 ⑦例文と解説考案 ⑧学習した文法事項を用いた練習と言語活動作成 ⑨模擬授業計画作成
教科書	岩村圭南『音読で英文法をモノにする本』アルク，2020 年 田中 武夫・田中 知聡『英語教師のための文法指導デザイン』大修館書店，2014 年
参考書	赤野一郎・堀正広・投野由起夫（編著）『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館書店 井上永幸・赤野一郎（編）『ウイズダム英和辞典』三省堂 内田聖二（編）『英語談話表現辞典』三省堂 柏野健次（編著）『英語語法レファレンス』三省堂 久野暲・高見健一『謎解きの英文法シリーズ』くろしお出版
評価方法	音読 20%　日⇔英小テスト 20%　模擬授業計画作成 20%　模擬授業実施 20%　模擬授業振り返り 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、文法力の向上と文法指導法修得を援助する。

No.	562	科目コード	68067
科目名	English for Communication	授業コード	9300151
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 1）様々なジャンルや話題の英語を聴いて（読んで)、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）聴いて（読んで）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 3）　聴いて（読んで）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表したり、やり取りすることができる。 4）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。		
授業概要	様々な話題について英語で話された（書かれた）教材を５つのラウンドに分けて学習する。 　第１ラウンド：未習得構文学習後、リスニングで概要を理解する。 　第２ラウンド：未習得語彙学習後、リスニングしながら黙読して概要を理解する。 　第３ラウンド：リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳、及びとその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習。その後、理解した教材英文を多様な方法で音読する。 　第４ラウンド：音読による復習後、「日英通訳練習」、「英問英答」、「サマリー」、「リテリング」のうち 1、2 つの再生活動を行う。 　第５ラウンド：理解した内容についての自分の考えを英語でまとめ、それを見ずに発表したり、話し合ったりする。発表を聴いたり、話し合ったりする際には、必要に応じてメモを取る。		
授業計画	第１回：オリエンテーション、Unit 1「To Drive or to Ride」 第２回：Unit 1「To Drive or to Ride」 第３回：Unit 1「To Drive or to Ride」 第４回：Unit 1「To Drive or to Ride」 第５回：Unit 2「Help Yourselves」 第６回：Unit 2「Help Yourselves」 第７回：Unit 2「Help Yourselves」 第８回：Unit 3「What I learned from Fay」 第９回：Unit 3「What I learned from Fay」 第 10 回：Unit 3「What I learned from Fay」 第 11 回：Unit 4「Ways to Help Others」 第 12 回：Unit 4「Ways to Help Others」 第 13 回：Unit 4「Ways to Help Others」 第 14 回：Unit 5「Can Fish Fall from the Sky!」 第 15 回：Unit 5「Can Fish Fall from the Sky!」 第 16 回：Unit 5「Can Fish Fall from the Sky!」 第 17 回：Unit 6「How to Prepare for a Presentation」 第 18 回：Unit 6「How to Prepare for a Presentation」 第 19 回：Unit 6「How to Prepare for a Presentation」 第 20 回：Unit 7「International Date Line」 第 21 回：Unit 7「International Date Line」 第 22 回：Unit 7「International Date Line 」 第 23 回：Unit 8「What is Friendship」 第 24 回：Unit 8「What is Friendship」 第 25 回：Unit 8「What is Friendship」 第 26 回：Unit 9「Entering a Photo Contest」		

	第 27 回：Unit 9「Entering a Photo Contest」 第 28 回：Unit 9「Entering a Photo Contest」 第 29 回：プレゼンテーションと質疑応答（1 回目） 第 30 回：プレゼンテーションと質疑応答（2 回目）
授業方法	演習形式
アクティブラーニングの視点	トピックについて調べさせ、お互いの意見を交流し、発表させる。
授業外学習	①「教科書の予習は不要であること」ただし、未習得の構文や語彙、及び授業で内容を理解した英文の多様で大量の音読、及び指定された英文の和訳を見て英語に直せるようにするなど、少なくとも 1 時間以上かけて復習すること ②（1）「理解した英文の内容の要約」と（2）「英文の内容についての自分の考えの発表」が求められる授業に備えて、課外で（1）と（2）を英語でまとめておくこと。
教科書	English Stream Elementary（金星堂）、プリント
参考書	新英和活用大辞典（研究社）、ウイズダム英和辞典（三省堂）またはジーニアス英和辞典（大修館書店）、Longman Dictionary of Cotemporary English（Pearson Education）
評価方法	小テスト（口頭英作文）20%、音読テスト 20%、第 5 ラウンド英文課題 20%、第 5 ラウンド口頭発表・質疑応答 20%、第 29・30 回目のプレゼンテーションと質疑応答 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大学で，様々なレベルの学生を指導した経験がある者が，その経験を活かして，コミュニケーションのための英語を指導する。

No.	563	科目コード	68068
科目名	Literature in English 1	授業コード	9300161
教員名	DECKER, Warren		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。 (1)　英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解することができる。 (2)　理解した作品の内容を適切に朗読できる。 (3)　理解した作品を劇化するために脚本を書くことができる。 (4)　理解した作品を実際に劇として演じることができる。 (5)　自分で英語で作品（ポエム、ストーリー等）を書くことができる。 (6)　伝統的なポエムの形や音数率について理解できる。 テーマ 英語で書かれた文学作品の講読・音声表現・脚本化・劇化		
授業概要	授業の概要 ①英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解する。 ②理解した作品を他人に読み聴かせるつもりで、気持ちを込めて朗読する。 ③理解した作品を劇化するために、作品を脚本に書き換える。 ④理解して脚本にした作品を実際に演じる。 ⑤英語でポエムやストーリーを書いて発表する。		
授業計画	第１回：授業の説明、「文学って何ですか」、文学通して文化を分かる 第２回：文学に使える言葉：イメージ、比喩、ポエム、プローズ等 第３回：英語の俳句　①「Frogpond」等、英語の俳句入門 第４回：英語の俳句　②「Acorn、Heron’s Nest、Haiku in English」等、英語の俳句歴史と伝統 第５回：英語の俳句　③「Modern Haiku、Bones、Under the Basho」等、現代の俳句 第６回：定型詩　①「Norton Anthology of Poetry」等、ライム、音数率 / 朗読ワークショップ 第７回：定型詩　②「Norton Anthology of Poetry」等、リメリック、ソネット/朗読ワークショップ 第８回：定型詩　③「Norton Anthology of Poetry」等、バーラド、歌　/　朗読ワークショップ 第９回：自由詩、①　不定形詩「Best American Poetry」等、不定形詩入門 第 10 回：自由詩、②　不定形詩「Best American Poetry」等、ビジュアルポエム、フリーバース 第 11 回：ポエムのワークショップ１、朗読発表、作品発表 第 12 回：ポエムのワークショップ２、朗読発表、作品発表、フィードバック 第 13 回：短編小説「The Lottery」Shirley Jackson（A）意味、内容、社会への批判 第 14 回：短編小説「The Lottery」Shirley Jackson（B）書き方、形、フォーム 第 15 回：短編小説「To Build a Fire」Jack London（A）意味、内容、人間と自然 第 16 回：短編小説「To Build a Fire」Jack London（B）書き方、形、フォーム 第 17 回：短編小説「Fever」Raymond Carver（A）意味、内容、人間と人間 第 18 回：短編小説「Fever」Raymond Carver（B）書き方、形、フォーム 第 19 回：短編小説「The Prairie Wife」Curtis Sittenfeld（A）意味、内容、ジェンダー 第 20 回：短編小説「The Prairie Wife」Curtis Sittenfeld（B）書き方、形、フォーム 第 21 回：　ストーリーワークショップ　（発表１） 第 22 回：　ストーリーワークショップ　（発表２とフェッドバック） 第 23 回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck（A）アメリカの歴史 第 24 回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck（B）アメリカの文化　/　脚本作り 第 25 回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck（C）談話を書く　/　脚本作り 第 26 回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck（D）人間と道徳　/　脚本作り 第 27 回：小説のワークショップ、劇の発表 第 28 回：小説のワークショップ、作品発表		

	第 29 回：小説のワークショップ、フェッドバック 第 30 回：まとめ、復習、ポートフォリオ発表会
授業方法	This class will involve discussing and analyzing established literary works and writing creatively. Much of the actual class time will be spent in discussion, practice reading out loud, offering feedback, sharing ideas regarding literature and engaging in collaborative writing projects. Please note, I may make adjustments to the contents and schedule of this class to meet student needs.
アクティブラーニングの視点	Students will write their own creative works in English and offer feedback to their peers.
授業外学習	Students will need to spend a substantial amount of time outside of class both reading and writing.
教科書	I will provide materials as needed.
参考書	「Norton Anthology of Short Fiction」Bausch, Richard 「Norton Anthology of Poetry」Ferguson, Margaret 「Of Mice and Men」Steinbeck, John
評価方法	60% Active Participation 40% Assignments
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。

No.	564	科目コード	68069
科目名	English Pronunciation Workshop	授業コード	9300171
教員名	有本　純		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	目標 １．中学校および高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 (1)英語の音声の仕組みについて理解できる。 (2)英語の文法について理解できる。 (3)国際共通語としての英語の実態について理解できる。 ２．英語発音の目標として、国際語としての英語(EIL)レベルで発音できる ３．英語発音指導法の基礎を修得し、指導実践できる テーマ 英語音声学の基礎知識修得・発音実習・発音と矯正指導法・音読と音声表現		
授業概要	英語音声学の基礎知識を学び、発音練習を通して受講者の英語発音を矯正、教室でのモデルを提示できるレベルにまで訓練する。また、生徒に対して発音指導ができるよう、指導法についても教授する。さらに、音声表現にも取り組み、Jazz Chants や教科書の音読などの教材を用いて、音声表現の練習成果を発表し、相互評価を行う。		
授業計画	前期 第１回　導入：シラバス説明・受講上の注意、発音診断テスト（録音)、 英語音声学の基礎知識１（講義） 第２回　診断テストの説明、英語音声学の基礎知識２（講義)、日英語の音声比較（講義） 第３回　2-1 語強勢、2-2 文強勢、2-3 リズム、強勢とリズムまとめ・発音練習 第４回　小テスト１（文強勢とリズム・録音)、イントネーションの概要、3-1 下降調、 3-2 上昇調・発音練習 第５回　小テスト１フィードバック、3-3 上昇＋下降調、3-4 下降＋上昇調、 3-5 その他の音調・発音練習 第６回　イントネーションの補足説明と練習、4-1 連結、4-2 脱落、4-3 弱化・発音練習 第７回　小テスト２（音調・録音)、4-4 同化、音声変化まとめ・発音練習、母音の概要（講義） 第８回　小テスト２フィードバック、5-1 前舌母音①、5-1 前舌母音②、5-2 後舌母音①・発音練習 第９回　小テスト３（音声変化・録音)、5-2 後舌母音②、5-2 後舌母音③、5-3 中舌母音・発音練習 第 10 回　小テスト３フィードバック、5-4 二重母音①、5-4 二重母音②・発音練習、 子音の概要（講義） 第 11 回　6-1 破裂音①、6-1 破裂音②、6-1 破裂音③、6-2 摩擦音①・発音練習 第 12 回　小テスト４（母音①録音)、6-2 摩擦音②、6-2 摩擦音③、6-2 摩擦音④、 6-2 摩擦音⑤・発音練習 第 13 回　小テスト４フィードバック、6-3 破擦音、6-4 鼻音①、6-4 鼻音②、6-5 側音・発音練習 第 14 回　6-6 接近音①、6-6 接近音②、6-6 接近音③・発音練習、小テスト５（母音②録音） 第 15 回　小テスト５フィードバック、6-7 子音群、日本人学習者にありがちな誤り発音と矯正法 〈後期〉 （前期の進捗状況により、後期は若干修正があります) 第１６回　前期の復習、小テスト６（子音①録音)、Jazz Chants 発音練習 第 17 回　小テスト６フィードバック、Jazz Chants 発音練習、音読と音声表現の指導（講義） 第 18 回　Jazz Chants 発音練習、音声表現教材１の説明・練習 第 19 回　Jazz Chants 発音練習、音声表現教材１の練習 第 20 回　小テスト７（子音②録音)、Jazz Chants 発音練習、音声表現教材１の練習 第 21 回　小テスト７フィードバック、筆記小テスト１、Jazz Chants 発音練習、音声表現教材 2 の説明 第 22 回　Jazz Chants 発音練習、筆記小テスト１フィードバック、 音読テスト１（録音）音声表現教材 2 の練習 第 23 回　音読テスト１フィードバック、音声表現教材 2 の練習、Jazz Chants 発音練習 第 24 回　Jazz Chants 発表と振り返り、音声表現教材 2 の練習 第 25 回　音読テスト 2（録音)、音声表現教材 3 の説明・分析		

	第 26 回　音読テスト 2 フィードバック、音声表現教材 3 の音読練習 第 27 回　音声表現教材 3 の音読練習、Jazz Chants 発音練習 第 28 回　音声表現教材 3 の音読練習 、Jazz Chants 発音練習 第 29 回　音読テスト 3（録音)、筆記小テスト２ 第 30 回　音読テスト 3・筆記小テスト２フィードバック、全体の振り返り ＊定期試験は実施しない
授業方法	講義と発音実習、テストのフィードバックと発音矯正
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペア・グループワーク)、プレゼンテーション、発音テストのフィードバック、振り返り
授業外学習	教科書は該当箇所を予習として読んでおく、教科書付属の音源を再生して聴く
教科書	有本 純ほか著(2021)「英語発音の指導」三修社　　ISBN978-4-384-05952-6
参考書	中学校英語検定済教科書
評価方法	発音小テスト　6 点×７回＝42 点 音読テスト　６点＋８点＋９点＝23 点 Jazz Chants 発表　15 点 筆記小テスト　10 点×２回=20 点
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	565	科目コード	68070
科目名	Interactive English A1	授業コード	9315201
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週２回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。 (1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 (2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 (3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 (4) 日本社会の内なる国際化について学んで、実践的は体験、交流を持って多様な考え方、共生に向けて協働できる人間関係を構築できる。		
授業概要	自国の文化と異なる文化を理解するために、本授業では以下のことを行う。 1. 英語で異文化を理解する 自国の文化と異なる文化について英語で話された（書かれた）教材で、自国と異なる文化を知り、自国の文化との違いを理解するとともに、英語力を向上させる。 (1) 異文化について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んで、それらが何の説明であるかを考える。 (2) 異文化について英語で話された（書かれた）資料に出てくる未習得構文や語彙を学習する。 (3) 異文化について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んだりして、その要点と細部を理解する。 (4) 聴いたり読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。 (5) 理解した英文を多様な方法で音読し、異文化についての知識を確実なものにするとともに、言語材料の内在化を目指す。音読した英文の一部を用いて日英通訳演習を行い、英語で言えるようにする。 (6) 理解して音読した教材の英文のすべてまたは主要な文を日英通訳演習で英語に変換する練習を行い、自国の文化と他国の文化の違いを英語で説明するための語彙や表現を身につける。 (7) 他国の文化と自国の文化を比較し、類似点を相違点を英語でまとめて、ペアやグループで口頭で発表し合う。 (8) ペアやグループで互いの発表について改善点を話し合ったあと、各自の発表を英語で書いてまとめ、再度口頭で発表し、相互評価を行う。 2. 異なる文化を持つ人々との交流を通して、文化の多様性を体験するとともに、自国の文化を理解してもらう。 (9) 日本の多文化社会の現状を学びながら、事例を通して在留外国人が抱える課題の理解を深める。 (10) 授業にゲストとして招かれた本学に在学中の留学生や地域在住の外国の方々による自国の文化のプレゼンテーションを聴く。プレゼンテーション後、ゲストと質疑応答。 (11) ゲストが紹介したことについて、ゲストの国の文化と自国の文化の違いを英語で説明し、相互理解を深める。 3. 日本と他国の文化比較リサーチ＆プレゼンテーション (12) 日本と他国の文化の異なる点をリサーチして英語でまとめる。 (13) 授業に本学の在学中の留学生や地域在住の人々を招いて、リサーチ結果のプレゼンテーションを行い、質疑応答などを行う。		
授業計画	第１回： オリエンテーション、トピック１「文化とは何か」　資料に関する活動　授業概要の１　１回目 第２回： トピック１「「文化とは何か」　資料に関する活動　授業概要の１　２回目 第３回： トピック２「「文化と言語」　資料に関する活動　授業概要の１　　１回目 第４回： トピック２「「文化と言語」　資料に関する活動　授業概要の１　　２回目 第５回： トピック３「異文化コミュニケーションとは何か」　資料に関する活動　授業概要の１　１回目 第６回： トピック３「「異文化コミュニケーションとは何か」　資料に関する活動　授業概要の１　２回目		

	第 7 回： トピック 4「「アイデンティティと異文化コミュニケーション」資料に関する活動　授業概要の 1 小テストの実施 第 8 回： トピック 5「「異文化コミュニケーションと国際理解」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 9 回： トピック 5「異文化コミュニケーションと国際理解」　資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目 第 10 回： トピック 6「「グローバリゼーションと文化」　資料に関する活動　授業概要の 1 第 11 回： トピック 7「「非言語コミュニケーション」　資料に関する活動　授業概要の 2　1 回目 第 12 回： トピック 7「「非言語コミュニケーション」　資料に関する活動　授業概要の 2　2 回目 第 13 回： トピック 8「異文化適応とカルチャーショック」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 14 回： トピック 8「「異文化適応とカルチャーショック」　資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目 小テストの実施 第 15 回： 異文化体験：ゲストスピーカー講義と交流　　授業概要の 2 第 16 回： トピック 9「「文化摩擦と異文化理解」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 17 回： トピック 9「文化摩擦と異文化理解」　資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目 第 18 回： トピック 10「「ステレオタイプと多様性」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 19 回： トピック 10「「ステレオタイプと多様性」　資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目 第 20 回： 異文化体験：ゲストスピーカー講義と交流　授業概要の 2　2 回目 第 21 回： トピック 11　「異文化体験:子どもの事例」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 22 回： トピック 11「異文化体験：成人の事例」　資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目　小テストの実施 第 23 回： トピック 12「コミュニケーションと価値観」資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 24 回： トピック 12「コミュニケーションと価値観」資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目 第 25 回： トピック 13「宗教的考えが反映した英語」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 26 回： トピック 13「宗教的考えが反映した英語」　　資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目 第 27 回： トピック 14「グローバル市民になる」　資料に関する活動　授業概要の 1　1 回目 第 28 回： トピック 14「グローバル市民になる」資料に関する活動　授業概要の 1　2 回目　小テストの実施 第 29 回： 日本文化と他国の文化の相違点のリサーチ結果のプレゼンテーションと質疑応答　授業概要 3 1 回目 第 30 回：日本文化と他国の文化の相違点のリサーチ結果のプレゼンテーションと質疑応答　授業概要 3 2 回目
授業方法	基本的な文法を復習し、音声を聞く。また、積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク、発表やディスカッションにより内容を深化させていく。
アクティブラーニングの視点	毎回の学習について別途指示する小テストを行う。
授業外学習	・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題に なったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	Peter Vincent ピーター　ビンセント、”Speaking of Intercultural Communication”　「異文化理解の英語コミュニケーション」、南雲堂、2021 年 3 月 30 日
参考書	授業で必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、小作文、提出物）（40%）、定期小テスト（40%）、発表（20%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	566	科目コード	68071
科目名	Interactive English B	授業コード	9324210
教員名	オチャンテ　村井　ロサ　メルセデス		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週２回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	持続可能な開発の目標 SDG’s (Sustainable Development Goals)の内容を学び、実践的に行動する力を身につける。また、中学校及び高等学校における英語の授業に資する英語運用能力を身につける。 (1) 各テーマに関する知識を英語で身につける。 (2) 各テーマに関する英語を聴いて、情報や考えを理解することができる。 (3) 各テーマに関する英語を読んで、要点を理解しまとめることができる。 (4) 聴いて（読んで）理解した内容を自分の言葉で伝えることができる。 (5) 各テーマに関する自分の考えや意見をまとめて発表し、話し合うことができる。		
授業概要	1. 英語で SDG’s を学ぶ (1) SDG’s の各テーマについて英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んで、それらが何の説明であるかを考える。 (2) SDG’s の各テーマについて英語で話された（書かれた）資料に出てくる未習得構文や語彙を学習する。 (3) SDG’s の各テーマについて英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んだりして、その要点と細部を理解する。 (4) 聴いたり読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。 (5) 理解した英文を多様な方法で音読し、SDG’s の各テーマについての知識を確実なものにするとともに、言語材料の内在化を目指す。音読した英文の一部を用いて日英通訳演習を行い、英語で言えるようにする。 (6) (5)で音読した教材の英文のすべてまたは主要な文を日英通訳演習で英語に変換する練習を行い、SDG’s の各テーマを英語で説明するための語彙や表現を身につける。 (7) (5)及び(6)で用いた資料の内容を自分のことばでまとめて、ペアやグループで、口頭で伝え合い、互いに評価する。 (8) SDG’s の各テーマに関して、自分の考えや意見を英語でまとめて発表し、互いに評価する。 (9) SDG’s の各テーマに関して、解決策をグループで話し合い、まとめて発表する。その内容を互いに評価する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション、Unit 1　Live Together (1)　授業の概要 1. (1)～(6) 第２回：Unit 1　Live Together (2) 授業の概要 1. (1)～(6) 第３回：Unit 1　Live Together (3) 授業の概要 1. (1)～(6) 第４回：Unit 1　Live Together (4) 授業の概要 1. (7)～(9) 第５回：Unit 1　Live Together (5) 発表活動と Unit 1 のまとめ，小テスト実施 第６回：Unit 2　Create inclusive society (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第７回：Unit 2　Create inclusive society (2) 授業の概要 1. (1)～(6) 第８回：Unit 2　Create inclusive society (3) 授業の概要 1. (1)～(6) 第９回：Unit 2　Create inclusive society (4) 授業の概要 1. (7)～(9) 第１０回：Unit 2　Create inclusive society (5) 発表活動と Unit 2 のまとめ，小テスト実施 第１１回：Unit 3 Think about food problems (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第１２回：Unit 3 Think about food problems (2) 授業の概要 1. (1)～(6) 第１３回：Unit 3 Think about food problems (3) 授業の概要 1. (1)～(6) 第１４回：Unit 3 Think about food problems (4) 授業の概要 1. (7)～(9) 第１５回：Unit 3 Think about food problems (5) 発表活動と Unit 3 のまとめ，小テスト実施 第１６回：Unit 4 Ensure quality education for all (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第１７回：Unit 4 Ensure quality education for all (2) 授業の概要 1. (1)～(6) 第１８回：Unit 4 Ensure quality education for all (3) 授業の概要 1. (1)～(6) 第１９回：Unit 4 Ensure quality education for all (4) 授業の概要 1. (7)～(9) 第２０回：Unit 4 Ensure quality education for all (5) 発表活動と Unit 4 のまとめ，小テスト実施 第２１回：Unit 5 Ensure clean water and safe toiles (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第２２回：Unit 5 Ensure clean water and safe toiles (2) 授業の概要 1. (1)～(6) 第２３回：Unit 5 Ensure clean water and safe toiles (3) 授業の概要 1. (1)～(6)		

	第２４回：Unit 5 Ensure clean water and safe toiles (4) 授業の概要 1. (7)～(9) 第２５回：Unit 5 Ensure clean water and safe toiles (5) 発表活動と Unit 5 のまとめ，小テスト実施 第２６回：Unit 6 Don’t use plastic (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第２７回：Unit 6 Don’t use plastic (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第２８回：Unit 6 Don’t use plastic (1) 授業の概要 1. (1)～(6) 第２９回：Unit 6 Don’t use plastic (1) 授業の概要 1. (7)～(9) 第３０回：Unit 6 Don’t use plastic (1)発表活動と Unit 4 のまとめ，小テスト実施
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習形式で行う。
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、教材内容の口頭による各自のまとめに対するグループでの話し合い・SDG’ s についてのリサーチと発表活動
授業外学習	予習として各授業のための課題を指示する。復習として各ユニットの指定された課題や，学習したリーディングパッセージの音読を行う。さらに，口頭発表の準備および練習を行う。以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。
教科書	CLIL Primary SDGs （笹島茂、他５名　三修社　2022）
参考書	SDG s （持続可能な開発目標） （蟹江 憲史　中公新書　2020)、SDGs 入門 （村上 芽・渡辺珠子 日経文庫 2019）
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、提出物）(40%)、定期小テスト（40%)、発表（20%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	教育現場での指導経験を持つ教員が、その経験を活かして指導する。

No.	567	科目コード	68072
科目名	Writing and Oral Presentations 1	授業コード	9315235
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B1 レベル以上を目標とする。また、生徒の理解を確かめながら英語で柔軟にインタラクションを進めていく調整能力を身に付ける。 1）様々な話題の英語を聴いて（読んで)、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 3）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表し、やり取りすることができる。 4）様々な話題について情報を集め、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6）日本文化について知識を深め、アクティブ・ラーニング型話し合いができる。 7）異なる文化を持つ人々にわかりやすい平易な英語で日本文化をわかりやすく紹介できる。 テーマ 日本文化を知る・異なる文化を持つ人々への身近で具体的な日本文化紹介		
授業概要	異なる文化を持つ人々に身近で具体的な日本文化を紹介できるように、本授業では以下のことを行う。 1.「英語で日本文化を学ぶ」 日本文化を知るとともに、英語力を向上させる。 (1) 日本文化についての資料を聴いたり、読んだりして、それらが何の説明であるかを考える。 (2) 日本文化についての資料に出てくる未習得構文や語彙を学習する。 (3) 聴いたり、読んだりした英文資料の要点と細部を理解する。 (4) 聴いたり、読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。 (5) 英文を多様な方法で音読し、知識を確実なものにするとともに、言語材料の内在化を目指す。 (6) 日英通訳演習で、日本の文化を英語で説明するための語彙や表現を身につける。 (7) 学んだ日本文化をお互いに説明し、Q&A を行う。 2. 異なる文化を持つ本学の留学生や地域在住の外国の人々に日本の文化を英語で紹介する。 (1) 外国の人々が日本人によく尋ねる日本文化についての疑問に答える。 (2) リサーチし、その内容を英語でまとめて、スライドを用いたプレゼンテーションを行う。 (3) プレゼンテーション後、リスナーとプレゼンターの間及びリスナー同士で Q&A などのやり取りを行う。受講生は、ルーブリックに基づいて各プレゼンテーションを相互評価する。 (4) 発表後に、相互評価を参考にして、各自の発表内容を英語で書いてまとめて提出する。 3. スピーキングとライティングのフルーエンシーを伸ばす(Speak & Write)。 (1) Word Counter Speaking　ある話題について、制限時間で話し、語数を相手に記録してもらう。 (2) Extensive Writing　話した話題について、施現時間内に間違いを恐れずに英語で書く練習を行う。		
授業計画	第 1 回： ①オリエンテーション、②プレゼンテーションのためのリサーチ方法、③スライド作成上の留意点、④スライドのモデル提示、⑤準備の仕方、⑥練習手順と各ステップの練習をモデル提示、⑦プレゼンテーションのモデル提示、⑧原稿例を用いて練習、⑨ペアでプレゼンテーションを行う。 第 2 回： Speak & Write 1・ジャンル 1「日本文化①」 第 3 回： Speak & Write 2・ジャンル 1「日本文化①」 第 4 回： Speak & Write 3・ジャンル 1「日本文化①」 第 5 回： Speak & Write 4・ジャンル 2「道具と品物①」 第 6 回： Speak & Write 5・ジャンル 2「道具と品物①」 第 7 回： Speak & Write 6・ジャンル 2「道具と品物①」 第 8 回： Speak & Write 7・ジャンル 3「暮らし①」 第 9 回： Speak & Write 8・ジャンル 3「暮らし①」 第 10 回： Speak & Write 9・ジャンル 3「暮らし①」 第 11 回： プレゼン原稿提出　ジャンル 4「習慣①」 第 12 回： Speak & Write 10・ジャンル 4「習慣①」 第 13 回： Speak & Write 11・ジャンル 4「習慣①」 第 14 回： Speak & Write 12・ジャンル 5「食文化①」		

	第 15 回： Speak & Write 13・ジャンル 5「食文化①」 第 16 回： Speak & Write 14・ジャンル 5「食文化①」 第 17 回： Speak & Write 15・ジャンル 5「食文化①」 第 18 回： Speak & Write 16・ジャンル 6「娯楽①」 第 19 回： Speak & Write 17・ジャンル 6「娯楽①」 第 20 回： Speak & Write 18・ジャンル 6「娯楽①」 第 21 回： Speak & Write 19・ジャンル 6「娯楽①」 第 22 回：プレゼン原稿提出　ジャンル 7「建造物①」 第 23 回： Speak & Write 20・ジャンル 7「建造物①」 第 24 回： Speak & Write 21・ジャンル 7「建造物①」 第 25 回： Speak & Write 22・ジャンル 7「建造物①」 第 26 回： Speak & Write 23・ジャンル 8「旅①」 第 27 回： Speak & Write 24・ジャンル 8「旅①」 第 28 回： Speak & Write 25・ジャンル 8「旅①」 第 29 回： Speak & Write 26・ジャンル 8「旅①」 第 30 回： プレゼン原稿提出
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	テーマについてグループでの話し合い　リサーチ　プレゼンテーションと Q&A
授業外学習	(1) 日本文化に関わるテーマについてリサーチする。リサーチした内容を 100～120 語程度の英語で書いて授業担当者に提出するとともに、プレゼンテーション用のスライド (5 枚前後) を作成する。また、添削を受けた英文を繰り返し音読して、原稿なしでプレゼンテーションできるように十分に練習を行う。 (2) 英文を繰り返し音読し、日本語から英語に変換できるまで練習し、口頭による報告に備える。 (3) 授業の最初の 5 分間の Extensive Writing で英語で表現できなかった語句については、辞書で調べて英文を完成させて提出に備える。
教科書	デイビッド・セイン『外国人がいちばん不思議に思う日本のくらし』J リサーチ出版、2019 年
参考書	『英文日本大事典』(講談社)、『英語で説明する日本』(大修館書店)、『日本人の考え方を英語で説明する辞典』有斐閣
評価方法	Speak & Write 15%　日英通訳演習 20%　日本文化紹介英文作成 15%　口頭発表プレゼンテーション 30%　まとめのライティング 20%　定期試験は実施しない
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導者としての英語運用能力を育成する。

No.	568	科目コード	68073
科目名	Writing and Oral Presentations 2	授業コード	9324312
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒の理解を確かめながら英語で柔軟にインタラクションを進めていく調整能力を身に付ける。 1）様々な話題の英語を聴いて（読んで)、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 3）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表し、やり取りすることができる。 4）様々な話題について情報を集め、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6）日本文化について知識を深め、アクティブ・ラーニング型話し合いができる。 7）異なる文化を持つ人々にわかりやすい平易な英語で日本文化をわかりやすく紹介できる。 テーマ 日本文化を知る・異なる文化を持つ人々への精神性、伝統や歴史に関わる日本文化紹介		
授業概要	異なる文化を持つ人々に日本文化を紹介することができるように、本授業では以下のことを行う。 1.「英語で日本文化を学ぶ」 日本文化を知るとともに、英語力を向上させる。 (1) 日本文化についての資料を聴いたり、読んだりして、それらが何の説明であるかを考える。 (2) 日本文化についての資料に出てくる未習得構文や語彙を学習する。 (3) 聴いたり、読んだりした英文資料の要点と細部を理解する。 (4) 聴いたり読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。 (5) 英文を多様な方法で音読し、知識を確実なものにするとともに、言語材料の内在化を目指す。 (6) 日英通訳演習で、日本の文化を英語で説明するための語彙や表現を身につける。 (7) 学んだ日本文化をお互いに説明し、Q&A を行う。 2. 本学の留学生や地域在住の外国の人々に日本の精神性、伝統や歴史に関わる文化を英語で紹介する。 (1) 外国の人々が日本人によく尋ねる日本文化についての疑問に答える。 (2) リサーチし、その内容を英語でまとめて、スライドを用いたプレゼンテーションを行う。 (3) プレゼンテーション後、リスナーとプレゼンターの間及びリスナー同士で Q&A などのやり取りを行う。受講生は、ルーブリックに基づいて各プレゼンテーションを相互評価する。 (4) 発表後に、相互評価を参考にして、各自の発表内容を英語で書いてまとめて提出する。 3. スピーキングとライティングのフルーエンシーを伸ばす。 (1) Word Counter Speaking　ある話題について、制限時間で話し、語数を相手に記録してもらう。 (2) Speak & Write　話した話題について、施現時間内に間違いを恐れずに英語で書く練習を行う。		
授業計画	1 回：①オリエンテーション、②プレゼンテーションのためのリサーチ方法、③スライド作成上の留意点、④スライドのモデル提示、⑤準備の仕方、⑥練習手順と各ステップの練習をモデル提示、⑦プレゼンテーションのモデル提示、⑧原稿例を用いて練習、⑨ペアでプレゼンテーションを行う。 第 2 回： Speak & Write 1・ジャンル 1「日本文化②」 第 3 回： Speak & Write 2・ジャンル 1「日本文化②」 第 4 回： Speak & Write 3・ジャンル 1「日本文化②」 第 5 回： Speak & Write 4・ジャンル 2「道具と品物②」 第 6 回： Speak & Write 5・ジャンル 2「道具と品物②」 第 7 回： Speak & Write 6・ジャンル 2「道具と品物②」 第 8 回： Speak & Write 7・ジャンル 3「暮らし②」 第 9 回： Speak & Write 8・ジャンル 3「暮らし②」 第 10 回： Speak & Write 9・ジャンル 3「暮らし②」 第 11 回： プレゼン原稿提出　ジャンル 4「習慣②」 第 12 回： Speak & Write 10・ジャンル 4「習慣②」		

	第 13 回： Speak & Write 11・ジャンル 4「習慣②」 第 14 回： Speak & Write 12・ジャンル 5「食文化②」 第 15 回： Speak & Write 13・ジャンル 5「食文化②」 第 16 回： Speak & Write 14・ジャンル 5「食文化②」 第 17 回： Speak & Write 15・ジャンル 5「食文化②」 第 18 回： Speak & Write 16・ジャンル 6「娯楽②」 第 19 回： Speak & Write 17・ジャンル 6「娯楽②」 第 20 回： Speak & Write 18・ジャンル 6「娯楽②」 第 21 回： Speak & Write 19・ジャンル 6「娯楽②」 第 22 回：プレゼン原稿提出　ジャンル 7「建造物②」 第 23 回： Speak & Write 20・ジャンル 7「建造物②」 第 24 回： Speak & Write 21・ジャンル 7「建造物②」 第 25 回： Speak & Write 22・ジャンル 7「建造物②」 第 26 回： Speak & Write 23・ジャンル 8「旅②」 第 27 回： Speak & Write 24・ジャンル 8「旅②」　プレゼン原稿提出 第 28 回： Speak & Write 25・ジャンル 8「旅②」 第 29 回： Speak & Write 26・ジャンル 8「旅②」 第 30 回： プレゼン原稿提出
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	テーマについてグループでの話し合い　リサーチ　プレゼンテーションと Q&A
授業外学習	(1) 日本文化に関わるテーマについてリサーチする。リサーチした内容を 120～200 語程度の英語で書いて授業担当者に提出するとともに、プレゼンテーション用のスライド (8 枚前後) を作成する。また、添削を受けた英文を繰り返し音読して、原稿なしでプレゼンテーションできるように十分に練習を行う。 (2) 英文を繰り返し音読し、日本語から英語に変換できるまで練習し、口頭による報告に備える。 (3) 授業の最初の 5 分間の Speak & Write で英語で表現できなかった語句については、辞書で調べて英文を完成させて提出に備える。
教科書	デイビッド・セイン『外国人がいちばん不思議に思う日本のくらし』J リサーチ出版、2019 年
参考書	『英文日本大事典』(講談社)、『英語で説明する日本』(大修館書店)、『日本人の考え方を英語で説明する辞典』有斐閣
評価方法	Speak & Write 15%　日英通訳演習 20%　日本文化紹介英文作成 15%　口頭発表プレゼンテーション 30%　まとめのライティング 20%　定期試験は実施しない
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導者としての英語運用能力を育成する。

No.	569	科目コード	68074
科目名	Integrated Listening 1	授業コード	9315326
教員名	梶谷　和司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 1）様々なジャンルや話題の英語を聴いて（読んで)、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）聴いて（読んで）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 3） 聴いて（読んで）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表したり、やり取りすることができる。 4）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 テーマ リスニングを核とした技能統合型コミュニケーション演習		
授業概要	本授業では、様々な素材を用いてリスニング力を向上させるためのトレーニングを行うとともに、他の 3 つの技能に結びつけた活動を行うことで、英語力をバランス良く伸ばす。そのために、次の 4 つの分野について①～⑯を行う。 1. :精聴 ①素材を聴いて、まず素材の内容の概要・要点を理解し、さらに細部を理解する。 （またはディクトグロスを行う） ②リスニングしながらスクリプトを黙読して、素材をより正確に理解する。 ③オーバーラッピング・シャドーイング（または、再度、ディクトグロスを行う） ④リテリング ⑤素材の内容に関する自分の意見を発表またはディスカッションを行う。 2. 音変化対応トレーニング：発話速度が速く、音変化が含まれた自然な素材による精聴 ⑥内容理解 ⑦書き取り 1 回目と確認 ⑧スクリプトを黙読して書き取れない部分を確認 ⑨発音練習 ⑩オーバーラッピングやシャドーイングを含む各種音読練習 ⑪書き取り 2 回目と確認（必要に応じて⑧⑨⑩の追加練習） 3. 多聴・なりきり音読：多聴・なりきり音読 と Oral Interpretation ⑫平易なストーリーやラジオ・ドラマを大量に聴いて楽しむ。 ⑬プロの朗読をまねて音読する。 4. Q&A ⑭様々な質問を正確に理解する。 ⑮様々な質問に対して、直接的に答えたあと、関連のあることを付け加えて 30 秒以上話す。 ⑯ペアで Q&A を行い、相手が言った答えと関連があることについて最低一つは質問する。質問されたらそれに答える。		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション　　精聴 1（留守番電話メッセージ） 音変化対応トレーニング 1（be 動詞の縮約形 1 回目）　　多聴・なりきり音読 1　　Q&A 1 第 2 回： 精聴 2（留守番電話メッセージ）　　音変化対応トレーニング 2（be 動詞の縮約形 2 回目） 多聴・なりきり音読 2　　Q&A 2 第 3 回： 精聴 3（電話での会話）　　音変化対応トレーニング 3（be 動詞の縮約形 1 回目） 多聴・なりきり音読 3　　Q&A 3 第 4 回： 精聴 4（アナウンス）　　音変化対応トレーニング 4（助動詞の縮約形 1 回目） 多聴・なりきり音読 4　　Q&A 4		

	第 5 回： 精聴 5（天気予報）　音変化対応トレーニング 5（助動詞の縮約形 2 回目） 多聴・なりきり音読 5　Q&A 5 第 6 回： 精聴 6（天気予報）　音変化対応トレーニング 6（助動詞の縮約形 3 回目） 多聴・なりきり音読 6　Q&A 6 第 7 回： 精聴 7（コマーシャル）　音変化対応トレーニング 7（同化 1 回目） 多聴・なりきり音読 7　Q&A 7 第 8 回： 精聴 8（コマーシャル）　音変化対応トレーニング 8（同化 2 回目） 多聴・なりきり音読 8　Q&A 8 第 9 回： 精聴 9（ニュース）　音変化対応トレーニング 9（同化 3 回目） 多聴・なりきり音読 9　Q&A 9 第 10 回： 精聴 10（ニュース）　音変化対応トレーニング 10（同化 4 回目） 多聴・なりきり音読 10　Q&A 10 第 11 回： 精聴 11（インタビュー）　音変化対応トレーニング 11（同化 5 回目） 多聴・なりきり音読 11　Q&A 11 第 12 回： 精聴 12（インタビュー）　音変化対応トレーニング 12（消失 2 回目） 多聴・なりきり音読 12　Q&A 12 第 13 回： 精聴 13（プレゼンテーション）　音変化対応トレーニング 13（消失 3 回目） 多聴・なりきり音読 13　Q&A 13 第 14 回： 精聴 14（プレゼンテーション）　音変化対応トレーニング 14（消失 4 回目） 多聴・なりきり音読 14　Q&A 14 第 15 回： 精聴 15（プレゼンテーション）　音変化対応トレーニング 15（連結） 多聴・なりきり音読 15　Q&A 15
授業方法	講義は必要最小限にとどめて、リスニングを中心にしながら、他の技能と統合した活動を行う。
アクティブラーニングの視点	自発的にいろいろな素材を用いてリスニングして情報を得たり楽しんだりする。 全体またはグループまたはペアで理解したことを伝え合ったり、自分の考えを述べ合う。
授業外学習	・授業で学習した音声教材を書き取る。 ・授業で学習した音声教材を用いて、オーバーラッピングやシャドーイングの練習を行う。 ・授業では扱わない音声素材を聴いてその内容を理解する。理解した教材の英文を気持ちを込めて音読する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。
教科書	・山内伸幸・北林利治『Tactic Listener』金星堂（2008 年） ・授業担当者が配布するプリント
参考書	・有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のり子・山本誠子（著）『英語発音の指導―基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで』三修社（2021 年） ・鈴木寿一・門田修平（編著）『英語リスニング指導ハンドブック』大修館書店（2018 年） ・東後勝明（著）『英会話の音法 50―もっとも通じる英語の喜夫本ルール―』一般社団法人　日本児童英語振興協会（2019 年） ・松本ヒロシ（著）『歯型と絵で教える英語発音―発音をはじめて教える人へ―』開拓社（2021 年） ・NHK ラジオ『中高生の基礎英語 in English』※市販テキスト(550 円)を用いた方が学習効果は上がるが、無しでも、聴き取れる範囲で内容理解に努めたり練習したりできる。 ・NHK Enjoy Simple English Readers シリーズ（日本放送協会） ・TED: Ideas worth spreading （ https://www.ted.com ） ・DigitalCast　TED 日本語（https://digitalcast.jp/ted/） ・NHK World News （ https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/ ）
評価方法	精聴理解度　20%　単語聞き分け　10%　発音・音読テスト　10%　リプロダクション　10% 書き取り　20%　Q&A　10%　意見発表　10%　レポート　10%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

No.	570	科目コード	68075
科目名	Integrated Listening 2	授業コード	9324438
教員名	梶谷　和司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 Integrated Listeninng 1 で身につけた力をさらに向上させる。 1）様々なジャンルや話題の英語を聴いて（読んで)、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）聴いて（読んで）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 3）聴いて（読んで）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表したり、やり取りすることができる。 4）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 テーマ リスニングを核とした技能統合型コミュニケーション演習		
授業概要	本授業では、様々な素材を用いてリスニング力を向上させるためのトレーニングを行うとともに、他の 3 つの技能に結びつけた活動を行うことで、英語力をバランス良く伸ばす。そのために、次の 4 つの分野について①～⑯を行う。 1. :精聴 ①素材を聴いて、まず素材の内容の概要・要点を理解し、さらに細部を理解する。 （またはディクトグロスを行う） ②リスニングしながらスクリプトを黙読して、素材をより正確に理解する。 ③オーバーラッピング・シャドーイング（または、再度、ディクトグロスを行う） ④リテリング ⑤素材の内容に関する自分の意見を発表またはディスカッションを行う。 2. 音変化対応トレーニング：発話速度が速く、音変化が含まれた自然な素材による精聴 ⑥内容理解 ⑦書き取り 1 回目と確認 ⑧スクリプトを黙読して書き取れない部分を確認 ⑨発音練習 ⑩オーバーラッピングやシャドーイングを含む各種音読練習 ⑪書き取り 2 回目と確認（必要に応じて⑧⑨⑩の追加練習） 3. 多聴・なりきり音読：多聴・なりきり音読 と Oral Interpretation ⑫平易なストーリーやラジオ・ドラマを大量に聴いて楽しむ。 ⑬プロの朗読をまねて音読する。 4. Q&A ⑭様々な質問を正確に理解する。 ⑮様々な質問に対して、直接的に答えたあと、関連のあることを付け加えて 30 秒以上話す。 ⑯ペアで Q&A を行い、相手が言った答えと関連があることについて最低一つは質問する。質問されたらそれに答える。		
授業計画	第 1 回：Listening for information1（プレゼンテーション）・音変化対応トレーニング 1（be 動詞の縮約形復習 1 回目）・Q&A・Listening for pleasure 1・ 第 2 回：Listening for information2（プレゼンテーション）・音変化対応トレーニング 2（be 動詞の縮約形復習 2 回目）・Q&A・Listening for pleasure 2・Oral report 1 第 3 回：Listening for information3（スピーチ）・音変化対応トレーニング 3（be 動詞の縮約形復習 1 回目）・Q&A・Listening for pleasure 3・Oral report 2 第 4 回：Listening for information4（スピーチ）・音変化対応トレーニング 4（助動詞の縮約形復習 1 回		

	目)・Q&A・Listening for pleasure 4・Oral report 3 第 5 回：Listening for information5（ニュース)・音変化対応トレーニング 5（助動詞の縮約形復習 2 回目)・Q&A・Listening for pleasure 5・Oral report 4 第 6 回：Listening for information6（ニュース）音変化対応トレーニング 6（助動詞の縮約形復習 3 回目)・Q&A・Listening for pleasure 6・Oral report 5 第 7 回：Listening for information7（ニュース)・音変化対応トレーニング 7（同化復習 1 回目)・Q&A・Listening for pleasure 7・Oral report 6⑪⑫ 第 8 回：Listening for information8（インタビュー)・音変化対応トレーニング 8（同化復習 2 回目)・Q&A・Listening for pleasure 8・Oral report 7 第 9 回：Listening for information9（インタビュー)・音変化対応トレーニング 9（同化復習 3 回目)・Q&A・Listening for pleasure 9・Oral report 8 第 10 回：Listening for information10（講義)・音変化対応トレーニング 10（同化復習 4 回目)・Q&A・Listening for pleasure 10・Oral report 9⑪⑫ 第 11 回：Listening for information11（講義)・音変化対応トレーニング 11（同化復習 5 回目)・Q&A・Listening for pleasure 11・Oral report 10 第 12 回：Listening for information12（講義)・音変化対応トレーニング 12（消失復習 2 回目)・Q&A・Listening for pleasure 12・Oral report 11 第 13 回：Listening for information13（ディスカッション)・音変化対応トレーニング 13（消失復習 3 回目)・Q&A・Listening for pleasure 13・Oral report 12 第 14 回：Listening for information14（ディスカッション)・音変化対応トレーニング 14（消失復習 3 回目)・Q&A・Listening for pleasure 14・Oral report 13 第 15 回：Listening for information15（ディスカッション)・音変化対応トレーニング 15（連結復習)・Q&A・Listening for pleasure 15・Oral report 14
授業方法	講義は必要最小限にとどめて、リスニングを中心にしながら、他の技能と統合した活動を行う。
アクティブラーニングの視点	自発的にいろいろな素材を用いてリスニングして情報を得たり楽しんだりする。 全体またはグループまたはペアで理解したことを伝え合ったり、自分の考えを述べ合う。
授業外学習	・授業で学習した音声教材を書き取る。 ・授業で学習した音声教材を用いて、オーバーラッピングやシャドーイングの練習を行う。 ・授業では扱わない音声素材を聴いてその内容を理解する。理解した教材の英文を気持ちを込めて音読する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。
教科書	・山内伸幸・北林利治『Tactic Listener』金星堂（2008 年） ・授業担当者が配布するプリント
参考書	・有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のり子・山本誠子（著)『英語発音の指導―基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで』三修社（2021 年） ・鈴木寿一・門田修平（編著)『英語リスニング指導ハンドブック』大修館書店（2018 年） ・東後勝明（著)『英会話の音法 50―もっとも通じる英語の喜夫本ルール―』一般社団法人　日本児童英語振興協会（2019 年） ・松本ヒロシ（著)『歯型と絵で教える英語発音―発音をはじめて教える人へ―』開拓社（2021 年） ・NHK ラジオ『中高生の基礎英語 in English』※市販テキスト(550 円)を用いた方が学習効果は上がるが、無しでも、聴き取れる範囲で内容理解に努めたり練習したりできる。 ・NHK Enjoy Simple English Readers シリーズ（日本放送協会） ・TED: Ideas Worth Spreading （ https://www.ted.com ） ・DigitalCast　TED 日本語（https://digitalcast.jp/ted/） ・NHK World News （ https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/ ）
評価方法	精聴理解度　20%　　単語聞き分け　10%　　発音・音読テスト　10%　　リプロダクション　10% 書き取り　20%　　Q&A　10%　　意見発表　10%　　レポート　10%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

No.	571	科目コード	68076
科目名	Interactive English A2	授業コード	9300665
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を学ぶことを通して英語表現への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。 (1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 (2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 (3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 (4) 日本社会の内なる国際化について学び、実践的な体験や交流を通じて多様な考え方を認め、共生に向けて協働できる人間関係を構築できる。 (5) 異文化コミュニケーションの観点から文化摩擦の状況を分析し、実践的な問題解決ができる。		
授業概要	本授業では英語を通して異文化や異文化間コミュニケーションの問題についての理解を深める。具体的には、自身の文化と異なる文化について英語で話された（書かれた）教材をもとに、異なる文化を知り、文化の多様性についての理解を深めるとともに、英語力を向上させる。 (1) 異文化や異文化間の問題について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んだりして、それらが何の説明であるかを考える。 (2) 異文化や異文化間の問題について英語で話された（書かれた）資料に出てくる未習得構文や語彙・慣用句を学習する。 (3) 異文化や異文化間の問題について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んだりして、その要点と細部を理解する。 (4) 聴いたり読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。 (5) 理解した英文を多様な方法で音読し、異文化についての知識を確実なものにするとともに、言語材料の内在化を目指す。音読した英文の一部を用いて日英通訳演習を行い、英語で言えるようにする。 (6) 理解して音読した教材の英文のすべてまたは主要な文を日英通訳演習で英語に変換する練習を行い、資料の内容やそれに関する自らの見解について英語で説明するための語彙や表現を身につける。 (7) 教材の英文を見ずに、英文の内容の要点を自分の英語で話し（リテリング）、聴いている学生は重要なポイントを押さえて話しているか注意して聴き、相互に評価し合う。ペアで行ったあと、全員の前で 2～3 名がもう一度発表し、全員で評価を行う。 (8) 文化の多様性や異文化間のコミュニケーションの問題点について英語でまとめ、ペアやグループで相互に口頭発表する。 (9) ペアやグループで互いの発表について改善点を話し合ったあと、各自の発表を英語で書いてまとめ、再度口頭で発表し、相互評価を行う。		
授業計画	第 1 回：《オリエンテーション》 日本社会の多文化状況〔授業の概要 (1)(2)〕 第 2 回：日本社会の多文化状況〔授業の概要 (3)(4)(5)〕 第 3 回：文化とアイデンティティ〔授業の概要 (6)(7)(1)(2)〕 第 4 回：文化とアイデンティティ〔授業の概要 (3)(4)(5)〕 第 5 回：文化とパーソナリティー〔授業の概要 (6)(7)(1)(2)〕 第 6 回：文化とパーソナリティー〔授業の概要 (3)(4)(5)〕 第 7 回：言語と文化的認識〔授業の概要 (6)(7)(1)(2)〕《小テスト》 第 8 回：言語と文化的認識〔授業の概要 (3)(4)(5)〕 第 9 回：非言語コミュニケーション〔授業の概要 (6)(7)(1)(2)〕 第 10 回：非言語コミュニケーション〔授業の概要 (3)(4)(5)〕 第 11 回：プロクシミクス〔授業の概要 (6)(7)(1)(2)〕 第 12 回：プロクシミクス〔授業の概要 (3)(4)(5)〕 第 13 回：前期学習内容のまとめ〔授業の概要 (6)(7)〕《小テスト》 第 14 回：前期学習の仕上げ〔授業の概要 (8)〕		

	第 15 回： 前期学習の仕上げ〔授業の概要（9)〕 第 16 回： 多文化社会における文化摩擦〔授業の概要（1)(2)〕 第 17 回： 多文化社会における文化摩擦〔授業の概要（3)(4)(5)〕 第 18 回： 多文化社会における共生〔授業の概要（6)(7)(1)(2)〕 第 19 回： 多文化社会における共生〔授業の概要（3)(4)(5)〕 第 20 回： 文化相対主義の功罪〔授業の概要（6)(7)(1)(2)〕 第 21 回： 文化相対主義の功罪〔授業の概要（3)(4)(5)〕《小テスト》 第 22 回： カルチャーショックと文化適応〔授業の概要（6)(7)(1)(2)〕 第 23 回： カルチャーショックと文化適応〔授業の概要（3)(4)(5)〕 第 24 回： 内面的文化―価値観と世界観〔授業の概要（6)(7)(1)(2)〕 第 25 回： 内面的文化―価値観と世界観〔授業の概要（3)(4)(5)〕 第 26 回： 装置としての文化―人の生涯と文化化の過程〔授業の概要（6)(7)(1)(2)〕 第 27 回： 装置としての文化―人の生涯と文化化の過程〔授業の概要（3)(4)(5)〕 第 27 回： 後期学習内容のまとめ〔授業の概要（6)(7)〕《小テスト》 第 27 回： 後期学習の仕上げ〔授業の概要（8)〕 第 30 回： 後期学習の仕上げ〔授業の概要（9)〕 定期試験は実施しない
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習形式で行う。
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワークによる協同学習
授業外学習	・配布する英文テキストの音読や、文中の語彙・表現等を使った例文作成などによる予習と復習（1 時間 30 分程度） ・口頭発表の準備と練習（2 時間程度）、小テストの準備（3 時間程度）
教科書	授業で必要な資料を配布する。
参考書	池田理知子・クレーマー、E.M. 著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣、2000 年 石井敏 他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション―多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣、2013 年 コンドン、ジョン著、近藤千恵訳『異文化間コミュニケーション―カルチャー・ギャップの理解』 サイマル出版会、1980 年 原沢伊都夫著『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』研究社、2013 年
評価方法	授業への取り組み姿勢〔参加度、小作文、提出物〕（40%）、小テスト（40%）、発表（20%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

No.	572	科目コード	68077
科目名	Academic Listening and Reading 1	授業コード	9315670
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	授業のテーマ 4 技能統合型授業による外国語教育の諸分野の専門知識の獲得と英語力の向上 到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 1）様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと［やり取り・発表］ができる。 4）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。		
授業概要	外国語教育の諸分野に関する英語による講義や英語で書かれた基本図書･雑誌記事等を教材として用いて、10 ラウンドに分けて学習する。 第 1 ラウンド：未習得構文と未習得語彙を学習する。 第 2 ラウンド：リスニングやリーディングによる概要理解 第 3 ラウンド： 未習得構文や未習得語彙の復習 → リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析 第 4 ラウンド： 全体のリスニングまたはリーディング後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳とその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習 第 5 ラウンド： 理解した教材英文の多様な方法による音読練習 → 一部の英文を日英通訳演習 第 6 ラウンド： 課外学習（全文の多様な音読 → 全文の日英通訳演習） 第 7 ラウンド： シャドーイングによる復習 → 音読テスト（またはシャドーイングテスト）→ 日英通訳練習、英問英答、サマリー、リテリング、主要な英文を自分が知っている表現を用いて言い換え練習など 第 8 ラウンド： UNIT 全体をリスニングまたはリーディング → 未習得語彙の復習（重要語彙の定義を読んでその定義が表す語彙を答える） 第 9 ラウンド： 課外学習（理解した内容についての自分の考えを英語でまとめる） 第 10 ラウンド：(原稿を見ずに）プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション UNIT 1「発音指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 2 回： UNIT 1「発音指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 3 回： UNIT 1「発音指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 4 回： UNIT 1「発音指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 5 回： UNIT 1「発音指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 6 回： UNIT 1「発音指導」		

	PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 7 回： UNIT 1「発音指導」 第 10 ラウンド 第 8 回： UNIT1 「発音指導」 小テスト UNIT2「語彙指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 9 回： UNIT 2「語彙指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 10 回： UNIT 2「語彙指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 11 回： UNIT 2「語彙指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 12 回： UNIT 2「語彙指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 13 回： UNIT 2「語彙指導」 PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 14 回： UNIT 2「語彙指導」 第 10 ラウンド 第 15 回： UNIT2 「語彙指導」 小テスト UNIT3「文法指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 16 回： UNIT 3「文法指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 17 回： UNIT 3「文法指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 18 回： UNIT 3「文法指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 19 回： UNIT 3「文法指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 20 回： UNIT 3「文法指導」 PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 21 回： UNIT 3「文法指導」 第 10 ラウンド 第 22 回： UNIT3 「文法指導」 小テスト

	UNIT4「リスニング指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 23 回： UNIT 4 「リスニング指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 24 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 25 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 26 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 27 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 28 回： UNIT 4 「リスニング指導」 第 10 ラウンド 第 29 回： UNIT4 「リスニング指導」 小テスト UNIT1・UNIT2 の復習 第 30 回： UNIT3・UNIT4 の復習 UNIT 1 ～UNIT 4 に関する質疑応答 まとめテスト ＊定期試験は実施しない。
授業方法	講義，演習，実技
アクティブラーニングの視点	毎時間ペアワークやグループワークを行う。各テーマについて理解を深めるとともに、自分の考えをまとめて、クラスの前で発表する経験を通してさらに深い学びを実現する。
授業外学習	授業の予習の必要はありません。 １．但し，未習得の構文や語彙，及び授業で内容を理解した英文の多様で大量の音読，及び指定された英文の和訳を見て英語に直せるようにするなど，少なくとも１時間以上かけて復習すること。 ２.「自分の考えの発表」が求められる授業に備えて，英語でまとめ，発表の練習を授業外でしておくこと。
教科書	Let's Have Fun Teaching English – From Theory to Practice（小原弥生・豊田典子・高橋まり　南雲堂 2021)，　授業中に配布するプリント
参考書	第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉編、大修館書店） A Course in English Language Teaching（Penny Ur,Cambridge University Press） How Languages Are Learned 4th edition（Patsy M. Lightbown 他,Oxford University Press）
評価方法	内容理解（発表）10% 音読またはシャドーイングテスト 20% 日英通訳演習 30% パフォーマンス（プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート）15% 小テスト 15% まとめテスト 10%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大学における外国語授業の実務経験がある者が，その経験を活かして指導する。

No.	573	科目コード	68078
科目名	Academic Listening and Reading 2	授業コード	9324675
教員名	笠巻　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	授業のテーマ 4 技能統合型授業による外国語教育の諸分野の専門知識の獲得と英語力の向上 到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。Academic Listening and Reading 1 で身につけた能力をさらに向上させる。 1）様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと［やり取り・発表］ができる。 4）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。		
授業概要	外国語教育の諸分野に関する英語による講義や英語で書かれた基本図書･雑誌記事等を教材として用いて、10 ラウンドに分けて学習する。 第 1 ラウンド：未習得構文と未習得語彙を学習する。 第 2 ラウンド：リスニングやリーディングによる概要理解 第 3 ラウンド： 未習得構文や未習得語彙の復習 → リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析 第 4 ラウンド： 全体のリスニングまたはリーディング後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳とその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習 第 5 ラウンド： 理解した教材英文の多様な方法による音読練習 → 一部の英文を日英通訳演習 第 6 ラウンド： 課外学習（全文の多様な音読 → 全文の日英通訳演習） 第 7 ラウンド： シャドーイングによる復習 → 音読テスト（またはシャドーイングテスト）→ 日英通訳練習、英問英答、サマリー、リテリング、主要な英文を自分が知っている表現を用いて言い換え練習など 第 8 ラウンド： UNIT 全体をリスニングまたはリーディング → 未習得語彙の復習（重要語彙の定義を読んでその定義が表す語彙を答える） 第 9 ラウンド： 課外学習（理解した内容についての自分の考えを英語でまとめる） 第 10 ラウンド：(原稿を見ずに）プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート		
授業計画	第 1 回： UNIT1「発音指導」～UNIT4「リスニング指導」までの振り返り UNIT 5「リーディング指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 2 回： UNIT 5 「リーディング指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 3 回： UNIT 5 「リーディング指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 4 回： UNIT 5 「リーディング指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 5 回： UNIT 5 「リーディング指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 6 回： UNIT 5 「リーディング指導」		

	PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 7 回： UNIT 5 「リーディング指導」 第 10 ラウンド 第 8 回： UNIT5 「リーディング指導」 小テスト UNIT6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 9 回： UNIT 6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 10 回： UNIT 6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 11 回： UNIT 6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 12 回： UNIT 6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 13 回： UNIT 6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 14 回： UNIT 6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 第 10 ラウンド 第 15 回： UNIT6 「(やり取りを含む) スピーキング指導」 小テスト UNIT7「ライティング指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 16 回： UNIT 7 「ライティング指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 17 回： UNIT 7 「ライティング指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 18 回： UNIT 7 「ライティング指導」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 19 回： UNIT 7 「ライティング指導」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 20 回： UNIT 7 「ライティング指導」 PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 21 回： UNIT 7 「ライティング指導」 第 10 ラウンド 第 22 回： UNIT7 「ライティング指導」 小テスト

	UNIT8「誤りの訂正」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び） 第 23 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択） 第 24 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 25 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART 1 第７ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 26 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART2 第７ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第６ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習） 第 27 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART3 第７ラウンド PART1～PART３の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド 第 28 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 第 10 ラウンド 第 29 回： UNIT8 「誤りの訂正」 小テスト UNIT5・UNIT6 の復習 第 30 回： UNIT7・UNIT8 の復習 UNIT 5 ～UNIT 8 に関する質疑応答 まとめテスト *定期試験は実施しない。
授業方法	講義，演習，実技
アクティブラーニングの視点	毎時間ペアワークやグループワークを行う。各テーマについて理解を深めるとともに、自分の考えをまとめて、クラスの前で発表する経験を通してさらに深い学びを実現する。
授業外学習	授業の予習の必要はありません。 １．但し，未習得の構文や語彙，及び授業で内容を理解した英文の多様で大量の音読，及び指定された英文の和訳を見て英語に直せるようにするなど，少なくとも 1 時間以上かけて復習すること。 ２.「自分の考えの発表」が求められる授業に備えて，英語でまとめ，発表の練習を授業外でしておくこと。
教科書	Let's Have Fun Teaching English – From Theory to Practice（小原弥生・豊田典子・高橋まり　南雲堂 2021)，　授業中に配布するプリント
参考書	第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉編、大修館書店） A Course in English Language Teaching (Penny Ur,Cambridge University Press) How Languages Are Learned 4th edition (Patsy M. Lightbown 他,Oxford University Press)
評価方法	内容理解（発表）10% 音読またはシャドーイングテスト 20% 日英通訳演習 30% パフォーマンス（プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート）15% 小テスト 15% まとめテスト 10%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大学における外国語授業の実務経験がある者が，その経験を活かして指導する。

No.	574	科目コード	68079
科目名	Writing and Debate/Discussion 1	授業コード	9315680
教員名	高田　哲朗		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 1)様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2)様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる 3)様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。 4)様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5)複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6)PREP(主張→理由→例→主張)文章構成法を身に付けて、説得力のある英文が書くことができる。 7)ルーブリックを利用し、自己評価、及び、他者へのアウトプットに対して評価することを意識することにより、教員になった時に学習者のスピーキングやライティングのパフォーマンスを評価する能力を身に付ける。 テーマ 教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上		
授業概要	教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の 1.～4.の 4 つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1.～3. の活動の内 1～2 つを行う。 1. 帯活動 毎回の授業の最初の約 10 分間を用いて行う。 ①Q&A 英語による 2 つの身近な Q に対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各 Q に対して 1 分間ずつ話し続ける。(ペアワーク) ②Extensive Writing 各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を 5 分間行う。 2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動 ③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文 ④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。 ⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。 ⑥④のスクリプトとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。 ⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約 ⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP(主張→理由→例→主張)の流れに沿って英文でまとめる。 3. 即興型ディベート / ディスカッション ⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング 身近な話題について(1)~(4)を行う。授業の前半では、以下の(1)~(4)の各活動前にそれぞれの実例 を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)~(4)の一つ を実際に行い、相互評価を行う。 (1) 三角法(A:主張 → B:A の要約と反論 → C:B の要約と反論 → A:C の要約) (2) ピンポン型(A → B → A → B...) (3) 法廷方式(2 名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2 名からなる否定 → 裁判官からの質問 →肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント) (4) 「やりとり」を促進するルーブリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション ⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション ・ディベートの場合は、⑨を発展させて、エビデンスを使用しないディベートを行う。 肯定立論、否定、立論、否定側の反論、肯定側の反論で、ジャッジも学生が行い、役割交代して行う。		

	4.準備型ディスカッション / ディベート リサーチと英文作成のための期間は原則として 4 週間とする。 ①テーマに関するリサーチをする。 ②リサーチした内容を用いて自分の意見をまとめて原稿を作成する。ディベートの場合は、論題に対する肯定または否定の立場で立論・反駁のスピーチ原稿を書く。英文原稿をまとめる際には、PREP(主 張→理由→例→主張)の文章構成法に従って作成して、期限までに提出する。 ③担当教員から返却された原稿に書かれた修正意見やコメントに従って原稿を改訂する。 ④ディスカッション / ディベートまで、聴き手に自分の考えを理解してもらえるように、原稿を繰り返し音読して、原稿なしで話せるようになるまで練習する。 ⑤1 回目ディスカッション / ディベート ・ディスカッション / ディベート中は用意した原稿は見ずに行う。 ・ディベート の場合は、聴いているグループは教員とともに審査員として評価シートにより、各スピーカーの発言を評価する。 ⑥スパイダー・ウェブ・ディスカッション(平等に意味のあるかたちで討論する、互いの意見を注意して敬意をもって聞く、よく聞こえない場合は繰り返してもらうなどの基準をルーブリックで示す → ルーブリックが達成されるときれいな蜘蛛の巣の記録ができる方式で発言者と内容の記録をとる → ディスカッション後、ルーブリックで振り返り、より良い討論になるように改善点を話し合う) ⑦1~6 の内容を踏まえ、PREP に則り、引用を明記し、事実・意見を区別した質の高い原稿に仕上げ る。 ⑧2 回目ディベート / ディスカッション　　終了後、原稿を提出する。
授業計画	第 1 回: ①オリエンテーション、②リサーチの方法とリサーチした内容のまとめ方、③準備の仕方、 ④練習手順と各ステップの練習をモデル提示、⑤PREP(主張→理由→例→主張)の文章構成法:例示 と練習 第 2 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業内でリサーチ) 第 3 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション ①(授業外でリサーチ) 第 4 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ) 第 5 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ) 第 6 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②(授業外でリサーチまたは英文作成) 第 7 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②(授業外で英文作成) 第 8 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出 第 9 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1) 第 10 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2) 第 11 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び 練習) 第 12 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び 練習) 第 13 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 1.帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤ 第 14 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦ 第 15 回:トピック 1「英語を何年勉強しても英語を使えるようにならないのはなぜか」3.」 1.帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ 第 16 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業内でリサーチ)

	第 17 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ) 第 18 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ) 第 19 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ) 第 20 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②(授業外でリサーチまたは英文作成) 第 21 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②(授業外で英文作成) 第 22 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出 第 23 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1) 第 24 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2) 第 25 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3) 第 26 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び練習) 第 27 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 2.準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び 練習) 第 28 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1.帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤ 第 29 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦ 第 30 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」3.」　1.帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ まとめ
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習や活動及び発表を行う。
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッションを行う 経験学習のサイクル:ミニ・講義→実演→失敗→振り返り→再挑戦 ルーブリック利用:目標の確認→振り返り→自己・相互評価
授業外学習	・教育全般や英語教育に関してリサーチを行う。 ・ディベートやディスカッションの原稿を書く。 ・原稿を練習して発表できるように準備する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。
教科書	プリント
参考書	Discover Debate (M. Lubetsky, C. Lebeau, and D. Harrington (2007), Language Solutions Inc.) 最高の授業: スパイダー討論が教室を変える(アレキシス・ウィギンズ著 (2018)、新評論) 学生のためのボランティア論(岡本 栄一著(2006)、大阪ボランティア協会出版部) 授業でできる即興型英語ディベート(中川 智皓著(2017)、パーラメンタリーディベート人材育成協会(ネ リーズ出版)) 全解説 英語革命 2020(安河内 哲也著(2018)、文芸春秋)
評価方法	1.帯活動 ①Q&A 10% ②Extensive writing 10% 2.準備活動 ③瞬間口頭英作文+⑥日英通訳演習 10% ⑧ライティング(要約+意見)10% 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨⑩ 20% 4. 準備型ディベート・ディスカッション 原稿(初稿・最終稿)20%　ディベート・ディスカッション⑤⑥⑧ 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	３８年間の高校英語教員としての経験を活かして、現場で通用する実践的な指導力や英語力を伸ばす指導を行う。

No.	575	科目コード	68080
科目名	Writing and Debate/Discussion 2	授業コード	9324685
教員名	高田　哲朗		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。Writing and Debate / Discussion 1 で身につけた能力をさらに向上させる。 1）様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2）様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと［やり取り・発表］ができる。 4）様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5）複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6）PREP（主張→理由→例→主張）文章構成法を身に付けて、説得力のある英文が書くことができる。 7）ルーブリックを利用し、自己評価、及び、他者へのアウトプットに対して評価することを意識することにより、教員になった時に学習者のスピーキングやライティングのパフォーマンスを評価する能力を身に付ける。 テーマ 教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上		
授業概要	授業の概要 教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の 1.～4. の 4 つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1.～3. の活動の内 1～2 つを行う。 1.帯活動 毎回の授業の最初の約 10 分間を用いて行う。 ①Q&A 英語による 2 つの身近な Q に対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各 Q に対して 1 分間ずつ話し続ける。(ペアワーク) ②Extensive Writing 各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を 5 分間行う。 2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動 ③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文 ④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。 ⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。 ⑥④のスクリプトとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。 ⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約 ⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP（主張→理由→例→主張）の流れに沿って英文でまとめる。 3. 即興型ディベート / ディスカッション ⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング 身近な話題について(1)～(4)を行う。授業の前半では、以下の(1)～(4)の各活動前にそれぞれの実例を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)～(4)の一つを実際に行い、相互評価を行う。 (1) 三角法（A：主張 → B：A の要約と反論 → C：B の要約と反論 → A：C の要約） (2) ピンポン型（A → B → A → B…） (3) 法廷方式(2 名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2 名からなる否定 → 裁判官からの質問 → 肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント)		

(4) 「やりとり」を促進するルーブリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション
⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション
授業の概要
教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の 1.～4. の 4 つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1.～3. の活動の内 1～2 つを行う。
1. 帯活動
毎回の授業の最初の約 10 分間を用いて行う。
①Q&A
英語による 2 つの身近な Q に対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各 Q に対して 1 分間ずつ話し続ける。(ペアワーク)
②Extensive Writing
各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を 5 分間行う。
2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動
③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文
④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。
⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。
⑥④のスクリプトとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。
⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約
⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP（主張→理由→例→主張）の流れに沿って英文でまとめる。
3. 即興型ディベート / ディスカッション
⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング
身近な話題について(1)～(4)を行う。授業の前半では、以下の(1)～(4)の各活動前にそれぞれの実例を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)～(4)の一つを実際に行い、相互評価を行う。
(1) 三角法（A：主張 → B：A の要約と反論 → C：B の要約と反論 → A：C の要約）
(2) ピンポン型（A → B → A → B…）
(3) 法廷方式（2 名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2 名からなる否定 → 裁判官からの質問 →
肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント）
(4) 「やりとり」を促進するルーブリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション
⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション
・ディベートの場合は、⑨を発展させて、エビデンスを使用しないディベートを行う。
肯定立論、否定、立論、否定側の反論、肯定側の反論で、ジャッジも学生が行い、役割交代して行う。
4. 準備型ディスカッション / ディベート
リサーチと英文作成のための期間は原則として 4 週間とする。
①テーマに関するリサーチをする。
②リサーチした内容を用いて自分の意見をまとめて原稿を作成する。ディベートの場合は、論題に対する肯定または否定の立場で立論・反駁のスピーチ原稿を書く。英文原稿をまとめる際には、PREP（主張→理由→例→主張）の文章構成法に従って作成して、期限までに提出する。
③担当教員から返却された原稿に書かれた修正意見やコメントに従って原稿を改訂する。
④ディスカッション / ディベートまで、聴き手に自分の考えを理解してもらえるように、原稿を繰り返し音読して、原稿なしで話せるようになるまで練習する。
⑤1 回目ディスカッション / ディベート
・ディスカッション / ディベート中は用意した原稿は見ずに行う。
・ディベート の場合は、聴いているグループは教員とともに審査員として評価シートにより、各スピーカーの発言を評価する。
⑥スパイダー・ウェブ・ディスカッション（平等に意味のあるかたちで討論する、互いの意見を注意して敬意をもって聞く、よく聞こえない場合は繰り返してもらうなどの基準をルーブリックで示す → ルーブリックが達成されるときれいな蜘蛛の巣の記録ができる方式で発言者と内容の記録をとる → ディスカッション後、ルーブリックで振り返り、より良い討論になるように改善点を話し合う）
⑦①～⑥の内容を踏まえ、PREP に則り、引用を明記し、事実・意見を区別した質の高い原稿に仕上げる。

	⑧2 回目ディベート / ディスカッション　　終了後、原稿を提出する。
授業計画	第 1 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ） 第 2 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ） 第 3 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ） 第 4 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ） 第 5 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②（授業外でリサーチまたは英文作成） 第 6 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成） 第 7 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出 第 8 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1) 第 9 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2) 第 10 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3) 第 11 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション　原稿返却　返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習） 第 12 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①②　2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4.準備型ディベート/ディスカッション　原稿返却　返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習） 第 13 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤ 第 14 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦ 第 15 回：トピック 3「受験対策指導は必要である」　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ 第 16 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ） 第 17 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ） 第 18 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ） 第 19 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ） 第 20 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②（授業外でリサーチまたは英文作成） 第 21 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥　4. 準備型ディベート/ディスカッション）②（授業外で英文作成） 第 22 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧　4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出 第 23 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③　3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1) 第 24 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③　3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2) 第 25 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　1. 帯活動①②

	2. 準備期間の活動③　　3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3) 第 26 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③　　3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション　原稿返却　返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習） 第 27 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　　1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③　　3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション　原稿返却　返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習） 第 28 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤ 第 29 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦ 第 30 回：トピック 4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」　　1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧　　まとめ
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習や活動及び発表を行う。
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッションを行う 経験学習のサイクル：ミニ・講義→実演→失敗→振り返り→再挑戦 ルーブリック利用：目標の確認→振り返り→自己・相互評価
授業外学習	・教育全般や英語教育に関してリサーチを行う。 ・ディベートやディスカッションの原稿を書く。 ・原稿を練習して発表できるように準備する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。
教科書	プリント
参考書	Discover Debate (M. Lubetsky, C. Lebeau, and D. Harrington (2007), Language Solutions Inc.) 最高の授業: スパイダー討論が教室を変える(アレキシス・ウィギンズ著 (2018)、新評論) 学生のためのボランティア論（岡本　栄一著(2006)、大阪ボランティア協会出版部） 授業でできる即興型英語ディベート（中川　智皓著(2017)、パーラメンタリーディベート人材育成協会(ネリーズ出版)） 全解説 英語革命 2020（安河内 哲也著(2018)、文芸春秋）
評価方法	1. 帯活動　①Q&A 10%　②Extensive writing 10% 2. 準備活動　③瞬間口頭英作文＋⑥日英通訳演習 10% ⑧ライティング（要約＋意見）10% 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨⑩20% 4. 準備型ディベート・ディスカッション 原稿（初稿・最終稿）20%　　ディベート・ディスカッション⑤⑥⑧　20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	３８年間の高校英語教員としての経験を活かして、現場で通用する実践的な指導力や英語力を伸ばす指導を行う。

No.	576	科目コード	68081
科目名	English Linguistics Workshop A	授業コード	9315690
教員名	吉田　幸治		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 1.中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 (1) 英語の音声の仕組みについて理解している。 (2) 英語の文法について理解している。 (3) 国際共通語としての英語の実態について理解している。 2. 言語学の知見を利用して、英文法・語彙・発音などに関する背景を理解しながら、客観的かつ正確な規則を獲得し、指導に役立つ知識を身につけ、学習者の英語に関する様々な質問に答えることができるようになる。 3. 日本人が誤りやすい項目と文法・語彙の知識だけでは不十分な部分について考えることによっ て、母語話者の正誤判断の知識に迫り、英語の発想方法の理解を深める。		
授業概要	本授業では、教科書および配付資料の読解が授業の中心となりますが、各回の重要事項について受講生に考えてきてもらい、意見交換も行います。授業内での受講生の活発な意見交換を期待しています。 また、毎回授業の３０分程度を「日本人に多い語法・文法上の誤りおよび誤解」を解消するための演習活動に用います。この演習活動は様々な文法書、語法書、辞書、コーパスなどの資料の具体的説明とそれらを効果的かつ適切に用いる方法の演習を行うものです。具体的には、文法・語彙・イディオム・構文などが持つ諸特徴を取り上げ、形式・意味・ニュアンスなどを理解した上で、場面と結びついた正確な用法の理解を目指します。 内容が多岐に亘るので、予習よりも復習を重視してください。授業内でも利用することが多いので、Office 系ソフトを中心に、各種アプリケーションの利用にも慣れておいてください。		
授業計画	第 1 回:英語とは: 一般に流布する誤解、専門家でも知らない事実と勘違い、演習活動 1 第 2 回:英語を深く理解する方法 1: コーパスの利用方法、正誤判断の方法、演習活動 2 第 3 回:英語を深く理解する方法 2: 書籍・音声・動画のデーター化と利用、演習活動 3 第 4 回:辞書の世界 1: 種類、利用方法、編纂のされ方、注意点、演習活動 4 第 5 回:辞書の世界 2: 辞書の様々な問題点、辞書の過去・現在・未来、演習活動 5 第 6 回:英語の歴史 1: 英国の歴史、古英語、中英語、初期近代英語、演習活動 6 第 7 回:英語の歴史 2: 後期近代英語、現代英語、未来の英語、演習活動 7 第 8 回:単語仕組みの注意点: 屈折と派生、句と複合語の違い、演習活動 8 第 9 回:単語の使い方の注意点: 語法研究法、単語の整理方法、演習活動 9 第 10 回:単語の意味: 単義と多義、イディオムの成り立ち、演習活動 10 第 11 回:語順を変える表現: 倒置文、外置構文、繰り返し、強調、演習活動 11 第 12 回:省略表現: 主語・目的語の省略、前置詞・接続詞の省略、演習活動 12 第 13 回:文の意味とは: 真偽値、認知的等価文とニュアンスの問題、演習活動 13 第 14 回:語用論的意味に注意: 伝わらない文、誤解される文、演習活動 14 第 15 回:総復習 定期試験		
授業方法	講義と演習作業を中心とする。毎回小テストを行う。		
アクティブラーニングの視点	授業内で解説した概念を利用して、課題に対する議論と解決のためのペアワークまたはグループワークを行う。これと並行して、コーパス・インターネットを利用して英語の言語事実を調べる作業を行う。		
授業外学習	英語の言語事実に関する知識の予習（45 分） 新たに得た英語の言語事実に関する知見の復習（45 分）		
教科書	三原健一・高見健一（編著）『日英対照 英語学の基礎』　くろしお出版　2013 年 11 月		
参考書	各種言語学・英語学事典（初回授業で紹介）		
評価方法	定期試験(60%)、レポート(20%)、授業内課題(20%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	577	科目コード	68082
科目名	English Linguistics Workshop B	授業コード	9324695
教員名	吉田　幸治		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1.中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 (1) 英語の音声の仕組みについて理解している。 (2) 英語の文法について理解している。 (3) 国際共通語としての英語の実態について理解している。 2. 言語学の知見を利用して、英文法・語彙・発音などに関する背景を理解しながら、客観的かつ正確な規則を獲得し、指導に役立つ知識を身につけ、学習者の英語に関する様々な質問に答えることができるようになる。 3. 日本人が誤りやすい項目と文法・語彙の知識だけでは不十分な部分について考えることによっ て、母語話者の正誤判断の知識に迫り、英語の発想方法の理解を深める。		
授業概要	後期のこの授業では、広範な英語の文法に関する事実を取り上げ、その背景を理解しながら指導に役立つ知識を身につけていただきたいと思います。特に、英語特有の述べ方・表現について深く考えることによって、英語の運用能力を高めるようにします。 前期と同様に、教科書および配付資料の読解、各回の重要事項について受講生に考えてきてもらった上で意見交換を行います。授業内での受講生の活発な意見交換を期待しています。 また、毎回授業の 30 分程度を「日本人に多い語法・文法上の誤りおよび誤解」を解消するための演習活動も継続して行います。この演習活動は様々な文法書、語法書、辞書、コーパスなどの資料の具体的説明とそれらを効果的かつ適切に用いる方法の演習を行うものです。具体的には、文法・語彙・イディオム・構文などが持つ諸特徴を取り上げ、形式・意味・ニュアンスなどを理解したうえで、場面と結びついた正確な用法の理解を目指します。内容が多岐に亘るので、予習よりも復習を重視してください。授業内でも利用することが多いので、Office 系を中心に、各種アプリケーションの利用にも慣れておいてください。		
授業計画	第 1 回:誤用 1: 文化的な要因による誤用、演習活動 1 第 2 回:誤用 2: 日本語にはない発想による誤用、演習活動 2 第 3 回:文法の諸問題 1: 他動詞・自動詞、能動態・受動態、演習活動 3 第 4 回:文法の諸問題 2: 経過重視の日本語と結果重視の英語、演習活動 4 第 5 回:文法の諸問題 3: 英語の重層表現、境界性、演習活動 5 第 6 回:文法の諸問題 4: シノニム、メタファー、メトニミー、演習活動 6 第 7 回:文法の諸問題 5: 意味の拡張パターンにおける日英差、演習活動 7 第 8 回:文法の諸問題 6: 転移修飾、隣接性を破っている表現、演習活動 8 第 9 回:文法と文化の注意点: 英語の発想法、英語圏の文化、演習活動 9 第 10 回:社会との関わり: ビジネス英語、法言語、演習活動 10 第 11 回:文語と口語: 小説、詩、映画、ニュース、スポーツ、演習活動 11 第 12 回:最近気になる表現: 新語、造語、演習活動 12 第 13 回:英語と AI: 機械翻訳、SNS、略語、演習活動 13 第 14 回:関連諸分野: 英語の理解に役立つ知識、演習活動 14 第 15 回:総復習 定期試験		
授業方法	講義と演習作業を中心とする。毎回小テストを行う。		
アクティブラーニングの視点	授業内で解説した概念を利用して、課題に対する議論と解決のためのペアワークまたはグループワークを行う。これと並行して、コーパス・インターネットを利用して英語の言語事実を調べる作業を行う。		
授業外学習	英語の言語事実に関する知識の予習 (45 分) 新たに得た英語の言語事実に関する知見の復習 (45 分)		
教科書	三原健一・高見健一 (編著)『日英対照 英語学の基礎』　くろしお出版　2013 年 11 月		
参考書	各種言語学・英語学事典 (初回授業で紹介)		
評価方法	定期試験(60%)、レポート(20%)、授業内課題(20%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	578	科目コード	68083
科目名	Literature in English 2	授業コード	9315700
教員名	DECKER, Warren		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。 (1) 英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解することができる。 (2)　理解した作品の内容を適切に朗読できる。 (3)　理解した作品を劇化するために脚本を書くことができる。 (4)　理解した作品を実際に劇として演じることができる。 (5)　自分で英語で作品（ポエム、ストーリー等）を書くことができる。 (6)　伝統的なポエムの形や音数率について理解できる。 テーマ 英語で書かれた文学作品の講読・音声表現・脚本化・劇化		
授業概要	①英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解する。 ②理解した作品を他人に読み聴かせるつもりで、気持ちを込めて朗読する。 ③理解した作品を劇化するために、作品を脚本に書き換える。 ④理解して脚本にした作品を実際に演じる。 ⑤英語でポエムやストーリーを書いて発表する。		
授業計画	第 1 回：現代の短編小説：ポイント・オブ・ビュー　/　ライティングワークショップ 第 2 回：現代の短編小説：人物　/　ライティングワークショップ 第 3 回：現代の短編小説：ストーリー　/　ライティングワークショップ　/　朗読ワークショップ 第 4 回：現代の短編小説：コンフリクト　/　ライティングワークショップ　/　朗読ワークショップ 第 5 回：現代の短編小説：談話、会話　/　ライティングワークショップ 第 6 回：現代の短編小説：話し方、見方　/　脚本作り 第 7 回：現代の短編小説：比喩　/　脚本作り 第 8 回：現代の短編小説：メッセージ　/　劇の発表 第 9 回：現代のポエム：イメージ　/　ライティングワークショップ 第 10 回：現代のポエム：比喩的と文字通りの意味　/　ライティングワークショップ　/　朗読ワークショップ 第 11 回：現代のポエム：形　①-　リズム、ライム　/　ライティングワークショップ　/　朗読ワークショップ 第 12 回：現代のポエム：形　②-　メーター（音数率）　/　ライティングワークショップ 第 13 回：現代のポエム：形　③-　コンフリクトポエム、ビジュアルポエム　/　脚本作り 第 14 回：現代のポエム：社会へのメッセージ　/　脚本作り 第 15 回：まとめ、復習、ポートフォリオ発表会、劇の発表		
授業方法	This class will require active participation. Be ready to share your ideas. Please note that I may make changes to the above plans to meet the needs of the students.		
アクティブラーニングの視点	学生は代表的文学作品を読んで、理解してから自分で作品を書く、発表し、お互いにフェッドバック提供する。		
授業外学習	Be ready to study outside of class.		
教科書	プリント		
参考書	「Norton Anthology of Short Fiction」Bausch, Richard 「Norton Anthology of Poetry」Ferguson, Margaret 「The Best American Short Stories」Pitlor, Heidi 「The Best American Poetry」Lehman, David		
評価方法	参加：25%　試験：25%　ポートフォリオ：50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	The teacher of this course is a published writer.		

No.	579	科目コード	68084
科目名	Literature in English 3	授業コード	9324705
教員名	DECKER, Warren		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023年度 後期
到達目標	英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。 (1) 英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解することができる。 (2) 理解した作品の内容を適切に朗読できる。 (3) 理解した作品を劇化するために脚本を書くことができる。 (4) 理解した作品を実際に劇として演じることができる。 (5) 自分で英語で作品（ポエム、ストーリー等）を書くことができる。 (6) 伝統的なポエムの形や音数率について理解できる。 テーマ 英語で書かれた文学作品の講読・音声表現・脚本化・劇化		
授業概要	①英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解する。 ②理解した作品を他人に読み聴かせるつもりで、気持ちを込めて朗読する。 ③理解した作品を劇化するために、作品を脚本に書き換える。 ④理解して脚本にした作品を実際に演じる。 ⑤英語でポエムやストーリーを書いて発表する。		
授業計画	第1回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck　ダストボウル、背景等 / 朗読ワークショップ 第2回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck　当時の社会等 / 朗読ワークショップ 第3回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck　経済、資本主義 / ライティングワークショップ 第4回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck　土地との繋がり等 / ライティングワークショップ 第5回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck 「Work」の意味等 / ライティングワークショップ 第6回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck　作品のメッセージ　/ 脚本作り 第7回：小説「The Grapes of Wrath」John Steinbeck　作品発表　/　劇の発表　/　朗読発表 第8回：小説「1984」George Orwell　背景　/ ライティングワークショップ 第9回：小説「1984」George Orwell　人間と機械　/ ライティングワークショップ 第10回：小説「1984」George Orwell　テクノロジー　/　朗読ワークショップ 第11回：小説「1984」George Orwell　言語とメディア　/　朗読ワークショップ 第12回：小説「1984」George Orwell　政治や政府　/ ライティングワークショップ 第13回：小説「1984」George Orwell　現在の社会、未来の社会　/　脚本作り 第14回：小説「1984」George Orwell　作品のメッセージ　/　脚本作り 第15回：　まとめ、復習、ポートフォリオ発表、/　劇の発表　/　朗読発表		
授業方法	This class will require active participation. Be ready to share your ideas. Please note that I may make changes to the above plans to meet the needs of the students.		
アクティブラーニングの視点	学生は代表的文学作品を読んで、理解してから自分で作品を書く、発表し、お互いにフェッドバック提供する。		
授業外学習	Be ready to study outside of class.		
教科書	プリント		
参考書	「The Grapes of Wrath」John Steinbeck 「1984」George Orwell 「Norton Anthology of Short Fiction」Bausch, Richard 「Norton Anthology of Poetry」Ferguson, Margaret		
評価方法	参加：25%　試験：25%　ポートフォリオ：50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	The teacher of this course is a published writer.		

No.	580	科目コード	68089
科目名	Practical English Teaching Workshop A	授業コード	9300477
教員名	有本　純（前期）・黒川　愛子（後期）		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期～後期

到達目標

前期

適切な技法を適切な順序で用いて、効果的な音読指導ができる。
生徒が聞いたりまねたりするモデルとして、教科書の英文で適切な音読ができる。
指導する語彙や文法を適切に用いて、英語を話したり書いたりできる。

後期

どの校種でも活用できる，身体の動きを通した外国語指導法 TPR（Total Physical Response）を学ぶことによって、

・児童・生徒が聴いたり、まねたりするモデルとして、適切な音読ができるようになる。
・身体の動きを伴った適切で効果的な語彙指導と文法指導をおこなうことができるようになる。
・授業で指導する語彙や文法を適切に用いて英語を話したり書いたりできるようになる。

授業概要

前期

様々な音読技法を習得し、それらを実際に用いて音読指導の模擬授業を実施する。

後期

スムーズな小中接続を可能にする、身体の動きを通した外国語指導法 TPR（Total Physical Response）による語彙と文法の指導法を学ぶとともに、実際に TPR を用いた語彙指導と文法指導の模擬授業を実施する。

授業計画

【前期】
第１回　シラバス説明、音読の概要と目的（2.1-2.8 および 3.1）
第２回　①バックワード・イチゴ読み、②Backward-Buildup, ③Listen & Repeat,
　　④Read Aloud -Listen & Repeat（3.2: 1-4）
第３回　⑤Parallel Reading/ Overlapping, ⑥Shadowing, ⑦Delayed Shadowing（3.2: 5-7)、
　　指導法実践４
第４回　⑧Read & Look-up, ⑨複数文 Read & Look-up, ⑩空所補充音読（3.3: ８-10)、指導法実践５
第５回　⑪鉛筆置き音読、⑫Repeating, ⑬Intake Reading, ⑭Delayed Reading（3.3: 11-14)、
　　指導法実践８・９、Quiz 1
第６回　⑮Memory Reading, ⑯Read Aloud-Listen & Repeat + Memory Reading,
　　⑰Read & Look-up + Memory Reading（3.3: 15-17)、指導法実践 12・14
第７回　⑱フレーズ単独日英通訳演習、⑲日英通訳演習、⑳キーワード付き音読、
　　Story Production（3.3: 18-21)、指導法実践 15・16・17
第８回　Speed Reading Aloud, And then there were none, Q & A 音読、
　　主語変換音読（3.4-5: 22-25)、指導法実践 18・19
第９回　Oral Interpretation（3.5: 26)、指導法実践 23・24
第 10 回 状況設定音読、ネイティブ・ピッタシ音読、妨害読み、
　　追っかけ読み（3.5-6: 27-30)、Quiz 2
第 11 回 逆さま音読、つっこみ音読、リレー音読（3.6: 31-33)、指導法実践 27・29
第 12 回 役割別音読、スキャニング音読、輪読（3.6: 34-36)、指導法実践 31・32
第 13 回 Buzz Reading, 四方読み（3.7: 37-38)、指導法実践 34・35、録音テスト、
　　フォニックスと音読指導（第４章）
第 14 回 フォニックスと音読指導（第４章)、Quiz 3
第 15 回 テスト講評、授業の復習とふりかえり
【後期】
第１回　・オリエンテーション：授業内容や評価法などの説明
　　・講義：TPR（Total Physical Response）とは・TPR と私・TPR の効果（1）
　　・TPR 体験：未習外国語を学ぶ
　　・課題：TPR の講義及び体験の感想
第２回　・テスト（前回の TPR の講義内容の小テスト）
　　・講義：TPR の効果（2)、TPR の指導手順

	・TPR による語彙指導 1 とグループでの模擬授業 第 3 回　・テスト（前回の TPR の講義内容及び学んだ表現の小テスト） ・講義：TPR はなぜ効果があるか ・TPR による語彙指導 2 とグループでの模擬授業 第 4 回　・テスト（前回の TPR の講義内容及び学んだ表現の小テスト） ・講義：TPR を用いて指導する際の留意点 ・TPR による語彙指導 3 とグループでの模擬授業 第 5 回　・テスト（前回の TPR の講義内容及び学んだ表現の小テスト） ・講義：TPR による語彙指導と文法指導の例文を作成する際の留意点 ・TPR による語彙指導 4 とグループでの模擬授業 第 6 回　・テスト（前回の TPR の講義内容及び学んだ表現の小テスト） ・講義：語彙指導と文法指導の一般の例文に見られる問題点と改善策 ・TPR による語彙指導 5 とグループでの模擬授業 ・次回までの課題：TPR による語彙指導例文作成 第 7 回　・テスト（前回の TPR の講義内容及び学んだ表現の小テスト） ・TPR による語彙指導 6 とグループでの模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（命令文と否定命令文）とグループでの模擬授業 ・次回までの課題：TPR を用いた文法指導例文作成（命令文と否定命令文） 第 8 回　・テスト（前回の TPR の講義内容及び学んだ表現の小テスト） ・TPR による語彙指導 7 とグループでの模擬授業 ・作成した TPR による語彙指導例文を用いた模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（進行形）とグループでの模擬授業 ・次回までの課題 TPR による文法指導例文作成（進行形） 第 9 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・作成した TPR による語彙指導例文を用いた模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（命令文と否定命令文）の模擬授業 第 10 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・作成した TPR による語彙指導例文を用いた模擬授業 ・作成した TPR による文法指導（進行形）例文を用いた模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（過去形と現在完了形）とグループでの模擬授業 ・次回までの課題：TPR による文法指導例文作成（過去形と現在完了形） 第 11 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・TPR を用いた文法指導（関係代名詞）とグループでの模擬授業 ・次回までの課題：TPR による文法指導例文作成（関係代名詞） 第 12 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・作成した TPR による文法指導（過去形と現在完了）例文を用いた模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（接続詞 after , before , until など）とグループでの模擬授業 ・次回までの課題：TPR を用いた文法指導（接続詞 after , before , until など）の例文作成 第 13 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・作成した TPR による文法指導（関係代名詞）例文を用いた模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（付帯状況の分詞構文, with）とグループでの模擬授業 ・次回までの課題：TPR を用いた文法指導（付帯状況の分詞構文と with）の例文作成 第 14 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・作成した TPR による文法指導（接続詞 after, before, until など）の例文を用いた模擬授業 ・TPR を用いた文法指導（不定詞副詞用法）とグループでの模擬授業 第 15 回　・テスト（TPR による指導で学んだ表現の小テスト） ・作成した TPR による文法指導（付帯状況の分詞構文、with）の例文を用いた模擬授業 ・振り返り
授業方法	前期：　講義および演習 後期：　講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習形式で行う。
アクティブラーニングの視点	前期：　ペア・グループによる音読演習、模擬授業、相互評価 後期：　ペアやグループによる協働学習・プレゼンテーション・模擬授業、相互評価

授業外学習	前期：　教科書の予習（次回分を読む)、音読練習（手法と音声面の確認)、模擬授業の準備 後期：　①前時の講義内容を復習して小テストに備えること。 ②辞書・文法書・コーパスを活用して、TPR を用いた語彙や文法の指導のための例文を作成すること。 ③②で作成した例文を用いて、模擬授業をするための指導案を作成すること。 ④③で作成した指導案に基づいて、TPR を活用した語彙指導・文法指導ができるようにし模擬授業のための練習をすること。 ⑤配布資料を用いて，日本語からら瞬時に英語に変換できるまで繰り返し練習すること。 以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。
教科書	前期：　鈴木寿一・門田修平「英語音読指導ハンドブック」大修館書店 後期：　中学校検定教科書　New Horizon English Course 1 年生用（東京書籍） 中学校検定教科書　New Horizon English Course 2 年生用（東京書籍）
参考書	前期：　安木真一「英語力がぐんぐん身につく！驚異の音読指導法 54」明治図書 後期：　「英語リスニング指導ハンドブック」(大修館書店) Learning Another Language through Actions （7th edition）　James J. Asher　Sky Oaks Productions　2009 年)
評価方法	前期：　指導法実践: 25%、録音テスト: 35%、Quiz: 10+10＋20=40% 後期：　前時の授業内容についての小テスト（15%）　日英通訳演習（30%） TPR を用いた語彙例文・文法例文作成課題（20%） 模擬授業（20%） 教員からの質問等に対する積極的な発言・活動参加度・受講態度など（15%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実務経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

No.	581	科目コード	68090
科目名	Practical English Teaching Workshop B	授業コード	9300710
教員名	杉本　義美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	１．評価方法の違いを知り、適切な評価方法の運用を理解できる。 ２．日本の学校教育に求められる学習評価の内容及び評価方法を理解できる。 ３．外国語科に求められる学習評価の内容を理解し、かつ適切な評価方法・場面を理解できる。		
授業概要	前期：集団準拠評価、目標準拠評価、個人準拠評価のそれぞれの特徴及び課題を学ぶ。学校教育評価の根幹である観点別学習状況評価の趣旨及びその内容を理解し、実際の運用方法を理解する。さらにそれに基づいた、具体的な評価方法及び評価場面について学ぶ。 後期：前期の「テストと評価１」の授業を踏まえて、実際のテスト問題を作成する。その際、適切なテスト方法・場面やその測定方法を学ぶ。これらのことを通じて、実際の英語授業において、指導と評価が一体化する英語授業の構築を学ぶ。		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション、評価が果たす機能、評価活動の必要性 第 2 回： 評価活動の必要性、3 つの評価観の違い：集団準拠評価、目標準拠評価、個人準拠評価 第 3 回： 観点別学習状況評価 第 4 回： 外国語科における観点別学習状況評価項目とその運用 第 5 回： CEFR の考え方と CAN-DO List の関係 第 6 回： CAN-DO List の必要性とその運用 第 7 回：実際の授業における評価の運用１ 第 8 回：実際の授業における評価の運用２ 第 9 回：実際の授業における評価の運用３ 第 10 回：テストの種類とその内容 第 11 回：実際のテスト問題検討１ 第 12 回：実際のテスト問題検討２ 第 13 回：実際のテスト問題検討３ 第 14 回：学校におけるテスト作成のポイント：アチーブメントテストの要件 第 15 回： まとめ：評価・テストに関する Q&A（１） 第 16 回： オリエンテーション、前期授業「評価とテスト１」の要点復習、評価に関する Q&A 第 17 回： 現在のテスト問題の問題点１（中学校の事例)、Discussion 第 18 回： 現在のテスト問題の問題点２（高等学校の事例)、Discussion 第 19 回： テスト問題作成・分析１（文法問題)、Discussion 第 20 回： テスト問題作成・分析２（語彙問題)、Discussion 第 21 回： テスト問題作成・分析３（英文作成問題)、Discussion 第 22 回： テスト問題作成・分析４（内容理解問題)、Discussion 第 23 回： テスト問題作成・分析５（リスニング問題)、Discussion 第 24 回： テスト問題作成・分析６（技能統合問題)、Discussion 第 25 回： テスト問題作成・分析７（スピーキング問題)、Discussion 第 26 回： テスト問題作成・分析８（パフォーマンス問題)、Discussion 第 27 回： 指導と評価の一体化１：具体的な指導場面とそれを評価する方法（場面)、Discussion 第 28 回： 指導と評価の一体化２：波及効果と CAN-DO list の活用、指導の改善、Discussion 第 29 回： 指導と評価の一体化３：ルーブリック作成及び performance 評価での活用、Discussion 第 30 回： 指導と評価の一体化４：より良い指導の実践と自律的な学習者の育成、まとめ：評価・テストに関する Q&A（２） 定期試験は実施しない 上記の計画は一部変更する場合あり。		
授業方法	前期：事前に与えられた課題に関する学生発表及びそれに基づくディスカッションをベースにした授業展開を行う。 後期：毎時間受講生が主体的に考え、かつグループでのディスカッションを通じて、評価とテストにつ		

	いて深い理解を求める。また、受講生が作成したテスト問題を受講生同士が分析することを通じて、テスト作成能力を育成する。
アクティブラーニングの視点	前期：事前に与えられた課題に関する学生発表及びそれに基づくディスカッションを行う。 後期：毎時間受講生が主体的に考え、かつグループでのディスカッションを通じて、評価とテストについて深い理解を求める。また、受講生が作成したテスト問題を受講生同士が分析する。
授業外学習	毎時間事前に資料を読んでおくことが求められる。また、資料の内容をまとめて発表することもある。
教科書	プリント使用（事前に提示及び配布）
参考書	学習指導要領、生徒指導要録、中央教育審議会答申（2018）、望月昭彦等『英語 4 技能評価の理論と実践: CAN-DO・観点別評価から技能統合的活動の評価まで」（2015）（大修館書店）、小泉利恵等『英語テスト作成ガイド』（2017）（大修館書店）
評価方法	前期：授業における課題発表内容（30%）、中間レポート（20%）、最終レポート（50%） 後期：レポート（30%）、テスト作成（30%）、最終レポート（40%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における英語教員経験がある者が、その経験を活かして、この科目を講義及び指導する。

No.	582	科目コード	68091
科目名	Practical English Teaching Workshop C	授業コード	9300715
教員名	杉本　義美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	１．中学校英語教科書の内容の概要を簡単な英語で説明できる。 ２．中学校英語教科書の本文を指導する指導技術を身に付けることができる。		
授業概要	前期：中学校 2 年の教科書の Read and Think の内容を口頭英語で紹介する技術を学ぶ。 後期：中学校 2 年の教科書の Read and Think の内容を口頭英語で紹介する技術を学ぶ。さらに、その内容理解に必要な発問作成技術や ral interaction の手法をも学ぶ。		
授業計画	第 1 回：オリエンテーション、英語指導についてのアンケート調査 第 2 回：日本の英語教育の現状と課題、教科書の扱いと今後の発表分担 第 3 回：2 年 Unit 1 の内容確認及び音読練習、retelling 練習 第 4 回：Unit 1 Retelling 発表、Unit 1 の oral interaction の手法と練習 第 5 回：2 年 Unit 2 の内容確認及び音読練習、retelling 練習 第 6 回：Unit 2 Retelling 発表、Unit 2 の oral interaction の手法と練習 第 7 回：2 年 Unit 3 の内容確認及び音読練習、retelling 練習 第 8 回：Unit 3 Retelling 発表、Unit 3 の oral interaction の手法と練習 第 9 回：2 年 Unit 4 の内容確認及び音読練習、retelling 練習 第 10 回：Unit 4 Retelling 発表、Unit 4 の oral interaction の手法と練習 第 11 回：2 年 Unit 5 の内容確認及び音読練習、retelling 練習 第 12 回：Unit 5 Retelling 発表、Unit 5 の oral interaction の手法と練習 第 13 回：2 年 Unit 6 の内容確認及び音読練習、retelling 練習 第 14 回：Unit 6 Retelling 発表、Unit 6 の oral interaction の手法と練習 第 15 回：まとめ：前期授業に関する Q&A 第 16 回：オリエンテーション、教科書の扱いと今後の発表分担 第 17 回：3 年 Unit 1 の内容確認及び音読練習 第 18 回：音読練習から output 練習、Unit1 oral interaction の手法と練習 第 19 回：Unit 1 oral interaction の発表、振り返り 第 20 回：3 年 Unit 2 の内容確認及び音読練習 第 21 回：音読練習から output 練習、Unit 2 oral interaction の手法と練習 第 22 回：Unit 2 oral interaction の発表、振り返り 第 23 回：3 年 Unit 3 の内容確認及び音読練習 第 24 回：音読練習から output 練習、Unit 3 oral interaction の手法と練習 第 25 回：Unit 3 oral interaction の発表、振り返り 第 26 回：3 年 Unit 4 Read ＆Think 内容理解発問づくり 第 27 回：Unit 4 模擬授業（Oral interaction、内容理解活動） 第 28 回：3 年 Unit 5 Read ＆Think 内容理解発問づくり 第 29 回：Unit 5 模擬授業（Oral interaction、内容理解活動） 第 30 回：まとめ：後期授業に関する Q&A 上記の計画は一部変更する場合あり。		
授業方法	受講生中心の主体的な学習及び演習中心形態		
アクティブラーニングの視点	前期：毎時間英語でテキストの内容を紹介する活動を学生が行うことを通じて、主体的な学習を保証する。 後期：毎時間英語でテキストの内容を紹介する活動を学生が行うことを通じて、主体的な学習を保証する。後半では受講生が作成した内容理解のための質問を受講生同士が分析することを通じて、教科書を指導する技術を育成する。		
授業外学習	授業の復習が必須である。特に、次時に向けた英語の発表練習にしっかり取り組む必要あり。 毎回 2 時間の授業外学習を望む。		

教科書	検定教科書 New Horizon English Course 2 & 3 （東京書籍） プリント
参考書	学習指導要領 授業で指示
評価方法	前期：授業における課題発表内容（50%）、oral interaction 作成（20%）、前期レポート（30%） 後期：授業における課題発表内容（50%）、内容理解作問作成（20%）、最終レポート（30%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	元中学校英語教員の経験を生かした講義及び演習を実施する。

No.	583	科目コード	68092
科目名	Practical English Teaching Workshop D	授業コード	9300720
教員名	川淵　弘二		
授業種別	集中授業	授業形態	演習
開講間隔		単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	教育実習に向けて、中学校における英語授業の理論と実践から、ラウンド制による音読指導の演習、教材作成のすすめ方と指導案作成などを学ぶ。さらに、自主研修と受講者同士の相互評価を通して模擬授業を行いながら、望ましい授業に向け互いの指導技術を身につけ、高めていくことを目標とする。 ・教科書を使ってのさまざまな音読指導、パターンプラクティス活動をすすめることができる。 ・文法指導に向け、学習者がわかりやすい教材を作成することができる。 ・アウトプット活動として、リプロダクションや自己表現活動としてのリテリング、またプロジェクト型学習などをすすめることができる。 ・ペアワークやグループワークを用いた生徒どうしが英語で互いに学び合い、高め合う活動を計画し、ファシリテーションすることができる。 ・ICT 機器、タブレット端末、デジタル教科書などを効果的に使用することができる。		
授業概要	前期では、教科書を使ったラウンド制による音読、種々のパターンプラクティス、オーラルイントロダクション、ディベートなどのアウトプット活動、音読の基礎としてのフォニックスカルタ、英語の歌、指導案の書き方、中学校授業ビデオの視聴など、中学校の授業を体験することで、インプットからアウトプット活動における様々な指導法と留意点、生徒が主体的に学習に向かう態度の育成法などの指導を行う。 後期では、前期の内容をふまえての模擬授業実践を中心に行う。略案をもとにしたインプットからアウトプットそれぞれの活動での指導と、授業指導案をもとにした教科書の音読を中心とした模擬授業を担当し、自己評価と学生同士の相互評価とともに実践的な指導を行う。		
授業計画	〔前期〕　（毎回、「自己評価用紙」を提出） 第 1 回　オリエンテーション　「生徒イキイキ先生ワクワクの授業を」 サイコロトーク①自己紹介　英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 2 回　授業体験①　ラウンド制による教科書の解説　パターンプラクティス① サイコロトーク②他己紹介　チャンツ　フォニックス①　（ワークシート提出） 第 3 回　授業体験②　ラウンド制による教科書の音読　パターンプラクティス② 文法指導のすすめ方　英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 4 回　授業体験③　ラウンド制による教科書の音読　パターンプラクティス③ アウトプット活動としての音読指導　フォニックス②　（ワークシート提出） 第 5 回　授業体験④　ラウンド制による教科書の音読　パターンプラクティス④ 生徒配布ハンドアウトの作成　英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 6 回　授業体験⑤　ラウンド制による教科書の音読　オーラルイントロダクション① 文法指導のすすめ方　授業ビデオ視聴　フォニックスカルタ①　（ワークシート提出） 第 7 回　授業体験⑥　ラウンド制による教科書の音読　パターンプラクティス⑤ 教え合い・学び合い学習　チャンツ　英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 8 回　授業体験⑦　ラウンド制による教科書の音読　パターンプラクティス⑥ オーラルイントロダクション②　フォニックス③　（ワークシート提出） 第 9 回　授業体験⑧　ラウンド制による教科書の音読　パターンプラクティス⑦ 授業ビデオ視聴　英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 10 回　授業体験⑨　ラウンド制による教科書の音読とアウトプット活動 Talk & Talk のペアワーク　フォニックスカルタ②　（ワークシート提出） 第 11 回　中学校定期テスト受験体験　相互採点と振り返り　パターンプラクティス⑧ Talk & Talk のペアワーク　英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 12 回　指導案の書き方　指導と評価の一体化　観点別評価　授業ビデオ視聴 Talk & Talk のペアワーク　フォニックスカルタ③　（ワークシート提出） 第 13 回　アウトプット活動　グループワークでのマイクロディベート 英語の歌　（ワークシート提出、リスニングテスト） 第 14 回　アウトプット活動　Talk & Talk のグループ活動　フォニックス発音テスト		

	授業ビデオ視聴「生徒への声かけをどうするか」　（ワークシート提出） 第 15 回　ラウンド制指導のまとめテスト　英語の歌テスト Talk & Talk のペアワーク　（自己評価用紙、授業振り返りアンケート提出） 〔後期〕　（毎回、「自己評価用紙」を提出） 第 1 回　オリエンテーション　「教育実習の意義と目的」　指導と評価の一体化 模擬授業担当の決定（中学 1，2 年から各 1 回分） 第 2 回　模擬授業実践①　教科書本文の内容理解　ティーチャー・トーク実践 インプット活動指導実践①　パンチゲーム/たてよこドリル/チャンツ　（活動の略案） 第 3 回　模擬授業実践②　教科書本文の内容理解　オーラルイントロダクション インプット活動指導実践② どどい表現/不規則動詞（活動の略案とワークシート提出） 第 4 回　模擬授業実践③　教科書の音読指導①　デジタル教科書と生徒用タブレット　　インテイク活動指導実践①　本文の解説　（活動の略案とワークシート提出） 第 5 回　模擬授業実践④　教科書の音読指導②　生徒用ハンドアウトの作り方 インテイク活動指導実践② 空所補充/Read & Look-up（活動の略案とワークシート提出） 第 6 回　模擬授業実践⑤　教科書の音読指導③　生徒用ハンドアウトの作り方 インテイク活動指導実践③　シャドーイング/鉛筆置き音読（略案とワークシート提出） 第 7 回　模擬授業実践⑥　教科書の音読指導④　語順・文法指導 アウトプット活動指導実践①　QA/疑問文作成　ペア教え合い　（略案とワークシート提出） 第 8 回　模擬授業実践⑦　Talk & Talk 1/2 でのペアワーク活動 アウトプット活動指導実践②　活動の主体的なとりくませ方　（略案とワークシート提出） 第 9 回　模擬授業実践⑧　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出） 第 10 回　模擬授業実践⑨　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出） 第 11 回　模擬授業実践⑩　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出） 第 12 回　模擬授業実践⑪　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出） 第 13 回　模擬授業実践⑫　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出） 第 14 回　模擬授業実践⑬　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出） 第 15 回　模擬授業実践⑭　授業体験　相互評価と振り返り インプット活動/パターンプラクティス/音読/アウトプット活動　（指導案と相互評価提出）
授業方法	講義は必要最低限とし、授業時間のほとんどは学生による演習形式で行う。
アクティブラーニングの視点	授業では、ペアやグループによる協働学習、プレゼンテーションが中心、さらに模擬授業では相互評価と自己評価による振り返りによって指導技術を高める。
授業外学習	〔前期〕 ・各授業で学んだ音読指導とパターンプラクティス活動の技法と留意点を復習し、十分に練習しておくこと。 ・文法指導のパワーポイント教材を作成すること。 ・英語の歌、フォニックス発音テストに向け、十分に復習、練習しておくこと。 ・アウトプット活動の指導上の留意点を確認し、復習しておくこと。 →以上の学習を行うのに 1 時間程度要する。 〔後期〕 ・模擬授業実戦に向け、活動の略案と授業指導案を作成すること。 ・模擬授業実践の相互評価を通じて、より良い授業ができるよう準備し、練習をする。 ・音読指導とパターンプラクティスの技法と留意点をふまえて模擬授業に向け、事前準備と練習を十分にすること。 ・授業のゴールとしてのアウトプット活動を工夫すること。 →以上の学習を行うのに 1 時間 30 分程度要する。
教科書	〔前期・後期〕

	・中学校検定教科書　NEW CROWN English Series Book 1 & 2 三省堂 ・副読本　田尻悟郎、築道和明　『Talk & Talk Book 1 & 2』　正進社
参考書	〔前期・後期〕 ・鈴木寿一、門田修平 『英語音読指導ハンドブック』 大修館書店, 2012 年 ・田尻悟郎 『英語教科書本文活用術』　教育出版､2014 年 ・佐々木啓成　『リテリングを活用した英語指導』　大修館書店､2020 年
評価方法	〔前期〕 ・ペアワーク、グループワーク活動への主体的な取り組み、ワークシートなどの提出物（30%） ・リスニングテスト、英語の歌テスト（10%）　ラウンド制指導テスト（20%） アウトプット活動発表原稿（30%）　・自己評価用紙（10%） 〔後期〕 ・ペアワーク、グループワーク活動への主体的な取り組み、ワークシートなどの提出物（30%）　・模擬授業（20%）　・指導案、略案（20%） ・授業資料の作成（10%）　・相互評価用紙（10%）　・自己評価用紙（10%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	公立中学校現場で実務をおこなっている者が、その経験を活かして指導にあたる。

No.	584	科目コード	68093
科目名	英語科教育法１	授業コード	9315516
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	全体目標：中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。 (1)カリキュラム・シラバス：中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。 (2)生徒の資質・能力を高める指導：中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」) の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 (3)授業づくり：中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。 (4)第二言語習得：学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。 テーマ：小中高のスムーズな英語授業の接続のための基礎知識（学習指導要領と第二言語習得研究の成果）と分野別指導法の習得		
授業概要	英語科教育法 1 では、学習指導要領と第二言語習得研究成果の理解と、小中高間の円滑な接続を可能にする中学生高校生を対象とした分野別効果的指導法の習得を目的として、各回の内容に応じて次の①～④を行う。 ①講義（質疑応答、ペアによる意見交換。クラス全体へのシェアを含む） ②科目担当者による授業実演（学生は授業体験）または小中高教員の授業映像視聴と観察 ③受講生による模擬授業とそれについてのペアまたはグループによる検討、及び指導助言 ④課外の課題　下記にある１時間から１時間３０分程度の授業外学習		
授業計画	第 1 回： オリエンテーション　英語教育（学習）の目的　学校教育にける英語教育　学習指導要領とは何か　学習指導要領の 3 つの資質・能力と 4 技能 5 領域　専門職としての英語教師の条件 第 2 回： 第一言語習得と第二言語習得の類似点と相違点　第二言語習得研究が学校教育における外国語として の英語教育に示唆するもの　小中高の英語教育の接続 第 3 回： 小学校の学習指導要領のポイントの理解と検定教科書の構成を知る・第二言語習得研究の成果が小学校の検定教科書にどのように活かされているか 第 4 回：中学校の学習指導要領のポイントの理解と検定教科書の構成を知る・第二言語習得研究の成果が中学校の検定教科書にどのように活かされているか・スムーズな小中接続のための指導 第 5 回：高等学校の学習指導要領のポイントの理解と検定教科書の構成を知る・第二言語習得研究の成果が高等学校の検定教科書にどのように活かされているか・スムーズな中高接続のための指導 第 6 回： 第二言語習得研究の成果を活かした 4 技能 5 領域別到達目標の設定と指導計画（年間・単元・各授業時間） 第 7 回： コミュニケーション能力　学習活動と言語活動　第二言語習得研究の成果を活かした学習到達目標とバックワード・デザインによる英語授業の組み立て方 第 8 回： 教科書の活用と教材研究・指導案例・指導案作成の留意点 第 9 回： 活動形態（一斉・グループ・ペア・個人）と 4 技能 5 領域の指導例（授業体験または映像による授業観察 1） 第 10 回： 発音指導 (1) 指導法 (1 年次必修科目 English Pronunciation Workshop で学んだことの復習)・指導例（授業体験または映像による授業観察 2)・指導案作成 第 11 回： 発音指導 (2) マイクロティーチング		

	第 12 回： 文字指導（1）指導法・指導例（映像による授業観察 2）・指導案作成 第 13 回： 文字指導（2）マイクロティーチング 第 14 回： 4 技能と結びつけた文法指導（1） 演繹的指導（1 年次必修 Learning and Teaching Grammar for Communication で学んだことの復習。また、秋学期の Practical English Teaching A でさらに詳しく学ぶ）・指導例（授業体験または映像による授業観察 3）・指導案作成 第 15 回： 4 技能と結びつけた文法指導（2） 帰納的指導（1 年次必修 Learning and Teaching Grammar for Communication で学んだことの復習。また、秋学期の Practical English Teaching A でさらに詳しく学ぶ）指導例（授業体験または映像による授業観察 4）・指導案作成
授業方法	講義は必要最小限にして、演習を中心に行う。
アクティブラーニングの視点	レポート作成（各自が設定したテーマについてのリサーチとリサーチ内容に対する自分の考えや教科書の要点のまとめと自分の意見）、指導案・ワークシートなどの作成、マイクロティーチング、ペアやグループによる協同学習など
授業外学習	1)レポートを作成する ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチし、自分の考えを書いて授業で発表できるようする。 2)教材研究を行い、指導案を作成する。 3)模擬授業用フラッシュカード、ワークシート、スライドなどを作成する。 4)模擬授業に備えて十分に練習する。 5)Classroom English を授業で使えるように練習する。 6)英語の基礎力をアップさせるために、毎時間の日英通訳テストに備えて、指定された範囲を何度も音読して暗唱する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。
教科書	・鈴木寿一・門田修平（編著）『英語リスニング指導ハンドブック』大修館書店（2018） 注：本教科書は「Integrated Listening 1」「Integrated Listening 2」、後期の「Practical English Teaching Workshop A」でも使用する。 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説（外国語編）』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説（外国語編）』 ・中学校検定教科書　New Horizon English Course 2 年生用（東京書籍） ・授業中に配布するプリント及び電子ファイル
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	クラスルーム・イングリッシュ 15%、小テスト 15%、レポート 15%、指導案 15%、模擬授業 20%、授業での参加度（発言など）20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	授業現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

No.	585	科目コード	68094
科目名	英語科教育法２	授業コード	9324567
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 1）聞くことの指導について理解し、指導に生かすことができる。 2）読むことの指導について理解し、指導に生かすことができる。 3）話すこと［やり取り・発表］の指導について理解し、指導に生かすことができる。 4）書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 5）複数領域にわたる言語活動の指導について理解し、指導に生かすことができる。 6）生徒の特性・習熟度への対応について理解し、指導に生かすことができる。 テーマ 小中高のスムーズな英語授業の接続のための効果的な分野別指導法の習得		
授業概要	英語科教育法 2 では、主として中学生徒高校生を対象としたスムーズな小中高間の接続を可能にする分野野別　効果的指導法の習得を目的として、各回の内容に応じて次の①～④を行う。 ①講義（質疑応答、ペアによる意見交換。クラス全体へのシェアを含む） ②科目担当者による授業実演（学生は授業体験）または小中高教員の授業映像視聴と観察 ③受講生による模擬授業とそれについてのペアまたはグループによる検討、及び指導助言 ④課外の課題　下記にある１時間から１時間３０分程度の授業外学習		
授業計画	第１回：４技能に結びつけた文法指導（3）　模擬授業（秋学期の Practical English Teaching A でさらに演習を行う） 第２回：語彙指導　指導法（秋学期の Practical English Teaching A でさらに詳しく学ぶ))・指導例（授業体験または映像による授業観察 5)・指導案作成 第３回：リスニング指導（1）指導法・発問例・指導例（授業体験または映像による授業観察 6） 第４回：リーディング指導（1）指導法・発問例・指導例（授業体験または映像による授業観察 7） 第５回：リスニング指導（2)・リーディング指導（2）　発問作成・指導案作成 第６回：音読指導（1）　春学期の Practical English Teaching A で学んだ目的別音読指導の復習（授業体験または映像による授業観察 8） 第７回：音読指導(2)　目的別音読指導法　模擬授業 第８回：リスニングのための語彙指導＋リスニング指導＋音読指導　模擬授業 第９回：リーディングのための語彙指導＋リーディング指導＋音読指導　模擬授業 第 10 回：語彙指導＋リスニング指導＋リーディング指導＋音読指導　模擬授業 第 11 回：スピーキングの指導（1）指導法・指導例（授業体験または映像による授業観察 9)・タスク課題作成 第 12 回：ライティングの指導（1）指導法・指導例（授業体験または映像による授業観察 10)・タスク課題作成 第 13 回：スピーキング指導（2)・ライティング指導（2）　指導案作成 第 14 回：スピーキング指導（3）模擬授業 第 15 回：ライティング指導（4）模擬授業		
授業方法	講義は必要最小限にして、演習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成（各自が設定したテーマについてのリサーチとリサーチ内容に対する自分の考えや教科書の要点のまとめと自分の意見)、指導案・ワークシートなどの作成、模擬授業、ペアやグループによる協同学習など		
授業外学習	1）　レポートを作成する		

	・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチしたことをまとめ、自分の考えを書いて授業で発表できるようする。 2）教材研究を行い、指導案を作成する。 3）模擬授業で必要となるフラッシュカードやワークシートなどを作成する。 4） 模擬授業に備えて十分に練習する。 5） Classroom English を授業で使えるように練習する。 6） 英語の基礎力をアップさせるために、毎時間の日英通訳テストに備えて、指定された範囲を何度も音読して暗唱する。 以上の学習に要する時間は１時間から１時間３０分程度である。
教科書	・鈴木寿一・門田修平（編著）『英語リスニング指導ハンドブック』大修館書店（2018） 注：本教科書は「Integrated Listening 1」「Integrated Listening 2」、後期の「Practical English Teaching Workshop A」でも使用する。 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説（外国語編）』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説（外国語編）』 ・『中学校検定教科書　New Horizon English Course 2 年生用』東京書籍 ・『英語音読指導ハンドブック』大修館書店 ・授業中に配布するプリント及び電子ファイル
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	クラスルーム・イングリッシュ 15%、小テスト 15%、レポート 15%、指導案 15%、模擬授業 20%、授業での参加度（発言など）20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	授業現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

No.	586	科目コード	68095
科目名	英語科教育法３	授業コード	9315725
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	授業の到達目標及びテーマ (1) 生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」) の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 (2) 授業づくり 中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。 (3) 学習評価 中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づき、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。 テーマ：スムーズな小中高間の接続を可能にする様々な分野・形態・機器を利用した指導法、及び測定・評価についての基礎知識の習得		
授業概要	英語科教育法 3 では、動機づけ、学習方略について学ぶとともに、主として中学生と高校生を対象としたスムーズな小中高間の接続を可能にする異文化理解指導やティームティーチングによる指導や ICT を利用した指導ができるようにする。これらの指導法の習得、測定・評価についての基礎知識と指導への活かし方などを学ぶことを目的として、各回の内容に応じて次の①～④を行う。 ①講義（質疑応答ほか、科目担当者による発問に対するペアによる意見交換。クラス全体へのシェアなどのインタラクションを含む） ②科目担当者による授業実演（学生は授業体験）または小中高の現職教員の授業映像による授業観察 ③受講生によるマイクロティーチングとそれについてのペアまたはグループによる検討、及び指導助言 ④課外の課題 1）レポートを作成する ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチしたことをまとめ、自分の考えを書いて授業で発表できるようする。 2）教材研究を行い、指導案を作成する。 3）マイクロティーチングで必要となるフラッシュカードやワークシートなどを作成する。 4）マイクロティーチングに備えて十分に練習する。 5）Classroom English を使えるように練習する。		
授業計画	第 1 回： 授業体験または映像による授業観察 11）　・辞書指導（1） 第 2 回： マイクロティーチング　・辞書指導（2） 第 3 回： 学習者の個人差に応じた指導（1）　授業体験または映像による授業観察 12)・指導案作成 第 4 回： 動機づけ 第 5 回： 学習者の個人差に応じた指導（2）マイクロティーチング 第 6 回： 異文化理解指導（1）　指導法・指導例（授業体験または映像による授業観察 13)・指導案作成 第 7 回： 学習方略 第 8 回： 異文化理解指導（2）　マイクロティーチング 第 9 回： 英語によるインタラクションが行われる英語授業の留意点・授業体験または映像による授業観察 14) 第 10 回： ティーム・ティーチング(1)　授業体験または映像による授業観察 15)・指導案作成 第 11 回：ICT を活用した授業（1）授業体験または映像による授業観察 16)・指導案作成 第 12 回： ティーム・ティーチング（2）マイクロティーチング 第 13 回： ICT を活用した授業（2）マイクロティーチング		

	第 14 回： テストと評価の種類と実例：形成的評価・総括的評価・診断的評価 ・分析的評価・観点別評価・パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価 第 15 回： 観点別学習状況の評価・評価規準の設定・評定・指導への活かし方
授業方法	講義と演習
アクティブラーニングの視点	マイクロティーチング、ペアやグループによる協同学習
授業外学習	各自が設定したテーマについてのリサーチと自分の考え陳述レポート作成 教科書の要点のまとめ
教科書	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第 3 版（久保田章著、大修館書店）（英語科教育法 2 から継続使用） 英語 4 技能評価の理論と実践（望月昭彦著、大修館書店） 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成 30 年 7 月 文部科学省）
参考書	英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック（投野由紀夫著、大修館書店）
評価方法	レポート 30%、指導案・ワークシートなど 30%、模擬授業 20%、授業での参加度（発言など）20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	中学高校学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導理論を講義し、学生の模擬授業を指導する。

No.	587	科目コード	68096
科目名	英語科教育法４	授業コード	9324730
教員名	溝畑　保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) 生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」) の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 (2) 学習評価 中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと［やり取り・発表］」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」(生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法) について理解する。 (3) 第二言語習得 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。 テーマ 「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導法とその評価法の習得		
授業概要	(1) 生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」) の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 (2) 学習評価 中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと［やり取り・発表］」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」(生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法) について理解する。 (3) 第二言語習得 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。 テーマ 「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導法とその評価法の習得		
授業計画	第 1 回： CAN-DO リストの目的・リスト例・リスト作成手順と作成の留意点 第 2 回： 4 技能の評価 (1) リスニング・リーディング 第 3 回： 4 技能の評価 (2) スピーキング・ライティング (パフォーマンス評価) 第 4 回： テスト問題の実例と改善法・パフォーマンス評価及びルーブリックの実例 第 5 回： 「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価 (1) 2 技能 (リスニング＋ライティングまたはスピーキング)：指導例 (授業体験または映像による授業観察 17)・評価例 第 6 回： 「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価 (2) 2 技能 (リーディング＋ライティングまたはスピーキング)：指導例 (授業体験または映像による授業観察 18)・評価例 第 7 回： 「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価 (3) 2 技能 (即興型ディスカッション・即興型ディベート)：指導例 (授業体験または映像による授業観察 19)・評価例		

	第 8 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価（4）3 技能（リスニングまたはリーディング＋スピーキング＋ライティング）：指導例（授業体験または映像による授業観察 20）・評価例 20 第 9 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価（5）4 技能（準備型ディスカッション・準備型ディベート）：指導例（授業体験または映像による授業観察 21）・評価例 第 10 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価（6）：指導案作成・テストまたはパフォーマンス課題及びルーブリック作成 第 11 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 1 第 12 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 2 第 13 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 3 第 14 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 4 第 15 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型テストまたはパフォーマンス課題及びルーブリックの検討と改善
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	レポート作成（各自が設定したテーマについてのリサーチとリサーチ内容に対する自分の考えや教科書の要点のまとめと自分の意見）、指導案・ワークシートなどの作成、模擬授業、ペアやグループによる協同学習など
授業外学習	1）レポートを作成する ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチし、自分の考えを書いて授業で発表できるようする。 2）テスト、ルーブリックに基づくパフォーマンス課題のある指導案を作成する。 3）模擬授業で必要となるフラッシュカードやワークシートなどを作成する。 4）模擬授業に備えて十分に練習する。 5）Classroom English を使えるように練習する。
教科書	英語 4 技能評価の理論と実践（望月昭彦著、大修館書店） 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成 30 年 7 月 文部科学省）
参考書	英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック（投野由紀夫著、大修館書店） 英語語彙指導ハンドブック（門田修平他著、大修館書店） 英語リスニング指導ハンドブック（鈴木寿一他著、大修館書店） 英語リーディング指導ハンドブック（門田修平他著、大修館書店） 英語音読指導ハンドブック（鈴木寿一他著、大修館書店） 英語スピーキング指導ハンドブック（泉惠美子他著、大修館書店） 英語運用能力が伸びる 5 ラウンドシステムの英語授業（金谷憲他著、大修館書店）
評価方法	レポート 20%、指導案・ワークシート・テスト・ルーブリックなど 40%、模擬授業 20%、授業での発言などの参加度 20%　定期考査ナシ
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導者としての英語運用能力を育成する。

No.	588	科目コード	64170
科目名	水泳	授業コード	9315117
教員名	舞　寿之		
授業種別	集中	授業形態	実技
開講間隔		単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・体育科水泳領域の指導に必要な基礎的な技能を習得する。 ・水泳指導における具体的な指導法や授業づくりの考え方について説明できる。		
授業概要	体育科の水泳領域の実技を通して，基本的な指導法について学ぶことが目的である。そのために，授業の各場面で学習内容を「発問」や「指示」にする活動を行うことで，実践に生かせる指導方法を身につけるようにする。また，実際に学習したことを実際の授業形式で模擬授業することで，授業づくりの考え方や授業マネジメントについて理解を深めていくようにする。		
授業計画	第 1 回　　水の一般的特性、対象に応じた指導、安全に関する留意点 第 2 回　　水に慣れる遊び 第 3 回　　浮く・もぐる遊び 第 4 回　　浮く運動 第 5 回　　泳ぐ運動① 第 6 回　　泳ぐ運動② 第 7 回　　クロール① 第 8 回　　クロール② 第 9 回　　平泳ぎ① 第 10 回　平泳ぎ② 第 11 回　ドル平 第 12 回　水中運動の実際① 第 13 回　水中運動の実際② 第 14 回　水中運動のプログラミング① 第 15 回　水中運動のプログラミング②		
授業方法	理論を学ぶ講義と室内プールでの実技を行う。事前に実施するオリエンテーションに必ず出席すること。		
アクティブラーニングの視点	・講義では、グループワークやケーススタディを取り入れた授業を行う。 ・実技では、グループ内で協力しながら目標の達成を目指すとともに、安全に配慮した楽しい授業づくりにつなげる。		
授業外学習	毎授業終了後、理論、技術および指導のポイントを「水泳実技テキスト」にまとめておくこと。		
教科書	適宜講義資料を配布する。		
参考書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説　体育編」2017 文部科学省　「中学校学習指導要領解説　保健体育編」2018 文部科学省　「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」2019 文部科学省　「学校体育実技指導資料第 4 集『水泳指導の手引』」2014 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	授業への参加度、意欲 10%、実技試験 40%、理論試験 40%、ノート 10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、理論講義及び実技指導を行う。		

No.	589	科目コード	64170
科目名	水泳	授業コード	9315208
教員名	舞　寿之		
授業種別	集中	授業形態	実技
開講間隔		単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・体育科水泳領域の指導に必要な基礎的な技能を習得する。 ・水泳指導における具体的な指導法や授業づくりの考え方について説明できる。		
授業概要	体育科の水泳領域の実技を通して，基本的な指導法について学ぶことが目的である。そのために，授業の各場面で学習内容を「発問」や「指示」にする活動を行うことで，実践に生かせる指導方法を身につけるようにする。また，実際に学習したことを実際の授業形式で模擬授業することで，授業づくりの考え方や授業マネジメントについて理解を深めていくようにする。		
授業計画	第 1 回　　水の一般的特性、対象に応じた指導、安全に関する留意点 第 2 回　　水に慣れる遊び 第 3 回　　浮く・もぐる遊び 第 4 回　　浮く運動 第 5 回　　泳ぐ運動① 第 6 回　　泳ぐ運動② 第 7 回　　クロール① 第 8 回　　クロール② 第 9 回　　平泳ぎ① 第 10 回　平泳ぎ② 第 11 回　ドル平 第 12 回　水中運動の実際① 第 13 回　水中運動の実際② 第 14 回　水中運動のプログラミング① 第 15 回　水中運動のプログラミング②		
授業方法	理論を学ぶ講義と室内プールでの実技を行う。事前に実施するオリエンテーションに必ず出席すること。		
アクティブラーニングの視点	・講義では、グループワークやケーススタディを取り入れた授業を行う。 ・実技では、グループ内で協力しながら目標の達成を目指すとともに、安全に配慮した楽しい授業づくりにつなげる。		
授業外学習	毎授業終了後、理論、技術および指導のポイントを「水泳実技テキスト」にまとめておくこと。		
教科書	適宜講義資料を配布する。		
参考書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説　体育編」2017 文部科学省　「中学校学習指導要領解説　保健体育編」2018 文部科学省　「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」2019 文部科学省　「学校体育実技指導資料第 4 集『水泳指導の手引』」2014 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。		
評価方法	授業への参加度、意欲 10%、実技試験 40%、理論試験 40%、ノート 10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、理論講義及び実技指導を行う。		

No.	590	科目コード	66610
科目名	陸上競技	授業コード	9315897
教員名	松田　光弘		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている種目について基礎的技能を高め，示範・解説できるようにする。		
授業概要	・体育実技指導者としての「走，跳，投」能力の基礎的技能向上を目指すとともに指導法についても学習する。 ・安全や健康管理に留意して授業に取り組む能力を養う。		
授業計画	第　１回　オリエンテーション　（陸上競技の歴史，受講に関する注意事項の説明） 第　２回　身体能力調査①　（50m 走，立幅跳，ハンドボール投げ） 第　３回　走運動①　（短距離走における区間速度の変化から見る疾走の特徴） 第　４回　走運動②　（短距離走のスタート局面の走技術） 第　５回　走運動③　（短距離走の加速　フィニッシュ局面の走技術） 第　６回　走運動④　（リレーにおけるバトンパス技術の習得） 第　７回　走運動⑤　（リレー：記録会），レポート提出 第　８回　走運動⑥　（ハードル走におけるインターバルの走り方） 第　９回　走運動⑦　（ハードル走におけるハードリング技術） 第１０回　走運動⑧　（ハードル走記録会），レポート提出 第１１回　跳運動①　（走り幅跳びおよび三段跳びにおける跳躍技術の習得） 第１２回　跳運動②　（走り幅跳びおよび三段跳び記録会），レポート提出 第１３回　投運動①　（砲丸投げにおける投てき技術の習得） 第１４回　投運動②　（やり投げにおける投てき技術の習得） 第１５回　身体能力調査②　（50m 走，立幅跳，ハンドボール投げ）		
授業方法	実技を中心に行うが，随時審判法なども配布プリントを活用して学習する。		
アクティブラーニングの視点	実技を伴う授業であるため危険回避は重要な視点の一つである そのため本授業では下記を重視した授業を展開、協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。 ・自己管理力：自らを律して行動できる。 ・チームワーク・リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また，他者に方向性を示し，目標実現のために動くことができる。 ・倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。		
授業外学習	授業内容についての事前学習および体調管理		
教科書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房）		
参考書	なし		
評価方法	汎用的技能（50%），知識・理解（30%）（小レポート 30%），態度・志向性（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	中学および高校で保健体育科教員として 20 年以上指導してきた経験を活かして，生徒が意欲的に取り組むことができる陸上競技の授業法について指導する．また，生徒が陥りやすい課題を取り上げ，効果的な指導法についても指導していく．		

No.	591	科目コード	66610
科目名	陸上競技	授業コード	9315899
教員名	松田　光弘		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている種目について基礎的技能を高め，示範・解説できるようにする。		
授業概要	・体育実技指導者としての「走，跳，投」能力の基礎的技能向上を目指すとともに指導法についても学習する。 ・安全や健康管理に留意して授業に取り組む能力を養う。		
授業計画	第　１回　オリエンテーション　（陸上競技の歴史，受講に関する注意事項の説明） 第　２回　身体能力調査①　（50m 走，立幅跳，ハンドボール投げ） 第　３回　走運動①　（短距離走における区間速度の変化から見る疾走の特徴） 第　４回　走運動②　（短距離走のスタート局面の走技術） 第　５回　走運動③　（短距離走の加速　フィニッシュ局面の走技術） 第　６回　走運動④　（リレーにおけるバトンパス技術の習得） 第　７回　走運動⑤　（リレー：記録会），レポート提出 第　８回　走運動⑥　（ハードル走におけるインターバルの走り方） 第　９回　走運動⑦　（ハードル走におけるハードリング技術） 第１０回　走運動⑧　（ハードル走記録会），レポート提出 第１１回　跳運動①　（走り幅跳びおよび三段跳びにおける跳躍技術の習得） 第１２回　跳運動②　（走り幅跳びおよび三段跳び記録会），レポート提出 第１３回　投運動①　（砲丸投げにおける投てき技術の習得） 第１４回　投運動②　（やり投げにおける投てき技術の習得） 第１５回　身体能力調査②　（50m 走，立幅跳，ハンドボール投げ）		
授業方法	実技を中心に行うが，随時審判法なども配布プリントを活用して学習する。		
アクティブラーニングの視点	実技を伴う授業であるため危険回避は重要な視点の一つである そのため本授業では下記を重視した授業を展開、協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。 ・自己管理力：自らを律して行動できる。 ・チームワーク・リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また，他者に方向性を示し，目標実現のために動くことができる。 ・倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。		
授業外学習	授業内容についての事前学習および体調管理		
教科書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房）		
参考書	なし		
評価方法	汎用的技能（50%），知識・理解（30%）（小レポート 30%），態度・志向性（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	中学および高校で保健体育科教員として 20 年以上指導してきた経験を活かして，生徒が意欲的に取り組むことができる陸上競技の授業法について指導する．また，生徒が陥りやすい課題を取り上げ，効果的な指導法についても指導していく．		

No.	592	科目コード	66610
科目名	陸上競技	授業コード	9315923
教員名	松田　光弘		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている種目について基礎的技能を高め，示範・解説できるようにする。		
授業概要	・体育実技指導者としての「走，跳，投」能力の基礎的技能向上を目指すとともに指導法についても学習する。 ・安全や健康管理に留意して授業に取り組む能力を養う。		
授業計画	第　１回　オリエンテーション　（陸上競技の歴史，受講に関する注意事項の説明） 第　２回　身体能力調査①　（50m 走，立幅跳，ハンドボール投げ） 第　３回　走運動①　（短距離走における区間速度の変化から見る疾走の特徴） 第　４回　走運動②　（短距離走のスタート局面の走技術） 第　５回　走運動③　（短距離走の加速　フィニッシュ局面の走技術） 第　６回　走運動④　（リレーにおけるバトンパス技術の習得） 第　７回　走運動⑤　（リレー：記録会），レポート提出 第　８回　走運動⑥　（ハードル走におけるインターバルの走り方） 第　９回　走運動⑦　（ハードル走におけるハードリング技術） 第１０回　走運動⑧　（ハードル走記録会），レポート提出 第１１回　跳運動①　（走り幅跳びおよび三段跳びにおける跳躍技術の習得） 第１２回　跳運動②　（走り幅跳びおよび三段跳び記録会），レポート提出 第１３回　投運動①　（砲丸投げにおける投てき技術の習得） 第１４回　投運動②　（やり投げにおける投てき技術の習得） 第１５回　身体能力調査②　（50m 走，立幅跳，ハンドボール投げ）		
授業方法	実技を中心に行うが，随時審判法なども配布プリントを活用して学習する。		
アクティブラーニングの視点	実技を伴う授業であるため危険回避は重要な視点の一つである そのため本授業では下記を重視した授業を展開、協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。 ・自己管理力：自らを律して行動できる。 ・チームワーク・リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また，他者に方向性を示し，目標実現のために動くことができる。 ・倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。		
授業外学習	授業内容についての事前学習および体調管理		
教科書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房） 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房）		
参考書	なし		
評価方法	汎用的技能（50%），知識・理解（30%）（小レポート 30%），態度・志向性（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	中学および高校で保健体育科教員として 20 年以上指導してきた経験を活かして，生徒が意欲的に取り組むことができる陸上競技の授業法について指導する．また，生徒が陥りやすい課題を取り上げ，効果的な指導法についても指導していく．		

No.	593	科目コード	66620
科目名	球技Ⅰ（ネット型スポーツ）	授業コード	9315010
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ、レシーブ等の基本技術を習得し、模範を示すことができるようになる。サーブレシーブフォーメーションやスパイクレシーブフォーメーションを理解し実践できる。		
授業概要	バレーボールに必須の基本的個人技術、攻防のコンビネーション、チーム戦術とルール等を学習し、バレーボールに必要な判断力や行動を高めると同時にボール･ボディコントロールの技術を身につける。チーム学習を中心とした実技の授業方法で展開する。		
授業計画	第 1 回　シラバスを用いたガイダンス 第 2 回　ボールエクササイズ各種の実践（ボールを使った遊びや準備運動） 第 3 回　オーバーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 4 回　アンダーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 5 回　スパイク･ブロックの技術とタスクゲーム 第 6 回　スパイクレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 7 回　サーブ・サーブレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 8 回　様々なリードアップゲームの紹介と工夫 第 9 回　ソフトバレーボールの単元計画と指導法・ルール 第 10 回　チーム戦術の工夫とゲームの実践 第 11 回　小学校のソフトバレーボールの模擬授業 第 12 回　中学校のバレーボールの模擬授業 第 13 回　正式ルール(男女共修) でのゲームと審判法 第 14 回　正式ルール(男女別)でのゲームと審判法 第 15 回　まとめ		
授業方法	体育館で実技授業を行う。本学指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ケガやトラブルを防ぐために、装飾品は必ず外し長い爪は切っておくこと。		
アクティブラーニングの視点	（1）第 2～4 回についてはペアで活動し、お互いの技術を確認し合いながら練習を行う。 （2）第 5～14 回についてはグループで活動し、個人技術をつなげてチームプレーとして成立するように練習を行う。		
授業外学習	（1）バレーボールの基礎技術(パス、トス、スパイク、サーブなど)の基準を設定しているので、その基準をクリアできるように個人技術のレベルアップのための自主練習を行う。 （2）授業資料（技術指導書や学習ノートなど）は、webclass にアップするので、必ず授業前に読んで準備するとともに、現在の課題を明確にして、次の授業に活かすようにする。 （3）授業外学習は 90 分以上する。		
教科書	指定なし		
参考書	松井泰二「バレーボール基本を極めるドリル」ベースボール・マガジン社（2015） 日本バレーボール協会「コーチングバレーボール＝Coaching Volleyball：基礎編」大修館書店（2017）		
評価方法	授業参加度 30% 授業ふり返りシート 30% 実技試験（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイクなど）40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	594	科目コード	66620
科目名	球技Ⅰ（ネット型スポーツ）	授業コード	9315012
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ、レシーブ等の基本技術を習得し、模範を示すことができるようになる。サーブレシーブフォーメーションやスパイクレシーブフォーメーションを理解し実践できる。		
授業概要	バレーボールに必須の基本的個人技術、攻防のコンビネーション、チーム戦術とルール等を学習し、バレーボールに必要な判断力や行動を高めると同時にボール･ボディコントロールの技術を身につける。チーム学習を中心とした実技の授業方法で展開する。		
授業計画	第 1 回　シラバスを用いたガイダンス 第 2 回　ボールエクササイズ各種の実践（ボールを使った遊びや準備運動） 第 3 回　オーバーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 4 回　アンダーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 5 回　スパイク･ブロックの技術とタスクゲーム 第 6 回　スパイクレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 7 回　サーブ・サーブレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 8 回　様々なリードアップゲームの紹介と工夫 第 9 回　ソフトバレーボールの単元計画と指導法・ルール 第 10 回　チーム戦術の工夫とゲームの実践 第 11 回　小学校のソフトバレーボールの模擬授業 第 12 回　中学校のバレーボールの模擬授業 第 13 回　正式ルール(男女共修) でのゲームと審判法 第 14 回　正式ルール(男女別)でのゲームと審判法 第 15 回　まとめ		
授業方法	体育館で実技授業を行う。本学指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ケガやトラブルを防ぐために、装飾品は必ず外し長い爪は切っておくこと。		
アクティブラーニングの視点	（1）第 2～4 回についてはペアで活動し、お互いの技術を確認し合いながら練習を行う。 （2）第 5～14 回についてはグループで活動し、個人技術をつなげてチームプレーとして成立するように練習を行う。		
授業外学習	（1）バレーボールの基礎技術(パス、トス、スパイク、サーブなど)の基準を設定しているので、その基準をクリアできるように個人技術のレベルアップのための自主練習を行う。 （2）授業資料（技術指導書や学習ノートなど）は、webclass にアップするので、必ず授業前に読んで準備するとともに、現在の課題を明確にして、次の授業に活かすようにする。 （3）授業外学習は 90 分以上する。		
教科書	指定なし。		
参考書	松井泰二「バレーボール基本を極めるドリル」ベースボール・マガジン社（2015） 日本バレーボール協会「コーチングバレーボール＝Coaching Volleyball：基礎編」大修館書店（2017）		
評価方法	授業参加度 30% 授業ふり返りシート 30% 実技試験（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイクなど）40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	595	科目コード	66620
科目名	球技Ⅰ（ネット型スポーツ）	授業コード	9315043
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ、レシーブ等の基本技術を習得し、模範を示すことができるようになる。サーブレシーブフォーメーションやスパイクレシーブフォーメーションを理解し実践できる。		
授業概要	バレーボールに必須の基本的個人技術、攻防のコンビネーション、チーム戦術とルール等を学習し、バレーボールに必要な判断力や行動を高めると同時にボール･ボディコントロールの技術を身につける。チーム学習を中心とした実技の授業方法で展開する。		
授業計画	第 1 回　シラバスを用いたガイダンス 第 2 回　ボールエクササイズ各種の実践（ボールを使った遊びや準備運動） 第 3 回　オーバーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 4 回　アンダーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 5 回　スパイク･ブロックの技術とタスクゲーム 第 6 回　スパイクレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 7 回　サーブ・サーブレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 8 回　様々なリードアップゲームの紹介と工夫 第 9 回　ソフトバレーボールの単元計画と指導法・ルール 第 10 回　チーム戦術の工夫とゲームの実践 第 11 回　小学校のソフトバレーボールの模擬授業 第 12 回　中学校のバレーボールの模擬授業 第 13 回　正式ルール(男女共修) でのゲームと審判法 第 14 回　正式ルール(男女別)でのゲームと審判法 第 15 回　まとめ		
授業方法	体育館で実技授業を行う。本学指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ケガやトラブルを防ぐために、装飾品は必ず外し長い爪は切っておくこと。		
アクティブラーニングの視点	（1）第 2～4 回についてはペアで活動し、お互いの技術を確認し合いながら練習を行う。 （2）第 5～14 回についてはグループで活動し、個人技術をつなげてチームプレーとして成立するように練習を行う。		
授業外学習	（1）バレーボールの基礎技術(パス、トス、スパイク、サーブなど)の基準を設定しているので、その基準をクリアできるように個人技術のレベルアップのための自主練習を行う。 （2）授業資料（技術指導書や学習ノートなど）は、webclass にアップするので、必ず授業前に読んで準備するとともに、現在の課題を明確にして、次の授業に活かすようにする。 （3）授業外学習は 90 分以上する。		
教科書	指定なし		
参考書	松井泰二「バレーボール基本を極めるドリル」ベースボール・マガジン社（2015） 日本バレーボール協会「コーチングバレーボール＝Coaching Volleyball：基礎編」大修館書店（2017）		
評価方法	授業参加度 30% 授業ふり返りシート 30% 実技試験（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイクなど）40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	596	科目コード	66630
科目名	球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）	授業コード	9324123
教員名	佐藤　亜紀子		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	球技の中のゴール型スポーツについて、共通したチームスポーツの特性と理論について理解し、体気づき、仲間との交流、体の調整、基礎的な体力要素である力強さ、柔らかさ、ねばり強さ、巧みさ等これらの運動課題（体操）を習得し、また、効果的に、楽しく学習できる指導方法が身につく。 ゴール型スポーツスポーツに対するルール理解、技術、戦術を理解した上でゲームに用い、積極的に取り組むことができる。 スポーツの楽しさを体現し、仲間や対戦相手への感謝の気持ち、コミュニケーション能力が身につく。		
授業概要	初回オリエンテーション時に競技を選択し、授業展開していく。その他のゴール型ゲームとして共通項を移行していく。ボールコントロールとボディーコントロールを中心とした基本技能を習得し、オープンスキルに必要な状況判断と相手との駆け引きを理解し、それに伴うチームプレーとしての応用技能を習得する。また、単にゲームを楽しむだけでなく、ペア或いはチームでのコミュニケーションを深め他人と一緒に体を動かすことの楽しさを理解する。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　ウォーミングアップ、フットワークの重要性 第３回　　バスケットボール・個人技術の習得（ドリブル)、簡易ゲームの企画運営 第４回　　バスケットボール・個人技術の習得（パス、パス＆ラン、シュート)、簡易ゲームの企画運営 第５回　　バスケットボール・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第６回　　バスケットボール・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第７回　　中間まとめ、ゴール型ゲームの共通項 第８回　　サッカー・個人技術の習得（ドリブル、パス)、簡易ゲームの企画運営 第９回　　サッカー・個人技術の習得（パス＆ラン、シュート)、簡易ゲームの企画運営 第 10 回　サッカー・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 11 回　サッカー・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 12 回　ハンドボール・個人技術の習得（ドリブル、パス)、簡易ゲームの企画運営 第 13 回　ハンドボール・・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 14 回　ハンドボール・・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技を中心に行うが、グループからの授業方法のプロセスを実践し、教員としての役割について理論と実践の両側面から学びの理解を深め、教員養成についての工夫を一緒に考える。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	ルールや技術、練習方法について、１５分程度で良いので、本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリント資料等を配布する。		
評価方法	授業態度、意欲、出席状況（取り組む姿勢）80%、課題スキル 20%（技術、戦術、ルール理解）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	597	科目コード	66630
科目名	球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）	授業コード	9324125
教員名	佐藤　亜紀子		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	球技の中のゴール型スポーツについて、共通したチームスポーツの特性と理論について理解し、体気づき、仲間との交流、体の調整、基礎的な体力要素である力強さ、柔らかさ、ねばり強さ、巧みさ等これらの運動課題（体操）を習得し、また、効果的に、楽しく学習できる指導方法が身につく。 ゴール型スポーツスポーツに対するルール理解、技術、戦術を理解した上でゲームに用い、積極的に取り組むことができる。 スポーツの楽しさを体現し、仲間や対戦相手への感謝の気持ち、コミュニケーション能力が身につく。		
授業概要	初回オリエンテーション時に競技を選択し、授業展開していく。その他のゴール型ゲームとして共通項を移行していく。ボールコントロールとボディーコントロールを中心とした基本技能を習得し、オープンスキルに必要な状況判断と相手との駆け引きを理解し、それに伴うチームプレーとしての応用技能を習得する。また、単にゲームを楽しむだけでなく、ペア或いはチームでのコミュニケーションを深め他人と一緒に体を動かすことの楽しさを理解する。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　ウォーミングアップ、フットワークの重要性 第３回　　バスケットボール・個人技術の習得（ドリブル)、簡易ゲームの企画運営 第４回　　バスケットボール・個人技術の習得（パス、パス＆ラン、シュート)、簡易ゲームの企画運営 第５回　　バスケットボール・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第６回　　バスケットボール・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第７回　　中間まとめ、ゴール型ゲームの共通項 第８回　　サッカー・個人技術の習得（ドリブル、パス)、簡易ゲームの企画運営 第９回　　サッカー・個人技術の習得（パス＆ラン、シュート)、簡易ゲームの企画運営 第 10 回　サッカー・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 11 回　サッカー・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 12 回　ハンドボール・個人技術の習得（ドリブル、パス)、簡易ゲームの企画運営 第 13 回　ハンドボール・・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 14 回　ハンドボール・・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技を中心に行うが、グループからの授業方法のプロセスを実践し、教員としての役割について理論と実践の両側面から学びの理解を深め、教員養成についての工夫を一緒に考える。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	ルールや技術、練習方法について、１５分程度で良いので、本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリント資料等を配布する。		
評価方法	授業態度、意欲、出席状況（取り組む姿勢）80%、課題スキル 20%（技術、戦術、ルール理解）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	598	科目コード	66630
科目名	球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）	授業コード	9324146
教員名	佐藤　亜紀子		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	球技の中のゴール型スポーツについて、共通したチームスポーツの特性と理論について理解し、体気づき、仲間との交流、体の調整、基礎的な体力要素である力強さ、柔らかさ、ねばり強さ、巧みさ等これらの運動課題（体操）を習得し、また、効果的に、楽しく学習できる指導方法が身につく。 ゴール型スポーツスポーツに対するルール理解、技術、戦術を理解した上でゲームに用い、積極的に取り組むことができる。 スポーツの楽しさを体現し、仲間や対戦相手への感謝の気持ち、コミュニケーション能力が身につく。		
授業概要	初回オリエンテーション時に競技を選択し、授業展開していく。その他のゴール型ゲームとして共通項を移行していく。ボールコントロールとボディーコントロールを中心とした基本技能を習得し、オープンスキルに必要な状況判断と相手との駆け引きを理解し、それに伴うチームプレーとしての応用技能を習得する。また、単にゲームを楽しむだけでなく、ペア或いはチームでのコミュニケーションを深め他人と一緒に体を動かすことの楽しさを理解する。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　ウォーミングアップ、フットワークの重要性 第３回　　バスケットボール・個人技術の習得（ドリブル)、簡易ゲームの企画運営 第４回　　バスケットボール・個人技術の習得（パス、パス＆ラン、シュート)、簡易ゲームの企画運営 第５回　　バスケットボール・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第６回　　バスケットボール・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第７回　　中間まとめ、ゴール型ゲームの共通項 第８回　　サッカー・個人技術の習得（ドリブル、パス)、簡易ゲームの企画運営 第９回　　サッカー・個人技術の習得（パス＆ラン、シュート)、簡易ゲームの企画運営 第 10 回　サッカー・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 11 回　サッカー・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 12 回　ハンドボール・個人技術の習得（ドリブル、パス)、簡易ゲームの企画運営 第 13 回　ハンドボール・・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 14 回　ハンドボール・・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方)、簡易ゲームの企画運営 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技を中心に行うが、グループからの授業方法のプロセスを実践し、教員としての役割について理論と実践の両側面から学びの理解を深め、教員養成についての工夫を一緒に考える。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	ルールや技術、練習方法について、１５分程度で良いので、本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリント資料等を配布する。		
評価方法	授業態度、意欲、出席状況（取り組む姿勢）80%、課題スキル 20%（技術、戦術、ルール理解）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	599	科目コード	66640
科目名	球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）	授業コード	9324238
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	「ベースボール型」におけるソフトボール・ティーボール・キックベースボールの種目を実践しながら、スキルを身につけるとともに、中学校・高等学校の授業で実践する場合の工夫点等について理解する。また、ルールを十分に理解し、試合を運営できるように審判法についても理解する。		
授業概要	学習指導要領の中にある球技領域の「ベースボール型」について、実技をしながら、理解させていく。中学校や高等学校の授業で実践する際の独自のルールを工夫・開発し、ゲームで実践させる。また、正規のルールを理解させ、試合（ゲーム）を運営できる審判法を身につけさせる。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：ベースボール型運動の特徴と必要性 第３回：投捕技能:キャッチングスキル（ソフトボール・ティーボール） 第４回：打撃技能:バッティングスキル 第５回：ピッティングスキルと簡易ゲームの展開 第６回：守備パターンの理解(フォースアウト・タッチアウト) 第７回：攻撃パターンの理解(バント・ヒットエンドラン) 第８回：走塁や審判法の理解(インフィールドフライ等) 第９回：ルールや用具を工夫した試合(満塁スタート制) 第 10 回：走塁技能:ベースランニング 第 11 回：守備、攻撃パータン:併殺プレーとその防御 第 12 回：ゲームの進め方① 第 13 回：ゲームの進め方② 第 14 回：ルールや用具を工夫した試合 第 15 回：まとめ 第 16 回：ルール・技能理解・授業づくりの課題テスト		
授業方法	実技を中心に、必要に応じて講義を行う。		
アクティブラーニングの視点	教科指導に必要な理論理解に加え、投げる、打つ、捕るの技能を高めるための ドリルを行う。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	特になし		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
評価方法	授業への参加度、授業内試験(70%)により評価する。なお、授業への参加度とは出席状況（授業回数の３分の１欠席がある場合は評価の対象としない)、受講態度等(30%)あり、実技テスト(30%)・ルール理解及び実施方法理解テスト(40%)で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	600	科目コード	66640
科目名	球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）	授業コード	9324251
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	「ベースボール型」におけるソフトボール・ティーボール・キックベースボールの種目を実践しながら、スキルを身につけるとともに、中学校・高等学校の授業で実践する場合の工夫点等について理解する。また、ルールを十分に理解し、試合を運営できるように審判法についても理解する。		
授業概要	学習指導要領の中にある球技領域の「ベースボール型」について、実技をしながら、理解させていく。中学校や高等学校の授業で実践する際の独自のルールを工夫・開発し、ゲームで実践させる。また、正規のルールを理解させ、試合（ゲーム）を運営できる審判法を身につけさせる。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：ベースボール型運動の特徴と必要性 第３回：投捕技能:キャッチングスキル（ソフトボール・ティーボール） 第４回：打撃技能:バッティングスキル 第５回：ピッティングスキルと簡易ゲームの展開 第６回：守備パターンの理解(フォースアウト・タッチアウト) 第７回：攻撃パターンの理解(バント・ヒットエンドラン) 第８回：走塁や審判法の理解(インフィールドフライ等) 第９回：ルールや用具を工夫した試合(満塁スタート制) 第 10 回：走塁技能:ベースランニング 第 11 回：守備、攻撃パータン:併殺プレーとその防御 第 12 回：ゲームの進め方① 第 13 回：ゲームの進め方② 第 14 回：ルールや用具を工夫した試合 第 15 回：まとめ 第 16 回：ルール・技能理解・授業づくりの課題テスト		
授業方法	実技を中心に、必要に応じて講義を行う。		
アクティブラーニングの視点	教科指導に必要な理論理解に加え、投げる、打つ、捕るの技能を高めるための ドリルを行う。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	特になし		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
評価方法	授業への参加度、授業内試験(70%)により評価する。なお、授業への参加度とは出席状況（授業回数の３分の１欠席がある場合は評価の対象としない)、受講態度等(30%)あり、実技テスト(30%)・ルール理解及び実施方法理解テスト(40%)で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	601	科目コード	66640
科目名	球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）	授業コード	9324256
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	「ベースボール型」におけるソフトボール・ティーボール・キックベースボールの種目を実践しながら、スキルを身につけるとともに、中学校・高等学校の授業で実践する場合の工夫点等について理解する。また、ルールを十分に理解し、試合を運営できるように審判法についても理解する。		
授業概要	学習指導要領の中にある球技領域の「ベースボール型」について、実技をしながら、理解させていく。中学校や高等学校の授業で実践する際の独自のルールを工夫・開発し、ゲームで実践させる。また、正規のルールを理解させ、試合（ゲーム）を運営できる審判法を身につけさせる。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：ベースボール型運動の特徴と必要性 第３回：投捕技能:キャッチングスキル（ソフトボール・ティーボール） 第４回：打撃技能:バッティングスキル 第５回：ピッティングスキルと簡易ゲームの展開 第６回：守備パターンの理解(フォースアウト・タッチアウト) 第７回：攻撃パターンの理解(バント・ヒットエンドラン) 第８回：走塁や審判法の理解(インフィールドフライ等) 第９回：ルールや用具を工夫した試合(満塁スタート制) 第 10 回：走塁技能:ベースランニング 第 11 回：守備、攻撃パータン:併殺プレーとその防御 第 12 回：ゲームの進め方① 第 13 回：ゲームの進め方② 第 14 回：ルールや用具を工夫した試合 第 15 回：まとめ 第 16 回：ルール・技能理解・授業づくりの課題テスト		
授業方法	実技を中心に、必要に応じて講義を行う。		
アクティブラーニングの視点	教科指導に必要な理論理解に加え、投げる、打つ、捕るの技能を高めるための ドリルを行う。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	特になし		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
評価方法	授業への参加度、授業内試験(70%)により評価する。なお、授業への参加度とは出席状況（授業回数の３分の１欠席がある場合は評価の対象としない)、受講態度等(30%)あり、実技テスト(30%)・ルール理解及び実施方法理解テスト(40%)で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	602	科目コード	66650
科目名	球技Ⅳ（ターゲット型スポーツ）	授業コード	9315349
教員名	平岡　義光		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校・高等学校の教材としての球技（ターゲット型スポーツ）を、指導基盤としての自らの技術向上を目指すだけでなく、運動文化を理解するために、多角的な視点から実習することによって、教材化の視点形成を行うことを目標とする。		
授業概要	ターゲット型スポーツとしてのフライングディスク競技について、それぞれの運動学的、生理学的特性などの基礎知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高めることを目標としている。また、種目別のトレーニング方法や指導方法、スポーツ傷害の特徴や予防法についても理解を深める。		
授業計画	第１回　フライングディスクの飛行特性を理解する 第２回　スロー技術１：バックハンドスロー 第３回　スロー技術２：フォアハンドスロー 第４回　スロー技術３：カーブスロー、アップサイドダウンスロー 第５回　ストラックアウト 第６回　ドッヂィビー 第７回　ディスクゴルフ１ 第８回　ディスクゴルフ２ 第９回　アキュラシー 第 10 回　ディスタンス 第 11 回　SCF 第 12 回　アルティメット１ 第 13 回　アルティメット２ 第 14 回　アルティメット３ 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技形式		
アクティブラーニングの視点	毎授業後に復習し、練習に取り組むこと。 授業時のゲームや試合形式に積極的に取り組み、ディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行う。		
授業外学習	適宜課題を与える。また、自主的に課題技の復習を行う。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	実技試験９０％および提出物１０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	フライングディスクを使用したアルティメット競技において２０年以上競技経験を続け、世界大会に６回出場し、世界大会準優勝の経験を持ち、地区選抜代表監督や大学チームのコーチなど指導者として活動する教員が、フライングディスクを用いたターゲット型スポーツを指導する。		

No.	603	科目コード	66650
科目名	球技Ⅳ（ターゲット型スポーツ）	授業コード	9315351
教員名	平岡　義光		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校・高等学校の教材としての球技（ターゲット型スポーツ）を、指導基盤としての自らの技術向上を目指すだけでなく、運動文化を理解するために、多角的な視点から実習することによって、教材化の視点形成を行うことを目標とする。		
授業概要	ターゲット型スポーツとしてのフライングディスク競技について、それぞれの運動学的、生理学的特性などの基礎知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高めることを目標としている。また、種目別のトレーニング方法や指導方法、スポーツ傷害の特徴や予防法についても理解を深める。		
授業計画	第１回　フライングディスクの飛行特性を理解する 第２回　スロー技術１：バックハンドスロー 第３回　スロー技術２：フォアハンドスロー 第４回　スロー技術３：カーブスロー、アップサイドダウンスロー 第５回　ストラックアウト 第６回　ドッヂィビー 第７回　ディスクゴルフ１ 第８回　ディスクゴルフ２ 第９回　アキュラシー 第 10 回　ディスタンス 第 11 回　SCF 第 12 回　アルティメット１ 第 13 回　アルティメット２ 第 14 回　アルティメット３ 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技形式		
アクティブラーニングの視点	毎授業後に復習し、練習に取り組むこと。 授業時のゲームや試合形式に積極的に取り組み、ディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行う。		
授業外学習	適宜課題を与える。また、自主的に課題技の復習を行う。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	実技試験９０％および提出物１０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	フライングディスクを使用したアルティメット競技において２０年以上競技経験を続け、世界大会に６回出場し、世界大会準優勝の経験を持ち、地区選抜代表監督や大学チームのコーチなど指導者として活動する教員が、フライングディスクを用いたターゲット型スポーツを指導する。		

No.	604	科目コード	66650
科目名	球技Ⅳ（ターゲット型スポーツ）	授業コード	9315372
教員名	平岡　義光		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校・高等学校の教材としての球技（ターゲット型スポーツ）を、指導基盤としての自らの技術向上を目指すだけでなく、運動文化を理解するために、多角的な視点から実習することによって、教材化の視点形成を行うことを目標とする。		
授業概要	ターゲット型スポーツとしてのフライングディスク競技について、それぞれの運動学的、生理学的特性などの基礎知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高めることを目標としている。また、種目別のトレーニング方法や指導方法、スポーツ傷害の特徴や予防法についても理解を深める。		
授業計画	第１回　フライングディスクの飛行特性を理解する 第２回　スロー技術１：バックハンドスロー 第３回　スロー技術２：フォアハンドスロー 第４回　スロー技術３：カーブスロー、アップサイドダウンスロー 第５回　ストラックアウト 第６回　ドッヂィビー 第７回　ディスクゴルフ１ 第８回　ディスクゴルフ２ 第９回　アキュラシー 第 10 回　ディスタンス 第 11 回　SCF 第 12 回　アルティメット１ 第 13 回　アルティメット２ 第 14 回　アルティメット３ 第 15 回　まとめ		
授業方法	実技形式		
アクティブラーニングの視点	毎授業後に復習し、練習に取り組むこと。 授業時のゲームや試合形式に積極的に取り組み、ディスカッションやグループ学習を取り入れ発表など行う。		
授業外学習	適宜課題を与える。また、自主的に課題技の復習を行う。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	実技試験９０％および提出物１０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	フライングディスクを使用したアルティメット競技において２０年以上競技経験を続け、世界大会に６回出場し、世界大会準優勝の経験を持ち、地区選抜代表監督や大学チームのコーチなど指導者として活動する教員が、フライングディスクを用いたターゲット型スポーツを指導する。		

No.	605	科目コード	66660
科目名	野外活動	授業コード	9324462
教員名	中村　浩也		
授業種別	集中	授業形態	実技
開講間隔		単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	学生の技術レベルに対応した滑走能力を身に付け、自由に斜面を滑り降りることができる。 スキーを通して野外活動の意義や教育的価値、指導方法、安全管理を理解する。 スキーの文化的価値についても理解できる。		
授業概要	本授業では、事前学習と学外での集中実習によって、野外における活動の基本的な行動の仕方とスキー技術の基礎を身に付ける。また、集団生活を通してコミュニケーション能力、社会性を養うとともに、主体的に行動する態度と実践能力を高める。		
授業計画	第 1 回：野外教育の計画と実施について 第 2 回：現代社会と野外活動の意義 第 3 回：野外活動と教育 第 4 回：スキースポーツの分類と実習のためのオリエンテーション 第 5 回：学外実習①開校式、班分けテスト(1 日目午前) 第 6 回：学外実習②アルペンスキー実習①(1 日目午後) 第 7 回：学外実習③スキーと安全(1 日目夜) 第 8 回：学外実習④アルペンスキー実習②(2 日目午前) 第 9 回：学外実習⑤アルペンスキー実習③(2 日目午後) 第 10 回：学外実習⑥スキーの歴史(2 日目夜) 第 11 回：学外実習⑦アルペンスキー実習④(3 日目午前) 第 12 回：学外実習⑧アルペンスキー実習⑤(3 日目午後) 第 13 回：学外実習⑨スキーの運動特性(3 日目夜) 第 14 回：学外実習⑩アルペンスキー実習⑥(4 日目午前) 第 15 回：学外実習⑪アルペンスキーテスト(4 日目午後) 第 13 回：まとめ(4 日目夜)		
授業方法	4 泊 5 日の合宿形式で冬季の実施を予定している。スキー用具類(スキー板、ストック、ブーツ、ウェアー、ゴーグル、手袋、ヘルメットなど)については、自前のものがない学生はレンタル可能である。合宿費用(宿泊代、交通費、レンタル代)として 5 万円程度必要である。		
アクティブラーニングの視点	スキー実習では、グループ活動などを通じて、主体的に技術の獲得を目指す活動にも取り組む。 また、スキー技術や訪問先の情報について PC 等を利用して情報を収集する活動に取り組む。		
授業外学習	参加者を対象に事前オリエンテーションを実施するので、必ず日時(後日提示する)を確認の上、参加のこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	全日本スキー教程(全日本スキー連盟)		
評価方法	授業への取り組み(50%)、実技テスト(30%)、レポート(20%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校教員として４６年間の指導経験を持つとともに、全日本スキー連盟公認スキー指導員として４１年間の指導実績を有している。		

No.	606	科目コード	66670
科目名	器械運動	授業コード	9315575
教員名	山本　清文		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・器械運動の実技活動を通して技能を身につけることができる。 ・指導過程の専門的知識を身につけることができる。 ・指導方法の専門的知識を身につけることができる。		
授業概要	器械運動領域のマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動について、基礎的な導入から技の習得を目指し実技を行う。また、運動の観察の方法を理解し、技ができる楽しさを味わい、自主的な学習が出来るようにする。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第２回：マット運動の導入 第３回：マット運動の回転系・巧技系の基礎（導入運動、前転、後転、バランス） 第４回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（開脚前転、伸膝後転、倒立前転） 第５回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（伸膝前転、とび前転、後転倒立） 鉄棒運動の基礎（逆上がり、前回り下り） 第６回：マット運動の回転系の技（側方倒立回転、くび跳ね起き、頭跳ね起き） 鉄棒運動の基礎（片膝かけ上がり、け上がり） 第７回：マット運動の回転系の技（前方倒立回転とび、側方倒立回転とび） 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転） 第８回：マット運動の回転系・巧技系連続技 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転） 第９回：鉄棒運動の懸垂技（棒下振りとび下り、横とびこし下り） 第 10 回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の基礎（開脚跳び、屈身跳び） 第 11 回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の切り返し系の技（かかえ込み跳び、屈身跳び） 第 12 回：鉄棒運動の技の組み合わせ（連続技） 跳び箱回転系の技（台上前転、くびはね跳び、頭はね跳び、前方倒立回転跳び） 第 13 回：マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱 第 14 回：　マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱 第 15 回：　マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	自主的に課題技の学習を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	教師のための器械運動指導法シリーズ・マット運動、金子明友著、大修館書店 教師のための器械運動指導法シリーズ・鉄棒運動、金子明友著、大修館書店 教師のための器械運動指導法シリーズ・跳び箱・平均台運動、金子明友著、大修館書店		
評価方法	授業中行なう実技テスト５０％、レポートおよび発表３０％、授業への参加度２０％で評価する。 積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	器械体操の業務に携わった経験のある教員が、器械運動の講義について担当する。		

No.	607	科目コード	66670
科目名	器械運動	授業コード	9315577
教員名	山本　清文		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・器械運動の実技活動を通して技能を身につけることができる。 ・指導過程の専門的知識を身につけることができる。 ・指導方法の専門的知識を身につけることができる。		
授業概要	器械運動領域のマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動について、基礎的な導入から技の習得を目指し実技を行う。また、運動の観察の方法を理解し、技ができる楽しさを味わい、自主的な学習が出来るようにする。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第２回：マット運動の導入 第３回：マット運動の回転系・巧技系の基礎（導入運動、前転、後転、バランス） 第４回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（開脚前転、伸膝後転、倒立前転） 第５回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（伸膝前転、とび前転、後転倒立） 鉄棒運動の基礎（逆上がり、前回り下り） 第６回：マット運動の回転系の技（側方倒立回転、くび跳ね起き、頭跳ね起き） 鉄棒運動の基礎（片膝かけ上がり、け上がり） 第７回：マット運動の回転系の技（前方倒立回転とび、側方倒立回転とび） 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転） 第８回：マット運動の回転系・巧技系連続技 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転） 第９回：鉄棒運動の懸垂技（棒下振りとび下り、横とびこし下り） 第 10 回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の基礎（開脚跳び、屈身跳び） 第 11 回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の切り返し系の技（かかえ込み跳び、屈身跳び） 第 12 回：鉄棒運動の技の組み合わせ（連続技） 跳び箱回転系の技（台上前転、くびはね跳び、頭はね跳び、前方倒立回転跳び） 第 13 回：マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱 第 14 回：　マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱 第 15 回：　マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	自主的に課題技の学習を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	教師のための器械運動指導法シリーズ・マット運動、金子明友著、大修館書店 教師のための器械運動指導法シリーズ・鉄棒運動、金子明友著、大修館書店 教師のための器械運動指導法シリーズ・跳び箱・平均台運動、金子明友著、大修館書店		
評価方法	授業中行なう実技テスト５０％、レポートおよび発表３０％、授業への参加度２０％で評価する。 積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	器械体操の業務に携わった経験のある教員が、器械運動の講義について担当する。		

No.	608	科目コード	66670
科目名	器械運動	授業コード	9315592
教員名	山本　清文		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・器械運動の実技活動を通して技能を身につけることができる。 ・指導過程の専門的知識を身につけることができる。 ・指導方法の専門的知識を身につけることができる。		
授業概要	器械運動領域のマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動について、基礎的な導入から技の習得を目指し実技を行う。また、運動の観察の方法を理解し、技ができる楽しさを味わい、自主的な学習が出来るようにする。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第２回：マット運動の導入 第３回：マット運動の回転系・巧技系の基礎（導入運動、前転、後転、バランス） 第４回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（開脚前転、伸膝後転、倒立前転） 第５回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（伸膝前転、とび前転、後転倒立） 鉄棒運動の基礎（逆上がり、前回り下り） 第６回：マット運動の回転系の技（側方倒立回転、くび跳ね起き、頭跳ね起き） 鉄棒運動の基礎（片膝かけ上がり、け上がり） 第７回：マット運動の回転系の技（前方倒立回転とび、側方倒立回転とび） 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転） 第８回：マット運動の回転系・巧技系連続技 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転） 第９回：鉄棒運動の懸垂技（棒下振りとび下り、横とびこし下り） 第 10 回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の基礎（開脚跳び、屈身跳び） 第 11 回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の切り返し系の技（かかえ込み跳び、屈身跳び） 第 12 回：鉄棒運動の技の組み合わせ（連続技） 跳び箱回転系の技（台上前転、くびはね跳び、頭はね跳び、前方倒立回転跳び） 第 13 回：マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱 第 14 回：　マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱 第 15 回：　マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	自主的に課題技の学習を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	教師のための器械運動指導法シリーズ・マット運動、金子明友著、大修館書店 教師のための器械運動指導法シリーズ・鉄棒運動、金子明友著、大修館書店 教師のための器械運動指導法シリーズ・跳び箱・平均台運動、金子明友著、大修館書店		
評価方法	授業中行なう実技テスト５０％、レポートおよび発表３０％、授業への参加度２０％で評価する。 積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	器械体操の業務に携わった経験のある教員が、器械運動の講義について担当する。		

No.	609	科目コード	66680
科目名	体つくり運動	授業コード	9324688
教員名	山本　清文		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、体育・スポーツ・健康づくりに必要な基礎的な運動を習得することができる。 ・自分の体と心の関係や、動きに気付き、意識を高めることができる。 ・目的に応じたプログラムを作成し、指導を行なうことができる。		
授業概要	体を動かすことが、心と体に良い影響を及ぼすことに気付き、仲間と交流するための運動を体験し理解する。また、多様な動きをつくる運動や体力を高める運動を解説する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第２回：ストレッチ 第３回：体ほぐしの運動① 第４回：体ほぐしの運動② 第５回：体のバランスをとる運動 第６回：歩く、走る 第７回：跳ぶ 第８回：用具を操作する運動① 第９回：用具を操作する運動② 第１０回：力試しの運動① 第１１回：力試しの運動② 第１２回：体力を高める運動の組み合わせ（自重、器具を利用したエクササイズ） 第１３回：巧みな動きを高める運動の組み合わせ 第１４回：力強い動きを高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践①） 第１５回：動きを持続する能力を高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践②）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	プログラム作成や指導の準備を行なう。		
教科書	『子どもにおける「体つくり運動」の基礎と実践』 B5 判・並製・158 ページ 定価（本体 2,500 円+税） ISBN 978-4-7823-0609-3		
参考書	中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）解説　保健体育編　文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編　文部科学省		
評価方法	授業中行なう実技テスト５０％、レポートおよび発表３０％、授業への参加度２０％で評価する。 積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	体つくり運動の業務に携わった経験のある教員が、体つくり運動の講義について担当する。		

No.	610	科目コード	66680
科目名	体つくり運動	授業コード	9324699
教員名	山本　清文		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、体育・スポーツ・健康づくりに必要な基礎的な運動を習得することができる。 ・自分の体と心の関係や、動きに気付き、意識を高めることができる。 ・目的に応じたプログラムを作成し、指導を行なうことができる。		
授業概要	体を動かすことが、心と体に良い影響を及ぼすことに気付き、仲間と交流するための運動を体験し理解する。また、多様な動きをつくる運動や体力を高める運動を解説する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第２回：ストレッチ 第３回：体ほぐしの運動① 第４回：体ほぐしの運動② 第５回：体のバランスをとる運動 第６回：歩く、走る 第７回：跳ぶ 第８回：用具を操作する運動① 第９回：用具を操作する運動② 第１０回：力試しの運動① 第１１回：力試しの運動② 第１２回：体力を高める運動の組み合わせ（自重、器具を利用したエクササイズ） 第１３回：巧みな動きを高める運動の組み合わせ 第１４回：力強い動きを高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践①） 第１５回：動きを持続する能力を高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践②）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	プログラム作成や指導の準備を行なう。		
教科書	『子どもにおける「体つくり運動」の基礎と実践』 B5 判・並製・158 ページ 定価（本体 2,500 円+税） ISBN 978-4-7823-0609-3		
参考書	中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）解説　保健体育編　文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編　文部科学省		
評価方法	授業中行なう実技テスト５０％、レポートおよび発表３０％、授業への参加度２０％で評価する。 積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	体つくり運動の業務に携わった経験のある教員が、体つくり運動の講義について担当する。		

No.	611	科目コード	66680
科目名	体つくり運動	授業コード	9324721
教員名	山本　清文		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、体育・スポーツ・健康づくりに必要な基礎的な運動を習得することができる。 ・自分の体と心の関係や、動きに気付き、意識を高めることができる。 ・目的に応じたプログラムを作成し、指導を行なうことができる。		
授業概要	体を動かすことが、心と体に良い影響を及ぼすことに気付き、仲間と交流するための運動を体験し理解する。また、多様な動きをつくる運動や体力を高める運動を解説する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第２回：ストレッチ 第３回：体ほぐしの運動① 第４回：体ほぐしの運動② 第５回：体のバランスをとる運動 第６回：歩く、走る 第７回：跳ぶ 第８回：用具を操作する運動① 第９回：用具を操作する運動② 第１０回：力試しの運動① 第１１回：力試しの運動② 第１２回：体力を高める運動の組み合わせ（自重、器具を利用したエクササイズ） 第１３回：巧みな動きを高める運動の組み合わせ 第１４回：力強い動きを高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践①） 第１５回：動きを持続する能力を高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践②）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやクループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	プログラム作成や指導の準備を行なう。		
教科書	『子どもにおける「体つくり運動」の基礎と実践』 B5 判・並製・158 ページ 定価（本体 2,500 円+税） ISBN 978-4-7823-0609-3		
参考書	中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）解説　保健体育編　文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編　文部科学省		
評価方法	授業中行なう実技テスト５０％、レポートおよび発表３０％、授業への参加度２０％で評価する。 積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	体つくり運動の業務に携わった経験のある教員が、体つくり運動の講義について担当する。		

No.	612	科目コード	66690
科目名	武道	授業コード	9315870
教員名	伊藤　剛		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている基本動作と技について 示範・解説できる。		
授業概要	・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている柔道の基本動作と 投げ技・固め技の練習を中心とする。 ・安全で効果的な指導手順、練習や試合の行い方などについて解説する。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション　（柔道着の着方と礼法） 第　2回　基本動作の習得　（受け身や体さばき） 第　3回　投げ技の習得①　（膝車、支え釣り込み足） 第　4回　投げ技の習得②　（体落とし） 第　5回　練習法の理解　（かかり練習、約束練習） 第　6回　固め技の練習①　（けさ固め、横四方固め、上四方固め） 第　7回　固め技の練習②　（抑え技への入り方と攻防） 第　8回　スキルテスト　（受け身と既習技のスキルテスト） 第　9回　投げ技の習得③　（大腰、釣り込み腰） 第 10 回　投げ技の習得②　（背負い投げ、払い腰） 第 11 回　投げ技の習得⑤　（大内刈り、小内刈り、大外刈り） 第 12 回　技の連絡　（投げ技の連絡） 第 13 回　試合①　（簡易試合と審判法） 第 14 回　試合②　（簡易試合と審判法） 第 15 回　授業のまとめ		
授業方法	柔道場において、柔道着を着用して実技を行う。		
アクティブラーニングの視点	ビデオ等の ICT 機器の使用、共同学習（ペアワーク・グループワーク）		
授業外学習	毎授業ごとに授業内容についてのミニレポートを提出する。		
教科書	特に指定しない。必要な資料は随時配付する。		
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』『高等学校学習指導要領解説保健体育編』		
評価方法	授業参加度および貢献度５０％、スキルテスト３０％、レポート２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	613	科目コード	66690
科目名	武道	授業コード	9315875
教員名	伊藤　剛		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている基本動作と技について 示範・解説できる。		
授業概要	・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている柔道の基本動作と 投げ技・固め技の練習を中心とする。 ・安全で効果的な指導手順、練習や試合の行い方などについて解説する。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション　（柔道着の着方と礼法） 第　2回　基本動作の習得　（受け身や体さばき） 第　3回　投げ技の習得①　（膝車、支え釣り込み足） 第　4回　投げ技の習得②　（体落とし） 第　5回　練習法の理解　（かかり練習、約束練習） 第　6回　固め技の練習①　（けさ固め、横四方固め、上四方固め） 第　7回　固め技の練習②　（抑え技への入り方と攻防） 第　8回　スキルテスト　（受け身と既習技のスキルテスト） 第　9回　投げ技の習得③　（大腰、釣り込み腰） 第 10 回　投げ技の習得②　（背負い投げ、払い腰） 第 11 回　投げ技の習得⑤　（大内刈り、小内刈り、大外刈り） 第 12 回　技の連絡　（投げ技の連絡） 第 13 回　試合①　（簡易試合と審判法） 第 14 回　試合②　（簡易試合と審判法） 第 15 回　授業のまとめ		
授業方法	柔道場において、柔道着を着用して実技を行う。		
アクティブラーニングの視点	ビデオ等の ICT 機器の使用、共同学習（ペアワーク・グループワーク）		
授業外学習	毎授業ごとに授業内容についてのミニレポートを提出する。		
教科書	特に指定しない。必要な資料は随時配付する。		
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』『高等学校学習指導要領解説保健体育編』		
評価方法	授業参加度および貢献度５０％、スキルテスト３０％、レポート２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	614	科目コード	66690
科目名	武道	授業コード	9315880
教員名	伊藤　剛		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている基本動作と技について 示範・解説できる。		
授業概要	・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている柔道の基本動作と 投げ技・固め技の練習を中心とする。 ・安全で効果的な指導手順、練習や試合の行い方などについて解説する。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション　（柔道着の着方と礼法） 第　2回　基本動作の習得　（受け身や体さばき） 第　3回　投げ技の習得①　（膝車、支え釣り込み足） 第　4回　投げ技の習得②　（体落とし） 第　5回　練習法の理解　（かかり練習、約束練習） 第　6回　固め技の練習①　（けさ固め、横四方固め、上四方固め） 第　7回　固め技の練習②　（抑え技への入り方と攻防） 第　8回　スキルテスト　（受け身と既習技のスキルテスト） 第　9回　投げ技の習得③　（大腰、釣り込み腰） 第 10 回　投げ技の習得②　（背負い投げ、払い腰） 第 11 回　投げ技の習得⑤　（大内刈り、小内刈り、大外刈り） 第 12 回　技の連絡　（投げ技の連絡） 第 13 回　試合①　（簡易試合と審判法） 第 14 回　試合②　（簡易試合と審判法） 第 15 回　授業のまとめ		
授業方法	柔道場において、柔道着を着用して実技を行う。		
アクティブラーニングの視点	ビデオ等の ICT 機器の使用、共同学習（ペアワーク・グループワーク）		
授業外学習	毎授業ごとに授業内容についてのミニレポートを提出する。		
教科書	特に指定しない。必要な資料は随時配付する。		
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』『高等学校学習指導要領解説保健体育編』		
評価方法	授業参加度および貢献度５０％、スキルテスト３０％、レポート２０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	615	科目コード	66700
科目名	ダンス	授業コード	9315981
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代的ダンス、創作ダンスの基礎や応用を学び 自分で考える力、物事を動かす力、能動的に物事に取り組む力を磨き ダンスの授業を現場で指導実践できる技術を習得できる。		
授業概要	本講義では、 踊る・創る・観る力を高めると共に、 ダンスの基礎的能力を進化させ、 グループ、個人での表現や動きを、仲間達と高め合いながら体得することを目的とする。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について、アンケートなど） 第２回：ボディメイク１（ストレッチ&筋トレ＆ダウン、アップ） 第３回：ボディメイク２（ストレッチ＆アイソレーション） 第４回：ボディメイク３（アイソレーション＆ステップ） 第５回：ボディメイク４（ステップ＆ターン&ジャンプ） 第６回：ボディメイク全工程★ストレッチ、筋トレ、アイソレ、ステップ、ターン、ジャンプ 第７回：ダンスの指導法１（ステップ&ターン） 第８回：創作・音や曲の世界を表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第９回：創作・日常動作や物を使って表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第 10 回：動画で作品鑑賞し、見る目を養う 第 11 回：グループで小作品を創作１（準備） 第 12 回：グループで小作品を創作２（基礎固め） 第 13 回：グループで小作品を創作３（まとめ） 第 14 回：グループで小作品を創作４（質上げ） 第 15 回：創作練習と発表　（授業内テスト）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	ダンス小作品の創作。共同学習（グループワーク）		
授業外学習	必要に応じて、作品作りにおいてのグループ練習を行う。 作品の音楽編集などの準備を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	なし、随時資料を配布		
評価方法	各課題の完成度（６０％）と授業への参加状況（４０％） 完成度は、表現力・独創性・指導力の観点から評価を行い、 参加度は、積極性・コミュニケーション力・協調性の観点より評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場の体育科教員としての教科指導の経験、大阪府の保健体育科指導教諭としての教員育成の経験を活かしてダンスの授業の実践を行う。		

No.	616	科目コード	66700
科目名	ダンス	授業コード	9315983
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代的ダンス、創作ダンスの基礎や応用を学び 自分で考える力、物事を動かす力、能動的に物事に取り組む力を磨き ダンスの授業を現場で指導実践できる技術を習得できる。		
授業概要	本講義では、 踊る・創る・観る力を高めると共に、 ダンスの基礎的能力を進化させ、 グループ、個人での表現や動きを、仲間達と高め合いながら体得することを目的とする。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について、アンケートなど） 第２回：ボディメイク１（ストレッチ&筋トレ＆ダウン、アップ） 第３回：ボディメイク２（ストレッチ＆アイソレーション） 第４回：ボディメイク３（アイソレーション＆ステップ） 第５回：ボディメイク４（ステップ＆ターン&ジャンプ） 第６回：ボディメイク全工程★ストレッチ、筋トレ、アイソレ、ステップ、ターン、ジャンプ 第７回：ダンスの指導法１（ステップ&ターン） 第８回：創作・音や曲の世界を表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第９回：創作・日常動作や物を使って表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第 10 回：動画で作品鑑賞し、見る目を養う 第 11 回：グループで小作品を創作１（準備） 第 12 回：グループで小作品を創作２（基礎固め） 第 13 回：グループで小作品を創作３（まとめ） 第 14 回：グループで小作品を創作４（質上げ） 第 15 回：創作練習と発表　（授業内テスト）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	ダンス小作品の創作。共同学習（グループワーク）		
授業外学習	必要に応じて、作品作りにおいてのグループ練習を行う。 作品の音楽編集などの準備を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	なし、随時資料を配布		
評価方法	各課題の完成度（６０％）と授業への参加状況（４０％） 完成度は、表現力・独創性・指導力の観点から評価を行い、 参加度は、積極性・コミュニケーション力・協調性の観点より評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場の体育科教員としての教科指導の経験、大阪府の保健体育科指導教諭としての教員育成の経験を活かしてダンスの授業の実践を行う。		

No.	617	科目コード	66700
科目名	ダンス	授業コード	9315994
教員名	春名　秀子		
授業種別	週間	授業形態	実技
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代的ダンス、創作ダンスの基礎や応用を学び 自分で考える力、物事を動かす力、能動的に物事に取り組む力を磨き ダンスの授業を現場で指導実践できる技術を習得できる。		
授業概要	本講義では、 踊る・創る・観る力を高めると共に、 ダンスの基礎的能力を進化させ、 グループ、個人での表現や動きを、仲間達と高め合いながら体得することを目的とする。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について、アンケートなど） 第２回：ボディメイク１（ストレッチ&筋トレ＆ダウン、アップ） 第３回：ボディメイク２（ストレッチ＆アイソレーション） 第４回：ボディメイク３（アイソレーション＆ステップ） 第５回：ボディメイク４（ステップ＆ターン&ジャンプ） 第６回：ボディメイク全工程★ストレッチ、筋トレ、アイソレ、ステップ、ターン、ジャンプ 第７回：ダンスの指導法１（ステップ&ターン） 第８回：創作・音や曲の世界を表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第９回：創作・日常動作や物を使って表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第 10 回：動画で作品鑑賞し、見る目を養う 第 11 回：グループで小作品を創作１（準備） 第 12 回：グループで小作品を創作２（基礎固め） 第 13 回：グループで小作品を創作３（まとめ） 第 14 回：グループで小作品を創作４（質上げ） 第 15 回：創作練習と発表　（授業内テスト）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	ダンス小作品の創作。共同学習（グループワーク）		
授業外学習	必要に応じて、作品作りにおいてのグループ練習を行う。 作品の音楽編集などの準備を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	なし、随時資料を配布		
評価方法	各課題の完成度（６０％）と授業への参加状況（４０％） 完成度は、表現力・独創性・指導力の観点から評価を行い、 参加度は、積極性・コミュニケーション力・協調性の観点より評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場の体育科教員としての教科指導の経験、大阪府の保健体育科指導教諭としての教員育成の経験を活かしてダンスの授業の実践を行う。		

No.	618	科目コード	66710
科目名	体育原理	授業コード	9316094
教員名	前林　清和		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	身体文化の多様性について視野を広げ、体育原理の変遷を理解することによって、「体育」と「スポーツ」について意識的に問題を発見し，その問題について多面的な思考のアプローチをすることの重要性について学ぶ。また体育・スポーツ概念の本質について再考し、それをふまえた上で今後の体育やスポーツの在り方を検討する。		
授業概要	「体育とはなにか」という根源的な問いに対して、これまでの人類の発達を背景を基に、その意義について概観し、現代社会における体育・スポーツの諸問題について理解を深めることを目的としている。また現在同義語のように解釈されている「体育」と「スポーツ」の本質や理念および歴史や思想を理解するとともに、それぞれの存在理由や意義について哲学的に考究する。		
授業計画	第１回　体育原理とは何か 第２回　「体育」、「スポーツ」の概念 第３回　身体文化の歴史と変遷 第４回　近代体育の成立 第５回　近代体育の思想的・社会的背景 第６回　運動の持つ可能性 第７回　体育と人間形成 第８回　体育と身体形成 第９回　身体と心 第１０回　プレイ論 第１１回　スポーツと倫理（人権論含む） 第１２回　スポーツマンシップとフェアプレイ 第１３回　スポーツと技術革新 第１４回　体育・スポーツの可能性 第１５回　総括　知識習得確認レポートの作成		
授業方法	テキストにそって講義中心に行うが、関連したビデオを鑑賞したり、意見交換を行ったりする。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートを活用したりしながらアクティブラーニングを取り入れた授業を展開する。また、クリッカーを使い、双方向型の授業を展開する。		
授業外学習	テキストで予習復習を行うこと。		
教科書	『スポーツの思想』晃洋書房　菊本智之　2,200 円（税別）		
参考書	適宜指示する。		
評価方法	確認テスト 20%×3 回　授業中のレポート 40%で総合的に評価する。なお、原則として５回以上欠席した場合、評価しない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	619	科目コード	66720
科目名	運動生理学	授業コード	9316207
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	本科目は教職課程認定科目で、中高教科に関する科目(必修)である、中高教科を教授するに足る専門的知識及び技能を修得することを一目標とする。生理学(運動生理学を含む)では、生体の様々な仕組みと機能について体系的に学び、運動理論や運動に伴う生態機能の変化についての理解を深める。また、スポーツ各分野におけるトレーニング効果の更なる向上や健康の維持・増進に役立つような知識を習得する。		
授業概要	この授業では、運動をしているときのヒトの生理機構を解説することにより、ヒトの基本的生活活動と環境の変化に適応するしくみを理解させることを目的とする。具体的には、筋肉のしくみや働きから、運動時と休養時の循環器系の機能変化などを中心とする自律神経系の働き、運動に関連する脳機能などについて視聴覚資料を使いながら解説する。		
授業計画	第 1 回目：骨格の構造と機能 第 2 回目：骨格筋のタイプと筋収縮のエネルギー 第 3 回目：呼吸器の機能 第 4 回目：循環器の機能 第 5 回目：脳・神経系の機能 第 6 回目：エネルギー代謝 第 7 回目：糖・脂質・タンパク質の代謝 第 8 回目：体温調節機能 第 9 回目：免疫系の機能 第 10 回目：内分泌系の機能 第 11 回目：生活習慣病と運動 第 12 回目：体力向上と運動プログラム 第 13 回目：運動処方の理論と実践 第 14 回目：発育発達と栄養 第 15 回目：子供の生活習慣病と運動 第 16 回目:期末試験		
授業方法	講義を中心に行い、トレーニング室での実験も適宜行う。		
アクティブラーニングの視点	歩行、ランニングを行ってもらい、自覚的運動強度と心拍数から運動強度を算出する。 安全限界と有効限界を理解することで、最適な運動強度の理解を深める。 筋力運動の場合、自覚的疲労感を感じてもらうことで、最適強度を体験する。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	新　スポーツ生理学（やさしいスチューデントトレーナーシリーズ） 嵯峨野書院、一般社団法人　メディカル・フィットネス協会　監修		
参考書	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下） 健康運動実践指導者養成用テキスト　　健康運動指導の手引き		
評価方法	授業への参加度 50%　期末試験 40%　小テスト 10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	620	科目コード	66730
科目名	生理学	授業コード	9316320
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	1)　身体の構造と機能を理解する 2)　発育発達に関わる脳機能の成長を理解する 3)　成長期の運動能力及び特性を理解する		
授業概要	近年、子どもの体力低下が続いており、発育・発達が著しい幼児・児童期において、積極的な運動や遊び、身体活動量を増加させるために働きかけることは、小児生活習慣病の予防や運動能力・体力向上に大変重要である。しかし、ただ単に運動・スポーツを指導するだけでは、スポーツ障害やバーンアウト（燃え尽き症候群）などの問題も指摘されており、身体の構造や機能、スポーツ障害に対する基礎知識を踏まえたうえでの指導が望まれる。 本講義では、骨格筋・骨・内臓の臓器などの基本的な身体構造とその機能について理解することをねらいとしている。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（講義の目的と評価について） 第２回：循環器について①（心臓のしくみと働きについて理解する） 第３回：循環器について②（血液・血管のしくみと働きについて理解する） 第４回：呼吸器について（肺のしくみと働きについて理解する） 第５回：骨について①（身体を支える骨の名称を理解する） 第６回：骨について②（骨の成長と老化について理解する） 第７回：骨格筋について①（身体の動きに関わる筋肉の名称を理解する） 第８回：骨格筋について②（筋の構造と特性について理解する） 第９回：神経系について①（脳のしくみと働きについて理解する） 第 10 回：神経系について②（脳の成長に対する運動アプローチについて） 第 11 回：免疫について（免疫に関わる細胞とその働きについて理解する） 第 12 回：消化と吸収について（消化系のしくみと機能を理解する） 第 13 回：その他の臓器について①（肝臓、膵臓、腎臓のしくみと働きについて理解する） 第 14 回：その他の臓器について②（肝臓、膵臓、腎臓のしくみと働きについて理解する） 第 15 回：まとめ（授業の振り返りとテスト対策） 期末試験		
授業方法	講義形式		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、グループ討議やプレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	毎回の授業の復習と、次回授業内容の予習をする。		
教科書	しくみと病気がわかるからだの辞典 田沼　久美子 監修　　益田　律子 監修　　三枝　英人 監修 成美堂出版 2006 年 05 月 01 日発行 ISBN:978-4-415-03139-2		
参考書	石川隆『カラー図解　生理学の基本が分かる辞典』西東社,2012 年 彼末一之，能勢博 『やさしい生理学』（改訂第６版）南江堂，2016 年		
評価方法	授業への貢献度（授業中の積極的な質問や意見）20%、期末試験　80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	専門職として医療機関での業務に携わった経験を持つ教員が、生理学について講義する。		

No.	621	科目コード	66740
科目名	スポーツ心理学	授業コード	9324453
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・スポーツ心理学の専門知識について理解を深め，自他のスポーツ・運動への取り組みを，心理学的観点から説明することができる。 ・健康、スポーツ関連の諸問題に対して，必要な指導や支援を行うための基礎知識や技能を修得する。		
授業概要	人の行動のメカニズムを科学的に解明しようとする心理学の知見は，指導者として，あるいはスポーツ／運動の実践者として，充実したスポーツ活動を展開するうえで有益なものとなる。本講義では，アスリートのみならず、健康づくりに必要な心理学的素養を深めるとともに、効果的なストレスマネジメント及び運動行動変容の理論について概説する。		
授業計画	1.イントロダクション：スポーツ心理学の歴史と概要 2.スポーツとパーソナリティ 3.スポーツにおける動機づけ 4.メンタルトレーニング①:「あがり」と「スランプ」の理解と対処 5.メンタルトレーニング②：認知的アプローチ、リラクセーション 6.運動・スポーツと心身の健康 7.コーチングの心理 8.指導者のメンタルマネジメント 9.行動変容の理論 10.行動変容理論の実践的適用 11.実習：行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリング 12.ストレスの考え方と評価法 13.ストレスマネジメントとカウンセリング 14.運動の健康行動（禁煙など）への影響 15.授業内小テストおよびまとめ		
授業方法	講義、一部演習を含む		
アクティブラーニングの視点	教科書の内容から提示されたテーマに従い、協同学習によりグループの意見をまとめる。 その後、グループごとに意見を発表し、個人で講義全体の振り返りとして小レポートを書く。		
授業外学習	毎回の講義でのグループディスカッションの題目は講義の前週にあらかじめ用紙で提示される。各自、ワークシートを記載の上で講義に臨む必要がある。		
教科書	指定しない。随時講義で資料を配付する。		
参考書	荒木雅信『これから学ぶ スポーツ心理学』大修館書店，２０１１年		
評価方法	毎回の小レポート（50%）と、授業内小テスト（50%）によって評価する。 A+　講義内容を十分に理解し、概念や理論を分かりやすく示すことができる A　講義内容を十分に理解し、概念や理論をある程度分かりやすく示すことができる B　講義内容を概ね理解し、概念や理論を示すことができる C　講義を聞いていたということが確認できる 小レポートは、次週の講義で評価を行ったうえで返却し、後の小レポートの改善について質問を受け付ける。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	622	科目コード	66750
科目名	運動学	授業コード	9324546
教員名	三木　伸吾		
授業種別	集中	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・人間学的発生論の立場から運動を分析するための視点を得ることができる ・身体知の概念と学習者の創発能力、指導者の即発能力の関係を理解し説明することができる ・指導者としての資質能力として、発生論的運動学の知見を活用できるようにするための学びが修得されている		
授業概要	本授業は、中高保健教員免許の取得要件となってる。 スポーツ運動学は教育的視点を多く含み、スポーツや体育指導者が運動学習に内存する法則性を掴み、運動の発生過程に対して積極的に働きかけていけるようにするための基礎的認識を提供するものである。スポーツ運動学の理論は、人間の運動の本質に迫りながら、その発生様態や発達、形態について諸認識を統合し、実戦的教育活動に効果的に利用されることをうたっている。本授業では、その理論に基づき、スポーツや体育の運動場面での指導の促進と、より高いレベルへの引き上げに必要とする原理・原則の知識を習得する。 特に、自身の運動学習の体験や運動を行う前、最中、後の意識体験に言及する。そのため、学習者自身の個別事例が大切となる。講義中に、近くの席で小グループを作り、自身の運動体験事例を用いて動感学習・指導に関するディスカッションや意見交換を行う。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション（講義の目的と評価について） 第 2 回　バイオメカニクスについて 第 3 回　記録を決める要因の構造について（身体運動と骨格・筋・間接） （小テスト） 第 4 回　技術について（クラウチングスター法を例に） 第 5 回　人体の構造について（心臓・血管・呼吸器） 第 6 回　てこの原理と運動について （小テスト） 第 7 回　安定性の原理と運動について 第 8 回　ニュートンの運動法則について 第 9 回　発達動作学①（投・捕について） （小テスト） 第 10 回　発達動作学②（走について） 第 11 回　発達動作学③（跳について） 第 12 回　発達動作学④（キックについて） （小テスト） 第 13 回　発達動作学⑤（水泳・水中運動） 第 14 回　用具と運動技術について 第 15 回　まとめ（作成した試験問題の検討を通して） 期末試験		
授業方法	・講義形式を中心に展開するが、身体を動かし演習も適宜織り交ぜる。		
アクティブラーニングの視点	講義中に、近くの席で小グループを作り、自身の運動体験事例を用いて動感学習・指導に関するディスカッションや意見交換を行う。		
授業外学習	2 単位の修得には、15 回の授業のほかに、合計 60 時間（4 時間×15 回）の事前事後の学習が必要です 「事前学習では、自身の運動学習体験の事例をノートにまとめる」「事後学習では、各回の講義内容から自身の事例を運動学の理論で説明できるようにプリントの内容をノートにまとめる」 30 時間の事前学習（予習）と 30 時間の事後学習（復習）を目安に学習に取り組んでください 予習 ・次回の授業テーマを予告やシラバスで確認し、その内容に即した具体的事例等を考えておく ・配布プリントや参考書等を活用し、用語や内容の先行的理解を深めておく 復習 ・授業中に示された重要か所や具体的事例を自分の体験等と重ね、実践に活用できるようにする ・運動発生の原理・原則等を理解し、授業で取り扱ったテーマの位置づけを明確にする		

	・用語や内容に関する知的理解の定着をはかる
教科書	三木四郎『ボール運動の運動感覚指導』明和出版 2018
参考書	金子明友『スポーツ運動学』明和出版 2009
評価方法	・期末試験 60%、レポート 20%、授業への参加度 20%（教員からの問いに対する回答、演習への積極的参加などを評価する）小テストは返却する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	中学校教諭経験のあるものが、その経験を生かして実際に運動が苦手な生徒とその具体的指導法などの事例をあげながら、発生運動学の理論と活用方法を指導する。

No.	623	科目コード	66760
科目名	衛生学	授業コード	9324659
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	衛生学が「保健」の領域全般に関与し、体育・スポーツとの関連が深いことを理解する。また、「公衆衛生学」への発展の基礎とする。		
授業概要	健康に生き、健やかに老いることは、世の中に共通する最大の課題となっている。本講義では、健康の保持と増進、疾病の予防の観点から、QOL(Quality of Life)向上のための方法論について総合的に学ぶ。また、産業構造の変革に伴う人口の老化、疾患、死因構造の変化や保健医療、地域での健康づくり、プライマリーケアなどについても理解を深める。		
授業計画	①衛生学とは - 健康の定義、ヘルスプロモーション、健康づくりのあり方、インフォームドコンセント等について ②環境問題の現状と対策 - 日本における人口問題と健康管理、 ③産業保健活動の意義と活動 ④職業性疾病とその管理 ⑤産業医活動について ⑥労働衛生管理について ⑦化学物質の体内動態と毒性 ⑧化学物質の健康影響と中毒性疾患 ⑨環境ストレス応答と適応機構 ⑩国民の栄養の現状と課題 ⑪感染症と予防 ⑫循環器疾患と予防 ⑬生活習慣病(NDC)概論と特定健診・保健指導 ⑭介護予防と運動 - 保健医療制度及び関連法規と運動の必要性 ⑮高齢化社会における健康づくり 期末試験		
授業方法	全受講生に対して、個々人の教科書における発表担当箇所と発表日を決め、各回の授業で発表とディスカッションを行い、その後にまとめの講義を行う。		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、プレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	新聞などで報道されている社会的な問題において、特に環境・健康などにかかわるものを注意深く読むようにする。また、それぞれについてどのような対策がなされたのか、理解する。		
教科書	萩原.栗岡ら「わかりやすい　公衆衛生学入門」株式会社 ERP. 2022 年		
参考書	『図説 国民衛生の動向 2021/2022』厚生労働統計協会 2022 年 鈴木庄亮『シンプル衛生公衆衛生学 2021』　南江堂, 2021 年 『国民衛生の動向・厚生の指標　2021/2022』　厚生労働統計協会,　2022 年 授業中に適宜紹介する。		
評価方法	発表内容の評価 40%、授業への参加度(グループディスカッションへの貢献、授業中の意見や質問)　20%、期末試験 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校保健・産業保健・医療機関等の公衆衛生業務に携わった経験を持つ教員が、衛生学について講義する。		

No.	624	科目コード	66770
科目名	公衆衛生学	授業コード	9316772
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	我々の健康に及ぼす社会・環境に関する主な事項について、その特徴、問題点、施策等について理解する。 本講義を通じて多様な社会環境と健康問題を多角的に捉える。		
授業概要	公衆衛生学は、多様な社会・環境と人の健康に関わる問題を多面的に捉え、科学的に解明する学問である。 本講義では、保健、医療の分野を中心に最新の動向、対策及び課題を学び、我々の健康に影響を及ぼす社会、環境に関する理解を深める。		
授業計画	①公衆衛生学とは - 我が国及び諸外国の健康に関する諸問題（身体活動・運動ガイドライン等） ②統計から見た国民の健康 - 健康づくりのための身体活動基準 2013 とアクティブガイド ③疫学について - エビデンスに基づく健康づくり ④国民栄養と成人保健 ⑤母子保健の現状 ⑥学校保健概説 ⑦社会保障制度について ⑧老人保健制度について ⑨産業保健制度について （現職学校教員から話題提供を得る） ⑩環境と健康 ⑪食の安全 ⑫メンタルヘルス ⑬健康づくり施策と健康運動指導士の社会的役割 ⑭健康日本２１(第二次)における社会環境の整備 ⑮公衆衛生のこれから 期末試験		
授業方法	講義形式(必要に応じてグループワークや演習を行う)。		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、グループ討議やプレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	授業外学習　新聞などのマスコミを通じて社会における公衆衛生学的な施策について学ぶ		
教科書	萩原.栗岡ら「わかりやすい　公衆衛生学入門」株式会社 ERP. 2022 年		
参考書	『図説 国民衛生の動向 2021/2022』厚生労働統計協会 2022 年 鈴木庄亮『シンプル衛生公衆衛生学 2021』　南江堂, 2021 年 『国民衛生の動向・厚生の指標　2021/2022』　厚生労働統計協会,　2022 年 授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度(授業中の積極的な意見や質問) 20%、期末試験　80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校保健や産業保健などの公衆衛生業務に携わった経験を持つ教員が、公衆衛生学の理論と実践について講義する。		

No.	625	科目コード	66780
科目名	スポーツ経営管理学	授業コード	9324885
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	体育・スポーツ分野における経営と戦略等について、現代的な問題を念頭に理解を深める。また、学校教育現場におけるスポーツ経営理論と具体的手法について学ぶ。		
授業概要	学校における体育活動・運動部活動や地域社会等におけるスポーツ振興の諸問題には、経営学が密接な関係性を持っている。本講義では、体育・スポーツ領域で必要な経営学の基礎理論を学び、体育・スポーツ経営の実践能力の基盤となる専門的知識について理解を深めることを目的としている。		
授業計画	第１回：スポーツ経営学・管理学とは 第２回：スポーツの自治－ガバナンスとコンプライアンス－①（スポーツの自治） 第３回：スポーツの自治－ガバナンスとコンプライアンス－②（コンプアライアンスとは） 第４回：我が国のスポーツを取り巻く現状と課題「する・みる・ささえるスポーツ」 第５回：スポーツ経営の概念と構造 第６回：スポーツイベントと経営資源 第７回：スポーツ組織のマネジメント 第８回：経営組織の環境適応と戦略 第９回：スポーツ政策とスポーツ振興 第１０回：スポーツ仲裁①（スポーツ仲裁とは） 第１１回：スポーツ仲裁①（スポーツに関する紛争解決と問題点） 第１２回：スポーツにおけるリスクマネジメント①（法的責任や注意義務） 第１３回：スポーツにおけるリスクマネジメント②（スポーツにおける事故事案） 第１４回：スポーツ経営に関する現代的課題①（スポーツ組織と指定管理者制度） 第１５回：スポーツ経営に関する現代的課題②（スポーツ組織の法人格）		
授業方法	講義形式を中心とし、適宜グループワーク、発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	WEB、新聞、雑誌、書籍等でスポーツ経営の事例について、情報収集に取り組むこと。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店 山下秋二・中西純司・畑攻・冨田幸博(編)「[改訂版]スポーツ経営学」大修館書店 原田宗彦・小笠原悦子(編)「スポーツマネジメント」大修館書店		
評価方法	授業中に行う小レポート 30%、発表 30%、レポート 20 %、授業への参加度 20 %の割合で評価する。 授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	626	科目コード	66790
科目名	スポーツ社会学	授業コード	9316998
教員名	舞　寿之		
授業種別	集中	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	現代の運動・スポーツ、健康づくりに関する基本的概念を学び、現代スポーツを取り巻く様々な社会的課題における問題解決能力を養う。		
授業概要	現代社会におけるスポーツの様々な現象を社会学的視点からとらえ、スポーツの持つ役割や機能、社会的価値などを考察する。また、スポーツと社会の関係性に関する知的関心を深めることを目的としている。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方､評価の方法について。スポーツの概念と歴史について） 第２回　社会の中のスポーツ 第３回　我が国のスポーツ施策 第４回　スポーツの社会的基盤（地域におけるスポーツ振興方策と行政） 第５回　スポーツと教育 第６回　スポーツとメディア（１）消費社会におけるスポーツ 第７回　スポーツとメディア（２）スポーツジャーナリズム 第８回　スポーツとメディア（３）スポーツを伝える仕事の実際 第９回　スポーツと地域社会（１）総合型スポーツクラブの現状 第１０回　スポーツと地域社会（２）スポーツがつくる社会空間 第１１回　スポーツと地域社会（３）生涯スポーツ 第１２回　スポーツイベントの機能 第１３回　商業主義とスポーツ 第１４回　アスリートのキャリアトラジション 第１５回　スポーツ社会学の最新の動向		
授業方法	講義形式を中心とし、適宜グループワーク、発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	WEB、新聞、雑誌、書籍等で現代社会におけるスポーツの現象について、情報収集に取り組むこと。		
教科書	資料を適宜配布する。		
参考書	森川貞夫・佐伯 聡夫「スポーツ社会学講義」大修館書店 池田勝・守能信次（編）「講座・スポーツの社会科学１スポーツの社会学」杏林書院		
評価方法	授業中に行う小レポート２０％、最終レポート３０％、ノート 20%、授業への参加度３０％の割合で評価する。 授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校管理職としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政、地域スポーツ振興等の経験を活かし、スポーツ社会学について講義をする。		

No.	627	科目コード	66800
科目名	アスレティックトレーニング論	授業コード	9316111
教員名	藤井　均		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．海外および日本における「トレーナー」、「アスレティックトレーナー」の歴史につい理解する。 ２．アスレティックトレーナーに求められる役割について理解する。 ３．学校教育現場において応できるアスレティックトレーナーの基礎的知識や技術について理解する。		
授業概要	スポーツフィールドにおいてスポーツ事故が発した場合、スポーツ指導者としてそれらに対応する必要に迫られることとなる。これら代表的スポーツ傷害としての急性外傷や慢性障害、内科系疾患を理解し、それらの発要因を考えることで、スポーツ指導者として対応すべきスポーツ傷害の予防を実践する解決能の向上を目的としている。		
授業計画	第１回ガイダンス　　アスレティックトレーニングとは 第２回アスレティックトレーナーの歴史 第３回救急処置 第４回スポーツ傷害の予防と評価 第５回スポーツ傷害のシステム的評価法（I）　　問診、視診 第６回スポーツ傷害のシステム的評価法（Ⅱ）　負荷検査 第７回スポーツ傷害の評価（下肢） 第８回スポーツ傷害の評価（腰部） 第９回スポーツ傷害の評価（肩） 第１０回スポーツ傷害の評価（肘・手） 第１１回スポーツ選手の内科的疾患・ドーピングコントロール 第１２回アスレティックリハビリテーション 第１３回指導者としてのアスレティックトレーナー 第１４回講義のまとめ 第１５回理解度確認テスト		
授業方法	講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は動ける服装で講義に参加すること。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）の活など		
授業外学習	1.　毎時の授業内容について復習し、理解度確認の口頭試問に備えること。 2.　スポーツ全般に興味を持ち、スポーツに関わるスタッフの役割についての報道にも注意を払う習慣を持つこと。		
教科書	指定しない。 講義ごとに資料を配布するのでファイリングすること。		
参考書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第１巻 「アスレティックトレーナーの役割」財団法本体育協会		
評価方法	授業への参加度（30%）、および授業内テスト（70%）にて 100 点満点で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	プロスポーツ現場および学校現場において指導経験がある者が、その経験を活かしてスポーツ傷害の予防と管理に関する指導にあたる。		

No.	628	科目コード	63331
科目名	スポーツ医学	授業コード	9324778
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	スポーツ医学の概要について学ぶとともに、スポーツ医学の責任分野、学際的な領域について幅広い知識を習得するとともに、実地面においても有用な知識と技術を身に着けることを目標とする。		
授業概要	講義形式での授業で、パワーポイントを有効活用して、ユニバーサルパスポートからの配信や配布資料にもとづいて進める。		
授業計画	①スポーツにおける外科的損傷（１）（頭部、頸部、上肢、体幹の急性損傷と慢性損傷）（担当：大槻） ②スポーツにおける外科的損傷（２）（腰部、下肢の急性損傷と慢性損傷）（担当：大槻） ③スポーツ生理学概要（担当：大槻） ④スポーツ障害（１）内科的スポーツ障害（１）（担当：大槻） ⑤スポーツ障害（２）内科的スポーツ障害（２）（担当：大槻） ⑥スポーツ障害（３）特殊環境下での障害（担当：大槻） ⑦スポーツ障害（４）スポーツ傷害発生時の緊急対応（担当：大槻） ⑧小児のスポーツ医学（担当：栗岡） ⑨女性スポーツ医学 - 女性の身体的特徴と体力・運動能力（担当：栗岡） ⑩高齢者のスポーツ医学・介護予防概論（担当：栗岡） ⑪スポーツと栄養（担当：栗岡） ⑫ドーピング防止（担当：栗岡） ⑬運動負荷試験概論（担当：栗岡） ⑭生活習慣病と運動療法・健診結果の読み方（担当：栗岡） ⑮スポーツとメンタルヘルス（担当：栗岡）		
授業方法	講義形式		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、グループ討議やプレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	毎回の授業で提示するスポーツ医学に関する諸問題について、別途まとめること。		
教科書	配信・配布資料による。		
参考書	「健康運動指導士養成講習会テキスト」（上・下）公益財団法人健康・体力づくり事業財団. 2015 年		
評価方法	授業への参加度 20%、授業中に行う小テスト 80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	本授業担当者は長年にわたり、スポーツ愛好家からトップアスリートに至るスポーツ医科学支援を実践してきた医師ならびにアスレティックトレーナー、研究者である。スポーツの臨床現場のリアルな経験をもとにした授業を展開する。		

No.	629	科目コード	66810
科目名	スポーツ測定評価法	授業コード	9316224
教員名	濱口　幹太		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・各種測定評価法を学び、自身の運動能力や体力水準を正確に把握する ・新体力テストの実施方法および評価基準を理解し、現場で実践できる能力を身につける ・健康づくりに有用なフィールドテストや体力トレーニングの実践を理解する		
授業概要	当該科目では「体力」について、それぞれの体力要素を正しく評価するための方法や加齢変化を学びながら、現時点における自身の体力を知る。 また新体力テストのねらいや実施方法を詳しく解説し、測定実習を反復することで、受講学生が教育現場で新体力テストをスムーズに実践できる能力を養成していく。 加えて、体力以外の測定や各種フィールドテストの知識と理解も深め、これらについて、自身や他者に対しても安全かつ有用に活用できる能力を磨く。		
授業計画	第１回　体力と運動能力の測定法 第２回　体力・運動能力の評価について（体力要素と運動能力の理解） 第３回　健康指標に関する講義と実習（新体組成測定、血圧測定） 第４回　形態測定の講義と実習（周径囲測定） 第５回　新体力テスト講義と実習Ⅰ（テスト項目の理解　筋力系、敏捷性、柔軟性） 第６回　新体力テスト講義と実習Ⅱ（テスト項目の理解、全身持久系、高齢者の体力測定法） 第７回　新体力テスト実習Ⅲ（体力テストと評価 6 歳～19 歳） 第８回　新体力テスト実習Ⅳ（体力テストと評価 20 歳～64 歳） 第９回　新体力テスト実習Ⅴ（グループワークによる新体力テストの実践） 第 10 回　新体力テストの評価と体力トレーニング（評価にもとづいた運動処方） 第 11 回　体力以外の測定Ⅰ（スポーツビジョン測定） 第 12 回　体力以外の測定Ⅱ（性格検査、ストレス測定） 第 13 回　若年のフィールドテスト講義と実習（3 分間走） 第 14 回　介護予防に向けた中高年のフィールドテスト講義と実習（筋力系、3 分間急歩、柔軟性） 第 15 回　日常的な身体運動やトレーニングの実践（自重運動や簡易トレーニング法）		
授業方法	講義と実技実習を行う		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、実習ノートの作成		
授業外学習	授業ごとで実施した実技の方法と注意事項をまとめる。		
教科書	指定しない		
参考書	新・日本人の体力標準値Ⅱ　首都大学東京体力標準研究会		
評価方法	授業への参加度 50%　授業レポートおよび課題 30%　授業中のグループワーク 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	630	科目コード	66810
科目名	スポーツ測定評価法	授業コード	9316235
教員名	濱口　幹太		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・各種測定評価法を学び、自身の運動能力や体力水準を正確に把握する ・新体力テストの実施方法および評価基準を理解し、現場で実践できる能力を身につける ・健康づくりに有用なフィールドテストや体力トレーニングの実践を理解する		
授業概要	当該科目では「体力」について、それぞれの体力要素を正しく評価するための方法や加齢変化を学びながら、現時点における自身の体力を知る。 また新体力テストのねらいや実施方法を詳しく解説し、測定実習を反復することで、受講学生が教育現場で新体力テストをスムーズに実践できる能力を養成していく。 加えて、体力以外の測定や各種フィールドテストの知識と理解も深め、これらについて、自身や他者に対しても安全かつ有用に活用できる能力を磨く。		
授業計画	第１回　体力と運動能力の測定法 第２回　体力・運動能力の評価について（体力要素と運動能力の理解） 第３回　健康指標に関する講義と実習（新体組成測定、血圧測定） 第４回　形態測定の講義と実習（周径囲測定） 第５回　新体力テスト講義と実習Ⅰ（テスト項目の理解　筋力系、敏捷性、柔軟性） 第６回　新体力テスト講義と実習Ⅱ（テスト項目の理解、全身持久系、高齢者の体力測定法） 第７回　新体力テスト実習Ⅲ（体力テストと評価 6 歳～19 歳） 第８回　新体力テスト実習Ⅳ（体力テストと評価 20 歳～64 歳） 第９回　新体力テスト実習Ⅴ（グループワークによる新体力テストの実践） 第 10 回　新体力テストの評価と体力トレーニング（評価にもとづいた運動処方） 第 11 回　体力以外の測定Ⅰ（スポーツビジョン測定） 第 12 回　体力以外の測定Ⅱ（性格検査、ストレス測定） 第 13 回　若年のフィールドテスト講義と実習（3 分間走） 第 14 回　介護予防に向けた中高年のフィールドテスト講義と実習（筋力系、3 分間急歩、柔軟性） 第 15 回　日常的な身体運動やトレーニングの実践（自重運動や簡易トレーニング法）		
授業方法	講義と実技実習を行う		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、実習ノートの作成		
授業外学習	授業ごとで実施した実技の方法と注意事項をまとめる。		
教科書	指定しない		
参考書	新・日本人の体力標準値Ⅱ　首都大学東京体力標準研究会		
評価方法	授業への参加度 50%　授業レポートおよび課題 30%　授業中のグループワーク 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	631	科目コード	63250
科目名	エアロビックエクササイズ演習	授業コード	9324644
教員名	菊田　英淑		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	エアロビックダンスエクササイズの実技指導に関する知識を習得し、実際にレッスンを実施できる。		
授業概要	国民全体の運動不足に起因する体力の低下、生活習慣病の増加が問題となっており子どもも例外ではない。エアロビックダンスエクササイズは音楽を使って楽しく行える事が魅力で、老若男女誰もが安全に楽しめるエクササイズである。子どもの時期に運動が楽しいものであると体験する事は、その後の人生における運動週間の土台作りになる。教育現場において体育のダンスの授業や、地域住民との交流の手段としても活用できる。健康を導き楽しさを共有できる創造者となれるようにチャレンジしてほしい。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 1．授業の進め方と評価方法について ２．エアロビクスダンスエクササイズで使う筋肉について 第２回　エアロビクスダンスエクササイズ体験と基本ステップの習得 １．45 分間エクササイズの実践 ２．基本ステップの習得 第３回　安全性を考慮した運動強度・難度の考え方 １．有酸素運動の効果を高めるための効果的な心拍数の上げ方 ２．運動強度の上げ方 ３．強度と難度の関係 第４回　ウォーミングアップ・ダイナミックストレッチ・筋コンディショニング - 健康の保持・増進を目的として １．エアロビックダンスエクササイズの「準備運動」となる部分の構成 ２．体を動かしながら行う動的ストレッチング ３．筋力・筋持久力を向上させるための自体重を使ったトレーニング 第５回　クールダウン・スタティックストレッチング・筋コンディショニング - 健康の保持・増進を目的として １．エアロビクスダンスエクササイズで使われた身体の活動レベルを平常な状態に戻すためのパートの構成 ２．心身をリラックスさせるために行う静的なストレッチング ３．筋力・筋持久力を向上させるための自体重を使ったトレーニング 第６回　ステップの分解 １．実際の指導においてスムーズに動きを変えるための方法 第７回　キューイング １．参加者に動き方や注意を伝えるための言葉かけや身振りの方法 第８回　メインパートの構成 １．目標となる心拍数を保つ事で心肺機能の向上を図る重要なパート 第９回　対象者別のレッスンの展開方法・エアロビクスダンスエクササイズのトレンド １．子どもを中心に年齢別・体力別のレッスンの展開を学ぶ ２．ラテンダンスやＨＩＰＨＯＰなどのダンステイストの加え方 第 10 回　プログラム作成 １．15 分程度のプログラムを実際に考え、指導できるようにする 第 11 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 12 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 13 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 14 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 15 回　テスト・総括		

	1．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する
授業方法	実技中心であるが必要に応じて関連資料を配布し解説を行う。
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）を行う。
授業外学習	スキル習得状況を確認するために交代でウォーミングアップやクールダウンなどのリードを行う。そのための準備を順次行う事。 詳しくは都度インフォメーションを行う。
教科書	なし
参考書	必要に応じて関連プリントを配布する
評価方法	授業への参加度 60%　ステップ確認小テスト 10%　実技テスト 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	スポーツクラブや各企業での健康のための運動指導業務に携わった経験から 健康のための運動の大切さと楽しさを共有できるように講義する

No.	632	科目コード	63250
科目名	エアロビックエクササイズ演習	授業コード	9324648
教員名	菊田　英淑		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	エアロビックダンスエクササイズの実技指導に関する知識を習得し、実際にレッスンを実施できる。		
授業概要	国民全体の運動不足に起因する体力の低下、生活習慣病の増加が問題となっており子どもも例外ではない。エアロビックダンスエクササイズは音楽を使って楽しく行える事が魅力で、老若男女誰もが安全に楽しめるエクササイズである。子どもの時期に運動が楽しいものであると体験する事は、その後の人生における運動週間の土台作りになる。教育現場において体育のダンスの授業や、地域住民との交流の手段としても活用できる。健康を導き楽しさを共有できる創造者となれるようにチャレンジしてほしい。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 1．授業の進め方と評価方法について ２．エアロビクスダンスエクササイズで使う筋肉について 第２回　エアロビクスダンスエクササイズ体験と基本ステップの習得 １．45 分間エクササイズの実践 ２．基本ステップの習得 第３回　安全性を考慮した運動強度・難度の考え方 １．有酸素運動の効果を高めるための効果的な心拍数の上げ方 ２．運動強度の上げ方 ３．強度と難度の関係 第４回　ウォーミングアップ・ダイナミックストレッチ・筋コンディショニング - 健康の保持・増進を目的として １．エアロビックダンスエクササイズの「準備運動」となる部分の構成 ２．体を動かしながら行う動的ストレッチング ３．筋力・筋持久力を向上させるための自体重を使ったトレーニング 第５回　クールダウン・スタティックストレッチング・筋コンディショニング - 健康の保持・増進を目的として １．エアロビクスダンスエクササイズで使われた身体の活動レベルを平常な状態に戻すためのパートの構成 ２．心身をリラックスさせるために行う静的なストレッチング ３．筋力・筋持久力を向上させるための自体重を使ったトレーニング 第６回　ステップの分解 １．実際の指導においてスムーズに動きを変えるための方法 第７回　キューイング １．参加者に動き方や注意を伝えるための言葉かけや身振りの方法 第８回　メインパートの構成 １．目標となる心拍数を保つ事で心肺機能の向上を図る重要なパート 第９回　対象者別のレッスンの展開方法・エアロビクスダンスエクササイズのトレンド １．子どもを中心に年齢別・体力別のレッスンの展開を学ぶ ２．ラテンダンスやＨＩＰＨＯＰなどのダンステイストの加え方 第 10 回　プログラム作成 １．15 分程度のプログラムを実際に考え、指導できるようにする 第 11 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 12 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 13 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 14 回　テスト・総括 １．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する 第 15 回　テスト・総括		

	1．実際に考えたプログラムでエアロビックダンスエクササイズを実施する
授業方法	実技中心であるが必要に応じて関連資料を配布し解説を行う。
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）を行う。
授業外学習	スキル習得状況を確認するために交代でウォーミングアップやクールダウンなどのリードを行う。そのための準備を順次行う事。 詳しくは都度インフォメーションを行う。
教科書	なし
参考書	必要に応じて関連プリントを配布する
評価方法	授業への参加度 60%　ステップ確認小テスト 10%　実技テスト 30%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	スポーツクラブや各企業での健康のための運動指導業務に携わった経験から 健康のための運動の大切さと楽しさを共有できるように講義する

No.	633	科目コード	66820
科目名	レクリエーション理論演習	授業コード	9314337
教員名	安部　惠子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．レクリエーションの理論と技術を習得し、実践することができる。 ２．個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を習得し、実践することができる。 ３．集団において良好な関係を築くための「姿勢・態度・行動」を習得することができる。		
授業概要	レクリエーションとは、人々のより良い人生のために「人としていきいきと楽しく豊かに生きること」を理念として様々な活動を行うことと考えられる。この授業では、レクリエーションや身体活動を「誰でも、いつでも、どこでも、楽しく」できるよう工夫し、支援や指導する方法を学ぶことを目的とする。		
授業計画	１）授業ガイダンス（授業の方針、進め方と評価方法、その他） トモダチ何人できるかな ２）コミュニケーション ３）学内サーキットトレーニング ４）コミュニケーション ５）コミュニケーション アイスブレーキングとレクリエーションゲーム ６）コミュニケーション アイスブレーキングとレクリエーションゲーム ７）コミュニケーション ⑤　ホスピタリティー理論と実践 ホスピタリティーの基礎知識 ８）コミュニケーション ホスピタリティー理論と実践 人間関係を良くするホスピタリティー ９）目的に合わせた活動 10）実用的な活動 11）レクリエーション 12）レクリエーション 13）レクリエーション 14）レクリエーション支援の実習 ①ファシリテーターの演習 15）レクリエーション支援の実習 ②ファシリテーターの演習		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	グループ討論と発表		
授業外学習	授業の振り返りと疑問点抽出		
教科書	特になし		
参考書	資料配布		
評価方法	①課題レポート（40 点） ②授業の取組状況（教員の問いかけに対して積極的に取り組むこと）（60 点）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	634	科目コード	60160
科目名	コンディショニング理論演習	授業コード	9324341
教員名	上田　真也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	1. スポーツコンディショニングを実践するための必要な知識と技術を身につける。 2. 目標にあったコンディショニング計画を立案し実践できる。		
授業概要	本授業は、生涯スポーツや競技スポーツの現場でベストなパフォーマンスを発揮するためのスポーツコンディショニングに関する知識や技術の習得を目的として講義や演習を行う。		
授業計画	1. ガイダンス(授業方針の説明) 2. ウォームアップとクールダウン 3. ストレッチングと柔軟体操の実際 4. コンディショニングを評価する 5. トレーニングとコンディショニング 6. トレーニングのプログラムデザイン 7. 演習（静的ストレッチと動的ストレッチ） 8. 演習（身体の機能評価） 9. 演習（アジリティトレーニング１） 10. 演習（アジリティトレーニング２） 11. メンタルコンディショニング 12. 栄養について 13. 休養について 14. スポーツ障害について 15. まとめ		
授業方法	講義とフィットネスセンターでの演習を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習を行う。		
授業外学習	毎回の授業で受けた講義内容を復習する。 日頃からスポーツコンディショニングについて興味を持つ。		
教科書	授業時に資料を配布する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業態度（４０％）、試験及びレポート（６０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	635	科目コード	60170
科目名	テーピング理論演習	授業コード	9316454
教員名	西本　正人		
授業種別	集中授業	授業形態	演習
開講間隔		単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	多数あるテーピングにおいて目的別に最適なものを選択することができる。 スポーツ外傷・障害に応じたテーピングを巻くことができる。		
授業概要	スポーツ指導者にとって欠かせない技術の１つであるテーピングは、スポーツ現場だけではなく臨床現場においても広く利用されている。テーピングにおいては商品も多種多用化しており、IT の普及により情報も入りやすい状況にある。しかしそのことにより正しい情報が現場に伝達されておらず、混乱を招いていることも多々ある。本演習ではテーピングの巻き方のみを覚えるのではなく、何のためにテーピングを用い、どのような動きを制限したいのかを解剖学的側面から解説し、様々な場面で応用できる技術の習得を目的とする。		
授業計画	1. テーピング総論（定義、目的、有効性、注意点、基本テープ） 2. 足部のテーピング 3. 足関節のテーピング 4. 下腿部のテーピング 5. 膝関節のテーピング 6. 大腿部のテーピング 7. 体幹（腰部）のテーピング 8. 肩（肩鎖関節）のテーピング 9. 肘関節のテーピング 10. 手関節のテーピング 11. 指関節のテーピング 12. アライメント修正のテーピング 13. 各種テーピングの方法（筋肉サポート　他） 14. 運動時におけるテーピングの役割（実技） 15. 種目特性に応じたテーピング		
授業方法	演習形式で行う なお、授業で使用するテーピング代として、１万円程度必要である。 詳細は、追って連絡する		
アクティブラーニングの視点	テーピングのより狙った部位がしっかりと固定されているか、直後に運動をして確認する。 初めて巻くと隙間やシワができてしまう。しかしそれ以上にポイントを理解していない方が実際には予防にはならないことを理解する。 テーピングの形式的なスキルだけではなく、一つ一つのテープの意味を知ることが重要である。一方的な説明やデモストレーションにならないよう、講義の最後にはリフレクションシートにより内容を振り返り、各自の理解力を確認し次のステップに行く準備する。		
授業外学習	授業の予習・復習をし、専門用語の理解をしておくこと。 スキルにおいてはポイントを復習することで短期間で上達する。		
教科書	社団法人メディカルフィットネス協会　テーピング（やさしいスチューデントトレーナーシリーズ）、2002 年		
参考書	すぐに使える即効テーピング 倉持　梨恵子 池田書店		
評価方法	実技試験（60%）、授業への参加度（40%）で評価する ＊但し、教科書を未購入の場合は実技試験を受けられないものとする。		

	*教科書を未購入がテスト終了後に発覚した場合には実技試験の点数は無効とする ＊パートナーと実習を行うため、３日間全て出席できることを条件とする。 （正当でない理由での欠席については減点が多く課せられる）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	インターハイ、国体、Ｖリーグなどトレーナー業務に携わった経験を持つ教員が、その経験を活かして競技やシチュエーションに応じたテーピングおよび怪我のメカニズムについて講義する。

No.	636	科目コード	66830
科目名	トレーニング理論演習	授業コード	9316450
教員名	小林　義樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．運動生理学の基礎理論を背景として、持久力、筋力、パワー、調整力といた各種体力要素のトレーニング及び生態に及ぼす効果について理解する。 ２．本講義の理解をふまえてメディカル・フィットネス協会認定「スチューデントトレーナー」資格取得を目指す。		
授業概要	発育発達の著しい児童期の筋・骨格は、大人のミニチュアではなく年齢ごとに特性がみられる。これらを理解した上で、トレーニングを実施しなければ望ましい成果は得られない。本講義では、各年齢における体の構造や体力要素の特性を学びリスク管理をした上での効果的なトレーニング方法を各種習得する。 特に、健康維持増進を目的とした運動処方およびアスリートとしてのトレーニング法の習得と指導法を学ぶことを目的とする。		
授業計画	１．トレーニングの原則（筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果） ２．運動への生理学的適応 ３．レジスタンストレーニング ４．スピードとアジリティの養成 ５．持久力トレーニング ６．コンカレントトレーニング ７．ピリオダイゼーション(期分け) ８．ウォームアップと柔軟性 ９．競技力評価のためのテスト法 １０．栄養とトレーニング １１．水分補給 １２．暑熱環境下における運動 １３．高地での運動 １４．オーバートレーニング １５．健康維持増進を目的とした運動処方（性・年齢などの諸条件を考慮した目標設定）		
授業方法	講義と実技、内容に応じて演習を交え学習する。		
アクティブラーニングの視点	ペアやグループによる協働学習を行う。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	特になし。必要に応じて、資料を配布する。		
参考書	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下） 健康運動実践指導者養成用テキスト　－ 健康運動指導の手引き －		
評価方法	小テスト 30%、発表点 20%、授業内テスト 50%とする。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	日米のさまざまなプロスポーツ（野球、アメフト、ラグビー等）で１０年ほど経験をし、現在もパーソナルトレーナーとして実務経験のある教員が、より実践的な観点からトレーナーに必要な知識を学習できる授業を行う。		

No.	637	科目コード	66830
科目名	トレーニング理論演習	授業コード	9324758
教員名	小林　義樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．運動生理学の基礎理論を背景として、持久力、筋力、パワー、調整力といた各種体力要素のトレーニング及び生態に及ぼす効果について理解する。 ２．本講義の理解をふまえてメディカル・フィットネス協会認定「スチューデントトレーナー」資格取得を目指す。		
授業概要	発育発達の著しい児童期の筋・骨格は、大人のミニチュアではなく年齢ごとに特性がみられる。これらを理解した上で、トレーニングを実施しなければ望ましい成果は得られない。本講義では、各年齢における体の構造や体力要素の特性を学びリスク管理をした上での効果的なトレーニング方法を各種習得する。 特に、健康維持増進を目的とした運動処方およびアスリートとしてのトレーニング法の習得と指導法を学ぶことを目的とする。		
授業計画	１．トレーニングの原則（筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果） ２．運動への生理学的適応 ３．レジスタンストレーニング ４．スピードとアジリティの養成 ５．持久力トレーニング ６．コンカレントトレーニング ７．ピリオダイゼーション(期分け) ８．ウォームアップと柔軟性 ９．競技力評価のためのテスト法 １０．栄養とトレーニング １１．水分補給 １２．暑熱環境下における運動 １３．高地での運動 １４．オーバートレーニング １５．健康維持増進を目的とした運動処方（性・年齢などの諸条件を考慮した目標設定）		
授業方法	講義と実技、内容に応じて演習を交え学習する。		
アクティブラーニングの視点	ペアやグループによる協働学習を行う。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	特になし。必要に応じて、資料を配布する。		
参考書	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下） 健康運動実践指導者養成用テキスト　－ 健康運動指導の手引き －		
評価方法	小テスト 30%、発表点 20%、授業内テスト 50%とする。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	日米のさまざまなプロスポーツ（野球、アメフト、ラグビー等）で１０年ほど経験をし、現在もパーソナルトレーナーとして実務経験のある教員が、より実践的な観点からトレーナーに必要な知識を学習できる授業を行う。		

No.	638	科目コード	66840
科目名	スポーツ栄養学	授業コード	9316563
教員名	成田　厚子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	食事の役割と重要性を理解し、スポーツ栄養学の基本とアスリートの栄養摂取と食生活との関係について正しい知識を学ぶ。		
授業概要	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の理論と実践方法を探っていく。		
授業計画	第１回 オリエンテーション スポーツ栄養学とは 第２回 栄養素と食品の基礎知識 ① 五大栄養素 第３回 栄養素と食品の基礎知識 ② 食品について 第４回 体内での消化・吸収・代謝について 第５回 エネルギー代謝について 第６回 コンディショニングのための栄養 自己管理 第７回 コンディショニングのための栄養 アスリートの食事 第８回 コンディショニングのための栄養 アスリートに必要な栄養素 第９回 コンディショニングのための栄養 スポーツ選手のサプリメント 第１０回 競技力向上のための栄養 水分の摂取について 第１１回 競技力向上のための栄養 試合期の食事について 第１２回 競技力向上のための栄養 減量と貧血について 第１３回 女性・ジュニア・アスリートにおける栄養・食事摂取の留意点 第１４回 スポーツ選手の栄養教育 第１５回 まとめ		
授業方法	講義形式にてスライドをプロジェクターにて映写して解説し、学生が同様の配布プリントに記入できるようにする。暗記だけでなく自分の体内で起こる現象や、実際の食生活に落とし込めるよう理解を促す。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートへの記入、グループワークと発表、小テスト		
授業外学習	毎授業前に前回講義内容を振り返り 1 時間以上の準備学習を行い、授業開始後に復習として口頭試問によって回答できるよう準備しておくこと。当該授業回で学習した内容は 1 時間以上復習し、プリントを参考にしながら、自分の言葉でポイントを箇条書きにしてまとめておくこと。		
教科書	無し		
参考書	樋口　満（著）『コンディショニングのスポーツ栄養学新版』　市村出版（2007 年）		
評価方法	期末試験（授業内）45%、授業内小テスト及びレポート 35%、積極的参加度 20% 授業内テストはすべて返却し、正答への詳細な理解を促す。授業への参加度は、教員からの口頭試問への回答とグループワークにおいて積極的な発言ができることを評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験を基に、理解を促す解説のポイントや資料作成のコツを指導する。またスポーツ現場での栄養指導経験を基に、食育やスポーツ栄養指導の知識だけでなく具体的な伝達方法、行動変容を促す投げかけ方なども指導する。		

No.	639	科目コード	66850
科目名	機能解剖学Ⅰ	授業コード	9316676
教員名	小林　義樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	1. ヒトの身体の形態および構造と機能について、理解する。 2. 掴む、握る、持つ、投げる、捕る、走るなどの運動動作を関節運動として理解する。		
授業概要	歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動は、関節を動かして行われる。その関節は、受動的運動器官である骨の可動結合である。総合形態を把握するために、各骨の構造・形態を理解する。その上、運動麻痺との関連を考え、末梢神経の総合的理解と共に、それぞれの筋を支配している１部の脳神経と脊髄神経について理解する。		
授業計画	第１回　全身の骨格 第２回　骨格の連結、関節構造 第３回　筋の総論 第４回　運動器を学ぶに必要な神経総論 第５回　上肢の構造と機能（１）肩甲帯１ 第６回　上肢の構造と機能（２）肩甲帯２ 第７回　上肢の構造と機能（３）肘・前腕 第８回　上肢の構造と機能（４）手・手関節 第９回　体幹の構造と機能（１）頭頸部 第１０回　体幹の構造と機能（２）脊柱 第１１回　下肢の構造と機能（１）股関節・大腿 第１２回　上肢の構造と機能（２）膝・下腿 第１３回　上肢の構造と機能（３）足関節 第１４回　上肢の構造と機能（４）足部 第１５回　全身運動の理解		
授業方法	講義形式で行うが、双方向の授業展開を心掛ける。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）を行う。		
授業外学習	授業の予習・復習をし、専門用語の理解をしておくこと。		
教科書	授業中に配布するプリント		
参考書	図解　関節・運動器の機能解剖　下肢編，協同医書出版社 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第３版　医学書院 筋骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社 好きになる解剖学・好きになる解剖学 Part２　竹内修二著　講談社		
評価方法	小レポート（４０%）、授業への参加度（３０%）、授業内テスト（４０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	日米のさまざまなプロスポーツ（野球、アメフト、ラグビー等）で１０年ほど経験をし、現在もパーソナルトレーナーとして実務経験のある教員が、より実践的な観点からトレーナーに必要な知識を学習できる授業を行う。		

No.	640	科目コード	66860
科目名	機能解剖学Ⅱ	授業コード	9324789
教員名	小林　義樹		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	(1) 体幹および下肢の運動器の形態および構造と機能について理解する。 (2) 立つ、歩く、走る、跳ぶなどの下肢の運動を解析することが出来る。		
授業概要	歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動は、関節を動かして行われる。その関節は、受動的運動器官である骨の可動結合である。総合形態を把握するために、各骨の構造・形態を理解する。		
授業計画	1. 解剖について（骨、靭帯、関節、筋肉、神経、他） 2. 解剖学的肢位、面、軸、動きについて 3. 解剖と外傷についての関連 4.　解剖と傷害評価法についての関連 5. 膝関節について　1 6. 膝関節について　2 7. 膝関節について　3 8. 下腿、足関節、足部について　1 9. 下腿、足関節、足部について　2 10. 下腿、足関節、足部について　3 11. 骨盤と股関節について　1 12. 骨盤と股関節について　2 13. 骨盤と股関節について　3 14. 腰部と胸椎について　1 15. 腰部と胸椎について　2		
授業方法	講義形式で行うが、双方向の授業展開を心掛ける。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）を行う。		
授業外学習	授業の予習・復習をし、専門用語の理解をしておくこと。		
教科書	授業中に配布するプリント		
参考書	図解　関節・運動器の機能解剖　下肢編，協同医書出版社 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第 3 版　医学書院 筋骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社 好きになる解剖学・好きになる解剖学 Part２　竹内修二著　講談社		
評価方法	小レポート（４０%）、授業への参加度（３０%）、授業内テスト（４０%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	本授業担当者は、日米のさまざまなプロスポーツ（野球、アメフト、ラグビー等）で１０年ほど経験をし、現在もパーソナルトレーナーとして実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からトレーナーに必要な知識を学習できるものとする。		

No.	641	科目コード	66870
科目名	障害者スポーツ演習	授業コード	9324902
教員名	角正　真之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・障害者のスポーツの歴史と現状や「障害」に関する基本的な知識を養い、障害者のスポーツの捉え方を理解できる。 ・障害のない人を含めた生涯スポーツとして、様々なステージにおける障害のある人々のスポーツ活動の意義について説明できる。		
授業概要	①障害者のスポーツの意義、歴史、現状を通して、障害者のスポーツの捉え方を概説する。 ②障害者の福祉施策や障害（身体・知的・精神）とスポーツについて解説する。 ③障害者の優先スポーツ施設や競技会等について解説する。 ④障害に応じたスポーツの工夫の実際を解説し、グループワーク等で考える。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（講義目的と評価法について） 第２回　障害者のスポーツの意義 第３回　障害者のスポーツの歴史と現状 第４回　身体障害の理解とスポーツ１（障がい者の区分による運動能力の特徴） 第５回　身体障害の理解とスポーツ２（障がい者の身体活動の現状と課題） 第６回　知的障害の理解とスポーツ 第７回　精神障害の理解とスポーツ 第８回　障害者のスポーツ体験１ 第９回　障害者のスポーツ体験２ 第１０回　障害者福祉施策とスポーツ 第１１回　リハビリテーションとスポーツ 第１２回　障害者のスポーツ組織、競技会、施設 第１３回　地域における障害者のスポーツの実際 第１４回　障害に応じたスポーツの工夫（グループワーク） 第１５回　まとめ及びグループでの発表		
授業方法	授業内容により、講義、実技、グループワークを行う。		
アクティブラーニングの視点	毎授業の締めくくりに学生間による振り返りを行い、共有する。また、授業内容によってはグループワークを行い、役割分担・発表を通して、主体的な取り組みとする。		
授業外学習	第２回以降、各講義内容に沿った課題を出す。		
教科書	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	・レポート　７０％ ・授業への積極的参加度　３０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪市長居障がい者スポーツセンターでの勤務経験を有する教員が、障害者のスポーツ活動の実際を例示しながら講義を展開する。		

No.	642	科目コード	66880
科目名	健康運動指導論	授業コード	9324015
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	健康増進を目的とした有酸素運動について、その生理学的基礎理論と、具体的な運動効果について理解する。また、最新の研究論文を基に、有酸素運動の効果を理解する。		
授業概要	本講義では，各年齢における体の構造や体力要素の特性を基に，健康増進のための運動について考える。また、リスク管理をした上での効果的なトレーニング方法を各種習得する。また、健康運動指導に関する最新の研究論文から、その効果や有効性を考える。		
授業計画	１．運動指導の心理学的基礎 ２．健康づくり運動の実際（ストレッチング）① ３．健康づくり運動の実際（ストレッチング）② ４．レジスタンスエクササイズ①（自体重、器具を利用した方法と安全） ５．レジスタンスエクササイズ②（対象者のニーズや身体状況に応じた方法と安全） ６．レジスタンスエクササイズ③（高齢者の自立に必要な筋力を維持・向上させるための方法と安全） ７．肥満者における有酸素運動の効果 ８．有酸素運動による脳機能への影響 ９．有酸素運動中の呼吸循環器系の変化 １０．健康づくり運動の実際（ウォーキング①） １１．健康づくり運動の実際（ウォーキング②） １２．健康づくり運動の実際（ジョギング①） １３．健康づくり運動の実際（ジョギング②） １４．介護予防と運動　① １５．介護予防と運動　②		
授業方法	講義と実技を行う		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、実習ノートの作成		
授業外学習	授業ごとで実施した内容の方法と注意事項をまとめる。		
教科書	授業内で資料を提示します。		
参考書	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士養成講習会テキスト（上） 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士養成講習会テキスト（下） ※「健康運動指導士」資格試験を受験する方は、上記テキスト購入を推奨します。購入希望の方は教務グループにお問合せ下さい。		
評価方法	授業への参加度 30%　授業内課題および確認テスト 70%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校管理職としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政、地域スポーツ指導等の経験を活かし、健康運動指導論について演習と講義をする		

No.	643	科目コード	66890
科目名	スポーツコーチング論	授業コード	9324128
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	1. 学校教育現場や社会教育現場における効果的なコーチング法を理解する。 2. 技術面、精神面など向上させるためのプログラムの立案の考え方を理解する。 3. 生涯学習を実現するための指導の在り方等も考える。		
授業概要	学校教育現場や社会教育現場における効果的なコーチング法や、技術面、精神面など向上させるためのプログラムの立案の考え方について学ぶ。また、生涯学習を実現するための指導の在り方等も考えさせる。さらに多方面から指導者を考察し、コーチングの在り方を追求する。		
授業計画	第１回 コーチングとは（スポーツ指導者の必要性） 第２回 コーチの倫理（暴力・ハラスメントの根絶） 第３回 コーチの果たすべき役割 第４回 コーチに求められる知識とスキル 第５回 対人スキルを磨こう①（コミュケーションスキル・リーダーシップスキル） 第６回 対人スキルを磨こう②（プレゼンテーションスキル・ファシリテーションスキル） 第７回 対自己スキルを磨こう①（コーチの学び・セルフマネジメント） 第８回 対自己スキルを磨こう②（さまざまな思考法や伝達法） 第９回 コーチング環境の特徴①（ジュニア期のコーチングの留意点） 第１０回 コーチング環境の特徴②（運動部活動の留意点） 第１１回 コーチング環境の特徴③（中高年者へのコーチングの留意点） 第１２回 コーチング環境の特徴④（遺伝の影響・性別の考慮） 第１３回 ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 第１４回 ハイパフォーマンススポーツとは何か 第１５回 今後望まれるコーチングの在り方		
授業方法	講義形式で行う。【一部オンライン授業（リアルタイム配信型）も可能性あり】		
アクティブラーニングの視点	自己の運動経験を積極的に発話させ、他者と対話する。		
授業外学習	授業の予習・復習を行う。 コーチングに関する文献を読む。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	日本コーチング学会 編集『コーチング学への招待』大修館書店（2017） 日本コーチング学会 編集『球技のコーチング学』大修館書店（2019）		
評価方法	授業参加貢献度…30％ 毎回の授業で提出するミニレポート…20% 試験・レポート…50％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	644	科目コード	66900
科目名	アスレティックリハビリテーション理論演習	授業コード	9324241
教員名	小林　義樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．スポーツ傷害を理解する。 ２．運動療法の種類、手技を理解する。 ３．アスレティックリハビリテーションの段階的アプローチを理解する。		
授業概要	リハビリテーションには、日常生活動作の自立を目的とした「メディカルリハビリテーション」と、競技者のスポーツ復帰を目的とした「アスレティックリハビリテーション」がある。本講義では、リハビリテーションに関する基本的な知識や技術を学び、スポーツ指導者としての資質を高めることを目的としている。「機能解剖学Ⅰ」および「機能解剖学Ⅱ」を既習済であることが望ましい。		
授業計画	1　アスレティックトレーナーの役割について 2　外傷について 3　傷害評価について 4　アスレチックリハビリテーションについて 5　初期治療の重要性と R.I.C.E.について 6.　可動域確保　実際 7　可動域確保　実際 8　可動域確保　実際 9　徒手抵抗運動　実際 10. 徒手抵抗運動　実際 11. 徒手抵抗運動　実際 12. 自重運動　実際 13. 自重運動　実際 14. 自重運動　実際 15. リハビリテーションプログラム統合の実際		
授業方法	講義および演習方式で行う。 必要に応じて、運動ができる服装を指示する。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）を行う。		
授業外学習	適宜指示する。		
教科書	授業中に配布するプリント		
参考書	日本体育協会後任アスレティックトレーナー専門科目テキスト第 7 巻アスレティックリハビリテーション　文光堂 アスレティック・リハビリテーション（やさしいスチューデントトレーナーシリーズ（7））　嵯峨野書院		
評価方法	小テスト 50%、授業内テスト 50%で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	本授業担当者は、日米のさまざまなプロスポーツ（野球、アメフト、ラグビー等）で１０年ほど経験をし、現在もパーソナルトレーナーとして実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からトレーナーに必要な知識を学習できるものとする。		

No.	645	科目コード	66910
科目名	運動生理学演習	授業コード	9316251
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	運動生理学実験をとおして、運動負荷によって一過性に機能がどう変化し、回復するかを理解する。また、生理機能のしくみと生活習慣病を予防する運動処方の基礎理論を理解する。さらに、実験を通して結果、考察、まとめ方を学ぶ		
授業概要	メディカルチェックの目的は、運動実施中の危険を予防し、また運動の効果を十分に発揮できるような運動指導ができるように身体各臓器の状態を検査することである。本演習では、運動負荷試験等、運動の可否を決定する上で必要な専門的な検査法を学び、そこで得られたデータを基に、適切な運動療法のプログラムの作成を行うとともに、運動の実践能力を養うことを目的としている。		
授業計画	1.体組成、形態測定と健康管理 2. 運動のためのメディカルチェック　運動と血圧測定 3. 心電図の基礎と記録法（安静時心電図の読み方） 4. 運動負荷試験の概説Ⅰ（酸素摂取量の測定実習・トレッドミル） 5. 運動負荷試験の概説Ⅱ（酸素摂取量の測定実習・バイク） 6. 運動負荷試験の概説Ⅲ（血中乳酸の測定） 7. 運動負荷試験の概説Ⅳ（血糖値の測定） 7. 骨密度測定と健康管理 8. 機能測定（重心・バランス能力測定） 9. 機能測定（脚筋力・神経系・反応時間測定） 10. エネルギー消費量の測定 11. 運動プログラム作成の理論 12. 運動プログラミング実習Ⅰ（包括的プログラム作成） 13. 運動プログラミング実習Ⅱ（過体重（肥満）・肥満症と高血糖・糖尿病） 14. 運動プログラミング実習Ⅲ（高血圧と脂質異常症） 15. 運動プログラミング実習Ⅳ（ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患）		
授業方法	実験及び演習形式		
アクティブラーニングの視点	運動負荷試験の検者として、測定者への指示、記録、安全管理を行うため、 自発的に安全に配慮した行動が求められる。		
授業外学習	適時レポート課題を課す。		
教科書	特になし		
参考書	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下） 健康運動実践指導者養成用テキスト　－ 健康運動指導の手引き －		
評価方法	授業への取り組み 50%、レポート試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	646	科目コード	66920
科目名	生活習慣病論	授業コード	9316263
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	成人病、小児成人病の疾病概念が、生活習慣病という疾病概念に統一され、生活習慣に基づく疾病として理解されるようになった。現代社会における健康問題は、生活習慣病、つまりがんや高血圧、糖尿病、脂質異常症が主たるものであるが、生活習慣の改善によって予防が可能であることを理解し、個人的対応、ポピュレーションアプローチなどが有効であることを理解する。		
授業概要	生活習慣病の疾病概念を理解するとともに、個々の生活習慣病について理解を深める。		
授業計画	第１回：生活習慣病概論（１）　加齢に伴う各種疾患（生活習慣病と運動器疾患）　（担当：原田） 第２回：生活習慣病概論（２）　小児成人病から生活習慣病へ　（担当：原田） 第３回：服薬者の運動　（担当：原田） 第４回：循環器疾患について（１）高血圧　（担当：原田） 第５回：循環器疾患について（２）虚血性心疾患とリハビリテーション　（担当：原田） 第６回：代謝内分泌疾患について（１）肥満　（担当：入江） 第７回：代謝内分泌疾患について（２）糖尿病　（担当：入江） 第８回：代謝内分泌疾患について（３）脂質異常　（担当：入江） 第９回：代謝内分泌疾患について（４）高尿酸血症・痛風　（担当：入江） 第 10 回：呼吸器疾患について（COPD・運動誘発性喘息等）　（担当：原田） 第 11 回：悪性腫瘍について（１）　悪性腫瘍とは　（担当：入江） 第 12 回：悪性腫瘍について（２）　悪性腫瘍の予防　（担当：入江） 第 13 回：メタボリックシンドロームについて　（担当：入江） 第 14 回：ロコモティブシンドローム　（担当：入江） 第 15 回：軽度認知障害、認知症について　（担当：原田）		
授業方法	配布資料による授業		
アクティブラーニングの視点	各授業において課題を提示し、デイスカッションを取り入れながら、個別の理解を深める		
授業外学習	逐次課題を提示し、次回の授業で提出を求める		
教科書	指定なし		
参考書	まるごとわかる！生活習慣病　（板根直樹著　南山堂）		
評価方法	授業への参加度２０％、授業中に行う小課題へのレポート 30%、全体を通してのレポート 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	医療経験のある医師が授業を担当する		

No.	647	科目コード	66590
科目名	保健体育科教育法１	授業コード	9300013
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	2	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	学習指導要領の歴史的変遷を学び、その時代に求められてきた保健体育を取り巻く実情を理解する。また、保健体育科教育に求められる安全でかつ運動に親しむ能力を高め、心身の健康の増進を図り、体力の向上を意識した理論を学ぶとともに、具体的な各運動領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第１回　学習指導要領の内容把握 第２回　学習指導要領の歴史的変遷 第３回　学習指導要領の特性 第４回　学習指導要領の制度的側面 第５回　学習指導要領の目標 第６回　保健体育科教育の歴史的変遷と子どもたちの現状 第７回　保健体育科教育の目標とねらい 第８回　保健体育科教育の内容と指導上の留意点 第９回　学習指導計画の作成 第 10 回　単元計画の作成 第 11 回　指導案の作成 第 12 回　発達段階に応じた設計の方法 第 13 回　学習評価について 第 14 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体つくり運動：体ほぐし運動） 第 15 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体つくり運動：体力を高める運動） 第 16 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：マット運動） 第 17 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：跳び箱運動） 第 18 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：走運動） 第 19 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：跳運動） 第 20 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：投運動） 第 21 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（水泳） 第 22 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ゴール型） 第 23 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ネット型） 第 24 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ベースボール型） 第 25 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（武道：柔道） 第 26 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（ダンス） 第 27 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体育理論） 第 28 回　集団行動の理解、情報機器の活用法 第 29 回　教科外における保健体育科活動、日本のスポーツ関連の法律や施策 第 30 回　保健体育科教員に求められる資質と能力		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業はグループ学習による調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために校種、学年、領域毎に内容をまとめて復習しておくこと。また、グループによる指導案作成と模擬授業後のリフレクションのグループ討議を		

	行う。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	高橋健夫ほか　「体育科教育学入門」　　大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 　尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	648	科目コード	66590
科目名	保健体育科教育法１	授業コード	9300023
教員名	春名秀子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	2	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	学習指導要領の歴史的変遷を学び、その時代に求められてきた保健体育を取り巻く実情を理解する。また、保健体育科教育に求められる安全でかつ運動に親しむ能力を高め、心身の健康の増進を図り、体力の向上を意識した理論を学ぶとともに、具体的な各運動領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第１回　学習指導要領の内容把握 第２回　学習指導要領の歴史的変遷 第３回　学習指導要領の特性 第４回　学習指導要領の制度的側面 第５回　学習指導要領の目標 第６回　保健体育科教育の歴史的変遷と子どもたちの現状 第７回　保健体育科教育の目標とねらい 第８回　保健体育科教育の内容と指導上の留意点 第９回　学習指導計画の作成 第 10 回　単元計画の作成 第 11 回　指導案の作成 第 12 回　発達段階に応じた設計の方法 第 13 回　学習評価について 第 14 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体つくり運動：体ほぐし運動） 第 15 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体つくり運動：体力を高める運動） 第 16 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：マット運動） 第 17 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：跳び箱運動） 第 18 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：走運動） 第 19 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：跳運動） 第 20 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：投運動） 第 21 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（水泳） 第 22 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ゴール型） 第 23 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ネット型） 第 24 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ベースボール型） 第 25 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（武道：柔道） 第 26 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（ダンス） 第 27 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体育理論） 第 28 回　集団行動の理解、情報機器の活用法 第 29 回　教科外における保健体育科活動、日本のスポーツ関連の法律や施策 第 30 回　保健体育科教員に求められる資質と能力		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業はグループ学習による調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために校種、学年、領域毎に内容をまとめて復習しておくこと。また、グループによる指導案作成と模擬授業後のリフレクションのグループ討議を		

	行う。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	高橋健夫ほか　「体育科教育学入門」　　大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 　尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	649	科目コード	66590
科目名	保健体育科教育法１	授業コード	9300033
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	2	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	学習指導要領の歴史的変遷を学び、その時代に求められてきた保健体育を取り巻く実情を理解する。また、保健体育科教育に求められる安全でかつ運動に親しむ能力を高め、心身の健康の増進を図り、体力の向上を意識した理論を学ぶとともに、具体的な各運動領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第１回　学習指導要領の内容把握 第２回　学習指導要領の歴史的変遷 第３回　学習指導要領の特性 第４回　学習指導要領の制度的側面 第５回　学習指導要領の目標 第６回　保健体育科教育の歴史的変遷と子どもたち現状 第７回　保健体育科教育の目標とねらい 第８回　保健体育科教育の内容と指導上の留意点 第９回　学習指導計画の作成 第 10 回　単元計画の作成 第 11 回　指導案の作成 第 12 回　発達段階に応じた設計の方法 第 13 回　学習評価について 第 14 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体つくり運動：体ほぐし運動） 第 15 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体つくり運動：体力を高める運動） 第 16 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：マット運動） 第 17 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：跳び箱運動） 第 18 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：走運動） 第 19 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：跳運動） 第 20 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：投運動） 第 21 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（水泳） 第 22 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ゴール型） 第 23 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ネット型） 第 24 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ベースボール型） 第 25 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（武道：柔道） 第 26 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（ダンス） 第 27 回　模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体育理論） 第 28 回　集団行動の理解、情報機器の活用法 第 29 回　教科外における保健体育科活動、日本のスポーツ関連の法律や施策 第 30 回　保健体育科教員に求められる資質と能力		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業はグループ学習による調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、共同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために校種、学年、領域毎に内容をまとめて復習しておくこと。また、グループによる指導案作成と模擬授業後のリフレクションのグループ討議を		

	行う。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	「体育科教育学入門」　高橋健夫ほか　大修館書店，2013 中学校・高等学校学習指導要領　保健体育科編＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数・提出期日等）20% 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、保健体育科教育法について演習と講義をする。

No.	650	科目コード	66600
科目名	保健体育科教育法２	授業コード	9316763
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	保健体育科教育法 1 で学習した知識や技能をもとに、更に総合的、実践的に理解を深める。発達段階に応じた学校種の連携を考慮し、時に中学校･高等学校における保健体育科教育に求められる人間性の向上や、心身ともに安全で健康的な生活を自ら行うために、生涯につながる理論と実践を学び、保健体育科教員としての各領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第 1 回　学習指導要領の主旨と法的根拠 第 2 回　学習指導要領の歴史的変遷と特性 第 3 回　保健体育科の教科の目標及び内容 第 4 回　科目体育、及び科目保健の目標と教材研究の実際 第 5 回　科目体育、及び科目保健の内容と指導上の留意点 第 6 回　科目保健の指導案作成と教材作り 第 7 回　学習評価について（目標に対する評価） 第 8 回　学習評価について（具体的な評価基準と評価の種類） 第 9 回　学習評価について（振り返りの意義と方法） 第 10 回　健康と安全、健康についての課題解決と生涯体育の必要性 第 11 回　情報機器を用いた指導案の作成（健康な生活と疾病の予防） 第 12 回　模擬授業の実施（健康の成り立ちと疾病の発生要因） 第 13 回　リフレクションと指導案の作成 第 14 回　模擬授業の実施（生活習慣と健康） 第 15 回　リフレクションと指導案の作成 第 16 回　模擬授業の実施（感染症の予防） 第 17 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（心身の機能の発達と心の健康） 第 18 回　模擬授業の実施（生殖に関わる機能の成熟） 第 19 回　リフレクションと指導案の作成 第 20 回　模擬授業の実施（欲求とストレスへの対処） 第 21 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（傷害の防止） 第 22 回　模擬授業の実施（交通事故の防止） 第 23 回　リフレクションと指導案の作成 第 24 回　模擬授業の実施（応急手当） 第 25 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（健康と環境） 第 26 回　模擬授業の実施（水・空気・土壌の衛生管理） 第 27 回　リフレクションと指導案の作成 第 28 回　模擬授業の実施（廃棄物の処理） 第 29 回　リフレクションと模擬授業の全体評価 第 30 回　保健体育科における学校種の連携と各領域の連携		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業は指導案作成のための教材作り等の調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために中学校と高等学校の校種の違いによる内容と深さの違いを確認しておくこと。また、採用試験の勉強を兼ねて科目保健の教科書について事前		

	学習をしておくこと。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	後藤幸弘ほか　　「内容学と架橋する保健体育科教育論」　晃洋書房，2012 高橋健夫ほか　　「体育科教育学入門」　大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 　尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	保健体育科教育法１
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	651	科目コード	66600
科目名	保健体育科教育法２	授業コード	9316773
教員名	乾　　匡		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	保健体育科教育法 1 で学習した知識や技能をもとに、更に総合的、実践的に理解を深める。発達段階に応じた学校種の連携を考慮し、時に中学校･高等学校における保健体育科教育に求められる人間性の向上や、心身ともに安全で健康的な生活を自ら行うために、生涯につながる理論と実践を学び、保健体育科教員としての各領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第 1 回　学習指導要領の主旨と法的根拠 第 2 回　学習指導要領の歴史的変遷と特性 第 3 回　保健体育科の教科の目標及び内容 第 4 回　科目体育、及び科目保健の目標と教材研究の実際 第 5 回　科目体育、及び科目保健の内容と指導上の留意点 第 6 回　科目保健の指導案作成と教材作り 第 7 回　学習評価について（目標に対する評価） 第 8 回　学習評価について（具体的な評価基準と評価の種類） 第 9 回　学習評価について（振り返りの意義と方法） 第 10 回　健康と安全、健康についての課題解決と生涯体育の必要性 第 11 回　情報機器を用いた指導案の作成（健康な生活と疾病の予防） 第 12 回　模擬授業の実施（健康の成り立ちと疾病の発生要因） 第 13 回　リフレクションと指導案の作成 第 14 回　模擬授業の実施（生活習慣と健康） 第 15 回　リフレクションと指導案の作成 第 16 回　模擬授業の実施（感染症の予防） 第 17 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（心身の機能の発達と心の健康） 第 18 回　模擬授業の実施（生殖に関わる機能の成熟） 第 19 回　リフレクションと指導案の作成 第 20 回　模擬授業の実施（欲求とストレスへの対処） 第 21 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（傷害の防止） 第 22 回　模擬授業の実施（交通事故の防止） 第 23 回　リフレクションと指導案の作成 第 24 回　模擬授業の実施（応急手当） 第 25 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（健康と環境） 第 26 回　模擬授業の実施（水・空気・土壌の衛生管理） 第 27 回　リフレクションと指導案の作成 第 28 回　模擬授業の実施（廃棄物の処理） 第 29 回　リフレクションと模擬授業の全体評価 第 30 回　保健体育科における学校種の連携と各領域の連携		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業は指導案作成のための教材作り等の調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために中学校と高等学校の校種の違いによる内容と深さの違いを確認しておくこと。また、採用試験の勉強を兼ねて科目保健の教科書について事前		

	学習をしておくこと。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」　㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	後藤幸弘ほか　　「内容学と架橋する保健体育科教育論」　晃洋書房，2012 高橋健夫ほか　　「体育科教育学入門」　大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 　尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	保健体育科教育法１
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

No.	652	科目コード	66600
科目名	保健体育科教育法２	授業コード	9316783
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	保健体育科教育法 1 で学習した知識や技能をもとに、更に総合的、実践的に理解を深める。発達段階に応じた学校種の連携を考慮し、時に中学校･高等学校における保健体育科教育に求められる人間性の向上や、心身ともに安全で健康的な生活を自ら行うために、生涯につながる理論と実践を学び、保健体育科教員としての各領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第 1 回　学習指導要領の主旨と法的根拠 第 2 回　学習指導要領の歴史的変遷と特性 第 3 回　保健体育科の教科の目標及び内容 第 4 回　科目体育、及び科目保健の目標と教材研究の実際 第 5 回　科目体育、及び科目保健の内容と指導上の留意点 第 6 回　科目保健の指導案作成と教材作り 第 7 回　学習評価について（目標に対する評価） 第 8 回　学習評価について（具体的な評価基準と評価の種類） 第 9 回　学習評価について（振り返りの意義と方法） 第 10 回　健康と安全、健康についての課題解決と生涯体育の必要性 第 11 回　情報機器を用いた指導案の作成（健康な生活と疾病の予防） 第 12 回　模擬授業の実施（健康の成り立ちと疾病の発生要因） 第 13 回　リフレクションと指導案の作成 第 14 回　模擬授業の実施（生活習慣と健康） 第 15 回　リフレクションと指導案の作成 第 16 回　模擬授業の実施（感染症の予防） 第 17 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（心身の機能の発達と心の健康） 第 18 回　模擬授業の実施（生殖に関わる機能の成熟） 第 19 回　リフレクションと指導案の作成 第 20 回　模擬授業の実施（欲求とストレスへの対処） 第 21 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（傷害の防止） 第 22 回　模擬授業の実施（交通事故の防止） 第 23 回　リフレクションと指導案の作成 第 24 回　模擬授業の実施（応急手当） 第 25 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（健康と環境） 第 26 回　模擬授業の実施（水・空気・土壌の衛生管理） 第 27 回　リフレクションと指導案の作成 第 28 回　模擬授業の実施（廃棄物の処理） 第 29 回　リフレクションと模擬授業の全体評価 第 30 回　保健体育科における学校種の連携と各領域の連携		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業は指導案作成のための教材作り等の調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために中学校と高等学校の校種の違いによる内容と深さの違いを確認しておくこと。また、採用試験の勉強を兼ねて科目保健の教科書について事前		

	学習をしておくこと。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	後藤幸弘ほか　「内容学と架橋する保健体育科教育論」　晃洋書房，2012 高橋健夫ほか　「体育科教育学入門」　大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 　尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	保健体育科教育法１
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、保健体育科教育法について演習と講義をする。

No.	653	科目コード	66600
科目名	保健体育科教育法２	授業コード	9316793
教員名	加島　良彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週２回	単位数	4
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 そのために、以下の各目標を掲げる。 (1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。 (2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	保健体育科教育法１で学習した知識や技能をもとに、更に総合的、実践的に理解を深める。発達段階に応じた学校種の連携を考慮し、時に中学校･高等学校における保健体育科教育に求められる人間性の向上や、心身ともに安全で健康的な生活を自ら行うために、生涯につながる理論と実践を学び、保健体育科教員としての各領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。		
授業計画	第１回　学習指導要領の主旨と法的根拠 第２回　学習指導要領の歴史的変遷と特性 第３回　保健体育科の教科の目標及び内容 第４回　科目体育、及び科目保健の目標と教材研究の実際 第５回　科目体育、及び科目保健の内容と指導上の留意点 第６回　科目保健の指導案作成と教材作り 第７回　学習評価について（目標に対する評価） 第８回　学習評価について（具体的な評価基準と評価の種類） 第９回　学習評価について（振り返りの意義と方法） 第 10 回　健康と安全、健康についての課題解決と生涯体育の必要性 第 11 回　情報機器を用いた指導案の作成（健康な生活と疾病の予防） 第 12 回　模擬授業の実施（健康の成り立ちと疾病の発生要因） 第 13 回　リフレクションと指導案の作成 第 14 回　模擬授業の実施（生活習慣と健康） 第 15 回　リフレクションと指導案の作成 第 16 回　模擬授業の実施（感染症の予防） 第 17 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（心身の機能の発達と心の健康） 第 18 回　模擬授業の実施（生殖に関わる機能の成熟） 第 19 回　リフレクションと指導案の作成 第 20 回　模擬授業の実施（欲求とストレスへの対処） 第 21 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（傷害の防止） 第 22 回　模擬授業の実施（交通事故の防止） 第 23 回　リフレクションと指導案の作成 第 24 回　模擬授業の実施（応急手当） 第 25 回　リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（健康と環境） 第 26 回　模擬授業の実施（水・空気・土壌の衛生管理） 第 27 回　リフレクションと指導案の作成 第 28 回　模擬授業の実施（廃棄物の処理） 第 29 回　リフレクションと模擬授業の全体評価 第 30 回　保健体育科における学校種の連携と各領域の連携		
授業方法	学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業は指導案作成のための教材作り等の調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等		
授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために中学校と高等学校の校種の違いによる内容と深さの違いを確認しておくこと。また、採用試験の勉強を兼ねて科目保健の教科書について事前		

	学習をしておくこと。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育　2022」 大畑昌己　「保健体育指導法（中学校･高等学校)」㈱ERP 2017 大修館書店「新高等保健体育（保体 702)」 大修館書店「2021 年度版　最新中学校保健体育（保体 703)」
参考書	後藤幸弘ほか　「内容学と架橋する保健体育科教育論」　晃洋書房，2012 高橋健夫ほか　「体育科教育学入門」　大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成　50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	保健体育科教育法１
実務経験のある教員による授業	公立学校の教諭、管理職及びスポーツ行政、教育委員会の指導主事等の経験を活かして、保健体育科教育についての指導をする。

No.	654	科目コード	67510
科目名	養護概論	授業コード	9316936
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	・歴史的な背景も含めて、養護の概念と養護教諭の専門性を理解する。 ・養護活動の基礎について学び、養護教諭の職務と役割を説明できる。 ・子どもの健康実態や養護教諭の課題を把握し、考察することができる。		
授業概要	養護に関する総論として、養護の概念や養護教諭の専門性、法的根拠、歴史的背景などを講義した上で養護教諭としての実際の活動を具体的に示す。		
授業計画	第 01 回：オリエンテーション、養護の概念 第 02 回：養護教諭の歴史的変遷 第 03 回：養護教諭の職務と役割 第 04 回：学校保健活動と学校安全活動 第 05 回：養護教諭に求められる資質・能力 第 06 回：養護活動①　保健室経営 第 07 回：養護活動②　健康課題の把握と健康観察 第 08 回：養護活動③　健康診断 第 09 回：養護活動④　健康相談活動 第 10 回：養護活動⑤　救急処置 第 11 回：養護活動⑥　疾病予防・感染症予防と保健管理 第 12 回：養護活動⑦　保健教育（保健学習と保健指導） 第 13 回：養護活動⑧　組織との連携 第 14 回：養護活動⑨　学校環境衛生検査 第 15 回：養護教諭に関する諸課題（評価のあり方含む） 期末試験		
授業方法	講義形式を基本としてグループワークや演習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	グループワークやペアトークの実施、ピアサポート学習を導入し、振り返りシートの作成・活用による協同的な学びの時間を重視する。		
授業外学習	予習としてテキストの該当する章を読んで、教育用語を確認しておく。 講義内容について、定期的に復習課題を示し、配布プリントなどを用いて整理する。 課題は授業中に告知した期日に提出する。		
教科書	『新養護概説　第 11 版』，少年写真新聞社，2022 年 3 月		
参考書	『新訂版　学校保健実務必携（第５次改訂版）』，第一法規，2020 年 4 月		
評価方法	授業への参加度及び課題　50％　、期末試験　50％ 授業への参加度は、教員からの質問などに応じて的確に回答することを標準とし、 積極的な発言をより高く評価する。 授業内に出題した課題や試験については確認後、振り返りを行う。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における長期の養護教諭経験がある者が、その経験を活かして各テーマに係わる養護活動や症例別に体験事例を交えて指導する。		

No.	655	科目コード	67520
科目名	健康相談活動	授業コード	9324150
教員名	錦川　由美		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	養護教諭の職務及び保健室の機能を生かした健康相談活動の基本的な理論と方法について理解する。		
授業概要	養護教諭が行う健康相談活動の基本的な理論と方法について講義する。また、児童生徒等の心身の健康課題に応じた健康相談活動の実際と支援方法について演習する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション、導入 第２回　学校における健康相談活動のとらえ方 第３回　健康相談活動の重要性と法的根拠 第４回　健康相談活動に関連する基礎知識 第５回　発達段階に応じた心身の健康問題の特徴と理解①幼児期 第６回　発達段階に応じた心身の健康問題の特徴と理解②学童期 第７回　発達段階に応じた心身の健康問題の特徴と理解③思春期 第８回　事例検討① 第９回　養護教諭が行う健康相談活動の基本的なプロセス 第１０回　健康相談活動とヘルスアセスメント 第１１回　養護教諭の職務の特質を生かした支援 第１２回　保健室の機能を生かした支援 第１３回　校内における連携・協働による支援 第１４回　連携・協働における専門家の理解 第１５回　事例検討②		
授業方法	講義・演習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	事例検討ではケースメソッドの方法論を取り入れる。学生にはケースを事前に配布して読ませ、検討するべき観点に応じた内容について主体的に協議に参加し検討させる。学生が能動的に関連事項を学習することで事例検討が成立するよう授業設計する。		
授業外学習	予習として、事前に配布された資料を読んでおくこと。 復習として、指示されたテーマについて次週までに自分の意見をまとめておくこと。		
教科書	適宜、資料を配付		
参考書	新訂　養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際／三木とみ子・徳山美智子　ぎょうせい		
評価方法	評価方法とその割合 ・授業への参加度（３０％）：出席状況及び演習への主体的な参加状況 ・２回の筆記テスト（７０％）：予定では第８回及び第１５回に筆記テストを実施する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験がある者が、その実務経験を活かして、より子どもへの支援の実際が理解されるように工夫し、学校現場で実践される養護教諭による健康相談活動について理解できるように、具体的及び実践的な授業を行う。		

No.	656	科目コード	67530
科目名	栄養学	授業コード	9316171
教員名	宇佐見　美佳		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	健康の保持増進における栄養成分の役割、代謝と生理的意義を正しく理解し、ライフステージ別の栄養問題をとらえ、基本的な知識や考え方を修得する。		
授業概要	栄養素の体内での消化・吸収、身体活動に伴う生理的変化やライフステージ別の栄養状態について講義する。必要に応じて具体的事例や簡単な課題にも取り組ませる。		
授業計画	第１回：　オリエンテーション　ライフステージ別の栄養学が目指すもの 第２回：　健康と栄養について 第３回：　栄養素と食品について 第４回：　栄養素の消化・吸収・代謝について（炭水化物・タンパク質・脂質） 第５回：　栄養素の消化・吸収・代謝について（無機質・ビタミン） 第６回：　エネルギー代謝について 第７回：　栄養素の体内運命について 第８回：　栄養・食事アセスメント（低栄養対策を含む） 第９回：　栄養・食事指導の基本(1)(食事摂取基準) 第１０回：栄養・食事指導の基本(2)(食事バランスガイド) 第１１回：身体活動量の定量法とその実際 第１２回：ライフステージにおける栄養（乳幼児期・学童期・思春期） 第１３回：ライフステージにおける栄養（成人期・高齢期） 第１４回：生活環境と栄養について 第１５回：現代社会の食と栄養 期末試験		
授業方法	教科書に従い講義を行うが、適宜事例などを映像や画像で示しながら説明する。各回終了時に小テストを行い、学習内容を振り返る。期末試験で学習内容全体の理解度を評価する。		
アクティブラーニングの視点	現代の子どもたちの食生活の状況について問題提起を行い、ペア、グループ学習で学習者間の意見交換を行い、学習内容について深め合う。		
授業外学習	事前に教科書を読み、内容を把握して授業に臨むこと。課題レポートが課されたときは学習した内容について復習し、レポートを期日までに完成させる。		
教科書	「健康づくりの栄養学　第 3 版」　小林修平編著　建帛社		
参考書	厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」　第一出版		
評価方法	小テスト・課題レポート 30%,　授業への参加度 10%,　期末試験 60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	管理栄養士として病院にて患者の栄養指導に携わった経験、また、幼児から高齢者まで、幅広い年代への栄養教育の実務に携わった経験を有する教員である。		

No.	657	科目コード	67540
科目名	解剖学	授業コード	9324049
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	人体の基本構造と健康や病気とのかかわりについて学び、その基本点について説明できる。		
授業概要	人体の各構造別に、そ基本的な仕組と機能的役割、疾患とのかわりを 学び、特に成長に伴った変化を理解することで、成長期の子どもの発達や病態を理解する		
授業計画	第１回　子どもの発達と健康 第２回　環境と子どもの発達 第３回　人体の概要 第４回　中枢神経の構造と機能 第５回　末梢神経の構造と機能 第６回　骨組織の構造と機能 第７回　筋組織の構造と機能 第８回　消化器系の構造と機能 第９回　呼吸器系の構造と機能 第 10 回　内分泌系の構造と機能 第 11 回　心臓・血管系の構造と機能 第 12 回　血液とリンパ系の構成と機能 第 13 回　体温の仕組みと体液・電解質 第 14 回　感覚器の構造と機能 第 15 回　泌尿器系と生殖器系の構造と機能		
授業方法	授業方法 授業で資料を配布するとともに、模型や画像資料を用いて実践的に学ぶ		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	なし		
教科書	授業でプリントを配布する		
参考書	参考書　　系統看護学講座「解剖生理学」　　医学書院		
評価方法	評価方法 授業への参加度４０％　　レポート課題６０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	子どもから成人期までの心身の発達の検討的な学習を行う。また子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な健康課題との関連についても、系統的に課題を取り上げ、小児科専門医、小児神経専門医である教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

No.	658	科目コード	67550
科目名	病理学	授業コード	9316192
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	人体のさまざまな病気が発生する病理の基本事項を知る。 身体のさまざまな各疾患について知る		
授業概要	病理学の立場から、人体各疾患の基本的な考え方を学ぶとともに、身体各領域の様々な疾患を概観し、学校保健とのかかわりを踏まえながら、養護教諭の業務の中で取り組むポイントを学ぶ。		
授業計画	第１回：子どもの成長のしくみ 第２回：環境と子ども. 第３回：感染症①（細菌） 第４回：感染症②（ウイルスその他） 第５回：呼吸器疾患 第６回：消化器疾患 第７回：神経疾患 第８回：循環器疾患 第９回：腎臓疾患 第１０回：血液疾患・悪性腫瘍 第１１回：免疫・アレルギー・リウマチ疾患 第１２回：内分泌疾患その他 第１３回：新生児期の疾患 第１４回：先天異常と代謝性疾患 第１５回：薬理学の基礎と実際		
授業方法	資料を配布し、それに基づいて授業を行う		
アクティブラーニングの視点	逐次授業内容からテーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	予定なし		
教科書	指定なし		
参考書	ナースとコメデイカルのための小児科学（日本小児医事出版社）		
評価方法	レポート及び小テスト 60%、授業への取組状況 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学齢期の子どもが直面する様々な健康課題について、系統的に課題を取り上げ、小児科専門医である教員が、適宜、動画を用いながら、視覚的で実践的な授業を行う。		

No.	659	科目コード	67560
科目名	精神保健	授業コード	9316255
教員名	八木　成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．子どもの心の発達を理解する。 ２．子どもの心の課題、病態を理解する。 ３．子どもの心への基本的な対応方法を理解する。 ４．子どもを取り巻く養育者、教員の心の課題、病態、対応の基本を理解する。		
授業概要	１．課題ごとにプリントを配布する。 ２．全体的な課題の解説を行う。 ３．毎回、練習問題を提示し、課題の理解状況の把握を行う。 ４．適宜、お互いの意見を述べ、討論し、共有化する。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：心身の発達と精神保健 第３回：乳幼児の精神保健 第４回：思春期の精神保健 第５回：青年期の精神保健 第６回：壮年期・老年期の精神保健 第７回：ストレスと健康 第８回：食・睡眠・性について 第９回：アルコール・タバコ・薬物について 第１０回：学校における精神保健 第１１回：家庭における精神保健 第１２回：職場における精神保健 第１３回：地域における精神保健 第１４回：医療現場における精神保健 第１５回：まとめ		
授業方法	１．授業テーマごとにプリントを配布し、解説する ２．毎回の授業で課題を提示する。 ３．お互いの意見交換を行う。		
アクティブラーニングの視点	適宜、討論・発表を行う。		
授業外学習	授業に関連したテーマを提示し、中間レポートを提出させる。		
教科書	授業中に資料を配付する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	平常点３０％（毎回の授業時の課題の提出）、中間レポート課題３０％、定期試験４０％として評価を行う。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	660	科目コード	67570
科目名	看護学概論	授業コード	9300126
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	4
履修年次	1	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	看護の基本的概念を理解し、看護学の視点から養護教諭に関する諸問題を考察することができる。		
授業概要	看護学の基本的概念から対症看護の基本、健康と看護に関する基礎的な知識を講義形式で学習する。		
授業計画	第 01 回：オリエンテーション、養護教諭の課程で看護学を学ぶ意義 第 02 回：看護の基本的概念 第 03 回：看護の倫理 第 04 回：コミュニケーション 第 05 回：セルフケア①　セルフケアとは 第 06 回：セルフケア②　健康観の変遷と疾病 第 07 回：セルフケア③　様々な生活習慣と支援（食生活、清潔） 第 08 回：セルフケア④　活動と休息、睡眠 第 09 回：子どもの心身と健康①　乳幼児期 第 10 回：子どもの心身と健康②　学童期 第 11 回：子どもの心身と健康③　学童期 第 12 回：子どもの心身と健康④　思春期 第 13 回：病児について 第 14 回：死について 第 15 回：バイタルサインとは 第 16 回：対症看護①　発熱 第 17 回：対症看護②　腹痛 第 18 回：対症看護③　めまい 第 19 回：対症看護④　嘔吐 第 20 回：対症看護⑤　頭痛 第 21 回：対症看護⑥　けいれん 第 22 回：対症看護⑦　アレルギー 第 23 回：対症看護⑧　感染症 第 24 回：対症看護⑨　呼吸困難 第 25 回：対症看護⑩　その他 第 26 回：子どもの事故とけが 第 27 回：成人・老年看護 第 28 回：母性看護 第 29 回：看護をめぐる現状と課題 第 30 回：まとめと授業内テスト		
授業方法	講義方式を基本とする。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習を中心に、ペアトーク・発表などを導入し、コミュニケーションペーパーの活用による振り返りを実施する。		
授業外学習	授業の中で必要に応じて専門的知識の理解を深めるため事前学習を予告する。		
教科書	『小児看護学Ⅰ小児看護学概論・小児看護技術ー子どもと家族を理解し力を引き出すー』改訂第４版，南江堂，2021 年，二宮啓子/今野美紀 必要に応じてプリントを配付する。		
参考書	『看護の基本となるもの』6 刷　ヴァージニア・ヘンダーソン著，日本看護協会出版，2012 年 1 月 『養護教諭のための看護学』四訂版，大修館書店，2018 年 授業の中で、適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、中間レポート 20%、授業内テスト 50% 授業への参加度は、教員からの質問などに応じて的確に回答することを標準とし、 積極的な発言をより高く評価する。 授業内テストなどは確認後、振り返りを行う。		
既修条件	なし		

実務経験のある教員による授業	経験を活かして発達段階に応じた症例や緊急時対応、臨地体験に係わる看護基礎技術について指導する。

No.	661	科目コード	67580
科目名	看護実習Ⅰ	授業コード	9316162
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 前期
到達目標	臨床現場を想定した実技演習を通して ①バイタルサインの測定、包帯法、止血法、病床の作り方などの基本的な看護技術が実践提示できる。 ②基礎的な看護技術の必要性や仕組みが説明できる。 ③基本的な対人援助（コミュニケーション）の方法や生活援助の在り方を学び実践できる。		
授業概要	臨床現場における看護場面を想定して、問診・触診・聴診・視診・打診など適切な観察法を身につけるとともに、バイタルサイン測定、包帯法、止血法、病床の作り方、基本的生活習慣（食事・清潔・排泄・睡眠・運動）の援助などの基礎看護技術を実習形式により習得する。		
授業計画	第０１回：ガイダンス 第０２回：看護技術の基本 第０３回：看護のプロセス 第０４回：保健室の医療器具 第０５回：コミュニケーションの方法 第０６回：環境の整備と環境づくり（ ベッドメーキング等） 第０７回：バイタルサインの考え方 第０８回：観察① バイタルサイン（体温） 第０９回：観察② バイタルサイン（血圧） 第１０回：観察③ バイタルサイン（呼吸） 第１１回：観察④ バイタルサイン（脈拍） 第１２回：観察⑤ 身体計測 第１３回：包帯法① 巻軸帯 第１４回：包帯法② 三角巾 第１５回：包帯法③ 応用 第１６回：止血法① 基本 第１７回：止血法② 応用 第１８回：体位の保持 第１９回：援助① 衣服の着脱 第２０回：援助② 食事 第２１回：援助③ 排泄 第２２回：援助④ 清潔 第２３回：援助⑤ 移動 第２４回：感染予防 第２５回：与薬 第２６回：ねんざ 第２７回：リハビリテーション 第２８回：その他の治療・症状に対する看護 第２９回：模擬救護 第３０回：まとめ		
授業方法	レジュメを用いて、座学、実習を併用して行う。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習を中心に、実技体験の振り返りシートの作成と活用を行い協同的な学び合いの時間を重視する。		
授業外学習	授業内に紹介した内容を基に、配付プリントや看護学概論のテキストなどを活用して、臨床現場で用いられる看護・医療用語について復習しておく。		
教科書	レジュメを配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度　４０％、実技の到達度　６０％		
既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または修得済み。		

	看護学概論
実務経験のある教員による授業	学校現場の保健室における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして各症例に対応した看護の対人援助スキルや看護技術の基本について指導をする。

No.	662	科目コード	67590
科目名	看護実習Ⅱ	授業コード	9316213
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	到達目標 ・様々な疾患を持つ児童・生徒に対して、個々に応じた支援内容を理解し、説明できる。 ・基本的な看護技術を習得する。		
授業概要	様々な小児疾患や障がいがある子どもの治療や療育を行う施設において臨床実習を行う。 様々な小児疾患や障がいを有する子どもへの医療的な関わりの様子を見学するとともに、必要な治療や援助を理解し、基本的な看護内容を学ぶ。 様々な小児疾患や障がいを有する子どもの日常生活や発達・成長過程、家族との関わりについても理解する。		
授業計画	授業計画 ２年次の夏季休業期間中に、事前指導を実施した後、大阪発達総合療育センター（大阪市東住吉区）にて ２週間（１０日間）の臨床実習を行う。学生は５～１０名程度のグループごとに実習する。 事前指導①（学内）：看護実習 II にあたって 事前指導②（学内）：実習記録の作成及び留意事項について 臨床実習（１日目）：施設全体の説明及び見学 臨床実習（２～３日目）：対象事例の紹介と実践プロセスのスクリーニング・アセスメント 臨床実習（４～９日目）：養護実践のプロセスの構成要素の理解と指導 臨床実習（１０日目）：養護実践のプロセスのまとめと実習の振り返り		
授業方法	授業方法 教員が作成した看護実習の手引きを活用し、事前・事後指導は学内で行う。 原則、学外授業となり臨床実習を行い、施設（現場）で基礎看護技術や 対人援助方法についての学びを深める。		
アクティブラーニングの視点	アクティブラーニングの視点 実習の過程において、逐次テーマを取り上げて討論・発表を行い、実践的に実習内容を理解する。		
授業外学習	授業外学習 看護実習の手引き（所定の様式）に実習状況を記録し振り返りを行う。 実習後は報告書を作成し自己評価表とともに提出する。 臨床実習で学んだ医療用語などについて自主学習で復習しておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	参考書　適宜紹介する。		
評価方法	実習記録５０％（自己評価表を含む）、実習への参加態度５０％		
既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または修得済み。 看護学概論・看護実習Ⅰ		
実務経験のある教員による授業	学校・医療の現場での養護教諭経験者、及びそれにかかわる経験のある医師が、児童、生徒の健康にかかわる様々な健康問題、特に緊急対応を要する問題について、実習を含めた実践的で、学生が主体的に参加できる授業を行う。		

No.	663	科目コード	67600
科目名	看護実習Ⅲ	授業コード	9324234
教員名	安達　有梨		
授業種別	集中授業	授業形態	実習
開講間隔		単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	到達目標 ・病院における看護の実際を理解し、病院の機能や学校との連携につなげることができる。 ・看護師の業務を説明することができる。		
授業概要	指定する病院において臨床実習を行う。 医療機関の機能と役割を理解するとともに、医学的知識と看護技術を医療現場から学ぶ。		
授業計画	２年次の春季休業期間中、事前指導を実施した後、小児科・産科・婦人科をもつ大阪労災病院（堺市）にて １週間（５日間）の臨床実習を行う。臨床実習では、学生は５～１０名程度のグループごとに実習する。 事前指導①（学内）：看護実習 III にあたって 事前指導②（学内）：実習記録の作成及び留意事項について 臨床実習（１日目）：病院の説明及び見学 臨床実習（２日目）：看護実践対象の紹介とアセスメント 臨床実習（３～５日目）：看護実践対象の理解とアセスメントと指導 事後指導（学内）：実習の振り返り		
授業方法	授業方法 教員が作成した看護実習の手引きを活用し、事前・事後指導は学内で行う。 原則、学外授業となり臨床実習を行い、病院（現場）で看護実践や 医療機関との連携活動について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	実習の内容から課題を取り上げ、意見交換を行い、実践的に理解する。		
授業外学習	看護実習の手引き（所定の様式）に実習状況を記録し振り返りを行う。 実習後は報告書を作成し自己評価表とともに提出する。 臨床実習で学んだ医療用語などについて自主学習で復習しておく。		
教科書	教科書 プリントを配付する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	実習記録５０％（自己評価表含む）、実習への参加態度５０％		
既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または履修済み。 看護学概論・看護実習Ⅰ		
実務経験のある教員による授業	実務経験のある教員による授業 学校・医療の現場での養護教諭経験者、及びそれにかかわる経験のある医師が、医療施設に学生を引率・訪問し、様々な職種が行っている医療的対応に関する見学実習を中心とした、実践的な学習を行う。		

No.	664	科目コード	67610
科目名	看護実習Ⅳ（救急処置）	授業コード	9324245
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・学校で起こりうる救急の症例・事故に対して適切な判断ができる。 ・学校で起こりうる救急の症例・事故に対して適切な対応を行うことができる。		
授業概要	学校内で救急の症例・事故が発生した場合、養護教諭は状況に応じて、適切に判断し、行動する必要がある。本科目では、そのために必要となる知識及び看護技術について、具体的な事例を想定しながら実践力を養う。		
授業計画	第１回：オリエンテーション　担当：永井・錦川・玉城 第２回：救急処置時の感染予防　担当：玉城 第３回：救急備品　担当：玉城 第４回：止血　担当：永井 第５回：発作・喘息　担当：永井 第６回：熱傷　担当：永井 第７回：熱中症　担当：錦川 第８回：ショック　担当：錦川 第９回：意識障害　担当：錦川 第１０回：骨折・打撲・ねんざ　担当：錦川 第１１回：誤飲・食中毒　担当：永井 第１２回：アレルギー　担当：玉城 第１３回：心肺蘇生法　担当：玉城 第１４回：搬送　担当：玉城 第１５回：学校の体制と医療機関との連携　担当：永井・錦川・玉城		
授業方法	原則として各症例や事件・事故場面に応じた演習形式で行う。 救急処置が必要な症例時の模擬救護について発表する。		
アクティブラーニングの視点	授業ごとにテーマを取り上げて、討論発表を行う		
授業外学習	課題症例に応じた適切な処置や救護活動について自主学習をしておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加態度５０％、実技の到達度５０％		
既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または修得済み。 看護学概論・看護実習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ		
実務経験のある教員による授業	学校・医療の現場での養護教諭経験者、及びそれにかかわる経験のある医師が、児童、生徒の健康にかかわる様々な健康問題について、特に緊急対応を要する問題について、実践的な授業を行う。		

No.	665	科目コード	67620
科目名	養護実習指導	授業コード	9308265
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期～後期
到達目標	・実習生として遵守すべき事項や教育理念を理解し、その責任を自覚した上で意欲的に参加できる。 ・実習を通して養護教諭の役割を学び、保健管理及び保健教育等に必要な知識や技能を理解している。 ・養護教諭の専門性や保健室の機能を生かして、児童・生徒の健康課題に即した保健指導の実践力の向上を図る。		
授業概要	教育現場での実習活動をより有意義なものにするために、教育計画や指導案作成、模擬授業等により学校保健に関する知識理解と技術を修得する。また、養護教諭の専門性と役割について直接的・体験的な学習を深め、実習内容の確認や演習活動の発表を中心に、事前学習と事後のまとめ、指導助言、省察を行う。		
授業計画	第 01 回：養護教諭の実践の意義と可能性 第 02 回：保健学習の基本的事項の理解 第 03 回：保健指導の対象の理解とほけんだより作成時の留意事項 第 04 回：養護教諭の職務（学校保健計画・保健室経営計画の立案） 第 05 回：健康診断の実際 第 06 回：救急処置における養護教諭の役割と救急体制の確立 第 07 回：「保健学習と保健指導」における指導案の作成と授業の進め方 第 08 回：保健学習・保健指導の指導案作成①（実態と目標、題材名の決定、教材作成） 第 09 回：保健学習・保健指導の指導案作成②（授業内容の構成・検討、掲示物作成） 第 10 回：保健学習・保健指導の指導案作成③（評価規準の確認と評価方法の設定） 第 11 回：指導案の発表と改善 第 12 回：模擬授業の実践①（話し方、板書計画、ふるまい） 第 13 回：模擬授業の実践②（時間配分、方法の工夫） 第 14 回：模擬授業の実践③（成果の確保と省察） 第 15 回：まとめ（教育実習実践例示、教員採用試験の概要と対策）		
授業方法	実習校での観察実習や参加実習に向けて、保健管理や保健教育（保健学習・保健指導）に関する実践的な活動を中心に演習する。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習、模擬授業の実施や振り返りなどは、コミュニケーションペーパー（自己評価コメント票・他者評価コメント票）の作成と活用によるシェアリングを重視する。		
授業外学習	主に保健室経営案や、指導案作成、教材づくりについて適宜指示する課題を期日内に提出する。 養護実習の記録（所定の様式）について実習状況を記録し、振り返りを行う。 養護実習で学んだ教育用語など自主学習により復習しておく。		
教科書	「教育実習ハンドブック」（桃教大で配付済み）を活用するが、授業内容に応じて授業時に指示し、適宜資料を配付する。		
参考書	『新訂版　学校保健実務必携（第 5 次改訂版）』第一法規，2020 年４月 『子どもの安全と安心を育むリスクマネジメント教育の実際』，健学社，2017 年 『児童生徒等の健康診断マニュアル　平成 27 年度改定』日本学校保健会，2015 年		
評価方法	授業への参加・受講態度及び課題　５０％　、実践レポート　５０％ アクティブ・ラーニングの視点から、ディスカッションやグループワーク、発表などの主体的・対話的な学び（授業態度や学習意欲）を通して、到達度を段階的に評価する。 また、課題について授業内に確認して、振り返りを行う。		
既修条件	養護概論、看護学概論、教育原理（中・高）、教職概論（中・高）かつ原則として以下の科目を修得済み。 健康相談活動、学校保健、教育心理学（中・高）、教育課程論（中・高）		
実務経験のある教員による授業	学校現場の保健室における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして具体的な場面を紹介しながら養護実習の事前・事後指導をする。		

No.	666	科目コード	67620
科目名	養護実習指導	授業コード	9324288
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・実習生として遵守すべき事項や教育理念を理解し、その責任を自覚した上で意欲的に参加できる。 ・実習を通して養護教諭の役割を学び、保健管理及び保健教育等に必要な知識や技能を理解している。 ・養護教諭の専門性や保健室の機能を生かして、児童・生徒の健康課題に即した保健指導の実践力の向上を図る。		
授業概要	教育現場での実習活動をより有意義なものにするために、教育計画や指導案作成、模擬授業等により学校保健に関する知識理解と技術を修得する。また、養護教諭の専門性と役割について直接的・体験的な学習を深め、実習内容の確認や演習活動の発表を中心に、事前学習と事後のまとめ、指導助言、省察を行う。		
授業計画	第 01 回：養護教諭の実践の意義と可能性 第 02 回：保健学習の基本的事項の理解 第 03 回：保健指導の対象の理解とほけんだより作成時の留意事項 第 04 回：養護教諭の職務（学校保健計画・保健室経営計画の立案） 第 05 回：健康診断の実際 第 06 回：救急処置における養護教諭の役割と救急体制の確立 第 07 回：「保健学習と保健指導」における指導案の作成と授業の進め方 第 08 回：保健学習・保健指導の指導案作成①（実態と目標、題材名の決定、教材作成） 第 09 回：保健学習・保健指導の指導案作成②（授業内容の構成・検討、掲示物作成） 第 10 回：保健学習・保健指導の指導案作成③（評価規準の確認と評価方法の設定） 第 11 回：指導案の発表と改善 第 12 回：模擬授業の実践①（話し方、板書計画、ふるまい） 第 13 回：模擬授業の実践②（時間配分、方法の工夫） 第 14 回：模擬授業の実践③（成果の確保と省察） 第 15 回：まとめ（教育実習実践例示、教員採用試験の概要と対策）		
授業方法	実習校での観察実習や参加実習に向けて、保健管理や保健教育（保健学習・保健指導）に関する実践的な活動を中心に演習する。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習、模擬授業の実施や振り返りなどは、コミュニケーションペーパー（自己評価コメント票・他者評価コメント票）の作成と活用によるシェアリングを重視する。		
授業外学習	主に保健室経営案や、指導案作成、教材づくりについて適宜指示する課題を期日内に提出する。 養護実習の記録（所定の様式）について実習状況を記録し、振り返りを行う。 養護実習で学んだ教育用語など自主学習により復習しておく。		
教科書	「教育実習ハンドブック」(桃教大で配布済み)を活用するが、授業内容に応じて授業時に指示し、適宜資料を配付する。		
参考書	『新訂版　学校保健実務必携（第 5 次改訂版)』, 第一法規, 2020 年 4 月 『子どもの安全と安心を育むリスクマネジメント教育の実際』, 健学社, 平成 29 年 11 月		
評価方法	授業への参加・受講態度及び課題　５０％　、実践レポート　５０％アクティブ・ラーニングの視点から、ディスカッションやグループワーク、発表などの主体的・対話的な学び（授業態度や学習意欲）を通して、到達度を段階的に評価する。 また、課題について授業内に確認して、振り返りを行う。		
既修条件	養護概論、看護学概論、教育原理、教職概論 かつ原則として以下の科目を修得済み。 健康相談活動、学校保健、教育心理学、教育課程論		
実務経験のある教員による授業	教育現場の養護教諭経験や地域看護の臨床経験を活かして具体的な場面を紹介しながら養護実習の事前・事後指導をする。		

No.	667	科目コード	67650
科目名	教職実践演習（養護教諭）	授業コード	9324527
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・4 年間の学びの軌跡を再認識し、養護教諭の職務倫理に裏付けられた実践的指導力および養護教諭としての自覚と資質能力を身に付ける。 ・自らの成長を捉え直し、具体的な実践記録や成果物を残すことで、次に続く後輩たちがそれらに目を通すことが可能となり、大学卒業後のキャリアを具体的に構想する機会を持つ。		
授業概要	４年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の履修で不足している知識・技能を補完し、今日、求められている養護教諭の資質や能力が身につくように実際の学校現場を想定し諸課題についての理解を深める。 これまでの教職課程の授業および教育実習における学びを振り返り、その内容を記録・省察報告としてまとめる。		
授業計画	１　オリエンテーション ２　学校教育における様々な課題の確認 ３　教職実践に関する基本的事項と実践記録作成の進め方 ４　養護教育における実践記録の意義 ５　養護教育における実践記録の省察と整理 ６　養護教育における実践記録（保健学習・保健指導）作成１ ７　養護教育における実践記録（教科外活動・個別対応）作成２ ８　養護実践の事例発表１ ９　養護実践の事例発表２ 10　養護実践の事例発表３ 11　養護実践の倫理に関する事項の確認 12　養護実践についてグループ討議 13　養護実践についてグループ発表 14　養護教育における指導教材研究と成果物発表 15　まとめ（質疑応答含む）		
授業方法	グループ討議や事例発表による演習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	グループセッションを中心に、実践記録（省察文）発表や事例発表についてワークシートの活用など		
授業外学習	養護実習での事例報告・グループ討議における緻密な事前学習を行う		
教科書	『学校教育の現代的課題と養護教諭』，大学図書出版，河田史宝監修，2021 年 その他　講義の中で適宜紹介する。		
参考書	『実際にあった学校でのヒヤリハット事例から学ぶ』，健学社，八木利津子，2021 年 12 月 講義の中で適宜紹介する。		
評価方法	レポート・発表の内容　80%　（課題作成および実践記録のまとめ方と発表内容を含む） 授業態度　20%　（授業参加状況と理解度）		
既修条件	養護実習Ⅰ・Ⅱを履修中または修得済み		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして健康課題（事例）に応じた養護実践に係わる演習指導をする。		

No.	668	科目コード	66930
科目名	特別支援教育総論	授業コード	9325467
教員名	長谷川陽一		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・特別支援教育の理念や制度を理解する。 ・個別の教育支援計画を作成する必要性や特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。 ・障害種別にみた教育の現状と課題を考える。		
授業概要	特別支援教育の理念や制度、指導・支援の特性などについて、インクルーシブ教育システムの基本的な考え方を交えながら論じるとともに、特別支援教育の現状と課題について検討する。		
授業計画	第１回　特別支援教育の理念と歴史 第２回　特別支援教育の制度とインクルーシブ教育システム 第３回　特別支援教育コーディネーターの役割 第４回　個別の教育支援計画と個別の指導計画 第５回　障害児の理解と教育(1)視覚障害 第６回　障害児の理解と教育(2)聴覚障害 第７回　障害児の理解と教育(3)知的障害 第８回　障害児の理解と教育(4)肢体不自由 第９回　障害児の理解と教育(5)病弱・身体虚弱 第１０回　障害児の理解と教育(6)言語障害 第１１回　障害児の理解と教育(7)自閉症・情緒障害 第１２回　障害児の理解と教育(8)重複障害 第１３回　障害児の理解と教育(9)LD・ADHD 等 第１４回　アセスメントと主要な検査 第１５回　福祉・医療・労働等との連携と協力 期末試験		
授業方法	教科書とその他の教材を活用しながら授業を進める。最新の情報については資料として配布するなどして、受講生の発言を求めるなど、対話形式を取り入れる。毎回課題を与え、次時に生かすようにする。		
アクティブラーニングの視点	課題とする論作文や配布資料を活用して、受講生が意見発表や意見交換のできる場面を随所に設定し、学習に取り組めるように授業の展開を図る。		
授業外学習	次時の学習に生かすことがきる、授業外学習用の課題（論作文）を持ち寄り、それを基に研究協議を行い、知見を共有できるようにする。		
教科書	アクティベート教育学 07　特別支援教育（廣瀬由美子　石塚謙二、ミネルヴァ書房） 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）文部科学省		
参考書	なし		
評価方法	・期末試験の得点 30%、授業への参加度 40%、中間テスト 30%により評価する。 授業への参加度は、出席状況、課題の内容、質問への回答、学生間の討論等に積極的に取り組んでいるか等を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府教育庁支援教育課、特別支援学校校長などの勤務経験を活かし、障がいのある子どもたちの学校生活での実情を十分にふまえ、特別支援教育に関する全般的な知識の獲得と特別支援学校における教育実践力につながるように、本科目の授業を計画・実施する。		

No.	669	科目コード	66940
科目名	知的障害者の心理・生理・病理	授業コード	9316580
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	大脳の解剖・生理の基礎的知識を理解する。知的障害の原因となる代表的な疾患を知る。 各疾患のある生徒が持つ困難のポイントを知る。 知的障害者の心理について理解し、支援計画の立案ができる。		
授業概要	基本的な医学的知識と知的障害の疾患の代表的なものについて、合併する肢体不自由、病弱領域も一部含めて講術する。また、知的障害者の心理について概説する。		
授業計画	第１回 子どもの発達の考え方　（担当　原田） 第２回 社会環境と子どもの発達　（担当　原田） 第３回 物質環境と子どもの発達　（担当　原田） 第４回 知的障害をきたす疾患（遺伝性疾患）　（担当　原田） 第５回 知的障害をきたす疾患（染色体異常）　（担当　原田） 第６回 知的障害をきたす疾患（胎芽病、胎児病、周産期疾患）　（担当　原田） 第７回 知的障害をきたす疾患（知的障害を伴う自閉症、てんかん）　（担当　原田） 第８回 知的障害をきたす疾患（後天性の知的障害）　（担当　原田） 第９回 知的障害者の知能の評価と特徴　（担当　原） 第１０回 知的障害者の概念・思考の特徴　（担当　原） 第１１回 知的障害者の学習能力の特徴　（担当　原） 第１２回 知的障害者の性格・行動の特徴　（担当　原） 第１３回 知的障害者の職業　（担当　原） 第１４回 知的障害者の家族の心理　（担当　原） 第１５回 総括　（担当　原）		
授業方法	授業でプリントを配布するとともに、提示する画像資料を参照しながら学ぶ		
アクティブラーニングの視点	授業ごとにテーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	特に予定していない		
教科書	授業で資料を配布する		
参考書			
評価方法	授業への参加度４０％　　レポート課題６０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	特別支援学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、知的障害者の心理・生理・病理について講義する。 また医療的側面について、障害児医学の専門医である教員が、その医療的側面から、その考え方や対応の要点について講義する。		

No.	670	科目コード	66950
科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	授業コード	9325693
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間授業および集中授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	肢体不自由者の病態理解のために必要な医学的基礎知識を、合併する知的障害、病弱領域も一部含めて理解する。肢体不自由者の心理について理解し、その支援計画を立案できる。		
授業概要	肢体不自由者の病態理解のために必要な医学的基礎知識を、合併する知的障害、病弱領域も一部含めて講術する。また、肢体不自由者の心理について概説する。		
授業計画	第１回 運動系・神経系の解剖・生理(１)脊髄　(担当：原田) 第２回 運動系・神経系の解剖・生理(１)脳　(担当：原田) 第３回 肢体不自由者をきたす神経疾患（脳性麻痺）　(担当：原田) 第４回 肢体不自由者をきたす神経疾患（二分脊椎症、重症筋無力症,筋ジストロフィー症）　(担当：原田) 第５回 肢体不自由者をきたす筋疾患（脊椎カリエス、関節結核）　(担当：原田) 第６回 肢体不自由者をきたす整形外科的疾患（胎性軟骨発育異常、骨形成不全）　(担当：原田) 第７回 肢体不自由者をきたす整形外科的疾患（ペルテス病、先天性股脱、脊柱側彎症、ほか）　(担当：原田) 第８回 体不自由者をきたす整形外科的疾患（療育と支援の実際）　(担当：原田) 第９回 肢体不自由者の概念・思考の特徴　(担当：松久) 第１０回　肢体不自由者の知能の特徴（担当：松久) 第１１回 肢体不自由者の家族の心理　(担当：松久) 第１２回 肢体不自由者の学習能力の特徴　(担当：原) 第１３回 肢体不自由者の性格・行動の特徴　(担当：原) 第１４回肢体不自由者の職業　(担当：原) 第１５回 総括　(担当：原)		
授業方法	レジュメ、画像、動画などを用いて行う		
アクティブラーニングの視点	各授業において逐次テーマを取り上げで、意見交換などをおこない、実践的に理解する。		
授業外学習	なし		
教科書	レジュメを配布する		
参考書	未定		
評価方法	授業への参加度４０％　　レポート課題６０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	脳性まひや、種々の疾患に起因する身体障害の病因や病態について、系統的な学習を行うとともに、子どもたちがその時期に直面する様々な心身の課題と教育的な関わり方について、系統的に課題を取り上げるため、小児科専門医、小児神経専門医である教員、及び肢体不自由児者への教育・研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

No.	671	科目コード	66960
科目名	病弱者の心理・生理・病理	授業コード	9325806
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間授業および集中授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	病弱者を医学的に扱う小児医学を、合併する知的障害、肢体不自由領域も一部含めて学び、代表的な疾患を理解する。また、病弱者の心理について理解を深め、支援計画を立案できる。		
授業概要	病弱者の小児医学の代表的な疾患を中心に、合併する知的障害、肢体不自由領域も一部含めて講術する。また、病弱者の心理について概説する。		
授業計画	第１回 人の成長と健康・環境とのかかわり　（担当：原田） 第２回 感染症（ウイルス性、細菌性、真菌性）　（担当：原田） 第３回 心疾患、腎疾患　（担当：原田） 第４回 血液疾患（白血病、紫斑病、血友病）　（担当：原田） 第５回 内分泌疾患　（担当：原田） 第６回 膠原病、てんかん　（担当：原田） 第７回 消化器疾患、呼吸器疾患（気管支炎、肺炎、結核）　（担当：原田） 第８回 アレルギー性疾患（喘息、アトピー）　（担当：原田） 第９回 病弱者の代表的な疾患別の心理　（担当：平賀） 第１０回 病弱者のセルフケア行動（アドヒアランスを高める方法）　（担当：平賀） 第１１回 健康行動理論による心理的支援　（担当：平賀） 第１２回 病弱者の復学における課題　（担当：平賀） 第１３回 病弱者の自尊感情の問題　（担当：平賀） 第１４回 病弱者の家族支援の問題　（担当：平賀） 第１５回 総括　（担当：平賀）		
授業方法	プリントおよび画像資料		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	未定		
評価方法	授業への参加度４０％　　レポート課題６０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	種々の病気を持ちながら学校に通う学齢期の子どもたちについて、その病因や子どもから成人期までの心身の発達の系統的な学習を展開するため、また子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な健康課題とその関わり方について、系統的に課題を取り上げるため、小児科専門医、小児神経専門医である教員、及び病弱教育及びその研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

No.	672	科目コード	66970
科目名	知的障害教育論Ⅰ	授業コード	9316919
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・知的障害教育における教育課程に係る法令及び学習指導要領の特性を説明できる。 ・知的障害教育における教育課程編成の基本的な考え方を説明できる。 ・知的障害教育の課題について、その概要を説明できる。		
授業概要	１．知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた各教科等や教育課程編成について解説する。 ２．教育課程に基づいた年間指導計画、個別の教育支援計画・個別の指導計画について解説する。 ３．知的障害教育の実際に関連する現状と課題について解説する。 ※解説に当たっては、特別支援学校学習指導要領を教科書として活用しながら、その実際に関する資料を提示し、知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた、教育課程編成や各教科等、実際の指導内容の特性等が理解できるようにする。		
授業計画	第１回　　知的障害のある児童生徒の学習特性と教育課程の特色 ・知的障害のある児童生徒の学習上のつまづきへの対応や生きる力を育成する上で必要な知見を理解できるようにするとともに、教育課程の概要を理解できるようにする。 第２回　　知的障害のある児童生徒の学習特性と教育課程に係る法令・制度 ・特別支援学校学習指導要領等における教育課程編成に関する基本的な規定及び主要な特例について理解できるようにする 第３回　　各教科の特性と取扱い ・各教科の内容の独自性や道徳等の取り扱いの特徴などについて理解できるようにする。 第４回　　道徳及び特別活動などの取扱い ・道徳及び特別活動等の取り扱いの特徴について理解できるようにする。 第５回　　領域・教科を合わせた指導１（小・中学部） ・領域・教科を合わせた指導の位置づけ　及び小学部及び中学部における、主として「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」の指導内容やその特徴について理解できるようにする。 第６回　　領域・教科を合わせた指導２（高等部） ・高等部における、主として「生活単元学習」「作業学習」の指導内容やその特徴について理解できるようにする。 第７回　　自立活動１（内容） ・自立活動の内容及びその目的などが理解できるようにする。 第８回　　自立活動２（取扱い） ・知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた自立活動の内容の取り扱いについて理解できるようにする。 第９回　　年間指導計画及び日課・週日課 ・年間の学校行事計画を含め、指導内容等の配置や週日課の特性について理解できるようにする。 第１０回　個別の教育支援計画・個別の指導計画 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成目的やそれらの基本的な内容等について理解できるようにする。 第１１回　知的障害教育におけるキャリア教育 ・キャリア教育の基本的な考え方とともに、知的障害のある児童生徒の学習特性に応じたキャリア教育について理解するとともに、職業教育のあり方や取り扱いについて理解できるようにする。 第１２回　特別支援学級における教育課程 ・特別支援学級における教育課程編成の基本、及び知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学級における教育課程編成の特徴について理解できるようにする。 第１３回　教育課程の編成と実施に係る現状と課題 ・今日的な知的障害教育を巡る現状と課題として、主に学校施設等の教育環境や指導の専門性、進路開拓、諸機関との連携などに関することについて理解できるようにする。 第１４回　知的障害教育を巡る今日的な課題 ・インクルーシグ教育システム構築のための交流及び共同学習等を巡る課題と対応について理解できるようにする。		

	第１５回　総括 ・第１回からの第１４回までの講述等におけるキーワードを再確認し、主要な内容について反芻・理解できるようにする。
授業方法	・講義及びグループ協議 ・課題レポートの作成
アクティブラーニングの視点	・課題に関する調査内容の発表・協議などを行う。 ・実践的な課題を設定し、他者と協議しつつ、解決策を探る。
授業外学習	・提示された課題（レポート等の形式）の作成。 ・次の講義内容について指示された予習（テキストとなる学習指導要領等の下調べ等)。
教科書	・『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示)』 文部科学省 、海文堂出版 ・『特別支援学校　高等部学習指導要領（平成 31 年 2 月告示)』文部科学省 、海文堂出版
参考書	適宜、紹介する。
評価方法	・授業への参加度 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%により評価する。 授業への参加度は、質問等への的確な返答、与えられた課題の取組み状況、グループ協議等への積極的参加などを評価する。各テストは、講義内容をふまえた内容とする。適宜、学習指導要領等についての課題を提示し、提出を求める。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政、高等学校及び特別支援学校における勤務経験を活かし、知的障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニース及び教育現場の現状をふまえた授業内容を計画・実施する。

No.	673	科目コード	66980
科目名	知的障害教育論Ⅱ	授業コード	9325032
教員名	原　一正		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・特別支援教育の目標に基づき、知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた基本的な指導方法の在り方を説明できる。 ・知的障害教育における各教科等の意義及び基本的な指導形態、計画・実践の特徴を説明できる。 ・知的障害教育における交流及び共同学習の意義、学習評価や授業研究等の基本的なあり方について説明できる。		
授業概要	はじめに、知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた基本的な指導の在り方を解説する。次に、知的障害教育における各教科等の指導及び領域・教科を合わせた指導、自立活動の指導、交流及び共同学習の実践方法に関する特性や教育成果について解説する。 さらに、特別支援学校における学習評価及び授業研究の意義・目的を基に、基本的な在り方とその方法の進め方を解説する。 これらを理解した上で、特別支援教育の推進・目標に応じた知的障害教育における、知的障害の特性等を踏まえた、自立・社会参加に向けた知識・技能・態度等を育成するための効果的な指導・支援方法の在り方を解説する。		
授業計画	第１回　　知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた指導法 　知的障害のある児童生徒の学習特性を概説し、望ましい社会参加のための知識、技能及び態度を養う指導方法の重要性について理解する。 第２回　　各教科等の指導（小・中学部） 　知的障害特別支援学校の小学部及び中学部における教育課程編成及び各教科の構成等を踏まえ、各教科の目標・内容に応じた指導法について理解する。 第３回　　各教科等の指導（高等部） 　知的障害特別支援学校の高等部における教育課程編成及び各教科の構成等を踏まえ、卒業後の自立と社会参加に向けた充実を図る指導法について理解する。 第４回　　領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導・遊びの指導） 　知的障害特別支援学校における領域・教科を合わせた指導の「日常生活の指導」「遊びの指導」の実践方法について理解する。 第５回　　領域・教科を合わせた指導（生活単元学習） 　知的障害特別支援学校における領域・教科を合わせた指導の「生活単元学習」の実践方法について理解する。 第６回　　領域・教科を合わせた指導（作業学習） 　知的障害特別支援学校における領域・教科を合わせた指導の「作業学習」の実践方法について理解する。 第７回　　領域・教科を合わせた指導（作業学習：高等部） 　知的障害特別支援学校の高等部における「作業学習」の実践方法について理解する。 第８回　　自立活動の指導（１） 　知的障害教育における自立活動の位置づけ及び基本的な配慮点を理解し、知的障害に即した自立活動の指導について理解する。 第９回　　自立活動の指導（２） 　「自立活動の時間の指導」での知的障害に即した個別指導の在り方について理解する。 第１０回　交流及び共同学習 　障害者基本法による規定に応じた「交流及び共同学習」の意義・目的・内容を理解し、知的障害に応じた配慮事項と交流及び共同学習の基本的な指導の在り方を理解する。 第１１回　学習評価 　特別支援教育での学習評価の基本的な在り方を基に、知的障害児童生徒に対する各教科における学習評価の基本構造及びその方法を理解する。 第１２回　授業研究 　特別支援学校における「授業研究」の意義・目的を基に、「つながり」と「一貫性」をもった「授業研究」の在り方と進め方を理解する。 第１３回　キャリア教育・職業教育		

	知的障害特別支援学校におけるキャリア教育を推進するための指導、及びキャリア教育の一環としての高等部における職業教育・進路指導の実際について理解する。 第１４回　特別支援学級における指導 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学級における、実情に合った教育課程の編成と各教科等及び領域・教科を合わせた指導における指導法について理解する。 第１５回　総括 第１回からの第１４回までの講述等におけるキーワードを再確認し、主要な内容について反芻・理解する。
授業方法	講義形式とし、グループ討議も行う。
アクティブラーニングの視点	画像資料、映像等を見て他者と協議し、実践的な課題の設定・工夫・支援のありかた等を確認し、グループ発表などを行う。
授業外学習	毎授業前に、当該授業回テーマについて特別支援学校教育要領・学習指導要領解説を見て確認し、準備学習を行うこと。 毎授業後に、当該授業回で学習したことを特別支援学校教育要領・学習指導要領解説を見て再度確認・復習すること。 また、授業で指示された事前確認事項を、配布された参考資料等を見て、当該授業回に向けて準備学習を行うこと。
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「総則編」(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省、開隆堂出版 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「各教科編」(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省、開隆堂出版 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「自立活動編」(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省、開隆堂出版
参考書	七色の授業～質の高い授業とは～　原　一正　著
評価方法	・授業への参加度 40%、レポート課題 60%により評価する。 授業への参加度は、与えられた課題への取組み状況、グループ協議等への積極的参加などを評価する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	特別支援学校における 33 年間の勤務経験と現在も乳幼児の療育事業に関わっていることを活かし、知的障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニース及び教育現場の現状について、アクティブラーニングの視点を大切にした授業内容を計画・実施する。

No.	674	科目コード	66990
科目名	肢体不自由教育論Ⅰ	授業コード	9316145
教員名	早野　眞美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・肢体不自由教育における現状と課題及び特別支援教育に関する基礎的事項を理解できる。 ・肢体不自由教育の歴史及び障害の受容と保護者の心情を理解できる。 ・肢体不自由児者の障害特性について理解できる。 ・肢体不自由教育における授業の実践課題とその工夫について理解できる。 ・肢体不自由教育における指導と支援の在り方について理解できる。 ・肢体不自由児者の社会参加と自立に向けた教育指導の在り方について理解できる。		
授業概要	・肢体不自由教育に関する基礎的事項として、学校等における実践的な指導・支援について映像等を通して講義を行う。 ・肢体不自由教育の歴史、脳性まひ等の関連疾患から障害特性を学び、肢体不自由教育における課題から学校教育の在り方を学ぶ。 ・テキスト「肢体不自由教育総論Ⅰ」を基に毎回のテーマを設定して講義を行う。 ・１５回の講義回数の中で「演習及び実技指導」を取り入れる。		
授業計画	第１回目：特別支援教育と肢体不自由教育の現状と課題 第２回目：障害者の合理的配慮と肢体不自由教育の課題 第３回目：肢体不自由教育と障害の受容と保護者の願い 第４回目：肢体不自由教育と学校教育の在り方 第５回目：肢体不自由教育と教育課程の編成（学習指導要領と自立活動） 第６回目：肢体不自由の病理と障害理解　–運動発達と脳性まひ– 第７回目：肢体不自由の病理と障害理解　–筋ジストロフィー症・二分脊椎症他– 第８回目：肢体不自由児（者）の実態把握と個別の教育支援計画・指導計画の作成 第９回目：肢体不自由教育と授業の工夫　–教科指導と肢体不自由の配慮– 第 10 回目：特別支援学校（肢体不自由教育）における一日の流れと授業内容 第 11 回目：肢体不自由教育における車いす・補助具・情報機器の活用 第 12 回目：肢体不自由教育における就労支援とキャリア教育 第 13 回目：肢体不自由児者の摂食指導と食育 –実技演習を通して学ぶ– 第 14 回目：肢体不自由者と地域生活 –障がい者の福祉サービスを考える– 第 15 回目：障がい者とスポーツ・芸術活動		
授業方法	・テキスト「肢体不自由教育総論Ⅰ」2023 年度版を用いて講義を進める。 ・講義はスライド・映像をまじえて行い毎回ごと振り返りシートに記入して提出する。 ・15 回の講義中に「実技・演習」なども取り入れて行う予定である。		
アクティブラーニングの視点	・２名から４名でグループを作り課題演習なども取り入れ積極的に意見交換ができる場面を設ける。 ・自分で調べた内容等をプレゼンテーションができる場面を設ける。		
授業外学習	・課題提示として「バリア・バリアフリー・ＵＤ」の調査収集を行い、プレゼンテーションを行うことが出来る。		
教科書	・テキスト「肢体不自由教育総論Ⅰ」2023 年度版 118 ページ　須田正信・早野眞美編著　頒布費 350 円 ・「特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説　総則編」文部科学省、開隆堂書店		
参考書	・講義の際に参考図書を紹介する。		

評価方法	①毎回の振り返りシート　30% ②課題レポート　30% ③最終課題レポート　40%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	・科目担当教員は大阪府立肢体不自由校の管理職経験があり、教員研修等の経験がある。

No.	675	科目コード	67000
科目名	肢体不自由教育論Ⅱ	授業コード	9325258
教員名	早野　眞美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・肢体不自由教育における学校教育の実際について理解する。 ・肢体不自由教育における指導・支援の方法について学び実践演習に生かすことが出来る。 ・肢体不自由教育における関係期間との連携と個別の教育支援計画・個別の指導計画について作成演習を行い今後に生かすことが出来る。		
授業概要	以下の内容について、実際の学校現場で行われている授業等についてスライドと映像を用いて行う。 ・肢体不自由校における教育実践を踏まえ、肢体不自由学教育における授業展開の工夫と実際の指導場面の映像やスライドから理解し、模擬授業・指導を演習することで教員に向けた実践演習を獲得する。 ・肢体不自由教育における今日的な課題を精選し、各グループごとに課題について解決に向けた演習と発表を行うことで学びを深める。		
授業計画	第１回目：特別支援教育と「肢体不自由校」における教育と児童生徒の実態 第２回目：特別支援教育と肢体不自由校における合理的配慮と教育の工夫 第３回目：特別支援教育と肢体不自由校における自立活動と授業の工夫 第４回目：脳性まひ児の姿勢・動作改善のアプローチの実際「実技指導」 第５回目：肢体不自由児者の手の機能の発達と手指機能を高める指導の実際 第６回目：脳性まひ児の摂食機能・言語機能の候ぞ湯に向けたアプローチ 第７回目：肢体不自由児のコミュニケーションの支援と情報機器の活用事例 第８回目：肢体不自由児者の個別の教育支援計画と個別の指導計画の背景と作成について 第９回目：肢体不自由児者の個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成に向けて 第 10 回目：肢体不自由教育における様々な指導方法や関連する用語について 第 11 回目：肢体不自由教育における授業分析①「あさの会」の工夫と指導案の作成 第 12 回目：肢体不自由校における実践「授業の工夫と学習指導案の作成」 第 13 回目：医療的ケアを必要とする児童生徒の配慮事項と今日的課題 第 14 回目：肢体不自由教育における障害の重い子どもの訪問教育における歴史的経緯と実際の指導 第 15 回目：肢体不自由児者の社会参加と自立に向けた肢体不自由校の取り組み		
授業方法	・講義　「スライド・テキスト」 ・演習　「グループワーク（朝の会などの授業実践の計画をグループで演習する)」 ・実技指導　「摂食指導・運動指導・ケース研究」		
アクティブラーニングの視点	・グループで課題についてプレゼンテーションを行う。 ・課題について実際の実技や演習から検証する。 ・講義ごとに毎回の「振り返りシート」を記載して提出して評価を受ける。 ・課題に対してグループで指導計画・指導案を作成して提出する。		
授業外学習	・肢体不自由校の行事などの取り組みについて、実際の見学やＨＰなどで検索して報告する。		
教科書	・各講義の際にテキスト資料を配布する。		
参考書	その都度紹介する。		
評価方法	①毎回の振り返りシート・授業参加　30% ②課題レポート　30% ③最終課題テスト　40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	・科目担当教員は大阪府立支援学校管理職経験があり教員研修等経験がある。		

No.	676	科目コード	67030
科目名	病弱教育論	授業コード	9325371
教員名	西上　優子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	病弱・身体虚弱の子どもの教育（病弱教育）に関する法令、教育制度、教育課程、教育の場、指導内容・方法等についての基本的な知識を習得する。様々な病気の子どもに対する正しい理解と適切な支援の仕方及び配慮事項を身に付けることができる.		
授業概要	1）　我が国の特別支援教育の対象とする障害の種類と病弱・身体虚弱教育の概念を説明できる。 2）　病弱・身体虚弱教育対象の子どもの教育の場について区別できる。 3）　病弱教育について歴史的な変遷を説明できる。 4）　子どもの主な病気について理解し、論じることができる。 5）　病弱・身体虚弱教育の教育課程について説明し、特に自立活動の在り方について具体的に論じることができる。 6）　入院している子どもへの配慮事項をについて述べることができる。 7）　病弱・身体虚弱の子どもの保護者及びきょうだい児への対応方法と医療と教育の連携の在り方について論じることができる。 8）　我が国の病弱教育の現状と課題について説明できる。		
授業計画	第１回】オリエンテーション・特別支援教育の現状 授業の目的と内容、授業の進め方・受け方、予習・復習の仕方、参考書の説明などについて説明 特別支援教育における病弱教育の位置を説明できる 【第２回】病弱・身体虚弱の概念 病弱・身体虚弱の概念、病弱・身体虚弱児の学習上・生活上の困難について説明 病弱教育の場の違いについて法的根拠を説明できる 【第３回】病弱教育の変遷について 病弱教育の歴史的変遷（戦前及び戦後）を説明 病弱教育対象児童生徒数の変遷と時代背景、病弱児に対する社会のとらえ方について説明できるようになる 【第４回】病弱教育の対象児（１） 障害のある子どもの見方、病弱教育対象児の病気の推移と時代背景を説明 医学の進歩と病弱児の病気の種類の変遷、教育的支援の変遷を説明できるようになる 【第５回】病弱教育の対象児（２） 病弱教育対象児の主な病気について説明 呼吸器疾患、腎疾患、心疾患、精神疾患等を説明 ビデオ視聴を通し、病弱・身体虚弱児の実態を説明できるようになる 【第６回】就学基準と教育の場について 病弱・身体虚弱児の就学基準、病弱・身体虚弱児の教育の場と教育形態の違いを説明 ビデオ視聴を通し、教育の実態を理解し、認定就学者⇒認定特別支援学校就学者の変遷を論じることができるようになる 【第７回】教育課程と各教科の指導 病弱教育の教育課程、病弱・身体虚弱児の実技を伴う教科（体育指導ほか）の指導上の配慮事項を説明 ビデオ視聴を通し、筋ジストロフィー児のスポーツを説明できるようになる 【第８回】自立活動の指導について 病弱・身体虚弱教育における自立活動の指導、心身症児の自立活動の指導を説明 ビデオ視聴を通し、病弱教育における自立活動）を理解し、説明できるようになる 【第９回】小・中学校等における指導について 小・中学校の通常学級、病弱・身体虚弱特別支援学級、病院内の特別支援学級（院内学級）　の指導の実際の事例を説明 教育の場の違いにより指導内容、方法等の違いを説明できる 【第 10 回】気管支喘息の子どもの指導について 気管支喘息とは、気管支喘息児の自立活動の指導計画、喘息体操 、エピペンの使用方法を体験し、		

	使用できる エピペン、ピークフロー等の実体験を通して気管支喘息児の指導を説明できるようになる 【第 11 回】入院児への配慮等 慢性疾患で入院する子どもへの配慮事項を説明 ターミナルケアや臓器移植を必要とする子どもの家族の思い等を説明できる 【第 12 回】筋ジストロフィーの子どもの指導について 筋ジストロフィーとは、筋ジストロフィー児の自立活動の指導計画を説明 筋ジストロフィー児の実際を説明できるようになる 【第 13 回】難病の子どもの理解について 難病の子どもの理解と指導について事例等を通して説明 「病院のこども憲章」について理解するとともに、実際の入院生活等を論じることができる 【第 14 回】重度・重複障害児教育の指導法について 重度・重複障害とは、重度・重複障害児の指導計画 と自立活動について説明 パルスオキシメーター等の活用を体験し、病弱・身体虚弱児との交流及び共同学習の実際について説明できるようになる 【第 15 回】我が国の病弱教育の現状と課題について 我が国の病弱教育に関する法令、制度、現実の問題点を考え、病弱の子どもに対して役立つ教育の在り方について論じることができるようになる
授業方法	随時配布する資料や提示する課題について予習を行い、グループワークを取り入れて理解を深めることができるようにする。アクティブラーニングを取り入れたり、エピペン、ピークフロー、パルスオキシメータの使用等を通じて、体験から学ぶことができるようにする。 基本的には講義とアクティブラーニングを織り交ぜてすすめる。
アクティブラーニングの視点	グループワークを中心に行い、各課題に対して自分の考えをまとめ、アクティブラーニングで深化することができるようにする。
授業外学習	【予習】毎回、次週までの課題を出す。 第１回目はどのようにするかは未定であるが、第２回目からは事前に渡された課題をもとに、自分の考えをまとめ、小レポートとして提出する。 【復習】学習内容を、自分が教師としてどのように役立てるかについて整理したり、授業中に紹介された資料などを読むことを通して、学修内容を深めることができるようにする。
教科書	・日本育療学会編著『標準「病弱児の教育」テキスト』ジアース教育新社刊 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「総則編」(幼稚部・小学部・中学部)』 開隆堂書店、文部科学省 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「自立活動編」(幼稚部・小学部・中学部)』 開隆堂書店、文部科学省
参考書	教育支援資料　文部科学省 指導内容に沿ったものをプリントとして配布する。
評価方法	アクティブラーニングへの参加度３０％、小レポート２０％、講義終了後のレポート５０％
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	病弱・身体虚弱教育について、教諭、教頭、校長として勤務した経験を活かして、指導の実践から得た知見や事例紹介を含み、教育の実際、制度・法的根拠等について講義する。

No.	677	科目コード	67040
科目名	視覚障害者の心理・生理・病理	授業コード	9325484
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	視覚障害についての医学的な基本事項について理解する。 視覚障害者の心理について理解を深め、支援計画を立案できる。		
授業概要	視覚器の解剖・生理、視機能の評価法、視覚障害の原因疾患について講術する。 また、視覚障害者の心理について概説する。		
授業計画	第１回 視覚器の解剖・生理　（担当　原田） 第２回 視機能の評価法（視力、視野）　（担当　原田） 第３回 視覚障害の原因疾患（眼瞼、結膜、角膜、強膜、ぶどう膜、網膜、硝子体、水晶体の疾患）　（担当　原田） 第４回 視覚障害の原因疾患（緑内障、視神経・視覚路、外眼筋の疾患）　（担当　原田） 第５回 視覚障害児の知覚と運動発達　（担当　松中） 第６回 視覚障害児の言語・認知発達と学力・社会性の発達　（担当　松中） 第７回 視覚障害者の自我発達と障害受容　（担当　松中） 第８回 視覚障害者の発達課題（家庭、学校、地域社会）　（担当　松中）		
授業方法	レジュメを配布する。		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論や発表を行い、実践的に理解する。		
授業外学習	なし		
教科書	授業で資料を配布する		
参考書	未定		
評価方法	授業への参加度４０％　　レポート課題６０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	視覚障害に関する、その病因や病態について、系統的な学習を行うとともに、子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な心身の課題と教育的な関わり方について、系統的に課題を取り上げるため、小児科専門医、小児神経専門医である教員、及び視覚障害児者への教育・研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

No.	678	科目コード	67050
科目名	聴覚障害者の心理・生理・病理	授業コード	9316597
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	聴覚障害についての医学的な基本事項について理解する。 聴覚障害者の心理について理解し、支援計画が立案できる。		
授業概要	聴覚器官の解剖・生理、聴力検査法、聴力障害の原因疾患について講術する。 また、聴覚障害者の心理について概説する。		
授業計画	第１回 聴覚器官の解剖・生理　（担当　原田） 第２回 聴力検査と診断法　（担当　原田） 第３回 聴覚障害の原因疾患　（担当　原田） 第４回 聴覚障害児の言語・認知発達　（担当　西山） 第５回 聴覚障害児の学力と社会性の発達　（担当　西山） 第６回 手記からみた聴覚障害者の心理的問題　（担当　西山） 第７回 聴覚障害者の自我発達と障害受容　（担当　西山） 第８回 聴覚障害者の発達課題（家庭、学校、地域社会）　（担当　西山）		
授業方法	レジュメ、画像・動画等を用いて行う		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	逐次課題を提示し、次回の授業で提出を求める		
教科書	資料を配布する		
参考書	聴覚障害学第２版（医学書院）		
評価方法	授業への参加度４０％　　レポート課題６０％		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	医師である教員、聴覚障害教育に経験の深い教員が授業を行う		

No.	679	科目コード	67060
科目名	重複障害者等の心理・生理・病理	授業コード	9316608
教員名	原田　大輔		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について学ぶ。 重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の心理について理解を深める。		
授業概要	重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について講術する。また、重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の心理について概説する。		
授業計画	第１回　　重複障害の種類と考え方　　（担当：原田） 第２回　　情緒障害の種類と考え方　　（担当：原田） 第３回　　言語障害の種類と考え方　　（担当：原田） 第４回　　発達障害の種類と考え方　　（担当：原田） 第５回　　重複障害の定義と種類　　（担当：原） 第６回　　重複障害児の心理　　（担当：原） 第７回　　情緒障害の定義と種類　　（担当：原） 第８回　　情緒障害の心理と支援　　（担当：原） 第９回　　発達障害の心理と支援　　（担当：原田） 第１０回　　言語障害の支援の実際　　（担当：原田） 第１１回　　発達障害の支援の実際　　（担当：原田） 第１２回　　LD の定義と LD 児の心理　　（担当：原） 第１３回　　ADHD の定義と ADHD 児の心理　　（担当：原） 第１４回　　高機能自閉症等の定義とその特徴　　（担当：原） 第１５回　　発達障害児の心理的評価　　（担当：原） ※授業の順番については変わることがある。 レジュメ、画像、動画などを用いて行う		
授業方法	レジュメ、画像、動画などを用いて行う		
アクティブラーニングの視点	授業の中で、適宜デイスカッション課題を出して、話し合いを行わせ、理解を深める。		
授業外学習			
教科書	教科書　　レジュメを配布する。		
参考書	発達障害児の学校生活を支える・教育保健マニュアル（診断と治療社）		
評価方法	授業への参加状況（40%）、及び適宜提示する課題へのレポート（60%）を合わせて評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	種々の重複障害を持ちながら学校に通う学齢期の子どもたちについて、その病因や子どもから成人期までの心身の発達の系統的な学習を展開するため、また子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な健康課題とその関わり方についての授業を行うため、小児科専門医、小児神経専門医である教員、及び重複障害児者の教育及びその研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

No.	680	科目コード	67070
科目名	視覚障害教育論	授業コード	9316710
教員名	正井　隆晶		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・視覚障害教育の現在の制度及び教育課程について説明できる。 ・視覚障害の生理，病理及び心理の基礎的な事項について説明できる ・盲，弱視，視覚障害と他の障害との重複障害，中途視覚障害など，それぞれへの指導内容や方法等の違いについて説明できる。		
授業概要	視覚障害の生理，病理及び心理について解説し，理解が深まるようにシミュレーションも取り入れた授業を行う。視覚障害教育の指導内容や方法では，視覚特別支援学校での指導経験で培った知見を取り入れた指導を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション・視覚障がいがある児童生徒の学びの場と教育課程 （視覚支援学校(盲学校)の概要／特別支援学級・通級による指導の概要／教育課程程／カリキュラムマネジメント／個別の指導計画） 【次回に向けて】視力検査や視野検査について調べておきましょう 第２回　眼の生理と視機能評価の基礎知識 （眼の構造と視機能／視覚の発達／視力検査／視野検査） 【次回に向けて】視覚障害について調べておきましょう 第３回　眼の病理と視覚障害 （視覚障害の病理／弱視体験と注意点／シミュレーション／視覚障害とは／盲と弱視の定義） 【次回に向けて】弱視への教育的配慮の基本について調べておきましょう 第４回　アセスメントと弱視への指導 （教育的視機能評価／弱視への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫） 【次回に向けて】盲への教育的配慮の基本について調べておきましょう 第５回　アセスメントと盲への指導 （盲への教育的配慮の基本／点字の学び／教科での教材・教具の工夫） （※時間があればスポーツも取り上げます※） 【次回に向けて】自立活動について調べておきましょう 第６回　自立活動の指導 （弱視：弱視レンズ指導／盲：墨字指導・触察の指導／共通：・PC・歩行指導） 【次回に向けて】盲聾重複障害と視覚・知的重複障害について調べておきましょう 第７回　重複障害への指導 （盲聾重複障害と視覚・知的重複障害への指導の実際） 【次回に向けて】視覚特別支援学校の職業課程やセンター的機能について調べておきましょう 第８回　職業課程と視覚特別支援学校のキャリア教育・センター的役割（教育相談） （職業課程の概要と中途視覚障害者／キャリア教育／センター的役割と教育相談）		
授業方法	講義形式で行うが、一部実習にも取り組む。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク）、まとめプリントの活用など		
授業外学習	授業時間前にシラバスに示されている内容について、１時間以上の準備学修を行うこと。また、授業後は、１時間以上の復習をして、配布テキストに書き込む形でまとめを行うこと。		
教科書	毎時間、印刷したテキストを配布する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	まとめプリント 40%、授業中に行う小テスト 40%、授業への参加度を 20%の割合で評価する。授業への参加度は、ペアワーワークなどでの発表やコミュニケーションカードから評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	視覚障害特別支援学校での実務経験を生かして、実際に取り組んだ授業内容や授業での工夫なども紹介する。		

No.	681	科目コード	67080
科目名	聴覚障害教育論	授業コード	9325823
教員名	藤原　彰子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	聴覚障害教育の歴史、現状と課題、内容と方法について、基礎的な知識を身につけることを目標とする。		
授業概要	聴覚障害教育の歴史、現状と課題、内容と方法について論じ、聴覚障害教育の在り方を検討する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（評価法と講義目的について） 聴覚障害の定義と聴覚障害児教育 第２回　きこえのしくみと教育的支援 第３回　聴覚障害教育の歴史 第４回　聴覚障害児の言語・コミュニケーション指導（手話法・口話法） 第５回　聴覚障害教育の課程と学習指導 第６回　聴覚障害児の自立活動 第７回　聴覚障害児の保護者支援 第８回　聴覚障害教育の現状と課題		
授業方法	資料をベースに、教員としての体験をふまえて講述し、基礎的知識や用語の理解を深める。 毎回の授業終了時にコミュニケーションシートを提出し、次回の授業での解説を通して、更に発展的な知識の習得や情報の共有化を図る。		
アクティブラーニングの視点	小テスト、レポート、コミュニケーションシートなどで理解度を確認し、グループワークで指文字や手話、実践上の工夫等を学び合う。		
授業外学習	日ごろからさまざまなメディアからの聴覚障害に関する事項への関心を深めておくこと。 基礎的事項について、小テストを２回実施し、中間、最終レポートの提出を求める。		
教科書	必要な資料を適宜配付する。		
参考書	・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省／2018 年３月 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省／2018 年３月		
評価方法	授業への参加度（50%）、小テスト（20%）、中間・最終レポート（30 %）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	聴覚支援学校において、教科指導や自立活動を担当し、学校管理職及び教育委員会、教育センターでの勤務経験を有する教員が、聴覚障害教育の概要について解説する。		

No.	682	科目コード	67090
科目名	重複障害者等教育論	授業コード	9316834
教員名	松久　眞実		
授業種別	集中	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	重複障害、情緒障害、言語障害、発達障害の教育の歴史、現状と課題、内容と方法についての基礎的な知識を身につけることを目標とする。		
授業概要	重複障害、情緒障害、言語障害、発達障害の教育の歴史、現状と課題、内容と方法について論じ、各教育の在り方を検討する。		
授業計画	第１回　　重複障害教育の歴史と今日的課題　（担当：原　一正） 第２回　　重複障害のある児童生徒の学校教育とその実際　（担当：原　一正） 第３回　　重複障害教育における教育課程の編成と自立活動について　（担当：原　一正） 第４回　　情緒障害教育の歴史と今日的課題　（担当：原　一正） 第５回　　情緒障害児の障害特性の理解とその指導・支援について　（担当：原　一正） 第６回　　情緒障害のある子どもの学校教育における実際の指導　（担当：原　一正） 第７回　　言語障害教育の現状と課題　（担当：原　一正） 第８回　　言語障害教育の歴史　（担当：原　一正） 第９回　　言語障害教育の教育課程と個別の指導計画　（担当：原　一正） 第１０回　言語障害児の指導の実際　（担当：原　一正） 第１１回　発達障害児教育の歴史と現状と課題　（担当：松久眞実） 第１２回　LD、ADHD のある児童の個別の指導計画と指導の実際　（担当：松久眞実） 第１３回　自閉スペクトラム症のある児童の個別の指導計画と指導の実際　（担当：松久眞実） 第１４回　発達障害のある子どもが在籍する学級での支援　（担当：松久眞実） 第１５回　障害のある子どもの保護者への支援　（担当：松久眞実）		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。		
授業外学習	各講義内容にそった課題を、レポートにまとめ提出する。		
教科書	重複障害者等教育論、須田　正信　編		
参考書	授業中に紹介する。		
評価方法	第４回目後のレポート（２５％）、第８回目後のレポート（２５％）、第１２回目後のレポート（２５％）、第１５回目後のレポート（２５％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	683	科目コード	67100
科目名	障害者福祉論	授業コード	9325845
教員名	当山　哲司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・特別支援教育の立場から、障害者福祉の基本的な考え方や制度の概要を知る。 ・障害者福祉と特別支援教育に係る関係機関との連携・協力の在り方やその必要性が分かる。 ・特別支援教育の立場から、障害児･者への理解とより良い支援の在り方及び障害児･者の「生活支援」や「自立支援」について考え、共生社会を形成する取り組みの主体者としての資質を培う。		
授業概要	障害児・者に対する教育と医療・保健･福祉･労働等関係機関との連携･協力が必要不可欠であることから、特別支援学校教員免許の取得を目指す学生にとって、障害者福祉に係る制度や関係事業の知見を有する事は重要である。 本授業では、「障害」の概念規定の理解を通して、学生個々の障害者観を自意識させることから始め、「障害種別ごとの理解･支援を礎にした利用者ニーズに合わせた支援の在り方」や「障害者福祉に関する基本的な理念･考え方」、「障害者福祉サービスの概要や教育と保健･医療･福祉･労働機関等の連携･協力による生活支援と自立支援の実際」、「相談支援と発達支援の概要や人権侵害について」、「地域移行支援の理解と実際」などの内容に取組み、共生社会を形成する当事者としての基礎的な資質を培うことを目的として、講義やレポート提出課題（ワークショップ）、研究協議（履修学生間交流）などを通して授業を行う。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション及び障害者福祉に関する基本的な考え方 第２回　　障害福祉の歴史と現状 第３回　　障害者福祉と特別支援教育の関係 第４回　　障害者福祉と特別支援教育の関係 第５回　　生活支援及び自立支援の理解と実際（身体障害） 第６回　　生活支援及び自立支援の理解と実際（知的障害） 第７回　　生活支援及び自立支援の理解と実際（精神障害者） 第８回　　第 1～7 回授業の振り返りワークと解説及び特別支援教育の実際（教育における障害種と学校種や特別支援教育の現状など） 第９回　　第 1～7 回授業の振り返りワークと解説及び特別支援教育の実際（教育における障害種と学校種や特別支援教育の現状など） 第 10 回　　障害者福祉サービス①相談支援の理解と実際 第 11 回　　障害者福祉サービス②相談支援の理解と実際 第 12 回　　障害者福祉サービス③発達支援の理解と実際 第 13 回　　障害者福祉サービス④発達支援の理解と実際 第 14 回　　障害者福祉サービス⑤地域移行支援の理解と実際 第 15 回　　第 9～14 回授業の振り返りワークとまとめ		
授業方法	講義、レポート提出課題（ワークショップ）、研究協議（グループワークなど履修学生間交流）		
アクティブラーニングの視点	レポート提出課題を通して、論作文等の作成や発表、グループ討議などを行う。		
授業外学習	授業内容に関連するレポート提出課題の内容は、障害者福祉･医療・教育の現場に則した教材を準備する。レポート提出課題は、授業教材として活用し、次時の授業で履修学生間で交流するとともに解説を行い、学習内容の深化拡充を行う。適宜、関係資料のレジュメを配布する。		
教科書	なし		
参考書	なし		
評価方法	30%出席点+40%授業態度･学習姿勢+30%課題提出物＝100%で単位習得評価		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小･中・特別支援学校現場における福祉との連携した取組や教育委員会指導主事・特別支援学校長としての関係機関間の連携･協力の推進･充実を目指した経験を活かし、障害児・者の福祉及特別支援教育との関係について授業を行う。		

No.	684	科目コード	67110
科目名	発達障害等教育総論	授業コード	9325856
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	通常の学級に在籍する発達障害のある子どもに関する基本的な理解と、最近の知見について学ぶ。さらに学校における認知面、学習面、行動面の特徴をふまえ、支援の方法を事例的に検討し理解を深める。		
授業概要	LD 等の発達障害のある子どもに対する教育的支援について理解するとともに、そのあり方について考えることをねらいとして、発達障害の障害特性を概説したうえで、それらの子どもが示す学習上の困難、発達上の困難、学校生活上の困難およびそれらに対する教育的支援について講義する。		
授業計画	第１回　　特別支援教育のあり方 第２回　　特別支援教育の歴史と制度 第３回　　発達障害とは 第４回　　LD の定義 第５回　　LD のある子どもの指導法 第６回　　ADHD の定義 第７回　　ADHD のある子どもの指導法 第８回　　自閉症スペクトラム障害の定義 第９回　　自閉症スペクトラム障害のある子どもの指導法 第１０回　発達障害のある子どもが在籍する学級づくりとは（1） 第１１回　発達障害のある子どもが在籍する学級づくりとは（2） 第１２回　心理検査・心理アセスメントとは 第１３回　ソーシャルスキルトレーニング（1） 第１４回　ソーシャルスキルトレーニング（2） 第１５回　発達障害のある子どもの保護者への支援		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は４名から６名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。		
授業外学習	各講義内容にあった課題を、レポートにまとめて提出する。		
教科書	発達障害の子どもとあったかクラスづくり 通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン 明治図書		
参考書	「よくわかる障害児教育」ミネルバ書房		
評価方法	授業への参加度 20%　授業中の小レポート 35%　課題・期末レポート 45%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

No.	685	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9316876
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。		
授業概要	事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。 事後：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回　　特別支援学校における教育実習の意義と目的 ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 第２回　　特別支援学校における教育活動および教員の職務 ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 第３回　　特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応１ ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第４回　　特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応２ ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第５回　　教育実習の具体的内容 ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 第６回　学習指導案作成の基本的な考え方及び構成 ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 第７回　肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第８回　知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第９回　指導案作成のまとめと留意点 第 10 回　　特別支援学校における学部・学級経営 ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 第 11 回　　生徒指導及び保護者理解 ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 第 12 回　教育実習における課題と教育実習の意義の確認 第 13 回　ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。 ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 第 14 回　全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。 第 15 回　教育実習に関する事務的な説明およびその習得 ※第１回から第４回までは、実地研修の準備、第５回から第 15 回には、特別支援学校における実地研修の		

	振り返り・協議も行う。
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等)、振り返りシートの活用
授業外学習	・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	特別支援学校　教育実習ガイドブック　学苑社
参考書	必要に応じて指示。
評価方法	授業への参加度（30%)、学習指導案作成等（20%)、教育実習の成果の整理（30%)「実地研修」活動（20%) 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。)「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。
既修条件	原則として、教育実習１，２（幼)、または教育実習１，２（小)、または教育実習１（中・高)、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ，Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ，Ⅱ、病弱教育論
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政、高等学校教諭び特別支援学校校長としての勤務経験を活かし、教員となる学生の資質・能力向上に関する本科目の授業を計画・実施する。

No.	686	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9316877
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。		
授業概要	事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。 事後：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回　　特別支援学校における教育実習の意義と目的 ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 第２回　　特別支援学校における教育活動および教員の職務 ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 第３回　　特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応１ ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第４回　　特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応２ ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第５回　　教育実習の具体的内容 ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 第６回　学習指導案作成の基本的な考え方及び構成 ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 第７回　肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第８回　知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第９回　指導案作成のまとめと留意点 第 10 回　　特別支援学校における学部・学級経営 ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 第 11 回　　生徒指導及び保護者理解 ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 第 12 回　教育実習における課題と教育実習の意義の確認 第 13 回　ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。 ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 第 14 回　全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。 第 15 回　教育実習に関する事務的な説明およびその習得 ※第１回から第４回までは、実地研修の準備、第５回から第 15 回には、特別支援学校における実地研修の		

	振り返り・協議も行う。
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等)、振り返りシートの活用
授業外学習	・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	なし
参考書	必要に応じて指示。
評価方法	授業への参加度（30%)、学習指導案作成等（20%)、教育実習の成果の整理（30%)「実地研修」活動（20%) 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。)「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。
既修条件	原則として、教育実習１，２（幼)、または教育実習１，２（小)、または教育実習１（中・高)、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ，Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ，Ⅱ、病弱教育論
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。教員となる学生の資質・能力向上に関する本科目の授業を計画・実施する。

No.	687	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9317015
教員名	後藤　由枝		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。		
授業概要	事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。 事後：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回　　特別支援学校における教育実習の意義と目的 ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 第２回　　特別支援学校における教育活動および教員の職務 ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 第３回　　特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応１ ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第４回　　特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応２ ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第５回　　教育実習の具体的内容 ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 第６回　学習指導案作成の基本的な考え方及び構成 ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 第７回　肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第８回　知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第９回　指導案作成のまとめと留意点 第 10 回　　特別支援学校における学部・学級経営 ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 第 11 回　　生徒指導及び保護者理解 ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 第 12 回　教育実習における課題と教育実習の意義の確認 第 13 回　ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。 ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 第 14 回　全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。 第 15 回　教育実習に関する事務的な説明およびその習得 ※第１回から第４回までは、実地研修の準備、第５回から第 15 回には、特別支援学校における実地研修の		

	振り返り・協議も行う。
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等)、振り返りシートの活用
授業外学習	・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	特別支援学校　教育実習ガイドブック　学苑社
参考書	必要に応じて指示。
評価方法	授業への参加度（30%)、学習指導案作成等（20%)、教育実習の成果の整理（30%)「実地研修」活動（20%) 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。)「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。
既修条件	原則として、教育実習１，２（幼)、または教育実習１，２（小)、または教育実習１（中・高)、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ，Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ，Ⅱ、病弱教育論
実務経験のある教員による授業	

No.	688	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9325878
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。		
授業概要	事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。 事後：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回　　特別支援学校における教育実習の意義と目的 ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 第２回　　特別支援学校における教育活動および教員の職務 ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 第３回　　特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応１ ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第４回　　特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応２ ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第５回　　教育実習の具体的内容 ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 第６回　学習指導案作成の基本的な考え方及び構成 ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 第７回　肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第８回　知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第９回　指導案作成のまとめと留意点 第 10 回　　特別支援学校における学部・学級経営 ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 第 11 回　　生徒指導及び保護者理解 ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 第 12 回　教育実習における課題と教育実習の意義の確認 第 13 回　ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。 ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 第 14 回　全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。 第 15 回　教育実習に関する事務的な説明およびその習得 ※第１回から第４回までは、実地研修の準備、第５回から第 15 回には、特別支援学校における実地研修の		

	振り返り・協議も行う。
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等)、振り返りシートの活用
授業外学習	・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	特別支援学校　教育実習ガイドブック　学苑社
参考書	必要に応じて指示。
評価方法	授業への参加度（30%)、学習指導案作成等（20%)、教育実習の成果の整理（30%)「実地研修」活動（20%) 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。)「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。
既修条件	原則として、教育実習１，２（幼)、または教育実習１，２（小)、または教育実習１（中・高)、特別支援教育、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ，Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ，Ⅱ、病弱教育論
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政、高等学校教諭び特別支援学校校長としての勤務経験を活かし、教員となる学生の資質・能力向上に関する本科目の授業を計画・実施する。

No.	689	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9325879
教員名	松久　眞実		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。		
授業概要	事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。 事後：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回　　特別支援学校における教育実習の意義と目的 ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 第２回　　特別支援学校における教育活動および教員の職務 ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 第３回　　特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応１ ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第４回　　特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応２ ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第５回　　教育実習の具体的内容 ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 第６回　学習指導案作成の基本的な考え方及び構成 ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 第７回　肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第８回　知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第９回　指導案作成のまとめと留意点 第 10 回　　特別支援学校における学部・学級経営 ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 第 11 回　　生徒指導及び保護者理解 ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 第 12 回　教育実習における課題と教育実習の意義の確認 第 13 回　ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。 ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 第 14 回　全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。 第 15 回　教育実習に関する事務的な説明およびその習得 ※第１回から第４回までは、実地研修の準備、第５回から第 15 回には、特別支援学校における実地研修の		

	振り返り・協議も行う。
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等)、振り返りシートの活用
授業外学習	・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	なし
参考書	必要に応じて指示。
評価方法	授業への参加度（30%)、学習指導案作成等（20%)、教育実習の成果の整理（30%)「実地研修」活動（20%) 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。)「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。
既修条件	原則として、教育実習１，２（幼)、または教育実習１，２（小)、または教育実習１（中・高)、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ，Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ，Ⅱ、病弱教育論
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28 年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。教員となる学生の資質・能力向上に関する本科目の授業を計画・実施する。

No.	690	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9325881
教員名	後藤　由枝		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	1
履修年次	3	学期	2023 年度 後期～2024 年度 前期
到達目標	・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。		
授業概要	事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。 事後：報告書の作成と体験発表を行う。		
授業計画	第１回　　特別支援学校における教育実習の意義と目的 ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 第２回　　特別支援学校における教育活動および教員の職務 ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 第３回　　特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応１ ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第４回　　特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応２ ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 第５回　　教育実習の具体的内容 ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 第６回　学習指導案作成の基本的な考え方及び構成 ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 第７回　肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第８回　知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む） ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 第９回　指導案作成のまとめと留意点 第 10 回　　特別支援学校における学部・学級経営 ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 第 11 回　　生徒指導及び保護者理解 ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 第 12 回　教育実習における課題と教育実習の意義の確認 第 13 回　ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。 ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 第 14 回　全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。 第 15 回　教育実習に関する事務的な説明およびその習得 ※第１回から第４回までは、実地研修の準備、第５回から第 15 回には、特別支援学校における実地研修の		

	振り返り・協議も行う。
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等)、振り返りシートの活用
授業外学習	・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	特別支援学校　教育実習ガイドブック　学苑社
参考書	必要に応じて指示。
評価方法	授業への参加度（30%)、学習指導案作成等（20%)、教育実習の成果の整理（30%)「実地研修」活動（20%) 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。)「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。
既修条件	原則として、教育実習１，２（幼)、または教育実習１，２（小)、または教育実習１（中・高)、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ，Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ，Ⅱ、病弱教育論
実務経験のある教員による授業	

No.	691	科目コード	68097
科目名	日本語教育事情	授業コード	9316180
教員名	中島　梓		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	1	学期	2023 年度 後期
到達目標	・日本語を母語としない学習者を対象にした日本語教育の現状について説明できる ・国内における日本語教育の概要が説明できる ・海外における日本語教育の概要が説明できる ・地域日本語教育について説明できる ・年少者に対する日本語教育について説明できる		
授業概要	現在、日本国内はもちろん、海外においても日本語学習者は増加傾向にあるが、その学習目的や学習者が置かれている状況は多様化している。学習者の学習目的等が異なれば、日本語教授方法は異なるため、日本語教師になるためには、それに対応する知識と能力が必要である。本授業では、多様化する日本語教育の現状を知るとともに、日本語を教える上でどのようなことを知っておくべきなのか、学生の皆さんと考えていきたい。		
授業計画	第１回　オリエンテーション、日本語教育とは、国語教育との違い 第２回　日本語教師の資格とは、日本語教師に求められる知識 第３回　日本語教育の概要（国内編）、日本学習者数と学習目的 第４回　留学生とは、留学生に対する日本語教育 第５回　国内における日本語教育の問題点 第６回　日本語教育の概要（海外編）、日本語学習者数と学習目的 第７回　中国・韓国における日本語教育 第８回　インドネシア・マレーシアにおける日本語教育 第９回　海外における日本語教育の問題点 第 10 回　地域日本語教育とは 第 11 回　ボランティア日本語教師 第 12 回　やさしい日本語 第 13 回　地域日本語教育の問題点 第 14 回　外国人児童生徒に対する日本語教育 第 15 回　多様化する日本語教育を振り返る、日本語教育の問題点を考える		
授業方法	講義形式が中心となるが、発表など主体的に学ぶ活動も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	毎授業前に、当該授業回テーマについて２時間以上の準備学修を行うこと。 また、毎授業後に、当該授業回で学習した内容について２時間以上復習し、800 文字以上のレポートにまとめること。		
教科書	特に指定せず、授業内にレジュメ等を配布する。		
参考書	授業中に適宜、紹介する。		
評価方法	授業中に行う小テスト 20%、期末レポート 30%、発表 30%、授業への参加度を 20%の割合で評価する。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。小テストは採点後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	日本学生支援機構東京日本語教育センター日本語講師、青年海外協力隊日本語教師、国際交流基金派遣専門家として日本語教員の経験を有する者が、その経験を活かして、日本語教育事情について講義を行う。		

No.	692	科目コード	68098
科目名	第二言語習得論	授業コード	9316188
教員名	山田　勇人		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 前期
到達目標	・第二言語習得研究の意義について説明できる ・第二言語習得研究の理論と変遷について説明できる ・日本語学習者の日本語の定着を阻む要因について説明できる ・第二言語習得研究を踏まえ、日本語教師がやるべきことが説明できる		
授業概要	本授業では、第二言語習得について理解を深めるとともに、その理論を日本語教育の現場にをのように生かせばいいか考える。例えば、学習者の日本語定着を拒む要因については、学習者の言語適性能力、母語、学習動機、学習者の性格、学習スタイルなどの観点から研究が行われている。また、日本語教育で行われている文法説明もその必要性の有無が議論になっている。これらの事象について、先行研究を紹介した上で、実際の授業をどのように展開するべきか考えたい。		
授業計画	第１回　オリエンテーション、第二言語習得とは 第２回　学習者が習得すべき言語能力、コミュニカティブコンピテンスとは 第３回　自然習得と教室習得 第４回　学習者の誤用 第５回　母語の干渉 第６回　言語適性 第７回　動機付け 第８回　言語学習と年齢、臨界期とは 第９回　学習者の性格、学習スタイル 第 10 回　教授法の違いによる習得の差 第 11 回　文法説明は必要か 第 12 回　インプットとアウトプット 第 13 回　タスクと TBLT 第 14 回　教師のフィードバック 第 15 回　習得を促進する教授法とは		
授業方法	講義形式が中心となるが、発表など主体的に学ぶ活動も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	毎授業前に、当該授業回テーマについて２時間以上の準備学修を行うこと。 また、毎授業後に、当該授業回で学習した内容について２時間以上復習し、800 文字以上のレポートにまとめること。		
教科書	特に指定せず、授業内にレジュメ等を配布する。		
参考書	授業中に適宜、紹介する。		
評価方法	授業中に行う小テスト 20%、期末レポート 30%、発表 30%、授業への参加度を 20%の割合で評価する。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。小テストは採点後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	日本学生支援機構東京日本語教育センター日本語講師、青年海外協力隊日本語教師、国際交流基金派遣専門家として日本語教員の経験を有する者が、その経験を活かして、第二言語習得について講義を行う。		

No.	693	科目コード	68099
科目名	日本語教授法	授業コード	9316236
教員名	山田　勇人		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・日本語教育（外国語教育）で用いられている様々な教授法について説明ができる ・オーディオリンガルメソッドとコミュニカティブアプローチの長所と短所が説明できる ・ナチュラルアプローチについて説明できる ・シラバスについて説明できる ・年少者のための教授法について説明できる		
授業概要	日本語教育（外国語教育）においては、これまで様々な教授法が提唱されてきた。本授業では、それら教授法についての理解を深める。そして、日本語教育で主流の教授法となっているオーディオリンガルメソッドとコミュニカティブアプローチを取り上げ、その特徴や問題点を考えたい。また、タスク中心の教授法にも触れ、これまでの教授法の違いを理解する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション、教授法とは 第２回　直接法とは、媒介語を使用した間接法との違い 第３回　様々な教授法①　文法訳読法、グアン式メソッド 第４回　様々な教授法②　オーディオリンガルメソッド 第５回　様々な教授法③　コミュニカティブアプローチ 第６回　様々な教授法④　ナチュラルアプローチなど 第７回　シラバスを考える①　構造シラバス、場面シラバス 第８回　シラバスを考える②　タスクシラバス 第９回　教授法と教科書 第 10 回　話すことの指導 第 11 回　聞くことの指導 第 12 回　書くことの指導 第 13 回　読むことの指導 第 14 回　年少者に対する指導 第 15 回　多様化する学習者と教授法		
授業方法	講義形式が中心となるが、発表など主体的に学ぶ活動も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	毎授業前に、当該授業回テーマについて２時間以上の準備学修を行うこと。 また、毎授業後に、当該授業回で学習した内容について２時間以上復習し、800 文字以上のレポートにまとめること。		
教科書	特に指定せず、授業内にレジュメ等を配布する。		
参考書	授業中に適宜、紹介する。		
評価方法	授業中に行う小テスト 20%、期末レポート 30%、発表 30%、授業への参加度を 20%の割合で評価する。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。小テストは採点後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	日本学生支援機構東京日本語教育センター日本語講師、青年海外協力隊日本語教師、国際交流基金派遣専門家として日本語教員の経験を有する者が、その経験を活かして、日本語教授法について講義を行う。		

No.	694	科目コード	68100
科目名	日本語教育演習	授業コード	9325259
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	日本語を教えるための知識・技能について理解することができる。 日本語教育の実践に向けて，その内容を分析・開発する足がかりを得ることができる。 日本語を教えるための教材・教案作成を行うことができる。		
授業概要	日本語教師にとって必要な知識である，第二言語習得論の基礎を学びながら，実際の授業について考え，教案や教材の作成を行う。さらに，教育実習に向けて，作成した教案を用いてグループで模擬授業を行い，授業スキル，学生対応等について学ぶ。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション　授業の概要，グループ分け　　第 1 章　第二言語習得論（SLA）とは 第 2 回　第 2 章　二つの言語習得観と言語移転のとらえ方 第 3 回　第 3 章　「エラー」のとらえ方の変遷 第 4 回　第 4 章　SLA の認知プロセス 第 5 回　第 5 章　個人差が SLA に与える影響 第 6 回　第 6 章　SLA の環境と特徴 第 7 回　第 7 章　社会とつながる SLA 研究 第 8 回　第 8 章　CLD 児の言語習得 第 9 回　第 9 章　CLD 児への教育と支援 第 10 回　第 10・11 章　SLA 研究に基づく日本語指導（1）（2） 第 11 回　第 12 章　SLA と評価 第 12 回　教案作成 第 13 回　教案作成 第 14 回　模擬授業 第 15 回　模擬授業		
授業方法	グループワークを中心に授業を進める。 グループによる担当章のまとめ発表の後，全体で討論を行い，知識を深める。 模擬授業のための教案作成や教材準備を行うこと。		
アクティブラーニングの視点	グループによる共同学習，発表，全体での討論を繰り返して，知識の深まりと定着を目指す。		
授業外学習	毎週，教科書の該当箇所を予習し，疑問点や自身の意見を明確にしてくること。 教科書の章をグループごとに担当し，概要をまとめて発表してもらうため，担当週までに発表資料を準備すること。		
教科書	『超基礎　第二言語習得研究』奥野由紀子編著，2021 年，くろしお出版		
参考書	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』大関浩美，2010 年，くろしお出版 『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』小柳かおる，2020 年，くろしお出版		
評価方法	グループ発表 30%，模擬授業 40%，授業内での意見発表やコメントシート 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	695	科目コード	68101
科目名	日本語教育実習	授業コード	9316735
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・日本語教育の実践に向けて，指導案を構想することができる。 ・日本語教育の現場を知り，授業に活かすことができる。		
授業概要	・日本語教育の現場で行われている授業や，使用されている教科書を分析することを通して，授業内容について理解し，実践に活かす。 ・日本語教育機関に見学に行き，実際の授業について知り，理解を深める。 ・授業や教科書分析，日本語教育機関の見学を通して得られた知見を基に，教案を作成し実習授業を行う。		
授業計画	第 1 回オリエンテーション 第 2 回授業観察の確認と日本語教育授業見学について 第 3 回日本語教育授業見学 第 4 回日本語教育授業見学 第 5 回日本語教育授業見学 第 6 回授業見学の意見交換会、教材研究・教案作成 第 7 回授業分析と教科書分析 第 8 回授業分析と教科書分析 第 9 回マイクロ・ティーチング（実技演習） 第 10 回マイクロ・ティーチング（実技演習） 第 11 回マイクロ・ティーチング（実技演習） 第 12 回実習授業 第 13 回実習授業 第 14 回実習授業 第 15 回実習授業		
授業方法	基本的には演習形式で行うが，一部講義も実施する。 日本語教育授業見学(桃山学院大学)，実習授業(伊賀市「外国につながる児童生徒のためのセミナー」）は学外で行う。 実習授業は，8 月初旬に 2 日間（10:00～16:00），1 月初旬に 1 日間（10:00～16:00）実施し，外国にルーツのある子どもたちを対象に授業を行う予定である。 授業見学，実習授業にかかる費用（交通費等）は，受講生が負担する。詳細については，第 1 回オリエンテーションで示す。		
アクティブラーニングの視点	教材研究，教案作成，発表，討論を通して日本語教育の授業に関する理解を深める。		
授業外学習	教案作成や教材準備，実習見学観察記録を各自，またはグループで作成する。		
教科書	授業中に適宜指示する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加　10% 授業分析報告書、教科書分析、日本語教育機関見学報告書、教案　60% 実習準備と実習活動　30%		
既修条件	日本語学概論、第二言語習得論 、日本語教授法、日本語教育演習を履修していること		
実務経験のある教員による授業			

No.	696	科目コード	68102
科目名	日英比較言語学	授業コード	9325264
教員名	吉田　幸治		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	2	学期	2023 年度 後期
到達目標	・言語学の基礎知識を利用してことばの分析ができる。 ・日本語と英語に関する基礎的な音声、語彙、文法、意味などについて説明ができる。 ・ことばの背景について考えるための視点を説明できる。		
授業概要	言語学は経験科学の一分野とみなされている学問分野であり、言語の構造と意味を中心にその仕組みを理解することを目標としている。言語学はかなりの研究史を有していることもあって、既に標準的なものとして確立されている分析法が存在する。この授業では、言語学的手法を用いて日本語と英語を様々な視点から比較考察し、表面的な言語間の差異を超えて存在する通言語的な特性を理解することを目的とする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（授業内容、授業目標、評価方法の説明） 第２回　音声学・音韻論（言語における音と音に関連する法則・規則） 第３回　世界のことば（世界の個別言語とそれらの系統について） 第４回　形態論（単語の構成、複合語など） 第５回　統語論（句構造、樹形図、移動現象など） 第６回　意味論（意味の分類、形式意味論、指示関係など） 第７回　語用論（発話意図、遂行分析、関連性理論など） 第８回　言語変化（言語変化の要因、若者言葉、変化の方向性など） 第９回　社会言語学（サピア・ウォーフの仮説、RP・GA、社会階層と言語など） 第 10 回　ことばと文化（共通語、国際語、地理、歴史,など） 第 11 回　言語獲得・言語と脳（発達心理学、脳の分野、失語症、fMRI など） 第 12 回　情報構造（主題・評言、旧情報・新情報、「は」と「が」など） 第 13 回　言語と認知（F/G、Trajector/Landmark、ICM など） 第 14 回　関連諸分野（歴史、社会、神経科学、生物言語学など） 第 15 回　総復習		
授業方法	講義形式で行う。２回に一回の頻度で小テストを行う。		
アクティブラーニングの視点	授業内で解説した概念を利用して、課題に対する議論と解決のためのペアワークまたはグループワークを行う。		
授業外学習	基本概念を中心とする予習（45 分） 概念と手法を整理するための復習（45 分）		
教科書	瀬田 幸人・ 外池 滋生・中島 平三・保阪 靖人（著）『入門ことばの世界』　大修館書店　2010 年 12 月		
参考書	各種の言語学事典、英語辞典（授業の最初で解説します）		
評価方法	期末レポート 60%（後日講評を公開） 小テスト 30%（２回に一度の頻度で実施） 授業内での作業 10%（質問、意見、ディスカッションなどを評価）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	697	科目コード	66020
科目名	学校経営と学校図書館	授業コード	9316893
教員名	内川　育子		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・学校図書館の教育意義や経営など全般的事項について理解し、述べることができる。 ・学校図書館が学校教育に果たす役割を認識し、豊かな学校図書館像をイメージできる。 ・司書教諭の役割について具体的に説明できる。		
授業概要	本講義では、学校図書館に関して基本的・総論的な内容を取り上げる。学校図書館の成立・発展を歴史的にとらえ、図書館の意義や理念、現状と課題を明らかにする。また、学校図書館法の中身や優れた実践等を通して学校図書館経営や司書教諭の職務について考察できるよう解説する。学校図書館活動、図書館を活用した授業、それを可能にする校内体制、公共図書館との連携についても述べる。		
授業計画	1. 学校図書館とは何か；司書教諭に求められる視点 2. 学校図書館とは何か；「ユネスコ学校図書館宣言」の解説と考察 3. 学校図書館の成立と発展；学校図書館の歴史と、戦後の教育改革 4. 学校図書館法；学校図書館の法的根拠及び学校図書館の目的と機能 5. 学校図書館活動　Ⅰ　資料提供と図書館の自由 6. 学校図書館活動　Ⅱ　学校図書館の機能を授業に生かす 7. 学校図書館活動　Ⅲ　広報・行事活動 8. 学校図書館の経営；職員・資料・施設 9. 学校図書館の教育力と可能性 10.　学校図書館を使った授業とは：大学図書館での演習 11.　司書教諭と学校司書の協働 12. 司書教諭の役割と校内体制 13. 学校図書館の現状と施策 14.　図書館ネットワークと公共図書館の役割 15.　生涯学習と学校図書館		
授業方法	講義、討論、レポート、大学図書館での演習		
アクティブラーニングの視点	大学図書館の資料をつかっての演習や、調べ学習の体験。グループワーク、討論を通して問題意識を明確にする。		
授業外学習	教科書は事前に目を通しておく。配布されたレジュメをもとに予習・復習を行う。		
教科書	中村百合子（編）『改訂　学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ－１）樹村房、2022 年		
参考書	塩見昇（編）『学校教育と学校図書館　新訂 3 版』（新編図書館学教育資料集成　学校図書館論）教育史料出版会、2016 年		
評価方法	授業中の提出物 40%、授業中に行う小テスト 30%、授業への参加度 30%　授業への参加度は、教員からの質問への回答や、グループワークや討論に積極的に関わる態度を考慮、かつ的確な内容の発言をより高く評価する。		
既修条件	履修時に 62 単位以上を習得していること。		
実務経験のある教員による授業	学校司書として学校図書館運営にあたり授業や調べ学習を司書教諭と連携して行ってきた経験と、公共図書館司書としての学校図書館支援の経験を活かし、現状を踏まえ、学校図書館全般について講義する。		

No.	698	科目コード	66030
科目名	学校図書館メディアの構成	授業コード	9316006
教員名	山口　賢一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	●学校図書館メディアの全体像を的確に把握できる。 ●適切な資料・情報の選択・収集・整理・保存・提供をうための知識と技術を実際に役てることができる。 ●上記に対して、今後起こりうる社会的および技術的変遷に対応できる知見を得る。 ●他の司書教諭課程科・教職課程科との関連性を理解できる。		
授業概要	学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能の育成を図ることをねらいとして設置された科である。広く図書館界で「資料組織法」と従来称されてきた領域をベースに、学校図書館に即したメディアの組織化に関わる知識や技術を習得するとともに、テクニカルサービスとパブリックサービスに別される図書館サービスの流れについても理解を深める。		
授業計画	第１回 オリエンテーション（評価法や講義の内容、進法についての説明等） 第２回 学校図書館メディアの種類と特性 第３回 学校図書館メディアの収集・選択とその管理 第４回 『学校図書館基本図書録』の活 第５回 コレクション形成 第６回 メディアへのアクセス援 第７回 資料組織化 第８回 分類法概説 第９回 分類法演習 第 10 回 件名法概説 第 11 回 件名法演習 第 12 回 録法概説 第 13 回 録法演習 第 14 回 図書館の施設・利案内・PR 第 15 回 まとめ ※以上の計画は、状況に応じて変更する場合があり，その都度通知する。		
授業方法	講義，調査，資料作成、振り返りとディスカッションの組み合わせ 調査，資料作成のために，インターネットに接続可能な PC を持参することが望ましい		
アクティブラーニングの視点	完全な講義形式ではなく学からの意を引き出し、ディスカッション形式も取りれる。 学が主体的に考え、それを対話して表現することで理解度を深めることを期待する。 また、学がそうした姿勢や態度を他者にも伝えられるようになることが望ましい。		
授業外学習	●学校図書館に関わる情報（実践や研究の動向、新刊書の出版状況など）の収集を主的にうこと。 ●他学図書館、公図書館、国国会図書館関館などの利経験も（可能な範囲で）積んでおくこと。 ●学校図書館を活用した先進的な実践をっている学校を探し、可能ならば学させてもらうとよい。		
教科書	「学校図書館メディアの構成」,「探求　学校図書館学」編集委員会編著 ,全国学校図書館協議会 ,ISBN978-4-7933-2275-4　https://www.j-sla.or.jp/books/cate6/cate6-004271.html		
参考書	分類法・件名法・録法などテクニカルな要素については、この科のテキストだけでは理解が困難と思われるので、下記の本や「資料組織法」「情報資源組織論」といったタイトルの献を併読することを強く推奨する。 志保務他『分類・録法』（新改訂５版）第法規，2007 など		
評価方法	レポート試験 60%、授業への参加度（授業振り返りの Forms による出席率を含む）40%		
既修条件	履修時に 62 単位以上を修得していること。		
実務経験のある教員による授業	博士（工学）の学位を有し工科系の高等教育機関で約 20 年間授業を行ってきた教員が，自らが所属する「高等教育機関での図書館運営の経験」および「大学での旧司書課程の情報機器論担当の経験」をもとに、学校図書館メディアの構成について解説する。		

No.	699	科目コード	66040
科目名	学習指導と学校図書館	授業コード	9316119
教員名	佐久間　朋子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	学習指導における学校図書館の役割及び利用方法を理解する。 資料活用能力を育成し、実践に生かせる力を習得する。		
授業概要	1.教育課程と学校図書館　2.発達段階に応じた学校図書館メディアの選択　3.児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成　4.学習過程における学校図書館メディア活用の実際　5.学習指導における学校図書館利用　6.情報サービス（レファレンスサービス等）　7.教師への支援と働きかけ　について学修する。 【履修対象者：小・中・高の教職課程履修者】		
授業計画	第１回　ガイダンス　学校図書館の意義と役割 第２回　教育課程の展開と学校図書館 第３回　発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 第４回　情報活用能力の育成の意義と目的 第５回　情報活用能力育成の指導　検索・本について 第６回　情報活用能力育成の指導　参考図書の活用（事典・辞典など） 第７回　情報活用能力育成の指導　参考図書の活用（年鑑・データ・資料集など） 第８回　情報活用能力育成の指導　著作権について 第９回　学習指導と学校図書館利用　探究的な学習（課題の設定･情報の収集） 第１０回　学習指導と学校図書館利用　探究的な学習（整理分析・まとめ・表現） 第１１回　教職員に対する支援と働きかけ 第１２回　学校図書館における情報サービス　（パスファインダーの概要） 第１３回　学校図書館における情報サービス　（パスファインダー作成） 第１４回　学校図書館における情報サービス　（パスファインダー発表） 第１５回　授業まとめ・テスト		
授業方法	授業計画に基づき講義及び演習を行う。 グループ学習・討議も取り入れる。 現場での具体的な情報を提供する。 なお、受講生数、理解度などによって授業計画は変更することもある。		
アクティブラーニングの視点	グループ学習を実施するので、主体的で対話的な協働をすること		
授業外学習	事前学習 学校教育や学校図書館に関心を持って様々なメディアからの情報収集をしておくこと。 小学校・中学校・高等学校の学校図書館について、蔵書構成、授業で使用した経験、サービスなどの活用例をまとめておく。 図書・国語辞典・漢字辞典・図鑑・年鑑・百科事典などの参考図書の種類を調べておく。 パスファインダー作成に利用できる公共図書館で公開されているパスファインダーを Web などで調べておく。 事後学習 配付資料を読みこむこと。授業内容を振り返り課題を完成させる。 国語辞典・漢字辞典・図鑑・年鑑・百科事典などの参考図書の特性を知り、問題解決の様々な方法をまとめる。 探究学習に対してどのような支援が可能かを考え、まとめる。 パスファインダーの構成と効用を理解し、公共図書館 Web サイトなどを参考にしてパスファインダーを作成する。 WebClass に講義の ppt と連絡事項を up するので各自確認し講義にのぞむこと。 授業での配布プリントはしっかり読むこと。		
教科書	プリント配布		
参考書	『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携－理論と実践－新訂版』　全国学校図書館監修　悠光堂		

	978-4-909348-33-3 『思考を深める探究学習－アクティブ･ラーニングの視点で活用する学校図書館』　桑田てるみ著　全国学校図書館協議会　978-4-7933-0095-0
評価方法	筆記テスト５０％　課題(パスファインダー)　３０％　確認小テスト　２０％
既修条件	履修時に 62 単位以上を修得していること。
実務経験のある教員による授業	学校司書として学校図書館運営を行ってきた経験を活かし、現場の現状を踏まえ学校図書館全般について講義する。

No.	700	科目コード	66050
科目名	読書と豊かな人間性	授業コード	9325232
教員名	佐久間　朋子		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	読書の目的を理解し、具体的な読書指導の方法を知る。 発達段階に応じた図書の種類を理解し活用できる。		
授業概要	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。 読書センター機能を持つ学校図書館が、子どもの読書活動を推進するためにどのような役割を果たすかについて、さまざまな読書プログラムの実習を通して考える。 【履修対象者：小・中・高の教職課程履修者】		
授業計画	１．子どもの読書状況　（全国学校図書館協議会　子どもの読書状況などから） ２．読書能力・読書興味の発達段階　（発達段階の目安など） ３．読書資料の特徴と選択　（ 絵本や児童文学の種類） ４．読書プログラム　読み聞かせ　（グループ学習・演習　グループで読み聞かせを演習する。） ５．読書プログラム　紙芝居　（グループ学習・演習　グループで紙芝居演習をする。） ６．読書プログラム　ペープサート　（グループ学習・演習　グループでペープサート演習をする。） ７．読書プログラム　パネルシアター・ブラックライトシアター ８．読書プログラム　アニマシオン　（「これ、だれのもの」「物語バラバラ事件」などを演習をする。課題図書を読んでおくこと） ９．読書活動の推進　日本　＊ビブリオバトル発表 １０．読書活動の推進　諸外国　＊ビブリオバトル発表 １１．読書資料　絵本・童話　＊ビブリオバトル発表 １２．読書資料　児童文学・まんが　ストーリーテリング・ブックトーク １３．学校、家庭における読書活動と読書指導 １４．読書をめぐる諸問題　（資料ごとの特徴の違い　発達障害者に対する支援　など） １５．読書をめぐる諸問題とまとめ		
授業方法	授業計画に基づき講義とグループ演習発表・個人発表を行う。 読書プログラム実習では、グループで演習・発表をする。グループ分けは第３回の講義で発表する。 ビブリオバトル発表は全員が発表をする。 課題図書を第１回目の講義で提示するので、必ず読んでおくこと。 なお、受講生数、理解度などによって授業計画は変更することもある。		
アクティブラーニングの視点	読書プログラムではグループ活動を実施するので、主体的で対話的な協働をすること。		
授業外学習	絵本・児童文学・ヤングアダルト文学など　子どもの本に興味を持ち、読むこと。 WebClass に講義の ppt と連絡事項を up するので各自確認し講義にのぞむこと。		
教科書	プリント配布		
参考書	『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携－理論と実践－新訂版』　全国学校図書館監修　悠光堂　978-4-909348-33-3 『子どもの読書環境と図書館』　日本図書館研究会編集委員会 編　日本図書館協会　4-930992-18-4 授業中適宜指示する。		
評価方法	筆記試験３０％　　読書プログラム３０％　　授業中の課題３０％　　受講態度１０％		
既修条件	履修時に 62 単位以上を修得していること。		
実務経験のある教員による授業	学校司書として学校図書館運営を行ってきた経験を活かし、現場の現状を踏まえ学校図書館での読書活動全般について講義する。		

No.	701	科目コード	66060
科目名	情報メディアの活用	授業コード	9325345
教員名	山口　賢一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	■各教科の学習指導で、学校図書館を拠点とした情報メディアの活用を図ることができる。 ■各メディアの長所，短所とくにセキュリティ上の懸案事項を認識することができる。 ■他の司書教諭課程科目・教職課程科目との関連性を理解できる。		
授業概要	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用法の理解を図ることをねらいとして設置された科目である。全体を通して各教科の学習指導で司書教諭の持つ知見や、学校図書館を通して利用できる情報メディアをどのように役立てることができるかということを考えるとともに、情報メディアの活用に際して重要な著作権及び著作権教育の考え方を理解することを重視する。また、情報漏洩等のセキュリティ上のリスクについて認識し正しい活用法について理解する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（評価方法や講義の内容、進行方法の説明等)、情報メディアの意義 第２回　情報化が進展する社会 第３回　学校図書館と情報メディア 第４回　情報メディアの特性と選択・活用 第５回　学校図書館を取り巻く今日的課題 第６回　情報活用能力と情報リテラシー 第７回　情報メディアの歴史 第８回　情報メディアの種類と特性 第９回　学校における ICT の活用 第 10 回　インターネット情報源と情報検索 第 11 回　児童生徒の情報行動の実態と指導 第 12 回　情報メディアの活用事例（小中高校） 第 13 回　情報メディアの活用事例（特別支援学校，その他一般） 第 14 回　セキュリティ，著作権上の留意点 第 15 回　課題とまとめ ※以上の計画は、学習項目においては順番を前後したほうが理解が進む場合もあるため変更する場合もある。なお，その場合はその都度通知する.		
授業方法	講義，調査，資料作成、振り返りとディスカッションの組み合わせ 調査，資料作成のために，インターネットに接続可能な PC を持参することが望ましい		
アクティブラーニングの視点	完全な講義形式ではなく学生からの意見を引き出し、ディスカッション形式も取り入れる。 学生が主体的に考え、それを対話して表現することで理解度を深めることを期待する。 また、そうした姿勢や態度を他者にも伝えられるようになることが望ましい。		
授業外学習	■学校図書館に関わる情報（実践や研究の動向、新刊書の出版状況など）の収集を自主的に行うこと。 ■他大学図書館、公立図書館、国立国会図書館関西館などの利用経験も（可能な範囲で）積んでおくこと。 ■学校図書館を活用した先進的な実践を行っている学校を探し、可能ならば見学させてもらうとよい。 ■教育実習などの母校訪問の際には図書館担当の先生や学校司書に話を聞くなど、学校図書館の実状を知る機会を作ること。 ■情報メディアに係る失敗事例（情報漏洩，著作権法違反など）は、多くのコンテンツがインターネット他で公開されている。先人の失敗事例をもとに、自らが同じ過ちを起こさないように知識を身につけること。		
教科書	「情報メディアの活用」,「探求　学校図書館学」編集委員会編著 ， 全国学校図書館協議会 ， ISBN978-4-7933-2275-4,https://www.j-sla.or.jp/books/cate6/cate6-004483.html		
参考書	日ごろから「情報倫理」、「情報モラル」、「情報セキュリティ」、「著作権」など，情報メディアを活用する際に考慮しなければならない項目について興味を持ち、先人の失敗事例なども含めて知見を深めておくことが望ましい。		
評価方法	レポート試験 60%、授業への参加度（授業振り返りの Forms による出席率を含む）40%		
既修条件	履修時に 62 単位以上を修得していること。		

実務経験のある教員による授業	博士（工学）の学位を有し工科系の高等教育機関で約 20 年間授業を行ってきた教員が，自らが所属する「高等教育機関での図書館運営の経験」および「大学での旧司書課程の情報機器論担当の経験」をもとに、情報メディアの特徴，活用事例，活用時の留意点等について解説する.

No.	702	科目コード	66100
科目名	キャリア演習１	授業コード	9316458
教員名	岡　雅也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・基礎的な一般教養知識を身に付けることができる。 ・働くことの意義と目的意識を明確にできる。 ・企業人・公務員としての倫理観を身に付けることができる。		
授業概要	この授業は公務員を将来の仕事として希望する学生のキャリア形成を目的に行われる。採用試験に向けた一般教養の基礎力向上のために問題演習を多く取り入れ確認テストを実施することで各々の到達レベルを知ることができるようにする。特に多くの学生が苦手とする「非言語分野」を中心に繰り返し解説することで採用試験に向けた準備をスタートさせる。		
授業計画	01 回　キャリアガイダンス全種クラス「合同」 （「①企業・公務員」「②教員-小・中高・特支・養護」「③幼保」） 02 回　公務員として大切なこと　　公務員全般について学ぶ。 03 回　採用試験に関して　　試験制度の詳細　（例題解説） 04 回　数的処理（１）　　旅人算 05 回　数的処理（２）　　通過算 06 回　数的処理（３）　　流水算 07 回　数的処理（４）　　時計算 08 回　数的推理（５）　　相当算・売買算 09 回　数的処理（６）　　濃度算 10 回　数的処理（７）　　仕事算 11 回　数的処理（８）　　和差算・過不足算 12 回　数的処理（９）　　分配算・年齢算 13 回　数的処理（10）　　平均算・倍数・約数 14 回　まとめ　　重要事項の確認・本格的な公務員対策講座の説明など。 15 回　学びの振り返りとこれから３種別クラスごとの「合同」		
授業方法	問題演習と解説（講義形式） 最新の採用試験動向と必要な対策に関する指導を行なう。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（必要な場合、グループ学習を取り入れ効率的な学習環境をつくる）		
授業外学習	第４回以降は、各講義内容にあった課題を出す。課題は翌週に確認する。		
教科書	オリジナルプリント「基礎編」を使用 （注）別途購入する必要はありません。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への積極的な取り組み　20% 確認試験 70% 課題など 10%　課題は評価後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	703	科目コード	66100
科目名	キャリア演習 1	授業コード	9316606
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	幼稚園教諭、保育士（保育所、施設）としてのキャリア形成のための学習計画を立て、主体的に計画の実施に取り組むことができる。 ・保育・幼児教育の仕事について、幅広く知り、職能について理解でき、必要な保育技術、保育者としての倫理をもって実行できる。 ・自己 PR の内容を明確にし、効果的に表現することができる。		
授業概要	この授業は、保育者志望のキャリア形成を目的に行われる。就職フェアへの参加や現職保育者、施設職員の講話により。多様な保育者の職務を理解し、進路選択に役立てる。また、的確に自己 PR ができるように、自分史作成や自己分析を行う。模試、保育現場が求める人材の確保、面接練習、保育技術の向上にも取り組む。さらに、保育者としての技術も身につけるような実践を行う。さらに、畑プロジェクトに参加して、SDG s の観点から保育における実践を学ぶ。		
授業計画	第１回　オリエンテーション：キャリアガイダンス 第２回　保育者としての仕事：幼稚園教諭、保育士、保育教諭の日々の仕事について 第３回　保育者に必要な資質とはなにか 第４回　なぜ、保育者になるのか一職業選択と省察 第５回　個人面談・学内就職フェアへの参加 第６回　面接の意義と基礎 第７回　個人面接練習 第８回　集団面接練習 第９回　保育者としての必要な専門性 第 10 回　保育現場が求める人材 第 11 回　現職保育士から職務を学ぶ 第 12 回　現職認定こども園から職務を学ぶ 第 13 回　保護者とのかかわりを学ぶ 第 14 回　職務の自己選択と PR の方法 第 15 回　学びの振り返りとこれから		
授業方法	講義・演習・講話によって、具体的事例を含めながら、自らが保育者としてどのような職責をもつべきか、グループでの話し合いも含めて、常に自らのキャリア形成を考えていくようにする。　また、社会協議福祉会から推薦された現職の先生の話を聞いたり、就職フェアに参加して、実際の保育の現場の状況を知る。さらに、必要な保育者としての技術を自ら身につける計画と実践を学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	自己についての省察や、自己 PR の作成、面接練習、学外就職フェアへの参加、現職者との交流などを行い、自己省察とグループでの討論を含めて実施する。さらに、保育者としての技術獲得のために、自らが計画を立案し、実施する。		
授業外学習	・学外就職フェアに参加する。 （日程等はオリエンテーションで連絡予定） ・自己 PR に役立つ学習や活動に積極的に取り組む。 ・保育技術について獲得し、発表できるようにする。 ・畑プロジェクトに参加する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	・PSEP 公務員セミナー『2024 年度版　公立保育士・幼稚園教諭ド対策　保育専門テキスト＆問題集』2023 年 ・保育士採用試験『スイスイわかる保育士採用専門試験　令和 5 年版』一ツ橋書店　2023 年 ・保育士試験研究会編『2024 年度　保育士・幼稚園教諭　論作文・面接対策ブック』実務教育出版　2023 年 ・保育士試験研究会編『2024 年度　保育士・幼稚園教諭　採用試験問題集』実務教育出版　2023 年		
評価方法	授業への参加（40%）、自己課題レポート、発表内容（60%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援ルーム施設長、自治体での子ども審議会委員の経験を活かして、学生のキャリア形成に寄与し、これまでの養成校でのキャリア支援に関わってきたことも含めて指導する。		

No.	704	科目コード	66100
科目名	キャリア演習 1	授業コード	9316628
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教員採用試験合格をめざし,自らの学習計画の作成や実践を行うことができる。 ・教職教養（思考力・判断力を問う問題を含む)、一般教養に関する知識の習得をめざす。 ・グループワーク、文章要約、小論文記述、面接練習、集団討論などを実施し、考える力を身につける。 ・教員になることへの意欲を高め、採用試験に立ち向かうモチベーションを向上させる。		
授業概要	・教員採用試験合格をめざし、教職教養の知識獲得をめざし、過去問などの演習問題に取り組む。 ・毎時間、文章要約や小論文記述、グループワーク、プレゼンテーションなどを実施し、知識を活用して的確にアウトプットできる力を育成する。 ・教員採用試験で実施される個人面接、集団面接に向けて対策を講じる。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向け、主体的に取り組めるよう、学力状況をふまえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーションとキャリアガイダンス。(共通開講) 第 2 回　教員採用試験の概要説明。それに向け対策と計画。小論文対策の解説。 第 3 回　一般教養学力テスト（1）演習。担当者による個別面談。(学習計画作成の進捗状況。) 第 4 回　一般教養学力テスト（2）演習。担当者による個別面談。(学習計画作成の進捗状況。)（2 回目） 第 5 回　教育法規① 第 6 回　教育法規② 第 7 回　教育法規③ 第 8 回　教育法規④ 第 9 回　教育法規分野の確認テスト 第 10 回　教育原理① 第 11 回　教育原理② 第 12 回　教育原理③ 第 13 回　教育原理④ 第 14 回　教育原理分野の確認テスト 第 15 回　学びの振り返りとこれから（共通開講）		
授業方法	・教員採用試験過去問テストを適宜実施し、確実な学力向上を図る。 ・教育課題を中心にグループディスカッションなどによって聞く力、伝える力を鍛える。 ・文章要約や小論文記述などにより考える力を身につける。 ・様々な課題に対して適切に対応することができる実践力を身につける。 ・教員採用試験に関する各種情報を伝える。		
アクティブラーニングの視点	・学校現場に山積する教育課題について原因や背景、自分はどのように取り組むかなど意見交換することで広がりと深まりを期待する。 ・自己理解を深め、自己の課題と向き合いながら目標と計画をデザインし、主体的に実行できる力を育成する。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組み、随時ノートを提出する。 また、教職教養や一般教養、思考・判断力を高めるプリントや小論文記述を課す。 毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書			
評価方法	授業への参加度　45%、授業外学習（ノート）や課題の提出状況　55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養・一般教養の過去問題は採点後、返却し解説する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における教諭の経験に加え、管理職としての経験を生かし、理論と実践を兼ね備えた教員を養成する。		

No.	705	科目コード	66100
科目名	キャリア演習 1	授業コード	9316656
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教職教養・専門教養知識（養護教諭）の習得確認および学習計画の作成・実施を行うことができる。		
授業概要	・キャリアアップに向けた意識の高揚を図り、主体的に取り組むように教職センターやキャリアラーニングセンターと協力し、効果的なキャリア形成を行う。 ・一般教養・教職教養・専門教養の過去問を実施するとともに、学習計画の作成、実施状況調査による確実な実行を図る。そして、計画的に学ぶ学習習慣や態度を形成し、段階的にキャリア形成する。		
授業計画	第 01 回：キャリア生成の重要性について確認をする【共通開講】。 第 02 回：教職センターの協力により教員採用試験対策と小論文対策の解説をする【共通開講】。 第 03 回：第 1 回一般教養学力テストを実施する【共通】。 第 04 回：論作文の記述指導と学習計画（教職教養・一般教養過去問題の演習を含む）を作成する。 第 05 回：面接試験の意義と動作等の確認をする。 第 06 回：教員採用試験の仕組みの理解と学習方法等の計画について概説をする。 第 07 回：個人面接とエントリーシート作成等の指導をする。。 第 08 回：個人面接と自己 PR について確認する。 第 09 回：第 2 回一般教養学力テストの実施【共通】と採用試験に向けた学習計画の見直しをする。 第 10 回：模擬保健指導の計画と効果的な指導教材づくりを検討する。 第 11 回：専門教養（養護教諭）過去問題の演習をする。 第 12 回：集団面接等について指導する。 第 13 回：集団討論について指導し教育時事に関して理解する。 第 14 回：養護教諭に求められる役割を踏まえて集団討論を実施する。 第 15 回　：自分のキャリアについて課題を持ち実践可能なスピリットを形成し振り返る【共通開講】 【共通】とは他教職課程のキャリア演習グループと共通した授業計画の内容を示している。 【共通開講】とは他教職課程グループと合同受講の予定を示している。		
授業方法	教員採用試験（養護教諭）の実施や学習計画の確認・指導を中心とし、教職センターからの連絡・指導を行う。		
アクティブラーニングの視点	グループワークの導入、ワークシートの作成、振り返りシートの活用などによるフィードバック作業を通して、協同的な学び合いの時間を確保する。		
授業外学習	学習計画に基づいて一般教養などの学習や復習をしておく。 キャリアガイダンスや学内外研修・講座などに参加し、レポートを提出する。		
教科書	教職課程ガイドブック 他は特に指定なし		
参考書	『新訂版　学校保健実務必携（第５次改訂版）』, 第一法規 , 2020 年 『学校教育の現代的課題と養護教諭』, 大学図書出版, 2021 年 その他　適宜、紹介する。		
評価方法	一般教養・教職教養・専門教養試験等の結果（20%）、授業への参加度【提出物の記述内容、明確なキャリア形成に向けた授業参加状況】（50%）、課題レポートの提出状況および内容（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験がある者が、その経験を活かしてキャリア形成に向けて養護に関する専門教養や教育問題に関する演習指導をする。		

No.	706	科目コード	66100
科目名	キャリア演習１	授業コード	9316657
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教員採用試験合格をめざし,自らの学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・大阪市・堺市の教師塾などの合格をめざし、教職教養（思考力・判断力を問う問題を含む)、一般教養に関する知識の習得、小論文記述、面接練習、集団討論などを実施し、教員採用試験合格への意欲を高め、教員としての知識・技能を確実に習得し、意欲・態度を養う。		
授業概要	・大阪市・堺市教育委員会主催の教師塾合格のため、小論文記述、面接指導を実施する。また、教職教養や専門教養（国語・社会・理科・数学）や一般教養の学力向上を図る。主に過去問題など学び方に重点を置く。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向け、主体的に取り組めるよう、学力状況をふまえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第１回　キャリアガイダンス（共通開講） 第２回　教員採用試験に向けての心構え・学習方法の等の計画。 第３回　教員採用試験の対策解説。小論文対策解説。 第４回　一般教養学力テスト（第１回） 第５回　面接試験の意義の理解。(面接での自己ＰＲ・マナーの徹底) 第６回　個人面接の理解。エントリーシートの書き方。 第７回　エントリーシートをもとに個人面接練習。 第８回　集団面接の理解。 第９回　集団面接練習。 第 10 回　教職員の服務についての理解。演習問題（グループによる共同作業方式)。 第 11 回　一般教養学力テスト（第２回） 第 12 回　論作文の記述指導。担当者による個別面談（計画の見直し)。 第 13 回　集団討論の理解。 担当者による個別面談（計画の見直し)。 第 14 回　集団討論練習。 第 15 回　前期の学習方法の自己分析を行い学習計画の見直しをする。キャリア演習２に向けた見通し・自分の課題を確認する。(共通開講)		
授業方法	小論文記述し、自己評価や相互評価を行い、記述力の向上を図る。 面接指導を実施し自己評価や相互評価を行う。 教員採用試験過去問テストを適宜実施し、確実な学力向上を図る。 教員採用試験に関する各種情報を伝える。		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れるなど互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組む。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	明治図書「整理と対策（数学)」「整理と対策（理科)」「整理と対策（社会)」(教職センターとの連携)		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及び課題の内容 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校長や教職員人事課管理主事などの経験を活かして、教職教養や一般教養、個人面接、集団面接、模擬授業などの指導を行う。		

No.	707	科目コード	66100
科目名	キャリア演習 1	授業コード	9316670
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	就職活動全体の流れを把握できる。卒業後の進路を考えることを通して「自己理解」を深めることができる。また、自己理解を基にして、「他者理解(業界・企業)」も深めることができる。		
授業概要	・就職活動の最初のテーマである「企業で働く」とは何かを理解するため，企業人から講和をいただき，その内容をグループワークを用いて，体系的に理解する。 その上で自分の興味・能力・価値観をしっかり理解し、どの業界なら自分を活かせるのかという視点で、できるだけ幅広い視野で「仕事研究」を進める。 ・「自己分析」「仕事研究」の一環として、夏季企業インターンシップに参加する。		
授業計画	第 1 回　　ガイダンス 第 2 回　　企業で働くとは 第 3 回　　society5.0 について 第 4 回　　就活サイトの活用について 第 5 回　　仕事を知る① 第 6 回　　仕事を知る② 第 7 回　　仕事を知る③ 第 8 回　　仕事を知る④ 第 9 回　　仕事を知る⑤ 第 10 回　仕事を知る⑥ 第 11 回　自分を知る①（インタビュー，他己紹介） 第 12 回　自分を知る②（自己 PR の作成） 第 13 回　SPI 試験 第 14 回　SPI 講座 第 15 回　個人面談		
授業方法	ＳＰＩ試験の実施、履歴書作成の指導、キャリアラーニングセンターからの連絡・指導、また，就職情報サイトを活用した夏季企業インターンシップへのエントリー、外部会場へのインターンシップフェアへの参加も予定。		
アクティブラーニングの視点	「仕事研究」フィールドワーク(インターンシップフェア参加)		
授業外学習	学習計画に基づいたＳＰＩ試験対策等は CLC を活用しながら中心に行う。 社会の動向を把握するために新聞記事、ニュース等に定期的に目を通す。		
教科書	特に指定しません		
参考書	適宜授業中に紹介する。		
評価方法	授業への積極的な参加等平常点（50%） 定期的に求める提出物の内容（10%） 最終課題【自己紹介動画】(20%) 最終課題【ガクチカ動画】(20%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	実際に企業での就労経験をもつ教員が行う。		

No.	708	科目コード	66100
科目名	キャリア演習 1	授業コード	9316689
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	就職活動全体の流れを把握できる。卒業後の進路を考えることを通して「自己理解」を深めることができる。また、自己理解を基にして、「他者理解(業界・企業)」も深めることができる。		
授業概要	・就職活動の最初のテーマである「企業で働く」とは何かを理解するため，企業人から講和をいただき，その内容をグループワークを用いて，体系的に理解する。 その上で自分の興味・能力・価値観をしっかり理解し、どの業界なら自分を活かせるのかという視点で、できるだけ幅広い視野で「仕事研究」を進める。 ・「自己分析」「仕事研究」の一環として、夏季企業インターンシップに参加する。		
授業計画	第 1 回　　ガイダンス 第 2 回　　企業で働くとは 第 3 回　　society5.0 について 第 4 回　　就活サイトの活用について 第 5 回　　仕事を知る① 第 6 回　　仕事を知る② 第 7 回　　仕事を知る③ 第 8 回　　仕事を知る④ 第 9 回　　仕事を知る⑤ 第 10 回　仕事を知る⑥ 第 11 回　自分を知る①（インタビュー，他己紹介） 第 12 回　自分を知る②（自己 PR の作成） 第 13 回　SPI 試験 第 14 回　SPI 講座 第 15 回　個人面談		
授業方法	ＳＰＩ試験の実施、履歴書作成の指導、キャリアラーニングセンターからの連絡・指導、また，就職情報サイトを活用した夏季企業インターンシップへのエントリー、外部会場へのインターンシップフェアへの参加も予定。		
アクティブラーニングの視点	「仕事研究」フィールドワーク(インターンシップフェア参加)		
授業外学習	学習計画に基づいたＳＰＩ試験対策等は CLC を活用しながら中心に行う。 社会の動向を把握するために新聞記事、ニュース等に定期的に目を通す。		
教科書	特に指定しません		
参考書	適宜授業中に紹介する。		
評価方法	授業への積極的な参加等平常点（50%） 定期的に求める提出物の内容（10%） 最終課題【自己紹介動画】(20%) 最終課題【ガクチカ動画】(20%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	実際に企業での就労経験をもつ教員が行う。		

No.	709	科目コード	66100
科目名	キャリア演習 1	授業コード	9316698
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教員採用試験合格をめざし,自らの学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・大阪市・堺市の教師塾などの合格をめざし、教職教養（思考力・判断力を問う問題を含む)、一般教養に関する知識の習得、小論文記述、面接練習、集団討論などを実施し、教員採用試験合格への意欲を高め、教員としての知識・技能を確実に習得し、意欲・態度を養う。		
授業概要	・特別支援教育の領域の専門性を高めるとともに、大阪市・堺市教育委員会主催の教師塾合格を含む教員採用試験の準備のため、小論文記述、面接指導を実施する。また、教職教養や専門教養（国語・社会・理科・数学）や一般教養の学力向上を図る。主に過去問題など学び方に重点を置く。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向け、主体的に取り組めるよう、学力状況をふまえた適切なアドバイスを・支援を行う。		
授業計画	第 1 回　キャリアガイダンス。(共通開講) 第 2 回　教員採用試験の仕組みと理解 第 3 回　第 1 回一般教養学力テスト 第 4 回　教職教養試験対策（特別支援教育・人権教育）① 第 5 回　教職教養試験対策（特別支援教育・人権教育）② 第 6 回　教職教養試験対策（特別支援教育・人権教育）③ 第 7 回　個人面接練習 第 8 回　集団面接練習① 第 9 回　第 2 回一般教養学力テスト。 第 10 回　集団面接練習② 第 11 回　教職員の服務についての理解。演習問題（グループによる共同作業方式)。 第 12 回　専門試験過去問題の演習 第 13 回　集団討論の理解 第 14 回　小論文演習 第 15 回　学びの振り返りと今後に向けてのまとめ。(共通開講)		
授業方法	小論文記述し、自己評価や相互評価を行い、記述力の向上を図る。 面接指導を実施し自己評価や相互評価を行う。 教員採用試験過去問テストを適宜実施し、確実な学力向上を図る。 教員採用試験に関する各種情報を伝える。		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れるなど互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組み、毎回ノートを提出する。また、教職教養や一般教養、思考・判断力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書			
評価方法	授業への参加度　45%、授業外学習（ノート）や課題の提出状況　55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養・一般教養の過去問題は採点後、返却し解説する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府教育庁、特別支援学校校長、高等学校教諭の勤務経験や知見を生かし、特別支援学校をはじめとする教員採用に関する本科目を計画・実施する。		

No.	710	科目コード	66110
科目名	キャリア演習２	授業コード	9325008
教員名	阿部　秀高		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教員採用試験合格を目指し、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・希望する自治体別の出題傾向を知り、それに対する方策を主体的に取り組んで身につける。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教師になりたい動機や理想の教師像を明確に持つことができる。 ・個人、集団面接の練習を通して、具体的な採用試験対策の方法を身につける。 ・場面指導、模擬授業の練習を通して、具体的な学習場面を想定した対策方法を身につける。		
授業概要	・自分のキャリアを明確に持たせ、具体的な方略を身につけられるように、受験する自治体別の対策方法を身につける。 ・ディスカッションやグループでの学習を通して、互いに高め合う方法を身につける。 ・面接指導や場面指導など具体的、実践的な場面を想定した対策を行うことができる。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第１回　キャリアガイダンス(共通開講) 第２回　自治体別主の出題傾向を知り、、自分が希望する自治体についての情報を得て、主体的に受験を判断する 第３回　一般教養学力テスト（第３回） 第４回　ディスカッション（志望動機・教師像)。(Ｉ回目) 第５回　ディスカッション（自己分析・自己ＰＲ)。(２回目) 第６回　教職教養テスト（１回目） 第７回　個人面接演習。試験結果と担当者による個別面談。 第８回　教職教養テスト（２回目） 第９回　個人面接演習。試験結果と担当者による個別面談。 第 10 回　教員採用試験の傾向解説 第 11 回　個人面接演習。試験結果と担当者による個別面談。) 第 12 回　教職教養テスト（３回目） 第 13 回　集団面接練習 第 14 回　模擬授業・集団面接の練習。 第 15 回　自分の課題を明確にし、春休みの学習の方法と採用試験に向けた計画を立て、教職センターとの連携の方法を考える。キャリア演習３に向けた見通し・自分の課題を確認する。(共通開講)		
授業方法	・自治体別主題傾向の分析を行い、自分が受験する自治体を決めて、その対策や具体的な学習方法を考える。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教員としての資質や能力を高めるための課題を明確にする。 ・面接練習や場面指導、模擬授業を通して、実践的な方法を身につけるための学習方法を知る。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れる など互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組み、毎回ノートを提出する。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	明治図書「整理と対策(数学)」「整理と対策(理科)」「整理と対策(社会)」(教職センターとの連携)		
評価方法	授業への参加度 45%、授業外学習(ノート)や課題の提出状況 55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論 文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養・一般教養の過去問題は採点後 、返却し解説する。		
既修条件	なし		
実務経験のある	実務経験あり		

教員による授業	小学校教諭　16 年 幼稚園長・小学校長・中学校長　5 年

No.	711	科目コード	66110
科目名	キャリア演習２	授業コード	9325174
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・幼稚園教諭・保育士（保育所・施設）・認定こども園保育教諭としてのキャリア形成のための計画を立て、主体的に取り組むことができる。 ・保育に関連する、保護者対応、子育て支援、地域連携について理解を深める。 ・保育者の資質、能力の一環として、自然体験を通して SDG s を背景とした保育について学ぶ。		
授業概要	この授業は、保育職志望者のキャリア形成の向上を目的として行われる。社会人として必要なマナーの他、制度等について理解する。さらに、広く海外の保育を知ることで、わが国の保育の現状における特性、課題を明確にして、よりよい保育者としての自らの資質を磨く契機となるように「保育」を多角的に理解する。講義を通して、保育者として必要とされる SDGs と保育とのつながりについて、自然体験から理解を深めていく。一つの実践を突き詰めることで、保育者としてのキャリア形成についての自己理解を深める。		
授業計画	授業計画　第１回　キャリアガイダンスおよび個人面談 第２回　SDG s の視点と保育とのつながり 第３回　自然体験を通した保育実践（１）：学内菜園の栽培活動計画 第４回　世界の保育から見たと日本の保育の特性と課題 第５回　社会人としてのマナー、労働法・制度の理解 第６回　様々な園の特性（求人票の検索等から） 第７回　自然体験を通した保育実践（２）：学内菜園活動（植え付け） 第８回　自然体験を通した保育実践（３）：学内菜園活動（管理計画） 第９回　保育者の資質としての SDGs 第 10 回　自然体験を通した保育実践（４）：学内菜園活動（菜園の進捗発表） 第 11 回　自然体験を通した保育実践（５）：学内菜園活動（お便りつくりを通じた情報発信の方法） 第 12 回　自然体験を通した保育実践（６）：学内菜園活動（収穫及び調理の実践） 第 13 回　自然体験を通した保育実践（７）：学内菜園活動（成果発表会準備） 第 14 回　自然体験を通した保育実践（８）：学内菜園活動（成果発表会） 第 15 回　学びの振り返りとこれから（合同）		
授業方法	講義をするが、必ず演習を中心に行う。また、各自の考えをグループ等で分かち合うようにする。		
アクティブラーニングの視点	自然体験を通して、作付けから管理、収穫、調理までを学生主体で実施することで、SDG s の視点を保育実勢にどのように生かしていくのかについて、グループワークや情報発信を行う。		
授業外学習	・私立園の求人票を検索し、教育方針や必要な情報を調べる。 ・採用試験等を調査し、その受験準備とするとともに内定した先輩や保育経験者へインタビューをする。 ・学内菜園の管理		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	・萩原 元昭（編）『世界の ESD と乳幼児期からの参画:ファシリテーターとしての保育者の役割を探る』北大路書房　2020 ・大豆生田 啓友 『日本版保育ドキュメンテーションのすすめ:「子どもはかわいいだけじゃない!」をシェアする写真つき記録』　小学館　2020		
評価方法	授業への参加及び態度（５０％）、課題の提出（５０％）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	712	科目コード	66110
科目名	キャリア演習 2	授業コード	9325185
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教員採用試験合格を目指し、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・希望する自治体別の出題傾向を知り、それに対する方策を主体的に取り組んで身につける。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教師になりたい動機や理想の教師像を明確に持つことができる。 ・個人、集団面接の練習を通して、具体的な採用試験対策の方法を身につける。 ・場面指導、模擬授業の練習を通して、具体的な学習場面を想定した対策方法を身につける。		
授業概要	・自分のキャリアを明確に持たせ、具体的な方略を身につけられるように、受験する自治体別の対策方法を身につける。 ・ディスカッションやグループでの学習を通して、互いに高め合う方法を身につける。 ・面接指導や場面指導など具体的、実践的な場面を想定した対策を行うことができる。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーションとキャリアガイダンス。(共通開講) 第 2 回　教育時事① 第 3 回　教育時事② 第 4 回　教育時事③ 第 5 回　教育時事④ 第 6 回　教育時事テスト 第 7 回　一般教養学力テスト③ 第 8 回　教育心理・教育史 第 9 回　教育心理・教育史 第 10 回　今年度採用試験の分析・傾向解説 第 11 回　教職教養模擬テスト① 第 12 回　教職教養模擬テスト② 第 13 回　教職教養模擬テスト③ 第 14 回　個人面接・集団面接 第 15 回　学びの振り返りとこれから（共通開講）		
授業方法	・自治体別主題傾向の分析を行い、自分が受験する自治体を決めて、その対策や具体的な学習方法を考える。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教員としての資質や能力を高めるための課題を明確にする。 ・面接練習や場面指導、模擬授業を通して、実践的な方法を身につけるための学習方法を知る。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れる など互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組み、毎回ノートを提出する。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書			
評価方法	授業への参加度 45%、授業外学習(ノート)や課題の提出状況 55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論 文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養・一般教養の過去問題は採点後 、返却し解説する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における教諭の経験に加え、管理職としての経験を生かし、理論と実践を兼ね備えた教員を養成する。		

No.	713	科目コード	66110
科目名	キャリア演習２	授業コード	9325257
教員名	杉本　義美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．教員採用試験に向けた試験対策内容を理解できる。 ２．教員採用試験の模擬試験等を通じて、英語教員になる資質・能力を身に付ける。		
授業概要	英語科教員に求められる資質・能力を知り、それに基づいた実技試験に向けた対策方法を学び、自らの英語力及び英語指導力の向上を図る。		
授業計画	第１回：オリエンテーション、「なぜ教員を目指すのか」Discussion 第２回：教員採用試験の内容、Discussion 第３回：英語科特有の試験内容、Discussion 第４回：個人面接（１）と Feedback 第５回：集団面接（１）と Feedback 第６回：英語実技試験：英語での面接（１）と Feedback 第７回：英語実技試験：音読テスト（１）と Feedback 第８回：英語実技試験：模擬授業（１）と Feedback 第９回：個人面接（２）及び集団面接（２）と Feedback 第 10 回：英語実技試験：模擬授業（２）と Feedback 第 11 回：英語実技試験：模擬授業（３）と Feedback 第 12 回：英語実技試験：英語での面接（２）と Feedback 第 13 回：英語実技試験：英語での Discussion（１）と Feedback 第 14 回：英語実技試験：英語での Discussion（２)、模擬授業（４）と Feedback 第 15 回：まとめ：教員採用試験に関する Q&A 上記の計画は一部変更になる場合がある。		
授業方法	受講生主体の授業であり、演習形態をとる。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業・英語の Discussion 等を通じて主体的な学習のみならず英語指導技術及び英語運用能力の向上を図る。		
授業外学習	教員採用試験を目指す学生は、この授業の事前の準備として、毎回事前指導案作成及び discussion 等の準備が必要となる。		
教科書	プリント及び英語検定教科書（New Horizon English Course 1,2,3）		
参考書	授業で指示		
評価方法	授業における課題発表内容（50%）、学生の取り組む態度（50%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	元教育委員会指導主事として、教員採用試験にかかわった経験に基づき、この科目を指導する。		

No.	714	科目コード	66110
科目名	キャリア演習２	授業コード	9325389
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	教職教養・専門教養（養護教諭）の習得確認および学習計画の作成・実施を行うことができる。		
授業概要	・キャリアアップに向けた意識の高揚を図り、主体的に取り組もうとするように教職センターと協力をし、効果的なキャリア形成を行う。 ・教職教養・専門教養（養護教諭）の過去問を実施するとともに、学習計画の作成、実施状況調査による確実な実行を図る。		
授業計画	第 01 回： 教員採用試験に向けての目標設定をし、学習計画を立てる【共通開講】。 第 02 回： 受験希望自治体を調査し、受験希望自治体の特徴を理解する。 第 03 回： 自治体別出題傾向を分析し、学習計画を立てる。 第 04 回： 一般教養学力テストの確認と自治体別出題傾向の分析結果を報告する。 第 05 回： 専門教養テストを実施し、学習計画の改善を行う。 第 06 回： 教育課題について理解し、自分の考えを持ち、個別面接・自己スピーチに取り組む。 第 07 回： 健康課題について理解し、自分の考えを持ち、集団面接・集団討論に取り組む。 第 08 回： 第１回教職教養テストを実施し、教員採用試験の傾向について把握する。 第 09 回： 教職センターの協力により教員採用試験傾向の解説をする【共通開講】。 第 10 回： 求められる養護教諭像について考え、論文作成に取り組む。 第 11 回： 専門教養（養護教諭）の過去問を実施する。 第 12 回： 場面指導に取り組み、学習計画の改善をする。 第 13 回： 第２回教職教養テストを実施する【共通】。 第 14 回： 健康課題について理解し保健室経営案を作成する。 第 15 回： 教職教養等の過去問の結果を踏まえて、学習計画の見直しをする【共通開講】。 【共通】とは他教職課程のキャリア演習グループと共通した授業計画の内容を示している。 【共通開講】とは他教職課程グループと合同受講の予定を示している。		
授業方法	試験の実施、学習計画の確認・指導、教職センターからの連絡・指導		
アクティブラーニングの視点	今日的な健康課題に対するグループワークの実施とワークシートの作成および集団討論や集団面接時の評価コメント票の活用などによる対話的な学び合いの時間を重視する。		
授業外学習	学習計画に基づいた教職教養・専門教養（養護教諭）の学習 教育課題や健康課題についての小論文		
教科書	教職課程ガイドブック 他は特に指定なし、授業中に資料を配付する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業への参加度(50%)、課題の達成度（50%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における長期の養護教諭経験がある者が、その経験を活かして、健康課題の理解や解決に向けて、具体的な場面指導などキャリア形成の指導を行う。		

No.	715	科目コード	66110
科目名	キャリア演習２	授業コード	9325475
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教員採用試験合格を目指し、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・希望する自治体別の出題傾向を知り、それに対する方策を主体的に取り組んで身につける。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教師になりたい動機や理想の教師像を明確に持つことができる。 ・個人、集団面接の練習を通して、具体的な採用試験対策の方法を身につける。 ・場面指導、模擬授業の練習を通して、具体的な学習場面を想定した対策方法を身につける。		
授業概要	・自分のキャリアを明確に持たせ、具体的な方略を身につけられるように、受験する自治体別の対策方法を身につける。 ・ディスカッションやグループでの学習を通して、互いに高め合う方法を身につける。 ・面接指導や場面指導など具体的、実践的な場面を想定した対策を行うことができる。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第１回　キャリアガイダンス(共通開講) 第２回　自治体別主の出題傾向を知り、、自分が希望する自治体についての情報を得て、主体的に受験を判断する 第３回　一般教養学力テスト（第３回） 第４回　ディスカッション（志望動機・教師像)。(Ｉ回目) 第５回　ディスカッション（自己分析・自己ＰＲ)。(２回目) 第６回　教職教養テスト（１回目） 第７回　個人面接演習。試験結果と担当者による個別面談。 第８回　教職教養テスト（２回目） 第９回　個人面接演習。試験結果と担当者による個別面談。 第 10 回　教員採用試験の傾向解説 第 11 回　個人面接演習。試験結果と担当者による個別面談。) 第 12 回　教職教養テスト（３回目） 第 13 回　集団面接練習 第 14 回　模擬授業・集団面接の練習。 第 15 回　　自分の課題を明確にし、春休みの学習の方法と採用試験に向けた計画を立て、教職センターとの連携の方法を考える。キャリア演習３に向けた見通し・自分の課題を確認する。(共通開講)		
授業方法	・自治体別主題傾向の分析を行い、自分が受験する自治体を決めて、その対策や具体的な学習方法を考える。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教員としての資質や能力を高めるための課題を明確にする。 ・面接練習や場面指導、模擬授業を通して、実践的な方法を身につけるための学習方法を知る。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れる など互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組む。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	明治図書「整理と対策(数学)」「整理と対策(理科)」「整理と対策(社会)」(教職センターとの連携)		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及び課題の内容 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校長や教職員人事課管理主事などの経験を活かして、教職教養や一般教養、個人面接、集団面接、模擬授業などの指導を行う。		

No.	716	科目コード	66110
科目名	キャリア演習 2	授業コード	9325485
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・教員採用試験合格を目指し、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・希望する自治体別の出題傾向を知り、それに対する方策を主体的に取り組んで身につける。 ・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教師になりたい動機や理想の教師像を明確に持つことができる。 ・個人、集団面接の練習を通して、具体的な採用試験対策の方法を身につける。 ・場面指導、模擬授業の練習を通して、具体的な学習場面を想定した対策方法を身につける。		
授業概要	・自分のキャリアを明確に持ち具体的な方略を身につけられるように、受験する自治体別の対策方法を身につける。 ・ディスカッションやグループでの学習を通して、互いに高め合う方法を身につける。 ・面接指導や場面指導など具体的、実践的な場面を想定した対策を行うことができる。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第 1 回　キャリアガイダンス。(共通開講) 第 2 回　ディスカッション（志望動機・教師像） 第 3 回　一般教養学力テスト 第 4 回　 教職教養（特別支援教育）① 第 5 回　集団面接演習 第 6 回　教職教養（特別支援教育）② 第 7 回　教職教養（特別支援教育）③ 第 8 回　 第 1 回教職教養テスト 第 9 回　教員採用試験傾向解説 第 10 回　教職教養（特別支援教育）④ 第 11 回　第 2 回教職教養テスト 第 12 回　模擬授業練習① 第 13 回　第 3 回教職教養テスト 第 14 回　模擬授業練習② 第 15 回　 振り返りと今後の展望。(共通開講)		
授業方法	・ディスカッションを通して、自己分析を行い、教員としての資質や能力を高めるための課題を明確にする。 ・特別支援教育をはじめとする教員採用試験（教職教養）対策を継続的に行う。 ・面接練習や場面指導、模擬授業を通して、実践的な方法を身につけるための学習方法を知る。 ・教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れる など互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集等に取り組む。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書			
評価方法	授業への参加度 45%、授業外学習(ノート)や課題の提出状況 55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論 文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養・一般教養の過去問題は採点後 、返却し解説する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府教育庁、特別支援学校校長、高等学校教諭の勤務経験や知見を生かし、特別支援学校をはじめとする教員採用に関する本科目を計画・実施する。		

No.	717	科目コード	66110
科目名	キャリア演習２	授業コード	9325666
教員名	岡　雅也		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・様々な分野に応用できる一般教養知識を身に付けることができる。 ・各々の志望先別の業種・職種研究を十分に行うことができる。 ・採用予定の企業・自治体が望んでいる人物像を理解し、それに近づけることができる。		
授業概要	この授業は公務員を将来の仕事として希望する学生の実践的なキャリア形成を目的に行われる。採用試験に向けた一般教養の学力養成のために難易度の高い問題演習を多く取り入れ確認テストを実施することで各々の到達レベルを知ることができるようにする。特に多くの学生が苦手とする分野を中心に繰り返し解説することで採用試験に向けた準備を怠らないようにする。また、職種研究を行うことで、其々が持つ仕事の重要性に関しての考察を深める。		
授業計画	01 回　履修ガイダンス　　全クラス合同授業（１）・インターンシップ報告会 02 回　数的処理(11)　　順列・組合せ 03 回　数的処理(12)　　確率 04 回　数的処理応用（１）　方程式Ａ（応用編は新しいテキストを使用） 05 回　数的処理応用（２）　方程式Ｂ 06 回　数的処理応用（３）　割合Ａ（混合算・売買算） 07 回　数的処理応用（４）　割合Ｂ（増減・仕事算） 08 回　数的処理応用（５）　速さＡ（旅人算・通過算） 09 回　数的処理応用（６）　速さＢ（流水算・時計算） 10 回　数的処理応用（７）　確率Ａ（場合の数・順列・組合せ） 11 回　数的処理応用（８）　確率Ｂ（様々なパターンの確率） 12 回　数的処理応用（９）　整数問題（倍数・約数　記数法） 13 回　数的処理応用（10）　計算パズル・規則性（数列） 14 回　まとめ　　重要事項の確認・採用試験の日程確認など。 15 回　合同授業（２）　全クラス合同授業（２）		
授業方法	問題演習と解説（講義形式） 各々の職種を研究し、採用試験という観点から詳細を伝授する。 最新の採用試験動向と必要な対策に関する指導を行なう。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（必要な場合、グループ学習を取り入れ効率的な学習環境をつくる）		
授業外学習	第２回以降は、各講義内容にあった課題を出す。課題は翌週に確認する。		
教科書	「オープンセサミシリーズ・国家公務員・地方初級⑤一般知能」　七賢出版　東京アカデミー編 （注）各自で購入のこと。キャリア演習３でも使用します。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への積極的な取り組み　20% 確認試験 70% 課題など 10%　課題は評価後に返却する。		
既修条件			
実務経験のある教員による授業			

No.	718	科目コード	66110
科目名	キャリア演習 2	授業コード	9325687
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・就職活動を行うための準備・手続きが理解する。 ・ES・履歴書が完成する。 ・社会・経済の基本的な仕組みが理解できる。 ・面接・グループディスカッションに、自信を持つことができる。		
授業概要	・この授業は、民間企業への就職を考えている学生を対象にして、就職活動の準備・実践を目的として行う。		
授業計画	第 1 回　ガイダンス 第 2 回　就職戦線の実情について 第 3 回　内定者から学ぶ 第 4 回　自己 PR 作成① 第 5 回　自己 PR 作成② 第 6 回　ガクチカ作成ワーク① 第 7 回　ガクチカ作成ワーク② 第 8 回　志望動機作成ワーク① 第 9 回　志望動機作成ワーク② 第 10 回　現代社会の実情について 第 11 回　SPI 試験 第 12 回　SPI 講座 第 13 回　グループワーク 第 14 回　ディベート大会① 第 15 回　ディベート大会②		
授業方法	講義と演習形式で実施する。		
アクティブラーニングの視点	「業界研究」グループワーク（ケースメソッド）		
授業外学習	・SPI や就職試験対策の準備をする。 ・履歴書やエントリーシートの作成をする。 ・学内外の企業説明会に参加する。 ・積極的に業界・企業研究をする。		
教科書	特に指定しない		
参考書	適宜授業中に紹介する。		
評価方法	提出物や授業への積極的な参加等平常点（50%） 自己 PR 完成版（20%） ガクチカ完成版（20%） 履歴書完成版（10%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	実際に企業での就労経験をもつ教員が行う。		

No.	719	科目コード	66110
科目名	キャリア演習 2	授業コード	9325691
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・就職活動を行うための準備・手続きが理解する。 ・ES・履歴書が完成する。 ・社会・経済の基本的な仕組みが理解できる。 ・面接・グループディスカッションに、自信を持つことができる。		
授業概要	・この授業は、民間企業への就職を考えている学生を対象にして、就職活動の準備・実践を目的として行う。		
授業計画	第 1 回　ガイダンス 第 2 回　就職戦線の実情について 第 3 回　内定者から学ぶ 第 4 回　自己 PR 作成① 第 5 回　自己 PR 作成② 第 6 回　ガクチカ作成ワーク① 第 7 回　ガクチカ作成ワーク② 第 8 回　志望動機作成ワーク① 第 9 回　志望動機作成ワーク② 第 10 回　現代社会の実情について 第 11 回　SPI 試験 第 12 回　SPI 講座 第 13 回　グループワーク 第 14 回　ディベート大会① 第 15 回　ディベート大会②		
授業方法	講義と演習形式で実施する。		
アクティブラーニングの視点	「業界研究」グループワーク（ケースメソッド）		
授業外学習	・SPI や就職試験対策の準備をする。 ・履歴書やエントリーシートの作成をする。 ・学内外の企業説明会に参加する。 ・積極的に業界・企業研究をする。		
教科書	特に指定しない		
参考書	適宜授業中に紹介する。		
評価方法	提出物や授業への積極的な参加等平常点（50%） 自己 PR 完成版（20%） ガクチカ完成版（20%） 履歴書完成版（10%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	実際に企業での就労経験をもつ教員が行う。		

No.	720	科目コード	66120
科目名	キャリア演習３	授業コード	9316473
教員名	岡　雅也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・企業人・公務員として社会に貢献することを目標と定め、採用試験を突破するための実力が養成できる。 ・面接練習を通じて十分な自己表現ができる。 ・社会人として必要な資質を身に付けることができる。		
授業概要	キャリア演習Ⅰ・キャリア演習Ⅱを通して身に付けた知識と学力を更に高めるために質・量ともに十分な問題演習を実施する。採用試験合格レベルの実力を身に付けさせるための教科指導を行なう。同時に開講されている「公務員対策講座」や自治体ごとの採用説明会を受講し、理解を深め可能な限り多くの採用試験を受験することを目標とする。		
授業計画	01 回　キャリアガイダンス３種別クラスごとの合同 02 回　採用試験の重要事項　　警察官・消防士・市職員（行政職・保育職）に関する詳細説明 03 回　課題処理応用（１）　順序関係・対応関係・道順 04 回　課題処理応用（２）　論理・集合 05 回　職種・自治体研究　市役所職員（行政職・消防職・保育職）に関する職務研究 06 回　課題処理応用（３）　位置関係・試合 07 回　課題処理応用（４）　証言・暗号・数量 08 回　課題処理応用（５）　日暦算・手順 09 回　口述・面接試験対策　模擬面接（自己ＰＲ・他人より優れている点のアピール方法） 10 回　課題処理応用（６）　証言・暗号 11 回　課題処理応用（７）　数量・日暦算 12 回　空間把握応用　平面図形・展開図 13 回　資料解釈　数表・グラフ 14 回　まとめ　重要事項の確認・採用試験の日程確認など。 15 回　学びの振り返りとこれから３種別クラスごとの合同		
授業方法	問題演習と解説（講義形式） 採用自治体ごとの担当者からの講演 最新の採用試験動向に準じた教科指導と面接対策の実施		
アクティブラーニングの視点	協同学習（必要な場合、グループ学習を取り入れ効率的な学習環境をつくる）		
授業外学習	外部講師による講演がある場合はレポートの提出を求める。 レポートは評価後に返却する。		
教科書	「オープンセサミシリーズ・公務員　国家公務員　地方初級⑤一般知能」 七賢出版　東京アカデミー編（注）キャリア演習２で使用するテキストと同じものです。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への積極的な取り組み　20% 確認試験 70% 課題など 10%　課題は評価後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	721	科目コード	66120
科目名	キャリア演習 3	授業コード	9316494
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・就職活動の実践力を養うことができる。 ・出席学生と情報交換をして、最新の就活情報を取得できる。 ・第一希望の企業から内定を獲得する計画を立案できる。		
授業概要	・企業就職に必要な社会人基礎力として、「前に踏み出す力」の育成を図るとともに、「考え抜く力」ならびに「チームで働く力」の獲得を目指す。 ・自らキャリアを切りひらいていくために、自己を認識してリフレクションしながら、目的、学び、統合のバランスを図っていく。		
授業計画	第 1 回　面談を通じて、就活進捗状況確認と就活微修正プラン作成 第 2 回　就職活動アクションプランの作成 第 3 回　キャリア形成について 第 4 回　履歴書・エントリーシートの作成 第 5 回　履歴書・エントリーシートの作成 第 6 回　就職試験対策 第 7 回　集団面接指導 第 8 回　面談を通じて、就活微修正プランづくり 第 9 回　集団面接指導 第 10 回　時事問題対策 第 11 回　個別面接指導 第 12 回　個別面接指導 第 13 回　報告書作成 第 14 回　就職活動報告会 第 15 回　合同授業　社会人への準備		
授業方法	学生による発表や面接練習、エントリーシートの作成等、演習方式で実施する。		
アクティブラーニングの視点	「報告会」グループワーク(自らの体験を他の人に教える		
授業外学習	エントリーシートの作成、企業説明会への積極的な参加、及びその結果報告を求める。		
教科書	特に指定しない		
参考書	適宜授業中に紹介する。		
評価方法	授業への積極的な参加度(50%)、課題の達成度 (50%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	実際に企業での就労経験をもつ教員が行う。		

No.	722	科目コード	66120
科目名	キャリア演習３	授業コード	9316680
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教員採用試験合格をめざし、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・自分が合格を目指す自治体の合格をめざし、教職教養(思考力・判断力を問う問題を含む) や専門教養（国語・社会・数学・理科）に関する知識の習得、小論文記述、面接練習、模擬授業や場面指導、集団討論などを実施し、教員採用試験合格への意欲を高め、教員としての知識・技能・態度を確実に習得する。		
授業概要	教員採用試験合格するために必要な資質・能力を習得する。 ・教員として必要な情報を収集し、教員として必要な知識(教職教養・専門教養を含む) やスキルを習得する。 ・討論を通してコミュニケーションスキルの向上を図る。 ・テーマに即した論理的な小論文を記述することが出来る。 ・エントリーシートの作成や個人面接の練習などを通して、教員としての自覚や使命感の高揚を図る。 ・模擬授業や場面指導の練習を通し、児童生徒への適切な指導や対応する力を身に着ける。 教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーションとキャリアガイダンス（共通開講） 第２回　自治体学内受験説明会を行い、採用試験の具体的な準備や方法を知る。（１回目） 第３回　自治体学内受験説明会を行い、採用試験の具体的な準備や方法を知る。（２回目） 第４回　自治体学内受験説明会を行い、採用試験の具体的な準備や方法を知る。(３回目) 第５回　１次試験面接対策（エントリーシート作成・基本説明)。受験する自治体の教育ビジョンなどの確認。 第６回　１次試験筆記対策。受験する自治体の過去問題確認。 第７回　論作文指導（８００字)。・個人面接（基本説明） 第８回　集団面接・集団討論。(基本説明) 第９回　教職員の服務。(再確認) 第 10 回　１次試験筆記対策・過去問題演習。 第 11 回　個人面接練習。(相互参観・評価) 第 12 回　１次試験筆記対策・専門教養重点対策。弱点克服)。過去問題演習。 第 13 回　論作文（学校教育の動向と教育課題)。 第 14 回　模擬授業・場面指導演習。 第 15 回　学びの振り返りとこれから（共通開講）		
授業方法	テーマに即した討論と自己評価・相互評価 模擬授業や場面指導の実施と自己評価・相互評価 個人面接の実施と自己評価・相互評価 小論文記述と自己評価・相互評価		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れる など互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝え		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組み、毎回ノートを提出する。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直		
教科書			
参考書	教員採用試験「出題科目別過去問題集（東京アカデミー） 教職センター作成教材		
評価方法	授業への参加度　45%、授業外学習（ノート）や課題の提出状況　55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養の過去問題は採点後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における教諭の経験に加え、管理職としての経験を生かし、理論と実践を兼ね備えた教員を養成する。		

No.	723	科目コード	66120
科目名	キャリア演習３	授業コード	9316683
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教員採用試験（特別支援学校を含む）合格をめざし、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・自分が合格を目指す自治体の合格をめざし、教職教養(思考力・判断力を問う問題を含む)や専門教養（国語・社会・数学・理科）に関する知識の習得、小論文記述、面接練習、模擬授業や場面指導、集団討論などを実施し、教員採用試験合格への意欲を高め、教員としての知識・技能・態度を確実に習得する。		
授業概要	・教員採用試験（特別支援学校を含む）合格するために必要な資質・能力を習得する。 ・教員として必要な情報を収集し、教員として必要な知識(教職教養・専門教養を含む）やスキルを習得する。 ・討論を通してコミュニケーションスキルの向上を図る。 ・テーマに即した論理的な小論文を記述することが出来る。 ・エントリーシートの作成や個人面接の練習などを通して、教員としての自覚や使命感の高揚を図る。 ・模擬授業や場面指導の練習を通し、児童生徒への適切な指導や対応する力を身に着ける。 教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第１回　キャリアガイダンス（共通開講） 第２回　特別支援学校における教育の現状と課題の考察 第３回　面接練習（集団）① 第４回　面接練習（集団）② 第５回　論作文指導 第６回　面接練習（個別）① 第７回　面接練習（個別）② 第８回　模擬授業等の留意点 第９回　第１回直前プレテスト 第 10 回　第２回直前プレテスト 第 11 回　論作文指導（２回目） 第 12 回　第３回直前プレテスト 第 13 回　模擬授業、場面指導① 第 14 回　模擬授業、場面指導② 第 15 回　学びの振り返りと今後の展望（共通開講）		
授業方法	・テーマに即した討論と自己評価・相互評価 ・模擬授業や場面指導の実施と自己評価・相互評価 ・個人面接の実施と自己評価・相互評価 ・小論文記述と自己評価・相互評価		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れるなど互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝える。		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組み、毎回ノートを提出する。また、教職教養や一般教養、思考・判断力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	教員採用試験「出題科目別過去問題集　小学校全科」東京アカデミー 明治図書「整理と対策（数学)」「整理と対策（理科)」「整理と対策（社会)」(教職センターとの連携)		
評価方法	授業への参加度　45%、授業外学習（ノート）や課題の提出状況　55% 授業への参加度は、真摯な授業態度や積極的な発言等で評価する。課題の達成度は、教職教養・専門教養・小論文の学習を継続的に行っている中で評価する。確認テスト及び教職教養・専門教養の過去問題は採点後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府教育庁、特別支援学校校長、高等学校教諭の勤務経験や知見を生かし、特別支援学校をはじめとする教員採用に関する本科目を計画・実施する。		

No.	724	科目コード	66120
科目名	キャリア演習３	授業コード	9316685
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・幼稚園教諭・保育士として必要な資質を身につけることができる。 ・幼稚園・保育所現場での実践力を高め、採用試験に備えることができる。 ・めざす保育者像、就職希望の幼稚園・保育所像を明確化することができる。		
授業概要	保育者として就職活動を実施する際に必要とされる、園の探し方、園見学の方法、面接や筆記試験の対策、について就職フェアへの参加や、模擬面接の実施から理解を深めていく。自身のキャリア形成について模擬面札や就職フェアへの参加から、自己理解を深め、面接練習を経ることによって、自身の保育観について推察を行っていく。自己理解の深まりから、自身の長短所を明確にし、就職活動に臨めるような準備を進めていく。		
授業計画	授業計画 第１回　共通開講　キャリア形成における就職活動について 第２回　就職活動アクションプランの作成 第３回　履歴書・ＥＳ作成の作成および添削 第４回　個別面接指導 第５回　集団面接指導 第６回　模擬就職面接および筆記試験 第７回　就職活動に向けた個別面談（第５回講義のフィードバック） 第８回　就職フェアへの参加（校外） 第９回　学内就職フェアへの参加 第１０回　就職活動進捗の中間報告会 第１１回　就職活動アクションプランの修正 第１２回　卒業生保育者の講話 第１３回　就職活動報告会準備 第１４回　就職活動報告会 第１５回　共通開講　まとめ		
授業方法	民間の保育・福祉施設を希望する者は、本科目を履修することが望ましい。		
アクティブラーニングの視点	就職フェアなどの参加による保育職に対する学びを深める、自己分析やグループワークを通じて、他者に自己アピールする力を高める。		
授業外学習	積極的な就職活動に向けて、大阪府の保育就職フェアの学外授業参加を予定しているため、日程の都合をつけておくこと。実技課題の反復練習を行なっておくこと。 ※キャリア演習３で初めて（幼保）クラスを受講する方は、既にキャリア演習１・２（幼保）で指導した次の項目は、自宅課題として別途課しますので、各自で取り組むようにしてください。 ①履歴書の下書き、②先輩の就職体験記の検索		
教科書	授業で紹介する。		
参考書	授業で紹介する。		
評価方法	授業への参加度（討論・面接・自己紹介・実技発表）を 50%、課題の提出（履歴書、小論文、模擬テスト結果等）を 50%として評価する。保育者として知っておくべきテーマ、就職活動にも役立つテーマを取り上げるため、事前学習と積極的な参加（授業内での発言）については、より高い評価を行なう。課題は、評価後に返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

No.	725	科目コード	66120
科目名	キャリア演習３	授業コード	9316692
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・教員採用試験合格をめざし、学習計画の作成・実践を行うことができる。 ・自分が合格を目指す自治体の合格をめざし、教職教養(思考力・判断力を問う問題を含む) や専門教養（国語・社会・数学・理科）に関する知識の習得、小論文記述、面接練習、模擬授業や場面指導、集団討論などを実施し、教員採用試験合格への意欲を高め、教員としての知識・技能・態度を確実に習得する。		
授業概要	教員採用試験合格するために必要な資質・能力を習得する。 ・教員として必要な情報を収集し、教員として必要な知識(教職教養・専門教養を含む) やスキルを習得する。 ・討論を通してコミュニケーションスキルの向上を図る。 ・テーマに即した論理的な小論文を記述することが出来る。 ・エントリーシートの作成や個人面接の練習などを通して、教員としての自覚や使命感の高揚を図る。 ・模擬授業や場面指導の練習を通し、児童生徒への適切な指導や対応する力を身に着ける。 教職センターと綿密な連携を図り、受講生が目標の達成に向けて主体的に学習に取り組めるよう、学力状況を踏まえた適切なアドバイス・支援を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーションとして、小学校教員として必要な資質について理解し、学習計画を立てる。教職センターとの連携で行う。(共通開講) 第２回　論作文指導(１回目) 第３回　論作文指導（２回目） 第４回　個人面接指導 第５回　１次試験面接対策（エントリーシート作成・基本説明)。受験する自治体の教育ビジョンなどの確認。 第６回　１次試験筆記対策。受験する自治体の過去問題確認。 第７回　集団面接 第８回　集団面接・集団討論 第９回　第１回直前プレテスト 第 10 回　個人面接練習。(相互参観・評価) 第 11 回　第２回直前プレテスト 第 12 回　個人面接練習。(相互参観・評価) 第 13 回　論作文（学校教育の動向と教育課題)。 第 14 回　第３回直前プレテスト 第 15 回　教員採用に向けて、各自の課題を確認する。(共通開講)		
授業方法	テーマに即した討論と自己評価・相互評価 模擬授業や場面指導の実施と自己評価・相互評価 個人面接の実施と自己評価・相互評価 小論文記述と自己評価・相互評価		
アクティブラーニングの視点	授業と授業外学習の連携を図り、それぞれ個人に沿った課題を見つける。その上で、グループ学習を取り入れる など互いに高め合う方法を身につけさせる。教職センターを活用して自主学習を進める方法も伝え		
授業外学習	自分の課題に沿った参考書兼問題集に取り組む。また、教職教養や一般教養、思考・判断 力を高めるプリントや小論文記述を課す。毎時間のふりかえりを行い、学習計画を見直す。		
教科書	教職課程ガイドブック		
参考書	教員採用試験「出題科目別過去問題集　小学校全科」東京アカデミー 明治図書「整理と対策（数学)」「整理と対策（理科)」「整理と対策（社会)」(教職センターとの連携)		
評価方法	授業への参加度 50%，発表及び課題の内容 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校長や教職員人事課管理主事などの経験を活かして、教職教養や一般教養、個人面接、集団面接、模擬授業などの指導を行う。		

No.	726	科目コード	66120
科目名	キャリア演習 3	授業コード	9316694
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	養護教諭の教員採用試験の傾向がわかり、自分の課題に応じた対策を立てることができる。 小集団による討論や場面指導などを通して養護教諭として必要な資質を身につけ、自分自身についてのプレゼンテーションができる。		
授業概要	・集団討論や場面指導（ロールプレイング）を通して養護教諭として必要な資質やスキルの習得を確認し、コミュニケーションスキルや実践力の向上を図る。 ・エントリーシートの作成や個人面接の基本対応を身につけ、教員としての自覚や使命感の高揚を図るとともに受講者自らキャリアプランを再構築する。		
授業計画	第 01 回：自治体別教員採用試験の実施と教員として必要な資質について【共通開講】 第 02 回：エントリーシート確認と自己アピールの検討 第 03 回：出願指導および面接試験の概略と心構え 第 04 回：受験自治体の傾向対策についての理解と直前プレテスト（一般教養）の実施【共通】 第 05 回：教職センターの協力により直前プレテスト(教職教養)【共通】 第 06 回：一次試験対策プレテスト（専門教養）の実施と受験自治体の「求める養護教諭像」の確認 第 07 回：論作文演習の解説と筆記試験過去問題の演習 第 08 回：個人面接練習による採用試験対策の確認 第 09 回：教育課題についての理解および集団討論の形式と意見交流 第 10 回：集団面接・集団討論練習の基本説明と集団面接の実施の手順とポイントの理解 第 11 回：個人面接の実施と対応（自己理解を深めた自己 PR、求める養護教諭像を踏まえる） 第 12 回：場面指導の練習と意見交流（生活習慣・熱中症・アレルギー・保護者対応・家庭支援） 第 13 回：模擬授業・場面指導の確認と意見交流(発達障害・体罰・校内暴力) 第 14 回：模擬授業・場面指導演習と GW 演習（からかい・不登校傾向・虐待の疑い） 第 15 回：キャリアプランの構築とまとめ【共通開講】 【共通】とは他教職課程のキャリア演習グループと共通した授業計画の内容を示している。 【共通開講】とは他教職課程グループと合同受講の予定を示している。		
授業方法	講義を行うが、演習が中心である。主に集団討論と指導、模擬授業と指導、場面指導と指導、個人面接とその指導。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習、自他評価コメントシートの記入と活用、セッション場面による学び合いを重視する。		
授業外学習	模擬授業や場面指導の事前学習を自主学習として行う。(健康課題や教育課題の調査と授業内に配付する資料の活用や授業の復習を含む)		
教科書	教職課程ガイドブック 他は特に指定なし、授業中に資料を配付する。		
参考書	『実際にあった学校でのヒヤリハット事例から学ぶ』2021 年，健学社，八木利津子 適宜参考資料を配付する。		
評価方法	模擬授業・討論・面接等の参加内容（60%）、課題提出と授業への参加度（40%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして具体的な場面指導を交え、キャリア形成に向けて演習指導をする。		

No.	727	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317024
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1.自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2.文献研究能力や調査実施能力が身につく。 3.専門的な文章を読むことや書くことができ、討論や発表の力がつく。		
授業概要	１，２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって、音楽の専門性を発達させるための科目である。幼児、児童の音楽教育の現場において必要とされる教育者の資質や実践力に関わるテーマを設定して専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は３年次後期および４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	１．前期オリエンテーション ２．前期学習目標と学習計画 ３．研究テーマ設定 ４．文献検索の方法と図書館の利用 ５．研究計画をたてる（研究方法と文献リスト） ６．テーマに関する先行研究と発表（１） ７．テーマに関する先行研究と発表（２） ８．テーマに関する先行研究と発表（３） ９．テーマに関する先行研究と発表（４） １０．テーマに関する先行研究と発表（５） １１．テーマに関する先行研究と発表（６） １２．テーマに関する先行研究と発表（７） １３．前期発表（１） １４．前期発表（２） １５．前期のまとめ、夏季休業中の自主課題の設定		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自の研究分野に関して、受講生間で発表や討論をしてより一層研究を深める。		
授業外学習	・研究テーマについて調査すること。 ・研究計画書を提出できるよう準備すること。 ・研究発表に対してレポートを提出し、また、発表者はレジュメを作成すること。 ・添削を受けて改訂したレポートを提出できるよう準備すること。		
教科書	開講時に紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	728	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317080
教員名	永井　明子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得する。９月の教育実習に向けて、授業力をつけ子どもと向き合う心構えを養う。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	子どもの発達や教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。専門演習３・４での研究テーマを３年次末で方向付けるため、関連文献の講読とレジュメおよび発表原稿の提出、発表が求められる。また、共通文献の輪読を行う。教育時事問題に関する討論によって、深く考える力を養い、短時間の講義を行う事によりプレゼンテーションの力を身につける。さらに次回までの取り組み課題とその成果を各自が設定・発表する事により、時間管理術、課題のマネージメントなども学んでいく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　振り返りと予定・発表①、研究テーマを決めるための準備（ブレインストーミング） 第３回　振り返りと予定・発表②、文献検索の方法 第４回　振り返りと予定・発表③、文献の読み方 第５回　振り返りと予定・発表④、大阪市教師養成講座について 第６回　振り返りと予定・発表⑤、図書館の利用 第７回　振り返りと予定・発表⑥、プレゼンのこつ 第８回　振り返りと予定・発表⑦、研究テーマと方法① 第９回　振り返りと予定・発表⑧、研究の枠組み 第 10 回　振り返りと予定・発表⑨、教育実習について 第 11 回　振り返りと予定・発表⑩ 第 12 回　振り返りと予定・発表⑪ 第 13 回　振り返りと予定・発表⑫ 第 14 回　振り返りと予定・発表⑬ 第 15 回　まとめ、研究テーマと方法②（卒論構想） ・振り返りと予定はスケジュール管理の力を付け、PDCA サイクルに慣れるために行う ・発表は、文献、輪読、ミニ講義、教育時事ニュース、教採対策、教室の小ワザ、今週のインターンシップ等から毎回１つを担当して発表する。 ・発表以外の順番は前後することがある。		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	毎週必ず何か一つは発表を担当し、各自が持ち寄った課題を全員で討論することが授業のメインとなる。また、発表内容は日頃の自分の疑問等を解決するために役立つテーマを自分で選ぶことになる。		
授業外学習	１．発表者としての準備（文献・輪読のレジメ、ミニ講義のパワポ、教育時事ニュースの新聞記事と討論テーマ） ２．ゼミ参加者として輪読箇所を読み、質問を用意。輪読箇所と討論から学んだ事をまとめる。 ３．研究テーマと方法①②の準備。 ４．発表①～⑬と研究テーマと方法①②に対してのコメントレポートを提出。 ５．レポート・レジュメ提出時には、必ず事前に他のゼミメンバーの下読みを受けること。		
教科書	教育心理学エッセンシャルズ（西村純一・井森澄江編、ナカニシヤ出版）		
参考書	山内光哉編『発達心理学上』ナカニシヤ出版		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	729	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317085
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・国語教育への関心や理解を深め、課題意識をもって対象を捉えることができる。 ・自身のキャリア形成を見据えて、卒業研究に向けた準備に取り組むことができる。 ・研究課題を設定し、研究に必要な文献を探し、分析・考察することができる。 ・研究の成果をまとめるための資料作成やプレゼンテーションのスキルを身につける。 ・先行研究による知見を整理し、論理的な文章を書くことができる。		
授業概要	・１年、２年次で学んだことをもとに卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得すること、４年間の学びの集大成である卒業研究の準備に取り組むことを目的として、ゼミナール形式で行う。 ・３年次前期は、国語科教育への関心や理解を深めるために、毎回設定したテーマに関する資料や文献、実践事例等をじっくりと読む。その中で、子どもを理解すること、子どもの発達・成長を支えるとはどういうことかについても考察していく。また、自ら関心のある研究課題を見出し、課題を追究するための研究の対象や方法を検討していく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（卒業研究とは何か） 第２回　子どもを取り巻く状況（児童期・思春期の課題）と国語科教育について 第３回　実践事例研究について（子どもの表現をめぐって） 第４回　文献研究について（国語科教育の課題への様々なアプローチ） 第５回　教師研究について（国語教師像を求めて） 第６回　子どもとの関わり体験や問題意識の発表 第７回　文献検索、情報収集の方法と図書館の活用について 第８回　関心のあるテーマについての報告・討議① 第９回　関心のあるテーマについての報告・討議② 第１０回　研究課題にアプローチするための研究対象と方法の検討 第１１回　研究課題、研究対象に関する文献の購読① 第１２回　研究課題、研究対象に関する文献の購読② 第１３回　研究報告のためのプレゼンテーションについて 第１４回　研究課題、方法、内容に関する個別の中間発表 第１５回　前期のまとめと夏季休暇中の課題確認（研究の方向性の確認）		
授業方法	実践事例の検討・文献の購読、報告、討議などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	自らの課題を設定し、研究計画を立てて、それに基づき、研究を進める。その過程を各自が発表し、意見交流を通して、考察を深めていく。場合によってはフィールドワークを行う。報告・討議を重ねる中で、他者の意見をふまえて、自らの論考を練り上げていく。		
授業外学習	・様々な実践事例や参考文献等を読んで、自分なりの感想や意見をもち、それを言語化する。 ・先行研究に当たりながら、関心のあるテーマを見出していく。 ・研究報告のための資料・レジュメを作成する。 ・フィールドワークを行い、現場の実践を参観して、考察する場合もある。 ・報告後、意見交流会での討議をもとに振り返りをしながら、次の準備を進める。		
教科書	教科書は指定しない。授業中に必要な資料を随時配布する。		
参考書	基本文献やプリント資料等は適宜配布及び提示する。		
評価方法	授業への参加度（討論・研究発表）を６０％、課題の提出（レポート）を４０％として評価する。事前学習と積極的な参加については、より高い評価を行う。課題・レポートについては確認後に返却する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験をもち、国語科教育に関する実践的研究を行ってきた者が、具体性をふまえた卒業研究に関する指導を行う。		

No.	730	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317147
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得する。 ２．文献研究能力や調査実施能力が身につける。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく ４．グローバル社会の実情と異文化を巡る教育の現状と問題点を多角的な視点から考察し、実践できる有力な人材の育成を目指す。		
授業概要	グローバル化が進んでいる現在、様々な理由で母国を離れ、移動している人々が増加している。日本でも学校に通う外国人児童生徒が増加し、9 万以上とされている。本ゼミでは、移民の状況と政策、国際比較を交えながら、日本に置かれている現状や外国人の労働者問題、外国人児童生徒の教育課題などを中心に研究する。そのことを通して多文化共生社会に向けて私たちができることについて考える。ゼミで活用は、日本語と外国語（英語）の文献講読、ライフストーリー研究を扱うこととする。また夏休みをしたフィールドワークとして外国人住民の割合6.23%である三重県伊賀市在住の外国につながりのある子どもたちの学習支援行うなど、外部組織と連携をとって様々な活動、協力していく予定である。		
授業計画	第１回　オリエンテーション(教育学専門演習１の目的・内容・文献検索等について) 第２回　文献調査・資料調査の方法① 第３回　文献調査・資料調査の方法② 第４回　研究テーマの設定及び研究計画立案①　(興味・関心のあるテーマに向けて) 第５回　研究テーマの設定及び研究計画立案②　(興味・関心のあるテーマに向けて) 第６回　ゼミ生発表①(テーマに基づく学生の発表と討論) 第７回　ゼミ生発表②(テーマに基づく学生の発表と討論) 第８回　学外研修での研究計画立案①　フィールドワーク技法について① 第９回　学外研修での研究計画立案②　フィールドワーク技法について② 第１０回　研究テーマに基づく研究調査① 第１１回　研究テーマに基づく研究調査② 第１２回　研究テーマに基づく研究調査③ 第１３回　研究計画プレゼンテーション① 第１４回　研究計画プレゼンテーション② 第１５回　まとめと夏季休業中の学外研修・調査について		
授業方法	ゼミ生が興味関心を持ったテーマでの発表やディスカッションにより内容を深化させていく。		
アクティブラーニングの視点	学内にとどまらずフィールドワーク調査やボランティア活動への参加も積極的に行う。		
授業外学習	各自が設定したテーマに基づき、その都度指示する。 日本で暮らす多様な文化的背景を持つ人々、移民の歴史や難民問題に関連するニュースや記事に目を通すこと。また、現代世界の実情を十分に把握し、視野を広げ、積極的にアプローチすることを期待する。		
教科書	その都度指示する。		
参考書	必要に応じて、授業中に指示する。		
評価方法	積極的な授業参加、プレゼンテーション、課題・レポート等を総合的に評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	731	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317214
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第 1 回　　オリエンテーション 第 2 回　　領域別にみた論文作成について学習 第 3 回　　文献検索の方法と図書館の利用 第 4 回　　フィールド・実験研究の特性とリスク管理およびデーターの取り扱いについて 第 5 回　　テーマについての先行研究と発表 第 6 回　　テーマについての先行研究と発表 第 7 回　　テーマについての先行研究と発表 第 8 回　　テーマについての先行研究と発表 第 9 回　　テーマに関連する専門知識および最新情報の学習と習得・・・講義 第 10 回　テーマに関連する専門知識および最新情報の学習と習得・・・講義 第 11 回　研究方法論について学習・・・講義 第 12 回　研究方法論について学習・・・講義 第 13 回　対象と研究方法の確定 第 14 回　研究内容の中間発表 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	テーマ設定について文献研究 ・方法論についての専門知識の習得 ・ＰＣスキルの習得（データー入力と解析および図表作成） 以上を、講義で発表できるよう随時実践すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	732	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317281
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　領域別にみた論文作成について学習 第３回　　文献検索の方法と図書館の利用 第４回　　フィールド・実験研究の特性とリスク管理およびデーターの取り扱いについて 第５回　　テーマについての先行研究と発表 第６回　　テーマについての先行研究と発表 第７回　　テーマについての先行研究と発表 第８回　　テーマについての先行研究と発表 第９回　　テーマに関連する専門知識および最新情報の学習と習得・・・講義 第 10 回　テーマに関連する専門知識および最新情報の学習と習得・・・講義 第 11 回　研究方法論について学習・・・講義 第 12 回　研究方法論について学習・・・講義 第 13 回　対象と研究方法の確定 第 14 回　研究内容の中間発表 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	体力測定・運動指導を行い、その実施計画を行わせる。		
授業外学習	テーマ設定について文献研究 ・方法論についての専門知識の習得 ・ＰＣスキルの習得（データー入力と解析および図表作成） 以上を、講義で発表できるよう随時実践すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	733	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317286
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１　自分のキャリア形成を見据えて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究能力や調査実施能力を身に付ける。 ３　専門的な文章を読むことや書くことの能力や、討論・発表の力を身に付ける。		
授業概要	教育の内容や方法に関わるテーマを設定して、専門的に探求することを目的とする。１．２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって、特に国語教育の専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は、４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究テーマ設定に向けて（教育現場の問題現状把握） 第３回　文献調査・資料調査の方法 第４回　研究テーマの設定及び研究計画立案１ 第５回　研究テーマの設定及び研究計画立案２ 第６回　研究計画プレゼンテーション１ 第７回　研究計画プレゼンテーション２ 第８回　研究テーマに基づく研究調査１ 第９回　研究テーマに基づく研究調査２ 第１０回　研究テーマに基づく研究調査３ 第１１回　研究テーマに基づく研究調査４ 第１２回　研究テーマに基づく研究調査５ 第１３回　研究内容プレゼンテーション１ 第１４回　研究内容プレゼンテーション２ 第１５回　まとめと今後の研究の方向性		
授業方法	文献購読・研究調査・討議・発表等によって行う。		
アクティブラーニングの視点	自らの課題設定と、主体的な課題追及活動を重視。		
授業外学習	・自らの研究テーマに関わって調査し、発表準備をすること。 ・発表会に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育課題に関わる文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュースなどについて自分の考えをまとめること。		
教科書	教科書は指定しない。授業中に必要な資料を随時配布。		
参考書	授業中に必要な資料を随時配布。		
評価方法	授業への参加度５０％、　発表及びレポート５０％		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	734	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317314
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・研究テーマに関する文献を読んで、先行研究をまとめて議論ができる。		
授業概要	研究テーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　研究テーマの題材探し 第３回　　文献検索の方法と図書館の利用 第４回　　文献の読み方と整理方法 第５回　　先行研究の発表 1 第６回　　先行研究の発表 2 第７回　　先行研究の発表 3 第８回　　先行研究の発表 4 第９回　　先行研究の発表 5 第 10 回　先行研究の発表 6 第 11 回　研究テーマの選定と研究デザインについて 第 12 回　研究テーマの確定 第 13 回　研究デザインの確定と本文の組み立て方 第 14 回　研究内容の中間発表 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	・テーマ設定について文献研究 ・方法論についての専門知識の習得 ・ＰＣスキルの習得（データー入力と解析および図表作成） 以上を、講義で発表できるよう随時実践すること		
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。		
参考書	参考書は適宜紹介する。		
評価方法	発表やグループディスカッションへの貢献度(積極的な質問や意見、リーダーシップ、出席）50%、課題の提出等 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校、企業、医療等の現場における教員及び専門職の経験がある者が、その経験を活かして、アカデミックスキル及びキャリア形成について指導する。		

No.	735	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317325
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1 自分のキャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 2 文献研究能力や調査実施能力を身につける。とくに法律や政策文書の調査能力を身につける。 3 討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 4 外国の教育制度や政策についても理解する。		
授業概要	1、2 年次に学んだ知識を基礎として、より専門性を高める。 とくに制度・政策に関する視点から受講者の関心に応じたテーマを設定し、ゼミを進める。 前半では主に文献の購読を通じて制度・政策に関連する内容についての知識を深める。 後半では 4 年次での演習につながる形でテーマを具体化し、資料等の検索・引用能力を習得するとともに、設定したテーマについて研究を進める。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　文献講読・討論 第３回　文献講読・討論 第４回　文献講読・討論 第５回　文献調査・資料調査の方法 第６回　研究テーマの設定・研究計画の立案／文献調査・資料調査の実践 第７回　文献講読・討論 第８回　文献講読・討論 第９回　文献講読・討論 第 10 回　レポート作成・文献引用の学習 第 11 回　調査研究 第 12 回　調査研究 第 13 回　調査研究 第 14 回　研究成果の発表 第 15 回　研究成果の発表		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究に向けて、文献を読み、それをゼミメンバーに伝えることを通じて研究の基礎的な能力を養う。 また、他のゼミメンバーの学習についてディスカッションを行うことによって自分の関心を広げていく。 ゼミメンバーそれぞれの研究テーマについて、相互に意見・質問を述べるディスカッションを通じて、質の向上を図る。		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・毎回の教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。		
参考書	参考書は適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、 発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	736	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317336
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	次年度の卒業研究論文の完成に向けて、各テーマに関する文献を読んで主体的、研究的な態度を習得する。また、各種の問題解決のための手法や表現能力を身につける。		
授業概要	卒業研究に向けての課題や目的を明確にし、研究計画、データ収集、議論の進め方、論文の書き方等のスキルを身につける。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　研究課題（テーマ）の探究 第 3 回　研究の進め方 第 4 回　研究計画作成 第 5 回　論文作成上の手順と書き方 第 6 回　卒業研究（1） 第 7 回　卒業研究（2） 第 8 回　卒業研究（3） 第 9 回　卒業研究（4） 第 10 回　卒業研究（5） 第 11 回　プレゼンテーション指導 第 12 回　要旨と論文の中間報告 第 13 回　中間報告会の実施 第 14 回　中間報告会についての全体議論（1） 第 15 回　中間報告会についての全体議論（2）		
授業方法	少人数授業を活かし、年間を通じて教員との濃密な対話や指導を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク）・フィールドワーク、振り返りｼｰﾄの活用、必要文献の輪読など		
授業外学習	授業時間以外にフィールドワークをはじめ、情報収集や文献読解等、積極的、かつ計画的に遂行すること。		
教科書	なし		
参考書	適宜、参考文献を提示する。		
評価方法	提出した研究論文の研究進捗状況と内容,プレゼンテーション能力（50%）、授業への参加度（50%） 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、教育関係のフィールドワークの概要について解説し、並びに実践指導を行う。		

No.	737	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317343
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる。 ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。		
授業概要	専門演習Ｉでは、これまでに修得したアカデミックスキルを基礎として、主に発達心理学の分野の、文献の収集方法や読み解き方を学習する。また、発達心理学分野のデータの取得方法や分析の基礎的な方法についても学習する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション ゼミの指導計画、主要文献の紹介 第２回　文献購読の手法 文献の読み方、探し方、理解の仕方 第３回　心理学研究法（１） 科学的研究とは何か　実験研究と相関研究 第４回　心理学研究法（２） 独立変数の操作　従属変数の測定 第５回　心理学研究法（３） 剰余変数の統制 第６回　心理学研究法（４） 実験計画法 第７回　心理学研究法（５） 質問紙作成の手法 第８回　心理学研究法（６） 質問紙調査の手順 と分析の基礎 第９回　心理学研究法（７） 観察法と様々な観察データの分析法 第 10 回　心理学研究法（８） 面接法と事例データの分析法 第 11 回　心理学研究法（９） 模擬研究テーマによる研究計画の作成 第 12 回　心理学研究法（１０）模擬データによる統計分析実習 第 13 回　研究テーマ策定 第 14 回　研究テーマ策定と研究テーマ発表準備 第 15 回　第１次の研究テーマ発表会		
授業方法	・講義とグループディスカッション ・場合により購読した文献の共有や発表を行う		
アクティブラーニングの視点	協同学習によりグループで心理学的な分析法について意見をまとめ発表する。講義の理解度を確認するため、グループで仮想データの分析を行い、各研究法に従って発表し、振り返る。		
授業外学習	①発達心理学の入門書を最低１冊 通読すること ②研究テーマ策定のための文献購読などの資料収集を行い、随時まとめる事 ③講義外で行った学習を記録していくこと ④研究テーマ策定に関する発表準備を行うこと		
教科書	指定なし、適宜、資料を配付する。		
参考書	高野 陽太郎・岡 隆（編集）『心理学研究法 補訂版』 有斐閣アルマ（2017/3/1） 鈴木 直人（監修）『心理学概論　【第２版】』ナカニシヤ出版；第２版（2014/4/20） 小塩 真司・宅 香菜子（著）『心理学の卒業研究ワークブック　発想から論文完成までの 10 ステージ』金子書房（2015/9/9） 森 敏昭・吉田 寿夫（著，編集）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房（1990/6/1） 小塩 真司・西口 利文（編集）『質問紙調査の手順（心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版（2007/11）		
評価方法	毎回の講義時の小レポート（30%） 第１次の研究テーマ発表（30%） 第１次の研究テーマに従う主要文献のまとめ　（30%） 授業外学習の記録表　（10%）		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	738	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317346
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行う。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション（自己紹介とゼミの趣旨説明） 第 2 回　研究テーマ①（問題意識の整理と課題発見） 第 3 回　研究テーマ②（問題意識の整理と課題発見） 第 4 回　研究テーマ③（テーマ報告・議論） 第 5 回　研究方法について① 第 6 回　研究方法について② 第 7 回　研究方法について③ 第 8 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論① 第 9 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論② 第 10 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論③ 第 11 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論④ 第 12 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論⑤ 第 13 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論⑥ 第 14 回　研究テーマ報告とそれに基づいた議論⑦ 第 15 回　まとめ・演習２に向けた説明		
授業方法	課題発見・探求型授業		
アクティブラーニングの視点	教育・スポーツに関する問題を深く考え、他の人と議論し、理論的な結論を導き出す。		
授業外学習	興味のあるテーマについて自主的・自発的に探究する。		
教科書	指定なし		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業態度（貢献度、取り組む姿勢などを総合的に評価する）…50% 発表（発表内容、研究の進捗状況）…50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	739	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317348
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・音楽教育や音楽作品に関する研究能力がつく。		
授業概要	自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。特に本ゼミでは教育現場全般に活かせる音楽活動の実践や活用、多様な音楽表現や教材の研究を通して、人と音楽の関わりについて探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行い、討議や発表を含む。この演習は３年次後期および４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　前期学習目標と学習計画 第３回　研究テーマ設定 第４回　文献検索の方法と図書館の利用 第５回　テーマに関する先行研究と発表（１） 第６回　テーマに関する先行研究と発表（２） 第７回　テーマに関する先行研究と発表（３） 第８回　テーマに関する先行研究と発表（４） 第９回　研究テーマの検討 第１０回　研究計画を立てる 第１１回　研究計画の発表・討議（１） 第１２回　研究計画の発表・討議（２） 第１３回　研究計画の発表・討議（３） 第１４回　研究テーマの再検討 第１５回　教育学専門演習１のまとめ、夏季休業中の自主課題の設定		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自が主体的に文献調査などの先行研究を行うことにより、より関心を持って取り組める研究テーマを設定し、後期に向けて能動的に研究を進められる研究計画を立てる。また、発表や討議を通して、意見を共有し、幅広い角度から各々の研究を進められる視点を持つ。		
授業外学習	・研究テーマについて文献調査、先行研究を行い、研究計画を準備すること。 ・毎回の授業で添削を受けた課題を完成させ、次回の授業準備を行うこと。		
教科書	なし		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業の参加及び取り組み：60％ 発表及びレポート：40％		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、音楽の研究に関する指導を行う。		

No.	740	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317354
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023年度 前期
到達目標	1. Learn about foreign language education. 2. Improve your foreign language skills. 3. Learn about literature written in English.		
授業概要	While actually studying a foreign language (English), we will research foreign language education from a variety of perspectives. We will also study literature written in English and write creatively in English.		
授業計画	The week-by-week list of activities listed below describes the English practice component of the class. Students will also be working on their autonomous language learning projects. I may make changes to this schedule based on the needs of the students in this seminar. 1. Introduction, Class Overview, Icebreakers, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation, Student Presentations 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation, Student Presentations 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation, Student Presentations 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation, Student Presentations 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation, Student Presentations 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation, Student Presentations 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation, Student Presentations 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation, Student Presentations 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation, Student Presentations 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation, Student Presentations 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation, Student Presentations 15. Final Review, Final Evaluation		
授業方法	This class will consist of three major components: 1. Foreign language (English) learning. 2. Learning about foreign language education through materials development, presentations, and possibly visits to local schools. 3. A self-directed autonomous language learning project.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. We are going to study language and language education. Students should be prepared to participate actively in each class and also study on their own outside of class. Students will determine the direction of their own study and research.		
授業外学習	Students must be prepared to study actively outside of class. This study should include not only reading and writing but also speaking and listening practice. Additionally, students need to make materials for presentations.		
教科書	No specific textbook is required. I will provide materials.		
参考書	Students will need to find materials to develop language learning resources. These materials may include books, articles, websites, YouTube videos, movies, music, and much more.		
評価方法	Active Participation 60% Writing and other Assignments 40%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。		

No.	741	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317366
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自らの問題意識や、卒業研究を遂行するための手順について説明することができる。 ・研究のための学術的資料を収集することができる。		
授業概要	この演習では、まず、自己実現とは何かについて解説し、学問的研究が自己の人生とどのようにかかわるのかについて学生各自が考えることを出発点に、卒業研究を始めるにあたって必要とされる様々な準備や手順について説明する。具体的には、文献資料の収集や選択の方法、研究における文献の意味や扱い方、文献資料の読み方、アイデアやデータの整理、論理的思考や批判的思考、論旨の組み立て方などについて解説する。		
授業計画	第１回　自己の発見 第２回　自己実現とキャリア 第３回　自己と学術研究 第４回　研究テーマの設定に向けて 第５回　学術的情報収集の方法 第６回　学術的情報収集の実践 第７回　文献とその扱い方 第８回　論文のための文章の書き方　アイデアの整理 第９回　論文のための文章の書き方　アウトライン作成法 第 10 回　論文のための文章の書き方　段落の構成と接続 第 11 回　論文の読み方　論旨を読み取る 第 12 回　論文の読み方　論文の構成 第 13 回　論文を要約する 第 14 回　批判的思考とその実践 第 15 回　先行研究とは		
授業方法	講義および学生による発表とディスカッション		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、各自のテーマや問題意識による自立的学習と研究など		
授業外学習	毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察等を各自ノートにまとめる（1 時間程度）。また、授業の進行段階に応じた学習内容については適時、授業で指示する（2 時間程度）。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布		
参考書	授業においても適宜紹介するが、基本的には学生自身が準備する。		
評価方法	授業への参加度（１０％）、発表（１５％）、ディスカッション（１５％）、提出課題（６０％） 授業への参加 度については、小テストや発言で評価する。発言は積極的かつ的確であることを評価す る。小テストは採点後、講評によるフィードバックを行う。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	742	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317386
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・スポーツ教育（保健教育科教育）・コーチングに関する基礎的研究を進めることができる． ・スポーツ教育（保健体育科教育）・コーチングに関する課題を発見し，その課題を解決するため力を養うことができる． ・保健，体育授業やスポーツ指導を実践するための見識を深めることができる．		
授業概要	学校現場では保健体育科教員の教育的課題への対応は多様化し多岐にわたっている．それらの課題を克服するために，教育実践討論を通し，教育の課題発見と課題解決について探究する． また，一方で授業，クラブ指導，スポーツ指導場面において，子どもたちに対して知識，技能などを教授する教師，コーチには「教授技術（ティーチングスキル／コーチングスキル)」が必要である．そこで，保健体育科の教師およびスポーツ指導者に必要な教授技術を探究することで授業力，競技力向上に繋げていくための文献・調査研究について取り組む．		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価法等） 第２回　自己表現 第３回　コミュニケーションスキル 第４回　教育実践討論Ⅰ（教科指導） 第５回　教育実践討論Ⅱ（学級運営） 第６回　教育実践討論Ⅲ（生徒指導） 第７回　教育実践討論Ⅳ（クラブ指導） 第８回　教育実践討論Ⅴ（学校運営） 第９回　授業力向上のための文献・調査Ⅰ 第 10 回　授業力向上のための文献・調査Ⅱ（グループワーク） 第 11 回　授業力向上のための文献・調査Ⅲ（発表） 第 12 回　競技力向上のための文献・調査Ⅰ 第 13 回　競技力向上のための文献・調査Ⅱ（グループワーク） 第 14 回　競技力向上のための文献・調査Ⅲ（発表） 第 15 回　まとめ及び授業アンケート		
授業方法	ディスカッション，グループワークを中心に授業展開をする．		
アクティブラーニングの視点	教育実践討論においては，これまでの経験値だけでなく，ソーシャルメディアなどを活用し，様々な視点から各課題についてグループワークを通じて課題解決に取り組む．		
授業外学習	教育実践討論，文献研究をより質の高い内容とするには，授業外時間を積極的に取り組むことが必要である．		
教科書	特に指定なし．必要に応じ，適宜資料を配布する．		
参考書	特に指定なし．		
評価方法	授業外学習の取り組みとその内容（40%）と授業への参加度（60%）で評価する．授業外学習は，文献・調査研究が中心となり，探求度と積極性の観点から評価を行う．授業への参加度は，表現力，積極性，コミュニケーション力，協調性の観点より評価する．		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校教育，教育行政，様々なカテゴリーの指導実践（日本バスケットボール協会 A 級コーチ）を活かして指導する．		

No.	743	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317406
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１　将来のキャリア形成を見すえて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究、情報収集、研究協議等を通じて、他者理解、自己理解を深める。 ３　グループ協議、プレゼンテーション等を通じて、コミュニケーション力、発信力を高める。 ４　実践的な研究テーマに取り組み、将来の自分につながる実践力を高める。		
授業概要	・特別支援教育等をテーマとする文献研究、情報収集等により研究主題につながる知見を得る。 ・事例検討、研究協議、フィールドワーク等による主体的、実践的な研究を行う。 ・研究主題を探求し、プレゼンテーション等により発信、共有する。 ・研究主題について小論文を作成し、卒業研究論文の基盤とする。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション 第　2回　事例検討１／グループ協議１ 第　3回　事例検討２／グループ協議２ 第　4回　事例検討３／グループ協議３ 第　5回　事例検討４／グループ協議４ 第　6回　研究調査１／輪読１ 第　7回　研究調査２／輪読２ 第　8回　研究調査３／講読３ 第　9回　研究調査４／輪読４ 第 10 回　研究調査５／特別支援教育に係るワークショップ１ 第 11 回　研究調査６／特別支援教育に係るワークショップ２ 第 12 回　グループ協議・フィールドワーク 第 13 回　研究テーマ・計画　プレゼンテーション１ 第 14 回　研究テーマ・計画　プレゼンテーション２ 第 15 回　まとめ　（後期に向けた課題の提示）		
授業方法	文献、研究論文講読・調査・研究協議・事例検討・発表		
アクティブラーニングの視点	・研究協議、事例検討、研究及び調査内容の発表などを行う。 ・実践的な研究テーマを設定し、他者との協議やフィールドワーク等を通して主体的に発信する。		
授業外学習	・授業における課題レポート作成 ・採用試験・就労に向けた学習 ・文献研究、フィールドワーク		
教科書	なし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	研究協議、事例検討等への参加度 30%、課題（レポート）の内容 40%、発表 30%。グループ協議、事例検討等への参加度は、事前課題の内容、質問等への回答、協議への積極的参加などを評価する。課題等は、内容を確認して評価を記したものを適宜返却する。発表は、発信内容の分かりやすさ、論理性、的確性を評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政及び高等学校教諭、特別支援学校 校長としての経験や知見を活かし、教育現場の現況を反映した事例検討（ワークショップ含む）や研究協議等を多く取り入れるなど、実践的研究を基本に授業を計画・実施する。		

No.	744	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317416
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1　自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2　文献研究能力や調査実施能力を身につける。 3　討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。		
授業概要	１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第　１回　オリエンテーション 第　２回　文献・論文研究１／グループ協議１／レポート作成 第　３回　文献・論文研究２／グループ協議２／レポート作成 第　４回　文献・論文研究３／グループ協議３／レポート作成 第　５回　事例検討１／研究主題の設定及び研究計画立案１ 第　６回　事例検討２／研究主題の設定及び研究計画立案２ 第　７回　研究テーマ・計画策定１／教育実習を想定した事例検討１ 第　８回　研究テーマ・計画策定２／教育実習を想定した事例検討２ 第　９回　研究調査１／論文講読１／課題学習（レポート作成）１ 第 10 回　研究調査２／論文講読２／課題学習（レポート作成）２ 第 11 回　研究調査３／論文講読３／課題学習（レポート作成）３ 第 12 回　課題学習レポートに係る共有（グループ協議含む） 第 13 回　研究テーマ・計画　プレゼンテーション１ 第 14 回　研究テーマ・計画　プレゼンテーション２ 第 15 回　まとめ　（後期に向けた課題の提示）		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション（ワールドカフェ等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	指定なし、適時、資料を配付する。		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場と教育行政の勤務経験を活かし、学級経営や授業（特に体育科教育）、教育に関する課題について、幅広く研究を指導する。		

No.	745	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317426
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2．文献研究能力や調査実施能力が身につく。 3．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得すること、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。1，2 年次で学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。 3 年次前期は、各自の問題意識や経験に基づき、関連する文献を調べ、発表・討議を行う。研究方法についても理解を深める。子育てひろばの見学や教材の作成、各自の進路指導にかかわる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　子どもとの関わり体験や問題意識の発表① 第３回　子どもとの関わり体験や問題意識の発表② 第４回　保育教材の研究 第５回　子育てひろば見学 第６回　文献検索の方法と図書館の利用 第７回　関心のあるテーマにかかわる文献・資料の収集・整理 第８回　関心のあるテーマ・文献の発表・討議① 第９回　関心のあるテーマ・文献の発表・討議② 第 10 回　研究方法の検討① 第 11 回　研究方法の検討② 第 12 回　保育教材の作成 第 13 回　保育教材のプレゼン準備 第 14 回　子育てひろばでの活動 第 15 回　前期のまとめ・夏季休業中の課題		
授業方法	文献購読・発表・討議によって行う。		
アクティブラーニングの視点	研究分野に関する発表、グループ討議、レポート作成など		
授業外学習	関心のあるテーマや研究方法について文献を調べること。 研究計画に基づき、自主的に研究を進めること。 発表・討議の際には、レジュメを作成すること。提出課題に取り組むこと。 子育てひろばで活動すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業への参加度（発表・討議、子育てひろばでの活動等含む）60%、提出物 40%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校でのキャリア支援の経験、子どもや保護者、保育者や教員を対象とする相談活動の経験を生かし、卒業研究や保育教材の開発等に助言を行う。		

No.	746	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317436
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１　自分のキャリア形成を見据えて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究能力や調査実施能力を身に付ける。 ３　専門的な文章を読むことや書くことの能力や、討論・発表の力を身に付ける。		
授業概要	道徳教育に関わる研究、教材や指導法，授業力向上に関わるテーマについて，専門的に探究することを目的とする。１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わった専門性を発達させるための科目である。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究テーマ設定に向けて 第３回　文献調査・資料調査の方法 第４回　研究テーマの設定 第５回　テーマに関する先行研究と発表１　　発表・報告・討議 第６回　テーマに関する先行研究と発表２　　発表・報告・討議 第７回　テーマに関する先行研究と発表３　　発表・報告・討議 第８回　テーマに関する先行研究と発表４　　発表・報告・討議 第９回　テーマに関する先行研究と発表５　　発表・報告・討議 第 10 回　テーマに関する先行研究と発表６　　発表・報告・討議 第 11 回　テーマに関する先行研究と発表７　　発表・報告・討議 第 12 回　テーマに関する先行研究と発表８　　発表・報告・討議 第 13 回　テーマに関する先行研究と発表９　　発表・報告・討議 第 14 回　テーマに関する先行研究と発表 10　　発表・報告・討議 第 15 回　まとめと今後の研究の方向性		
授業方法	文献講読・調査・研究協議・発表		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・発表者…研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめ，提出する。 ・テーマについての文献調査研究 ・PC スキルの習得		
教科書	適時　資料を配付		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	授業への参加度 50%，発表・レポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	747	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317446
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1)自分のキャリア形成を見据え、必要な知識や技能を習得できる。 2)文献検索能力や調査実施の方法を習得できる。 3)討論や発表の力を高める事ができる。		
授業概要	1,2 年次で学んだことを踏まえ、自身の４年間の成果である卒業研究の準備段階であると同時に、自身の進路へ繋げていく為の専門性を発達させることを目的とする。また、少人数のゼミナール形式で実施し、活発な意見を期待しておるため、自らの自主性や積極性を発揮することが求められる。		
授業計画	第一回　オリエンテーション 第二回　文献検索の方法 第三回　発表の方法 第四回　関心のあるテーマの発表① 第五回　関心のあるテーマの発表② 第六回　関心のあるテーマの発表③ 第七回　研究協議① 第八回　研究協議② 第九回　研究協議③ 第十回　研究協議④ 第十一回　研究調査① 第十二回　研究調査② 第十三回　研究調査③ 第十四回　研究調査④ 第十五回　まとめと今後の方向性		
授業方法	文献検索・調査・討論・実践によって実施する。 また、基本的には資料の配布等は行わず、ペーパーレスで授業をすすめるため、PC やタブレットの持ち込みを推奨します。		
アクティブラーニングの視点	グループ討議や実際に地域社会に趣き、自身の学びを社会に還元する。		
授業外学習	・研究テーマに関わる調査を実施する ・研究テーマに関わる調査を実施し、発表できるように準備を行う		
教科書	特になし		
参考書	未来を変える目標　SDGs アイデアブック　Think the earth 著（紀伊國屋書店） 前林清和・中村浩也 編　　「SDGs 時代の社会貢献活動」　昭和堂　2021		
評価方法	授業への参加度（５０％） 発表や課題、及びレポート等の提出物（５０％）		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校・企業等の業務に携わった経験を持つ教員が、研究について指導する。		

No.	748	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317466
教員名	八木　成和		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	以下の 4 点を到達目標とする。 （１）積極的に授業に参加し、感受性訓練、検査法の手続き・技能を身につけ、説明できる。 （２）検査法と実験法の方法を理解し、検査結果を測定できる。 （３）結果を統計学の知識を用いて、操作でき、その結果を図表等にして記述できる。 （４）得られた結果を解釈し、心理学のレポートの書き方を習熟し、文章として表現できる。		
授業概要	演習形式により感受性訓練、人格・性格検査、実験法の実習を行う。実習を通して得られたデータを分析した結果をレポートとして記述してもらう。データをもとに考察し、自分で考えたことを文章として表現していただく。これを毎時間提出することを求める。なお、数回のパソコンを使った実習も含む。冬学期の基礎編となる。		
授業計画	第１回：演習内容の紹介・レポートの書き方 第２回：感受性訓練（目隠し歩き） 第３回：感受性訓練（集団討論における個人の役割） 第４回：感受性訓練（ロールプレイングの実際と教育場面への応用） 第５回：感受性訓練（傾聴訓練およびカウンセリング・マインド） 第６回：感受性訓練（ソーシャルスキルトレーニング［SST］の実際） 第７回：人格・性格検査（ Y-G 性格検査に関する演習） 第８回：人格・性格検査（文章完成法の実際） 第９回：人格・性格検査（投影法：イメージを測定する方法） 第 10 回：実験に関する方法論の概要 第 11 回：知覚に関する実験（錯視量を測定する）：実験実習 第 12 回：統計の基本的知識を学ぶ（検定と確率の考え方） 第 13 回：データの整理方法と分析方法 第 14 回：結果の表示方法や図表の作成方法を学ぶ 第 15 回：研究計画の立て方		
授業方法	演習形式で実施する。実習・発表・対話・討論も取り入れた授業となる。提出された課題に対して、誤解や不正解が多い場合は、次回の授業時に適宜解説を行うので、理解に努め、疑問点を解消するようにしてください。		
アクティブラーニングの視点	感受性訓練や検査方法等の実習中心となる。自らが体験することにより自己への省察を深めていく。		
授業外学習	毎回、実験実習を行うため、すみやかに実習後のレポートを作成し、期日までに必ず提出すること。 授業以外にレポート作成のため 90 分程度の学習を必要とします。		
教科書	授業前にプリントを配布する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	レポート課題（65 %）。授業中に課す課題による平常点（35 %）。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	749	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317486
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・　表現及び鑑賞の活動を通して、自ら課題を見つけ出し、その解決に向けて主体的、協働的な学びができる。 ・　造形活動を通して制作し、発表することができる。 ・　鑑賞活動を通して、作品の良さを感じ取り、伝えることができる。 ・　テーマに関する文献を読み、基礎的な議論ができる。		
授業概要	この授業では、造形表現を通して専門性をより深め、教育者としての実践力を高めることを目的とする。また、自らが「みて、感じて、描く・つくる」を基本に、感性を働かせて発想し、構想の能力や鑑賞する能力を育み、造形と豊かに関わる造形活動を目指すことが求められる。これまで学んだ造形表現を基に、多様な表現技法を研究し、作品制作や発表を通して、社会における造形の関わりや芸術文化について学ぶ。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：「作品鑑賞１」（美術の歴史） 第３回：「作品鑑賞２」（現代美術） 第４回：「表現するということ」について 第５回：「みて、感じて、描く」について 第６回：「材料と用具」について 第７回：研究テーマ・研究計画について 第８回：「造形表現１」（構想） 第９回：「造形表現２」（作品制作） 第１０回：「造形表現３」（作品制作） 第１１回：「造形表現４」（作品制作） 第１２回：「作品発表」（鑑賞・合評会） 第１３回：「社会と美術」について 第１４回：「美術館・ギャラリー」について 第１５回：まとめ		
授業方法	造形活動演習、鑑賞活動演習、作品研究、文献調査、グループ協議、発表などを行う。		
アクティブラーニングの視点	ゼミ内での協議やグループ学習を積極的に行う。また、全体としても作品や意見発表などで学生間での評価を積極的に行う。（その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行う工夫すること。）		
授業外学習	作品制作やレポート提出に向けた準備、研究発表に向けた準備。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	作品、レポート提出、各自の研究への取組姿勢などから評価します。 授業での取組（５０％）、研究内容（５０％）		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	750	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317493
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	社会科教育学、教師教育学に関わる研究テーマを設定し、学術的に研究する ・１、２年生で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路と関わって専門性を高める科目である。 ・授業は少人数の演習形式で行われる。 ・４年次の演習と連動し、卒業研究の基礎となる研究を行なう。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション：「わたしは何を、どのように、なぜしたいのか」 第 2 回　研究の方法①：文献・論文の探し方 第 3 回　研究の方法②：文献・論文の読み方 第 4 回　発表①・議論・リフレクション 第 5 回　発表②・議論・リフレクション 第 6 回　発表③・議論・リフレクション 第 7 回　発表④・議論・リフレクション 第 8 回　発表⑤・議論・リフレクション 第 9 回　発表⑥・議論・リフレクション 第 10 回　研究の方法③：レジュメのつくり方 第 11 回　研究の方法④：論理的な話し方 第 12 回　研究の方法⑤：論理的な文章の書き方 第 13 回　研究の方法⑥：論理的なプレゼンテーションのつくり方 第 14 回　研究の方法⑦：文献の整理と参考文献の書き方 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ほとんどの授業で、教員・ゼミ員で意見交流し、知識を構成する学習を取り入れる。		
授業外学習	１．発表者：研究テーマに関する文献・論文を探し，それをレジュメに要約・考察して発表する。 ２．テーマについての文献研究 ３．アカデミックスキル、パソコンスキルの習得		
教科書	授業中に必要に応じて指示する		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加度 50%、発表 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における勤務経験や国際協力業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かし、人間教育を行う。		

No.	751	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317499
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	授業における教材や指導法，小学校の実践の場で必要とされる授業力向上に関わるテーマを設定して，専門的に探究することを目的とする。1，2 年次で学んだ基礎分野をもとに，自己の進路とも関わって専門性を深めるための科目であり，授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながり，卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第　1 回　オリエンテーション 第　2 回　研究テーマ①（研究テーマの題材探し） 第　3 回　研究テーマ②（資料収集の方法） 第　4 回　文献発表①（論文の読み方） 第　5 回　文献発表②（論文の書き方） 第　6 回　文献発表③（問題の所在について） 第　7 回　文献発表④（論文の構成） 第　8 回　文献発表⑤（資料の整理の仕方） 第　9 回　研究構想発表①（先行研究について） 第 10 回　研究構想発表②（論文とレポートの違い） 第 11 回　研究構想発表③（文献目録について） 第 12 回　研究構想発表④（研究計画について） 第 13 回　研究概要の作成 第 14 回　口頭発表予行演習（口頭発表の仕方について） 第 15 回　前期のまとめ（口頭発表）		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働学習を行う。		
授業外学習	１．研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめ，提出する。 ２．テーマについての文献研究 ３．PC スキルの習得 ４．学校現場への訪問		
教科書	授業中に適宜紹介する		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業の参加度５０％，発表５０％		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	752	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317500
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	算数科教育に関わる教材や指導法，小学校の実践の場で必要とされる授業力向上に関わるテーマを設定して，専門的に探究することを目的とする。1，2 年次で学んだ基礎分野をもとに，自己の進路とも関わって専門性を深めるための科目であり，授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながり，卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究テーマ設定に向けて 第３回　文献調査・資料調査の方法 第４回　研究テーマ設定 第５回　研究計画立案 第６回　研究計画プレゼンテーション１ 第７回　研究計画プレゼンテーション２ 第８回　研究調査１ 第９回　研究調査２ 第 10 回　研究調査３ 第 11 回　研究調査４ 第 12 回　研究調査５ 第 13 回　研究調査プレゼンテーション１ 第 14 回　研究調査プレゼンテーション２ 第 15 回　まとめと今後の研究の方向性		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・自らの研究テーマに関わって調査し、発表準備をすること。 ・発表会に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育課題に関わる文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュースなどについて自分の考えをまとめること。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%，発表 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、教育学専門演習１を指導する。		

No.	753	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317504
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自身のキャリア形成を見据えて，卒業研究に向けた準備をすることができる。 ・研究課題に必要な文献検索，資料作成，プレゼンテーションの手法を身につける。 ・先行研究による知見を整理し，論理的な文章を書くことができる。		
授業概要	・言語学に関する様々な文献を読み解き、内容を理解する。 ・自らの興味関心に応じて研究課題の考察を深める。 ・文献講読を通じて討論し，研究内容や手法に関する検討を行う。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. 研究テーマ設定に向けての準備 3. 文献検索の方法 4. 発表資料作成の方法 5. 文献検索 1 6. 文献検索 2 7. 文献講読 1 8. 研究課題検討 9. 文献講読 2 10. 研究課題検討 11. 文献講読 3 12. 研究課題検討 13. 文献講読 4 14. 研究テーマの検討・設定 15. 研究テーマ発表		
授業方法	担当者を決め，先行研究のまとめと発表を行い，その後全体での討論を行う。 必要に応じて PC 持参し，文献検索や資料作成について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	先行研究の概要理解，内容に関する資料作成，発表，討論を通して研究テーマに関する理解を深める。		
授業外学習	文献講読の担当者は，授業前に概要をまとめ，発表資料を作成する。 文献検索や研究テーマに関する先行研究のまとめなどは，各自で行う必要がある。		
教科書	授業中に適宜指示する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価方法	文献講読に関する資料作成，発表 50%，研究テーマに関するレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	754	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317511
教員名	網代　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1　キャリア形成及び卒業研究に向けた準備をすることができる。 2　文献研究や調査、事例分析、研究協議等を通じて、他者の考えを理解することや、自己の理解を深めることができる。 3　グループ討議、発表等を通じて、コミュニケーション力や発信力を高めることができる。 4　実践的な研究テーマに取り組み、将来の自分に繋がる実践力を高めることができる。		
授業概要	・広く教育に関する内容や方法、教育者に求められる資質・感性・実践力に関わるテーマを設定し、専門的に探究する。 ・様々な文献研究などにより、自らの研究主題につながる知見を得る。 ・事例検討、グループ討議等により主体的、実践的な研究を行う。 ・研究主題について探究し、プレゼンテーション等により発信する。 ・研究主題について小論文を作成し、卒業研究論文の基盤とする。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　事例検討１／グループ討議１／レポート作成 第３回　　事例検討２／グループ討議２／レポート作成 第４回　　文献・論文研究／レポート作成 第５回　　事例検討３／研究主題の設定及び研究計画立案１ 第６回　　事例検討４／研究主題の設定及び研究計画立案２ 第７回　　研究主題・計画策定１ 第８回　　研究主題・計画策定２ 第９回　　調査研究１／レポート作成 第 10 回　　調査研究２／レポート作成 第 11 回　　調査研究３／レポート作成 第 12 回　　調査研究について共有・グループ討議 第 13 回　　研究主題・計画の発表１ 第 14 回　　研究主題・計画の発表２ 第 15 回　　まとめ		
授業方法	文献・研究論文講読、調査、研究協議、事例検討、発表		
アクティブラーニングの視点	・事例検討、研究協議、研究及び調査内容の発表を行う。 ・実践的な研究テーマを設定し、他者との協議などを通じて主体的に探究する。		
授業外学習	・授業における課題レポートの作成 ・発表に向けた資料作成やプレゼンテーションの準備 ・教育課題等に係る文献研究 ・教員採用・就職に向けた学習		
教科書	なし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	・研究協議等への参加度　　40%　　・課題（レポート）の内容　　30%　　・発表　　30%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府の教育行政に長く携わってきた経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	755	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317616
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	1　自分のキャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 2　文献研究能力や調査実施能力を身につける。 3　討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 4　教科指導、集団づくり、個別支援等についての基礎的知識を活用することができる。		
授業概要	1、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第 01 回　オリエンテーション 第 02 回　情報の整理／講読 01／教育課題学習 1-1 第 03 回　思考の整理／講読 02／教育課題学習 1-2 第 04 回　討論の基本／講読 03／教育課題学習 2-1 第 05 回　研究テーマの設定及び研究計画立案（1）／講読 04／教育課題学習 2-2 第 06 回　研究テーマの設定及び研究計画立案（2）／講読 05／教育課題学習 3-1 第 07 回　研究計画プレゼンテーション（1）／講読 06／教育課題学習 3-2 第 08 回　研究計画プレゼンテーション（2）／講読 07／教育課題学習 4-1 第 09 回　調査研究（1）／講読 08／教育課題学習 4-2 第 10 回　調査研究（2）／講読 09／教育課題学習 5-1 第 11 回　調査研究（3）／講読 10／教育課題学習 5-2 第 12 回　レポート作成／講読 11／教育課題学習 6-1 第 13 回　研究成果プレゼンテーション（1）／講読 12／教育課題学習 6-2 第 14 回　研究成果プレゼンテーション（2）／講読 13／教育課題学習 7 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、ディベート、 マンダラート、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・毎回の教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	開講時に紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、　発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および教育行政での経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる		

No.	756	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習 1	授業コード	9317691
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・キャリア形成および卒業研究に向けた準備をすることができる。 ・研究課題に関する文献研究や調査等の力量を高める。 ・文献や調査などによる知見を整理し、論理的に書くことができる。 ・教育に関するさまざまなことがらについて、本質をふまえた考察を深める。 ・必要なプレゼンテーションに関する知識やスキルを獲得できる		
授業概要	・教育にかかわるさまざまな文献を読み解き、自らの研究課題の考察を深める。 ・学校における実際の指導を観察し分析して、研究討議を経てその知見を共有する。 ・十分な先行研究をふまえて自らの研究課題を発表・報告し、さらなる討議・検討をすすめていく。 ・研究主題を定め、文献研究等により、論文作成に向かう		
授業計画	第 1 回　はじめに　研究に向けて 第 2 回　研究の目的 第 3 回　研究の方法 第 4 回　研究課題の設定 第 5 回　文献等研究 1　発表・報告・討議 第 6 回　文献等研究 2　発表・報告・討議 第 7 回　文献等研究 3　発表・報告・討議 第 8 回　文献等研究 4　発表・報告・討議 第 9 回　文献等研究 5　発表・報告・討議 第 10 回　文献等研究 6　発表・報告・討議 第 11 回　文献等研究 7　発表・報告・討議 第 12 回　文献等研究 8　発表・報告・討議 第 13 回　文献等研究 9　発表・報告・討議 第 14 回　文献等研究 10　発表・報告・討議 第 15 回　まとめ　今後の研究調査に向けて		
授業方法	文献購読、発表・報告・討議		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく		
授業外学習	さまざまな教育事象に関心をもち、その本質の探究を試みる。		
教科書	なし		
参考書	基本文献やプリント資料等適宜提示する。		
評価方法	教育学文献購読の発表・報告・討議 60%、レポート 40%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および行政での教育経験を活かして、幅広く研究を指導する。		

No.	757	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317701
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる。 ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。		
授業概要	１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。広く体育・スポーツ科学に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第　１回　オリエンテーション 第　２回　文献・論文研究１／グループ協議 1／レポート作成 第　３回　文献・論文研究２／グループ協議 2／レポート作成 第　４回　文献・論文研究３／グループ協議 3／レポート作成 第　５回　文献・論文研究４／グループ協議 4／レポート作成 第　６回　文献・論文研究５／グループ協議 5／レポート作成 第　７回　文献・論文研究６／グループ協議 6／レポート作成 第　８回　文献・論文研究７／グループ協議 7／レポート作成 第　９回　文献・論文研究８／グループ協議 8／レポート作成 第 10 回　テーマに関する専門知識及び最新情報の学習（講義） 第 11 回　テーマに関する専門知識及び最新情報の学習（講義） 第 12 回　研究テーマ・方法・計画　プレゼンテーション１ 第 13 回　研究テーマ・方法・計画　プレゼンテーション２ 第 14 回　研究テーマ・方法・計画　プレゼンテーション３ 第 15 回　まとめ　（前期の総まとめと後期に向けた課題の提示）		
授業方法	文献講読・調査・スポーツ実践・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、振り返りシートの活用など		
授業外学習	１．研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめて，提出する。 ２．研究テーマに関する発表を口頭及びプレゼンテーションソフトを用いて行う。 ３．体育・スポーツ科学に関する色々な文献を読み，内容をまとめる。 ４．部活動やスポーツ活動の中で自分の課題やテーマを身体知として集積しプレイの中で感じ，記述し考察を深めて行く。 ５．教員採用試験やスポーツビジネスに関する情報収集と受験勉強の状況を確認し適宜助言する。		
教科書	必要に応じて，適宜，資料を配布する。		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	中学校や高校、大学の部活動で各スポーツ選手権大会にアスリートとして出場してきた経験や公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業や部活動，スポーツ活動の在り方や教育・ビジネスに関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	758	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317817
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	学校教育の分野において，卒業論文を作成するための基礎的な技法を習得する。また、文献輪読やディスカッションおよび発表を通して教育問題の理解を深め、研究活動との関連性について検討できる。　併せて、教育実習や教員採用試験に向けた取り組みも行う。		
授業概要	学校全体に関わる教育問題や健康課題を主とした教育学研究の専門的なゼミナールである。基礎文献の輪読や討議と受講者の研究レポート・レジュメの検討を中心にすすめていく。		
授業計画	1.　オリエンテーション 2.　学校教育・健康教育の分野における教育課題 3.　学校教育をめぐる研究動向 4.　基礎文献・資料の収集法 5.　輪読の進め方と留意点 6.　基本文献（教育とは）の輪読と討議Ⅰ 7.　基本文献（教育とは）の輪読と討議Ⅱ 8.　基本文献（教育とは）の輪読と討議Ⅲ 9.　基本文献（学校とは）の輪読と討議Ⅰ 10.　基本文献（学校とは）の輪読と討議Ⅱ 11.　基本文献（学校とは）の輪読と討議Ⅲ 12.　基本文献（子ども支援）の輪読と討議Ⅰ 13.　基本文献（子ども支援）の輪読と討議Ⅱ 14.　基本文献（子ども支援）の輪読と討議Ⅲ 15.　受講生の課題意識の確認とまとめ		
授業方法	ディスカッションおよび発表を通した演習が中心である。		
アクティブラーニングの視点	グループセッション（クロスセッション）を導入し、ワークシートの作成・活用を通してシェアリングを実施する。		
授業外学習	教育問題や子育て問題などもしくは学校保健・学校安全に関わる記事やニュースを日頃からチェックしておくことが望ましい。		
教科書	特に指定なく、適宜指示し、資料を配付する。		
参考書	適宜文献などを紹介する。		
評価方法	授業中の討議意欲・態度（30%）および授業の発表等（70%）により総合的に評価する。 課題レポートなどは確認後に返却する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教諭経験がある者が、その経験を活かして具体的な場面を紹介しながら教育学演習の指導をする。		

No.	759	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317884
教員名	中島　英康		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	１　教員採用、卒業研究、キャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究能力や調査実施能力を身に付ける。 ３　討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 ４　教科指導、集団づくり、個別支援等についての基礎的知識を活用することができる。		
授業概要	１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わった専門性を発達させるための科目である。広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　情報収集の方法／論文購読１／課題学習１（教育情報） 第３回　情報活用の方法／論文購読２／課題学習２（教育情報） 第４回　情報発信の方法／論文購読３／課題学習３（教育情報） 第５回　研究テーマの設定及び研究計画立案１／論文購読４／課題学習４（教育情報） 第６回　研究テーマの設定及び研究計画立案２／論文購読５／課題学習５（教育情報） 第７回　研究計画プレゼンテーション１／論文購読６／課題学習６（教育情報） 第８回　研究計画プレゼンテーション２／論文購読７／課題学習７（教育情報） 第９回　研究調査１／論文購読８／課題学習８（教育情報） 第 10 回　研究調査２／論文購読９／課題学習９（教育情報） 第 11 回　研究調査３／論文購読 10／課題学習 10（教育情報） 第 12 回　レポート作成、レポート交流会 第 13 回　研究計画プレゼンテーション１ 第 14 回　研究計画プレゼンテーション２ 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアトーク、グループワーク等)、グループ・ディスカッション、ディベート、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査し、発表準備をすること。 ・研究テーマに関する発表に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育情報に関する文献や論文を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	開講時や適宜紹介する。		
参考書	授業中に資料として適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、　発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く)、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び教育行政での経験がある者が、その経験を活かして、卒業論文、教員採用試験、就職試験などを指導する。		

No.	760	科目コード	59812
科目名	教育学専門演習１	授業コード	9317951
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・子どもの発達理解に基づくフィールド研究および観察研究におけるデータ収集と分析能力がつく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得することを目的とすると同時に、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。１，２年次で学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行なわれる。児童文化財としての絵本、子どもの発達やちょっと気になる子、保護者支援に関わる内容や研究方法、現代の保育者に必要な資質や実践力に関わる研究テーマを設定して、専門的に探求することを目的とする。３年次前期は、保育・幼児教育にかかわる事項について取り上げ、調べ学習と発表・討論を通じて学びを深める。また、保育内容の探求を通した実践（実演準備、実技発表）なども取り上げ、より子どもの発達を促す保育内容について学びを深めることで、自らの卒業研究のテーマ探求の機会とする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　卒業研究とはなにか 第２回　子どもを取り巻く保育・幼児教育の動向 第３回　自ら関心のあるテーマにおける個別発表① 第４回　自ら関心のあるテーマにおける個別発表② 第５回　自ら関心のあるテーマにおける個別発表③ 第６回　子どもの発達を促す保育内容の探求 第７回　保育内容における個別発表① 第８回　保育内容における個別発表② 第９回　保育内容における個別発表③ 第１０回　保育内容の実践と展開① 第１１回　保育内容の実践と展開② 第１２回　保育内容の実践と展開③ 第１３回　卒業研究テーマ発表① 第１４回　卒業研究テーマ発表② 第１５回　まとめ		
授業方法	文献購読・調査（観察・実験）・討議・保育や幼児教育現場における実技・実演発表などによって行なう。		
アクティブラーニングの視点	本講では、自らの研究計画に基づき、講義内で各自が発表し、お互いの意見交流を通して、論究を深める場とする。したがって、討議を重ねる中で、批判的視点、向上的意見の提案など力量を身につけることをめざす。		
授業外学習	・研究計画書を提出すること。 ・研究計画書に添った調査の実施。 ・研究発表に対してレポートを提出し、また、発表者はレジュメを作成すること。 ・添削を受けて改訂したレポートを提出すること。		
教科書	なし		
参考書	佐々木智子（著）「たまご先生」　2012 年　かもがわ出版		
評価方法	授業への参加度（討論・研究発表・実技発表）を 70%、課題の提出（レポート）を 30%として評価する。事前学習と積極的な参加（授業内での発言）については、より高い評価を行なう。課題は、評価後に返却する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	絵本専門士として、絵本の読み聞かせ経験をもつ教員が、就学前児の保育教材研究を指導する。また、臨床発達心理士として、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた保育、保護者に対する子育て支援について講義する。		

No.	761	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9325406
教員名	清野　宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	卒業研究論文の完成に向けて、各テーマに関する深いデータ収集と分析を行い、研究の視点を定め、主体的で研究的な態度を育成する。また、研究発表会に向けて論文作成能力と表現能力を高める。		
授業概要	卒業研究論文完成に向けて計画的な進捗に努める。全体指導と個別指導を双方から行いながら、受講生がお互いに添削をし合い、議論する場やプレゼンテーションをする機会を増やす。		
授業計画	第１回　夏季休暇中の進捗状況の確認 第２回　研究課題（テーマ）の再確認と計画の修正 第３回　先行研究と事象や事例の確認（1） 第４回　先行研究と事象や事例の確認（2） 第５回　先行研究と事象や事例の確認（3） 第６回　先行研究と事象や事例の確認（4） 第７回　先行研究と事象や事例の確認（5） 第８回　先行研究と事象や事例の確認（6） 第９回　先行研究と事象や事例の確認（7） 第 10 回　先行研究と事象や事例の確認（8） 第 11 回　卒業研究（1～８）の批評と賞賛，添削（１） 第 12 回　卒業研究（1～８）の批評と賞賛，添削（２） 第 13 回　卒業研究（1～８）の批評と賞賛，添削（３） 第 14 回　卒業論文のまとめ方に関する総括 第 15 回　次年度にむけた研究計画の概要発表		
授業方法	先行研究の収集と要約，実践や調査，討議，発表などを行う.		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等)、グループ・ディスカッション、振り返りシートの活用など		
授業外学習	１．研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめて，提出する。 ２．研究テーマに関する発表を口頭及びプレゼンテーションソフトを用いて行う。 ３．体育・スポーツ科学に関する色々な文献を読み，内容をまとめる。 ４．部活動やスポーツ活動の中で自分の課題やテーマを身体知として集積しプレイの中で感じ，記述し考察を深めて行く。 ５．教員採用試験やスポーツビジネスに関する情報収集と受験勉強の状況を確認し適宜助言する。		
教科書	必要に応じて，適宜，資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	中学校や高校、大学の部活動で各スポーツ選手権大会にアスリートとして出場してきた経験や公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業や部活動，スポーツ活動の在り方や教育・ビジネスに関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	762	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326002
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1　自分のキャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 2　文献研究能力や調査実施能力を身につける。 3　討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 4　教科指導、集団づくり、個別支援等についての基礎的知識を活用することができる。		
授業概要	１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第 01 回　オリエンテーション 第 02 回　研究テーマの設定及び研究計画立案／講読 01／教育課題学習 第 03 回　研究計画プレゼンテーション／講読 02／教育課題学習 1-2 第 04 回　調査研究（1）／講読 03／教育課題学習 2-1 第 05 回　調査研究（2）／講読 04／教育課題学習 2-2 第 06 回　調査研究（3）／講読 05／教育課題学習 3-1 第 07 回　調査研究（4）／講読 06／教育課題学習 3-2 第 08 回　調査研究（5）／講読 07／教育課題学習 4-1 第 09 回　調査結果の考察とレポート作成／講読 08／教育課題学習 4-2 第 10 回　発表準備とリハーサル（パワーポイント）／講読 09／教育課題学習 5-1 第 11 回　研究成果プレゼンテーション（1）／講読 10／教育課題学習 5-2 第 12 回　研究成果プレゼンテーション（2）／教育課題学習 6-1 第 13 回　論文指導（レポート添削）(1）／講読 12／教育課題学習 6-2 第 14 回　論文指導（レポート添削）(2）／講読 13／教育課題学習 7 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等)、グループ・ディスカッション、ディベート、 マンダラート、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・毎回の教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	開講時に紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、　発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く)、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および教育行政での経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる		

No.	763	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326136
教員名	湯峯　裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 ・研究課題に関する文献研究や調査等の能力をより高める。 ・文献や調査などによる知見を磨き、文章作成能力をより高める。 ・討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 ・教育に関する専門的な知識・技能を身に付け、本質を踏まえた考察を深める。 ・プレゼンテーション等の実践的な知識やスキルを高める。		
授業概要	・自己の進路について考えを深め、自らの専門性を発達させる。 ・広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマについて専門的に探究する。 ・文献研究や学校における実践例から学び、研究協議を経て、その知見を共有する。 ・十分な先行研究を踏まえて、自らの研究課題を決定し、発表や報告を通じて、さらなる検討を進めていく。 ・授業は少人数のゼミナール形式で行われ、卒業研究を深める基盤を作って４年次の演習につないでいく。		
授業計画	第 01 回　オリエンテーション 第 02 回　研究テーマの検討及び研究計画立案／講読 01／教育課題学習 第 03 回　研究計画プレゼンテーション／講読 02／教育課題学習 1-2 第 04 回　調査研究（1）／講読 03／教育課題学習 2-1 第 05 回　調査研究（2）／講読 04／教育課題学習 2-2 第 06 回　調査研究（3）／講読 05／教育課題学習 3-1 第 07 回　調査研究（4）／講読 06／教育課題学習 3-2 第 08 回　調査研究（5）／講読 07／教育課題学習 4-1 第 09 回　調査結果の考察とレポート作成／講読 08／教育課題学習 4-2 第 10 回　発表準備とリハーサル（パワーポイント）／講読 09／教育課題学習 5-1 第 11 回　研究成果プレゼンテーション（1）／講読 10／教育課題学習 5-2 第 12 回　研究成果プレゼンテーション（2）／教育課題学習 6-1 第 13 回　論文指導（レポート添削）(1）／講読 12／教育課題学習 6-2 第 14 回　論文指導（レポート添削）(2）／講読 13／教育課題学習 7 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読、発表・報告・討議など。		
アクティブラーニングの視点	討論、発表、振り返り等を繰り返して、スパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・毎回の教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	なし		
参考書	参考文献やプリント資料等適宜提示する。		
評価方法	発表・報告・討議 60%、　レポート 40%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場及び行政での教育経験を活かして、幅広く研究を指導する。		

No.	764	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326270
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	各自が持つ課題意識を表明し、論文作成に向けて研究の見通しをもつことができる。 テーマを明確化した研究活動を通して、求められている教育実践について考 えることができる。 併せて、教育実習や教員採用試験に向けて取り組む。		
授業概要	学校全体に関わる教育問題や健康課題を主とした教育学研究の専門的なゼミナールである。 先行研究に関する文献などの抄読・グループ討議と受講者の研究レポート・レジュメの検討を 中心にすすめていく。		
授業計画	第 01 回： オリエンテーション 第 02 回： 受講生の持つ課題意識について表明 第 03 回： 一般的な研究の進め方と留意点 第 04 回： 研究テーマ設定 第 05 回： 研究計画の構想 第 06 回： 研究計画の作成と発表 第 07 回： 先行研究に関する文献や資料の収集 第 08 回： 先行研究に関する文献や資料の選択と研究の関連性 第 09 回： 文献抄読の準備（先行文献の抄読とは） 第 10 回： 先行研究に関する文献抄読Ⅰ 第 11 回： 先行研究に関する文献抄読Ⅱ 第 12 回： 先行研究に関する文献抄読Ⅲ 第 13 回： 先行研究に関する文献抄読Ⅳ 第 14 回： 先行研究に関する文献抄読Ⅴ 第 15 回： まとめ		
授業方法	グループ演習や討議を中心として進める。		
アクティブラーニングの視点	GP 演習を中心に振り返りシートやワークシートの作成・活用によるセッション形式での学び合い活動を重視する。		
授業外学習	受講生が関心のある研究テーマに関わる文献を熟読し、抄読会に備えて要点を自主的にまとめておく。		
教科書	適宜、資料を配付する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業の意欲・態度（30%）および授業の発表等（70%）により総合的に評価する。 自分の研究テーマに応じた課題検討において積極的な発言や活発な討議態度を より高く評価する。 課題については、授業内に振り返りを行う。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験のある者が、その経験を活かして、教育課題解決に向けて行う活動など教育学に関する研究指導をする。		

No.	765	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326337
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．テーマ設定のしかたや調査方法について身につく。 ２．共同で調査したり、討議することができる。 ３．プレゼンテーションの方法が身につく。		
授業概要	教育学専門演習 1 をさらに発展させ、3 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となる。また、それらの作業の学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　進路の確認と卒業研究テーマの設定 第３回　卒業研究計画書の発表と討議 第４回　論文の書き方について 第５回　卒業研究計画の改訂 第６回　調査研究を行う（１） 第７回　調査研究を行う（２） 第８回　調査研究を行う（３） 第９回　調査研究を行う（４） 第 10 回　前期進捗状況の発表（１） 第 11 回　前期進捗状況の発表（２） 第 12 回　前期進捗状況の発表（３） 第 13 回　前期進捗状況の発表（４） 第 14 回　前期進捗状況の発表（５） 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究に向けて、各自の研究分野に関する発表や討論を受講生間で行い、一層研究を深める。		
授業外学習	・卒業研究計画に沿った調査・分析を進めること。 ・第 2 回授業において研究テーマについて発表できるように準備すること。 ・第 3 回授業に研究計画書を提出すること。 ・第 10 回から 14 回授業において発表者はレジュメを作成し、他の学生はコメントをレポートを用意すること。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業			

No.	766	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326404
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・子どもの発達理解に基づくフィールド研究および観察研究におけるデータ収集と分析能力がつく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得することを目的とすると同時に、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。１，２年次で学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行なわれる。児童文化財としての絵本、子どもの発達やちょっと気になる子、保護者支援に関わる内容や研究方法、現代の保育者に必要な資質や実践力に関わる研究テーマを設定して、専門的に探求することを目的とする。具体的な研究計画の作成を行ない、計画に沿った研究を実践することにより、4 年次に作成する卒業研究の基礎固めを行なう。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　卒業研究とはなにか 第３回　研究テーマを決めるための準備学習① 第４回　研究テーマを決めるための準備学習② 第５回　文献検索の方法と図書館の利用① 第６回　文献検索の方法と図書館の利用② 第７回　文献研究発表① 第８回　文献研究発表② 第９回　文献研究発表③ 第１０回　研究テーマと方法を決める 第１１回　研究計画の立案 第１２回　テーマに関する文献研究に基づく研究計画の発表・討議① 第１３回　テーマに関する文献研究に基づく研究計画の発表・討議② 第１４回　テーマに関する文献研究に基づく研究計画の発表・討議③ 第１５回　テーマに関する文献研究に基づく研究計画の発表・討議④		
授業方法	文献購読・調査（観察・実験）・討議・保育や幼児教育現場における実技・実演発表などによって行なう。		
アクティブラーニングの視点	本講では、自らの研究計画に基づき、講義内で各自が発表し、お互いの意見交流を通して、論究を深める場とする。したがって、討議を重ねる中で、批判的視点、向上的意見の提案など力量を身につけることをめざす。		
授業外学習	授業外学習 ・文献調べ、読み込みなどを行ない、研究テーマ設定について調査すること。 ・夏季休業中の課題を実施しておくこと。 ・研究計画書を提出すること。 ・研究計画書に添った調査の実施。 ・研究発表に対してレポートを提出し、また、発表者はレジュメを作成すること。 ・添削を受けて改訂したレポートを提出すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業への参加度（討論・研究発表・実技発表）を 70%、課題の提出（レポート）を 30%として評価する。事前学習と積極的な参加（授業内での発言）については、より高い評価を行なう。課題は、評価後に返却する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	絵本専門士として、絵本の読み聞かせ経験をもつ教員が、就学前児の保育教材研究を指導する。また、臨床発達心理士として、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた保育、保護者に対する子育て支援について講義する。		

No.	767	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326466
教員名	永井　明子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。特に小学校教員としての資質能力を１段階上げる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	子どもの発達や教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。専門演習３・４での研究テーマを３年次末で方向付けるため、関連文献の講読とレジュメおよび発表原稿の提出、発表が求められる。また、共通文献の輪読を行う。時事問題に関する討論により深く考える力を養い、短時間の講義を行う事によりプレゼンテーションの力を身につける。さらに次回までの取り組み課題とその成果を各自が設定・発表する事により、時間管理術、課題のマネージメントなども学んでいく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　文献発表１　後期研究計画 第３回＆第４回　文献発表２ 第５回＆第６回　文献発表３ 第７回＆第８回　文献発表４ 第９回　卒業研究計画中間発表 第 10 回＆第 11 回　文献発表５ 第 12 回＆第 13 回　文献発表６ 第 14 回　レポートの添削指導 第 15 回　まとめと卒業研究計画提出		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	毎週必ず何か一つは発表を担当し、各自が持ち寄った課題を全員で討論することが授業のメインとなる。また、発表内容は日頃の自分の疑問等を解決するために役立つテーマを自分で選ぶことになる。		
授業外学習	１．発表者として：２週に１冊の関連文献を読み、内容をレジュメにまとめ、隔週で文献発表のための準備をし、レジュメ・発表原稿を提出すること。輪読文献の発表担当者になった場合はレジュメ・発表原稿を提出すること。 ２．ゼミ参加者として：毎回の文献発表と第９回中間発表に対してコメントレポートを提出すること。 ３．第 15 回卒業研究計画提出のための準備をすること。 ４．レポート・レジュメ提出時には、必ず事前に他のゼミメンバーの下読みを受けること。 ５．毎回、輪読文献の指定範囲を読んでくること。		
教科書	教育心理学エッセンシャルズ（西村純一・井森澄江編、ナカニシヤ出版）		
参考書	山内光哉編『発達心理学上』ナカニシヤ出版		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	768	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326533
教員名	中島　英康		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１　教員採用、卒業研究、キャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究能力や調査実施能力を身に付ける。 ３　討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 ４　教科指導、集団づくり、個別支援等についての基礎的知識を活用することができる。		
授業概要	１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わった専門性を発達させるための科目である。広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究テーマの設定及び研究計画立案／課題学習１（教育情報） 第３回　研究計画プレゼンテーション／課題学習２（教育情報） 第４回　論文検索と調査研究１／課題学習３（教育情報） 第５回　論文検索と調査研究２／課題学習４（教育情報） 第６回　論文検索と調査研究３／課題学習５（教育情報） 第７回　論文検索と調査研究４／課題学習６（教育情報） 第８回　論文検索と調査研究５／課題学習７（教育情報） 第９回　調査結果の考察とレポート作成（中間報告会準備）課題学習８（教育情報） 第 10 回　中間報告会準備とリハーサル（パワーポイント）課題学習９（教育情報） 第 11 回　研究成果プレゼンテーション１ 第 12 回　研究成果プレゼンテーション２ 第 13 回　論文個別指導（レポート添削）１課題学習 10（教育情報） 第 14 回　論文個別指導（レポート添削）２課題学習 11（教育情報） 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアトーク、グループワーク等)、グループ・ディスカッション、ディベート、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査し、発表準備をすること。 ・研究テーマに関する発表に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育情報に関する文献や論文を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	開講時や適宜紹介する。		
参考書	授業中に資料として適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、　発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く)、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び教育行政での経験がある者が、その経験を活かして、卒業論文、教員採用試験、就職試験などを指導する。		

No.	769	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326538
教員名	加藤　恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自身のキャリア形成を見据えて、卒業研究に向けた準備に取り組むことができる。 ・自ら設定した課題研究に必要な参考文献や調査結果などを整理、分析し、考察することができる。 ・研究の成果をまとめるための資料作成やプレゼンテーション等のスキルを身につける。 ・発表や討論によって得た知見をもとに、論理的な文章にまとめることができる。 ・教職に関する専門的な知識や技能を身につける。		
授業概要	・１年、２年次で学んだことをもとに卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得すること、４年間の学びの集大成である卒業研究の準備に取り組むことを目的として、ゼミナール形式で行う。 ・３年次後期は、各自が研究テーマと方法を決め、具体的な研究計画を作成し、それに即して研究を進める。卒業研究の基盤をつくり、４年次での完成につなげていく。 ・先行の文献や実践事例に学びながら、現代の教育者として必要な資質や能力を身につけていく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（前期・夏季休暇中の成果報告、研究の方向性の確認） 第２回　研究テーマ・研究方法の検討・計画の立案 第３回　調査研究①・参考文献講読① 第４回　調査研究②・参考文献講読② 第５回　調査研究③・参考文献講読③ 第６回　中間報告（研究の報告・討議） 第７回　調査研究④・参考文献講読④ 第８回　調査研究⑤・参考文献購読⑤ 第９回　調査・研究に基づく考察と論文の作成について 第１０回　発表の準備（パワーポイントの作成について） 第１１回　研究成果のプレゼンテーションの実施・検討① 第１２回　研究成果のプレゼンテーションの実施・検討② 第１３回　論文の指導① 第１４回　論文の指導② 第１５回　後期のまとめと４年次に向けての研究の方向性の確認		
授業方法	実践事例の検討、文献の購読、報告、発表、討議などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	自らの課題を設定し、研究方法・対象を考え、計画を立て、それに基づき研究を進める。研究過程を各自がその都度報告し、意見交流を通して、考察を深める。場合によってはフィールドワークを行う。報告・討議を重ねる中で、他者の感想・意見をふまえて、自らの論考を練り上げていく。		
授業外学習	・研究計画書を提出する。 ・研究計画書に即して、参考文献に当たり、自分なりに考察を深める。 ・研究報告のための資料・レジュメを作成する。 ・報告後、検討会での討議をもとに振り返りをしながら、次の準備を進める。 ・フィールドワークを行い、現場での実践をもとに考察を深める場合もある。 ・研究の過程を言語化しながら、論理的な文章にまとめていく。		
教科書	教科書は指定しない。授業中に必要な資料を随時配布する。		
参考書	基本文献やプリント資料等は適宜配布及び提示する。		
評価方法	授業への参加度（討論・研究発表）を６０％、課題の提出（レポート）を４０％として評価する。事前学習と積極的な参加については、より高い評価を行う。課題・レポートについては確認後に返却する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験をもち、国語科教育に関する実践的研究を行ってきた者が、具体性をふまえた卒業研究に関する指導を行う。		

No.	770	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326600
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　後期研究計画 第３回　研究に関連する解析およびＰＣスキルの習得 第４回　デモ実験内容の確定 第５回 デモ実験１ 第６回　デモ実験の検証（解析と図表作成） 第７回　デモ実験の検証（解析と図表作成） 第８回　デモ実験の発表と課題抽出（パワーポイント） 第９回　デモ実験の発表と課題抽出（パワーポイント） 第 10 回　デモ実験の発表と課題抽出（パワーポイント） 第 11 回　デモ実験結果のレポート作成 第 12 回　デモ実験結果のレポート作成 第 13 回　最終テーマと方法論の確定 第 14 回　研究フィールドの確定と交渉準備 第 15 回　総括（研究内容の確定と測定スケジュールの確定）		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	テーマ設定について文献研究 ・方法論についての専門知識の習得 ・ＰＣスキルの習得（データー入力と解析および図表作成） 以上を、講義で発表できるよう随時実践すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	771	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326605
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得する。 ２．文献研究能力や調査実施能力が身につける。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく ４．グローバル社会の実情と異文化を巡る教育の現状と問題点を多角的な視点から考察し、実践できる有力な人材の育成を目指す。		
授業概要	グローバル化が進んでいる現在、様々な理由で母国を離れ、移動している人々が増加している。日本でも学校に通う外国人児童生徒が増加し、9 万以上とされている。本ゼミでは、移民の状況と政策、国際比較を交えながら、日本に置かれている現状や外国人の労働者問題、外国人児童生徒の教育課題などを中心に研究する。そのことを通して多文化共生社会に向けて私たちができることについて考える。ゼミで活用は、日本語と外国語（英語）の文献講読、ライフストーリー研究を扱うこととする。また夏休みをしたフィールドワークとして外国人住民の割合6.23%である三重県伊賀市在住の外国につながりのある子どもたちの学習支援行うなど、外部組織と連携をとって様々な活動、協力していく予定である。		
授業計画	第１回　オリエンテーション(教育学専門演習２の目的・内容・文献検索等について) 第２回　研究指導①（各学生の問題意識の交流と指導助言） 第３回　学外研修の研究成果のまとめ 第４回　学外研修の研究成果プレゼンテーション 第５回　最終テーマの設定及び研究計画立案① 第６回　最終テーマの設定及び研究計画立案② 第７回　最終テーマ決定のための発表・討論① 第８回　最終テーマ決定のための発表・討論② 第９回　最終テーマ決定のための発表・討論③ 第 10 回　先行研究に関する文献や資料の収集、まとめ① 第 11 回　先行研究に関する文献や資料の収集、まとめ② 第 12 回　研究指導②（各学生の問題意識の交流と指導助言） 第 13 回　研究発表と総括（各学生の研究発表と討論） 第 14 回　研究発表と総括（各学生の研究発表と討論） 第 15 回　まとめと課題提示		
授業方法	ゼミ生が興味関心を持ったテーマでの発表やディスカッションにより内容を深化させていく。		
アクティブラーニングの視点	学内にとどまらずフィールドワーク調査やボランティア活動への参加も積極的に行う。		
授業外学習	各自が設定したテーマに基づき、その都度指示する。 日本で暮らす多様な文化的背景を持つ人々、移民の歴史や難民問題に関連するニュースや記事に目を通すこと。また、現代世界の実情を十分に把握し、視野を広げ、積極的にアプローチすることを期待する。		
教科書	その都度指示する。		
参考書	必要に応じて、授業中に指示する。		
評価方法	積極的な授業参加、プレゼンテーション、課題・レポート等を総合的に評価する。 ２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	772	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326667
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　後期研究計画 第３回　研究に関連する解析およびＰＣスキルの習得 第４回　デモ実験内容の確定 第５回 デモ実験１ 第６回　デモ実験の検証（解析と図表作成） 第７回　デモ実験の検証（解析と図表作成） 第８回　デモ実験の発表と課題抽出（パワーポイント） 第９回　デモ実験の発表と課題抽出（パワーポイント） 第 10 回　デモ実験の発表と課題抽出（パワーポイント） 第 11 回　デモ実験結果のレポート作成 第 12 回　デモ実験結果のレポート作成 第 13 回　最終テーマと方法論の確定 第 14 回　研究フィールドの確定と交渉準備 第 15 回　総括（研究内容の確定と測定スケジュールの確定）		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	地域在住の中高齢者の体力測定会企画・運営を通じて、実行力を養う。		
授業外学習	テーマ設定について文献研究 ・方法論についての専門知識の習得 ・ＰＣスキルの習得（データー入力と解析および図表作成） 以上を、講義で発表できるよう随時実践すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	773	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326739
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１　自分のキャリア形成を見据えて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究能力や調査実施能力を身に付ける。 ３　専門的な文章を読むことや書くことの能力や、討論・発表の力を身に付ける。		
授業概要	教育の内容や方法に関わるテーマを設定して、専門的に探求することを目的とする。１．２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって、特に国語教育の専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は、４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　研究テーマの再設定及び研究計画立案１ 第３回　研究テーマの研究計画立案２ 第４回　研究テーマに関わる論文検索と調査研究１ 第５回　研究テーマに関わる論文検索と調査研究２ 第６回　研究テーマに関わる論文検索と調査研究３ 第７回　研究テーマに関わる論文検索と調査研究４ 第８回　研究テーマに関わる論文検索と調査研究５ 第９回　調査結果のまとめ（レポート作成）と中間発表会の準備１ 第１０回　調査結果のまとめ（レポート作成）と中間発表会の準備２ 第１１回　調査結果のプレゼンテーション１ 第１２回　調査結果のプレゼンテーション２ 第１３回　論文個別指導（レポート添削）１ 第１４回　論文個別指導（レポート添削）２ 第１５回　まとめと今後の研究の方向性		
授業方法	文献購読・研究調査・討議・発表等によって行う。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	・自らの研究テーマに関わって調査し、発表準備をすること。 ・発表会に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育課題に関わる文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュースなどについて自分の考えをまとめること。		
教科書	教科書は指定しない。授業中に必要な資料を随時配布。		
参考書	授業中に必要な資料を随時配布。		
評価方法	授業への参加度５０％、　発表及びレポート５０％		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	774	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326763
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．アカデミックスキル（文献を読む、議論ができる、文章でまとめるまとめる等）を獲得する。 ２．社会人に必要な教養を身につけることができる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	健康テーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。自己の進路とも関わって専門性を深めるための科目であり，授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながり，卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション 第　2回　研究方法と書き方 第　3回　研究方法の発表 第　4回　研究結果の分析方法と書き方 第　5回　研究結果の発表 第　6回　考察の考え方と書き方 第　7回　考察の発表 第　8回　結語のまとめ方と書き方 第　9回　結語の発表 第 10 回　抄録のまとめ方 第 11 回　プレゼンテーションの方法 第 12 回　抄録の発表 1 第 13 回　抄録の発表 2 第 14 回　論文作成への発展方法 第 15 回　総括		
授業方法	講義、調査、討議、発表など、毎回の授業内容に応じた多様な方法で行われる。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	１．テーマについての文献研究及び調査 ２．PC スキルの習得 ３．授業に応じて出された課題		
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。		
参考書	参考書は適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%，発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校・企業・医療機関等の業務に携わった経験を持つ教員が、アカデミックスキルや研究について指導する。		

No.	775	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326774
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1 自分のキャリア形成に必要な知識やスキルを獲得する。 2 文献研究能力や調査実施能力を身につける。とくに法律や政策文書の調査能力を身につける。 3 討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。 4 外国の教育制度や政策についても理解する。		
授業概要	1、2 年次に学んだ知識を基礎として、より専門性を高める。 とくに制度・政策に関する視点から受講者の関心に応じたテーマを設定し、ゼミを進める。 前半では前期の調査研究をもとにして、さらに専門的な内容を深めていく。 後半では 4 年次での研究に向けて、論文・レポートの作成方法を学ぶとともに、実際の論文作成に向けた構成の検討を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　文献講読・討論 第３回　文献講読・討論 第４回　文献講読・討論 第５回　調査研究 第６回　調査研究 第７回　論文作成方法の学習 第８回　レポート作成 第９回　レポート作成 第 10 回　レポート作成 第 11 回　論文テーマの検討 第 12 回　論文テーマの検討 第 13 回　論文の構成の検討 第 14 回　論文の構成の検討 第 15 回　研究成果の発表		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究に向けて、基礎的な調査研究を行い、それを文章化してゼミメンバーに伝えることを通じて研究の基礎的な能力を養う。 また、他のゼミメンバーの学習についてディスカッションを行うことによって自分の関心を広げていく。 ゼミメンバーそれぞれの研究テーマについて、相互に意見・質問を述べるディスカッションを通じて、質の向上を図る。		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・毎回の教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。		
参考書	参考書は適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、 発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	776	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326787
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	卒業研究論文の完成に向けて、各テーマに関する深いデータ収集と分析を行い、研究観点を広め、主体的で研究的な態度を育成する。また、研究発表会に向けて論文作成能力と表現能力を高める。		
授業概要	卒業研究論文完成に向けて計画的な進捗に努めさせる。全体指導と個別指導を双方から行いながら、受講生がお互いに添削をし合い、議論する場やプレゼンテーションをする機会を増やす。		
授業計画	第１回　休暇中の進捗状況の確認 第２回　研究課題（テーマ）の再確認と計画の修正 第３回　卒業研究（1） 第４回　卒業研究（2） 第５回　卒業研究（3） 第６回　卒業研究（4） 第７回　卒業研究（5） 第８回　受講生で論文の添削（1） 第９回　受講生で論文の添削（2） 第 10 回　フィードバックと初稿提出準備 第 11 回　要旨の提出と個別指導（1） 第 12 回　要旨の提出と個別指導（2） 第 13 回　要旨の提出と個別指導（3） 第 14 回　発表会のプレゼンテーションについて 第 15 回　完成稿の提出と発表会の準備		
授業方法	少人数授業を活かし、年間を通じて教員との濃密な対話や指導を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク）・フィールドワーク、振り返りｼｰﾄの活用、必要文献の輪読など		
授業外学習	授業時間以外にフィールドワークをはじめ、情報収集や文献読解等、積極的、かつ計画的に遂行すること。		
教科書	なし		
参考書	適宜、参考文献を提示する。		
評価方法	提出した研究論文の内容・プレゼンテーション能力（50%）、授業への参加度（50%） 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、教育関係のフィールドワークの概要について解説し、並びに実践指導を行う。		

No.	777	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326803
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・音楽教育や音楽作品に関する研究能力がつく。 ・卒業研究のテーマを設定し、より専門的に追究することができる。		
授業概要	自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。また、後期は４年次の卒業研究に繋がるテーマを設定し、より専門的に研究を進めることが求められる。特に本ゼミでは教育現場全般に活かせる音楽活動の実践や活用、多様な音楽表現や教材の研究を通して、人と音楽の関わりについて探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行い、討議や発表を含む。各自の学習計画に基づいて自主学習を進めるものとする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　教育実習の振り返り 第３回　テーマの設定と学習計画 第４回　研究計画の発表・討議 第５回　研究計画に基づいた調査研究（１） 第６回　研究計画に基づいた調査研究（２） 第７回　研究計画に基づいた調査研究（３） 第８回　中間発表 第９回　調査研究成果の発表と討議（１） 第 10 回　調査研究成果の発表と討議（２） 第 11 回　調査研究成果の発表と討議（３） 第 12 回　調査研究成果の発表と討議（４） 第 13 回　プレゼンテーション準備 第 14 回　期末発表 第 15 回　教育学専門演習２のまとめ、卒業研究の作成に向けて		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自が主体的に文献調査などの先行研究を行うことにより、より関心を持って取り組める研究テーマを設定し、後期に向けて能動的に研究を進められる研究計画を立てる。また、発表や討議を通して、意見を共有し、幅広い角度から各々の研究を進められる視点を持つ。		
授業外学習	・研究テーマについて文献調査、先行研究を行い、研究計画を準備すること。 ・毎回の授業で添削を受けた課題を完成させ、次回の準備を行うこと。		
教科書	なし		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業の参加及び取り組み：60％ 発表及びレポート：40％		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、音楽の研究に関する指導を行う。		

No.	778	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326816
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。		
授業概要	専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで策定した第１次のテーマを、購読した文献の紹介とディスカッションによって、さらに具体的にし、最終の研究テーマを決定していく。最終の研究テーマ決定後に、実現可能な研究計画を策定し、仮説からどのような結果が得られるかまでを討論していく。最終的に、模擬卒業論文を作成し、それに基づいて最終発表を行い、次年度の卒業論文につなげる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　個人ごとの発表方針の決定、発表スケジュール策定 第２回　発表資料の作成法とプレゼンテーションの仕方、議論の進行の方法 第３回　模擬卒業論文の発表 第４回　模擬卒業論文の発表と相互査読を踏まえた討論 第５回　第３回、第４回を踏まえた模擬卒業論文の改善策の発表と討論 第６回　卒業論文テーマの決定に向けた進捗状況の確認と討論 第７回　テーマ決定に向けた主要文献（１）の発表と討論 第８回　テーマ決定に向けた主要文献（２）の発表と討論 第９回　テーマ決定に向けた主要文献（３）の発表と討論 第 10 回　現状のテーマと主要文献（１）から（３）との論理的関連性構築の方法 第 11 回　主要文献（１）から（３）のまとめと卒業論文テーマ決定の方法 第 12 回　最終テーマ決定の確認と最終テーマの問題提起のまとめ方 第 13 回　最終テーマの問題提起による分析法の決定と仮想データのまとめ方 第 14 回　模擬卒業論文の作成法（序論、方法） 第 15 回　模擬卒業論文の作成法（結果、考察、引用文献）		
授業方法	・講義とグループディスカッション ・場合により購読した文献の共有や発表を行う		
アクティブラーニングの視点	特定の研究テーマに基づき、協同学習によりグループでその分析法および仮想データの統計的分析をまとめ、発表する。研究テーマ策定においては、振り返りシートを作成し、発表後の振り返りを行いテーマを纏めていく。		
授業外学習	①各自の第１次のテーマに基づく主要文献のまとめ ②発表準備と討論の準備 ③講義外で行った学習を記録していくこと ④模擬卒業論文の作成		
教科書	指定なし、適宜、資料を配付する。		
参考書	高野 陽太郎・岡 隆（編集）『心理学研究法 補訂版』 有斐閣アルマ（2017/3/1） 鈴木 直人（監修）『心理学概論　【第２版】』ナカニシヤ出版；第２版（2014/4/20） 小塩 真司・宅 香菜子（著）『心理学の卒業研究ワークブック　発想から論文完成までの 10 ステージ』金子書房（2015/9/9） 森 敏昭・吉田 寿夫（著，編集）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房（1990/6/1） 小塩 真司・西口 利文（編集）『質問紙調査の手順（心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版（2007/11）		
評価方法	発表・討論の振り返り（30%） 各発表の内容（20%） 模擬卒業論文（50%）		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	779	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326828
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023年度 後期
到達目標	With the knowledge and skills acquired in 教育学専門演習1, the objectives of this seminar are to: 1. Continue to learn about foreign language education. 2. Continue to improve your foreign language skills. 3. Continue to learn about literature and write creatively.		
授業概要	While actually studying a foreign language (English), we will research foreign language education from a variety of perspectives.		
授業計画	The week-by-week list of activities listed below describes the English practice component of the class. Students will also be working on their autonomous language learning projects. I may make changes to this schedule based on the needs of the students in this seminar. 1. Introduction, Class Overview, Icebreakers, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation, Student Presentations 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation, Student Presentations 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation, Student Presentations 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation, Student Presentations 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation, Student Presentations 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation, Student Presentations 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation, Student Presentations 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation, Student Presentations 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation, Student Presentations 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation, Student Presentations 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation, Student Presentations 15. Final Review, Final Evaluation		
授業方法	This class will consist of three major components: 1. Foreign language (English) learning. 2. Learning about foreign language education through materials development, presentations, and possibly visits to local schools. 3. A self-directed autonomous language learning project.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. We are going to study language and language education. Students should be prepared to participate actively in each class and also study on their own outside of class. Students will determine the direction of their own study and research.		
授業外学習	Students must be prepared to study actively outside of class. This study should include not only reading and writing but also speaking and listening practice. Additionally, students need to make materials for presentations.		
教科書	No specific textbook is required. I will provide materials.		
参考書	Students will need to find materials to develop language learning resources. These materials may include books, articles, websites, YouTube videos, movies, music, and much more.		
評価方法	Active Participation 60% Writing and other assignments 40%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。		

No.	780	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326838
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究計画の立案①（基礎的文献の検討） 第３回　研究計画の立案②（基礎的文献の検討） 第４回　研究計画の立案③（研究方法に関する文献の検討） 第５回　研究計画の立案④（研究倫理について） 第６回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動① 第７回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動② 第８回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動③ 第９回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動④ 第 10 回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動⑤ 第 11 回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動⑥ 第 12 回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動⑦ 第 13 回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動⑧ 第 14 回　研究テーマと研究計画に基づく研究活動⑨ 第 15 回　まとめ（卒業論文に向けて）		
授業方法	課題発見・探求型授業		
アクティブラーニングの視点	教育・スポーツに関する問題を深く考え、他の人と議論し、論理的な結論を導き出す。		
授業外学習	研究テーマを探求する。		
教科書	指定なし		
参考書	白井利明、高橋一郎「よくわかる卒論の書き方第２版」ミネルヴァ書房		
評価方法	授業態度…50% 研究発表・発表資料…50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	781	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326839
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自身のキャリア形成を見据えて，卒業研究に向けた準備をすることができる。 ・研究課題に必要な文献検索，資料作成，プレゼンテーションの手法を身につける。 ・先行研究による知見を整理し，論理的な文章を書くことができる。 ・研究課題を見据え，テーマに関する文献を読み，基礎的な議論ができる。		
授業概要	・言語学に関する様々な文献を読み解き、内容を理解する。 ・自らの興味関心に応じて研究課題の考察を深める。 ・文献講読を通じて討論し，研究内容や手法に関する検討を行う。		
授業計画	1．オリエンテーション 2．卒業研究テーマの検討 3．研究指導 1 4．文献講読，討議 5．文献講読・討議 6．文献講読・討議 7．文献講読・討議 8．研究テーマの設定 9．研究テーマの設定 10．卒業研究の計画策定 1 11．卒業研究の計画策定 2 12. 卒業研究のテーマ及び計画発表 13. 研究指導 14. レポート作成 15. まとめ		
授業方法	卒業研究に関するテーマを定め，研究計画を作成することを目的とする。 文献講読では，担当者が先行研究のまとめと発表を行い，その後全体での討論を行う。 必要に応じて PC 持参し，文献検索や資料作成について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	先行研究の概要理解，内容に関する資料作成，発表，討論を通して研究テーマに関する理解を深める。		
授業外学習	文献講読の担当者は，授業前に概要をまとめ，発表資料を作成する。 文献検索や研究テーマに関する先行研究のまとめなどは，各自で行う必要がある。		
教科書	授業中に適宜指示する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価方法	文献講読に関する資料作成，発表 50%，研究テーマに関するレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	782	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326858
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・フィールドワークの意味や方法について説明することができる。 ・研究領域に関する知識を深め、問題を的確に設定することができる。		
授業概要	この演習では、卒業研究を始めるにあたって必要とされる様々な準備や手順について説明する。具体的には、リサーチクエスチョンの設定、先行研究の意味、研究のための調査の方法、文献資料の吟味の仕方や調査データの分析方法について解説し、研究とはどのようなものかについて具体的に説明する。また、このゼミで扱う３つの領域（A.国内外の文化・社会、B.異文化間の国際協働、C.教育と文化）について概観し、具体的な研究を例示して解説する。		
授業計画	第１回　仮説と一般化について 第２回　問題の所在（リサーチクエスチョン）とは 第３回　問題の設定 第４回　フィールドワークについての概説 第５回　量的調査（インタビュー調査・質問紙） 第６回　質的調査（参与観察調査法） 第７回　問題解明のための接近法と研究におけるフィールドワークの意味 第８回　フィールドワークの立案 第９回　国内外の社会や文化についての研究事例 第 10 回　異文化間の国際協働についての研究事例 第 11 回　教育と文化についての研究事例 第 12 回　各自の研究の計画と概要についての発表（グループ１） 第 13 回　各自の研究の計画と概要についての発表（グループ２） 第 14 回　各自の研究の計画と概要についての発表（グループ３） 第 15 回　講評とまとめ		
授業方法	講義および学生による発表とディスカッション		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、各自のテーマや問題意識による自立的学習と研究など		
授業外学習	毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察等を各自ノートにまとめる（1 時間程度）ほか、各自関心のあるテーマに関する文献を収集し、主要な文献を精読して要点をまとめる（8 時間程度）。また、授業の進行段階に応じた学習内容については適時、授業で指示する。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布		
参考書	授業においても適宜紹介するが、基本的には学生自身が準備する。		
評価方法	授業への参加度（１０％）、発表（１５％）、ディスカッション（１５％）、提出課題（６０％） 授業への参加 度については、小テストや発言で評価する。発言は積極的かつ的確であることを評価す る。小テストは採点後、講評によるフィードバックを行う。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	783	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326859
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	社会科教育学、教師教育学に関わる研究テーマを設定し、学術的に研究する ・１、２年生で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路と関わって専門性を高める科目である。 ・授業は少人数の演習形式で行われる。 ・４年次の演習と連動し、卒業研究の基礎となる研究を行なう。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション：「わたしは何の研究を、どのように、なぜしたいのか」 第 2 回　発表①・議論・リフレクション：問題の所在 第 3 回　発表②・議論・リフレクション：問題の所在 第 4 回　発表③・議論・リフレクション：問題の所在 第 5 回　発表④・議論・リフレクション：先行研究の整理 第 6 回　発表⑤・議論・リフレクション：先行研究の整理 第 7 回　発表⑥・議論・リフレクション：先行研究の整理 第 8 回　発表⑦・議論・リフレクション：研究方法と調査計画 第 9 回　発表⑧・議論・リフレクション：研究方法と調査計画 第 10 回　発表⑨・議論・リフレクション：研究方法と調査計画 第 11 回　発表⑩・議論・リフレクション：事前調査の結果 第 12 回　発表⑪・議論・リフレクション：事前調査の結果 第 13 回　発表⑫・議論・リフレクション：事前調査の結果 第 14 回　決意表明：「わたしは４年生を、どのように、なぜそのように過ごすのか」 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ほとんどの授業で、教員・ゼミ員で意見交流し、知識を構成する学習を取り入れる。		
授業外学習	１．発表者：研究テーマに関する文献・論文を探し，それをレジュメに要約・考察して発表する。 ２．テーマについての文献研究 ３．アカデミックスキル、パソコンスキルの習得		
教科書	授業中に必要に応じて指示する		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加度 50%、発表 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における勤務経験や国際協力業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かし、人間教育を行う。		

No.	784	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326869
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・保健教育科教育・コーチングに関する発展的研究を進めることができる． ・保健体育科教育・コーチングに関する課題を論理的に解決する力を養うことができる． ・保健，体育授業やスポーツ指導を実践するための適応力を深めることができる．		
授業概要	社会の変化に伴い学校教育，スポーツ指導場面の課題は，多様化し多岐にわたっている．そのため，様々な視点から課題に対応する力が求められる．そこで本演習においては，授業力・競技力向上のための基礎研究を基にスポーツ教育学，保健体育教科教育，コーチング学など幅広い観点から，実践的な先行研究，文献研究を探求し，自己の研究課題の設定および研究方法の確立を目標に取り組む．一方で，教育，スポーツ関連のインターシップ等の実体験を踏まえ，演習，模擬面接，模擬授業を実践することで保健体育科教員やスポーツ指導として求められる資質を高めることを目標に取り組む．		
授業計画	第１回　ガイダンス（講義目的と評価法等） 第２回　保健体育科教員の資質の検討 第３回　学校教育における体育授業・保健授業の課題 第４回　授業力向上のための基礎研究Ⅰ（課題　グループワーク） 第５回　授業力向上のための基礎研究Ⅱ（発表） 第６回　教育時事に関する集団討論 第７回　育成年代のスポーツ指導者のフィロソフィ 第８回　発育発達を踏まえたスポーツ指導の在り方 第９回　競技力・指導力向上のための基礎研究Ⅰ（課題　グループワーク） 第 10 回　競技力・指導力向上のための基礎研究Ⅱ（発表） 第 11 回　児童生徒の安全教育に関する課題 第 12 回　コーチングに関する基礎研究Ⅰ（課題　グループワーク） 第 13 回　コーチングに関する基礎研究Ⅱ（発表） 第 14 回　研究の方向性と課題の設定 第 15 回　まとめ及び授業アンケート		
授業方法	講義形式にグループワークも取り入れ授業を展開する．		
アクティブラーニングの視点	教育・スポーツに関する課題に関してグループワークを行うなど課題解決に向けて見識を深める．		
授業外学習	基礎研究，ワークショップ，実践発表など演習形態の授業が多く組み込まれていることから，授業外時間を積極的に取り組むことが不可欠である．		
教科書	特に指定なし．必要に応じ，適宜資料を配布する．		
参考書	特に指定なし．		
評価方法	授業外学習の取り組みとその内容（40%）と授業への参加度（60%）で評価する．授業外学習は，模擬授業対策・基礎的研究が中心となり，発表時の完成度，探求度の観点から評価を行う．授業への参加度は，表現力，積極性，コミュニケーション力，協調性の観点より評価する．		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校教育，教育行政，様々なカテゴリーの指導実践（日本バスケットボール協会 A 級コーチ）を活かして指導する．		

No.	785	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326870
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	授業における教材や指導法，小学校の実践の場で必要とされる授業力向上に関わるテーマを設定して，専門的に探究することを目的とする。1，2 年次で学んだ基礎分野をもとに，自己の進路とも関わって専門性を深めるための科目であり，授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながり，卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション 第　2回　序論の書き方① 第　3回　序論の書き方② 第　4回　論文の構成① 第　5回　論文の構成② 第　6回　データの収集① 第　7回　データの収集② 第　8回　資料の整理①（収集したデータの分析） 第　9回　資料の整理②（収集したデータの分析） 第 10 回　研究結果と考察①（発表資料作成の基礎を学ぶ） 第 11 回　研究結果と考察②（発表資料の作成） 第 12 回　研究計画策定① 第 13 回　研究計画策定② 第 14 回　研究計画発表 第 15 回　総括（卒業論文に向けて）		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働学習を行う。		
授業外学習	１．研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめ，提出する。 ２．テーマについての文献研究 ３．PC スキルの習得 ４．学校現場への訪問		
教科書	授業中に適宜紹介する		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業の参加度５０％，発表５０％		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	786	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326889
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１　キャリア形成及び卒業研究に向けた準備することができる。 ２　研究課題に関する文献研究や調査、事例分析などの力量を高めることができる。 ３　グループ協議、発表等を通じて、コミュニケーション力、発信力を高めることができる。 ４　実践的な研究テーマに取り組み、将来の自分につながる実践力を高めることができる。		
授業概要	・特別支援教育等をテーマとする文献研究、情報収集により研究主題につながる知見を得る。 ・事例検討、グループ協議、フィールドワーク等による主体的、実践的な研究を行う。 ・研究主題を定め、プレゼンテーション等により発信、共有する。 ・研究主題について小論文を作成し、卒業研究論文の基盤とする。 ・卒業研究の内容・方法等を定める。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション（夏季休暇中の研究活動の振り返り等の報告を含む） 第　2回　実践事例、文献による研究協議 第　3回　実践事例、文献による研究協議 第　4回　実践事例、文献による研究協議 第　5回　輪読・事例検討１／研究主題の設定・探求１ 第　6回　輪読・事例検討２／研究主題の設定・探求２ 第　7回　研究テーマの検討及び作成①（グループ協議を通じて、研究テーマを検討する） 第　8回　研究テーマの検討及び作成②（グループ協議を通じて、研究テーマを検討する） 第　9回　研究テーマの中間発表１（各自の研究課題等について発表する） 第 10 回　研究テーマの中間発表２（各自の研究課題等について発表する） 第 11 回　特別支援教育に係る研修会参加 第 12 回　卒業研究主題に関する研究協議（卒業業研究骨子の作成） 第 13 回　卒業研究主題に関する研究協議（卒業業研究骨子の発表及び協議）１ 第 14 回　卒業研究主題に関する研究協議（卒業業研究骨子の発表及び協議）２ 第 15 回　まとめ　（振り返りと次年度に向けた展望の共有を含む）		
授業方法	文献、研究論文講読・調査・研究協議・事例検討・発表		
アクティブラーニングの視点	・研究協議や調査内容の発表などを行う。 ・実践的な研究テーマを設定し、他者と協議や事例検討等を通じて主体的な探求を行う。		
授業外学習	・授業における課題レポート作成 ・教員採用・就職に向けた学習 ・文献研究		
教科書	なし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	研究協議等への参加度 40%、課題（レポート）提出 30%、小論文及び発表 30% 研究協議等への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。提出された課題（レポート）は評価後、適宜返却する。小論文及び発表は、小論文の内容及び発表の方法、明瞭さ、的確性を評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政、高等学校教諭、特別支援学校 校長としての経験や知見をふまえ、教育現場の現況を反映した事例検討や研究協議等、実践的研究を基盤に、授業を計画・実施する。		

No.	787	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326890
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	算数科教育に関わる教材や指導法，小学校の実践の場で必要とされる授業力向上に関わるテーマを設定して，専門的に探究することを目的とする。1，2 年次で学んだ基礎分野をもとに，自己の進路とも関わって専門性を深めるための科目であり，授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながり，卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究計画立案１ 第３回　研究計画立案２ 第４回　論文検索と調査研究１ 第５回　論文検索と調査研究２ 第６回　論文検索と調査研究３ 第７回　論文検索と調査研究４ 第８回　論文検索と調査研究５ 第９回　調査研究のまとめ１ 第 10 回　調査研究のまとめ２ 第 11 回　調査研究のプレゼンテーション１ 第 12 回　調査研究のプレゼンテーション２ 第 13 回　論文個別指導１ 第 14 回　論文個別指導２ 第 15 回　まとめと今後の研究の方向性		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・自らの研究テーマに関わって調査し、発表準備をすること。 ・発表会に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育課題に関わる文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュースなどについて自分の考えをまとめること。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%，発表及びレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、教育学専門演習２を指導する。		

No.	788	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326920
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2．文献研究能力や調査実施能力が身につく。 3．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得すること、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。1，2 年次で学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。 3 年次後期は、研究テーマと方法を決め、具体的な研究計画の作成を行い、計画に沿って研究を進め、卒業研究の基礎固めを行う。子育てひろばでの活動や、各自の進路指導にかかわる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　課題の発表・討議① 第３回　課題の発表・討議② 第４回　課題の発表・討議③ 第５回　研究計画の立案 第６回　研究計画の発表・討議① 第７回　研究計画の発表・討議② 第８回　子育てひろばでの活動計画の立案 第９回　保育教材研究と作成 第 10 回　文献・資料の収集と整理① 第 11 回　文献・資料の収集と整理② 第 12 回　文献研究・先行研究の発表・討議② 第 13 回　文献研究・先行研究の発表・討議③ 第 14 回　子育てひろばでの活動 第 15 回　後期のまとめ・春季休業中の課題		
授業方法	文献購読・教材研究・発表・討議等。個別相談も随時実施する。		
アクティブラーニングの視点	研究分野に関する発表、グループ討議、レポート作成など		
授業外学習	関心のあるテーマについて文献を調べること。研究計画に基づき、自主的に研究を進めること。 発表用のレジュメを作成して人数分準備すること。提出課題に取り組むこと。 子育てひろばで活動すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業への参加度（発表・討議、子育てひろばでの活動等含む）60%、提出物 40%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校でのキャリア支援の経験、子どもや保護者、保育者や教員を対象とする相談活動の経験を生かし、卒業研究や保育教材の開発等に助言を行う。		

No.	789	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326921
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自身のキャリア形成を見据えて，卒業研究に向けた準備をすることができる。 ・研究課題に必要な文献検索，資料作成，プレゼンテーションの手法を身につける。 ・先行研究による知見を整理し，論理的な文章を書くことができる。 ・研究課題を見据え，テーマに関する文献を読み，基礎的な議論ができる。		
授業概要	・言語学に関する様々な文献を読み解き、内容を理解する。 ・自らの興味関心に応じて研究課題の考察を深める。 ・文献講読を通じて討論し，研究内容や手法に関する検討を行う。		
授業計画	1．オリエンテーション 2．卒業研究テーマの検討 3．研究指導 1 4．文献講読，討議 5．文献講読・討議 6．文献講読・討議 7．文献講読・討議 8．研究テーマの設定 9．研究テーマの設定 10．卒業研究の計画策定 1 11．卒業研究の計画策定 2 12. 卒業研究のテーマ及び計画発表 13. 研究指導 14. レポート作成 15. まとめ		
授業方法	卒業研究に関するテーマを定め，研究計画を作成することを目的とする。 文献講読では，担当者が先行研究のまとめと発表を行い，その後全体での討論を行う。 必要に応じて PC 持参し，文献検索や資料作成について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	先行研究の概要理解，内容に関する資料作成，発表，討論を通して研究テーマに関する理解を深める。		
授業外学習	文献講読の担当者は，授業前に概要をまとめ，発表資料を作成する。 文献検索や研究テーマに関する先行研究のまとめなどは，各自で行う必要がある。		
教科書	授業中に適宜指示する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価方法	文献講読に関する資料作成，発表 50%，研究テーマに関するレポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	790	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326939
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1)自分のキャリア形成を見据え、必要な知識や技能を習得できる。 2)文献検索能力や調査実施の方法を習得できる。 3)討論や発表の力を高める事ができる。		
授業概要	1,2 年次で学んだことを踏まえ、自身の４年間の成果である卒業研究の準備段階であると同時に、自身の進路へ繋げていく為の専門性を発達させることを目的とする。また、少人数のゼミナール形式で実施し、活発な意見を期待しておるため、自らの自主性や積極性を発揮することが求められる。		
授業計画	第一回　オリエンテーション 第二回　文献検索の方法 第三回　発表の方法 第四回　関心のあるテーマの発表① 第五回　関心のあるテーマの発表② 第六回　関心のあるテーマの発表③ 第七回　研究協議① 第八回　研究協議② 第九回　研究協議③ 第十回　研究協議④ 第十一回　研究調査① 第十二回　研究調査② 第十三回　研究調査③ 第十四回　研究調査④ 第十五回　まとめと今後の方向性		
授業方法	文献検索・調査・討論・実践によって実施する。 また、基本的には資料の配布等は行わず、ペーパーレスで授業をすすめるため、PC やタブレットの持ち込みを推奨します。		
アクティブラーニングの視点	グループ討議や実際に地域社会に趣き、自身の学びを社会に還元する。		
授業外学習	・研究テーマに関わる調査を実施する ・研究テーマに関わる調査を実施し、発表できるように準備を行う		
教科書	特になし		
参考書	未来を変える目標　SDGs アイデアブック　Think the earth 著（紀伊國屋書店） 前林清和・中村浩也 編　　「SDGs 時代の社会貢献活動」　昭和堂　2021		
評価方法	授業への参加度（５０％） 発表や課題、及びレポート等の提出物（５０％）		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校・企業等の業務に携わった経験を持つ教員が、研究について指導する。		

No.	791	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326949
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1　自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2　文献研究能力や調査実施能力を身につける。 3　討論や発表の力を高め、専門的な文章を読むことや書くことができる。		
授業概要	１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目である。広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第 1回 オリエン テーション（夏季休暇中の研究活動の振り返り等の報告を含む） 第 2回 実践事例、文献による研究協議（卒業研究主題の設定を検討） 1 第 3回 実践事例や文献による研究協議（卒業研究主題の設定を検討） 2 第 4回 実践事例や文献による研究協議（卒業研究主題の設定を検討） 3 第 5回 事例検討１／研究主題の設定・探求１ 第 6回 事例検討２／研究主題の設定・探求２ 第 7回 研究論文の作成方法等の習得１（グループ協議を通じて、作成方法等を整理し、共有する） 第 8回 研究論文の作成方法等の習得２（グループ協議を通じて、作成方法等を整理し、共有する） 第 9回 小論文の作成／発表１（各自研究課題等について、小論文としてまとめ、発表する） 第 10 回 小論文の作成／発表２（各自研究課題等について、小論文としてまとめ、発表する） 第 11 回 小論文の作成／発表３（各自研究課題等について、小論文としてまとめ、発表する） 第 12 回 卒業研究主題に関する協議１（卒業研究主題の発表及び協議） 第 13 回 卒業研究主題に関する協議２（卒業研究主題の発表及び協議） 第 14 回 卒業研究主題に関する協議３（卒業研究主題の発表及び協議） 第 15 回 まとめ （振り返りと次年度に向けた展望の共有を含む）		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション（ワールドカフェ等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・設定した研究テーマについて調査すること。 ・研究テーマに関する発表にむけ、レジュメの作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・教育課題に関する文献を読み、内容をまとめること。 ・教育に関する新聞記事やニュース等について自分の考えをまとめておくこと。		
教科書	指定なし、適時、資料を配付する。		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場と教育行政の勤務経験を活かし、学級経営や授業（特に体育科教育）、教育に関する課題について、幅広く研究を指導する。		

No.	792	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326950
教員名	網代　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	1　キャリア形成及び卒業研究に向けた準備をすることができる。 2　文献研究や調査、事例分析、研究協議等を通じて、自らの探究する力を高めることができる。 3　グループ討議、発表等を通じて、コミュニケーション力や発信力を高めることができる。 4　実践的な研究テーマに取り組み、将来の自分に繋がる実践力を高めることができる。		
授業概要	・広く教育に関する内容や方法、教育者に求められる資質・感性・実践力に関わるテーマを設定し、専門的に探究する。 ・様々な文献研究などにより、自らの研究主題につながる知見を得る。 ・事例検討、グループ討議等により主体的、実践的な研究を行う。 ・研究主題について探究し、プレゼンテーション等により発信する。 ・研究主題について小論文を作成し、卒業研究論文の基盤とする。 ・卒業研究の内容・方法等を定める。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　研究主題の設定・研究計画の立案 第３回　　実践事例や文献による研究協議１ 第４回　　実践事例や文献による研究協議２ 第５回　　研究主題に関する文献・論文研究及び調査研究１ 第６回　　研究主題に関する文献・論文研究及び調査研究２ 第７回　　調査研究のまとめ／中間発表準備 第８回　　研究主題の中間発表１ 第９回　　研究主題の中間発表２ 第 10 回　　小論文の作成１ 第 11 回　　小論文の作成２ 第 12 回　　卒業研究主題に関する研究協議（卒業研究骨子の作成） 第 13 回　　卒業研究主題に関する研究協議（卒業研究骨子の発表及び協議）１ 第 14 回　　卒業研究主題に関する研究協議（卒業研究骨子の発表及び協議）２ 第 15 回　　まとめ		
授業方法	文献・研究論文講読、調査、研究協議、事例検討、発表		
アクティブラーニングの視点	・事例検討、研究協議、研究及び調査内容の発表を行う。 ・実践的な研究テーマを設定し、他者との協議などを通じて主体的に探究する。		
授業外学習	・授業における課題レポートの作成 ・発表に向けた資料作成やプレゼンテーションの準備 ・教育課題等に係る文献研究 ・教員採用・就職に向けた学習		
教科書	なし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	・研究協議等への参加度　　40%　　・課題（レポート）の内容　　30%　　・小論文、発表　30%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府の教育行政に長く携わってきた経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

No.	793	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326959
教員名	八木　成和		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	以下の４点を到達目標とする。 （１）積極的に授業に参加し、各種方法論を理解し、技能を身につけ,研究計画を説明できる。 （２）調査法、観察法、事例分析、面接法の理論と方法を理解し、説明できる。 （３）結果を処理し、その結果を解釈し、関連する文献を参考にしてレポートを書くことができる。 （４）実習で収集したデータに対して個人情報保護について理解し、適切なデータの処理や計算ができる。		
授業概要	演習形式により調査法、観察法(事例分析)、面接法の理論と方法を学ぶ。実習を個人またはグループで行い、レポートとして研究成果をまとめる。また、関連する文献・研究論文を読み、レジュメとしてまとめた内容を発表し、討論を行う。なお、数回のパソコンを使った実習を含む。夏学期から継続する内容である。		
授業計画	第１回：演習内容の概説、心理学の研究方法の概説 第２回：実験法による研究論文の講読 第３回：質問紙調査法による研究論文の講読 第４回：調査法（質問紙法）の概要 第５回：質問項目作成の手順 第６回：質問紙の作成の実際 第７回：データ入力の方法（パソコン実習） 第８回：分散分析・相関係数.・多変量解析法（データ分析） 第９回：データ分析の実際 第 10 回：データ分析の結果から図表を作成する。 第 11 回：質問紙法によるレポートの作成 第 12 回：観察法による研究論文の講読 第 13 回：事例分析による研究論文の講読 第 14 回：面接法による研究論文の講読 第 15 回具体的な研究計画の作成方法		
授業方法	グループに分かれて各種方法論の習得に努める。そのため、遅刻は厳禁とする。提出された課題に対して、誤解や不正解が多い場合は、次回の授業時に適宜解説を行うので、理解に努め、疑問点を解消するようにしてください。		
アクティブラーニングの視点	演習形式により授業を行う。実習・発表・対話・討論を適宜取り入れる。		
授業外学習	各自で研究テーマに関する文献を探し、よく読んでおくこと。関連が深い論文の場合、適宜内容をまとめておくこと。授業以外にパソコンを使用した実習、文献の要約等 90 分程度の学習を必要とします。		
教科書	授業中にプリントを配布する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	レポート（65 %）。授業中に課す課題の提出による平常点（35 %）。		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	794	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326969
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	１　自分のキャリア形成を見据えて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究能力や調査実施能力を身に付ける。 ３　専門的な文章を読むことや書くことの能力や、討論・発表の力を身に付ける。		
授業概要	道徳教育に関わる研究、教材や指導法，授業力向上に関わるテーマについて，専門的に探究することを目的とする。１、２年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わった専門性を発達させるための科目である。授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は４年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　研究テーマ再設定　研究計画立案１ 第３回　研究テーマ再設定　研究計画立案２ 第４回　テーマに関する先行研究と発表１　　発表・報告・討議 第５回　テーマに関する先行研究と発表２　　発表・報告・討議 第６回　テーマに関する先行研究と発表３　　発表・報告・討議 第７回　テーマに関する先行研究と発表４　　発表・報告・討議 第８回　テーマに関する先行研究と発表５　　発表・報告・討議 第９回　テーマに関する先行研究と発表５　　発表・報告・討議 第 10 回　研究発表会準備１ 第 11 回　研究発表会準備２ 第 12 回　研究発表プレゼンテーション１ 第 13 回　研究発表プレゼンテーション２ 第 14 回　レポート作成　個別指導 第 15 回　レポート作成　個別指導		
授業方法	文献講読・調査・研究協議・発表		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・テーマについての文献調査研究 ・発表会に向け、資料の作成及びプレゼンテーションの準備を行うこと。 ・レポート作成		
教科書	適時　資料を配付		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	授業への参加度 50%，発表・レポート 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	795	科目コード	59813
科目名	教育学専門演習２	授業コード	9326979
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	3	学期	2023 年度 後期
到達目標	○表現及び鑑賞の活動を通して、自ら課題を見つけ出し、その解決に向けて主体的、協働的な学びができる。 ○造形活動を通して制作し、発表することができる。 ○鑑賞活動を通して、作品の良さを感じ取り、伝えることができる。 ○テーマに関する文献を読み、基礎的な議論ができる。		
授業概要	この授業では、造形表現を通して専門性をより深め、教育者としての実践力を高めることを目的とする。また、自らが「みて、感じて、描く・つくる」を基本に、感性を働かせて、発想し構想の能力や鑑賞する能力を育み、造形と豊かに関わる造形活動を目指すことが求められる。これまで学んだ造形表現を基に、多様な表現技法を研究し、作品制作や発表を通して、社会における造形の関わりや芸術文化について学ぶ。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：これからの鑑賞教育について 第３回：作品鑑賞 第４回：作品鑑賞 第５回：研究計画 第６回：各自の課題に応じた書籍及び文献の講読による発表、討議 第７回：各自の課題に応じた書籍及び文献の講読による発表、討議 第８回：各自の課題に応じた書籍及び文献の講読による発表、討議 第９回：各自の課題に応じた書籍及び文献の講読による発表、討議 第１０回：各自の課題に応じた書籍及び文献の講読による発表、討議 第１１回：課題研究 第１２回：課題研究 第１３回：研究発表、研究協議 第１４回：研究発表、研究協議 第１５回：まとめ		
授業方法	造形活動演習、鑑賞活動演習、作品研究、文献調査、グループ協議、発表などを行う。		
アクティブラーニングの視点	ゼミ内での協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、作品や意見発表などで学生間での評価を積極的に行う。(その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。)		
授業外学習	作品制作やレポート提出に向けた準備。研究発表に向けた準備。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	作品、レポート提出、各自の研究への取組姿勢などから評価します。 授業での取組（５０%）研究内容（５０%）		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	796	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317023
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる。 ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。 ４．卒業論文作成に向けたデータ収集とその分析の方法を身に付けることができる。		
授業概要	教育学専門演習１・２を踏まえて、卒業論文に向けた研究計画を策定し、実際にデータを収集、その分析方法、結果を記述していく。また、研究計画や得られたデータは演習内で発表・討論し、自身のデータを客観的な視点で改善していく。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：進路の確認と卒業研究テーマの設定 第３回：卒業研究計画書の発表と討議 第４回：調査内容の整理・分析とその交流 第５回：調査内容の整理・分析とその交流 第６回：調査内容の整理・分析とその交流 第７回：調査内容の考察と制作 第８回：調査内容の考察と制作 第９回：調査内容の考察と制作 第１０回：調査内容の考察と制作 第１１回：研究成果のまとめ 第１２回：研究成果のまとめ 第１３回：中間報告会 第１４回：卒業論文作成について 第１５回：前期まとめ		
授業方法	文献購読・実験・調査・討論・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自の卒業論文の問題提起、データの収集法、結果のまとめ方などを議論やグループワークによって協働的に改善していく。討論の結果は卒論ノートにまとめ、卒業論文の改善に繋げるよう振り返る。		
授業外学習	文献購読、データ収集、卒業論文の執筆活動を進め、その成果を常に発表するための準備を進める。		
教科書	指定なし、適宜、資料を配付する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	発表・討論の振り返り（30%） 各発表の内容（20%） 各卒業論文の方法・結果の記述内容（50%）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場と教育行政の勤務経験を活かし、学級経営や授業（特に体育科教育）、教育に関する課題について、幅広く研究を指導する。		

No.	797	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317028
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	自分のテーマに沿って、先行研究をしっかり読み、要旨を的確にまとめることで、自分自身の考えを明確にし、筋道に沿って、物事を考えることができる力を養う。 乳幼児教育に関する広い知識をもち、研究的なリサーチができる力を養う。		
授業概要	乳幼児教育における自分自身の関心について、レジュメの作成と発表を実施すると共に、全員で討論を実施する。さらに、テーマに沿った先行研究のまとめをすることで、卒業論文の構想・目次を考える。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　：テーマの説明 第２回　第１章の概要と討論 第３回　再２章の概要と討論 第４回　第３章の概要と討論 第５回　第４章の概要と討論 第６回　第５章の概要と討論 第７回　まとめと各自の意見表明 第８回　自分のテーマについて意見表明 第９回　テーマに関連する先行研究リストの作成 第 10 回　テーマに関連する論文の発表 第 11 回　テーマに関連する論文の発表 第 12 回　テーマに関連する論文の発表 第 13 回　テーマについての概要について（発表） 第 14 回　テーマについての研究計画作成 第 15 回　テーマについての研究計画確定		
授業方法	毎週、テーマに沿って討論を継続する。		
アクティブラーニングの視点	各自の意見をあらかじめもって、全体で話し合いをしながら、考察を深めていく。		
授業外学習	事前に自分で準備をして、発表に備える。また、事後は次につなげる準備をする。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	出席３０％、発表７０％		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援施設長、自治体の子育て審議会委員等に関する経験から、具体的な実践に基づいた研究をする。		

No.	798	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317090
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．教員採用試験に合格する。 ２．卒業研究の完成に向けて専門分野についての知識がさらに深まり、専門的な文章を読む力、書く力、討議や発表の力が身につく。 ３．卒業研究で得た力を教員としての力につなげる		
授業概要	3 年次の専門演習１・２をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめていくための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、教員採用試験に合格するための指導に関わる活動も行う。具体的には「試験に受かる」先生ではなく、現場に出て子どもとの関係を築き、面白い授業ができる先生になるための経験を積んでいく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション、教員採用試験エントリーについて 第２回　振り返りと予定・発表①、研究テーマ最終決定の準備（ブレインストーミング） 第３回　振り返りと予定・発表②、文献検索の方法 第４回　振り返りと予定・発表③、文献の読み方 第５回　振り返りと予定・発表④、論文の書き方 第６回　振り返りと予定・発表⑤、教員採用試験１次試験に向けて 第７回　振り返りと予定・発表⑥、プレゼンのこつ 第８回　振り返りと予定・発表⑦、卒業研究計画書の作成 第９回　振り返りと予定・発表⑧、 第 10 回　振り返りと予定・発表⑨、 第 11 回　振り返りと予定・発表⑩ 第 12 回　振り返りと予定・発表⑪ 第 13 回　振り返りと予定・発表⑫ 第 14 回　振り返りと予定・発表⑬、卒業研究計画書の改訂 第 15 回　まとめ、教員採用試験２次（３次）試験に向けて ・振り返りと予定はスケジュール管理の力を付け、PDCA サイクルに慣れるために行う ・発表は、文献、輪読、ミニ講義、教育時事ニュース、教採対策、教室の小ワザ、今週のインターンシップ等から毎回１つを担当して発表する。 ・発表以外の順番は前後することがある。		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	毎週必ず何か一つは発表を担当し、各自が持ち寄った課題を全員で討論することが授業のメインとなる。また、発表内容は日頃の自分の疑問等を解決するために役立つテーマを自分で選ぶことになる。		
授業外学習	１．発表者としての準備（文献・輪読のレジメ、ミニ講義のパワポ、教育時事ニュースの新聞記事と討論テーマ） ２．ゼミ参加者として輪読箇所を読み、質問を用意。輪読箇所と討論から学んだ事をまとめる。 ３．研究テーマと方法①②の準備。 ４．発表①～⑬と研究テーマと方法①②に対してのコメントレポートを提出。 ５．レポート・レジュメ提出時には、必ず事前に他のゼミメンバーの下読みを受けること。		
教科書	教育心理学エッセンシャルズ（西村純一・井森澄江編、ナカニシヤ出版）		
参考書	山内光哉編『発達心理学上』ナカニシヤ出版		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	799	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317095
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には。卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究計画の発表 第３回　図書館実習 第４回　論文の書き方について 第５回　研究方法について 第６回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第７回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第８回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第９回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第 10 回　前期中間報告会 第 11 回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第 12 回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第 13 回　卒業研究計画に沿った調査分析の実施・発表・討議 第 14 回　前期進捗状況の発表 第 15 回　前期まとめ、夏季休業中の調査について		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表によって行う。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	・発表用レジュメの作成（人数分） ・卒業研究計画に沿った調査・分析の実施		
教科書	なし。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校、企業、医療等の現場における教員及び専門職の経験がある者が、その経験を活かして、研究を指導する。		

No.	800	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317157
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得する。 ２．文献研究能力や調査実施能力を身につける。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく ４．卒業研究のテーマを深め、論文完成に向けて計画的に研究を進めることができる。 ５．グローバル社会の実情と異文化を巡る教育の現状と問題点を多角的な視点から考察し、実践できる有力な人材の育成を目指す。		
授業概要	この演習では、教育学専門演習１・２を踏まえて、卒業論文に向けた研究計画を策定し、実際にデータを収集、その分析方法、結果を記述していく。演習は少人数のゼミナール形式で行われる。また卒論等の中間発表・討論も行う。さらに夏休みにフィールドワークとして外国人住民の割合 6.23%である三重県伊賀市在住の外国につながりのある子どもたちの学習支援行うなど、外部組織と連携をとって様々な活動、協力していく予定である。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究テーマの設定と具体化 第３回　研究計画書の作成の方法 第４回　研究計画書の発表および議論 第５回　文献調査・資料調査・現地調査（１） 第６回　文献調査・資料調査・現地調査（２） 第７回　文献調査・資料調査・現地調査（３） 第８回　中間発表とまとめ 第９回　先行研究の整理と課題設定の再検討 第 10 回　先行研究の整理と課題設定の再検討 第 11 回　研究内容の考察と討議（１）（状況に応じて追加調査の指示） 第 12 回　研究内容の考察と討議（２）（状況に応じて追加調査の指示） 第 13 回　研究内容の考察と討議（３） 第 14 回　期末発表 第 15 回　後期に向けてのまとめ		
授業方法	ゼミ生が興味関心を持ったテーマに関する文献購読・調査・討論・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自が主体的に設定したテーマの研究を深め、ゼミメンバーでの協同学習により意見を出し合い、自身の卒業論文を改善していく。また学内にとどまらずフィールドワーク調査やボランティア活動への参加も積極的に行う。		
授業外学習	各自が設定したテーマに関する文献購読、データ収集、卒業論文の執筆活動を進め、その成果を常に発表するための準備を進める。同時に日本で暮らす多様な文化的背景を持つ人々、移民の歴史や難民問題に関連するニュースや記事に目を通すこと。また、現代世界の実情を十分に把握し、視野を広げ、積極的にアプローチすることを期待する。		
教科書	その都度指示する。		
参考書	必要に応じて、授業中に指示する。		
評価方法	積極的な授業参加、各プレゼンテーションの内容、各卒業論文の方法・結果の記述内容等を総合的に評価する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	801	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317162
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて教師としての専門性を磨き、必要な知識や技能を獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が高めることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身につけることができる。 ・プレゼンテーション、集団討論などを通してコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業概要	教育現場における課題や授業力向上に関する自分の課題をもつ。 課題解決のために、書物などで調べるとともにフィールドワークなどの調査活動を行う。 調査結果を文書にまとめるとともに、相互交流する機会を持ち内容の深化を図る。 3 年次の教育学専門演習をさらに発展させ、教育現場における課題や授業力向上に関する自分の課題を持つ。さらに、各自の課題解決のために、文献等で調べるとともにフィールドワーク等の調査を行う。合わせて、進路に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（進路の確認、授業計画の決定） 第２回　テーマ１　卒業研究テーマの確認（設定理由の交流、研究の方法の確認） 第３回　テーマ１　個別課題追究方法の話し合い（ペアで問題点を指摘し合う） 第４回　テーマ１　論文の書き方(1)　卒業論文の手引き参照 第５回　テーマ１　卒業研究計画書の発表と討議・改訂 第６回　テーマ１　文献・資料収集と整理 第７回　テーマ２　先行論文の分析及び観点整理　採用試験に向けた課題確認と今後の見通しを作成 第８回　テーマ２　論文の書き方(2)　課外学習の必要性の確認 第９回　テーマ２　調査内容の整理と交流(1) 第 10 回　テーマ２調査内容の整理と交流(2) 第 11 回　テーマ２調査内容の整理と交流(3) 第 12 回　中間発表(1)　課外学習の必要性の確認 第 13 回　中間発表(2)　課外学習の必要性の確認 第 14 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(1) 第 15 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(2)		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	これまでに学修した思考ツールやプレゼンテーションのスキルを活用したり，グループ討議を行ったりしながらそれぞれの研究内容に応じながら，これまでに学んだことを応用的に活用していくようにする。		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメとパワーポイントにまとめ提出 ・教員採用試験に向けた自己の課題計画とそれに基づく自主学習		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%　内容面として、他者の発表に対する関わり、自己研鑽の度合いを診る。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	802	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317168
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自らの研究テーマを決め、リサーチクエスチョンを見出すことができる。 ・学術資料をもとに議論を組み立てることができる。 ・研究全体の構成や論文のセンテンス・アウトラインが作成できる。		
授業概要	この演習では、卒業論文の下書き作成に向けての指導を行う。そのため、各自の研究テーマやそれに関する参考文献を確認することに始まり、先行研究を検討し、リサーチクエスチョンや仮説を導き出す方法について説明し、学生各自が実際に経験しながら理解を深められるように指導する。また、研究目的に応じた研究方法や調査方法、序論で記すべき要点や研究全体の構成、論文全体のアウトラインの作成等について解説し、各自が論文の下書き執筆に向けて準備できるように指導する。		
授業計画	１．授業と年間の研究日程についての説明 ２．研究テーマと参考文献の確認（グループ１） ３．研究テーマと参考文献の確認（グループ２） ４．参考文献の検討（グループ１） ５．参考文献の検討（グループ２） ６．研究目的とリサーチクエスチョンの検討（グループ１） ７．研究目的とリサーチクエスチョンの検討（グループ２） ８．研究や調査の方法の検討（グループ１） ９．研究や調査の方法の検討（グループ２） 10. 序論で述べる要点についての説明。 11. 序論の下書き作成 12. 研究全体の構成（章や節の順序）の検討 13. 論文のアウトラインの作成 14. 論文のセンテンス・アウトラインの作成 15. 論文の下書き作成に向けての最終確認		
授業方法	講義および学生による発表とディスカッション		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、各自のテーマや問題意識による自立的学習と研究など		
授業外学習	毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察等を各自ノートにまとめる（1 時間程度）ほか、各自のテーマに関する文献を収集し、研究に必要な文献を精読して要点をまとめる（8 時間程度）。また、授業の進行段階に応じた学習内容については適時、授業で指示する。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布		
参考書	授業においても適宜紹介するが、基本的には学生自身が準備する。		
評価方法	授業への参加度（１０％）、発表（１５％）、ディスカッション（１５％）、提出課題（６０％） 授業への参加 度については、小テストや発言で評価する。発言は積極的かつ的確であることを評価す る。小テストは採点後、講評によるフィードバックを行う。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	803	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317169
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・研究調査やプレゼンテーションの力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・音楽教育や音楽作品に関する研究能力がつく。 ・卒業研究のテーマを深め、論文完成に向けて計画的に研究を進めることができる。		
授業概要	自己の進路とも関わって自らの専門性をより深めるための科目である。また、卒業研究のテーマを明確にし、卒業論文の完成に向けてより専門的に研究を進めることが求められる。特に本ゼミでは教育現場全般に活かせる音楽活動の実践や活用、多様な音楽表現や教材の研究を通して、人と音楽の関わりについて探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行い、討議や発表を含む。各自の学習計画に基づいて自主学習を進めるものとする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　論文の書き方について 第３回　テーマの設定と研究計画 第４回　研究計画の発表・討議 第５回　研究計画に基づいた調査研究（１） 第６回　研究計画に基づいた調査研究（２） 第７回　研究計画に基づいた調査研究（３） 第８回　中間発表 第９回　研究内容の考察と討議（１） 第 10 回　研究内容の考察と討議（２） 第 11 回　研究内容の考察と討議（３） 第 12 回　研究内容の考察と討議（４） 第 13 回　プレゼンテーション準備 第 14 回　期末発表 第 15 回　教育学専門演習３のまとめ、卒業研究の作成に向けて		
授業方法	文献購読・調査・執筆・添削・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自が主体的に設定したテーマの研究を深め、卒業論文の完成に向けて能動的に研究を進められる研究計画を立てる。また、発表や討議を通して、意見を共有し、幅広い角度から各々の研究を進められる視点を持つ。		
授業外学習	・研究テーマについて文献調査、先行研究を行い、研究計画を準備すること。 ・毎回の授業で添削を受けた課題を完成させ、次回の準備を行うこと。		
教科書	なし		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業の参加及び取り組み：60％ 発表及びレポート：40％		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、音楽の研究に関する指導を行う。		

No.	804	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317224
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　テーマと方法論および測定スケジュールの確認と課題抽出 第３回　　フィールド研究：各学校種のフィールド確保と事前打ち合わせ 　　実験研究：実験機種のキャリブレーションおよび環境設定 第４回　　実験計画書作成 第５回　　実験・測定（１） 第６回　　実験・測定（２） 第７回　　実験・測定（３） 第８回　　実験・測定（４） 第９回　　データー入力（１） 第 10 回　データー入力（２） 第 11 回　データー入力（３） 第 12 回　データー入力（４） 第 13 回　データー解析と図表作成（１） 第 14 回　データー解析と図表作成（２） 第 15 回　前期のまとめと課題抽出		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・データー収集のための事前準備を行う （必要書類・実験器具の準備と管理） ・データー入力・管理・解析処理など速やかに行う ・テーマに関連する文献研究を行う 以上のことを行い、授業において毎回その成果を発表すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出で 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	805	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317291
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	広く教育に関わる内容や方法、現代の教育者に必要な資質や実践力に関わるテーマを設定して、専門的に探究することを目的とする。1、2 年次で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。この演習は 4 年次の演習につながるので、卒業研究の基礎となる研究を行うことが求められる。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　領域別にみた論文作成について学習 第３回　　文献検索の方法と図書館の利用 第４回　　フィールド・実験研究の特性とリスク管理およびデーターの取り扱いについて 第５回　　テーマについての先行研究と発表 第６回　　テーマについての先行研究と発表 第７回　　テーマについての先行研究と発表 第８回　　テーマについての先行研究と発表 第９回　　テーマに関連する専門知識および最新情報の学習と習得・・・講義 第 10 回　テーマに関連する専門知識および最新情報の学習と習得・・・講義 第 11 回　研究方法論について学習・・・講義 第 12 回　研究方法論について学習・・・講義 第 13 回　対象と研究方法の確定 第 14 回　研究内容の中間発表 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	運動教室の実施運営及び指導計画の策定を行わせる。		
授業外学習	テーマ設定について文献研究 ・方法論についての専門知識の習得 ・ＰＣスキルの習得（データー入力と解析および図表作成） 以上を、講義で発表できるよう随時実践すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	806	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317307
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	卒業研究に向けて具体的なテーマを定め、課題設定を明確化することができる。 さまざまな先行研究を調査し、それらをふまえて自らの研究を位置づけることができる。		
授業概要	教育学専門演習２までの学習成果をふまえ、卒業研究に向けて自らの教育的関心を明確にし、他者へ伝えるためのレポートを作成してもらう。レポートについては文献引用および表現に関する指導を随時行う。あわせて、先行研究の調査を行ってもらい、内容の講読演習を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究テーマの設定と具体化 第３回　研究計画の設計 第４回　研究方法の検討 第５回　文献調査・資料調査・現地調査 第６回　文献調査・資料調査・現地調査 第７回　文献調査・資料調査・現地調査 第８回　中間まとめ 第９回　先行研究の整理と課題設定の再検討 第 10 回　先行研究の整理と課題設定の再検討 第 11 回　追加調査の実施 第 12 回　追加調査の実施 第 13 回　追加調査の実施 第 14 回　追加調査の実施 第 15 回　調査の整理とまとめ		
授業方法	討議および文章作成・添削を中心として進める。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究についてそれぞれ自分の関心あるテーマを設定し、必要な調査手法を検討し自らの手で実行する。ゼミメンバーそれぞれの研究テーマについて、相互に意見・質問を述べるディスカッションを通じて、質の向上を図る。		
授業外学習	授業外においても調査研究を独自に進めるものとする。		
教科書	資料を適宜配布する。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	授業における態度等 50%、成果物 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	807	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317308
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１　特別支援教育を軸とした将来のキャリア形成を見すえて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究、情報収集、研究協議等を通じて、他者理解、自己理解を深める。 ３　グループ協議、プレゼンテーション等を通じて、コミュニケーション力、発信力を高める。 ４　実践的な研究テーマに取り組み、卒業研究を完成させる。		
授業概要	・特別支援教育等をテーマとする文献研究、情報収集等により研究主題につながる知見を得る。 ・事例検討、研究協議、フィールドワーク（見学・訪問含む）等による主体的、実践的な研究を行う。 ・卒業研究主題を探求し、プレゼンテーション等により発信、共有する。 ・卒業研究を作成し、充実した内容を追求する。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション 第　2回　事例検討①　特別支援教育に関する協議① 第　3回　事例検討②　特別支援教育に関する協議② 第　4回　事例検討③　特別支援教育に関する協議③ 第　5回　特別支援教育及び教職全般に関する演習１ 第　6回　特別支援教育及び教職全般に関する演習２ 第　7回　特別支援教育及び教職全般に関する演習３ 第　8回　フィールドワーク① 第　9回　フィールドワーク② 第 10 回　卒業研究主題の設定及び研究論文企画１ 第 11 回　卒業研究主題の設定及び研究論文企画２ 第 12 回　卒業研究主題の設定及び研究論文企画３ 第 13 回　卒業研究　中間　プレゼンテーション１ 第 14 回　卒業研究　中間　プレゼンテーション２ 第 15 回　まとめ　（後期に向けた課題の整理と振り返り）		
授業方法	文献、研究論文講読・調査・研究協議・事例検討・発表		
アクティブラーニングの視点	・研究協議、事例検討、研究及び調査内容の発表などを行う。 ・実践的な研究テーマを設定し、他者との協議やフィールドワーク等を通して主体的に発信する。		
授業外学習	・授業における課題レポート作成 ・採用試験・就労に向けた学習 ・文献研究、フィールドワーク		
教科書	なし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	研究協議、事例検討等への参加度 30%、課題（レポート）の内容 20%、卒業研究中間発表 50%。グループ協議、事例検討等への参加度は、事前課題の内容、質問等への回答、協議への積極的参加などを評価する。課題等は、内容を確認して評価を記したものを適宜返却する。発表は、発信内容の分かりやすさ、論理性、的確性を評価する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政及び高等学校教諭、特別支援学校 校長としての経験や知見を活かし、教育現場の現況を反映した事例検討（ワークショップ含む）や研究協議等を多く取り入れるなど、実践的研究を基本に授業を計画・実施する。		

No.	808	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317309
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	1．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2．文献研究能力や調査実施能力が身につく。 3．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得すること、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。これまで学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。 4 年次前期は、3 年次の専門演習１・２をさらに発展させ、4 年間の学習成果のまとめとなる卒業研究完成に向けて、問題意識と先行研究のまとめ、調査の実施と分析、教材作成と保育現場等での実演を行う。研究をすすめる発表や討議を行う他、各自の進路指導にかかわる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　課題の発表・討議① 第３回　課題の発表・討議② 第４回　研究計画の策定 第５回　研究計画の発表と討議・修正 第６回　問題意識・先行研究のまとめ 第７回　問題意識・先行研究の発表 第８回　調査内容の検討、製作物・保育教材作成① 第９回　調査内容の検討、製作物・保育教材作成② 第 10 回　調査内容・製作物に関する発表・討議 第 11 回　調査の実施・保育現場での実践に向けての準備 第 12 回　調査研究の実施、保育現場での実践 第 13 回　調査データの収集・整理・分析、保育現場での実践のふりかえり 第 14 回　課題の整理、進路指導 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献購読・調査・教材研究・発表・討議等。添削指導、個別相談も随時実施する。		
アクティブラーニングの視点	研究分野に関する発表、グループ討議、レポート作成など		
授業外学習	研究テーマに関する文献・資料を読み込み、論点を整理すること。 共同制作の場合、日程調整してメンバーで集まり、準備を進めること。 発表・討議の際には、レジュメを作成すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業への参加度（発表・討議、保育現場での活動含む）60%、提出物 40%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校でのキャリア支援の経験、子どもや保護者、保育者や教員を対象とする相談活動の経験を生かし、卒業研究や保育教材の開発等に助言を行う。		

No.	809	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317310
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	1)自分のキャリア形成を見据え、必要な知識や技能を習得できる。 2)文献検索能力や調査実施の方法を習得できる。 3)討論や発表の力を高める事ができる。		
授業概要	3 年次までの学びを発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には。卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究計画の発表① 第３回　卒業研究計画の発表② 第４回　論文の書き方について 第５回　研究方法について 第６回　調査分析の実施・発表 第７回　調査分析の実施・発表 第８回　調査分析の実施・発表 第９回　調査分析の実施・発表 第 10 回　前期中間報告会 第 11 回　調査分析の実施・発表 第 12 回　調査分析の実施・発表 第 13 回　調査分析の実施・発表 第 14 回　前期進捗状況の発表 第 15 回　前期まとめ、夏季休業中の調査について		
授業方法	文献検索・調査・討論・実践によって実施する。 また、基本的には資料の配布等は行わず、ペーパーレスで授業をすすめるため、PC やタブレットの持ち込みを推奨します。		
アクティブラーニングの視点	グループ討議や実際に地域社会に趣き、自身の学びを社会に還元する。		
授業外学習	・研究テーマに関わる調査を実施する ・研究テーマに関わる調査を実施し、発表できるように準備を行う		
教科書	特になし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	授業への参加度（５０％） 発表や課題、及びレポート等の提出物（５０％）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校・企業等の業務に携わった経験を持つ教員が、研究について指導する。		

No.	810	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317311
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	社会科教育学、教師教育学に関わる研究テーマを設定し、学術的に研究する ・１、２、３年生で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路と関わって専門性を高める科目である。 ・授業は少人数の演習形式で行われる。 ・卒業研究の核となる研究を行なう。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション：「わたしの研究は、社会の何を、どのように、なぜしたいのか」 第 2 回　発表①・議論・リフレクション：調査の実施と進捗報告 第 3 回　発表②・議論・リフレクション：調査の実施と進捗報告 第 4 回　発表③・議論・リフレクション：調査の実施と進捗報告 第 5 回　発表④・議論・リフレクション：調査結果の整理 第 6 回　発表⑤・議論・リフレクション：調査結果の整理 第 7 回　発表⑥・議論・リフレクション：調査結果の整理 第 8 回　発表⑦・議論・リフレクション：調査結果の分析 第 9 回　発表⑧・議論・リフレクション：調査結果の分析 第 10 回　発表⑨・議論・リフレクション：調査結果の分析 第 11 回　発表⑩・議論・リフレクション：調査結果の考察 第 12 回　発表⑪・議論・リフレクション：調査結果の考察 第 13 回　発表⑫・議論・リフレクション：調査結果の考察 第 14 回　決意表明：「わたしは残りの大学生活を、どのように、なぜそのように過ごすのか」 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ほとんどの授業で、教員・ゼミ員で意見交流し、知識を構成する学習を取り入れる。		
授業外学習	１．発表者：研究テーマに関する文献・論文を探し，それをレジュメに要約・考察して発表する。 ２．テーマについての文献研究 ３．アカデミックスキル、パソコンスキルの習得		
教科書	授業中に必要に応じて指示する		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加度 50%、発表 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における勤務経験や国際協力業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かし、人間教育を行う。		

No.	811	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317312
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて専門性を磨き、必要な知識やスキルを獲得できる。 ２．文献研究能力、調査実施能力、プレゼンテーション能力が高まる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討論や発表の力が高まる。 ４．作品への発想や構想力、制作技能が高まる。		
授業概要	３年次の教育学専門演習をさらに発展させ、４年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、制作や発表の指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習に合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：進路の確認と卒業研究テーマの設定 第３回：卒業研究計画書の発表と討議 第４回：調査内容の整理・分析とその交流 第５回：調査内容の整理・分析とその交流 第６回：調査内容の整理・分析とその交流 第７回：調査内容の考察と制作 第８回：調査内容の考察と制作 第９回：調査内容の考察と制作 第１０回：調査内容の考察と制作 第１１回：研究成果のまとめ 第１２回：研究成果のまとめ 第１３回：中間報告会 第１４回：卒業論文作成について 第１５回：前期まとめ		
授業方法	造形活動演習、鑑賞活動演習、作品研究、文献調査、グループ協議、発表などを行う。		
アクティブラーニングの視点	ゼミ内での協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、作品や意見発表などで学生間での評価を積極的に行う。(その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。)		
授業外学習	卒業論文や作品制作に向けた準備。研究発表に向けた準備。		
教科書	なし		
参考書	なし		
評価方法	各自の研究、作品制作への取組姿勢などから評価します。 授業での取組（５０％）研究内容（５０％）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	812	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317327
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて専門性を磨き、必要な知識やスキルを獲得できる。		
授業概要	3 年次の教育学専門演習をさらに発展させ、教育現場で生起している問題や授業力向上に関する自分の課題を持つ。さらに、各自の課題解決のために、文献等で調べるとともにフィールドワーク等の調査を行う。合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（進路の確認、講読テーマの決定） 第２回　テーマ１講読_1／卒業研究テーマの確認（設定理由の交流、研究の方法の確認） 第３回　テーマ１講読_2／個別課題追究方法の話し合い（ペアで問題点を指摘し合う） 第４回　テーマ１講読_3／論文の書き方(1)　卒業論文の手引き参照 第５回　テーマ１講読_4／卒業研究計画書の発表と討議・改訂 第６回　テーマ１講読_5／文献・資料収集と整理 第７回　テーマ２講読_1／先行論文の分析及び観点整理　採用試験に向けた課題確認と今後の見通しを作成 第８回　テーマ２講読_2／論文の書き方(2) 第９回　テーマ２講読_3／調査内容の整理と交流(1) 第 10 回　テーマ２講読_4／調査内容の整理と交流(2) 第 11 回　テーマ２講読_5／調査内容の整理と交流(3) 第 12 回　中間発表(1) 第 13 回　中間発表(2) 第 14 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(1) 第 15 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(2)		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。　個別相談実施		
アクティブラーニングの視点	自らの課題設定と、主体的な課題追及活動を重視。		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメとパワーポイントにまとめ提出 ・教員採用試験に向けた自己の課題計画とそれに基づく自主学習		
教科書	なし。		
参考書	適宜、指示する。		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%　内容面として、他の発表に対する関わり、自己研鑽の度合いを診る。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	813	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317337
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・各自のテーマを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　　オリエンテーション 第２回　　テーマと方法論および調査スケジュールの確認と課題抽出 第３回　　フィールド研究：各種のフィールド確保と事前打ち合わせ 第４回　　調査計画書作成 第５回　　調査・測定（１） 第６回　　調査・測定（２） 第７回　　調査・測定（３） 第８回　　調査・測定（４） 第９回　　データー入力（１） 第 10 回　データー入力（２） 第 11 回　データー入力（３） 第 12 回　データー入力（４） 第 13 回　データー解析と図表作成（１） 第 14 回　データー解析と図表作成（２） 第 15 回　前期のまとめと課題抽出		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	文献検索、調査、実験、データ収集、データ解析、図表作成、発表、研究討議等		
授業外学習	・データー収集のための事前準備を行う。 （必要書類・実験器具の準備と管理） ・データー入力・管理・解析処理など速やかに行う。 ・テーマに関連する文献研究を行う。 以上のことを行い、授業において毎回その成果を発表すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出で 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、卒業論文、進路決定等の指導をする。		

No.	814	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317347
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023年度 前期
到達目標	With the knowledge and skills acquired in 教育学専門演習1-2, the objectives of this seminar are to: 1. Continue to learn about foreign language education, finding a specific area of interest. 2. Continue to improve your foreign language skills. 3. Begin work on a graduation thesis about foreign language education or a creative work of literature.		
授業概要	While actually studying a foreign language (English), we will research foreign language education from a variety of perspectives.		
授業計画	The week-by-week list of activities listed below describes the English practice component of the class. Students will also be working on their graduation thesis projects. I may make changes to this schedule based on the needs of the students in this seminar. 1. Introduction, Class Overview, Icebreakers, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation, Student Presentations 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation, Student Presentations 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation, Student Presentations 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation, Student Presentations 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation, Student Presentations 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation, Student Presentations 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation, Student Presentations 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation, Student Presentations 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation, Student Presentations 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation, Student Presentations 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation, Student Presentations 15. Final Review, Final Evaluation		
授業方法	This class will consist of three major components: 1. Foreign language (English) learning. 2. Learning about foreign language education through materials development, presentations, and possibly visits to local schools. 3. A self-directed autonomous language learning project.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. We are going to study language and language education. Students should be prepared to participate actively in each class and also study on their own outside of class. Students will determine the direction of their own study and research.		
授業外学習	Students must be prepared to study actively outside of class. This study should include not only reading and writing but also speaking and listening practice. Additionally, students need to make materials for presentations.		
教科書	No specific textbook is required. I will provide materials.		
参考書	Students will need to find materials to develop language learning resources. These materials may include books, articles, websites, YouTube videos, movies, music, and much more.		
評価方法	Active Participation 60% Writing and other assignments 40%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。		

No.	815	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317357
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。 ４．卒業論文作成に向けたデータ収集とその分析の方法を身に付けることができる。		
授業概要	教育学専門演習１・２を踏まえて、卒業論文に向けた研究計画を策定し、実際にデータを収集、その分析方法、結果を記述していく。また、研究計画や得られたデータは演習内で発表・討論し、自身のデータを客観的な視点で改善していく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　模擬卒業論文の発表と読み合わせ 第３回　第２回を踏まえた模擬卒業論のデータ収集法の発表 第４回　各自のデータ収集の環境と方法の確認と打ち合わせ 第５回　研究計画書作成の方法 第６回　研究計画書の発表および議論 第７回　データ収集の進捗状況の報告・討論 第８回　追加データや研究計画の修正の必要性についての発表・討論 第９回　卒業論文の方法執筆の進捗状況確認 第１０回　卒業論文の方法執筆結果の発表・討論 第１１回　第１回目の収集データの結果の分析法・記述法 第１２回　第１回目の収集データの結果の発表・討論 第１３回　卒業論文の方法・結果の読み合わせ・討論 第１４回　第２回のデータ収集についての研究計画書作成の方法 第１５回　第２回目のデータ収集についての研究計画書の発表・討論		
授業方法	文献購読・実験・調査・討論・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自の卒業論文の問題提起、データの収集法、結果のまとめ方などを議論やグループワークによって協働的に改善していく。討論の結果は卒論ノートにまとめ、卒業論文の改善に繋げるよう振り返る。		
授業外学習	文献購読、データ収集、卒業論文の執筆活動を進め、その成果を常に発表するための準備を進める。		
教科書	指定なし、適宜、資料を配付する。		
参考書	高野 陽太郎・岡 隆（編集）『心理学研究法 補訂版』 有斐閣アルマ（2017/3/1） 鈴木 直人（監修）『心理学概論　【第２版】』ナカニシヤ出版；第２版（2014/4/20） 小塩 真司・宅 香菜子（著）『心理学の卒業研究ワークブック　発想から論文完成までの 10 ステージ』金子書房（2015/9/9） 森 敏昭・吉田 寿夫（著，編集）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房（1990/6/1） 小塩 真司・西口 利文（編集）『質問紙調査の手順（心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版（2007/11）		
評価方法	発表・討論の振り返り（30%） 各発表の内容（20%） 各卒業論文の方法・結果の記述内容（50%）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	816	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317358
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・各自のテーマを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデータ一収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	１．オリエンテーション（活動内容、研究計画作成） ２．研究テーマの設定１ ３．研究テーマの設定２ ４．研究テーマの設定３ ５．研究方法について学ぶ１ ６．研究方法について学ぶ２ ７．研究方法について学ぶ３ ８．研究資料収集と分析１ ９．研究資料収集と分析２ 10．研究資料収集と分析３ 11．研究中間報告と議論１ 12．研究中間報告と議論２ 13．研究中間報告と議論３ 14．研究中間報告と議論４ 15．後期に向けてのまとめ		
授業方法	演習形式で実施する。		
アクティブラーニングの視点	教育・スポーツに関する問題を深く考え、他の人と議論し、論理的な結論を導き出す。		
授業外学習	教育に関する問題を深く考え、他の人と議論し、論理的な結論を導き出す。		
教科書	指定なし		
参考書	白井利明、高橋一郎「よくわかる卒論の書き方第２版」ミネルヴァ書房		
評価方法	レポート 50% 授業参加貢献度（口頭発表 20%、授業の参加状況 30%）50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	817	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317359
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。 ・卒業論文作成に向けたデータ収集とその分析の方法を身に付けることができる。		
授業概要	３年次の教育学専門演習１・２を発展させ，４年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には，卒業研究ための調査，分析，発表指導が中心となり，集大成として卒業研究発表会を行う。また，それらの作業や学習と合わせて，進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：進路の確認と卒業研究テーマの設定 第３回：卒業研究計画書の発表と討議 第４回：調査内容の整理・分析とその交流 第５回：調査内容の整理・分析とその交流 第６回：調査内容の整理・分析とその交流 第７回：調査内容の考察と制作 第８回：調査内容の考察と制作 第９回：調査内容の考察と制作 第１０回：調査内容の考察と制作 第１１回：研究成果のまとめ 第１２回：研究成果のまとめ 第１３回：中間報告会 第１４回：卒業論文作成について 第１５回：前期まとめ		
授業方法	文献購読・調査・討論・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、振り返りシートの活用など		
授業外学習	文献購読、データ収集、卒業論文の執筆活動を進め、その成果を常に発表するための準備を進める。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%，発表及び課題の内容 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、教育学専門演習３を指導する。		

No.	818	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317360
教員名	山田　実樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・研究課題に必要な文献検索，資料作成，プレゼンテーションを行うことができる。 ・先行研究による知見を整理し，自身の研究課題に引きつけて，論理的な文章を書くことができる。 ・自身のキャリア形成を見据えて，必要な知識や技能を身に付け，主体的・創造的に思考することができる。		
授業概要	・言語学に関する様々な文献を読み解き、内容を理解する。 ・自らの興味関心に応じて研究課題について調査し，考察を深める。 ・文献講読を通じて討論し，研究内容や手法に関する検討を行う。		
授業計画	1．オリエンテーション（研究テーマの確認，授業計画の決定） 2．卒業論文の書き方 3．先行研究の整理 4．卒業論文執筆１（進捗報告、全体討議） 5．卒業論文執筆２（進捗報告、全体討議） 6．卒業論文執筆３（進捗報告、全体討議） 7．卒業論文執筆４（進捗報告、全体討議） 8．卒業論文執筆５（進捗報告、全体討議） 9．卒業論文執筆６（進捗報告、全体討議） 10．卒業論文執筆７（進捗報告、全体討議） 11．卒業論文執筆８（進捗報告、全体討議） 12．質的・量的調査の方法１ 13．質的・量的調査の方法２ 14.まとめ　進捗確認と夏休みの課題について１ 15．まとめ　進捗確認と夏休みの課題について２		
授業方法	研究論文作成について各自調査研究を行い，授業内で発表・報告・討議を行う。 PC 持参し，文献検索や資料作成について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	先行研究の概要理解，内容に関する資料作成，発表，討論を通して研究テーマに関する理解を深める。		
授業外学習	各自，自身の研究課題に応じて，調査研究を行い，発表資料を作成する。		
教科書	授業中に適宜指示する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価方法	研究テーマに関する資料作成，発表 50%，研究テーマに関するレポート 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	819	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317361
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	自身の研究テーマについて文献収集や抄読、先行研究の整理を行い、研究テーマに対する問いを明確にできる。 研究テーマの課題解決に向けて論文の執筆活動を行う。 自身の卒業後の進路に向けての準備を行う		
授業概要	自身の論文のテーマに関わる課題解決を目標としたゼミナールである。 先行研究に関する文献等の抄読・グループワークを通してお互いの研究テーマに対して新たな視点を獲得する。		
授業計画	第 01 回. オリエンテーション 第 02 回. 個々の研究テーマの発表会 第 03 回. 個々の研究テーマへの質疑応答 第 04 回. 夏休みまでの研究計画の立案と発表 第 05 回. 研究方法の検討 第 06 回. 研究方法の発表 第 07 回. 文献検討及び論文執筆活動に必要な調べ学習 第 08 回. 文献検討によって得たことを発表 第 09 回. 論文の書き方の習得 第 10 回. 先行研究の整理 第 11 回. 個々の研究の進捗報告会 第 12 回. 先行研究の要点集約 第 13 回. 研究成果の発表Ⅰ 第 14 回. 論文執筆活動 第 15 回. 論文執筆活動		
授業方法	個人の研究テーマを広い視野を持ち検討できるようにするためにグループ活動と個人活動を並行しながら行う。		
アクティブラーニングの視点	グループワーク・ペアトークの導入とワークシート質疑応答の機会を重視する。		
授業外学習	個人の研究テーマに合致した文献を熟読		
教科書	適宜資料を配布する		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	授業の意欲・態度・出席（30%）および授業の発表や課題への取り組み（70%）により総合的に評価する。 自分の研究テーマに応じた課題検討において積極的な活動を評価する		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教諭経験がある者が、その経験を活かした指導を行う		

No.	820	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317370
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	3 年次の専門演習をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には。卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究進捗状況の発表 第３回　卒業研究指導 第４回　卒業研究指導 第５回　卒業研究指導 第６回　卒業研究指導 第７回　後期中間報告会 第８回　卒業研究指導 第９回　卒業研究指導 第 10 回　卒業研究指導 第 12 回　卒業研究指導 第 13 回　卒業研究要旨の作成・発表 第 14 回　卒業研究発表会の準備 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働学習を行う。		
授業外学習	１．研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめ，提出する。 ２．テーマについての文献研究 ３．PC スキルの習得 ４．学校現場への訪問		
教科書	授業中に適宜紹介する		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業の参加度５０％，発表５０％		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	821	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317626
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて専門性を磨き、必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が高まる。 ・討論などを通してコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業概要	3 年次の教育学専門演習をさらに発展させ、教育現場で生起している問題や授業力向上に関する自分の課題を持つ。さらに、各自の課題解決のために、文献等で調べるとともにフィールドワーク等の調査を行う。合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第 01 回　オリエンテーション（進路の確認、講読テーマの決定） 第 02 回　テーマ１講読_1／卒業研究テーマの設定（設定理由の交流） 第 03 回　テーマ１講読_2／個別課題追求方法の話し合い（見通しを持つ） 第 04 回　テーマ１講読_3／論文の書き方(1) 第 05 回　テーマ１講読_4／卒業研究計画書の発表と討議・改訂 第 06 回　テーマ１講読_5／文献・資料収集と整理 第 07 回　テーマ２講読_1／先行論文の分析及び観点整理 第 08 回　テーマ２講読_2／論文の書き方(2) 第 09 回　テーマ２講読_3／調査内容の整理と交流(1) 第 10 回　テーマ２講読_4／調査内容の整理と交流(2) 第 11 回　テーマ２講読_5／調査内容の整理と交流(3) 第 12 回　中間発表(1) 第 13 回　中間発表(2) 第 14 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(1) 第 15 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(2)		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等)、グループ・ディスカッション、ディベート、 マンダラート、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメにまとめ提出		
教科書	適宜資料を配布		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および教育行政での経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる		

No.	822	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317693
教員名	網代　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて専門性を磨き、必要な知識やスキルを獲得できる。		
授業概要	3 年次の教育学専門演習をさらに発展させ、教育現場で生起している問題や授業力向上に関する自分の課題を持つ。さらに、各自の課題解決のために、文献等で調べるとともにフィールドワーク等の調査を行う。合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　事例検討①／卒業研究テーマの設定 第３回　事例検討②／個別課題解決のための検討 第４回　事例検討③／卒業研究計画書の作成 第５回　教職全般に関わる演習①／論文の書き方(1) 第６回　教職全般に関わる演習②／資料の収集・整理 第７回　教職全般に関わる演習③／先行論文等の分析 第８回　教職全般に関わる演習④／論文の書き方(2) 第９回　研究論文企画① 第 10 回　研究論文企画② 第 11 回　研究論文企画③ 第 12 回　卒業研究　中間発表 第 13 回　卒業研究　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(1) 第 14 回　卒業研究　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(2) 第 15 回　まとめ（後期に向けた課題の整理と振り返り）		
授業方法	文献、研究論文講読・調査・研究協議・事例検討・発表		
アクティブラーニングの視点	・研究協議、事例検討、研究及び調査内容の発表などを行う。		
授業外学習	・研究計画書の作成、研究テーマに関連した調査、文献研究 ・発表の際の資料作成 ・教員採用試験に向けた学習		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	高等学校教諭及び公立高等学校　校長、教育行政の経験や知見を活かし、教育現場の現状を反映した事例検討などを多く取り入れ、研究指導にあたる。		

No.	823	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317694
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる． ・文献探求力や調査能力が身につく． ・専門的な文章の読解力，文章表現力，討議力，発表力がつく． ・教員としての資質，行動様式の向上ができる．		
授業概要	3 年次の専門演習をさらに発展させ，4 年間の学修成果をまとめるための授業とする． 卒業研究のための調査、分析，発表，指導を通じ，卒業研究発表会を行う．また，それらの作業や学習と並行して，教職に関わる対策も行う．		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　テーマと方法の確認１ 第３回　テーマと方法の確認２ 第４回　教育集団討議１ 第５回　先行研究の調査 第６回　教育集団討議２ 第７回　方法計画の立案 第８回　教育集団討議３ 第９回　方法計画の発表 第 10 回　データ収集と文献整理，教職対応１ 第 11 回　データ収集と文献整理，教職対応２ 第 12 回　データ収集と文献整理，教職対応３ 第 13 回　調査分析の実施と発表，教職対応１ 第 14 回　調査分析の実施と発表，教職対応２ 第 15 回　前期のまとめと課題抽出		
授業方法	文献講読，調査，討議，発表などの実践		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク等），振り返りシートの活用など		
授業外学習	様々な教育事象や社会事象の探求するためるに教育インターシップなどの活動に参加		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する．		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%，発表及び課題提出で 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が，その経験を活かして研究指導にあたる．		

No.	824	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317731
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	3 年次の教育学専門演習 1.2 の学習を更に発展させ、卒業研究の完成を目指す。専門分野への知識を深め、専門的な文章を読む力、書く力、発表する力、考察する力を高める。また、社会人としての行動様式を身につけさせる。		
授業概要	卒業研究と就職活動を併行しながら、それに相応しい力を身につける。進路の追求と己のこれまでの大学での教育についての学びを深め、一般教養の定着と専門教養の発展を充実させるとともに、、人間的・社会的素養の向上を図る。		
授業計画	第１回　休暇中の進捗状況の確認 第２回　先行研究の調査 第３回　先行研究の調査 第４回　データの収集、文献整理 第５回　データの収集、文献整理 第６回　データの収集、文献整理 第７回　データの収集、文献整理 第８回　データの収集、文献整理 第９回　調査分析の実施･発表・討議 第 10 回　調査分析の実施･発表・討議 第 11 回　調査分析の実施･発表・討議 第 12 回　調査分析の実施･発表・討議 第 13 回　調査分析の実施･発表・討議 第 14 回　プレゼン方法の指導 第 15 回　研究論文発表経過報告		
授業方法	先行研究調査方法について指導し、各自の発表・報告をふまえて全体にて討議し、さらに研究論文執筆の進展をめざすべく、各自への個別指導をすすめる。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク）・フィールドワーク、振り返りｼｰﾄの活用、必要文献の輪読など		
授業外学習	様々な教育事象や社会情勢に関心をもち、その本質の探究を試みる。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて適宜配布する。		
評価方法	先行研究調査についての発表・報告・討議 50%、授業への参加度 50% 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、教育関係のフィールドワークの概要について解説し、並びに実践指導を行う。		

No.	825	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317760
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	１．テーマ設定のしかたや調査方法について身につく。 ２．共同で調査したり、討議することができる。 ３．プレゼンテーションの方法が身につく。		
授業概要	3 年次の教育学専門演習 2 をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となる。また、それらの作業の学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　進路の確認と卒業研究テーマの設定 第３回　卒業研究計画書の発表と討議 第４回　論文の書き方について 第５回　卒業研究計画の改訂 第６回　調査研究を行う（１） 第７回　調査研究を行う（２） 第８回　調査研究を行う（３） 第９回　調査研究を行う（４） 第 10 回　前期進捗状況の発表（１） 第 11 回　前期進捗状況の発表（２） 第 12 回　前期進捗状況の発表（３） 第 13 回　前期進捗状況の発表（４） 第 14 回　前期進捗状況の発表（５） 第 15 回　前期のまとめ		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究に向けて、各自の研究分野に関する発表や討論を受講生間で行い、一層研究を深める。		
授業外学習	・卒業研究計画に沿った調査・分析を進めること。 ・第 2 回授業において研究テーマについて発表できるように準備すること。 ・第 3 回授業に研究計画書を提出すること。 ・第 10 回から 14 回授業において発表者はレジュメを作成し、他の学生はコメントをレポートを用意すること。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	826	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317827
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	研究テーマについて文献収集や抄読、先行研究の確認、課題解決に向けての考察を行い 卒業研究に取り組む。併せて、教員としての資質（協調性や指導力）を高め進路選択ができる。		
授業概要	学校全体に関わる教育問題や健康課題を主とした教育学研究の専門的なゼミナールである。 先行研究に関する文献等の抄読・グループ討議と受講者の研究レポート・レジュメの検討を 中心にすすめていく。		
授業計画	第 01 回. オリエンテーション 第 02 回.　課題意識（研究動機）の表明 とテーマ確認 第 03 回.　研究計画の検討 第 04 回. 研究計画の構想と発表 第 05 回.　研究方法の具体案作成と発表 第 06 回.　研究方法の発表 第 07 回.　文献・資料選択と研究の関連性 第 08 回.　文献・資料選択と研究の関連性 第 09 回.　文献抄読と資料の発表 第 10 回.　先行研究に関する文献抄読Ⅰ 第 11 回.　先行研究に関する文献抄読Ⅱ 第 12 回. 先行研究の要点集約 第 13 回. 研究成果のまとめ 第 14 回. 研究成果の発表Ⅰ 第 15 回. 研究成果の発表Ⅱ		
授業方法	グループ演習や討議を中心として進める。		
アクティブラーニングの視点	グループワーク・ペアトークの導入とワークシートの作成・活用によるシェアリングを重視する。		
授業外学習	受講生が関心のある研究テーマに関わる文献を熟読し、抄読会に備えて要点を自主的にまとめておく。		
教科書	適宜、資料を配付する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業の意欲・態度（30%）および授業の発表等（70%）により総合的に評価する。 自分の研究テーマに応じた課題検討において積極的な発言や活発な討議態度を より高く評価する。 課題については、確認後に返却する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教諭経験がある者が、その経験を活かして今日的な教育課題に応じた専門演習の指導をする。		

No.	827	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317894
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて教師としての専門性を磨き、必要な知識や技能を獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が高めることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身につけることができる。 ・プレゼンテーション、集団討論などを通してコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業概要	・3 年次の教育学専門演習をさらに発展させ、自分のキャリア形成を目指して、計画的に学習を進める。 ・教育現場で生起している課題や授業力向上に関する自分の課題を持つ。 ・各自の課題解決のために、書物などで調べるとともにフィールドワークなどの調査活動を行う。 ・調査結果を文書にまとめるとともに、相互交流する機会を持ち内容の深化を図る。 ・進路に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（進路の確認、授業計画の決定） 第２回　テーマ１　卒業研究テーマの確認（設定理由の交流、研究の方法の確認） 第３回　テーマ１　個別課題追究方法の話し合い（ペアで問題点を指摘し合う） 第４回　テーマ１　論文の書き方(1)　卒業論文の手引き参照 第５回　テーマ１　卒業研究計画書の発表と討議・改訂 第６回　テーマ１　文献・資料収集と整理 第７回　テーマ２　先行論文の分析及び観点整理　採用試験に向けた課題確認と今後の見通しを作成 第８回　テーマ２　論文の書き方(2)　課外学習の必要性の確認 第９回　テーマ２　調査内容の整理と交流(1) 第 10 回　テーマ２調査内容の整理と交流(2) 第 11 回　テーマ２調査内容の整理と交流(3) 第 12 回　中間発表(1)　課外学習の必要性の確認 第 13 回　中間発表(2)　課外学習の必要性の確認 第 14 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(1) 第 15 回　進捗状況の確認と課題整理及び進路指導(2)		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。個別相談実施		
アクティブラーニングの視点	・協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッションやプレゼン報告会などを行う。 ・卒業論文と教員採用試験、就職試験に向けた計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、卒業論文については、最終のデータ収集を行わせる。		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメとパワーポイントにまとめ提出 ・教員採用試験に向けた自己の課題計画とそれに基づく自主学習		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%　内容面として、他者の発表に対する関わり、自己研鑽の度合いを診る。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び教育行政での経験がある者が、その経験を活かして、卒業論文、教員採用試験、就職試験などを指導する。		

No.	828	科目コード	59822
科目名	教育学専門演習３	授業コード	9317961
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 前期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・子どもの発達理解に基づくフィールド研究および観察研究におけるデータ収集と分析能力がつく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得することを目的とすると同時に、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。１，２年次で学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行なわれる。自ら探求したい研究テーマに対する具体的な研究計画にそった研究を実践することにより、卒業研究の完成をめざす。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　春季課題の発表① 第３回　春季課題の発表② 第４回　研究計画の策定① 第５回　研究計画の策定② 第６回　調査研究の実施① 第７回　調査研究の実施② 第８回　調査研究の実施③ 第９回　調査研究の実施④ 第１０回　調査研究の実施⑤ 第１１回　調査研究発表① 第１２回　調査研究発表② 第１３回　調査研究発表③ 第１４回　調査研究発表④ 第１５回　まとめと卒業研究計画		
授業方法	文献購読・調査（観察・実験）・討議・保育や幼児教育現場における実技・実演発表などによって行なう。		
アクティブラーニングの視点	本講では、自らの研究計画に基づき、講義内で各自が発表し、お互いの意見交流を通して、論究を深める場とする。したがって、討議を重ねる中で、批判的視点、向上的意見の提案など力量を身につけることをめざす。		
授業外学習	授業外学習 ・文献調べ、読み込みなどを行ない、研究テーマ設定について調査すること。 ・研究計画書を提出すること。 ・研究計画書に添った調査の実施。 ・研究発表に対してレポートを提出し、また、発表者はレジュメを作成すること。 ・添削を受けて改訂したレポートを提出すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業への参加度（討論・研究発表・実技発表）を 70%、課題の提出（レポート）を 30%として評価する。事前学習と積極的な参加（授業内での発言）については、より高い評価を行なう。課題は、評価後に返却する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	絵本専門士として、絵本の読み聞かせ経験をもつ教員が、就学前児の保育教材研究を指導する。また、臨床発達心理士として、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた保育、保護者に対する子育て支援について講義する。		

No.	829	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326012
教員名	安井　茂喜		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・課題を明確にして探求的に学ぶ姿勢と方法を身に付けることができる。 ・卒業論文を記述し報告することができる。 ・進路を確定できるように計画的に取り組むことができる。		
授業概要	4 年間の学修成果をまとめる授業として、卒業研究のための調査内容の精査、検討を経て、問題解決を図ることを中心とする。さらに、研究結果を論文にまとめると共に、相互交流の機会を持ち内容の深化を図る。合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第 01 回　オリエンテーション（進路の確認、講読テーマの決定） 第 02 回　テーマ１講読_1／卒業論文のテーマ及び調査内容の確認と交流 第 03 回　テーマ１講読_2／調査結果の整理、及び論文内容の交流(1) 第 04 回　テーマ１講読_3／調査結果の整理、及び論文内容の交流(2) 第 05 回　テーマ２講読_1／調査結果の整理、及び論文内容の交流(3) 第 06 回　テーマ２講読_2／相互の卒業論文分析、交流 第 07 回　テーマ２講読_3／卒業論文中間発表準備 第 08 回　卒業論文中間発表(1) 第 09 回　卒業論文中間発表(2) 第 10 回　卒業論文の推敲(1) 第 11 回　卒業論文の推敲(2) 第 12 回　卒業研究発表会準備(1) 第 13 回　卒業研究発表会準備(2) 第 14 回　卒業研究発表会準備(3) 第 15 回　専門演習のまとめと 4 年間の学修の交流		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等)、グループ・ディスカッション、ディベート、 マンダラート、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメにまとめ提出 ・卒業論文の作成と研究発表会準備		
教科書	適宜資料を配布		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および教育行政での経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる		

No.	830	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326079
教員名	網代　典子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・課題を明確にして探究的に学ぶ姿勢と方法を身に付ける ・調査、研究を通じて卒業論文を記述し報告することができる。 ・自己の適正にあった進路を確定できるよう計画的に取り組むことができる。		
授業概要	4 年間の学修の成果をまとめる授業として、卒業研究のための調査内容の精査、検討を経て、問題解決を図ることを中心とする。合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究論文調査１／卒業論文のテーマ及び調査内容の確認 第３回　卒業研究論文調査２／調査結果の整理① 第４回　卒業研究論文調査３／調査結果の整理② 第５回　卒業研究論文調査４／調査結果の整理③ 第６回　卒業研究作成１ 第７回　卒業研究作成２ 第８回　卒業研究作成３ 第９回　卒業研究作成４ 第 10 回　卒業論文　中間発表 第 11 回　卒業研究作成５ 第 12 回　卒業研究発表会準備① 第 13 回　卒業研究発表会準備② 第 14 回　卒業研究発表会準備③ 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献、研究論文講読・調査・研究協議・事例検討・研究論文作成・発表		
アクティブラーニングの視点	・研究協議、事例検討、研究及び調査内容の発表などを行う。		
授業外学習	・研究テーマに関連した調査、文献研究 ・発表資料の作成 ・教員採用試験に向けた学習		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	高等学校教諭及び公立高等学校　校長、教育行政の経験や知見を活かし、教育現場の現状を反映した事例検討などを多く取り入れ、研究指導にあたる。		

No.	831	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326146
教員名	村上　佳司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	これまでの研究調査を踏まえ，論文執筆をすすめ研究論文の完成を目指す.		
授業概要	これまでの研究調査を更にすすめ，自らの研究課題の考察を深める．また，各自の研究課題を発表・報告し，全体として更に討議・検討を深め，各自の研究論文執筆の指導を行う.		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究進捗状況の確認と課題抽出１ 第３回　研究進捗状況の確認と課題抽出２ 第４回　研究結果についての考察，中間発表の準備１ 第５回　研究結果についての考察，中間発表の準備２ 第６回　中間発表 第７回　課題の確認と今後の計画作成 第８回　論文作成と添削指導１ 第９回　論文作成と添削指導２ 第 10 回　論文作成と添削指導３ 第 11 回　論文作成と添削指導４ 第 12 回　論文作成と添削指導５ 第 13 回　卒業研究論文発表会の準備１ 第 14 回　卒業研究論文発表会の準備２ 第 15 回　卒業研究論文発表会と評価		
授業方法	研究論文作成について，発表・報告・討議をすすめ，かつ個別指導を行う.		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク），振り返りシートの活用など		
授業外学習	研究テーマに沿った調査の実践		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて，適宜資料を配布		
評価方法	研究論文作成の発表・報告・討議 50%、授業への参加度 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が，その経験を活かして研究指導にあたる.		

No.	832	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326213
教員名	大畑　昌己		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	研究論文の完成をめざし、これまでの先行研究調査をふまえて、各自具体的に論文執筆をすすめる。		
授業概要	これまでの先行研究調査をさらにすすめ、、自らの研究課題の考察を深めるべく指導する。また、各自の研究課題を発表・報告し、全体としてのさらなる討議・検討をすすめ、各自の研究論文執筆の個別指導を行う。		
授業計画	第１回　休暇中の進捗状況の確認 第２回　中間発表の準備 第３回　中間発表の準備 第４回　中間発表 第５回　課題の確認と今後の計画作成 第６回　資料の体裁確認 第７回　提出資料の添削 第８回　提出資料の添削 第９回　提出資料の添削 第 10 回　提出資料の添削 第 11 回　提出資料の添削 第 12 回　要旨のまとめ 第 13 回　卒業研究論文発表会の準備 第 14 回　卒業研究論文発表会の準備 第 15 回　卒業研究論文発表会と評価		
授業方法	研究論文作成について、発表・報告・討議をすすめ、かつ個別指導をおこなう。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク）・フィールドワーク、振り返りｼｰﾄの活用、必要文献の輪読など		
授業外学習	研究テーマに沿った調査と執筆を行う。口頭発表の準備と最終論文提出のまとめを行う。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて、適宜資料を配布する。		
評価方法	研究論文作成の発表・報告・討議 50%、授業への参加度 50% 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	中学校･高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、教育関係のフィールドワークの概要について解説し、並びに実践指導を行う。		

No.	833	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326280
教員名	八木　利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	各自の研究テーマについて文献収集や抄読、先行研究の確認、課題解決に向けての考察を行い卒業研究に取り組む。また、研究成果の発表を通して、教員としての専門性（情報活用力）と資質（コミュニケーション力、プレゼンテーション力）を高め進路決定できる。		
授業概要	学校全体に関わる教育問題や健康課題を主とした教育学研究の専門的なゼミナールである。 自分の研究テーマに関する発表と受講者の研究レポート・レジュメの作成を中心にすすめていく。		
授業計画	第 01 回：オリエンテーション 第 02 回：研究方法の検討Ⅰ 第 03 回：研究方法の検討Ⅱ 第 04 回：研究成果のまとめ① 第 05 回：研究成果のまとめ② 第 06 回：研究成果の発表Ⅰ 第 07 回：研究成果の発表Ⅱ 第 08 回：卒業研究の作成① 第 09 回：卒業研究の作成② 第 10 回：卒業研究の報告 第 11 回：卒業研究の発表 第 12 回：卒業研究の省察Ⅰ 第 13 回：卒業研究の省察Ⅱ 第 14 回：大学生活と進路Ⅰ 第 15 回：大学生活と進路Ⅱ		
授業方法	グループ演習や討議を中心として進める。		
アクティブラーニングの視点	GP 演習を中心に行い研究活動の進捗シートの作成と発表（報告）などを通して、グループセッションによる振り返りの時間を重視する。		
授業外学習	研究方法に関わるアンケートや文献調査など自主的にまとめて改善点をみつけておく。		
教科書	適宜、資料を配付する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業の意欲・態度（30%）および授業の発表等（70%）により総合的に評価する。 自分の研究テーマに応じた課題検討において積極的な発言や活発な討議態度を より高く評価する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における長期の養護教諭経験がある者が、その経験を活かして、今日的な教育課題に関する研究指導を行う。		

No.	834	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326292
教員名	山本　弥栄子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・子どもの発達理解に基づくフィールド研究および観察研究におけるデータ収集と分析能力がつく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得することを目的とすると同時に、4 年間の学びの集大成である卒業研究作成に向けた準備をすることを目的とする。１，２年次で学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行なわれる。自ら探求したい研究テーマに対する具体的な研究計画にそった研究を実践することにより、卒業研究の完成をめざす。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　調査研究の分析① 第３回　調査研究の分析② 第４回　調査研究の分析③ 第５回　調査研究の分析④ 第６回　考察論考の吟味① 第７回　考察論考の吟味② 第８回　卒業研究の執筆開始 第９回　卒業研究の執筆 第１０回　卒業研究の完成 第１１回　研究発表に向けて① 第１２回　研究発表に向けて② 第１３回　研究発表に向けて③ 第１４回　研究発表に向けて④ 第１５回　まとめ		
授業方法	文献購読・調査（観察・実験）・討議・保育や幼児教育現場における実技・実演発表などによって行なう。		
アクティブラーニングの視点	本講では、自らの研究計画に基づき、講義内で各自が発表し、お互いの意見交流を通して、論究を深める場とする。したがって、討議を重ねる中で、批判的視点、向上的意見の提案など力量を身につけることをめざす。		
授業外学習	・夏季休業中の課題を実施しておくこと。 ・研究計画書を提出すること。 ・研究計画書に添った調査の実施。 ・研究発表に対してレポートを提出し、また、発表者はレジュメを作成すること。 ・添削を受けて改訂したレポートを提出すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業への参加度（討論・研究発表・実技発表）を 70%、課題の提出（レポート）を 30%として評価する。事前学習と積極的な参加（授業内での発言）については、より高い評価を行なう。課題は、評価後に返却する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	絵本専門士として、絵本の読み聞かせ経験をもつ教員が、就学前児の保育教材研究を指導する。また、臨床発達心理士として、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた保育、保護者に対する子育て支援について講義する。		

No.	835	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326347
教員名	名須川　知子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	テーマに沿って、自らの調査により、論理的な文章を作成することができる。 文章として首尾一貫したものとなるように、論文の構築ができる。 わかりやすく他者に内容を伝えることができる。		
授業概要	主に、自分のテーマに沿った調査内容を整理・考察して、文章にまとめるようにする。各章について、グループでディスカッションして、検討をすすめながら整理する。最終的に論文としてまとめた後、的確な内容を伝える工夫をして発表する。		
授業計画	第１回　テーマの概要説明 第２回　第１章の概要発表と討論（序論） 第３回　再２章の概要発表と討論（研究目的） 第４回　第３章の概要発表と討論（本論） 第５回　第４章の概要と討論（本論） 第６回　第５章の概要と討論（結論と今後の課題） 第７回　各自の研究発表 第８回　自分の研究について意見表明 第９回　各研究についての討議 第 10 回　論文の発表 第 11 回　論文の発表 第 12 回　論文の発表 第 13 回　研究内容のプレゼン 第 14 回　研究内容報告での討議 第 15 回　課題に対する考察		
授業方法	自分のテーマに沿った研究内容を整理すると共に、グループ内で各課題について話し合う。		
アクティブラーニングの視点	自らの研究論文作成とグループでのディスカッションを中心とする。		
授業外学習	テーマ設定、先行研究の精査、研究計画、研究資料の発掘、調査のまとめ、論文作成等時間外での実施が中心となる。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	参加態度３０％、論文作成７０％		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	幼稚園長、子育て支援施設長等の実践経験と論文指導経験を合わせて理論と実践の往還になるような研究論文作成を指導したい。		

No.	836	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326414
教員名	栗岡　住子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力あｙ調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。		
授業概要	これまでの学びをさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には。卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究進捗状況の発表 第３回　卒業研究指導 第４回　卒業研究指導 第５回　卒業研究指導 第６回　卒業研究指導 第７回　後期中間報告会 第８回　卒業研究指導 第９回　卒業研究指導 第 10 回　卒業研究指導 第 12 回　卒業研究指導 第 13 回　卒業研究要旨の作成・発表 第 14 回　卒業研究発表会の準備 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表によって行う。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	・発表用レジュメの作成（人数分） ・卒業研究計画に沿った調査・分析の実施 ・卒業研究原稿の作成 ・卒業研究要旨の作成		
教科書	なし。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校・企業・医療機関等の業務に携わった経験を持つ教員が、研究について指導する。		

No.	837	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326476
教員名	酒井　雅史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．　卒業研究が完成する。 ２．　１．の過程で専門分野についての知識がさらに深まり、専門的な文章を読む力、書く力、討議や発表の力が身につく。 ３．　卒業後の４月から自信をもって教壇に立てるよう現場経験を積む中で、学級経営、授業、児童理解の力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１・２、4 年前期の専門演習３をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。 また、毎週インターンシップやボランティアに行き、そこでの経験をシェアする中で、卒業後の独り立ちに向けて自分に足りない力を増やし、様々な場面への対応を学んでいく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　進路の確認 第２回＆第３回　文献発表１　研究計画 第４回＆第５回　文献発表２　論文の書き方 第６回＆第７回　文献発表３　卒業研究中間発表１ 第８回＆第９回　文献発表４　分析の仕方 第 10 回＆第 11 回　卒業研究中間発表２ 第 12 回＆第 13 回　論文添削指導 第 14 回　卒業研究発表会準備 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	毎週必ず何か一つは発表を担当し、各自が持ち寄った課題を全員で討論することが授業のメインとなる。 また、発表内容は日頃の自分の疑問等を解決するために役立つテーマを自分で選ぶことになる。		
授業外学習	１．発表者として：２週に１本の関連文献を読み、内容をレジュメにまとめ、隔週でレジュメ提出、文献発表のための準備をすること。 ２．ゼミ参加者として：毎回の文献発表と間発表に対してコメントレポートを提出すること。 ３．卒業研究発表会のための準備をすること。 ４．レポート・レジュメ提出時には、必ず事前に他のゼミメンバーの下読みを受けること。		
教科書	教育心理学エッセンシャルズ（西村純一・井森澄江編、ナカニシヤ出版）		
参考書	山内光哉編『発達心理学上』ナカニシヤ出版		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及びレポートで 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	838	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326481
教員名	柴　恭史		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	卒業研究を完成させることができる。 正確な文献等を探し、それらの知見をふまえて論理的な文章を作成することができる。		
授業概要	卒業研究の完成に向けて、調査を行うとともに、原稿執筆を進める。 随時調査内容・対象に関する指導および卒業研究の添削を行う。		
授業計画	第１回　卒業研究の草稿執筆 第２回　卒業研究の草稿執筆 第３回　追加調査の検討 第４回　追加調査の実施／卒業研究原稿の検討 第５回　追加調査の実施／卒業研究原稿の検討 第６回　卒業研究原稿の執筆 第７回　卒業研究原稿の執筆 第８回　卒業研究原稿の執筆 第９回　卒業研究原稿の執筆 第 10 回　卒業研究の最終校正 第 11 回　卒業研究の最終校正 第 12 回　卒業研究の最終校正 第 13 回　査読に対する対応 第 14 回　査読に対する対応・卒業研究発表要旨の作成 第 15 回　卒業研究発表の準備		
授業方法	討議および文章作成・添削を中心として進める。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究について教育学専門演習３で行った調査をもとに、論文として文章化し、内容をブラッシュアップする。 ゼミメンバーそれぞれの研究テーマについて、相互に意見・質問を述べるディスカッションを通じて、質の向上を図る。		
授業外学習	授業外においても調査研究を独自に進めるものとする。		
教科書	資料を適宜配布する。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	授業における態度等 50%、成果物 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	839	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326482
教員名	長谷川　陽一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１　特別支援教育を軸とした将来のキャリア形成を見すえて、必要な知識やスキルを獲得する。 ２　文献研究、情報収集、研究協議等を通じて、他者理解、自己理解を深める。 ３　グループ協議、プレゼンテーション等を通じて、コミュニケーション力、発信力を高める。 ４　実践的な研究テーマに取り組み、卒業研究を完成させる。		
授業概要	・特別支援教育等をテーマとする文献研究、情報収集により研究主題につながる知見を得る。 ・事例検討、グループ協議、フィールドワーク等による主体的、実践的な研究を行う。 ・研究主題を定め、プレゼンテーション等により発信、共有する。 ・研究主題について小論文を作成し、卒業研究論文の基盤とする。 ・卒業研究の内容・方法等を定める。		
授業計画	第　1回　オリエンテーション 第　2回　卒業研究論文調査１／グループ協議１ 第　3回　卒業研究論文調査２／グループ協議２ 第　4回　卒業研究論文調査３／グループ協議３ 第　5回　事例検討／卒業研究主題の設定及び研究論文作成１ 第　6回　事例検討／卒業研究主題の設定及び研究論文作成２ 第　7回　卒業研究作成３ 第　8回　卒業研究作成４ 第　9回　卒業研究作成５ 第 10 回　卒業研究作成６ 第 11 回　特別支援教育に係るフィールドワーク１ 第 12 回　卒業研究論文　完成 第 13 回　卒業研究論文　プレゼンテーション１ 第 14 回　卒業研究論文　プレゼンテーション２ 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献、研究論文講読・調査・事例等の研究協議・研究論文作成・発表		
アクティブラーニングの視点	・研究協議や調査内容の発表などを行う。 ・実践的な研究テーマを設定し、他者と協議や事例検討等を通じて主体的な探求を行う。		
授業外学習	・授業における課題レポート作成 ・教員採用・就職に向けた学習 ・文献研究		
教科書	なし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	研究協議等への参加度 30%、課題（レポート）提出 20%、研究論文作成及び発表 50% 研究協議等への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。提出された課題（レポート）は評価後、適宜返却する。研究論文作成及び発表は、論文の内容及び発表の方法、明瞭さ、的確性を評価する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政、高等学校教諭、特別支援学校 校長としての経験や知見をふまえ、教育現場の現況を反映した事例検討や研究協議等、実践的研究を基盤に、授業を計画・実施する。		

No.	840	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326483
教員名	葉山　貴美子		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	1．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 2．文献研究能力や調査実施能力が身につく。 3．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく。		
授業概要	この授業は、卒業後の進路を見据えた知識やスキルを獲得すること、4 年間の学びの集大成である卒業研究を完成させることを目的とする。これまで学んだことをもとに、自己の進路とも関わって自らの専門性を発達させるための科目であり、授業は少人数のゼミナール形式で行われる。 4 年次後期は、調査結果のまとめや考察、子ども理解に基づくさらなる教材開発や保育技術の向上について検討し、卒業研究をまとめる。3 年生との交流、各自の進路指導にかかわる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　進捗状況の確認と研究計画の修正、進路等の確認 第３回　調査結果の分析と結果の考察、共同制作等の実践についての考察 第４回　卒業研究中間発表準備 第５回　卒業研究中間発表 第６回　課題の検討 第７回　卒業論文作成と添削指導① 第８回　卒業論文作成と添削指導② 第９回　卒業論文作成と添削指導③ 第 10 回　ゼミ内発表会と討議 第 11 回　卒業論文の完成 第 12 回　卒業研究発表会準備①発表要旨完成 第 13 回　卒業研究発表会準備②査読者コメントへの回答 第 14 回　卒業研究発表会準備③PowerPoint 資料作成 第 15 回　専門演習のまとめと４年間のふりかえり		
授業方法	文献購読・教材研究・発表・討議等。添削指導、個別相談も随時実施する。		
アクティブラーニングの視点	研究分野に関する発表、グループ討議、レポート作成など		
授業外学習	発表時にはレジュメを事前に作成して提出すること 研究計画に基づき、自主的に研究を進めること 卒業論文の作成、査読コメントに対する回答作成、卒業研究発表会要旨・PowerPoint 作成など時間的余裕をもって取り組むこと		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	授業・活動への参加度 50%　提出物 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校でのキャリア支援の経験、子どもや保護者、保育者や教員を対象とする相談活動の経験を生かし、卒業研究や保育教材の開発等に助言を行う。		

No.	841	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326484
教員名	柴田　真裕		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	1)自分のキャリア形成を見据え、必要な知識や技能を習得できる。 2)文献検索能力や調査実施の方法を習得できる。 3)討論や発表の力を高める事ができる。		
授業概要	3 年次までの学びを発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には。卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究進捗状況の発表 第３回　卒業研究指導 第４回　卒業研究指導 第５回　卒業研究指導 第６回　卒業研究指導 第７回　後期中間報告会 第８回　卒業研究指導 第９回　卒業研究指導 第 10 回　卒業研究指導 第 12 回　卒業研究指導 第 13 回　卒業研究要旨の作成・発表 第 14 回　卒業研究発表会の準備 第 15 回　卒業研究発表会とまとめ		
授業方法	文献検索・調査・討論・実践によって実施する。 また、基本的には資料の配布等は行わず、ペーパーレスで授業をすすめるため、PC やタブレットの持ち込みを推奨します。		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	・発表用レジュメの作成（人数分） ・卒業研究計画に沿った調査・分析の実施 ・卒業研究原稿の作成 ・卒業研究要旨の作成		
教科書	特になし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	授業への参加度（５０％） 発表や課題、及びレポート等の提出物（５０％）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校・企業等の業務に携わった経験を持つ教員が、研究について指導する。		

No.	842	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326485
教員名	守谷　富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	社会科教育学、教師教育学に関わる研究テーマを設定し、学術的に研究する ・１、２、３年生で学んだ基礎分野をもとに、自己の進路と関わって専門性を高める科目である。 ・授業は少人数の演習形式で行われる。 ・卒業研究の核となる研究を行なう。		
授業計画	第 1 回　オリエンテーション：「わたしの研究は、社会の何を、どのように、なぜしたいのか」 第 2 回　発表①・議論・リフレクション：先行研究との議論 第 3 回　発表②・議論・リフレクション：先行研究との議論 第 4 回　発表③・議論・リフレクション：先行研究との議論 第 5 回　発表④・議論・リフレクション：研究の示唆 第 6 回　発表⑤・議論・リフレクション：研究の示唆 第 7 回　発表⑥・議論・リフレクション：研究の示唆 第 8 回　発表⑦・議論・リフレクション：研究成果の意義と課題 第 9 回　発表⑧・議論・リフレクション：研究成果の意義と課題 第 10 回　発表⑨・議論・リフレクション：研究成果の意義と課題 第 11 回　発表⑩・議論・リフレクション：論文の執筆と改稿 第 12 回　発表⑪・議論・リフレクション：論文の執筆と改稿 第 13 回　発表⑫・議論・リフレクション：論文の執筆と改稿 第 14 回　決意表明：「わたしは市民として、社会でどのように、なぜそのように生きるのか」 第 15 回　まとめ		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ほとんどの授業で、教員・ゼミ員で意見交流し、知識を構成する学習を取り入れる。		
授業外学習	１．発表者：研究テーマに関する文献・論文を探し，それをレジュメに要約・考察して発表する。 ２．テーマについての文献研究 ３．アカデミックスキル、パソコンスキルの習得		
教科書	授業中に必要に応じて指示する		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加度 50%、発表 50%		
既修条件	２年次終了時で１年半以上在学し（編入学生は除く）、必ず４０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が１年半の人は３０単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済み。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における勤務経験や国際協力業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かし、人間教育を行う。		

No.	843	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326486
教員名	藤原　昌樹		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて専門性を磨き、必要な知識やスキルを獲得できる。 ２．文献研究能力、調査実施能力、プレゼンテーション能力が高まる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討論や発表の力が高まる。 ４．作品への発想や構想力、制作技能が高まる。		
授業概要	３年次の教育学専門演習をさらに発展させ、４年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、制作や発表の指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習に合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回：後期オリエンテーション 第２回：進路の確認と卒業研究テーマの確認 第３回：卒業論文作成 第４回：卒業論文作成 第５回：卒業論文作成 第６回：卒業論文発表 第７回：卒業論文発表 第８回：卒業論文の推敲と添削 第９回：卒業論文の推敲と添削 第１０回：卒業論文提出及び作品展示準備 第１１回：卒業論文提出及び作品展示準備 第１２回：卒業研究発表会準備 第１３回：卒業研究発表会準備 第１４回：卒業研究発表会準備 第１５回：卒業研究発表会の評価		
授業方法	造形活動演習、鑑賞活動演習、作品研究、文献調査、グループ協議、発表などを行う。		
アクティブラーニングの視点	ゼミ内での協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、作品や意見発表などで学生間での評価を積極的に行う。(その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的に ICT を活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。)		
授業外学習	卒業論文や作品制作に向けた準備。研究発表に向けた準備。		
教科書	なし		
参考書	なし		
評価方法	各自の研究、作品制作への取組姿勢などから評価します。 授業での取組（５０％）研究内容（５０％）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

No.	844	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326487
教員名	二瓶　弘行		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・課題を明確にして探究的に学ぶ姿勢と方法を身に付け、協同的に研究に取り組むことができる。 ・調査、研究を通して卒業論文を記述し、報告することができる。 ・自らの適正に合った進路を確定できるように計画的に取り組むことができる。		
授業概要	4 年間の学修成果をまとめる授業として、卒業研究のための調査内容の精査、検討を経て、問題解決を図ることを中心とする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（進路の確認、講読テーマの決定、調査方法の確認） 第２回　テーマ１講読_1／卒業論文のテーマ及び調査内容の確認と交流に向けた留意事項 第３回　テーマ１講読_2／調査結果の整理、及び論文内容の交流(1) 第４回　テーマ１講読_3／調査結果の整理、及び論文内容の交流(2) 第５回　テーマ２講読_1／調査結果の整理、及び論文内容の交流(3) 第６回　テーマ２講読_2／相互の卒業論文分析、交流 第７回　テーマ２講読_3／卒業論文中間発表準備 第８回　卒業論文中間発表(1) 第９回　卒業論文中間発表(2) 第 10 回　卒業論文の推敲(1) 第 11 回　卒業論文の推敲(2) 第 12 回　卒業研究発表会準備(1) 第 13 回　卒業研究発表会準備(2) 第 14 回　卒業研究発表会準備(3) 第 15 回　専門演習のまとめと 4 年間の学修の交流		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。　個別相談実施		
アクティブラーニングの視点	自らの課題設定と、主体的な課題追及活動を重視する。		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメにまとめ提出 ・卒業論文の作成と査読コメントに対する回答作成 ・卒業研究発表会準備		
教科書	なし。		
参考書	適宜、指示する。		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%　内容面として、他の発表に対する関わり、自己研鑽の度合いを診る。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

No.	845	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326543
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得する。 ２．文献研究能力や調査実施能力を身につける。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力が身につく ４．卒業論文を完成させ、よりテーマを深めた研究発表会に向けての準備を進めることができる。 ５．グローバル社会の実情と異文化を巡る教育の現状と問題点を多角的な視点から考察し、実践できる有力な人材の育成を目指す。		
授業概要	この演習では、教育学専門演習１・２・3 を踏まえて、卒業論文に向けた研究計画を策定し、卒業研究の完成に向けて、調査を行うとともに、原稿執筆を進める。 各自の学習計画に基づいて自主学習を進めるものとする。また進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第　1 回　オリエンテーション 第　2 回　卒業論文のテーマとこれまでの調査内容の確認 第　3 回　データ解析と図表作成 第　4 回　研究進捗状況の確認と課題抽出（状況に応じて追加調査の実施） 第　5 回　研究進捗状況の確認と課題抽出（状況に応じて追加調査の実施） 第　6 回　卒業研究原稿の執筆 第　7 回　卒業研究原稿の執筆 第　8 回　中間発表とまとめ 第　9 回　卒業研究原稿の執筆 第 10 回　卒業研究の最終校正 第 11 回　卒業研究の最終校正 第 12 回　卒業研究の最終校正 第 13 回　卒業研究会発表準備 第 14 回　卒業研究会発表準備 第 15 回　まとめ		
授業方法	ゼミ生が興味関心を持ったテーマに関する文献購読・調査・討論・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自が主体的に設定したテーマの研究を深め、ゼミメンバーでの協同学習により意見を出し合い、自身の卒業論文を改善していく。また、学内にとどまらずフィールドワーク調査やボランティア活動への参加も積極的に行う。		
授業外学習	各自が設定したテーマに関する文献購読、データ収集、卒業論文の執筆活動を進め、その成果を常に発表するための準備を進める。同時に日本で暮らす多様な文化的背景を持つ人々、移民の歴史や難民問題に関連するニュースや記事に目を通すこと。また、現代世界の実情を十分に把握し、視野を広げ、積極的にアプローチすることを期待する。		
教科書	その都度指示する。		
参考書	必要に応じて、授業中に指示する。		
評価方法	積極的な授業参加、各プレゼンテーションの内容、卒業論文・卒業研究発表会を総合的に評価する。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	846	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326548
教員名	舞　寿之		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・各自のテーマを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　データー解析と図表作成（１） 第３回　データー解析と図表作成（２） 第４回　研究進捗状況の確認と課題抽出１（状況に応じて追加実験の指示） 第５回　研究進捗状況の確認と課題抽出２（状況に応じて追加実験の指示） 第６回　研究結果についての考察１ 第７回　研究結果についての考察２ 第８回　論文作成と添削指導（１） 第９回　論文作成と添削指導（２） 第 10 回　論文作成と添削指導（３） 第 11 回　論文作成と添削指導（４） 第 12 回　協力現場へ結果報告（レポートおよび個表の作成） 第 13 回　卒業研究発表会準備（１） 第 14 回　卒業研究発表会準備（２） 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	文献検索、調査、実験、データ収集、データ解析、図表作成、論文作成、発表、研究討議等		
授業外学習	・データー収集のための事前準備を行う。 （必要書類・実験器具の準備と管理） ・データー入力・管理・解析処理など速やかに行う。 ・テーマに関連する文献研究を行う。 以上のことを行い、授業において毎回その成果を発表すること。		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出で 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、卒業論文、進路決定等の指導をする。		

No.	847	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326574
教員名	植野　雄司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・参考文献を吟味し、研究のための資料として的確に使うことができる。 ・論理展開や全体構成について検討することができ、論文を正確な文章で書くことができる。 ・十分に完成した卒業論文を作成することができる。		
授業概要	この演習では、卒業論文の完成と要旨の作成、口頭発表のための指導を行う。各自が作成した論文の下書き原稿をもとに、研究論文としての形式面での確認に始まり、序論において目的や問題設定、背景説明が適切に記述されているか確認し、論文全体の構成や論理展開に問題がないか、結論部の内容が適切であるかなどの検討ができるよう、順次指導する。また、卒業論文の要旨作成や口頭発表について指導するほか、適宜、プロジェクターで提示した各自の原稿を点検する作業を通して、文章表現がわかりやすく正確であるか等、論文執筆について具体的に助言し、各自が学修目標を達成できるように指導する。		
授業計画	１．卒業論文完成までの作業手順についての説明と各自の作業計画の作成 ２．論文を構成する各部分の形式確認 ３．序論内容の検討（グループ１） ４．序論内容の検討（グループ２） ５．論文の構成と論理展開についての検討（グループ１） ６．論文の構成と論理展開についての検討（グループ２） ７．結論部の内容についての検討（グループ１） ８．結論部の内容についての検討（グループ２） ９．注釈や図表についての検討 10．引用や参考資料の使い方についての検討 11．文章表現の校正（グループ１） 12．文章表現の校正（グループ２） 13．卒論要旨の作成についての説明 14．各自の卒論要旨についての検討 15．口頭発表の準備と授業のまとめ		
授業方法	講義および学生による発表とディスカッション		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク）、各自のテーマや問題意識による自立的学習と研究など		
授業外学習	毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察等を各自がノートにまとめる（1 時間程度）ほか、各自のテーマに関する文献を収集し、研究に必要な文献を精読して内容や自らの考察をまとめる（8 時間程度）。また、授業の進行段階に応じた学習内容については適時、授業で指示する。		
教科書	指定なし、適時、資料を配布		
参考書	授業においても適宜紹介するが、基本的には学生自身が準備する。		
評価方法	授業への参加度（１０％）、発表（１５％）、ディスカッション（１５％）、提出課題（６０％） 授業への参加 度については、小テストや発言で評価する。発言は積極的かつ的確であることを評価す る。小テストは採点後、講評によるフィードバックを行う。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	848	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326610
教員名	山口　聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えた準備を整えることができる。 ・研究調査や論文の執筆、プレゼンテーションの力が身につく。 ・研究テーマについての専門性を深め、自分の意見を理論立てて述べることができる。 ・卒業論文を完成させ、よりテーマを深めた研究発表会に向けての準備を進めることができる。		
授業概要	自己の進路とも関わって自らの専門性をより深めるための科目である。また、研究テーマの理解を深めながら卒業論文を完成させ、研究発表会で自らの研究について理論立って述べることが求められる。特に本ゼミでは教育現場全般に活かせる音楽活動の実践や活用、多様な音楽表現や教材の研究を通して、人と音楽の関わりについて探究することを目的とする。授業は少人数のゼミナール形式で行い、討議や発表を含む。各自の学習計画に基づいて自主学習を進めるものとする。		
授業計画	第１回　調査研究のデータ分析 第２回　調査研究のデータ分析 第３回　卒業論文の執筆と校正（１） 第４回　卒業論文の執筆と校正（２） 第５回　卒業論文の執筆と校正（３） 第６回　卒業論文の執筆と校正（４） 第７回　卒業論文の仕上げ（１） 第８回　卒業論文の仕上げ（２） 第９回　発表原稿・プレゼンテーション作成 第 10 回　発表原稿・プレゼンテーション作成 第 11 回　卒業論文発表リハーサル 第 12 回　発表内容，卒業論文の修正 第 13 回　卒業論文発表リハーサル 第 14 回　卒業論文発表の最終準備 第 15 回　卒業論文発表会		
授業方法	文献購読・調査・執筆・添削・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	各自が主体的に設定したテーマの研究を深め、卒業論文の完成と研究発表会に向けて計画的に準備を進められる研究計画を立てる。また、発表や討議を通して、意見を共有し、さらに多角的な意見を踏まえた上で、自らの意見を述べられる視点を持つ。		
授業外学習	・第８回までの卒業論文の完成に向けて、着実に執筆を進めること。 ・第９回以降、卒業研究発表会に向けてのレジュメやパワーポイントの作成を行うこと。		
教科書	なし		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業の参加及び取り組み：60％ 卒業論文・卒業研究発表会：40％		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、音楽の研究に関する指導を行う。		

No.	849	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326615
教員名	Warren　Decker		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023年度 後期
到達目標	With the knowledge and skills acquired in 教育学専門演習 1-3, the objectives of this seminar are to: 1. Continue to learn about foreign language education, finding a specific area of interest. 2. Continue to improve your foreign language skills. 3. Complete a graduation thesis or a creative project in English which relates to either literature or foreign language education.		
授業概要	While actually studying a foreign language (English), we will research foreign language education from a variety of perspectives.		
授業計画	The week-by-week list of activities listed below describes the English practice component of the class. Students will also be working on their graduation thesis projects. I may make changes to this schedule based on the needs of the students in this seminar. 1. Introduction, Class Overview, Icebreakers, Hip-Hop 1, Conversation 2. Hip-Hop 2, Movie 1, Conversation 3. Hip-Hop 3, Movie 2, Conversation, Student Presentations 4. Hip-Hop 4, Movie 3, Conversation, Student Presentations 5. Hip-Hop 5, Movie 4, Conversation, Student Presentations 6. Hip-Hop 6, Movie 5, Conversation, Student Presentations 7. Hip-Hop 7, Movie 6, Conversation, Student Presentations 8. Midterm Review 9. Hip-Hop 8, Movie 7, Conversation, Student Presentations 10. Hip-Hop 9, Movie 8, Conversation, Student Presentations 11. Hip-Hop 10, Movie 9, Conversation, Student Presentations 12. Hip-Hop 11, Movie 10, Conversation, Student Presentations 13. Hip-Hop 12, Movie 11, Conversation, Student Presentations 14. Hip-Hop Review, Movie 12, Conversation, Student Presentations 15. Final Review, Final Evaluation		
授業方法	This class will consist of four major components: 1. Foreign language (English) learning. 2. Learning about foreign language education through materials development, presentations, and possibly visits to local schools. 3. A self-directed autonomous language learning project. 4. Completion of a graduation thesis.		
アクティブラーニングの視点	This class will be entirely active learning. We are going to study language and language education. Students should be prepared to participate actively in each class and also study on their own outside of class. Students will determine the direction of their own study and research.		
授業外学習	Students must be prepared to study actively outside of class. This study should include not only reading and writing but also speaking and listening practice. Additionally, students need to make materials for presentations.		
教科書	No specific textbook is required. I will provide materials.		
参考書	Students will need to find materials to develop language learning resources. These materials may include books, articles, websites, YouTube videos, movies, music, and much more.		
評価方法	Active Participation 60% Writing and Other Assignments 40%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		

実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。

No.	850	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326677
教員名	中村　浩也		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　データー解析と図表作成（１） 第３回　データー解析と図表作成（２） 第４回　研究進捗状況の確認と課題抽出１（状況に応じて追加実験の指示） 第５回　研究進捗状況の確認と課題抽出２（状況に応じて追加実験の指示） 第６回　研究結果についての考察１ 第７回　研究結果についての考察２ 第８回　論文作成と添削指導（１） 第９回　論文作成と添削指導（２） 第 10 回　論文作成と添削指導（３） 第 11 回　論文作成と添削指導（４） 第 12 回　協力現場へ結果報告（レポートおよび個表の作成） 第 13 回　卒業研究発表会準備（１） 第 14 回　卒業研究発表会準備（２） 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	・データー収集のための事前準備を行う （必要書類・実験器具の準備と管理） ・データー入力・管理・解析処理など速やかに行う ・テーマに関連する文献研究を行う 以上のことを行い、授業において毎回その成果を発表すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出で 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	851	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326682
教員名	高木　悠哉		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。 ４．卒業論文作成に向けたデータ収集とその分析の方法を身に付けることができる。		
授業概要	教育学専門演習１・２・3 を踏まえて、卒業論文に向けた研究計画を策定し、実際にデータを収集、その分析方法、結果を記述していく。また、研究計画や得られたデータは演習内で発表・討論し、自身のデータを客観的な視点で改善していく。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　第１回目の収集データを踏まえ、第２回目のデータ収集の意義と位置づけの発表・討論 第３回　第２回目の収集データに対する研究計画書作成の方法 第４回　第２回目の研究計画書の発表および議論 第５回　第２回目のデータ収集の進捗状況の報告・討論 第６回　データ収集の進捗状況の報告・討論 第７回　追加データや研究計画の修正の必要性についての発表・討論 第８回　卒業論文の序論のアブストラクト作成の方法 第９回　卒業論文の考察のアブストラクト作成の方法 第１０回　第２回目の収集データの結果の発表・討論 第１１回　第１回目・第２回目の収集データによる結果のまとめの発表・討論 第１２回　卒業論文の引用文献の書き方 第１３回　卒業論文の序論・方法・結果の読み合わせ 第１４回　卒業論文の考察の読み合わせ 第１５回　卒業論文発表会		
授業方法	実験・調査・発表・討論を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	各自の収集データに基づき、協同学習により意見を出し合い、自身の卒業論文を改善していく。議論の結果は卒業論文ノートにまとめ、振り返りを行っていく。		
授業外学習	文献購読、データ収集、入力、管理、分析を行い、自身の卒業論文を執筆していく。各自の進捗は発表できるよう事前にまとめておく。		
教科書	指定なし、適宜、資料を配付する。		
参考書	高野 陽太郎・岡 隆（編集）『心理学研究法 補訂版』 有斐閣アルマ（2017/3/1） 鈴木 直人（監修）『心理学概論　【第２版】』ナカニシヤ出版；第 2 版（2014/4/20） 小塩 真司・宅 香菜子（著）『心理学の卒業研究ワークブック　発想から論文完成までの 10 ステージ』金子書房（2015/9/9） 森 敏昭・吉田 寿夫（著，編集）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房（1990/6/1） 小塩 真司・西口 利文（編集）『質問紙調査の手順（心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版（2007/11）		
評価方法	卒業論文作成ノート（30%） 各発表内容（30%） 卒業論文の序論・考察（30%） 講義内での発表に対する質問や助言（10%）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	852	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326744
教員名	灘本　雅一		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・アスリートを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデーター収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習１をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　後期オリエンテーション 第２回　データー解析と図表作成 第３回　データー解析と図表作成 第４回　研究進捗状況の確認と課題抽出・・・発表（状況に応じて追加実験の指示） 第５回　研究進捗状況の確認と課題抽出・・・発表（状況に応じて追加実験の指示） 第６回　研研究結果についての考察および文献研究・・・発表 第７回　研究結果についての考察および文献研究・・・発表 第８回　論文作成と添削指導 第９回　論文作成と添削指導 第 10 回　論文作成と添削指導 第 11 回　論文作成と添削指導 第 12 回　協力現場へ結果報告（レポートおよび個表の作成） 第 13 回　卒業研究発表会準備 第 14 回　卒業研究発表会準備 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献講読・実験・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	データの解析及び解釈をディスカッションすることで、自らの考えを説得を高めて、伝える力を身につかせる。		
授業外学習	・データー収集のための事前準備を行う （必要書類・実験器具の準備と管理） ・データー入力・管理・解析処理など速やかに行う ・テーマに関連する文献研究を行う 以上のことを行い、授業において毎回その成果を発表すること		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	平常点及び授業活動への参加で 50%、発表及び課題提出で 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	853	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326760
教員名	小餅谷　哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．テーマ設定のしかたや調査方法について身につく。 ２．共同で調査したり、討議することができる。 ３．プレゼンテーションの方法が身につく。		
授業概要	教育学専門演習 3 をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表を行う。また、それらの作業の学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　後期研究計画と進路の確認 第３回　卒業研究計進捗状況報告（１） 第４回　卒業研究計進捗状況報告（２） 第５回　卒業研究後期中間発表（１） 第６回　卒業研究後期中間発表（２） 第７回　卒業研究後期中間発表（３） 第８回　卒業研究後期中間発表（４） 第９回　卒業研究後期中間発表（５） 第 10 回　卒業研究後期中間発表（６） 第 11 回　論文添削指導（１） 第 12 回　論文添削指導（２） 第 13 回　卒業研究発表会準備（１） 第 14 回　卒業研究発表会準備（２） 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	卒業研究に向けて、各自の研究分野に関する発表や討論を受講生間で行い、一層研究を深める。		
授業外学習	・卒業研究計画に沿った調査・分析を進めること。 ・卒業研究要旨、及び原稿の作成。 ・第 2 回授業に研究計画書を提出できるように準備すること。 ・第 5 回～第 10 回の中間発表のため発表者は論文形式の原稿を用意すること。 ・第 13 回及び第 14 回は発表資料や原稿を作成し、発表練習を行う。 ・研究発表では発表者はレジュメを作成して人数分用意すること。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%、発表及びレポート 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	854	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326770
教員名	中島　英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・課題を明確にして探究的に学ぶ姿勢と方法を身に付け、協同的に研究に取り組むことができる。 ・調査、研究を通して卒業論文を記述し、報告することができる。 ・自らの適正に合った進路を確定できるように計画的に取り組むことができる。		
授業概要	4 年間の学修成果をまとめる授業として、卒業研究のための調査内容の精査、検討を経て、問題解決を図ることを中心とする。さらに、研究結果を論文にまとめると共に、相互交流の機会を持ち内容の深化を図る。合わせて、卒業後の進路、キャリア形成に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（進路の確認、学習計画の決定、調査方法の確認） 第２回　テーマ１　卒業論文のテーマ及び調査内容の確認と交流に向けた留意事項 第３回　テーマ１　調査結果の整理、及び論文内容の交流(1) 第４回　テーマ１　調査結果の整理、及び論文内容の交流(2) 第５回　テーマ２　調査結果の整理、及び論文内容の交流(3) 第６回　テーマ２　相互の卒業論文分析、交流 第７回　テーマ２　卒業論文中間発表準備 第８回　卒業論文中間発表(1) 第９回　卒業論文中間発表(2) 第 10 回　卒業論文の推敲(1) 第 11 回　卒業論文の推敲(2) 第 12 回　卒業研究発表会準備(1) 第 13 回　卒業研究発表会準備(2) 第 14 回　卒業研究発表会準備(3) 第 15 回　専門演習のまとめと 4 年間の学修の交流		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。　個別相談実施		
アクティブラーニングの視点	・協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッションやプレゼン報告会などを行う。 ・卒業論文と実習報告会、卒論発表会など、主体的に取り組めるようにする。特に、卒業論文については、最終の確認報告会を互いに行わせる。		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメにまとめ提出 ・卒業論文の作成と査読コメントに対する回答作成 ・卒業論文の要旨の作成、卒業研究発表会準備		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%　内容面として、他の発表に対する関わり、自己研鑽の度合いを診る。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び教育行政での経験がある者が、その経験を活かして、卒業論文、教員採用試験、就職試験などを指導する。		

No.	855	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326780
教員名	龍神　美和		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて教師としての専門性を磨き、必要な知識や技能を獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が高めることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身につけることができる。 ・プレゼンテーション、集団討論などを通してコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業概要	教育現場における課題や授業力向上に関する自分の課題をもつ。 課題解決のために、書物などで調べるとともにフィールドワークなどの調査活動を行う。 調査結果を文書にまとめるとともに、相互交流する機会を持ち内容の深化を図る。 3 年次の教育学専門演習をさらに発展させ、教育現場における課題や授業力向上に関する自分の課題を持つ。さらに、各自の課題解決のために、文献等で調べるとともにフィールドワーク等の調査を行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション（進路の確認、学習計画の決定、調査方法の確認） 第２回　テーマ１　卒業論文のテーマ及び調査内容の確認と交流に向けた留意事項 第３回　テーマ１　調査結果の整理、及び論文内容の交流(1) 第４回　テーマ１　調査結果の整理、及び論文内容の交流(2) 第５回　テーマ２　調査結果の整理、及び論文内容の交流(3) 第６回　テーマ２　相互の卒業論文分析、交流 第７回　テーマ２　卒業論文中間発表準備 第８回　卒業論文中間発表(1) 第９回　卒業論文中間発表(2) 第 10 回　卒業論文の推敲(1) 第 11 回　卒業論文の推敲(2) 第 12 回　卒業研究発表会準備(1) 第 13 回　卒業研究発表会準備(2) 第 14 回　卒業研究発表会準備(3) 第 15 回　専門演習のまとめと 4 年間の学修の交流		
授業方法	文献購読・調査・討議・発表（報告）などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	これまでに学修した思考ツールやプレゼンテーションのスキルを活用したり，グループ討議を行ったりしながらそれぞれの研究内容に応じながら，これまでに学んだことを応用的に活用していくようにする。卒業論文、実習報告会、卒論発表会など、主体的に取り組めるようにする。		
授業外学習	・各自研究計画書の作成、及び研究テーマに関連した調査、文献等による報告書の作成 ・発表者として内容を事前にレジュメにまとめ提出 ・卒業論文の作成と査読コメントに対する回答作成 ・卒業論文の要旨の作成、卒業研究発表会準備		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業活動への参加度：50%、発表及びレポート：50%　内容面として、他者の発表に対する関わり、自己研鑽の度合いを診る。		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場において指導経験がある者が、その経験を活かして研究指導にあたる。		

No.	856	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326790
教員名	野田　健司		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	１．自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる。 ２．文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる。 ３．専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。 ４．卒業論文作成に向けたデータ収集とその分析の方法を身に付けることができる。		
授業概要	教育学専門演習１・２・3 を踏まえて、卒業論文に向けた研究計画を策定し、実際にデータを収集、その分析方法、結果を記述していく。また、研究計画や得られたデータは演習内で発表・討論し、自身のデータを客観的な視点で改善していく。		
授業計画	第１回：後期オリエンテーション 第２回：進路の確認と卒業研究テーマの確認 第３回：卒業論文作成 第４回：卒業論文作成 第５回：卒業論文作成 第６回：卒業論文発表 第７回：卒業論文発表 第８回：卒業論文の推敲と添削 第９回：卒業論文の推敲と添削 第１０回：卒業論文提出及び作品展示準備 第１１回：卒業論文提出及び作品展示準備 第１２回：卒業研究発表会準備 第１３回：卒業研究発表会準備 第１４回：卒業研究発表会準備 第１５回：卒業研究発表会の評価		
授業方法	実験・調査・発表・討論を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	各自の収集データに基づき、協同学習により意見を出し合い、自身の卒業論文を改善していく。議論の結果は卒業論文ノートにまとめ、振り返りを行っていく。		
授業外学習	文献購読、データ収集、入力、管理、分析を行い、自身の卒業論文を執筆していく。各自の進捗は発表できるよう事前にまとめておく。		
教科書	指定なし、適宜、資料を配付する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価方法	卒業論文作成ノート（30%） 各発表内容（30%） 卒業論文の序論・考察（30%） 講義内での発表に対する質問や助言（10%）		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校現場と教育行政の勤務経験を活かし、学級経営や授業（特に体育科教育）、教育に関する課題について、幅広く研究を指導する。		

No.	857	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326791
教員名	木村　明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身につけることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力をつけることができる。		
授業概要	3 年次の専門演習をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には。卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　卒業研究進捗状況の発表 第３回　卒業研究指導 第４回　卒業研究指導 第５回　卒業研究指導 第６回　卒業研究指導 第７回　後期中間報告会 第８回　卒業研究指導 第９回　卒業研究指導 第 10 回　卒業研究指導 第 12 回　卒業研究指導 第 13 回　卒業研究要旨の作成・発表 第 14 回　卒業研究発表会の準備 第 15 回　卒業研究発表会と評価		
授業方法	文献講読・授業中の課題の取り組み・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し，単元を縦断する課題，１時間の課題を提示し，その課題の解決に向けて，探究的学習，自己調整的学習，協働学習を行う。		
授業外学習	１．研究テーマに関する文献を読み，内容をレジュメにまとめ，提出する。 ２．テーマについての文献研究 ３．PC スキルの習得 ４．学校現場への訪問		
教科書	授業中に適宜紹介する		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	授業の参加度５０％，発表５０％		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が，現場での経験を活かし，教育方法及び技術・ICT 活用について指導する。		

No.	858	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326792
教員名	藤井　善信		
授業種別	週間	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルが獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力を身に付けることができる。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力を身に付けることができる。 ・卒業論文作成に向けたデータ収集とその分析の方法を身に付けることができる。		
授業概要	３年次の教育学専門演習１・２を発展させ，４年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には，卒業研究ための調査，分析，発表指導が中心となり，集大成として卒業研究発表会を行う。また，それらの作業や学習と合わせて，進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	第１回：後期オリエンテーション 第２回：進路の確認と卒業研究テーマの確認 第３回：卒業論文作成 第４回：卒業論文作成 第５回：卒業論文作成 第６回：卒業論文発表 第７回：卒業論文発表 第８回：卒業論文の推敲と添削 第９回：卒業論文の推敲と添削 第１０回：卒業論文提出及び作品展示準備 第１１回：卒業論文提出及び作品展示準備 第１２回：卒業研究発表会準備 第１３回：卒業研究発表会準備 第１４回：卒業研究発表会準備 第１５回：卒業研究発表会の評価		
授業方法	文献購読・調査・討論・発表などによって行う。		
アクティブラーニングの視点	グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、振り返りシートの活用など		
授業外学習	文献購読、データ収集、卒業論文の執筆活動を進め、その成果を常に発表するための準備を進める。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 50%，発表及び課題の内容 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、教育学専門演習３を指導する。		

No.	859	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326793
教員名	山田　実樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・研究課題に必要な文献検索，資料作成，プレゼンテーションを行うことができる。 ・先行研究による知見を整理し，自身の研究課題に引きつけて，調査研究することができる。 ・自身のキャリア形成を見据えて，必要な知識や技能を身に付け，主体的・創造的に思考することができる。		
授業概要	・言語学に関する様々な文献を読み解き、内容を理解する。 ・自らの興味関心に応じて研究課題について調査し，考察を深める。 ・文献講読を通じて討論し，研究内容や手法に関する検討を行う。		
授業計画	1．オリエンテーション（研究テーマの確認，卒業研究） 2．研究計画の確認・修正 3．卒業論文執筆１（進捗報告、全体討議，個別指導） 4．卒業論文執筆２（進捗報告、全体討議，個別指導） 5．卒業論文執筆３（進捗報告、全体討議，個別指導） 6．卒業論文執筆４（進捗報告、全体討議，個別指導） 7．卒業論文執筆５（進捗報告、全体討議，個別指導） 8．卒業論文中間報告会１ 9．卒業論文中間報告会２ 10．卒業論文の推敲１ 11．卒業論文の推敲２ 12．卒業研究発表会準備１ 13．卒業研究発表会準備２ 14．卒業研究発表会準備３ 15．卒業研究のまとめと４年間の振り返り		
授業方法	研究論文作成について各自調査研究を行い，授業内で発表・報告・討議を行う。 PC を持参し，文献検索や資料作成について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	先行研究の概要理解，内容に関する資料作成，発表，討論を通して研究テーマに関する理解を深める。		
授業外学習	各自，自身の研究課題に応じて，調査研究を行い，発表資料を作成する。		
教科書	授業中に適宜指示する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価方法	研究テーマに関する資料作成，発表 50%，研究テーマに関するレポート 50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	860	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326794
教員名	安達　有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	各自の研究テーマについて先行研究の収集、課題解決に向けての考察を行い卒業研究に取り組む。 研究成果の発表を通して、教員及び社会人としての情報活用力とコミュニケーション能力や伝達力を高める。		
授業概要	自身の論文のテーマに関わる課題解決を目標としたゼミナールである。 先行研究に関する文献等の抄読・グループワークを通してお互いの研究テーマに対して新たな視点を獲得する。		
授業計画	第 01 回. オリエンテーション 第 02 回. 個々の研究テーマの進捗状況の確認 第 03 回：研究方法の考察 第 04 回：研究方法の検討 第 05 回：研究成果のまとめ① 第 06 回：研究成果のまとめ② 第 07 回：研究成果のまとめ③ 第 08 回：研究成果のまとめ④ 第 09 回：卒業研究の作成① 第 10 回：卒業研究の作成② 第 11 回：卒業研究の作成③ 第 12 回：卒業研究の作成④ 第 13 回：卒業研究の作成⑤ 第 14 回：進路報告会 第 15 回：卒業研究発表会準備		
授業方法	グループ演習や討議の他に個人活動も含む		
アクティブラーニングの視点	グループ演習を中心に行い研究活動の進捗確認や個人が取り組んできた課題についての報告を重視する。		
授業外学習	研究に関わる文献検討や、執筆活動		
教科書	適宜紹介する		
参考書	適宜紹介する		
評価方法	授業の意欲・態度・出席（30%）および授業の発表や課題への取り組み（70%）により総合的に評価する。 自分の研究テーマに応じた課題検討において積極的な活動を評価する		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			

No.	861	科目コード	59823
科目名	教育学専門演習４	授業コード	9326945
教員名	村井　愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週１回	単位数	2
履修年次	4	学期	2023 年度 後期
到達目標	・自分のキャリア形成を見据えて必要な知識やスキルを獲得できる。 ・文献研究能力や調査実施能力が身につく。 ・専門的な文章を読むことや書くことができ、討議や発表の力がつく。 ・各自のテーマを対象としたフィールド研究および関連機種を使った実験研究に関する測定およびデータ一収集と解析能力がつく。		
授業概要	3 年次の専門演習をさらに発展させ、4 年間の学修成果をまとめるための授業である。具体的には、卒業研究のための調査、分析、発表、指導が中心となり、集大成として卒業研究発表会を行う。また、それらの作業や学習と合わせて、進路指導に関わる活動も行う。		
授業計画	１．オリエンテーション ２．論文の書き方 ３．章立て発表１ ４．章立て発表２ ５．章立て発表３ ６．論文執筆　個別指導１ ７．論文執筆　個別指導２ ８．論文執筆　個別指導３ ９．中間発表会 10．論文執筆　個別指導４ 11．論文執筆　個別指導５ 12．論文執筆　個別指導６ 13．卒業論文発表会の資料作成 14．卒業論文発表会のリハーサル 15．卒業論文発表会		
授業方法	演習方式で実施する。		
アクティブラーニングの視点	教育・スポーツに関する問題を深く考え、他の人と議論し、論理的な結論を導き出す。		
授業外学習	研究テーマについて議論した内容を整理し、卒業論文執筆に活用する。		
教科書	指定なし		
参考書	白井利明、高橋一郎「よくわかる卒論の書き方第２版」ミネルヴァ書房		
評価方法	研究論文 50% 授業参加貢献度（口頭発表 20%、授業の参加状況 30%）50%		
既修条件	３年次終了時で２年半以上在学し、必ず８０単位以上（当該科目履修開始までの在学期間が２年半の人は６７単位以上）を修得し、原則として必修科目をすべて修得済みであること。		
実務経験のある教員による授業			